



DS 897 S4S8 Suppl.2 v.3 Suzuki, Shozo Sendai sosho

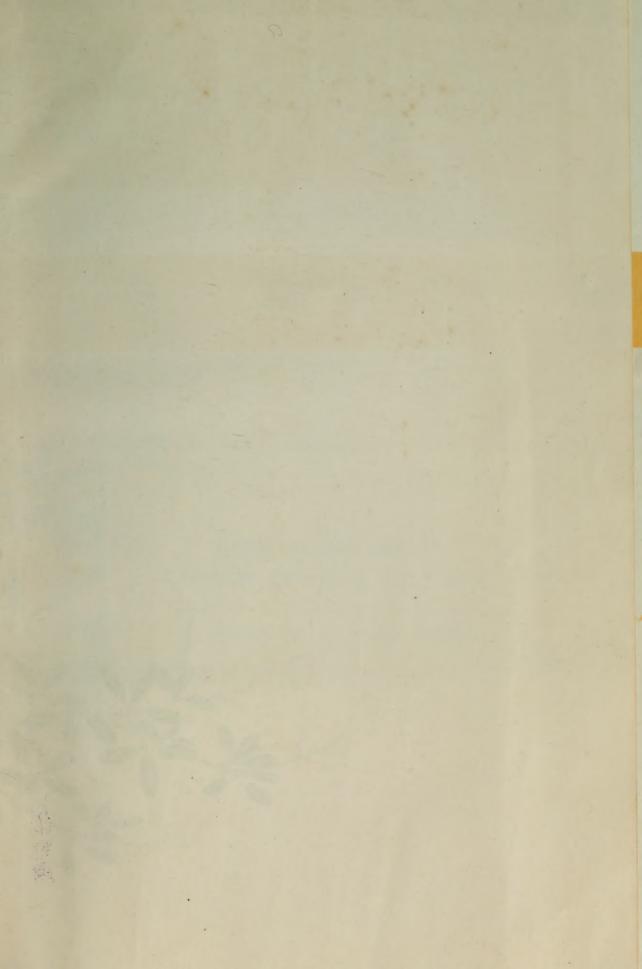
East Asiatic Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY







仙臺叢書仙臺金石志上

野遇遭害

APR 19 1968

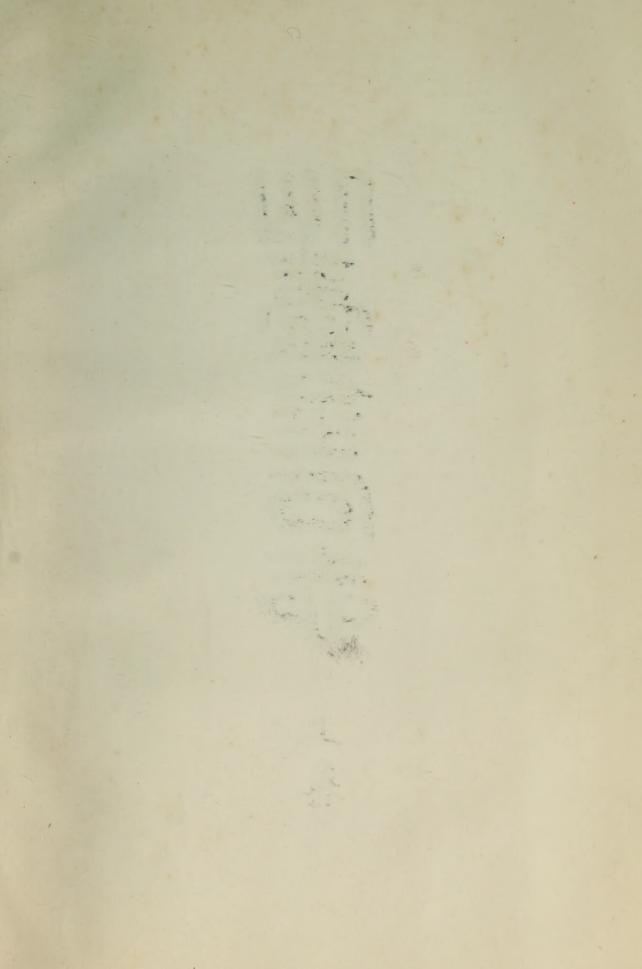
APR 19 1968

WAVERSITY OF TORONTO

DS 897 S458 Suppl.2 V.3

四連全后部

上卷



第十	第十	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	
十五	力	第十三卷	第十二卷	第十一	+	九	八	七	六	五	四	Ξ	_	-	
五卷	四卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	
墓	佛	佛	神	神	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	
										蹟	蹟		蹟	蹟	
碣	院	院	洞	祠	蹟	蹟	蹟	蹟	蹟	Ξ	=	蹟	-	-	
										之			之	之	目
-	下	上	下	上	八	七	六	五	四	F	上	-	F	上	
:			:	:		:	:		:			:		:	
:	:	1		:		1	:	:		:	:	:	:	:	1
:			:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:		次
:		:	:	:	:	:	:	:	:	:			:	:	
		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
•	:	-	:	:	:	:	:	:	:		:	:	:	-	
		:		:	:	:	:	:	:	:	:	:	7:	:	
		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
:	:	:			:	:	:	:	:	:	:			:	
		:			:	:		:	:	:	:			:	
:		:	:		:	:		:	:	:	:	:	:	:	
:	:		:		:		:	:	:		:	:	:	:	
		:	:						:	:	:	:	. :		
	1:					:		:		:		:		:	
:	:	3	:		:	:	:		- 1	:		:	:	:	
					:	:	:			:			-	:	
		1		•		:	:		:	:	:	:	:	:	
				:			:		:					•	
		:		:		:	:		:			•	:	:	
		11:					:					:	:	:	
	:	:			:	-	. :		:	:	:	1	1	:	
三		FOE.	[中]	宝	IIII.	4011.	九九	一支	一五四	二四	101	当	四五	Ŧ	



大同碑

卜時越 林生郡大谷地村 安倍善作氏所有

た倍木 明善碑 大瞭作は 同な所 四ら有明 自治 to 6 --遺 發三 位义 見 とし九 す 72月 n 7 とも宮 も (1) 城 のは特 残る陸 てから前 0 13 II. 讀伴桃 的出生 は物間 左は大 () o 如土地 し器材 0 破 片大 な学 5 1 し州 走这 7 11 3. 田 0 III 圖 其 文

甚安

年さ 11 月 H

大 夫

範掲明る見るも信叉交を就 はの。拘 考字いて を載 治 す °物遠 代 窺せ 3 な 之 12 2 ~ 文はきらな 3 5 2 3 10 0) \$2 化 も考 12 3 發 我 すり 1-0 0 見 の多か 本 何の多 な恩〈東其果碑 本 12 12 3 をれ 惠は奥發 L L 1= は 1-はに金の見 13 共 T T T も。大大 遠屬一は 然 文 る口 字 か版隅 0 を繪 固 h 宜正伴伴治 3 。京 以に よ りに 0) 某 L L て代 し桃 す 大 h 验 くの里 カコ 為 て生及れ 3 らは慕 8 0 ○碎 那ひは る田 75 よ h は氏 る文中共 0 h か修な ○志仙へ字に近墓 す 00)3 編著臺けの發 國 社 扎文字か > 集者若れ彫見にはは字を如 墓の用 掲ののは刻し於唐 L 0もた 載例集 T 制 硬 大 3 己整 す模 2 111 す格録 3 1-3 7 70 す むへは 5 倣 力 L 大を 0 を居 0 C な破 小例治 3 9 得る珍僅徵 2 0 3 所 す 不 015 L 312 3 祭 す 7 L 1= 同 る似 七十 10 13 T な れしは 近 こすっ 0 ٤ 17 い四 3 il 八 3 3 S. Fi. (1) 鬼誌 8 月 12 ~ _ 3 な殆へ例 3 0 かっ 3 たな渡の修 7 H 3 15 0 0 5 ~ 行 3 る正誌大治 1-0 但に ひというかとの子すふーの 物 4 力 0 好 安 0) 尚體京文史 な寸熟 T 初其本裁畿化料 位語 3 12 本碑を方图 ~ な 训 15 多 の書はな面外 h 12 3 ○せ幾なに 7



高道墓碑本書卷之六

本書卷之六、五十四頁參照

高道墓碑

木齋が 100 りとす。 本碑は。 此碑 0) 此碑 時。 弦 を記 宮城 其審定 に仙臺 多 見 載 縣 72 L 陸 に迷惑 游 3 72 前 臣 は 3 或 はつ 村 0 桃 真享 田 することな 生 质 游 初 素か。 佐 ---樫 年 好 临 + 生 石水門 月 カコ 齋木 13 らんことを。 カコ h 礼 木 記行中。 11 里俗 奫 今茲昭 紀 年錄 は 贞 嶌 本碑に係 和二年を 狍 三仙 二十三頁掲載 行。 1-叉は 期 3 す 距 Ш 記 3 3 卷 2 0 を以 計 田 18 T 0) 抄 1-碑 5 T 出 始 とも 10 白 となす 四 60 他 + 2 年 0 原 L 年 碗

石水門記行

藤 原 廣 泰

征 掘 T 津 h 奉,入。御上覽 伐に下り と飯の川 出 L 72 る者あら 0 人 間。 に 候由。上之御記 山 て。爰に は。 田 とい 御賞詞 死 ふ處 すの 錄 (1) 有.之由に 1= 嘉永三年八月。 14 も留 U) 111 居候由承候。 临 候。 10 此碑は 高 御 道 出 0) 此 古書により 馬 碑 年 あ 0) の本碑はの埋 50 節。 是 當 て建 は 扱 田 0) 道 居 御 公 俠 代 官摺 0) 由 後 物に 右 1 東

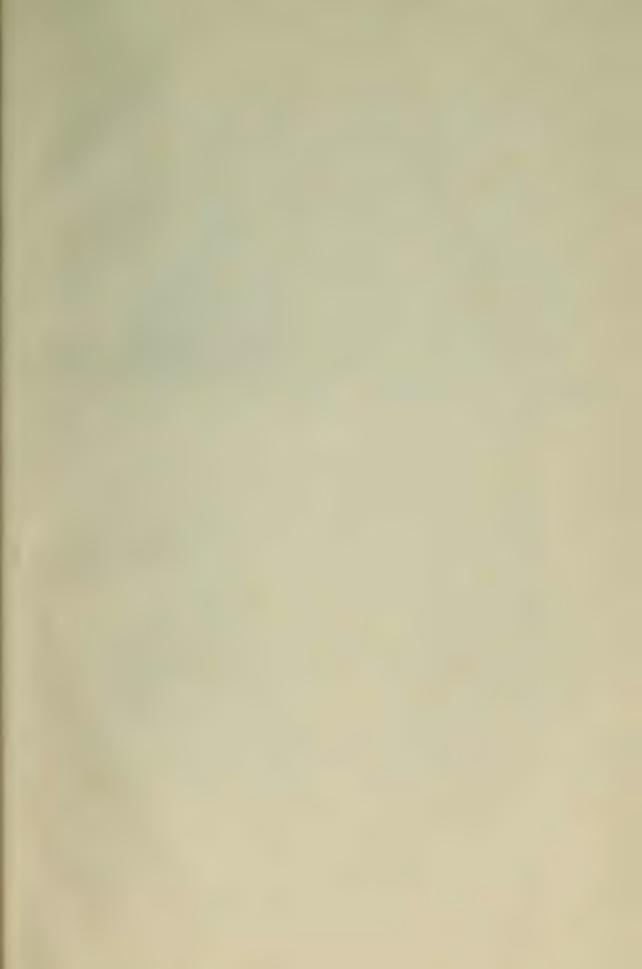
鐵











仙臺叢書刊行會編集

解題

文字 3 卷に收 書別 觚 不 0) 志 光 佐藤東藏 大 近 を以 桁 資 遠 0) 十八 0) 111 周 しと。精 3 なり。盛なり 貢 集 们 隠松 謀 書 てい 窓を 第三 臺土 め 獻 るに U) 12 3 信 力絕 月奔 門 不 著 卷 3 直 致 君 譜二十一卷を著はせり。 磨不 とす あ もの は 1-0 はつ 子に 倫 ることなる せ と記言 U) 仙 收 來 滅() り、本 L る 是なりっ 性 學を め 臺武鑑十 てつ ک 考 元 72 可 ~ 書 1-るも 惠するも 大著 相須 し。抑 能 カ 即 吉田 カコ 性 5 ち) 0) 七卷を著 述 て此 是なり。蓋 まり 3 凡そ物は皆數あ 金石の 丈太夫友好。仙臺 是なり、舟 2 30 32 0) なし。郷 大著述 ともつ 賴 同 凡そ三人あ 貴ぶべ は て以て 叢 此 せり。仙 ill 18 書 其 七史 三人 なし 篤 別 太 きは。其 jį: 集第 行 郎 上に はつ り。天 物 兵 12 好 金 毫 h 學 操 四 衛 叢 多 0) 3 石

意亦 調 今泉 な 2) 石 3 10 な 片 是 13 其 75 氏 あ 地 は り。實に空前 碑 10 數 ~ 可 る 0) 1= 他 す。金の堅きも銷 0) 0) り。然ら 5 、整、鐘、像、器、財等。附錄を合せて無慮 同 きに至 さる可らず、 あ 悠久なるも。 及 本 金 浉 此 於て 0) しけ ひ。 會 石 葉 物 3 すして。紙 大 しと。其數 0) 理 脆 著 ימ 1 は 叙する te 論を以 る。亦 事 於てをや。 弱 述 則 金 13 0) な をなす。亦 希 賴 石 なり 爲 るも 片 後の業にして。 奇なりとい を爭ひ。金 志 也 或は其数を免る能 に亦 其稿を起すは T 0 0) ~ 紫 0) 。其著仙 0) 脆 必 20 0) 本書 金石 此 8, 12 弱賴 變あ 唯 史 8 1 3 50 自 こん 0) 原本 是 石 共 も亦物な 50 臺碑 ふて 8 きか 5 以 保 0) 故 可らさる 生 1-+ 欧 賴 T 存 金石 石の 天保十三 1: 文集 可なら 在 せさる 八 L [3]1 to 聖 本 5 り、共 卷 12 賴 全 はざら 可らさる 剛 志 (= 3 12 وره 3 其 0) 0) きも磨滅 を得 序 3 h 0) は ___ 年にし 四 收 解 数を発 -0) きる んか。况 18 大 ri 1 題 鎌 る す。 かっ ば 成 --3 落 却 3 余 如 政 T 草 H 儿 3 泚 曾 T U) 3 能 训 賴 災 2 條 所 -9 金 賴 紙 P 岡川 H T

自ら 隱 家 書 1= 1 あ 南 3 ニっつ 0) 6 功 きこと是なり 3 す。目 あ * n 0) 5 0) 山古梁。及び 序文と、名吏 成 75 得 題 300 T 3 せ 0) h b す。頭 層 而 0) 30 跋 18 次 な 君子、開 꺖 L れな を乞ふ は 獨 目 る T 必 到了 安 質 怀 さるら 念法 す 頭 きは。 彼 多 政 儒 む か 荒 (i) 尚 覺 て。名を求むることをなささ は 一に居 四 士櫻田 此 逆 3 非 们 3 未 るゝ 年に 2 0) もの 20 h 俗 事 0) 定の 深 0 求 如 と欲 從 弘 武鑑には。自序 く遺憾といふへし。但 に称うふ 3 るへ して き浩 虎門の めさる 此 0) 1= 稿 百 跋 0) L 本として止 し。 辩 T 如 文 3 て。序跋 15 1= も。徳 も得 序文あり。 あ 10 たとひ 3 + り、又願 六年 其名 笼 へからす。 0) 光自ら外に發し。 8 其人格の高き亦 帙 みし 外 13 は質に 名 13 0 松 1= 而 は 星霜 3 か。或 勝 求 遺 して H 1-凡 h 調 之を野 從 漏 邊 め 191 8 ig 1: 3 なと 獨 投 は 8 拘 は 布 カコ は。 3 3 諸 此 元 な 43 C は

五。仙臺新寺小路大林寺に葬る。

源賴朝 養賢堂賜题。

府鎮。 學 源 冰言。 兵 亚 威 島 緬想星點過 權 向 自 處 中 柳 原。 答 開 邻 六百 連 風 流似。祖 罚 F 頭 圖 朝 惟 帝 有:史編 彤 间 詠 形 版新 15-形容 初 师 則 銀 Tille

早秋

到。 凉意追。日 院 庭 次 梧葉 常 生 落 聲 消 天 風 露亂 造 鳴。 4 星四 幀 秋 方

作 は 吉 す。始 田氏 二章を併せ記して。以て小傳に代ふと 0) 〈氏 傳 を立 名。官職。死亡年月,及 んと欲 すれ ともら び、実 終にこ 兆 4 域 > 30 1-1= 11: 及 8 3: 逍 能

附記

杏 成 本 133 3 。而して二十八卷の せさ は。本編二十八卷。附 る 您 あ ho 共 終に。本 目 錄 次 四 38 卷合せて。三十二卷よ 見 編 3 1= に左 3 歷 0) せす、附 如 錄 1-6

吉田

氏

部

12

友

好

通

稱

は

丈

太

夫

们

1

济

大

番

1=

L

T

育

役

72

bo

元治

二年三月八

H

殁

すっ

年

Fi.

蹟

佛 神 院 祠

墓 碣

以上 80 8 知 總 る 目 可らす。依て本編の を舉るも、各目を學 體例 す。 蓋未 に準 定の i 總目 稿本なりし 0)

各目

を撃け。本附

兩

編

U) 原位

より

9.

之を

附

城

下に

0

後

1=

編入

縣圖書館本に據て。其原稿を作成し。仙臺飯川氏 據て、校訂を加へたりしも。尚隔靴 し。雨 編の 補遺となしたり。尚 扱き去 搔 痒の 本書は。宮 憾なき能 本に

其原本は舊藩主伊 物となりし とい 子。 達 伯 絕 代 爵

0)

好書。其

所を得たるを賀するのみ。

家

12

納

め

5

れ。今は其

秘

庫 0) 5

さる

Jili

少からされとも。

す。吉田氏藏

の著者直筆の原本に據らされは。

分明

な

は

解

題

=

仙臺金石志目次

卷十一。十二 卷十五至。卷二十八 卷十三。十四 卷一至。卷十 凡二百四十一 條 慕碣百卅二 名蹟六十八條 佛院二十三 附錄百七十六條 神祠二十一 條 條 條 附錄 附 附錄二十二條 附錄四十七條 銀 七十 二十八條 九條

> 仙臺金石志目錄 年敷っ。年来不り紀

卷之一 名蹟一之上

宮城郡市川 碑 Ŀ 王寅二千八十一年。

卷之二 名蹟一之下

F

合四百十九條

卷之三名蹟一

宮城鹽竈社鐵燈 附鐘 六百五十六年

三百四十六年

東園 神門 寺碑

泉澤塘碑 銅燈

江後 Ill 碑

狮子崎 碑

卷之四·五名蹟三之上·下 宮城松嶋上。下 普門院鐘

W

喜坊

小

瑞巖寺雲板 五 百 + 五. 年

幡 宮 碑

陽德院 小 爺

雲板

料鹿

高

木

淨峯

五

百

七

+

车

柴田

船

迫

鐵

佛

五五

百百

五七

-

七七

年年

城

賓

子说

种

白

宮城燕

虚

碗

II.

百

六

+

年

大

松

泽

氏

宅

砚

五

H

六

年

迎

寺

碑

五百百六

年十

六

年

天 胜犇 院

堂鰐 口 五 白

JU

+

年

五

大

雪月 記 碑

不 住 軒· 石 燈

把

御

嶋

碗

五

百

三十

六

年

松 吟 庬

圓 浦 滿 嶋 颇 壶 師 醋 行 菴 狀 碑

戶 藥 師 堂 鐘

富山

鐘

松

崲

賦

確

師

鐘

名蹟 四

卷之六

桃 磐井 4 樫 泉 崎 毛 111 越 田 华 碑 北 碗 六 九 百 百 儿 八 + + 年 年

Ti. 白 年

附

中

塔 算 寺

四

百 八 十八 年

> 宮城岩 桃 切 館 趾 碑

尾 崎 海 藏 寺 碑

宮城

市

川

路

傍

碑

加美

F

新

H

邑

碑

五

白

五

十三

年

五五百百百 四五五 四五十十 七六 四年六 年年 年

五 百 五 年 年

濱 慈生 学 碑 五. 自 四 + 九 年

邑石 碑 碑 五 无 B F 四 四 + + 年 年

志田隄

根

宮城吉津

春

日

氏

薬

山

砚

牡鹿鮎

111

宮城南

宫

三追

平

形

信

樂

寺

址

碑

五

白

五

+

年

宅 碑 五 五. 白 H 四 四 + -年 年

Ti

當器 大佛 岩

神谷澤牛 碗

五百 三十 七 SE

五百十六年

宮城岩切

東

光寺

碑

山

F

邑

砰

卷之七 名蹟五

栗田平邑藥師 学碑

木氏 宅碑 五 百

黑川大松澤立 石 五百 二十 年

名取余田 宮城愛子彌勒寺 八 王子 宅 碑 正 白 + 年

登米新井田 桃生二輪 Ш 東 高 源 德 寺 寺 碑 碗 五百八年一 五 百 年

栗原北宮澤琵琶 清 碗 五. 百

八年

杜鹿海 玉造小 門 野 多 目 福 碑 院 碑

五.

百

七

四五 百二十 A 六年

年

小

野

田

正 无 百 百 三十三 三十三年 年

五 百 三十二 车

二十 四 年

无. 百 + 九 年

卷之八 名蹟六

伊具

小

H

31-

滅

寺

鐵

金本

附

無写

宮城 刈田 赤沼 白 石 地 地 滅 金谱

果田 青根 VEH (Int 泉 砚

附 增 H 路 榜 碑

沼

1-

碑

名取 名 冰 秋 手 保 質 温 方墳 泉

宮城 道 邢品 M 光 寺 碑

島 174 FI

儿

+

车

游 学 碑 四 百 八 +

年

北 邨 追 石 男 澤 記 The state of 性 院 til: 砚 JU 四 自 白 七十 七十 六

江

喇

栗原

弱 場 出版 泉 -5-企道 74 百 六 + 九

年

华

年

柴

田

名 I 111 F 幾 111-不學

四

H

六

+

七

年

篦梁 飯 子 寺 消 邢华 119

H

四

+

八

红

牡

鹿

遠

田

四 TI 二十二 年

M 百 + 年

三迫 加邑藤 太

附 小 金 查 次 郎 復 儲

砚

江刺豐田城跡碑

卷之九 名蹟七

瞻澤六原百寄塚碑 宮城野田玉川碑

刈田鎌先温泉碑

宮城天遊館碑

附阜東谷

二追梨崎姉齒松碑

芭蕉翁蓑塚碑

附具幡東安定之

南山閣承露盤

附內池長宣

卷之十 名蹟八

玉造新田小町塚碑 杜應蛇田禪昌寺碑 磐井五串天工橋碑 玉造啼子温泉碑

高田表道碑

宮城作並温泉碑

青柳文庫碑 附廣田勝景碑 附中里青柳倉碑

栗原鬼首牧馬碑

卷之十一 神洞上

何蹇金石志目錄

大崎八幡祠葱臺

龍寶寺鐘

附內藤以貫

附宗阿和尚

龜岡八幡祠擬實珠 附千手院鐘

東照宮鐘 附華表神橋護朽

普賢堂熊野洞鰐口 平邑大高宮鰐口 涌津八幡祠鐵五輪 五百五十五年 五百八十九年 七百五十三年

宮城八幡洞鐘

一迫八幡洞鰐口

五百三十二年 五百四十四年

三百九十七年

熊野堂鐘

附那智山鐘 老女慕碑

石川利吉基則碑

稻屋敷八所宮鰐口

卷之十二 神祠下

七

黑川大龜洞鐘

名取笠島道祖神 洞 碑

名取岩沼竹駒 躑躅阎膏廟鐘 社鐘

附能 因

附碑六 一法師

高野兵藏兼良

茂庭左治馬秀時

菅野佑伍陳良

卷之十四 佛院下

萬壽寺寂靜殿葱臺

鐘

月畊和

尚

大年寺鐘二

附銅

附

水盤

善應殿護朽

鐘

孝勝院殿鐘

常題目堂小鐘

威仙殿擬實珠

確

毘沙門堂鰐口

氣仙高田

冰上山碑

名取富澤多賀

洞鐘

東山大原八幡

祠

越路愛宕社

鎰

牡鹿八津八幡

洞鐘

黑川吉岡八幡

洞神門

正樂寺鐘二

牡鹿牧山觀音堂鐘

三居澤碑二

卷之十三 佛院上

宮城根白石永安寺鐘 登米覺乘寺鐘

牡鹿金華山大金寺鐘 本吉津谷淨勝寺鐘

> 柴田篠谷觀 音堂鐘

宮城燕澤善應寺鐘

魯範寺鐘

附保春院鐘

正宗山下馬碑

附瑞

鳳殿盥

鐘

釋迦堂碑

附葱臺

磐山開山

附瑞鹿堂碑

木下藥師堂擬寶珠

附鐘

宮城大倉阿彌陀堂鐘 附通玄和尚

七北田洞雲寺鐘

附鐘

附祭存法印

根白 石藏經壇 砚

八幡寶國寺鐘

文珠堂碑

伏龍石記

附鐵塔

大法寺戒壇碑

刈田戶澤不動堂鐘

墓碣

卷之十五

伊澤左近將監家景 六百二十二年

伊達兵部太夫實元

茂庭左月良直

附鈴木甚十郎

茂庭駿河守定直 伊東肥前重信 附小山田筑前賴定 附中嶋右衛門宗意

濱田伊豆景隆 附縫殿康次

鈴木將監重信 附安立內藏之介等四人

和賀主馬祐忠親

栗野大膳重國 富田壹岐氏紹

齋藤外記永門 馬場出雲親成

附平賀藏人義雅

應股五郎右衛門重助 和久半右衛門是安

卷之十六 墓碣二

並性房

附國分能登守盛重

谷傳左衛門一主

唐將軍王翼

村上織部通淨

川村孫兵衛重吉

石川彌平實光

今泉山城清信

附小田邊大學勝成

晋三官

林恒一 附古田舍人良智 大越十左衛門茂世

佐藤四郎左衛門重信 松林騙也齋永吉

柴田外記 里見十左衛門重勝 朝意 吉田圖書重 蜂屋六左衛門可廣 時

丹野善右衛門重次 丹後乳母

附桑名松雲

上野權太夫景滋

山田次右衛門

兒玉常謙盛信

高屋喜庵宗甫

附快安宗活 喜庬 宋鶴

た

猪苗代爺亮 附畑中十太夫健得太沖盛雄

平塚籾右

衛門重次

附寫圖

源

七郎 成

倫

高城宅三郎題道

山內

小藤太致

信

遠藤勇五郎時中

勇五郎時習

十太夫白華

卷之十七 墓碣三 狹川新三郎助直

新三郎將義 永井覺彌尚忠 附喜多之助助克

男澤丈之進元利

卷之十八 墓碣四

矢崎隼人豊直 附松本兵左衛門豊通

勘兵衛盛次 井上安右衛門定行

澤邊八十右衛門好昌

井上次郎左衛門可安 附本多吉左衛門種信

早川源之丞勝時

橫山謙益 附甚之助質緝

福井玄孝恕父

卷之十九 墓碣五

大島四郎左衛門仲 施

金右衛門時影

附四郎左衛門俊亮

義左衛門仲敬

成田献吉匡濟

黑澤雨水盛景

佐藤文右衛門左充

卷之二十 墓碣六

織野华兵衛俊重

附犬飼清藏長明

節婦鈴木氏辰

江志彥惣知辰

戶板善太郎保佑

附遠藤七左衛門盛

俊

佐竹九吉義根 小梁川善六貴矩 藤彥六郎廣則 大塚善右衛門賴充

平義敬

中澤勘助永安

布施和泉定安

星孫兵衛元起

佐久間洞巖義和

附新井彥四郎義質

諏訪万右衛門親安

草薙丹下盛之

吉田定之助友喜

附野村新兵衛永則

卷之二十一 墓碣七

松枝久左衛門時元 關口武左衛門勝義 附八之助時行 附沼澤一郎左衛門幸福

高橋丈太夫景清 涌谷玄格繁光 春日次右衛門信利

附作太夫信充

附立恭繁榮

附勘助

忠謀長八

附谷風梶之助義則

佐藤浦之助景次

澁谷又三郎武敬 附高島六左衛門直之

那波素桂素信 熊谷源藏明秀

附春林廣父

小池曲江維則

佐久間榮學典俱

菅非梅關

岳輔

卷之二十二 墓碣八

田邊喜右衛門希賢

附喜右衛門希文

三郎助 匡敕

遊佐清左衛門好生 附清左衛門好雄

石川理兵衛信安

清水道竿釣玄

附快開

渡邊助之進長直

矢口檢校城泉

附鈴木十郎左衛門通音

芳賀雄曹餘之

武田伊兵衛光邦

卷之二十三 墓碣九

孝婦寺崎仲

高橋與右衛門以敬

附義藏有則

芝多對馬康文

附佐渡信憲

佐藤源之丞定

金須正右衛門直定 附片 本 三旦定廣

忠禄長作 鈴木善六孝信

> 別所 立李質有

菊

田榮羽

古行

卷之二十四 墓碣十

蘆幸七郎德林

武澤丹治

定守

岡 部養三安平

渡邊九 藤 塚雅樂知直 郎三郎

三分一所平助景明

佐藤右內鎮定

附

名

助

信利

松岡

長門時

義

秀牧

附式

部 知

明

卷之二十五 墓碣十一

荒井嘉右衛門盛從 蜂屋又左衛門可康

林嘉善友諒

卷之二十六

墓碣十二

附子平友直

富田三郎平安質

附源吉充實

大槻十郎太夫安寬

工藤 11 助 球 順

清水左疊賴

奥田 直輔 良 丽

利 鈴木百助

尹

卷之二十七 墓碣十三

丹野元之允定次

松井元純 成章

有修配我妻氏

附英藏顯次

萱場空氏章 附源 矢內 右衛門有信

伊藤官左衛門凞成 清水源太左衛門周榮

志賀野仁

衛門 廣道 附近 佐吉右衛門

成長

弓田

源

左

孝婦

IH 兵之助 盛庸

Ill

賴充 鈴木道彥由之

高成

田

基十郎

附配 馬 淵氏

鈴木藏人孝賢

卷之二十八 墓碣 十四

仙臺金石志目錄(終)

錦織休意 弘路

山

口支耕

渡邊道可弘光

日野英馬安聰

大槻玄澤茂質

附平丹下清澄

玉蟲溪治武茂

忠隷

德兵衛

孝婦大場氏牧

氏家要人清成

砂澤十郎左衛門定祭

良覺院性真

附渡邊清潔高

內海

日

成

美

志村勘右衛門實因 **第治弘强**

附東藏

時

恭

十藏

康展

大內小左衛門定盛 白極 善兵衛因 次

遠藤伊豆之介定矩

櫻田周輔質

桂島平六良房

仙臺金石志附錄目錄

卷之一

日本總國 延喜式神名牒陸奧國一百座 風 土記殘 編抄

集古十種序并目錄抄 附集古錄目錄序家藏石刻序

封內 金石 刚 私志序并目錄抄 一社佛閣 古額 考

觀廣 群 書 聞老志序 覽扁額部 抄

封内風 封內名蹟志序跋 土記 序

卷之二

仙臺武鑑序自序后叙

與州八景歌

=

仙臺 領地名所和 歌二十首

同

鹽竈八景詩

類字名所和歌集抄 仙臺十景和歌

仙臺封內山海之勝

卷之三

柴田郡村田八幡鰐口

金津東光院發起

封內名勝詩二十首

領國名所和歌三十七首

松

ケ濱鰐脳骨銘

封內名蹟拾遺十二境

松島八景歌

天保十三年歲次壬寅盂冬起」筆

高田布幾壽藏碑

安政四年歲次丁巳仲秋稿 成

田 友 好 賀冥。名龜 狀

相去步卒御 黑印

今市步卒由 緒

大和 音吉重作復讎始末 小澤嘉右 屋班 猫 衛門復讎記

吉 編 緝

卷之四

孝子岩淵又作傳

小炭

濱百姓願文

桃之浦訴訟文

木沼宗吽院

花淵

一本木宗休宅

伊具郡耕野川張大藏馬上十一騎發起

刈田 手崎善六復讎記

郡關村勘兵衛 氣仙三十六騎

仙臺金石志附錄目錄 (終)

名 蹟

目

次

神 堤根長者宅鐘 洞

室 一根山 兩 大權現 鐘銘

宮城郡六丁目 春 日社 緣起

佛 院

觀 音堂上梁記

名取郡瑠璃山藥王寺鐘銘附六字銘碑 毘沙門堂奇綠氷人石

墓 碣

岩淵加兵衛賀實

北 條氏次人道安清

前 不是人間塔 田 河 重信

造 目

次

扳信中 小栗帶刀

龜卦川守

鈴 木 直 行

相原範淸義

母

石井彰 虎岩八翁定範 信

豪良道人

伊藤 孝子藤生 河邊鳳溪 記通

松洞馬

年

中條長景

長谷川道次

矢野定芳

仙臺金石志補遺目次 (終)

仙臺金石志卷之一

名蹟一之上

碑 上

津保乃 日 本 伊之婦 總國 風 美 土 記 攻 壶 引用 碑 考審 書目

定說

奥羽

觀迹聞老

志

舊

跡

遺

聞

11

雨

亭叢

紹

述詩

集

奉摺

於己

勝續

和高

松

島

紀

行

志

遠里乃款

封 先 哲叢談 內 玉 露 後 集

仙臺

武

鑑

陸

與

郡

鄕

考

古

城

御

書

上

封

內

風

土記

南

郭

集

領内

風

土記

名

所

舊跡

記

府 封內名蹟 土 萬 葉

坪 碑 史證 考

書言字考 源 江 語 書話 梯

年山

紀

開

和漢三才圖

會

帕

軒

小錄

同

文通考

好

古

B

銀

白

石

手

翰

北

海隨

筆

坏

碑

記

北

裔

備

攻

附

銀

好

古

小

鍅

集古

十種

集古帖

和

訓

栞

意百

譚

博

物

答

紫芝園

國

字

書

都 乃 津 验

乃 細 道

> HE 則

紀

行

六

樂山 遊松 1 島 開 記 齋集 東遊 與 松 記 紀

行

漫遊

文章

三國 通 覽

藝苑

H

涉

412

5

松前

記

行

大日

本

史

職

原

鈔

吾妻 館

開 III 耕

雏

自 石 游 遺文拾遺 堂

和 歌 吳竹 集

仙臺 吉 田 友 好

名蹟一之上

市川邑橋北路 傍碑

壶碑

上

和泉掾。 享保十四年己酉五月穀旦。和 州南都。 古梅園松井

編纂 仙臺府下。寂照軒頓宮仲左衛門。

同邑坂上路傍碑

仙臺府下。寂照軒頓宮仲左衛門。

つほのいしふみ。 まくみちあり。
是より三丁五十間

和泉掾。 享保十四年己酉五月穀旦。和州南都。

古梅園松井

多賀城碑圖



つほのいしふみ。 すくみちあり。

越後屋喜三郎

-1

油藻金石志卷之一

圍九尺七寸五分。無"跗石。欄內長四尺五分。幅二尺六碑首至"地上、六尺一寸五分。幅三尺三寸餘。石體三稜。

寸五分。字數一百四十一字。至天保十三年壬寅二一千日五分。字數一百四十一字。至天保十三年壬寅二千

陸奧國土記卷之百六

日

八十一

年。

宮城郡

41

坪

碑

在"鴻之池。為"故鎮守府門碑。惠美朝猶立」之。見雲

塗、

人清書也。

記,異越東邦之行程。令職人不,為,迷

多賀古城壺碑考

在。宮城郡市川邑以南多賀城址。去"鹽竈神祠。西南

已十餘町。

苦本切。音悃。 名寄歌枕。 大雅。其類維何。室家之壼。 作,壶石文。或 爾雅宮中衖。 作 ,碑。風土記 又居也。俗作"壶 郭 璞曰 衖 作 閣 坪 間 碑。號。 道。詩 碑 非

朝

猫

碑面考證

多賀城

九年夏四月記。此城事始見,續日本紀。聖武帝天平在,市川邑山畔。此城事始見,續日本紀。聖武帝天平

神龜元年甲子

迺聖武元年。至"享保元年丙申,千十二年

天平寶字六年壬寅。

迺廢帝四年。至.享保元年,九百七十四年。

東人

丙寅。擺 未 一。陸 為陸 原惠美朝臣朝 凤 出 "特授從 與國按察使。 羽按察使如此故。十一月丁酉。 四位 猶。迺 下。同 氣鎮 一廢帝。天平寶字四年春 五 守將軍。授,正 年冬十月癸酉。爲二仁 爲 五位下。同 東海 正 月。癸 道 節 部 月

靈碑審定說

度使。同六年冬十二月乙巳朔。為。參議。

焉。念.之而不.措。一日於"田氏家 夫風 莽也。或疑唐人書。衆議未,決焉。源子嚴始而唱,之。 臺碑 蠹。予歎曰。天也哉。 調 慕.其書。而不.知.其人.也。或云。中將姬書。予既 筆法之妙。書家之冠冕者也。然而 書名之顯晦。亦蓋繫,干 然子嚴信 者見雲眞 存。什一於任何。 土記 朝 猫 人書、 人心。 。能 分 酮 雇 出出 帝 贵欺,我哉。 而 時始而 日 淨。書之。今及。澆季。而人莫。識之。空 就中觀。魔碑之事迹。 鳥乎。憶,眞人之妙迹。 本 時運之泰 風 成 土記殘篇。予聞之而愕然。 焉。其書亡也 且其协識 世 否 一獲之。 有知之鮮矣。 一數。夫臺碑者 多聞。 顧其為書。所 完然有一免。平 當時 今焉 必有,所 振名 論以為 有之。 所謂 予往 想 朝

> 可,謂 人心。 時 餘 洲 正德六年丙申之春。孟阪之日記之、 碑 · 倖亦偉、矣。 學併 名復題 III 已。 一千後世。然微一子嚴。 天不。能 "收風土記文於此。以 言焉。 出。風 則 土 何 記 以 殘篇。 刷 永其傳 於有品間。 以 示 於

風土記殘篇百六。

陸與國宮城郡。以下三百六十零二千茲

坪碑。 迷塗。自、此至、終。一 見雲眞 人清書也。 在 鴻 之池。 略 記"異域 爲 放鎮守 東 邦之行程。 府門碑。 惠美朝 令 旅 獦立た。 人不言為

臺闕 鄉一。神社六。寺院二。浦 甚繁。其行不、全者亦 右宮城郡記。以,其目,考」之。條件六十有六。而 焉。坪 亦奇 碑 條 四 + 除字。 頗 多。今其存者僅十有六 。山岡 行全字正。 各 一。神 好神也 而 少無 損闕之 其闕者 。 其 餘

弘齋不信恕識

題"弘齊審定後

余讀。弘齋氏之審定說。有「所」威故贅焉。

九

爽。贏 妙。幾 垂不 時。如 日。豈非,文苑之至幸,哉。有,咸,干此 氏筆跡。大喜之。復告之翁。々技隱 未、審。何人書。 世 盖 者 尤物之出 電 朽。余讀 千年 久。然沈 歸告。弘 余向 而重。 砷 於兹 是 擔,亡子義方。詣,于碑 必得。人之貴 一响 之三四。施卷 齋翁。以其為神品。翁亦深 近日 此 古記之蠹除 一可二謂 於 碑 院草斷 偶 11 在一于我東與多賀 得風 片石之不遇。而雲見真 Ti-o 烟之中。 m 而 土記 m 顯。方始 嘆日 顯 殘篇。 于世 下。揣摩慕勒。毫釐不 mi 心心 不措。作 以 無當 啓,千載之疑于 序 一。然其 而始知為"見 題"其後二云。 古城 此 服其 一臟,其 中。而 碑 審定說。 弧 也 精妙。然 師 一書之絕 人之不 。得"翁 也有 名一于 今 以 雲

東奥 容軒 源 義和誌

東海多賀古城臺碑帖叙

也。盆 桑土 尤妙。揚,之國風。壯,之人觀。然地 碑 H 為書家之摸範 碣之古者。 池 碑 今無矣。 那 須國 馬 其 亳 唯與 造 本 碑。今猶存。 傳 之靈碑。 于 温温 世 一院句。代歷 者。 世 然其文義不」明 代已古。 多 不!精 離制。沈 良。共 書法

毫以

盡之。又得吸之正

史

mi

麦

將軍之事質。質之

考證。 擊火 和 伯如 多賀古城 乎世逝寄,青以 守。就,本碑上。墓勒雙鈞之眞本。義和今七十致仕。文字之辭。 所謂 , 徵。魯厘汲冢。尋顯, 子世。而四方好古之士。摹勒裝。以 之草莽。洗 立之所心繇。 之審定數百 慎作"逡巡碑"。慎因 愼於"鈎衡藤 者。豈 沒于 。與「慎執」文雅之交。聞有,義和與,其子義方。其友江 燎水沒之厄。 。雙鉤 于何懷。岐陽、鄒絳。罘隱之間。 豈不一 荒榛之下 者 有.歷 得非.靈物 壶 其 全 言 朝古歌。而 碑考。中 陸鶴 佐 塵 碑 前 矣。始知 一侯之好 大幅 **氛。究其** 允 鬼 疑,書者之姓名,者。 而獲。義和父子之手。 重傳。美千萬世 一般數 請得墓膽之。偶與 神呵 有 見。義 間亭 及窓 影響 有義和之跋 此 百 精 護之故。乎 碑之潭晦 歲矣。方今泰平之運。文獻足 神。 碑文 山 上。得見,與兩 和 不一 遊点 書小 有全 ,。嘆義 。太似, 乎碧落失, 造 及其友弘齋平 智 ,遠寄二 策。題 爲 然猶幸 一藩之臣洞 碑 巧。 賴賢 和 小 足 手以 则 圖。有 一种。佐 大奇事乎。 死. 問 香國和 其子 探 嚴 族 化雷 古書 さっ 信 源 尚。 命 定 義 恕

本市 乎 也 府所。舊藏一者。侍史之臨本。而今所、藏者。乃義和 日,正德甲午。今奧君命。義和 **令**。侍史臨二之,以爲二贈焉。 矣。又碑考中有」言水府。 古風土記。而審。見雲與人之心畵。義和之勤,豈不。大勞 所出之正。而 足本葢難,出,于奧府中。然所,謂侍史之臨本也。 唐人書,或以爲"慎中將姬之書" 。而 校 興,贈者 。雙之。則字體筆法。大有。町畦一矣。 好古博通久為人見,稱。必當應,無, 經毫之謬 却疑 同矣。恐世或有,傳,水府之本 此眞本一者。故今詳言之爾 公。義需"之前與君。雖,大與君 其字甚失"精釆二云。 摹勒成。 試收所 一台藏 而呈之。 素 者。必 知義 而兩 餘 之具 然則 碑考又 此 具 和 信 足墓 知 乎 善 其 八里 本 南

质 澤 藤 知慎公謹父。書.於

東 初 城北郭。杏勝堂南軒。 壺碑考中

矣。時享保第六種歲在

辛丑。七

月

腑

日

碑字 考證

京 京 水从口 京古原字。古碑帖 多用」京。

> 夷。 夷从、大从、弓 俗作、焦。 王子敬帖姨作,姨。 碑

文盖作,夷。加,人也

國俗作」國。 按 古碑文中 有。同字者。 用。一 體。此

国。

碑 爲得 法。

1 碑帖 多用

靺鞨 龜頭 三 旁古 从一电。褚途良哀册中作一題 碑帖 多用

戚。 嚴本从,止戍少。薛稷壽杏冥君銘。作,最

剽俗作一敦。古碑帖多用 列 火排、點作、从

者

或

之。此 碑 作从

菩 等本从一竹 从,寺、古碑帖 多作

置从 例 从直 。智果 科 稷同 作 置。按目 古作 图。

墨。

歲。 簽。 古碑

杂。 **叁**从一多。古碑帖 本質。張旭書。唐尚書即石記作、資。 多用 参参。

茚。 節从一价。古碑帖 多用 前 茆

度从一世、又古碑帖 多

縢。 藤本 从水。 古兴作、夫者 間 有之。 泰从、木者為

奇。

恵。 恵本 从画 古碑帖多用。省文。

斷

羡。 本不、从、火。古碑帖 多用"羡或

獦 接以臘臈正俗 相 通例。以獵 作、猫 葢朝 猫 自

改」之。葛本作」葛,从,日 者未、考。

用此

字也。凡

人名稱用

來字。

雕 俗

調。然不须

餘

修。 脩俗作、終。古碑帖或 用 此。碑 从一个从一多為一奇。

平。 歐陽 詢千文中字樣

慕 名不 法書 廣澤 一焉。知愼之評 知愼曰 傳 者如。右 然當 。臺碑僅一百四十一字。而取"魏晉以 、況其體認 時 信息 吉備 碑 裁奇古。 ス。唐而 11 。皆以」唐以前 泛。 爲。極高妙。見雲真 文翰 之盛 證 據 矣。 可 庶 山 來古 人書 幾 景

天平實字六年壬寅。

唐肅宗靈應

元年

也

平

免

言語

者之前

馬

廣 澤 釣 徒 書

跋壶

焉。將 余謂 古士 建也。近有、人就摩挲而摹、之。以至,都下。碑僅十行 鐵書于苔蝕蟲囓之餘。於是鐘。間。暴 書之為"世 大藥。玄酒。東奧州靈碑。在,州之宮城郡。天平實字中所 字。楷 碣刻鏤之迹。往 此 心。手募 取以補 碎 法道 宜 所 勁。字體準 與 刻共字。割 集古之錄 尚 "剛山。 落 久 々能出 矣。 有 雅。 行橫排。 心。 溪 人間。而世之實驗者。 好 有古篆旅遺法。細 並 古搜 傳。 裁為 奇之士。求,所 而後 算· 款 識之文。 古碑 神 世-子。以 有 歐陽 非 匮 视 匮 謂 ŢĻ 以 子 虚 Ti 銀 出 為 傳 好 有 勾

鳩 巢 室 直 凊

樂 故 先 與 諸。是元欲 事。 府容 生 小儿 刻之奇 得 軒 其 先 生。 公,其傳。 墨 膠 本者 1 所"嘉勒"多賀城 至少矣。若 如。蘭亭禊 所以 不 章 證 一 流 有 帅诗 古織 親 17 咏 知 碑具 切 與 閣 望者。 帖 本。 人同 E 或或 東 之作 都 好 有允 廣 之 零

茨 木 方道 証 識

設欲 復 作全碑大幅 者。取 諸水 碑上所記尺寸。照之

病よ言趣:云爾。病之。加,其訓點。以為,冊子。是乃欲、分,讀者,易,此曉。病之。加,其訓點。以為,冊子。是乃欲、分,讀者,易,此曉。病其傳表生欲,刻,之石。而永其傳表不不意碑一帖。向廣澤先生欲,刻,之石。而永其傳表不不

享保十四年己酉九月廿五日夜。

溶軒老隱七々叟太白山人識

碑在,宫城郡市川邨多賀城址。去,我

坪碑史證考

胡。酒器也。當」作」臺。臺苦本切。音悃。宮中街也。按壺宮城郡坪碑。在,鴻之池。今廢。為,故鎮守門碑。惠美朝宮城郡坪碑。在,鴻之池。今廢。為,故鎮守門碑。惠美朝古宮神祠。西南廿八町餘。日本總國風土記曰。陸奧國

日。 坪 者訛也。 風土記坪碑之次。有"坪湯。其地今猶存焉。鄉民呼"湯 坪。共訓,豆保。方言相通 示"衆民。而 四至開 號,鎮守府門碑,者矣。豈鑿. 一嶮山。通 此道路 一達古號。坪 直路。而立石於城 。。坪蒲 明切。音平。地 地也。想此城修造之 外。刻.其里 。義字。而說 平 處 程 也。

多賀城

之間道

那。

伯宿 賀棚之名。始見,于此 奧國多賀棚。按先」是紀 從三位藤原朝臣麻呂等言。以』去二月十九日。 麻呂等。發"遣陸奧國。四月戊午。遣"陸 使。大野東 續日本紀日。天平九年春正 以一天平寳字六年一修造故也 使兵部卿。從三位藤原朝臣麻呂 行程迁遠。 禰豐人。常陸守從五位上動六等。 人等言。 請征 男勝村。以通。直 從,陸與國。達,出 一碑 。藏鎮守事 面 記 月丙申。 一种龜元年多賀城 副使。 路。於是詔,持節 心唯記 羽柵。道經.男 先是陸奥按察 奥 坂 。陸與鎮所。多 正五位上。 持 本朝臣宇 節大使。 到 陸 勝。 佐 頭 大

去京一千五百里

天平 也 日 宫。哲移 京師 天子之居 **寶字五年紀日** 若 而 何。天子之居 御。近江 必以"衆大之辭,言,之。 國保良宮。今之行 ن 冬十月己卯詔曰。 也。京者何。大 程 未考。 也 爲改 師者何。 作平 公羊 城 傳

去。蝦夷國界一一百廿里

土地 は。國 甲 將清白心 蝦夷荷恩」。進而誓曰。不"爲"官軍一放持"弓矢"但奴等 月 武 日 性食」肉 宿 申 內宿禰自 本書紀日 郡 मि 禰兒屋麻呂。 蝦夷。 沃壤 人男女並推結交身。為人勇悍。是摠曰 陪臣既奉 與 放持。若非為。官軍以儲非弓矢。齶 m 國 仕官 怖乞、降。於、是勒、軍陳 。景行天皇二十七年春二月辛丑朔壬子。 曠之、擊可,取也 東國還之奏言。 船師一百八十艘。伐、蝦夷。齶田·淳代 本州今無。日高見之地。 海道蝦夷 的矣。續日 反。殺人挨從 本紀。曰。 。又曰。 東夷之中有"日 船於齶 齊 神龜 明帝 六位上。 按延喜式載 田浦神知矣。 田浦。 四 元年三月 蝦 高見國。 一年夏四 夷。亦 佐伯 當 田

> に肩圓 者 中 桃 虫。北 獸。方語最不通,誠皮服之島夷也 之別島也。其地東連、大洋。北隣。韃 可"併考。今呼、蝦夷 生郡 記 質百 狄從,犬 眼 作 日高見神社。恐古為,日高 一餘里 赫眸。髭蔽」口。徒跣而奔,趨山野。其性 桃 生棚 當時 西完從、军、東夷從、犬從、弓。 奪"贼 島夷侵 者最遠。 肝膽。又秋田、渟代之蝦 州略地 鎮 所號 見國一子、去,此城 非 型。人物 、說文、曰。 "松前。 居者不過 長大、髪紛 斷陸 南壁從 屯夷者。 如禽 問 紀 址 海

去。常陸國界,四百十二里

。今以 江海之津濟。郡鄉境界相續。山河之峯谷。取,近通之 國。常陸國風土記云。所以然號一者。往來道路不,隔 河內。信太、茨城。行方。應 延喜民部式日 義。以名稱焉。是東海道之邊藩 一關田 村為國界。行程未考。 東海道 常 陸 島。那珂。久兹·多 國大。管、新治・眞壁。筑皮。 而此城援軍之近疆也 珂 右為 這遠

去下野國界二百七十四里

延喜民部式曰。東山道下野國。上管,足利·梁田·安蘇·

未一考、 章。 應 川 國多賀棚。與"鎮守將 圖於天下諸國。天平九年紀云。 擇,國司精幹者一人。 陸與若有是速索。援軍者。 以"此渡潮 郡 云。上 賀 此 東為下 日 野中 ,天平寶字三年紀 城急遽之隣藩 **進川**河 追 海 常陸。上總 有二 野、下毛野。 一為一兩國境。川西 اال 兩道 內。芳賀。鹽屋。那須。右寫。遠 西 河。號 夷 爲上。古今例也。是又東 狄 押 軍從四位 也。今以一白坂 武 等 渡瀨。又有二一。日。佐野 兩國間有.二野。日 云。十一 藏上 咸懷,疑懼。云云。 領速相救援, 頒,下國分二等 日上毛野。東 國別差"發二千已下兵。 野等六國。騎 月辛 上大野朝臣 夏四月戊午,到 驛 未 爲國界。 勅 山道未上塞。 坂 日.下毛 國 佐 東 兵總 野。笹懸 人。共 東 風 中川 陸 八國。 行 土記 野 Ŧ 华 奥 程

去。靺鞨國界三千里

長尺有咫。陳湣公。使"使問"仲尼,仲尼曰。 隼來遠矣。 海,史記。曰。有"隼集"于陳廷,而死。 楷矢貫之,石弩矢

當.唐 以 月 之碕岸。有, 肅愼人、乘, 一 此 之地 矣 肅愼 生熊二。羆皮七十枚。沙門智踰造指 明天皇四年。越國守阿部引田臣比羅夫。討,肅愼 明天皇五年十二月,越 夫餘國東北。今之靺鞨國方有」此矣, 也 後謂"之韃靼 則為一體屬之地。唐書有一靺鞨傳 金改二元者、 千餘。屯。聚海畔。向 造 油 。歷代要覽云。元之先起,於北方。在,唐謂 船師 **愼之矢也**,註 也,昔年犯。我州 间 奥蝦 俗 肅宗寶應元年 常習。戰攻。入,反隣域。 部 多來。將一殺,我等一之故。 願欲,濟」河 夷一个乘 一起一於靺鞨 臣。解率。船 矣。此記 Æ . 已船。到"大河 義曰。 也 者。 河 師 蘇鞨 一也。今隣 國言。於"佐渡國 是則古 二百 船舶一而淹留。云云。又曰。齊 而營。營中二人進而 如 加恒國 者 紀 艘 天平實字六 松前。有加 北狄之大魁 所 不数于此 文 代 侧心。 記 號 終不一得 肅慎 云 南 П 施恆 於是渡島 渡島 車。 本書紀日。欽 肅愼 國。 良布 今之難 年, 同 北御 志。 首 之际 急 共 m 六 M 地 仕 JE 後 可 im 即。日 蝦 部 年 名 一。献 滅 革品 在 惡 官 以 夷 臣 部 道

神龜元年歲次甲子

止良 。志 勘 九 宿 龜 八 子之 丽 賜 虹 月 年。為 出。 捡 故 XX 不。在 III FIF 行 几 周 舊一。 圖 念 隨 度。 车 则 謀 必究 叉 天 德澤 氏 所们 坐 今將 南 110 紀 -1-四 奏 被按 瑞 im 步 1110 日 方 今 所 應 價 流 副 日 得 70 星 年 年 念 食 前前 沿 TEN TEN 华 成 左 者 芸 也 行 ·。先是養 闽 鰸 月 E 则 倁 星 木 經 京 乃年 斯 主 部 III ALK. 就 久母皇 世名手。 按 子。 人 日 丽 Win and a second 者 資 次 行二 紀 神山 一。去 御 不上 學師 mi 出 生 契 家 老 世 朕 四 年 是 偏 日 所 八 宿。 記 女 賀御 ブケ 牟 肝于 九 知 年 不」黨 天 Mi 献 + 年 主成 俱 之 月 冬十 天 子 名 應 111 白 佐 功 天 來 歲 拿 孝 北 If: 地 乖。 加 定山。 持 當 題 靈贶 地 則 imi 仍 147 用 周,天 詔 添 兆 此 行二 天 贶 F 得 耆 日。 見留 留 龍 改 年 國 大 老不 物 所 在 次 降 養 家 瑞 + + 今 爾 物 1t 口 甲 大 年 見 地 物 在

養老三年記。日。秋七月,始置。按察使。其所按察使

信管

國

同

若 元二 加縣 股。民 乙酉。 條 陟 故 料 。其。 置 脩 有 年。置一十 禄 年。改 之父母。 按 徒 非 部 一詩 太政 倍。 察使 内 罪 莲 以 肅 日 以 及侵 道 便 按 官 + 清。具 糾 下 奏言。 按 以 獨 祭 斷 道海 察使 在 淫 彈 使 當當 决 記 按 非 H 國 准 士 察探 高善最! 流 開 察 達。 护 物 甜的 训 Œ 元二 使 官 則 浦 准 以 五 訪。處置 言 寄 按 1 清 位 1-度 年、改 上 祭 漁 I 官。 奸 銯 給 使 狀 許 務 疆 叉 云云 之。 親 使 日 奏 し一般 旣 彩 日 和和 自 + Ŀ 養 按 定。官位。宜 元 部 巡 漢 道 則 若 擾 老五 135 省 日 有 技 莊 容 亂 有 量 察 此 年六 宗 朕 臣 學 使。 朝 狀 之 使 W. 憲。 開 集 肱 有 月 11 致

鎮守將軍

天 六一 宿 宿 府 萬千 平 將 禰 稲 二二千百 萬三 古麻 資 全 准 成 字 五束 区。 為 1 兀 束 五料。十 年 兼 寫 軍 紀 。公廨八 兼 副 日 監 將 鎮 准 祭 軍 守 網 拨 --月 籠 延 將 萬三 軍 壬 响 艺 軍 曹 辰 陸 主 料 T 准 左 稅 與 七 目 式 大 4: 百 萬 辨 日 從 + 窓 束 E 五 五 陸 Ali 四 位 叉 束 终 原L 位 F E Cili 六司四料 或 0 推 件 大 IF. 守 史 伴 稅 伯 加

從四位上勳四等

此條學 位 軍防令 假如一 位始正 町。凡文位自,少位,至 爲序。故知上一等以下。皆着 日。大寶元年三月甲午。始依,新令,改,制官名位號。勳 官位令義解日 令日。正 其次為 等行列者。立,正三位之下。從三位之上,類 日。 蒯 冠正三位。終 三位。 第 凡 令文。武職事。散官朝叁行立。各依"位 等者。以顯 行軍 一。延喜式 。從四位,大中太夫下。出令日。從四位廿 金紫光祿大夫。大納 叙 動定 追冠從八位下。階合十二等。官 正一位有十八階。 部式日。凡勳位朝參者。服 相當正三位 簿 。當色之服。立文官之列。 毎除以 言瓤 一拉 "先鋒 也。下皆 續日 等。註 者 爲 本 也 第 次 准 副。 文 紀

動人得」勳。後身亡者。其勳依,例加,授。位服。列,當位次第。若無,文位,着,黃袍。軍防冷曰。凡

大野朝臣東人

養德守。 位各有 天皇臨朝詔。叙"征夷將軍以下一千六百九十六人。勳 鳥 十四年十一月癸卯 三年閏三月乙卯授,從四位 等。從五位上大野 **具人**,二日 更改諸氏之族姓。作一八色之姓。以混。天下萬姓。一日 H 年夏四月 朝 本書紀日。 延、糾 差。 從四位上勳四等。 朝 職太夫直廣肆果安之子也 王午、 臣 授正 天武天皇十二年冬十月己卯 。續 ,陸與國按察使。兼守鎮守府將軍,大 朝臣東人。從四位下勳四 日本紀日。神龜二年閏正月丁未。 四位 。參議從三位 上藤原朝臣宇合從三位 大野 上大野朝臣 朝臣 大野朝臣東人薨。飛 東 人為 東人。從三 等。天平 朔。 念 一战。十 動 詔 位。 日

參議

大寶二年紀日。五月丁亥勒,從三位大伴宿禰安麻呂

職員 議。天 朝 從 TE. 政 29 四 分 朝 位 位 45 同 1 有 15 10 十三年 天 1315 75 毛 栗 大納 鹟 湾 里子 田 -爲 字六 朝 朝 言 芝 臣 臣 四 月四 年 古 真 議。公 人。掌參議應 十二月 麻 人 日 呂 從 卿 小 四 紀 勅始 乙巳朔 野 位 日 朝 上 大寶三 給。食封八 事。別 臣 高 毛 從 向 無 四 些 年 朝 位 此 始 令 臣 十戶。按 下 職 **参**議 麻 置 藤 呂 怒 原

東海東山節度使

下。 天 伊 使。延喜民 東 右 國 為 平 豆 游 近江 尾 鬉 東 四 國。事 張 從 Ш 年 國 國 阿 甲 紀 總 四 上 部 大。美濃 物 + 斐國 國大。下 位 道 日 式 參河 紀 野 節 八 下 日 原云 國 上。右 藤原 度 國 東 國上。右為"近 月丁亥。 大。下野 使。天 總 上。右 海道 。唐制絲邊戎寇之地 惠美 國大。常陸 寫 平寶 中 爲 國 那 正三 朝 圆。 近 上。陸 賀國下。 15 字五 國 國。遠 位 國 朝 相 與 飛驒 大。 摸 狩 藤 年 國 國 iT. 原 伊 右 為 紀 大。 國 Ŀ 國 朝 勢 日。 寫 出 下。信 武 上。 東 臣 」。 則 遠 羽 藏 骏 + 房 大志 海 國 國。 加 濃 國 iny 道 前 上。 以 東 大。安 或 國 摩 節 月丁 為 旌 或 右 上 度 上 山

> 持 節。謂 節 老 之節 始 度 謂"之節度 使。 兵 志 使。和 日 高 漢 宗 有 永 此 徽 以 使 後 郡 督 帶 使

仁部省

福大路 掌.諸 濟 衛 天平 仁 臣 神 故 真 祇 渠 大將。藤 伯 資字二年 改 楯 沙山 國 等。奉 爲仁 石 戶 111 原惠美朝 口 11 朝臣 部省。 藪 名 勅 紀 改易 籍 年 澤諸 日。八月 職 赋 足 臣 員 役。孝 官 國 參談 押 分 號。 H 八癸亥。 膠 日 事。拾 義 民 IE IE 四 優 民 部 三位 是日 省 位下中務 芥 部 復 抄 省管 施 中納 家 大保 日 政 1 於 家 言雜式 R 奴 從 卿。 部 民 婷 位 品 膝 卿 省」宫城 道 部卿。 原 14 飨 人 中 惟 朝

惠美朝臣朝獦

獦 天 鎮 臣 雄 守 勝 平 至 爲 資字 節 將 城 陸 軍。 其 隨 與守 元 事 勞 E 年 五位 一同 图 紀 賞。 成 四 日 F 年 七 削 聖 E 藤 月 將 Ŧ 月 甲 旣 格 原惠美朝 丙 言言。 演 困。 亩 然今陸 背 從 勅 先 Hi. 臣 日 帝 位 恭 朝 與 黢 F 猎 國 降 藤 命 等。致 事 原 按 明 察 朝 君。 韶 導 使 臣 当 忠 荒 兼 朝

續 夷。馴 也 節度使。按朝猶 部卿。陸奥。出 冬十月癸酉。 鹿郡。跨、大河 奥州在位之勳功記文。 理應"褒昇。宜、權 從是化 以 不必勞 羽按察使如,故。十一 凌,峻嶺。作,桃生柵。 者。從一位藤原朝臣惠美押勝之五男 。從四位下藤原惠美朝臣朝 朝 戰。造 猶。特 授從四位 成既 平。 奪賊 月丁酉 叉於 下五年 肝 為"東 膽。眷 i 陸奥 猫 為仁 紀 海道 言惟 國 日。 牡

修造也

軍 皇 古 防令日 修造之。也 隨 隨即 凡 近人夫。遂"閑月修理。其崩颓 修理。 城隍崩 役訖具錄申"太政官。則 頹者。役"兵士 修理。 過多。 。若兵 所 作為"此 交闕 1 少者 城

天平寶字六年

下太 夏四 天 平寶字 月辛 4 加 四 益 字自 元 頭 郡人。金刺舍人麻自。 年 百官詣,朝 紀 生焉。庚午勅 日 一三月 堂。上表以 戊辰。 召.親 天皇寢 献 王及群臣 賀"瑞字。八月己丑 蠶產成字。 殿 承塵之裏天 見"瑞字。 申 午

> 勅曰。朕以,寡薄。添繼,洪基。君,臨八方。于,弦九載 八日。以為"天平實字元年。碑面記,六年,者。迺廢帝 思 功。宜與,王公。共辱。斯贶。但景命爱集。 祗承嘉符。 無,善政。日夜憂思,危若、臨、淵。 年。唐肅宗寶應元年也 三月二十日。皇天赐、我。以"天下太平四字。云云。 옏 惠澤被"於天下。宜改"天平 還恐:寡德」豊朕力之所 愼如 勝資。 致。 腹冰, 是賢佐之成 九歲八月十 隆慶伊 於是去 四 胜 曾

西

守皇城。 额。且 碑 后 謂命派 至都遷 上刻 記 者 一爺.西 。然則古今鎮守西面之事。必有,故乎。且記 西字 而 人不。為,迷塗之意。又考。 平安。於"東山之上 已。 去京之義 義未、詳。 以示.黎元者 籍想此城所,向之方位。 置,將軍像。分之西 延曆十三年紀。謂 。乃是風土 記 面 標 所 期 鎮 碗

一碎面字樣考

唐顏元孫干祿字書日

京京通字。按正字本從 九京 川流主 ifi 右軍及釋懷仁集聖教帖。皆以「京為」京。 京作,原古通 用。六書通。五京之印 ·京古原字。檀弓所 作京。又晉 門門 九京 Rij

又曰

歳歳 俗字。按王右軍蘭亭記。定武肥本作 巌

颠節俗字 魏舜孫書法。 。被普書王劭廈翼等書。俱作,前。前度之二字

卿 同 1:

問

又曰。

龜龜 通字。

夷夷通字

年季 **沁字**。 滕滕通字。

寶寶通字。 等等通字。

閣鑑通字。

恭音王獻之書。 **寶唐褚河** 置 知 書 南 書 淳化 諸古法帖。

坪

碑者可為是也。

而

因

為"鎮府門碑之文。則

建于碑

兼晉廈翼書

隋

果

更書 恵晉 王 右 軍

予唐歐陽

李

E 梅 誕生日 國之俗字。 凡碑 上數字。 皆從一晉唐之古制

> 此亦 不 必拘 必有。據。凡上稱。某某俗字。皆字學家之說, 拘。此外字樣淺見無可證 委。博古之士 能 計

馬

题 述 碑 圖

靈苦本切、 坪 或作。虚 音惻 俗 作 過者誤 也。0坪 酮 雅宮 蒲 次 明 切 郭 音 璞 平, 自 **两閣** 地平 處 間 O 道

也。亦詩大雅 证 ~類維何 室家之靈

〇此 土記 碑 云 也 坪 在 砰 在。鴻之池。為 陸 奥 州宮 城郡 故鎮守 多賀城 府門 北。陸 碑。惠美朝 奥 圆 宮城 猶立 郡 風

為"迷途 也

見雲眞

1

清

書也

記"異域本邦之行程。

命旅

人不

雖然稱 〇此碑 作 一量碑,者。不,知,始,于何人,也 萍 碑。亦作 一声碑。 共是可二謂 唯 "道之碑 内 風 十記 之義 一世 為

於城門外面大道。令人知。四方之行程 者

部 = 0 JH; 碑 百廿里一者 記。五方之行 一准,于今次十里。六尺篇,步、六十步篇, 程。謂 去。蝦夷國界一 百 世里 里。今乃。 也。 古

也九百里 百廿里十 帝延曆 可以調 悉收 考.之國 夷 地 因 陸 者。乃准"于今之二十里六町"為"一里,也。故謂 中。 州 奥。 史。往 也 是 海 征 也 爲 開 征 共 東 東 被 塞。則 普 桃 地 將軍。 將 東 夷 者 生 軍 征之役、 人侵渡 郡者 九 陸 之大 坂 百 奥 上大宿 里。自"桃生郡"至"于南部大閒" 土型古之一 無"征戍之事者。六百餘 功也 在 無、已者千 陸 陸 舆 爾 。其後 北 則 舆 田 州 知 邊。 村村 中 桃 有余年 花 麻呂。 iffi 央以 園 生 動 帝。嘉吉三 那 乃入 南之 驅.夷 矣。 以 北 寇 M 地 乃古之 年 盡沒 人而 桓 凰 也。 也 年。 武 野

是子孫 去,蝦 仙臺林子平 爽國 為:一千六百廿里 北一行。今法之一 武 朝 H ,界之道 禄 太 夷 世々 郎 立之。迄。今年,已千 或 陸 源 奥 逃。攻"坪 。據一守其 法。古今 信 百里計。乃古之六百里也。是乃今之蝦夷國界也。一條水,而以北。乃松前之地境也。自,松前南界東 也。因 一世。则 為 廣 越 千六百 近 是觀之。方今宮 碎。在 海 地。迄"于今一也。 世 遠之差 而 讀 入"于松前。逐 廿 計 碑 陸 里 者 舆 也 揆"立 也 州 一。故 因 源信廣之所。得六百里。 此 其 城 松 一个一种之意 本 記 碑 郡 得 前 多 爾。 文。 鎮府古 地 地 賀 方雖,絕 m 城。 者六 不過 淝 不 者 相 城 知 蝦 詮 百 自 傳 者 使 里 焉 海 惠

> 大清隆 道 子 粗 四 之遠近、 持 方 於長 則 行 砰 吾豊 飛乾 程 崎 見 川 蒋 唐館 敢 示 隆 適 川之志異。 雖然絕 四十三年歲次 松風書 所 舰"其 從 來。余 雏 海 室。 法。滴 恐 東 非 方 本 排 戊戌。夏六月下浣之二日。 余 勁 唯 所 北 見 安 做 能 有 古古 **参**稽 能 此 證 書 逃。 m 耳 是爲版。 岩 今仙 田。 論 其 至.於 臺 林

中 原 周 壬錄

北 裔 備 致 附 錄

修造

山

H

聯

多

智

城

碑

面

致

當 多賀 延 在 多 按 ス 蓋 多賀 曆 賀 テ テ 金鎮 神。 國 1 木 問 城 府 稱 守 Min. 7 事 1 ス 編 府 3 ッツ 聖聖 稱 蝦 將 1) テ ス 灾 武 1 = 軍 1 後 皆 城 紀 7 大 V 。鎮 天 是 征 73 野 7 平 寒 東 討 ナ V 守 九 揮 IJ 人 棚 3 府 0 年 治 y 7 1 將 7 置 夏 ナ せ 1 軍 V 前 四 7 3/ ス 陸 月 所 + ナ 2 治 옜 > y ナ 四 IV 13 1 文 ッ。 年。 錄 1 y 或 甚 -城 伙 府 史 响 初 7 1 宫 Mi = F 以 見 稱 功龙 棚 E 元 2/ ラ 3 年 那 1 0 テ。 或 夷 稱 狐 = =

等ノ 澤城 之任 俗 京 示 1 ク 3 坪 或 ツ V = 師 サ 多賀 記 府 7 。寄切邊戍不 1 ホ 1 遠離 作 達 北 ス アリ。既 1 力 P 地 り。 テ 棚 弈 及 ス 放 1 F 皶 鎮 2 7 w x 平 = = 作 所 所 或 毛 弘仁 ナ 用 = 毛 -ルノ後、 1 久 多賀 常在 IV 虞之護。 按 21 軍 = ナ ラ 郷 = 國 所 7 = シ w 年 化 際 1 7 城 國 40 ヘシ 八十 不 碑 云 ヲ作 國 制 鏡作 3 府 フ 7 テ 度 = 可啊關。今鎮 放放 云云云。 I 0 り 九年 設 7 ヲ 府 -盖 ソ 立 為 大同 = 7 棚中 1 叉 一世邊 ス = n 至テ 膽 北 碑 遠 中 在 IV = 74 二人夫 方 近 7 リ モ 在 1 將之道 初5 7 ソ 守將 テッ ノハつ 1 勅 V 1 ※延延 地數 1 = 0 ヲ稱 地 ヲハ 圷 軍 子 上 合 = 内 夫 际 + 111 衆 F 加 3 t 鎮 定 濟 中 113 人 カコ 急 = テ、 かっ 膽 設 此 將 版 in ヲ = 王

字 H ナ ナ 題 分。幅三尺四寸餘 1 IJ 按 ヲ 3 0 鎮 ヲ以 リ。且 中 京 人ヲシ 光 砰 央 E 撫 師 ---ソ 史 在 3 テ 7 ニーノ西字ヲ大書 ソ 1 境 崇 テ ス テ 1 城 光仁 界ラ 胶 舘 IV 尚 碑 中 1 フ 舍 3 ラ立 紀 守備 同 ナ テ 局 習 、蓋本跗 以 意 フェ 3 尚 ル。西 7 上。 ス 汉 ラ 1 73 7 リコ ルノ任タ 3 = 被 v = 面 石 ス。 楣 2 ナ 7 = ナ アリテ今亡フル 間 IV) 多 V 勿心 1v 葢京師 7 1 -智 話 7 1 1110 ルヲ以テノ故ナ 贴 E 栅 -6 以テ = ス 命 サ 字 1-7 碑 IV 7 n 稱 ヺ 尊崇 = 0 石 不 1 書 ス 故 高 意 3 Æ = 3 ス サ六 棚 江 テ。 ナ テ 3 ノカ IV 百 即 IJ テ。 , 尺五 夷 後 N 城 意 碑 狄 今 = 世 ナ

去京 千五 百 距

據 按里 V 7 ス 田 ス 所 步 程 IV ナ F 1 古 謂 制 モ。古ノ一里大抵今ノ五 今 iv = 1 千 本 别 五 。古今尺ニ ク T 百 古古 りっ 里 五 今三十六 亦三百 尺ヲ步 長 短 步 アリ F MI ヲ M シ 7 叉除 テ。三 以 差 里 テ 里 1 = 百 ナ ナ 當 里 丰 步 ス ル 1 T 7 E ス 放 久 C 里 = =

多賀

旭

係

N

7

以

テ

7

.

=

其略

7

致逃如

叉

7

V

ヲ

ツ

示

1

確

1

稱

ス

V

1

毛

古歌

詠

ス

IV

所。

葢

IV

1

管

制

關

係

ス

12

所

=

在

V

1

ナ

y

放

=

世

t

1

H

7

2

V

1

同

カ

ラ

サ

IV

ナ

1)

。碑

1

IV

ス

所。

土

地

遠

近

說

=

或 1 = V ヲ六町一里ト稱スルモノアリ。 奥羽ノ俗小

路 ト稱

今ノ里數 JE 間 少延曆二十三年五 シト 加去 = 小 轉 一百六十二里云云。請 スレ 路 1 百六十二里。六町一 凡二十六里 月紀。陸與國言, 准"小 餘 ノ里數 里ノ積 路例 斯波城 ナルへ 置 ニテ 與 0

與際 抄 云 2 サレハ一千五百里。今ノ里數凡二百 -= = トモ、ソノ詳ナル今辨知スへ テ三百四 收載 所記 行 程 トニチ八十七里 ス 三千五百 十六里三十町 ル。行基作大 八十七 H 1 里。六町寫二 ノ差アリ。 本國 ス。 ノ傍 キナシ。姑ク 7 V 五十里タリ。拾芥 = 小 1 = 記 差 111 V 2 = 7 テ。白 P 今 = 13 リッ ラ 法 京陸 ス -併 轉 h J

去. 蝦 錄 シテ備三後 - 長國 改

界一 百二十

接 ラ ナリ。 蝦 步 凡銀 7 以 1 テ、 所ノ 京 任 النا = 4 ツ 7 力 毛 京師 1 1 = 陽 奏 係 請 ス シ。授 1v 1 重 ヲ隣國 ヲ以

> 咫尺タ 今ノ桃生郡 サニ ク = 所以 請 フっ 府 IV ナルヘシ。百二十里。今道二十里二准スレ 1 ミナ夷勝ノ反逆ニ 北 p ノ邊。ミナ蝦夷國界ニシテ。當時ソノ 1 = カコ 在 y w 所 2 ルヘシ ナ 1) ョル。故ニコ 然 シテ蝦夷ノ靺鞨 v ヲ 第 F 隣接 = 7

去。常 陸 國界 四 百 十二里。

去。下野國界二百 七十四 里

被。常陸・下野ト鎮守府城ノ南 珠 用 3/ シ。 ノ説 テ = 備 國タレハ = フ 111 w ナ 、亦ソノ里程 ツ、里程 少 リ、今 古今ノ 7 V 7 ヲ具 差 = 異 錄 P 中 T 1 り。 テ、 = IV 3 收入 = 援救 V 1 陸 ス 奥 赤 7 俳 E I 水 隣接 ---提 フ 驳 4 1

去.. 靺鞨國 界三千里。

按 7 毛 = ノハ 规 波島・津輕津ノ司 蒜 省 報國本北 ナ 即 3 今ノ北蝦夷カラフ 2 ト。蓋是ナリ。 狄 / 記 称タリ 君鞍男等ヲ ノ地ヲ付言 3/5 我 V 1 二在 シ モ テ、株場図 北 テ スル 非嗣 眼 長以 ナ 1 IJ 孫 NIG 1 北 風 E ス 俗 史 IV

ソ 追 シ 2 1) ラ V 湖 テ 12 IV 1 V 7 當 サ 風 總 7 31 恒 以 俗 3 7 古 肚子 X テ 7 1 腊 = = 碑 都 ナ ラ 在 倾 在 省 1) V 1 训 テ テ 3/ 称 3/ 諸 3 所 韎 之 3 1 君 又 ナ 今 鞨 鞍 3 = 叉 ル 1 IJ 明 挹 1 ヘシっ 肅 = 來 等 西 步 愼 V 1) 北 カ 1 7 1 犯 秤 質履 三千 多 故 ス ス 四四 條 地 To 1 里今道 鎮 神 叉 = y 里 守 茅木 。故 オ 綿 程 府 IV 鞨 1 -程 胡 1 = 1-差 3 普 稱 Ħ. 111 地 老 1) 百 せ 1 1 テ。 中 里 2 タ 111 ラ

通 島。 今 = = シ 塞 於 起 松 IV 迫 ソ 1 IV テ 前 蝦 V 1 才 ナ 所 說 亦 夷 P + 在 後 數 地 蝦 T = y 王 叉 北 其 因 以 島 IV = 後) w 7 北 百 又三百 祝 以 E 靺 餘 ヤ テ 鞨 年 歟 叉 胡 國 7 餘 ソ 地 古 歷 也 车 1 1 國 等 テ。 = 最 3 界 1 シ 日 北 テ 文ア 7 テ。 本 極 記 リっ 遠 渡 ス 北 地 靺 島 _ 0 海 鳴 京 黑 韬 1 中 阵 師 帝国 圆 稱 有 1 咱 il 世 北 叉 フ 地 巨 地

1

E

1

V

3

IJ

1

後

Fi

餘

年。永

水

天

喜

1

頃

=

至

テ

-

准

ス

V

1

7

サ

=

唐

人

島

1

中

火

=

T

汉

V

y

h

ス

然

南二

任

IJ

テ

鎮

守

府

管

及

E

諸

援

待

勑

1

用

備

N

)

サ

ヲ

7

久

ス

蝦

洁

靺

鞨

1

ソ

1

北

=

在

y

下

野

常常

陸

1

ソ

诚 リ 方 爲 **爺按** 四 1 7 1 11 位 意 育 次 -又 ナ ラ 此 祭 壬寅 所 ナ か。 東 E ス 方 城 使 動 カ = 在 1) 1 鎮 四等 砰 在 1 如 石 整 ス FILE 守 丰 iv リ 面 7 議 釽 削 府 大 TE モ 1 1 蝦 東 元 人或 0 字 將 テ 1 海 關 野 年 余 = 軍 7 -談 朝 東 25 ハ言 係 題 交 藤 カョ 府 臣 次 山節 左 n 1 ス 甲 東 原 1 ラ、之、 10 祖 31 w 子 忠 北 人 度 IV ス 1 美朝 之所置 方 按然 使 殊 IV ソ ++ 1 = 花 所 1 從四 -12 F 在 使 所 知 = ~ 朝 w 也 兼 ラ 京 T + 猫 位 記 1 鎮 天 ス ラ ナ 師 界 修 E 1 守 4 サ ソ 7 3 洲 城。 7 府 寳字六 1 约 n 0 部 115 將 常 一次 崇 故 111 7 軍 意 里产 ナ ス 余 年 記 從 府 西 以 ナ IV

天平寳字六年十二月一日

公 ナ 按 ス。余 11 ス 大 命 T ナ 7 師 サ 1) 3 ツ V 大大 惠美 テ 力 1 劣 搜 1) テ 野 7753 之ヲ 索 7 朝 朝 城 訓 臣 せ Hi ラ 押 3 ス 豝 修 東 3 1v 勝 北上江 1 ル、字畫正 テ。 ナ 1 シ ÿ 子 彩 テっ ッツ 今 ナ 城 ナ 1) 1 > 古雅 太 才 1 碑 朝 夫 碑 1 久 獦 果 愛 V 7 7 X 安 ス 7 司為 湮 朝 ~ ノ子 ソ 立 温 滅 丰 , ス スつ = 1 ナ 遺 w 作 物 1) til: 水 由 w 朝 久 戶 -7 70 存 義 記 獦 =

所ナリ 削 ノ物ニ 。因テン 3 テっ 致ヲ作 亦 ルラ奥 w トスフっ 地ヲ論 ス n 正 徵 = 備

時タレ 說 時ノ政令愼密ナルコ 程。遙見。島名。令。漂著 修樹。每 連牛養於南島一樹、碑。 シ 府。去天平七年。故大貳從四位上小野 テ。史 7 E 7 ハ。葢命ヲ 史 逸 碑頭,著島名。 -2 附 テ 孝謙紀。 テ ソ 後 1 赤 備 惠 トヲ。多賀城修造 天平勝實六年二月丙戌。 = 3 **佘泊船處。** 而 ヲ鍛 之船、 便 テ 其碑經」年今旣 許 スつ せ 知明 多ノ文ヲ サ 12 有 歸 カ 3 水處 同 刻山 朝臣老 因テ南島樹 碑 朽壞。 1-ノ酸 所 及 111 ノモ 去就 ルへ かつ 宜,依,舊 遣,高橋 勅.太宰 亦同 シ 1 國 碑 行

考證

子ノ紀、正 船眞人アリ。見雲眞人ナシ。 池云云 日 アー 本總 2 國 按 風 事業 五位 百石氏言。見雲三船ノ誤ナルヘシ。當時三 土記卷之百六。陸與國宮城 = 上淡海眞人三船 白 石 手 簡 = 史天 見 為"東 平神 及 yo Ш 護 郡 道使 二年秋 志 、坪碑在.鴻之 = 坪 1. 碑 九 月 内

> 出 7 錄 ス 12 ス 所ナ n 特 = 7 V 7 111 12 1 111 義公 3 " テ 搜索シ 得

東與紀行。余接藍碑本在"南部二云云。與羽觀迹聞老志靈碑歐枕作"靈石文二云云。

袖中抄云、石文云云

和

訓

栞つほ

のい

しふみ

云云云。

夷 坪ノ碑 按 ッ。 在 南 1 V 3 1 シ、日 ラ征伐 3 部邊我國 ス 1 オ 7 古歌 國 所ノ碑 n 云 チ V 風 1 1 毛 = 本ノ 1 = 二詠 ッツ シ 在 称スルヲ以テ、 1 E 遣 テ = 1 ナリト云カ如キ 碑 地ダ 1 ノ碑 1 スル所ノ如 中央 シテっ 我國界ヲ定 + 面 石 1v ク。 H 7 面 の黒龍 ナ 本中 談 幅 多賀城修造 12 分 員狹 ス ~ 明二 央 n TI 丰 後世 + × 1 + E 北 ハ。狹 C C ラ 四 3 E 1 = 或 勿論ナリ 字 V V 1 1 オ 碑 誠 自 1 1) 2 7 1 = ___ 混淆シ = ナ 111 1 刻 111 アラ 12 奇 ナル >> 種 7-100 ~ > ノ太 又 = 0 テ 久 說 ス テ説ヲ 部 1 E カコ IJ 然 虚村 基本 設 田 ١٠ 1 () 3 村 叉 立 ナ ツ 1 n 1 氏 津 ナ E --12 = 言 ラ 東 亦 所 1 輕 ナ

奥羽觀 等ノ 我 不然 國 迹 記 今 > 閜 ヲ以 風智 ナ 老志 才 ラ 存 = 京 テ、 ス 合符會 n 豐臣氏 ノ類 ノ説 1 。同 皇京 トハ 日 1 ノ中 言 談 カ 久 央ヲ定 汉 v 力 專 n × ラ = 2 IV = 0

佐久間 源義和

宫 城 郡

多

賀

城

高 日 呼 若。點跡 後遷。市川多賀城于 國府一地。 以爲之砚。堅 古瓦遺礎 在 利 市 森。仍 居館 朝 府 JII 分小小 家景以 村 m 裏似. 細布 雖,在,高森。其任以,主 今市以北 11: 南 日 々有之。好 有 澤 = 多賀関 剛細密。足。背房具 高 左近將監 往昔 称 世 此。 岩切山陰。古館是也 府。一 城 。城區年序。詳一量碑上。稱 。事之者、 爾來呼 壘石 IC 家景 馬 說曰 址。上 主 高高森。 多質城 取 時 一矣。死上 三常風。 文治六年三月 俗 有 斯 义訓 多 地 而日 也 死 及 賀 亦號高 有 之部 居宫 河。前前 木下古瓦。 多行城 が 紋 此說。 理。表 E -十五 代之 城 称。 殿 型 君[5

量碑。 城 則文治中似 也。是乃往 歌枕作"毫石文"或作 呼高 昔治府。仍國 森 。碑。風上記 也 府者不可疑。 賴 朝 作"坪碑"。壶芳本切 次 軍之地、 ,今市 音個]1] 多賀

逐...日 凡事預則立。事前 切 境內反命于京師。告 在"市川 一 ,急遽倉卒之忙 地平處。按斯碑也。以 宮中例 也。俗作 子計派往 在一手我 村中多賀 。郭璞曰。荷閣問道。詩 1 董碑 東與 一非也 定川不、困者 而釋一般急運速之設。也。古人所謂。 城 ,預致。其備。所以量 北。洪 心人。 逆城蜂 。壶洪狐切。音初 往時在"城中館房。而名"亦碑 碑 然累世無人識其 起于 文詳 大雅 方:此碑 。其類維何。 類國 于圆 。酒器、坪滿明切。音平。 遊 或慕兵集徒之 --0 亦可見。 近 室家之症又居 想夫或達, 考多寡 者也。 Thing 妙 爾雅

公之亞 守君 其 于 此 之書。爾 乃收。之篇中。予 仍告之平 考之中華。則蘇長公・趙松雪之上。 鳥跡 風 時 命。雙鈎 土記 而 也。未 顯 後州 而 潜地。 殘篇中。 信 未 怨。 学 半 見.日 座示 以 進之。 是亦 知 始 此 其高 三好 知 標 傳其妙 本之字態。於 質。筆者姓名。 見雲眞 事之徒。說 其妙 跡 也。正 手。 過其名于後 人筆痕。 時 一德甲午 是切 之談。本朝 iffi 編亦 而 陶 怪我 弘景顏魯 得。其左證 可調 春。 朝 世矣。 書 朝有: 當太 希有 平得 史。

也

南 郭集三編 卷八。容軒 先 生墓碣

先生好 世 古興、廢。 州之壺碑。 曠 世 無。識者。先生勒傳 于

先哲叢 談 後編 四

東 條

子

臧

號。通 拔 TIE 7115 洞巖 市川 稱 。名義 彥四 村 「郎。佐 和。 有 字子 多些。 人 間 嚴。號。洞岩。谷 城 IE 跡。 奥州 蓋中古鎮守府衙門之所在 人仕,于仙臺侯。與之宫 軒太 自山 人。 智別

> 高 歌集。名寄哥枕。。又稱"虾之石文"篇。天木集。後世失"其所續日本紀。新古今和又稱"虾之石文"日本風土記憶後世失"其所 之功 字。蓋從"洞 在。沈晦曠、世數百年間。無識之者。元祿中。 岩作,題跋。詳,記其始末。至,今無人不,知之者。實 之。共書総 多賀古城 、天平 為。貴重之物。後 建"碎於此。記"四 不一题。 心 實字中。與羽按察使惠美朝舊 址: 完 妙。 岩之請 刊行於 3116 加豐 1: 仙臺侯 一也。 一作中。 世。墨本傳 方路程之里數。 其友 店人之遺跡。自,是而 洞司 命。有司。 岩好 弘齋平 至"江戶。 古之源。 信恕。 新修.其 业 使 見雲真 稱之多質量碑。 細井廣 著 臺 乃揣 山山 降。 始得!之於 李造 神 人皆 泽 兴 考。洞 再,刻 洞 勒

其

沒 碑 O) 風 日 は せ 邑に は。宮 士 野 昌 かっ る 記 にや 10 輔 となく搔探 20 城 さしつ 京 0) 制 話。 師 a) F 3 5 4 JII か 皆くこれ h h 村 かっ りけ 2 開 1= し。佐 113 Ch あ 30 得 5 を引 久 とい T とい 間 不 いっ 3 调 つれ 3 ふ水 2. に得 3 岩。田 他们 60 の橋にや 0) ورفو 2 -60 流 邊 につ 着 まし よ に沿 文 2 有 h É 許。 け T す かっ ひ。 水 中 殘 5 ん。 坪 編 1-2

2 か下 泥 0) 中。 大なる 石 しさ人業 ふさきい 0) 埋 n T 有 を得

質に て。土人して掲 洞巖 U) 功なりと云。 け む る に。果 月十九_几。十 L T 0) 碑 を得 72 る は

封 內名蹟志 卷之七

佐 藤 信 要

計派

往

而

釋級

急遲

速之設。也

忙

預

致

其

備

2

防

所以是

遠近

考:多寡

定。日子

多賀城 宮 川在市市 城 郡

在,市 11 村 有。虚 碑曰。多賀城。此 城。 神 龜 元年歲 次甲

人之所。置也。天平實字六年歲次壬寅。 子。按察使彙鎮守將軍。從四位上動 四等。大野 參議東海·東 朝 臣 東

原惠美 III 節度使。從四位上仁部省卿。兼按察使鎮守將軍 朝 臣 朝 猫 修造也。 有。城壘方址 這遺礎 古 瓦 膝 往

賀國 稱"多 々有之。好事之者。釆以 府。五見 棚。見"天平後記 多賀城。見"實施 爲。之硯。足,用 至.東 文房 史 具 呼 也 始

按號 多賀古城 者,乃市川古碑在處,呼 多賀國府 者。乃岩切河北 也。

神。童苦木切。音慖。宮

虚 告... 並賊 在1多賀城跡。事 蜂 起於隣國。 詳 碑 或募兵集徒之切。 上。想夫或達.境

内

反命

於京

師

急遽倉卒之

封 內風土記

卷之一之四

田邊希文奉, 君命

撰

郡 邑

宮城 郡 til 111 品

古跡 凡

多賀城址。 名跡 志曰。在"市川邑南"云云。

同。國 犯 跡間老志日 府謂。其總名。 或出 高 森指 森。多賀 并 地 國 Ti 府 同 相 地 近。 也 且 称"多 高 多 賀訓 賀 國

莊。今不」詳。何處之地。想夫謂。 多賀國 府

府地云云。不

可疑焉。

。希文按。

風

土

記

殘

編

武

有

多

賀

臺碑,在"多賀城址"自"碑首,至"石根 尺六寸八分。石基九尺三寸七分,碑後石形稜。 六尺五分。石 石面 圍 九

な。

平 午。中御門帝正 田 水戶矦光圀卿 日。虚 云、風土 靈石文:或作_碑云云。想夫或達,境內反命于京師 觀迹聞老志曰。按神龜元年甲子。云云。又曰歌枕 信如。本鄉與 市十郎。大江定守。而善善。義方佐久間 碑在"于我東與 記殘編日 也。田邊氏。乃僕父希賢也。 兵衛 德四 坪 年 信如。而善書。頗有,文才。正 碑在"鴻之池"云云。 心人。云云。按。水戶黃門君。 也 觀迹聞老志 江定守。 洞 巖子 德甲 一。云 也。 作 成 乃

鴻池。今崩壞無"其形。清泉僅存。有"偏葉蘆。

封內玉露集第五

犬飼一長

宮 城 郡 名所古跡

多賀城跡市川村。

四方土手形一方四百問ッ、。本城東西五十間。南北

門 五 ナリ。 十六間。升 大門升形隔 形總 社 宫 十町 西 餘 坪 り。 碑 本 城 在一南。 是所

則

大

坪碑市川村

下の 奏聞に及ふ。其書 記と見えたり。云云。 つる に 記は。人皇四十三代元明天皇。和 思按。つほの 雲眞人と云へる人なし。其 五年以前なり。不審且後 の諸國に勅して。其書を作り天平の初に 不迷 47 又蝦夷國界等。 能書 碑 L 2 なり。然は天平の 途の み あ 0) り。近江 いしふみの事。風土記に見えた み不成。後 事 をかけり。天平寶字六 大形うせて残所まれ 後 一具人 世 1= の筆跡 の人追加 年號天平寳字より。 世 可知 征伐 頃近江眞人といへる。天 12 0) なら 同 め 時。 せしか。又其頃見 五 なり。 んか。 年。 此 年。 な 城 1, Ŧi. 石 書な 朝 其 1 畿。七 り、風 三十 遠 兵 碗 猫 風 b 近 を造 は カン +: 30 旅 四 ナこ 道 土 記 7

府土萬葉卷四

宮城郡

角懸俊鄉

なし この て坪 五十 多賀城 あ わ 川邊より。奏社 à あ て、四 3 たり、然 b は らとも ふを考 るを以 け 六 V な 國 南 碑 方 形 3 間 る。人皇十二代景行天皇の御宇。 1= 1-30 。市川 る。ゑひすともをうちころ れは甚 1= なり。今は 下 T 門 地 あ n 地 中に 考れは、 h 形 は 5) 碑とて。大門の 手 村 近國 給 T あ 遗遗 多賀 ナジ のみやの邊まで。數十丁の間 南 也 平 あり。これにて考れは、その Z り、升形とて奏社の宮 きむ 大なることに見 り。四四 此 百 時 0) 城 地はすくなし。東人と申せしひと。 引あわす。いしふみは市川橋 姓 所 代 武 をは כל 百 0) 113 士とも これよ 家居 間 JII 今の如 は 何 脇にたてた 計。本城 橋 カコ 此國 あ 0) 6 棚 が故に。 りっか 東なり、高 先國 1= く城下の へたりつ 々蝦 入 0) 此 命に て居 都 所 カコ 0) ると。 夷國 まで 日 所 L とて。五 西に 鹽釜 L ける 山 本武と申 1-屋敷なとい 0 古。古 にし 建け 城 風土記に 72 にて 8 城 あ カコ 0) ع U) 海 30 あ + て。時 のす 大な 道市 は U 3 さか 見 後 72 間 2 3 な せ 30 T

とも一言

或說多賀

は

この

地

0)

名な

50

多質

1=

あ

3

城

な

言

東人

の父

は

多賀

應

とり

H

n

は。

父

0)

名

多

用

U

12.

3

或説に。

多賀

は

高

0)

訓

IE

地

高

3

所

な

n

12

5

2

کی

叉

字、國 人を下し給ふ時。此 其内に居たまふっさ 府とてした 智 十四代。元 さして地 十か一にもあらす。然るに人皇十三代 し人。此國 あ 1 て。命にしたか 都より國主下り及ひけれとも。 お下り 2 せ 給 さりけれ めて守り ふっこれ 司とい 給 をさためて居たまふことには見へす。 E に下りすこしは。したか かっ ひて。人をし 天 にても夷ともこわくして。 ふて國 せしと。日 わ は 皇 ふ者は近き邊はかりなりけ ぬものを、 0) 四十五代、聖武天皇の神 御字、 て、城とい 所に始て棚とて、木 A へ。守り 本紀 72 按察使 カコ うちしたか に見へた U ふはそのむか 頭を下し及ひし時 給 といふ なを人の心こわ ふといる。 ひ給 り云 を廻 そり ふとい 成務天皇の U 都 16 る 此 る。人皇 しいい りにして。 0) 0) 0) 圆 され へとも。 顷 役 貢 1-如此 とも ねを 目の くし 此 鎮 6 1 守 四 0 72 國 御

て。其書を作

40

天

平

0)

始

に書な

b

て奏聞

1=

お

よ

Ch

守として宮をたて。或は多賀神社を祭

30

此

石

2

3

多賀國府。利府森村にて。利府の町北なりとも。又岩れは。多賀城といふなりといへり。

多賀國 圆 切 府 村 府 利 府 或 府 U) 說 に岩切 森村にて。利 城 とい Z 村 とも は高 府 あ の町 森城 b とて。これ 延寶年中。古館 多賀 叉岩 0 0)

は 36 3 お 所なり。 らさ も、岩 りけるといふ。あとの代りになりて。 かし 切 対とか 13. 遠勍 きたり。府とい の者ある時計、進發し ふは將 鎮守 て常に 軍 0) 將 居

山 賀 軍 城 0) して よ 居 h 城 移 遠 を設 3 す 郡 所 け より に て。常に此 て。此 8 見 所 は本 國 たり。 1= 0) 居 松 b 大さ間數 2 tt 43 3 2 3 所 い がは古城 なり。 30 則 0 高 多

或説に。多賀國府は。今市の北岩切山の古館なり。東高

所にて見へし云

森とい 0) 坪 四 市 ふ。市川の 川村多賀城と同し所なり。愚按するに。 のこと、風 天 皇。 多賀城をこうに移すといふ。 和 土記 同 五 に見へたり、風 年。 五畿。七道 土記は、人皇 0) 諸 或 に勅 つほ

此國のさし引をなしけるは。

道遠くし

て便

あ

けれ

は。此所に柵をか

まひ。惣社の宮とて。八百萬

0)

神

聖

鎮

使をお は。旅 當國 武 b 0 前 L なりといへり。近江國犬上郡に。多賀城とい るして。あとの 平 いしふみのことをのせたり。 5 D 中。風 尊東 給 。其書大形はうせて、殘る所まれなり。其風土記に。 こり な ふみは。天平實字六年。朝 ふっさてい に下し らいい ふ將軍。此城へ兵を引す國。 人のた 0) かれ。神 征し 土 夷とも多か 記 カコ 給ふ時、 給ひて。夷ともし めは L なる を作 龜元年 ふみの 將軍のために。其遠近をし りけ かりにもあらす。 ことに 。多賀 h には。大野東人を鎮守となして。 事。十三代景行天皇の る ける P は。天 城を築く。 i 蒋 に。元正天皇の たか n か建 平寳字よ さて市川村のつほ ימ 又蝦夷の界なとをし ひけ たし。 つとあり。 此城 あとより n り、三十 の門前 3 るした T 御字。 御 ふありて。 征 然れ v 宇 伐 四 按 石 ま 日 h は 1. Fi. 2 2 天 本 來 年 V 3

將ひ 事。此 くて。軍兵他國より來るも。城に入て居る。西と書たる も記すことく。むかしは今世のことく。城下なとはな 此 なり。夫つほ 城 めの 萬代の御柱と。建てまつりけるといふなり。 石西 筆なりといふこと誤なり。 に向たれはいふと、 0) いしふみのこと。里人の物話りあ 方角をしらすへきため 風 土記 U) 說 り。中 右に 0)

カコ 坪のいしふみといふも。此所はかりにもあらす。その 人あれは。うつくしきいしへ。草の葉にて色とり。おも ことにはあらす。又むかしかたりに。いひおきけるは。 み北のゑひすとも。いまた文字をしらす。戀したふ

とく。見雲眞人といふ人の筆なりとあれは。

うな

かっ

2

ふ人のつほのうちへなけ入ける。うちより其名をと わ とお B なれ もふなれは。 は カコ まわす。なけい また別 のいしをうちょ れしもの。心さ

鹽草。木類に。にしき木は。奥のえひす男女よははんと れをつほのいしふみといふことなり。たとへは。藻 しのせつなるを見せんとて……。日々になけ入る。こ

門に立るを。あわんとおもふ男の 30 L りて立れは。誠に心さしありとてとりて逢ふとい となくとり入る。おそくいるれは。猶立て千束 ては。文をやることはなくて。一尺は り。又無名抄にいはく。 りて、その女の門に立れは、あわんと思ふ男なれは。ほ 時。消息をやりて薪をこりて。日 或は千束になりても。とりいれ 陸奥に男女をよは 立る木をは。ほ 郁 ぬは見えぬといへ 1= かっ b 0) 束その は 木を をか 2 とな 女の おも 50

しをなけ入れしはるか後のことなり。 0 いひよりて。したしくなりぬとかきたり。此兩説は。い カコ わ りに石造すことあ b. 今にゑそは文

くとりいれつれは。そのゝちは木をたてゝ。ひとへに

仙臺武鑑卷十二

佐

直

古城志 宮城 那

市川 リ。大野朝臣東人ノ居城。臺ノ碑ハ見雲真人コ 村多賀城。昔シ奥 州國司ノ舘ナリ。此 所 二流 ヲ書 碎 T

y 誤 著 ス 記 尺 せ ナ IJ n 東 副亦 其 = 其 沙手 1 圆 談 書 光 絕 國 朝 志 = 妙 史 鮮 日 = C 入一神。此 7 = 1 佐 出 此 人 云 ツ 碑 問 A = 碑 源 回 成 靺 六尺二寸。橫三尺 子 w 鞨 嚴 0 國 普 唐 人 3/ 脯 此 1 Œ 武 慎 図 ナ 1 船 1) 则 न् 1 I 州 云 1 厚 = ナ

元 龍

關

陸

奥

郡

鄉

宮 城 和5 多 賀 多今贺按 並川

鄉

名

宮城 部 宮 城 那 郡 圷 戶 碑 那 坪 碑 理 市 山 在 JII 1 鴻之池。 邑多 奥 = 坪 賀 為 城 碑 故 址 P り。 坪 鎮 守 或 土 府 作 門 -虚 埋 碑。 V ダ 或 風 12 云。 土 所 記 南 =

ナ 四 日 尺 × 運 ラ 7 郡 力 ラ = = 坪 27 3/ V テ 久 。剝 ナト w 文村 所 汉 1:1 Ťi. 7 IV ユ 1) 所 尺 一 寸 0 多 1 告不、截 坪邑石 力 3 リー 字 ホ トノ 體 幅 111 大字也 尺 Z 次五 7 亦 邑十 73 F 右 ス [] 本 又

仙 ろ 御 フ 領 陸 內 地 古 7 城 云 御

東

1

テ

1.

思

10

蝦

沙

1

島

1

才

オ

7

テ

千

島

1

毛

1

=

H

木

1

中

央

=

E

侍

IV

=

I

ソ

書

E

記

3/

ヲ

書

久

V

1

イ

3/

文

ŀ

イ

フ

1

云

~

り。

=

チ

ノ國

0

征

夷

ノト

丰

弓

1

>>

ス

=

テ

石

1

面

-

日

太

中

央

1

3

0

7

建

立

ス

顕

昭

法

橋

1

初

中

抄

云

陸

.例.

オ

力

=

"

亦

1

イ

3/

文

アリ。日

本

1

1

テ

1

1

y

0

相

田

村

將

軍

中

央

1

碑

T

IJ

3

今

11

Ш

中

-

坝

x

テ

石

文

阴

Tilli

加

0

一平多城 城 域 東 郡 113 111 Fi. 村 間

賀 西 + 。南 北 Ŧī. 問

此 城 は 奥 州 國 可 0) 館 خ 申 傳 候 此 所 壶 0) 石 文 \$ 御

領 沟 風 + 記

座

候

方 居 市 0) 城 碑 111 1 有 分 な 0 橋。 賀 n 此 کی 0) 碑 お 古跡 高 今 とと 六 は をたつ 尺。幅三尺四 0) 荒 宮八 所 0) ね H 幡 V 畑 宫 る。 とな 小。 白 山 多 西 h 0) カコ 间 V 祠 L 1: 5 はま 東 T 鎮 0 12 碗 守 方 b 10 將 は 其 班 軍 壶 0) 0)

M

1: 多賀 城 云々。十 二月一日と有。

古今 集

よ 弘 ち 0 ほの 0) 1 石 0 4 2 は T L 0 ふはえそしらぬ書つくして

是則 ま 陸 與 前 カコ せつ は 右 將 お 1 賴 19 朝 0) かしくそおもほゆる壺の碑そとのは 哥 なるよし、又西行法師のうたに。

仙 臺 領 名 所 舊 跡

多四 宮城 力技 郡 市 川に在。人皇四 十五代, 聖武天皇御宇。大 野

朝

臣東人を以て。鎮守將軍とし。

此

所に並

一礎所

17 畑

息 中 1= 在。大野東人は、景行天皇の孫。武擇別命子 大野

東國 别 彦十代。 節 度使 同 大野多賀鷹之子。聖武 二年。東海 東山 節度使、氣鎮守將軍。 天皇。 神龜 元年。

遊碑

亟

分式

次第日

。東平王是なり。

所に在。村老號,立石。 陸奧國宮城郡風土記曰、坪

> 碗 有:鴻 0 池 二人 K

宮城 記 日 多賀 城 は宮 城郡 中松山 心心 從.廣瀬川

Fi.

+ 九 丁三 間 號"宮 古跡

之國 國 分 尼寺 府 寺務職之時 定額 員 集風 士雜記 云太 無風 。恶类刺 -1: 記。行 獨

7.5

押 東 111 勝之第 節度 師 五 男也。孝謙天皇。天平寶字七年。為東 氣鎮守府府軍。 國分寺務德一法師 は朝 海

猶 弟 也

流 社 宮

同 所に在。當時奏社 宮と云、 往古 念 13 力设 U) 鎮 一 T 州

た 1-和多質 大社勸請す、依」之多賀城

又作"陀我"江州大上郡號,日少宫,所,祭伊弉諾 约。

多賀 一国府

同 よ b 郡 代 多門 城 を經 より て。仁 北 1= 明帝。 當 る。利 承和 府 十年 本 鄉 九 と言。 月。 陸 鎮守 與 图 别等 温 弧

下の 鎮守 府。是 如 人。市 置 店を飾 府始 -115 商買 續 日 する所なり、天 本 記 1= 在。府 とは 平 0) 學 切 日午 は。府 0) 城

なし碑の銘にも。鎮守將軍と有。 文治の頃高森留主

成しより。利府と改めたるとなり時代不り知 所として。左近將監家景住するより。伊澤家の府

市川邑橋

北

傍

碑

つほのいしふみまるり二丁四十間 掾 享保十四 年已酉五月穀旦和州南都古梅園松井和泉

越 後 屋 喜三郎 仙臺府下寂照軒頓宮仲左衛門

同邑坂 上路傍碑

仙臺府下 **飯照** 軒頓宮仲左衛門

著

功。天平三年。

為。陸與按察使。

爺鎮守將軍。授:動

つほのいし ふみ すくみちあり 三丁五十間

掾 享保十四年已酉五月穀旦和州南都古梅園松井和泉

仙臺金石志卷之一 終

動運食石志卷之二

仙臺金石志卷之一

名蹟一之下

仙臺 吉田 友 好 編纂

敬碑下。

造簪錄 卷四

長

胤

電神高六尺五寸。橫二尺六寸。神背賴,馬殼。 伊 族

此 野東人。組職大夫直廣肆果安之子,神龜三年。從 古墟。有"摹本一行"于世。子亦打一本楷為"一幅。按、大 碑。在「與州宮城縣市川村北岡。上世有」多賀城。此 征火 共

從三位。十四 四 下。五年為"仁部卿。陸與。出別接察使如」故。六年十 平實字四年。為陸與國按察使。氣鎮守將軍。授、從四位 等。授,從四位下。後累,官參議大養德守征 年薨。藤原朝蕩者。 大師 惠美押滕之子。天 西斯軍。至

乘。此碑成"于天平寶字二年。故東人署衙皆從"後所

談

月。為東海

。東山節度使。

十二月為。參議。履歷皆詳一于

程計之。爲三十一里二十五 之。 授也。 最 為認 胍 旧召 傳。 E 或 號 云。 砰 此 者 田 碑 村 所 將 在 町 軍 今 餘。 東 距下 碑 征 中二百字。或 之 野 日 州界 以 弓 以,今里 强 三百 畵

輶 軒 小 銀

壶

碑

伊 藤 長 胤

代二 寸五 奥州 中 ナ 重 ラ 毛 彷 y 世 夷 菲 V 分。ヨコ二尺六寸。奥州宮 英 彿 = = = 壶 故 沒 テ。金 7 自 サニ尺一寸。ソ 城 事 因 ウ 1 シ ネ 岩石 テ。 碑 ツ 1 石 ナ = 3 鼓 石 1 人 y 3/ 傳 = 空テ 々記 城地 テ。 7 フ。 テ。 文。哔 > 7 億 ソ 本 古今ノ ナ IV ナ スル 朝 山 1 シ 丰 背 カ) = 城 1 テ 碑 = 馬 7 r 告 界 碑 郡 髭 F 周 E 賴 物 市 P ナ 碣 朝 次 111 如 リ。ソ 11 y 鼎 = 公 ワ ッ % 村 3 河 名 " テ 北 和 = 久 及 1 力 沈 岡 フ 竪 歌 力 ŀ = 力 iv 1110 三尺 其 サ 7 + = 有。 + Fi. 詠 文字 秦 3 I 上 尺 1) 1 せ

1

フ

>

舊

せ

+

ナ

13

其

時

1

シ

w

位 字 位 IJ 察鎮守從 示 ケ 引 儒 云 1 = せ ろ ナ w 。孝 書 四 ラ 文ニ非 = ラ 7 シ ツ 臣 1 ヲ フ IJ 彩 イタ 年 サ 久 夕 w E = = 1 物 謙 被官 雏 ,。天 壶 ツ = w 考 カ ツ イ 3 職 w 陸 四 1 = フ ス テ ツ P テ 氰 ヲ 45 太夫 何 十 位 碑 是 依 テ ラ テ IJ 累 碑 臣 = 奥 1 今 テ。相 戰 12 前 1 7 四 年 大 直 = テ 1 P 13 五五 官ヲ 功ヲ 書 年 背 國 怎 野 念 = 廣 云 時 1 IV 1 年 按 惠 蓮 護 陸 -肆 -27 世 愈 具 = 書 r が近 1 0 察 美 大養 果 カ T 與L £ 主 = 1 1 ス ラ 2 仁 フ 核 安 1) 3 + 便 1 = 1-7 3 カ ハ 1 謬 朝 h 玉 德 玉 打 祭 カ 1 1) 云 2 部 シ 碎 シ 傳 フ。 臣 4 子 儒 111 本。寫 ナ 便 フ 人 ラ 卿 田 ナ 押 7 1 リ 征 F = 官 ス = 村 1 從 り。 水 勝 夕 西 ナ シ 云 雏 7 ナ 1 將 本 鎮 174 り。 近 り。 ツ 别等 テ 如 迹 ツ 碑 r 等 w 軍 守 位 世 子 闸 n 軍 何。 ナ 前市 カ 東 w 多 1 將 藤 鎖 到 陸 P ナ 1 >1 1) Ti 派 人云。 征 シ 軍 守 大 原 四 7 與 1) 丰 ナ 1 3 僧 元 = 野 1 等 朝 將 1 7 り。 0 風 テ 年 年。征 H 民 兼 東 天 猫 軍 頭 7 = 水 + 二、按 部 從 平 跡 從 寫 7 サ 人 r 1 昭 記 戶 四 弯 云 卿 政 表 力 ツ 3 7 1 サ > 1

碗 ナ F IJ ナ 2 w 。ツ w 年 1 歷 官 月。 1 次 東 相 Ui 違 續 節 日 度 本 使 云云。 紀 F = ナ ツ IJ 7 E ラ 月 力 = ナ 參議 IJ 0

同 文通 八分飛白。

=

ス

=

U

1

ナ

3

新 井 白 石

近キ 比 ホ 20 7 陸 + 奥 V 1 フ 國 宮城 4 V 郡 7 1 0 土 北 體 中 1 3 叉 1) 出 サ タ 及 y 力 3/ ナ 碑 ラ

タ文チ萬 云ナリ。 ルナリー 神の天平 平中 賓字六年ニ。藤田 原惠美朝紫 么点" コレ ダ テ 壶 ノ碑 所 = n ショメシ

膽寫 白 石 手 翰 卷 0

管工 原藤 季鞏

字の 北山 すう 灵 3 滥 \$2 碑 32 TE 候 2 带 から 候 訛 U 號 0) 候。 事 を。又称 0) \$ 3 碑 事。 は 條 A 遠 57 ち F 2 カコ 7 かっ 政 あ 3 \$1 此 U 殿御 5 よ 82 攝 候 2 證 國 h 政 造 うつさせ。 2 被 72 殿 < 碑 所 3 5 候。 800 わ 候 3 2 石 石 たと 前 候。 かっ 本にし 老 太 本 0 拙 守 字 ٤ 窜 勢 は へむ よ 0 1= 候は h 字 田 0) 候 5 カコ 邊 死 0) カコ ば。 し下さ 活 殿 2 活 0 本に 5 3 8 死 進 笑 文

續 3 眞 此 雲眞 入 誤寫 見 8 神 1 候 n = は。たし n と申 候。今 天 人と も。續 候 船 L は姓 人いかなる人と御心 T 候 候 H 見 45 E 3 本 人のよし。い \$ 0 1-御うつし 申 3 古 紀 事 0 は。ミ 0) あ 8 かならす。眞人と申 8 日 一候。む 中 第 1-顷 n す る は 0 世 本 候。む \$ 見 よ は 0) 1-天 7 紀 1= 豐 皆々 有 L へて。 被下 5 傳 カラ F Æ 1= 孙 3 之候 カコ 当。 第 60 排 か しは文字 h かっ 國 皇 = L 30 候 1= 候 渟 候 近 7 子 候 見 敷 は。 8 0) よ 3 は 舊事。古 A --得被 雲真 0 船 3 紫 能 風 申 3 0) 1 别 聞 國 点 は。手 士 書 す 可。 すは。天 聲 姓 え候 も生る 人 1= 成 山 文章 を 記 かい 0) 0) 事。日 忝 T 3 候やらん。 0) 0) かっ 轉 頃 人ことことく。 候 候 御 申 人無之候。 残 碗 は 9 よ 國 と心 相通 武 船沿 4 名高 編 3 5 本 は < 野 点 は (1) すし 紀 1-かっ T 得 候 2 御 是 L 無 て。見 相 る ま 候 \$ 非 用 こなたに 時 之候。 碑 考候 地显出去 > 流 U に 8 57 1-0) 候 定 字 3 妙 御 傳 L 流 3 事 分 [列] 氏 ית 眞. 記 7 野 軺 0) 0) る 見 彦 多 錄 n 申 3 人 考 3 天 政 T 3 市市 1

なった とか 72 L < 8 なき人のことくになり候事。 1-と合候。名高 人三船 ゝ多賀城の にて、如此 心 る事 のに候は 候 て通用よのつねに候。見雲眞人は。 几案間 かれ のとま 7 道の 0) 候と。筆 事を、傳寫の それ り候 ほ ものやけ候ものか。さはなきものか。 の珍奇たるへく候。但しこれらの類は。 ゝ。珍重たるへく候。埋木灰の事承及候事。 き善害は ともの 0) に思し 楷書にわさと雲と作り候故に。日本に はつ 跡 より 煩しく成次第の 枝 勿論 あやまりにて。 め W なりとも。 し寄も候やらん。時代 に候。死 かしきもの これらの老拙考置 0) Z 事勿論 事 舟と申字をでな 疑もなき淡 るきも なく候歟。 0) 條下に。い に候。た 0 13 焼ぬ ひし 候 海 ろ 72 事 点 重 かっ

十一月十三日

同卷二。

しなふへき事に候。いつか真なるものを見候て。望をにも - (~。其心得なく候人のうつし候はん。精彩をう藍碑の事。委細被"仰下。これ又望外の大幸に候。いか

とも。優孟 3 慰し候は ある へく候御事に候。 んと企望此事に候。家 か孫叔敖の典刑と存すへく候。又これ たとひ الا 本班の 砰 の事。これ III 目 にあ も頼 5 又さ す

入候ほか無之候。

正月二日

所訓 h 去冬は。北畠殿 可即思 存 候程に申盡さす候 儀 候 事 の御うつし。 1= てつ これ 50 今は 珍を得候 造 碑 I ALL THE 候 御 不 惠賜 红红

P 碑こなたにて。細工いかっと存し候て京へのほ 出し候。御禮申つくしかたく候。さきたちて被 山 かっ か > け T 師碑さてし、めつらしく系。 候 出 t 來 候 5 外 ける h 8 と相 あ るまし 待候。 きは遺憾に 72 > / 當時 又々一つの珍を添 0) 下 绿 せ 候 候。 並

卷三

| 安積手迹いかゝ候歟。條下に羞碑の事御中越候。當檀

卷四。

か く。競 事る 字 1= 來 を摘 其 総よ 햕 名 和写 竹水門玉 H 0) 8 0) 多如 國府 好 加山 8 文字 存 間 本 語 舊 後には 多く 字 7 紀 有 候。こなたもそこへ 候 多是 1= П 0) てし 圆 1/1 产 かっ よ は陸奥の 陸 L 0) 本紀に ~ 1 採 々浦 候 是 (1) 作 事 3 與 消等。御答 多红 るし 者 て城 候 1= 3 用 地 候 12 はい て。王 中 12 名二字を用ひ やうは 泥 N ての多質 城 大 6.5 を取 要地に候放に。 候。これまた史法とも 力 み ろ 國府 野東 竹としるされ候を。續日本紀に W. 1= 候 3 くらも候。 0) とら T なく T 立 3 (國府な) とも 人の築 條下に。 3 候。 は。日 、打入 5 夏儿 同 候。 徒。 n \$2 申 马声 これ たるにて 候 72 5 本武 1-とは見へす候。 候へとも、 しよし。 72 今の 多賀城 は るに 古人は入用の 候 35 くし口に 50 蝦夷侵地 n 候 の時 地 地 放に。 て候。 專 理に 放實 0 候。 碑 可,申 0) に 15 近 和名 垂 もそり て。 據 遠 3 1= て稱し 竹と 候 v 多賀すなは 8 候。上 これ お h 0) 所 抄に 际 仰 其 0 如此 事 る 候 n 多 後 8 如 0) は 候 は T 賀 世 0) 古 宮 大 其 1 カコ こと は。 8 はつ は 文 野 所 已 b 上 今 城 1= 2

> 候。御 候と、 時に 孔子 候 0) 1= 頃迄 見え候。 鏃三つさ は 8 地 O) 右 方 軍 及 か、急雷 は 道程も見え候 某所藏 6 も。本邦よ O) になきも かち得候 心得 隆に す。東 御 候 。太古 を、俗 医量 てく 候 て地 雨の + 及 똈. T 0) 0 は 0) てっか 時 L に神 1) 113 肝芋 理とくと心得 內。 め 1= n 0) るし 陸 に、彼 候 靺鞨は つらしく。 L 0) 軍 义 往 貴樣 を以 もの とは 置 死 軍 は くき出 國 (1) 82 便 越 0) より と存 こしつ 古油 候 通 用 F 彼 8 され 堀埋 路 使 傳 0) と見え候。 被下 彌以 0) の條 L 72 地 恒 て。大疑を晴 2 候 72 俠 800 る 1-0) て勝 8 候は L 下に強 地 盤 智 1= 又 力 は にて候。 -據 惧 犯 1-彩 とし 圆 100 候 1 0) 史に 砰 塚 あ 珍 初 候 洪矢 らし h に転場 は 1= 候 TI なとに To 軍 天 は 5 も 72 は (1) 有之 候 石 度 4 物 西 降 る いり 有 2 2 0) 巡 石 17 h

北海道隨筆。

新井白石

往 古 陸 則 0) 蝦 沙言 と聞ゆ る は。津 輕。南 部 邊 は 不 反愛 蝦夷

の遺種 爽 1-は。松前 て有 製生して今の け なり。僕三 3 0) を。多質 蝦 北 馬 1= 屋 あ 國となれ 城 らす。 1-1-有け 鎮 유 いにしへみちの りっされ 府 る時。此 出 來て。 事を尋るに。松前 は 津 次第 輕。南 (0) 1-TELS FELS 風 蝦 俗 0) 沙 蝦 旅

事千 六丁 賀城 の蝦夷 0 にしへ て。三十六町 8 を引家 蝦 。靺鞨國 遠 し。里數 五 夫 並 ふ事なし。又 0) 里の の碑 關 百 とは。別 系を見たさる 里。常 関界に 所。有け 30 里數を以相考れは。此一の關はいにしへ に。蝦夷國界をさる事。百 を以 又あ 去 種 3 陸 て。開 る所 事 國 なる事をた 一里とはせすっされ 八仙臺 50 界をさ 三千里とあ > なる 所ありけるなるへし。 領 80) 今に此邊は六町 1= る事 M しと思ひ うしく云り。 0 ~ 0 五百 る 關 13 50 百代の 里。 は 7! 二十里とあるは め 古の ~ を以 是又里數 ラ 1 る 蝦夷 後 フ 3 蝦夷 所 京をさ とい 7 せは。 有。是 里とし は 0) 地。今 あ 血 事 ^ 3 多 4 系統 15 5

> 初 多 不絕 見 となら 君 やうにな に。後 h 事。は 來后 b 稷 V カコ 6 0) 3 事 弘 カっ 近 72 20 し云 なすもの 世 0) な。 事 なる 有之。 蝦 L 是他 يارو 地 以 3 與 彼

爺碑。

年

山

紀

聞

卷

安

族

爲

明

勅 厭 傳 九 號。六年は廢帝 按するに、大野 0) 四 りとる、 して。 月十八 碑 年 に見えたり。 商界,高麗 十一 もその 又按。續日 國 日。誅 月卒 0) 類と見 行 北隣 朝 東人は。組職太夫果安の子なり。天平 則 在 せ 程を碑にし 位 3 猶 本紀天平勝實六年の下 京 えた 室章とあ 0) n は。惠美押 師 四 72 り。 東 り。天平 年 北六千餘 なり るさしむとい り。すなは 勝 靺 寶字 か三男なり。實字八年 蒂易 里。東 は 函 は 孝 ち浦 至 に。太宰 ふ事あり。壺 舊 訓 海 恒 FIF 天 1/4 F 0) 書 接 府 地 0) 北 突 年 + 狄 な

和漢三才圖會卷六十五。

は盛

岡。弘前

のことく。大國の

府城となり。山

間迄

開

AL.

往

來

して五穀富饒に。海邊は潮を燒魚獵をして。船

島良安。

寺

電石碑。在1多質

下平實字六年。藤原惠美朝臣所立。高六尺。幅三尺。 中尺半。昔此康。有、城。名"多賀城"大野東人築、之。後惠美朝臣慕 本中央。蓋蝦夷島。以"日本屬國"

書言字考卷一。

横島 昭武

靈碑。 天平寰字六年十二月。鎮東將軍惠美朝臣轉攜。於"奧州宮

博物筌。

蘭齋山崎右門。

常陸 六尺 赤 碑 Fi. 下 步 F 。。橫三 州宫 靺鞨國 尺 城 四 郡 7 寸、 113 テ 111 1 右碑 村。 道 法。 多 文 智 > ナ 城 多如 ラ 1 E 3/ 城 = T 3 响 别 IJ 龜 -京 元 7 年 蝦 IJ 夷。 0 鎮 竪

平 3 寶 ラ 字 V 八八 3 年 由 7 東 書。書 游 熟意 デ ili ホ 節 1) ツ 度 使 15 久 藤 12 原 E 1 1 惠美 ナ IJ 朝 0 時 獦 = 1 天 修 造 平

守將

軍

大

里产

可朝臣

東

1

3

×

テ

多型

拔

7

築

+

其

後

天

0

好古小錄乾。

寶字

年

+

月

朔

H

7

7

ŋ

無佛齋藤貞幹、

陸奧國多賀城碑。碑石高六尺餘

方人ナか 臣東 此 1 於靺 膜 碑 12 加 二報 11: か、國。一。 ナ 年宫 下也。此碑從四 ラ 今觀 知 城 一人カラ 献 那 त्ता 四位上ニ作ル 111 スレ 渡續 村 島日 地 津本 輕紀 + 從 神芸 - 24 中 四 [1] 位 養老 位 3 從 1) 七 E 位年 掘 動 101 出 四 清正 文 等 沿月 0 戰鬥 大 名 50 191 賀 野 李 等当 朝 城

へ奇シト云 迷塗。 ステ。宮城 へ碑 篇 按 シフ サ ラ · 4" シモ 云 7 = IV 。疑 記 者。記 ,強碎考 1 陸 ク郡ニノ 。後人 . 例. 一、大簡大 域 惠美 学评 圆 3/ 北北 東 宮 1 テ = ナ 邦 朝 1 12 党 ラ 城 偽 載 記 27 之行 猫 通 ス 11 スヤ。此数 者 作 部 ス せ 正之。 フ。 坪 ナ N 1 力 0 所 チ 碑 訂 ラ ラ チ チ以テ 其 異 意 域 爲 任 1 7 40 見雲眞 陸 テ 三 俟 テ塗二迷ハサル 拉 3 通東 有一 でススで行程 " 鎮 與 作 Y 迷 47 鴻 政 人 其 門 之 風 清 文中解 陸 碑 池 -1-# 12 分就 = 腴 °迷 記 也。 其故 今 园 族人ア ハサラ 義鎭 1 陰。 風 ス 学清·李诗 通守 延 士 セ故 ラ) 鐵 =/ Anis 記 71 拙疑 門守 NA 殘 ラ 疑 碑府

紫芝園國字書。

太宰純。

日 本に も。古は 楷 字 13 かっ 9 1= て。 假 名 2 63 3 物 無 カコ b

の競 し放。共 時 0) 人の 手 てしられ 卧 は、中華 0) 人に おとらす候。奥州

源語 梯 卷中。

0

碑

なとを

見

五 井純 醎

字書 量 つは P 字ナ ノ字 y チ せ = り。今モ ナ 宫 んさ 力 中 IJ つつツ 之路 汉 n 證 7]5 ナ 1 徂徠 前 り。 7 碑 栽 V 勿論ナ ノナ E 體 っ古へ 1 梨ツ ハ音 ルへ ラン。 鎮守府 3/ 1 示 ~ = 桐 俗 壶 。梨壺 " ノ庭 二モ 25 示 晋 ナ 桐 = 庭ヲ鎧 7 F P 壶 ナ V 1) 27 類。 虚 ノウ 疆 。童 皆 1 1

和訓 栞 卷十 チト

イヘリ。コ

V

ヲ

נל

リ用タル古言ナルヘシ

谷]1] 士 清

臣東 つほ 鴻之池一云々と見へ 坪遠傳などの名有。風土記に。 つほ といる 人是を立て。天平寰字 0 いしふ は。此 み。陸 所 たり。新古今集 1 舆 國 人夫を量る坪ありて。 多賀 年 中 城 陸奥 修造 1-0 Till 國宮城郡。坪 1 龜 る所 元 年 10 0 沙陳 碑 大 碑 な 法御 平 有 30 朝

みちのくのいはてしのふはえそしらね書つくして

雲眞人も書名考ふ可らすといへとも。

其筆法の

古意

賴朝

卿

よ つほのいし文

字 碑 の戸に の子なり。朝 あれ あ 信 h 。字廳 夫 はさる事 蘇 は 武屋敷あり、八町四方 郡 滅 獦 は。大師 L の名蝦夷は近し。東人は糺職太夫果安 にこそといへ て蔵 惠美朝臣 からす、多質域の碑面 bo 0) 抑勝 地なり。そこに の子なり。南部八 に。西の 東 0)

觀爲百譚卷二。

細 井 知 惧。

72 和朝の字の古きもの 第十一日 本書 法中華 は。 稱 奥州 多賀 古 城の強の 碑 に越

揚。

亮 いへとも。其姓名も考ふ可らす。ことに字體 3 らす。文義年號も疑は 3 事 るは 所 曹 は なり。競 操 なし。風土 知 なとの 侧 碑 刻 體 より め に似 る 記に。見雲眞人清書 古 益 しければ。質としかたくこそ。見 12 碑 て。字様は唐賢 MI る は。 帖 0) 那 序。 須 叉碑字 0) を用 と有。其筆 國 道 ひ 考 0) 72 證 も住 砰 り。詳 迹諮 な 妙 記 5 な せ な 葛

んとい

ひ

H

n

は

與

夫

申やうさ

5

10

其石

0

前

は

御通

b

あ

7,

カコ

3

3

あ

32

は

72

T

石

とこそ中な

30

2

3

石

亭をひらか

す。旅

客

は

定めて

共前をや通り。

給ひ

つら

可、物尤至質とすへきものなり。

同卷五。

第九十八。 蔡忠惠公萬安喬銘

愼 見んとて。奥夫に問ひ も。士 萬安橋は。 か友羽州にをもむ 中 5 3 泉州に 詩 出 72 有。 12 き。話 くきた 13 洛陽橋とも云。 3 書記 るさに奥州を經 すの りけるに。 3 條下に 一六な。 さる名 To つほ 近 壶 き町 0) は 0) 聞 碑 知 秤

碑 碑 とて。是より十里 よろこひた に移し、碑亭をたてゝ風雨をふせき、族人問尋されは。 をと は 前 0) とも知人 國 まひ。 主 0) 御 はか なし。 茲は山陰にて人の 時 此 り。奥州の一里は 地 老人をもとめ 中 より尋 出 あまたの道の傍 見る事すく L て問 て。 H 國主大 32 は。其 なし 1=

カコ

くれなき迹ありと申

けれは。かしこに至りて。

壶

0)

云

な。

も及はすといる。さらは多賀の古城はと問へは。

夫は

とは p 3 0) うの事お る をといけ 事 申さいにて候。 もなり り。日も ほ かたくて。返去ぬ 0) カラ なり。 たて石の事ならは見せ中へ たふき又微官の といへ 30 身ない 田舎人は はっこ П きも 數 かっ

東江先生書話 E

きも

和漢碑を建し始りの話。

碑をたてし事。三代のころよりそ。 に。奥州の **壺碑は。世のしる所なれは。論するに** はしまりけ 及はす 3 條下

特為用意 完者有」之。而猶可」疑者五六字、託。之多賀近侧好 精考三本。彼此交互偏旁相補 多賀城碑余所,藏舊有"五本。又得"諸家藏本數種。 者。但佛足石臺記文摩滅、尤不.可. 知。 凡碑誌銘。 集古十種。 禁师 打取。以收入稍似、無、忧云。 碑銘 寺佛足石碑。 部 悉 一。大和 國獎師 及多質域 時或一 寺。 字合数本。 因以 碑。 佛 足石碑 放本 是其尤奇絕 校合。 事者。 其最 跋 而始

TE.

TU,

家者流涡仰非,一日 同 卷 七 僧 空 海 念 田 池草 突。 與 本具蹟版。右空海 一侧 石。多賀二碑。並爲二三絕 益田 池 碑。書

集古帖 您

云。

陸奥州

宮城 那 III JII 部。多賀城 碑 石。 北 濶三尺有奇。 條 验。

所,得一本見,遺。 多賀城墟。今在 爲,見雲眞人書。友人新山休文。 "仙臺對內。距"吾 今世所,多有。 南 即是近來土人所 部五 與州。以就 日 程。相 傳 覆刻。 共 此 地 碩

桑菲蒙 求総 518

展轉失,古意

不可不

木 下 公 定。

陸國界 賀城。去,京一千五 東 者。在一子奥 人 赤 四百 十二里。去下野國界二百 州宮城郡。石高六尺。幅三尺。其銘 百里。 去 蝦夷國界 七十 百廿里。去。常

云。多

鞨國界二千里。此城。

神龜

兀年歲次甲子。

按察使

兼鎮

四 F

去靺

守 府 軍 從 四 位 上勳四 等。大野 東 人之所 建 也

群書 覽和 1 部二

多賀

城

碑

帖

浪 華 尾崎 雅 荒

州宮 の文。曜 中 其 と成 因 碗 L 古 伊 舆 2 3 背馬鬣の 事 城 1-て。人々記 1-つたふ。本朝に きは。問 旅 州 -13 城 界 宫 を知 地 しくはなし。普賴朝公 て。古今の 郡 3 胤 城 0) Hi 舊蹟 5 ili 称 り。其界の竪三尺八寸五分。横二尺六寸。奥 (1) (1) 0) す。近世陸奥風 111 如 前 0) 憶 碑 開 村の 猫 なり し、 虾 河に沈 間 することな 後 小 0) T 1= 高さ六尺五寸。 111-錄 北 2 碑 名高 其 わ 間にあり。 L 1= 碣の み、素の 時 つか 日。 ふみ 0) き事 きは 0) 土記 L 3 に、其文字の彷彿をうつ 中 13 るし 75 和 鎮夷に沒し云 共 H h とい 歌 50 めて古きは。 模 上代に 持 1-なり。 淵さ三尺一 1-0 II: 7 ま 3 刻 砰 詠 h 金 B 数 自 多賀城とい 雏者 せ 石 8 0) 本 然 世 5 0) 出 あ 々。石载 石 奥 究 何 寸。 1= n bo てつ 州 校 1 L め To 其 = 12. 哥 に 虚 T 0

謬傳なり、或 田 前 雲具 世 一村將軍 E 時 國 人とい 折 主よ 東征 本等 b ふ人の筆蹟 は の日。 信官 多し。僧顯昭 云。此は表の文にあらす。碑の背 を遺して。 弓の頭を以てこれを書すと云 なりと。水 の説に。遺碑といふは。昔 寫さる 戸の ゝに依て。今は 儒官考あ 1= 30 書

戦功を 太夫 72 まふとい 直 盛し W. 果安か子にして。 b 四位 i かっ 動四等を授らる。天 10 〇大野東 神 Min = 人と云ふ 年 平 征 三年。陸 沙 は に從 彩 奥 T 職

徳守征西將軍となり。從三位に至る。十四年に薨し按察使となり。鎮守將軍を兼。後官を累て參議大養

相違 書す たまふ るは 有 と見 此 碗 碑 へたりっ 市市 を 1E 72 2 元 年に。 3 〇藤原 時 1= 按察使鎮守從四 あとより。書た 朝 猫と云 は。孝 るに 謙の 位 0) 依 官を 寵 て。 臣

大師 0) に仁部 按察使 東東 惠美朝臣押 山節 卿 となる。鎮守將軍を兼。從四位を授らる。五 となる。 渡使 腙 と成。十二月に参議となる。其歴官 の子なり。天平寶字四 今の 民 部卿 なり。六年十一 年に。 陸 月。 奥

> り。前 申つくし ことに。 ころと相違なし。頼 次第。續日 大僧 か E たきより。 慈圓の 本紀 1: ふみにては。お 朝卿 つまひら 申つか 0) 和 歌 カコ は なり。 し侍 新古 もふる 今集雜 りけ 碑 1-との 3 記 か 下 II. 1= る \$ h あ 2

右大將賴朝。

てよつほのいしふみ

日本史列傳第一百六十九。 源光 圀 卿。

大

外國

+

雜居 爲 蝦夷東北 禰巡 察東方國土風俗。其俗文身推髻 夏出居、樔。 在一多質城 劫 于越陸 流 局局 彭色 西。 捷 也 無五穀蠶桑。射鳥獸 奥等邊地。 如,飛。無,君 碑。 。石 紀日。本 其人勇悍 洪 地 景行 去 長 一俗 强 天皇二十五年。使此 陸 暴能射。 皆 與宮城 文身 為食 椎 上地 积 常藏 珍 本.共 治 冬為 "矢髻中 沃 百 33 資源 穴 皮。初 -11-內宿 暖 里。 居 好

字 將 是 軍 年 大 。鎮 野 沙色 東 子 النآ 人 將 后 红 取 。族 晋 馬 原 [陸 與 云 朝 府。 多門 猫 云。 代類 格聚 。三 更 里 棚。 樂 武天 多質 下 碑壶。石 11: 孝 城 THE 訊 16 碑南 天 フロ °石 皇 年。 天 嵯 峨 平 鎮 暂 守 天

皇

弘

年

陸

舆

圆

鑓

守

略

蝦 道 邊 テ 33 1 坪 0 0 道 夷 國 1 = 1 1 27 千三 夷 圆 テ 法 刻 碑 通 間町 奥 道 界 州 是 部 × 羽 = 界 六六 百 テ 1) = 仙 尺十 テ 五 E F 廿 遠 臺 只 ナ間 空坪 方 化 里 云 沂 7 封 城ノ 决 一。一个道 1 郡碑 = 1 1 + 域 略 >> 六 行 松松 Ill. 化 差 前外 里 1 111 0 說 町 程 眞 砚 T せ 道. 前 ナ 村古 1 7 ---7 サ IV り。 H 1 中 ハ。其城跡ノ多賀城ノ 蝦 記 以 記 1) 3 11 熊 也 夷 テ 3/ 3 然 3/ 1 里 石 是 0 テ 7 林 久 > V 也 = 心 占 也門 0 产 子 w 也 里 1 テ 去 得 平 古碑 1 此 即 0 F 平 碑也 蝦 テ 百 友 然 多 1 3/ %今/ チ 管 外外 詩 廿 夷 直 如 四四 n 4 タ 字 在ス。 里 圆 沈 國 故 7 城 N 界 界 27 古 跡 桃 = I 頃 乃 也 京家 此 = 1 3 片 F 迄。 等 宁 百 1) 初 扨 チ ナ 時 小 今 代 11 與 = 1 今 V

Ξ + 限 匮 七 服 里 天 日 田 7 1 1) 白 丰 7 北 百 11-從 今 弱 記 平 本 + 村 餘 テ 1) 定 P 油 0 里。今道 風 餘 道 麻 年 雪 # 7 山山 3/ ツ せ × 顷 7 鎭 学 里 能 呂 士 1. テ 73 年 ラ 2/ 石 越 府 今 後。 定 。今道 石 百 1 7 V × 大 碑 3 ~ テ 7 限 町。 公言 ナ 1 久 テ 四 7 七 蝦 征 7 柯 宫 云 1) IJ + ラ 1) テ 城 海 伐 近 桃 司言 -城 。是 惠美 後 里 V 1 フ PH 丰 百 里 圆 帝 生 3/ 3 郡 多多 夕 ス 中 1 1 此 花 1) テ 那 TI ~ 北 ---朝 IJ n 前 + 賀 阁 育 延 故 終 7 1 刨 方 。是古 造 猫 也 邊 里 曆 = 城 帘 入 7 ----T 商 營 チ 建 E 3-多 災 中 蝦是 也 日 趾 3 3 今 部 3 河 テ 嘉吉 かり 蝦 是是 本 1) 征 = 1 3 テ 1 去 國以 終 n 0 蝦 城 司言 1) 1 今 松 大 南 界考 蝦 桃 征 ---犯 能 13 地 3 間 蝦 ノレ 前 7 地 沙豆 11-東 八劃 年 IJ 石 界 11-蝦 1 世 YE H 沙 11:15 將 。天平實字 7 1 刀 0 0 界 7 也 3 3 本 國 沙 華麗 ナ 押 此 得 武 小 重 0 1 テ 也 1 界 邊 北 道 坂 0 松 田 又 1 3 無 外 界 地 JE: 八 E 太 北 小 前 1-7 70 7 I 1) 73 1 道 郎 蛝 後 H 大 Á ラ テ 小 3 頃 + 2 濱 3/ 北 道 宿 小 夷 DU 1) 源 # 初 V 九川 也 テ 迄。 干 從 + 北 里 四 信 쪠 四 タ 1 百 地 倍

今坪 恶 1)餘 國界 7 此 JIX 称 1 遠近 A 3 如 部 多 7 者。 3/ 與 = 仍 其 1 差 テ 文 地 奎 P 次 w 因 第 心。 テ テ = 以 蝦 開 テ 夷 万 人其義 今 圆 3 1 故 界 蝦 ナ = 7 夷 古 = 不 远 近 知 1 3/ 今 7 此 1 0 言 蝦 古 故 テ 沙言 0

大日本史列傳第一百七十。 源光 圀 卿。

國

+

蝦

夷

國

=

非

n

I

F

7

辨

ス

云

力。

倾 年、比 雅 呼其 移 相沿 城 浦 獲 就 西 恒 至 神術 語 討 潮 继 處 佐 或 JL 石 夫 11 波 + 浦 謂 其 率 浦 通 島 川 九 恒 之蘇 地 御 島 飲 船 而 恒 大 名 1 師 限。齊 mi 水 鞝。 部 抵 部 以 中 歸。 颠. 献 临 寫鬼 去 百 毒 阴 蝦 陸 書正 生 淹 1 天 一史 死 熊 是 魅。畏 GIII 原. -1-訊及 皇 者 艘 宫 丽 近 ULI 殆 震皮 不 拨。 城 华。 年。 不 討 去。 郡 年 敢 欽 治。 蝦 七 志 其 III 近 春 阴 可言 + 倍 三千 國 骨 夏 天 枚 因 臣 降 守 積 捕 皇 **皆本** 日本 統 里。 之。 [iii] 於 魚 五 行 部 名正 嚴 爲 年。 在 淮 抄 引 正此 岫 食 掠 文下 浦 多 H 俗 幸 其 肅 五. 比 智 愼

之 比凝次°引 歌 蝦 其 老 脯 船 復 肅 為 呼 命 視 死 四 愼 順 積 F 地 至 夷 日 戰 旗 引 更 發 數 徐 年 志 具 清清 兵 於態 彩 111 THE COUNTY 1110 TU 渤 敗 回 盪 指 慎 良 脫 帛 削 遣 彩 取 = 守 游 船 言之。有 掉 胳 單 兵 III 無 渡 叡 -111-所 鍼 海 辨 單 mi 倍 衫 身 死。 草 filli 島 兆。 島 於 濱 計 衫 臣 著 等 津 海 TI 島之別本 虜 [ii] 著之 爲 91 则别 設 有二 11 輕 11 紀日 倍 消言 獲 貝龙 艘 津 餘 衣 錦 餌 13 IIII 島註 艘 四 所 一門 从 司 老前 11 7 各提 晚二 (1) 袍 之。 + 陛 誘 即 殺。官軍 袴 有 與蝦 渡 君 七 倾 晚 蝦 它 有 浦 緋 人。問 鞍 人 而 是一 Ī 假 清 补门 男於 和 去。 引 nij 愼 かご 回 征 端 悉擒 安 於 上 M 斧。 追 靺 舟 不 舟品 诗 死 四 唐 作 呼 恒 式文 史正 의 설 師 船 贝龙 至 臣 之不 MI 船 恒 新允 元 來。 舰 張 不 心渡 積 任 IF 天 rin 败 少。 省 L'a II.di 17 彩 及 羽 天 水 去 13 [11] 於 於 伏 風 11 帛 軍 逐 则 俄 部 年 木 處。 土。 處。 是 洪 臣 北 illi 則

好古日錄末

左京藤原貞幹

百十三靺鞨。

五 代 史。 附七 錄十 第四 三四 E 湖 游 15. 说 献 华尚 高 麗 之 别 和 也

渤此 為語 中 ハニ、靺機 國。其 鞨レ がいいが、 國 東 至 又 日 海 南 黑 界 水 高 献 No. 华易 本 西 號 接 勿 突 0 厭 當: 北 鄰 後 室 狐 罪 防

盖 北 浦 倾 尤勁 氏之地 悍 無 心 文字之記。 其 衆 分 寫 其 製 兵 + 角弓 那。 村行 I 矢。多賀 照 水 靺 功战 砰

靺鞨 國 考證 = ン ナ フ

3/

秘 苑 日 港 卷

期

附女真

之 卿

按。 女具 古肅 啊。 道。 愼之 姓 。學氏 地。 後 五 漢 代 日 压车 挹 始 集。 稱 女真。 元 魏 日 後 勿 避 古。 遼 興宗 隋 唐

譚

改

臣

心

於

遼。

至

[II]

骨

打

一逐滅

遊

成

號

金。

靺鞨 城 按 碑。 日 固 本書紀。 省师·無按察使。鎮守將軍·藤原惠美朝臣朝天平實字六年。參議東海·東山箭度使。從四 界 海 邓 里 明天 三千里當"今五百里。 、皇時。 使阿 倍 臣再 唐書 猶於上 企 靺 建部 浦 华图 似。 傳 日 E 多 去 部 型

原

東

南

日。日

本

道

也

。遼

史

百官史。

亦

有

日

本

國

王

府。

則

女真

之地

。使

相

通

口

"以見」已云々。

华易 最 所 愿 陸 與

諸 職 灾 原 金 紫 東 K 111

簡國

與

大。

出

习习

上。

出 羽 按察 道 使 府。 陸

够察 使。 唐相 名都護。

近 納 以 七七位上 上兼

鎮 守 記 府 司記 見"武官下。 唐相 名都游

將 軍 副 將 軍 軍 監 軍

皇。 老 陸 兀 1E 與 和 者 陸 年。 同 與 E mi [L] 1 古以 國 年 按察使 內。又置 九 來 月。 寫 分 分 邊 鎮守 His Int. 置 要。 出 府 然 寫 33 गर 府 其 岐 应 國 訓 相 坑 並 兀 廣。 打 IE. 乖 天 國 武 元 天 事。云 刚

LI.

卷

天

外 武 官

N

鎮 守 府

將 軍 唐相 為"鎮東北 將位

來 尤 I 寄。 非.武 略 之器 者。 不 道。其 任。 仍 代

五八八

を稱。將軍,者。鎮守府將軍也。中古以來為。陸與守,

才。 將 恐。于地廣 名 氣。鎮 者 須 illi 用 府 在邊要也。 不可 一藩鎮之器 ---然 故也。 以。信夫郡 事歟。守者宜、擇 叉昔並.置府 以南租 吏 税。 國。 幹之 充 依

國府之公廨。以《刈田以北稻穀。充"鎮府之兵粮」云

云見格。又邊要之中。以"陸與一為"最。仍此國昔置"

位己上 无 千人兵,也。是皆可 為當府將軍 者。 屬 益與 可 府 加加 乎。 大 学 建 者。 武 年 云 劝 な。 = 是

三位己上高職下。依、之申加、大字、而已。 依。國司請奏。被、下。 宣旨、也。 將軍相當五位也

副將軍二人。無"相當。

中古以來不」補」之。

軍監。相"當正七位下。軍曹。相"當從八位上。

拟武 卿給之 功 時 之士。 問 中之無其謂 可任 此 職數。 事 心。 近 代 於 軍 曹 耆

公

係仗二人。

擇.重代武士.補之。將軍判授之官也。凡僚仗者。陸

仙臺金石志卷之二

與守同給,二人,按察使給,四人,云云。

日本史列傳第四十八源光圀卿

大

路。詔 illi illi 拜.参 國 出 東 錄,功授,官位 寫 定 迎。於三荷。一作、樣。養老中。進,從五位下。陸與蝦夷反。從 和 大 麻呂奏請使 陸奥 部卿 野東 軍 羽 銅中。新羅 兵進破之、蝦 人建議築多賀城 相 持 陰山 遣 人。糺 藤原宇合 計平之。 道 鎮守將軍 兵部 節 太宰大貳藤原质 經 陽前 討 職 男勝 使來朝。東人與一從六位下布勢人一率"騎 灾 卿藤原麻呂等擊之,麻呂與東人率,諸 之。從五位 以朔。後人。從之。 太夫果安子也。元明帝時。 人鎮 海工道兵 夷 **棄按察使。天**平 一行 悉 多賀 防!過蝦夷。 降。 程迂遠。請作征 1: 東 嗣 棚 山山 紀 人之計 賞功授 起 飯 兼 七丁。 兵。 麻呂副 為大養德守。 中, 神 心 石 寻 居 朝 從 男勝蝦 叙 奏言。在 多。語 叉召 延以』東 迺奏從,陸 從 四 さっ 叙正 四位 位 1 發 沙 1E 下 鎮兵 動 人 以 1: 七位 東 一麻呂 + 奧達 四 通道 授 油 為"大 士 等。 年。 傳。 宜下 兵 上。 1 th

賜 U戌 器物以 服 將 小長谷常人。凡河內 分 充 從 軍用。使,人有,才者量任,用之。 東人與戰 证 **育造新羅** H 便船 道等。 ·治.長門。 降 登美板櫃京都三 敕取"其 所 嘶 載

豐浦 五位 上佐 郡 小 伯常 領 額田 人。從五位下安倍最 部廣麻呂。將、精兵 麻呂。 一先濟 將 板 櫃 兵四 河。造 T 從 及

營。贼

兵一千七百六十七人。一並獲"器械若干。又差"長

PF

達

一之旨。所被

柳

付

也

之。莫有所 今月之末。暫往 华人。勇山 綱手。十三年 伎美麻呂。佐伯豐石等皆降 以 疑 廣嗣道戰 三月月 功叙。從三位。 京。雖非其時。事不得已。 於板 帝幸。恭仁宮。 櫃河 一衆潰 部部 E 小斯廣 院 東人留。守 有所 將軍 嗣 及 思。 知 弟

吾妻鏡卷九。

平城。十四

年薨。

本編紀

州泰衡:發向給云々。 文治五年己酉。七月十九日丁玉巳刻。二品為,征,伐與

辛 八月十三日庚子。二品 H: 。自"多賀國府。經 黑川。令,赴 **命**体。息 于 多四 玉造郡 國 府 給云 給。 な。 + 四 日

陸與國留守職、之由被、任。彼國聞、民庶之愁訴。可、中六年庚戌三月十五日己已。左近衛將監宗景職。伊可、為

都のつと觀應年中

筑紫釋宗久

云 2 0 細 T 道 3 2 ち 0) 6 3 國 כת 多 72 賀 を 0) 顽 府 南 さまに末 1= 易 な 6 の松山 n 2 n 三寸 よ W h きて お 1

奥の細道元禄二年五月

松尾桃青

童碑。 市川村多賀の城に有。

十二 图到 み置 年。參議東 察使鎮守府將軍 つほ 7:0 りつ 月朔日 0) る 歌 石 四 枕 弘 海 維 多く。 と有。 東山前度使同 國界の 13 ・大野朝臣東人の 高 聖 語傳 さい 武 里数をしる 皇帝 ふとい 尺餘 0) 將軍惠美朝臣朝 御 横 へとも。川 時 重 三尺斗 所 1= 此城 當 四儿 22 也 i 崩 ho 。天平 ではる Till 11 猶修造、 100 落 资字 元年 穿て よ T b 道 あ よ 叉 而 按

す。行脚の は。時うつり代變して。其跡たしかならぬ事の らたまりて。石は埋みて土に隱れ。木は老て若木替れ に至りて疑なき干蔵の記念。 德存 命 0) 悅 ひ。羈旅 今眼 の勞を忘れて。涙 前 1= 古人の みを 心 を関 も落 爱

東奥紀行。實層庚辰七月。

る

は

カコ

b

長久保玄珠

路傍叢中有一石。題 千餘年。存不 慶減。楷 右 多賀城 折入"野徑"有"一 碑。高六尺有奇。幅三尺餘。 日. 壶碑路。南 室方九尺許 IE. 可」觀矣。俗 瓦 都墨匠古梅 記 屋而 謂」之強碑。 諸 四 國道 田 虚 15 程。雖 所 子 。中 建 也。 有

多賀城碑。

詠 亡。今存二于世 碑。日 余按 徑路古城跡。秋 南 前砰 部 3/ 彇 テ 碑 本 在 部 也。 者多出"後 風禾黍多。爲。尋,一片石。千歲幾 "南部。見"于袖中鈔。今以"多賀 碑 碑在 蓋風 北 土 人附 郡 記之譌也。 七戶盘村。今南 會。不,足,信矣。 言的 國 風 部 古歌 城 北 士 人過。 郡 記 修 浩 日 之

> 町寫 甚也。 高三縣。猶屬,與州可 國也。然則天平之時 城 七十四里。常陸界勿來關。下野界白河關。 碑文曰。去。常陸國界,四 部量碑。土人所 元祿年中、吾藩之士丸山可澄 軍所,為也 地。古屬是三郡。碑面題。日本中央四字。相傳。田村將 道程稍 或考歌枕名寄引,萬 里。則去。多賀城一四 相似 。後人埋之。祭以爲,石文明神。碑今亡矣。 」傳亦如,是事見,其紀行。又接 。而碑所、記里數之差。殆倍矣。可疑之 常與之界。蓋今那 知 矣。後世或 百十二里。去下野國界 葉集云。 百十二里。 遠遊,東 間之與那 常陸 珂 與。因使 此 港 本陸與之分 几字 各去 也。 仲。久自 亦亦 笔 一部 南 賀城 此之 多質

山平。伸。久自·高。今日=

誤也。以,多賀城碑文,為,徵。考別有,記。 按續日本紀。養老天平紀。以,陸奧,為,常陸。蓋

袖中抄卷十九。

石 D 君 S 2 カコ B 13 け 2 0) せ は布 はつく に逢見ても猶 南

カコ

前臺金石志卷之二

以上袖 ふは。 は東のは 文といへり信家侍從の申しは石の面長さ四五丈許 1= 日 顯昭云石 るに文ゑり付たり。其所をつほと云々、私云。みちの て石石 本の 陸 中抄。 の面 は 地を云 てと思 てと云へ ふみとは。 に。日本の中央のよしを書付たれは。いし h 1-0 と。蝦 り。但 陸奥の H 田 本の中央にても。侍るにこそ。 長の 村將軍征夷の時。 お 島 5 おほくて。千島 につも 0) 4 し交か 弓の とも は 5 國 13 2

坪川あり。昔いし文は。坪川の岸にありしを。いつの頃 れは。文字疑ふべからす。 丈は四五尺か字誤なるへし。 1= 土人云。 かりし 引て。埋 か有け 南部北郡野邊地と七戸の間に、坪村。石文村。 放に。千引 ん、其郷の主の感する事有て。 T 其 上に 0 祠 石とも云しとなり。或書に。四 を立て。石文明神と祭た 珠骸に千引の石と云な 此碑を山の り。石甚 中 五

> 六年所」製。 不, 朽矣。古庭間, 之體 日 市川村。村石高平處 千秋懺存。使"人慨然。 以在 為多行 ·府庭 城塘。有土龍 見雲眞人可 得 此 碑。天平 問 資字 死 而

多賀城墟崇碑。

唯讀千年一片碑。 感吹秋艸夕陽悲。征夷重鎮王臣府。

鹽松紀行。文化乙丑八月。

瑞鳳釋古梁

法道键,文之不朽信可,徵焉。亭以防,闌褟。所,傳,于世, 年,之。天平寳字中所,樹,距,今千有餘歲。貞石無,玷。楷, 也, 一部婁上。有, 立石。所, 謂壺碑也。從六尺許。衡日, 市河村。 古鎮府之墟也。 此中往々出, 古瓦。堅緻可,

漫游文草卷二

多屬」信本一也

元愷

澤

游與曆安永戊戌

一四月十四日。發"仙臺」而數十里。得"市川村。乃壺碑所在

遊"松島一記。明和辛卯八月。

細井德民

也 也。吉甫穿,地 于今日 嬔。 。嗚呼不朽 多賀城址。 者文。 而 得: 千有餘載之久。 小片。但 礎石尚 存。 經、火者不、堪、用 其瓦作、研 見雲氏 筆痕尚淋漓 好 也。五 事 所 変 月

九口禺中至"七戶鄉"問

摔

村碑。里正但言坪

村。坪

川。土

村。々後有 焉爾。去而尋,野邊地,而 人云。距此數里。有"小 一小洞耳。不見石。問,之野夫。則曰。埋,石於祠下。因 而偵焉。 小山。々麓有,古碑。文字破壞不,可讀 有"人知"碑 所在 祠,名"千曳。爲"石文社。乃往。 行。其地一 者。距 都會 此 十數里。有"石 也。乃就 "逆旅 也。 唯 祀 余 文 主

開

m

神

飛。急辨"揚

具。以待"明日。

墓所在。主人但說。千曳石事。其說潰 打 謂 乎。余蓄.疑已久。今聞.**坪** 鄙語曰。寧說"似」真之僞。 土民不 而想。因 有"古碑在。翌日早起。债"鄉道」以發 日不,終,功 河古物 開 所 也。行十五六里。抵"石文村。乃入"民家 也。 小尊 丁窓反覆以申"我意。 一而飲 村而心怪,之。又有"石文村。而 勿說,似,偽之眞。其然豈其然 。延主人 な。 而觴 野邊地。唯恐揚 不足 焉。徐々問"古 顿日父老之 聞。 余謂

> 六家、 言。未之前 且無,有,後山 聞。恐謬傳也。 。何以求,其彷彿,乎。似,真之說 余始知見 . 欺爾。 石文村 僅 五

如此其甚。

樂山人開 齋集

內 藤 希 顔

仙臺封 內山 海之勝。

皆 Iffi 於 若夫蜑戶之潮。作、烟而 滄江 近 綺 而 如分者 羅列 ili 松風 焉 松 吹 島 波 也。 者 至 作。雲者。其千賀鹽竈 其末松山平。百 者。 松浦島·十符浦·壶 餘之島 乎。沙麓 神鄉 聖 如 街

東遊記後編卷一。天明丙午五月。 橘 南谿子

虚の

石

ふみい

名 h に 總 あ 1b ell おふ壺の に
貳丁四 仙臺より松 石 抬 間 るみ 入 は。奥州 り込所 島 1= 至 なり。南 るの 仙 學 道 0) 東。 都 筋 60 1-0) 多賀 TE 居 て。 披 松井某。 街 0) 古跡 道よ

享保中

に道

L

3

L

0)

石

を対

京

明

白

な

往告蝦夷王

數數 年。大 を鎮 化に 72 FI L て。此 b 四 1h て。廣 h 吉村 ては 8 F 方 8 百 損 より は 服 扩 0) め 0) 澤 野 城 车 高 中 千 路 々襲 さす。奥 東 13 過 此 かっ を。今千 すして。人 將 掘 年 腹 换 0) T 名 五六尺。厚さ二三尺。 ひ水り 出 に除 を記 これ 0) 意百 賀 然石 秀 とい 3 L 時。此 1 延 記 州 城 衡 る古物なり。 を し、見雲真人にこれを書し りと一下。 1= 年 鎮 談 n 0) ~ 四 8 鎮 L て。 々是 邊方 0 3 碑 守 1= る人。多賀 達 大半 政。京 守 後 8 將 0 趣 3 文字を 將 を見 々と尋求られ 失 地 1= な 軍 12 稱美し 賴朝 軍 50 To 都 至 1= 其 72 とい 6 より h 6 和 3 城 殊に其 近世 馬 0) 鎌倉 事。 て。 L 類 置け 臺石なし。外 を修 文字 時 ひ。 72 將 頃 0 誠 伊 其 72 殿 3 は。 軍 有 理 遊政宗 り。多賀 に 字體甚古雅 方 府 其 3 1= 0) しに。 を遣されて。 1-し。此 も見 4 34 不 明 居 和 op して。 白 泉 思 哥 天 平 所 む。今に至 今の 儀 平 1-1-1-ることか 城 石 を鎖 より三代 4= よ 小 其 3 修 碑 居 猶 寶 2 0) にし 理後 堂あ 字 守 事 石 碑 給 住 30 其 カラ 建 少 多 府 是 3 な 1 ひ E

野邊地 L 地 0 事の士。この 摺なとにする事をゆるさす。故にしる人 し、 山 出 1 は h たりと云。其文 て是を祭 り。是は此 は たり。石少し赤 碗 事 有り 30 は る。此 72 あ カコ て。是を覆 は。取急きて打過 往 故 らす。音 しるさす。又或人のい りと一大。 面文字 て。此 來 遊 0) 碑 り。氏 せ à 近在に。 多賀 0) 人も L 碑をすり傳 U あ 山 悃 事は 40 カコ は मामुर 城 四 b 1= カコ 1= み帯て。火をへたるもの 2 稀 Ŀ とし 石碑 て。街 方を格子にして。 5 よりは。七八 虚村 7 世上の人普~しる所なれ 800 にていい カコ あ 0) て往 らん。 あ し故。其村 なる事なら 中 方 とい 其 り。村 ~ 1-0) 崎 また んことを求 古 ひし 大字 3 碑 美 叉東 より 十里半 所 民 20 邊 111-は。 清 1-洪 あ ~ 流 0) みた 1-ん。土民 8 東 り。此 碑を尊敬 碑 服 語 證 人の 弘 5 東 3 0) とい 碑 は まら n h たらす。今 北 沙 村に とい 啊 つほ ゝやうに 見 とも。 なし。 に 约 0) 汰 S 雅 3 敬 方 は。く し。社 三 開 壶 と讀 樣 頻 S 0) L 南 余 極遠 近 山 許 78 8 1 1ŋ て。石 な 8 年 郡 を建 と云 は 事 部 0) 字 8 構 1= 殘 3 彼 方 好 思 付 1= 8 15 0) あ

敬之以告。神尚謹。

東の は 是等も東 念なり。多質域の ふみやつか なれぬい。 8 碑有へき事なり。又夫木集清輔朝臣の お 0) もほゆ 量碑 ろのおちにありときくえそ世の中を思 叉西行の山家集に。 3 碑に、西と云大字あれ 壶 と思 0) 石ふみ外 は 30 0) 「みちのくは奥ゆ 濱風」なとあ は。是に對 哥に。 n する 石石 は。 八 カコ

淵,日求,厥章。以介,眉壽。萬壽无、疆。 金石其相。如、圭如、璋。德音無、瑕。何以不 多贺城古瓦硯 銘 應"洞殿需 新 井 「臧。秉心 白 石 塞

にや

仰之。亦以敬之功乎。瀆石狎」之。亦以敬之罪也。恐」之 以需之。以敬承,君命,而打數焉。 氏。其書典雅。而正楷雄健、非《後世之所"能及。世以 尊之人景之。加之其書千載之後。雖一不知其 前。敢享,其神靈。千載古碑。豈蔑 維實曆歲次庚辰。夏四月十九日癸巳。 神祭文 震。 於是海內家賞之人 高 矧鎮府之舊 具,非物於意 橋 以 人之姓 址。 稱 敬 世 碑 人

> 題" 赤 砷 圖

> > 伊 膝 長 胤

典刑 故城控 輕"漢鼎。文字認"秦碑。 朔漠。玄石表。東陲。名勒勳臣績。情 遠近明"疆域。 還能 傳元 辨夏 帥 詞。

夷。

塵。賴 頻。 將軍藤惠美。 亞 碑 朝騷雅古。宗久遠遊親。緬想天平歲。讀 懷古鹽竈八景之一。 疇昔示"蚩民。字暗 添 千 新 賀 THE CO 行 漁 神陰 銷苦積 灾 灰

鎮守千年後。殘 看, 壺碑 碑俯。水涯。僻奇爭,石氣。字古蝕 滕 白 答花 推

一。分界華夷詳。記程 海陸遐。如教"越裳讀。何用指 南 車。

過 多賀 城 址 学 田 想

江

熱。毒 片碑存古鎮城。 箭鳴風夜 有 宫軍曾此事。邊 。路。宿將難。不 千島 征。 貝戊 戰 袍 頻 披 年 宇 雪 守八 冬 猶

州兵。恩威今日調! 多賀暮雪。宮城八景之一。 荒裔。儘使,殘基充,聖耕 高 支

古城廢壘十符池。多賀森邊暮雪奇。 聞說源君幅、民

岱

處。至一个遺惠遠相

題。手臨歯碑見」遺。

間道千年強石文。墓臨

紙致"爭分。」真人鐵畫蒼

然

高 玄 岱

古 。想見隴然照,夕曛。

多賀暮雪。宮城八景之一。

闕 名

氏

慕雲漠々暗。斜橋。 多賀 荒城雪亂飛。 早已人行皆絕

後 一量碎 | 空在 更蕭

醋

村 上 維 益

靈碑千歲在"東方。宮驛行程紀"五疆。筆力看疑深入」

石。于,今字字挾,風霜。

滕 白 菲

片碣經年名不」虚。京畿爭比晋唐書。 何時君 亦東 迹

去。别、蘇摩、苔辨、魯

多賀城覽古

源 邦 彥

L

かたきよし。申遣して侍ける返事

10

雄鎮東方多賀城。威加,夷貊 在。遺迹訪知田献名。 悉來享。千年不.獨藍碑

膝 非

障

よつほのいしふみ。

多賀繁華彼一時。何人吊」古感懷詩。 詠來俱 好 並

秤

字。飛動 渾驚幼 姉

壺

多賀城荒餘"故墟。千年遺跡 碑 碎孤。 大 東西 窪 不」用記 ,程 天

民

路。今日蝦夷 入"板圖

多質城

城 地空臨野水湄。徘徊 懷古 禾黍自離々。 半 駐、鈴懷、古時 非 行

藏

回

望。山上惟餘 一片碑。

山

公

5 つの 世にかきとうめてや水くきの跡もたえせぬ

強の い L 2 み

新古今集十八雜 下

前 大僧正慈圓。文にては思ふほとの事も。中 つく

賴

朝

みち のくの 4 はてしのふはえそしらの書つくして

慈

圓

おもふこといなみちのくのえそしらぬ坪のいしふ

夫木抄三十二

み書つくさねは、

寂

蓮

らん。

みち のおくの壺のいしふみ有ときくいつれか戀の

かひ成らん。

清

輔

碑やつかろのをちにありときくえそ世の中をお 8

昭

顯

六百番哥合遠戀

おもひこそ千嶋のおくの隔てねとえそかよはさぬ

強の

山家集

西 行

陸奥はおくゆ かしくそおもほゆる鎧の石ふみそと

の濱風。

拾玉集

ちのくのつほ の碑行て見んそれにもか かし唯ま

とへとは。

良玉集

學

日敷へてかく降つもる雪なれはつほの碑跡やたゆ

哥枕名寄

仲

實

碑やけるのせは布はつくに逢見ても猶あ かっ ぬ君

かな。

清い つほのいしふみ。 かは遠からぬやはみちのくのころつつくしの

和

泉

式

部

實、佐藤茂勳と命を奉して。打碑しける節と。土人の云 天保壬寅九月下院。手戶清雄。紺野定由と。命を奉して 盤の碑を打せしか。又今茲嘉永壬子六月中院。 朴澤行

程。東側。黃金澤屋敷。孫四 も有しを。今是に記すと云。多賀城は。市川村坂 郎宅地の後にして、七十 の中 し事共を取合せ。且先哲の采り集めし中に。遺漏

の)

間四方なるよし、今日となる、 そか中に藻葭の生

火 30 如 h く。黑色有 瓦 打 72 。石を碎 3 1= 多 T 1 5 木かく 出 T 12 T つ。前 造 るも は ろ ろ 火 15 0) 8 目 3 h 是な 2 0) 202 出 13 5 す りっそ 0) る S 5 よし。 中 8 5 1= 0) 0) 3 裏 紫色なるは。又朱を塗 今 その 端 1 な 瓦 刻 瓦 3 即 燒 漆 は 場 0 を塗 菊 春日邑 有 0) 8 御 h あ 72 紋 h 2 0 3 な

S

城 60 門 元 12 所 は。こ 北 寅 0) 向 瓦 U 30 4 製 奏 す 脏 る 宮 所 鎮市 な 守川 h 0 温 2 0) 5 वि 2 側 小

1=

L

西

多

遠

門叉 0 13 形今 3 な 1-前 存せ とも 音 b 名 产 2 程 。同 馬 城 碑 社 0) 在 0) 旭 樹 L 腸 -6 多 3 升 外 所 形 郭 は。 跡 ٤ 今の 2 下馬 て。 邑 土 2 居

h

川 て。今に b と。南 8 流 崎 n 村 街 出 は。多賀崎 村 道 T 0) 0) 西 14 同 北 北 1-1: 1-高橋邑は な T 士 り。東 落 居 合 (1) 南 形 時 多賀 海 2 は 1= 殘 1 橋 30 入 な なる は 50 る 市 西 なる ~ 南 川 きを。後 は à 今 村 0) 池 0) 程 東 4 市 世 1=

風

記

1=

云。鴻

0)

池

慶ないまこふの臺ミ云の類にて。 こくふ 意ふに國府の池なるへし。安房の國に。國

の所

L

とて。今に職せり。又

多質

拢

址

よ

h

得

ると

ふ。矢鏃

好

地

0)

西

南

1=

て。

7

h

せ

L

あ

1=

とり

かっ

8

0

と見ゆ

1/1 境玉 h 外泉。寺 し略っな 池 西 3 0) は。 ____ 形 四 は 壶 尺 猪 碑 程 苗 0) 0) 代 西 清 某 北 水 御 數 1-知 町 てっ 行 0) 間 旱天 城 13 前 b 1= 屋 L 敷 ち かっ 水 新 今 七 カコ 持 H n す 高 畠 7 0 2

內

な

此 すことを許 出 1= 九 + 3 餘 す。 箇 0) 2 大 石 カコ 中 有。 1-题 邑の 石· 臥 8 石 0) 流 統 ろ L 石 T 冠 他 h 1= 石 出

とい h 0 敷此さ漫 2 い今 ふ立石屋 四 0) 名 h 石 せ あ 石 50 2 72 いり 3 T は。坂 石 とい 0) 2 中 は。 程 作作 貫 0) 屋 赤 敷 碑 安 15

之丞 しら -0) 宅 す 碑 3 0) 0) 傍 事 5 1= S 1: 弘 7 邑 为 安十 0) 有 = 年 此条 きゃ 勸 尾 進 敷 と云 74 1113 い岸ふ屋 m 30 彌 。數 K 2 3 A 組 0) 0) 徐 拔 倒 並 今 砚 豹 所 あ 批 在 60 氏 B

多 賀 城 O) 遺 起 を滅 せ り。昔 より 持 傳 3 3 0 箱 は 楠

木と見えて DV. 緻 13 3 板 1-て。 刺 せ L 8 0) 也 义 同 人宅

事 6 。官 0) 者 邊 1= 泰 8 h 見 L せ かっ よ 近 永 かっ 年 く家 とて 中 0) 資 とも 古 龙 延 な 貮 U 枚 枚 T 掘 は 返 他 出 國 賜 0) 事 人 b

几

見ゆるをも滅せり。

非,私度,之。 因記以與焉

> 田 邊 希 績 證

天保の度城前屋敷新七なるもの云へしに、いつの頃

1:

や有け

ん。碑亭の楣に一首の歌あるを。

の碑の の後。我 1-ねるに。哥は固りなり發句さへなし。遺恨 給ひし事の。ありしと云に付。そここゝ尋 り、永く塗りこめすして。傅ひ置へしとの おほえ侍りし 先君意ふに徹山公御覽して。この歌殊勝な 小亭の楣に。 八舅長 沼致 מל ס 直 に話 何人にや有け 打碑の功も畢り歸府 h L かっ 0 香 ん かし強 かく

固

矢 強

圈

O

重四百姓国

重中面七左续里 之对 瓦

表場日三十

四月十つ人

固

ムヤンデ

後す一般フモノナリ

質法,

重竹一貫三百銭目計

瓦

衣裘手瓦,如 重十一貫戲目 関ラリ

> 4 2-4-14

長サ一尺三寸 厚サ七八分一寸許三至ル

厚サ七分

書つけて。

つほのいしふみ。

是年八月。希續 同人藏する所の童碑打本にも。去京の欄外に。夫及ひ 告,之官長。皆火之、就,中留,得 り。舊よりあるなるへし。其副紙に。 五百里と。一百廿里の間の下に。 彙の戯に鐫れる文あ 安永三年甲午之秋。贈』 壺碑打墨於市川里長 奉 命適打" 壺碑 二枚。投,預,此學 有:謬打。不,奉,官者。 市兵衛。 者。 ると聞 立かへりまた見る事もかたけれはくりかへしよむ

先 其叔父なる この哥のさますなをにして。 君 0) 御 院 林子平。寛政五年癸丑六月身まかり せし も。意ふに此歌いとなるへしとて。 やさしく聞へ侍ると。 かつて云け 清

邊 江 今 申 h 句 爺 0 急 と石 に 供 戶 碑 0 藏 地 差 0) 10 1= 俳 8 石 杯。今 鍋 人。何 話 南 出 2 がなるへし。かり、 0 b 代某 H 山 n 九 松松 V 1-有 7 御 て。東 3 岩 知 5 或 カラ 3 行 山 年焼失して 。官許し玉はすし L 所 向 3 玉 叉寺屋 0) 1= 泉 0) 大門の 內 赤 何 に移 本曹 碑 敷共 30 0 尊藥師如來行基作。古洞宗五峯山松音寺。古 より、多賀 址。 ると一大。 い 董 Z 元文三 (1) T 小名 碑 止 今 0) 城 57 有 年 侧 址 0 2 政 碑 0 1= 0) 康 建 年 南 0) 0) L

指 T よ 20 名 型 城 0) 碗 op H. 月 闇

七の 松 道 り。千 1= T 9 埋 3 て。其 前 の。多賀 紀 みてみえすとい 行。文化四 ימ 20 阴 つらに ならすとい 過 城 Him といい 0 Tay 碑 H 老 本 七 を。世 2 わ 中 をま 72 央 1= は ろ。 り。行て見 0 2 並 p 四字 n 0) み 村 る。 石 D 0) みゆ 元 名 宫 攝 んと思 み 千 台 0) 津 れと。 とい 賀 內 守 60 0) 1= L 堀 へと。 末は 鹽 大 2 田 الر な カコ 3 F 今は 文字 まに 2 敦 る 石 撰 0 消 流 行 土 南

村の

ち

る

け

n

は

是やまことの

石

2

3

な

0)

字

に付

て。説

をなすもの

な

弘儿

2

80

壶

0)

名

川

よ

2

は

鎮守

府

0)

碑

とか

p

。或

は

67

30

E

1-

西

0)

字

あ

る

は

是

西

01

碑

1=

て。南

部

75

る

は

東

0)

神

な

此

は

西

p

異

h

b

5 h 200 W カコ L け 80 と埋 9 てつ 世人 1= 织 5 n 3 る 8 的

h な

h な 耕 野 3 奎 邊 1 祭 路 東 0) 卿. 行 1-脚 à) 0) 話 1-0]1] 売 3 碑 4 は 참 3. 南 大河 部 地 蹊 1-入 強村 て。七 子 2

200 3 よ 厚 國 め あ る 1-8 H 日 5 L 小 流 まても從 0) 1= 本 7 一剂 多。 所 村 ん。今仙臺城 n 猶 0) なり 6 12 地 思 は 中 有。其傍 h 2 ·T 抄 め とい へてこゝを中 砂 に。將軍 7 1= 3 祭 石 4 題 ~ 下 1= n 1-昭 るは。 तं T り。云 埋 3 與 云 曳の 111 な まし 陸 羽 村 L 6 な。下 (1) 央に 認に 社とい 則 なら 多質城 蝦 碑 0) 夷 は T せ 略 お 'n を平 E 是は んと。 2 < 3 0) 2 年 見 1-古跡 傳 8 H す) 千曳 1 (1) 3. 3. 給 72 は とそ。 お 1-0 U. 5 是谎 は U) 0) る 0) L 石 石 請 せ 1= 3 カコ L 手 7 碑 あ 文 碑 30 あ 被 1=

す

水

納

Z

47

戸

重

閑

部にてよくあへり。
おはつ / へに逢見ても猶あかぬけさかな』是は袖中抄はつ / へに逢見ても猶あかぬけさかな』是は袖中抄はつ / へに逢見ても猶あかぬけさかな』是は袖中抄

洛伴蒿蹊

舊蹟遺聞卷四

藍碑。千引明

宮

三輪秀福等

村といふ所あり。この所はむかし碑ありしゆえに。壼つほの碑は。北郡七戸と野邊地との間に。壼村石ふみ

神中抄き大木抄よ八百番哥合・山家集・捨玉集・新古今集つめたりとそいふ。舞士人のは後に古書に見へたるは。で、千引明神の宮有。むかしこの宮の下に。かの石はうのとふるには。 童村と石ふみ村との 此間戦里半へ中か神と名つけしといひ傳ふ。今はその碑なし。土人いひ碑と名つけしといひ傳ふ。今はその碑なし。土人いひ碑と

考るに、土人の云。むかしこのあたりに碑かり。いと

しくおもふ人もあり四へけれと。ふるき傳説。また 人して。引せしにうこくへくもあらさりしを。強と 72 を。ひき退んとするに。おほくの人物しけれとも。か 大なる石なりしを。いつの頃にか有けん。其邊りを 風土記なとには。今ひと際あやしきことのみ n といへり。またいしふみをたてんとせし時。その所 と必よくおもふまうに。ひかれたりとそ。さるあや に。虚といへる女有て。この女壹人にて引けれは。い の石ふみうこくへくもあらす。しかるに其あたり に大なる石あらけるを、 その上に宮を立て。神といはひ千引明神 しきことのあ 田畑なとにせんとにや。便あしゝとてかの石ふみ カコ いふ女の引たりしより。いふともいひ傳たり。いつ れは、後のよの心もて。一向にうたかふへきにあ へともは。いとあやしきことうもにて。うた かまことならん。今さた りしによりて。そを土中にうつめて。 碑にものせんとおほ め カコ たし。この 2 と申 るきつ かは おほ くの H 3

5 神と申 よし L にて今千引明神 くはしきことの。つたは 詞 なといへること。古事記。萬葉集なとに見へたり。さ 3 石ふみの形につれていふなにて。 里ほとつ」。へ 奉りしにもあるへし。今もかたいなかには、かへりて る 0 て此碑は文字をきさみて。其所のしるしとして。人 埋 めりさて。其事でいまれりでなんいへる。さて近ほくなりなりければ。この神のたいりな もお 石な さだ かに め ん。その大な石のことを。たゝに千ひき石・千引岩 72 なし。千引明 みを見んさて。ほらせけるに。一村疫やみはやりて。人古人のかたれるは。いつはかりの事にか有けん。この石 3 カコ はしられねと。 のつからみやひたれは。 るは。い け 1= 3 ん。後 わかつへき。た しとも 72 カコ の宮所は。壺村 に放 7 市中 なるよしありける おは れり。又壺の 4 あ 申 ふるくよりし えすかし。されとむかし せし らぬは。いと口をしきこと b て神 めの 800 とい へも石ふみ村へも一 ものなめれは。 碑 いり 土人とかく名つけ といふとは。その その つの は か。今しる かい ひて。千引明 かたちのま 頃 碑を土中に ひけ よりとた その 大な る は。 な 3 おふ

L

ては 本中央と書付し つほ りポノイシフェ 返事 をり状。詞林綱目。元禄五王申五月。 よめ 72 名なりといひ 臣といふ人。石つふらになといふ地名も。圓の字を しならんと。本居宣長はいへり。 を も。常の菫とは形か るやうに ろ の石ふみとは。奥州 思 る き。自然 L. に 說 り。つばつぶ通へれは。石碑の形丸か ふ程 かっ なめ 1-とい の事は申つくしかたしと。 なるを古へ借字にて。壺と書しより。 お の石に文字を彫た れと。い 8 なり。 て傳 ふに。まろきをつほ は 3 へたるにや。 n は 3 は 0) 1 b なり。 名所なり。田村將軍 大僧 カコ て。葉のまろきよ ין iE りし N 一慈圓 つは菫 お こは げにもつふ 中 にも とい < 一賴朝 になむ。 堀 申遣は とい いとし ひしこと。 あら 氏 公へ。 り。名 りし 草を h 僖 されけ 右 5 より。 カコ 文に 女の つけ 0) 0) 庵 日 大 名 あ 2

賴

3

朝

陸 奥の いはて忍ふはえそしらぬ 書つくしてよつほ

和歌吳竹集卷四

本の中央と書たりし石なり。其たけ四五丈はかりあ つほの石文。奥州に有。むかし田村將軍。石の面に日

尾 崎 雅 嘉

名蹟二

鹽竈社鐵燈

慈圓。文にてはおもふほとの事は。申つくしかたきよ

り。よつて其所をつほむらと言。新古今集に。前大僧正

し。申つかはして侍るかへしに。

みちのくのいはてしのふはえそしらぬ書きつくし

てよつほの石文。

ま

b

朝

子

碑

鲖

附

澤 塘

碑

泉

江 東 神

燈

門 後 園 山 院 寺

> 碑 碑 門

仙臺金石志卷之二一終

仙臺金石志卷之三

目

仙臺金石志卷之三

七三

仙臺金石志卷之三

仙臺金石志卷之三

吉田 友好

編纂

名蹟二

鹽竈社鐵燈犀鈋 六百五十六年

奉"寄進。



文治三年七月十日。和泉三郎忠衡敬白。

鹽竈社

當願衆生。

奥州宮城郡鹽竈宮椎鐘 脫"三界苦。 得證菩提。

奉,治:鑄 洪鐘一口

當社安穩。興隆佛法。殊大旦 右志越者。奉、爲、天長地 外。御願圓藩。 那。

息災延命。怨敵退散。所願成就攸也。

僧行事。 放瑜。

大檀那留守藤原朝臣藤王九

佐藤家高

新太夫

安太夫

弘 怡 男鹿島

盛 総

大

I

願

主

鈴木越前守義久

繼

明應六年歲次十二月六日

七四

寬文三年癸卯七月十日。 鹽竈宮大明神奉』創"建石華表 松平龜千代。 一基。

同 社, 鍋燈鈴

茄 造。鐵燈一座。献,之于祠前以致,崇敬。且永祈 神之戲靈。遠及"于海外。而又以底"護我人民也 成一之。我君候命,有司。使,祠宫牖,事于 年執徐之歲。孟顺之月。爰整"戎兵。以方啓」行。戌"于蝦 惟文化四年。單關之識。蝦夷有,北虜之寇。 歲名大流落。月名星立。我 夷。而寇賊不」侵。四方清靜。是歲皐月卒」戍而歸。此實明 焉 常日。 碑題。版生。赫如"天日。 君侯復 命。有司。使 云勒"斯文。 幕府使"私藩 鹽竈 明 越明 祠 鑽工 一越五 神之 年 永

儒官。 田邊匡敕奉 命 撰述書。 永弗浅。

口。

水色柿上澁赤。

徑 尺五寸。

厚 寸六分。

回

丈二尺六寸五分

高 深 三寸五分。 寸六分。

口。

水色萠黃上澁紫。

回 徑 四尺。 一丈五尺八寸。

高 厚 七寸三分。 二寸五分。

旭

深

五寸三分。

東

口。

徑 水色萠黄上澁紫。 四尺八寸三分。

丈五尺八分。

回

高 厚 七寸三分。 一寸五分。

深 五寸七分。

深

五寸七分。

高

七寸三列。

厚

寸四分。

回

丈五尺八分

徑

四尺八寸二分。

水色薄淺實上澁紫

口。

他臺金石志卷之三

御釜。四

口。臺石九寸。

七五

其 此舊 神 為水。例以 色 TILL. 不 凡 或 四 同 日 口。有 往 是恐,妖孽之兆。而 古 國 有一十 殃 釜中 四 口。四 水 色各 口 祈之。 本 為變。或 ·社。二 爽此 口 紫 野 黄。 北月六日昧 田。 或 赤 青

叉曰,一口府下石名坂圓福寺。

釜潭

79

口

四

竈

二二

伊

澤

鹽釜。

口

黑川

志戶田

寬延元年戊辰 六月十八日。

勅宣。正一位。

正一位鹽竈大明神。石華表御額。

石 階。五 4-五 級 白 三十 七 級 + TU 級。 凡 百 十六 級。

正一位鹽竈社。隨身門御額。

陸與國一宮。裏坂石華表御額。

別宮九柱。正面御額。治家。伊達氏嫡女中正。無名。

左宮角柱。 正心。同 孝躬。

右宮 角 劒 柱。 十岁後 息 花 月 一大助御 同 八小アリ。鎺ノ下ニア 助秀ト打玉フ。藁ノ上御作。 藁ハ三ツモー 忠 信。 7 大サ五分牛・七

七月十日。神事式、別宮。左宮。右宮。

神子舞。心機會。法蓮寺

御 膳 次 第 别 宮。 米捷散供。 御 膳 御 著 同 同 同 御 菜 同

同

御肴同同。御盃。瓶子。御菜。音樂奏」之。

左宮同斷。右宮同斷。

社外。 渡, 御於隨身門外大坂上, 御幣振合

神拜行事務」之禰宜等。

之。 米盟散散 朱 供供。 御 御 傘。 神。同 御御 成刀。 左宫 御御旛 六本。塘 御 蒔蒔 幣。 御御 太刀。 稲 宜 别 御御 御 太刀。 禰 宜

奉

右宮御幣一禰宜。御太刀。神馬。流鏑馬。以上。

嘉永三戌 七月十日

神庫所藏古文書

將軍家政所下。陸與國竹城保。

可,早任,先例,引募。一宮鹽竈臨時祭料。田貳町

五

段事。

作田者。不.可.致.妨之狀如.件。 羞蝕。

保司宜。承 知勿,違失。

蠶蝕

久四 年三月七日。

知家事中原

令 大藏丞藤原判。

別當前因

幡守

中

原朝

臣

判。

散位 藤 原 朝 臣

惠

正 宮內大輔。 源朝臣。

觀應元年九月十七日。

月安。

當國 宮左宮明 神 禰宜。 安大夫時常謹 言上。 欲,早 停

田子莊。日 左宮林事 止。同 右宮新太夫。無口濫 云云。當國一宮鹽竈、新 訴 任重代相 太夫恒高申。宮城 傳地蒙: 御裁許。 郡

賀守 廣家 判

彼所

"沙汰」付"恒高」候也。仍渡狀如」件。

御供米事。任,御寄進狀。

再御施行之旨。從

文和 二年卯月二十七日

仙邊金石志卷之三

別當 金光 明 山

一法蓮華 院 法蓮

密寺

相 應 院

護運院 地 藏院

上壽院

豊地 院

普門院

和

光院

文珠院 滿 勒 院 送泰院

本立

能

禰宜等名前

左宮一

禰宜

柿

右宮同 斷

別宮同 斷

三社 兼 帶 祀 詞 役

左宮二禰 宜 神机 體

御

守

役

清

右宮同 幽

別宮同 斷

左宮三禰 宜 御

太刀役

右宮同 幽

左宮 左宮 御

附

别

宮

太

刀

假役

御弓役

體 御 鍵 持 役 呵 部 安了

太

夫

春 日 新 太夫

鈴木 詞『應力 島学 太夫

志賀 视^ 太 夫

小野 鈴木 旅 太 太夫 夫

鈴木 小 野 遠テクタ 修 理 太夫 太

阿 小 野 1 45 師》太 夫

部 修理 太 夫

左 宮膳 部 太 夫鎌田 压

七七

右宮 同斷

左宮御朱傘役 右宮附別 御 太刀役

三配 別宮 余時 同 御膳

御 給 仕役 右宮

同

斷

御 拜 贩 花

同

斷

同

斷

流

鏑馬役

社

家

111

伏

右宮 木 膳 雇太夫 部太 夫 鲅 田 压

ヌカノブ若子太夫長田氏 鈴

野中若子太夫鈴木氏

高 先達 松 酌シャクカ 安書 夫小野 太 夫 氏

遠藤 高橋 鎌 田 最將太夫 臺城 太 太夫 夫

左宮 前 流 皷 鮹 太 馬 太 夫鎌 夫見龍院 田 氏

別宮流 鏑 馬 太 夫高橋氏

右宮流

鏑

馬

太

夫

人佐藤氏

小 野 塚 鹽蒔 米蒔 太夫 太 夫

氣帶驅散供役

櫻井 水 市市 水 笛太夫 于 太夫

Fi

斷

神笛

從

同

斷

御

拜

敷役

同

断米散

供

役

御釜守

以 上

鹽竈村之者共可"申 渡 事

以可被下之事 之物成斗被、下候、地 候。但給分之地。當物成は難。被下候問 成。右物成之分。同村之壹軒持次第に。割 鹽釜本地之內。吉津之外給分之地共一圓。御藏入に被 形御 割替以 後。來年より右之通 清 並被,成,下之 年 は 御藏 入

同斷割 當年より。金子貳百五拾兩宛。每年右同村之者共。 並可被下之事 右

鹽釜町に。來年七月十日より。八月迄。每年小荷駄日

市 可 被相 立 候 事

度。見物芝居 相立候儀。可為"

御 赦 免 事.

右於"同

村。每

年三月

兩

自今以後。商 鹽釜より。市川村山王村え入作之地。御物成之内。 圓鹽釜に為。着岸 人荷物。五 十集船。 候樣。被 並 御 117 國。他 付 候事 國。材 木 船

鈴木

御釜

太夫

從...去年 御用拾被,成下 候

鹽釜壽役之分共。年々御赦免之事。

鹽釜村者。 為"勝手之。應巢入江新田 開發被"仰付 候

右之通。隨釜村之者共に申合候樣。御郡司衆え可」被 去年より。於,同村。每年六度之市被,相立候事。

申渡 候以上。

貞享二年丑十二月二十五日

富 田 壹 岐

遠 佐 藤 A 內 前 匠

田 內

元文元年 九月二十八

山樣御奉 納 御 詠 歌 板 額

電社別宮右宮三社 一拜殿 に。 被為 懸候內。 左宮之方

候。乍、恐差上候旨趣條々申上候。宜敷思召候義に候 枚。摹寫差上候外。別右二宮分は。歌斗寫小冊 に仕差 は 上

仙臺金石志卷之三

了。御機嫌次第被,仰上一被下候樣奉」冀候。

被遊。 坐 然 堪能之御儀は。京師より東奥探勝の歌人共。唱稱上 奉納被成 御 當 御詠之額。御 泰。瞻仰 るに 奉納板額。 社模門御額は。 一一存 御連屬之御儀奉"祈祝」候。大屋形樣御詠歌。 候。 候御事に御 當社 候後は。別 摹寫指 奉納被"遊下 獅 に。御 Ш 樣 獅山樣御染筆被遊候。 上候。 लीं 老 坐候。依 御詠歌 納の 當社增 度奉。存候而。 御和 御 ना 御二代樣御額 末 歌 拜殿えも。 納 威猶千歳に文雅御 は。 八。時々相收居候。 向不.被.遊.御 四 共。 足門 山 大屋 對 樣 形樣 萬 1= 御 候。 御 傳 御 詠 民

神 庫目錄 大略 左 に 申 E 候

三十 首和 歌

寳永元年七月十日 大祭禮に御奉納御添歌壹枚 壹 軸

あり

十首和 歌

同

年三

月十

日

御

表

軸

首和 歌

軸

同 年七月十 日 同 前

百 首和 歌

同

五年五

月五

日

同前

軸

百首續歌

歌題三枚

十首和歌

同

年十

月五日

同前

短册

三包

歌 年 月九 日

同

前

壹

枚

同

和

前

此一 元文元年七月十日同 枚と申 御 詠 は。 拙者儀先年御虫拂風入之節

拜見暗記仕候。七月御直參之途中雨に

て。

晴を御

被 派 被、遊候處。即刻感應雨晴れ候由。依而 献 候由。 御詞書長 〈覺不〉申候。 御詠歌は覺居 右 御 詠歌

申候

雨くもをし

なとの

風に拂はせて影あきらけき光

此 詠草か る。 と奉、存候

多和

歌を。さみし候者相聞え候。拙者

抔 はつ

响

社 不 羅尼

焚

唄

0)

如

く。算

きなら

n

樣

に

存

候。

徒

1=

世

N

續歌 三十首

額

別宮・左宮・右宮三社拜殿に。奉、縣 板

上候。

作者目 一錄三通 神庫に入。

此度摹寫仕上候は。此板額に候。作者目錄寫上度

へ共。

には 御神庫に入候えは。鎰は法蓮寺に預り神庫開候 8 候は」。 。社 一家も立合候故。私に寫取かね候間。御用に 法蓮寺に被』仰下。拙者寫方仕上候共。

事 1= 奉。存

直

1

法蓮寺に。

寫差上候樣被"仰渡」候共。宜敷候

中臣 诚

二十

軸

獅山 迄 存知之儀 をするめ 御染筆 樣御 1= 奉候御儀 。吉田七左衛門添狀有 親筆箱に銘有。資永四 候共。言さ 和歌 ~ くから國の詩文。天竺陀 御嗜被、成候御方々は、御 年 作.恐和 より。 歌の 正德 三年 神 明

共。時 えは 近 奉、願 L 封 は 2 訓 8 n 仕之者故 。背 候放。ほ 御 候 72 歌 候 御 と違ひ。 能 儀 まる 事と奉。存 もの 態陰陽 一般不 本 屋形樣 系 は。和 歌候 何 2 語 刹 8 は にの事ら と表。存 滔 とそ 和 X は O) 下手こそ 歌 歌 (ر) え共。和 かっ 板 御 めでさせら ね カコ 變革 らせらる物。 0 候 よりしくは 額等 主。 3 は て傳 御 獅 言 依 和 。右之思意に付。大屋 カコ 120 言 合 日 山 歌 歌 被差 0) なら よけ 躰 のみ。 A 樣御 諺に申候 莱 はた 代の一 聖 唱 於 THE STATE OF 1= 和 は 人 上 申 n なく。 出 例 代の 215 候 言の Mill し。神 0) 市市 俠。 天 儀。 候。 智以 御 削月 御 世 間 地 明 へは、 風 薬。店 神慮 如意を 相 田 神 8 中 明 御 0) をうこ 候 御 含者 出 不 ことく 執 臣 感應あら は 3 的 卷 如 亦 明 達 形 天 减 1 8) は 系 やと 物等 意 高詩 B 器 能 樣御 き出 专 T 视 地 が 。佛 串 仕 75 を以 愛 गोगी 天竺に 成 詞 奉。存 傳 3 E せら 候 詠 候 L 阴 U) 遊 御 え 候 和 祭 樣 歌 智 U) T

樣 之內 是も 候。 子。日 遊候 も。御 御 詠 御 宿 御下 候事 車 存 亦 候。然 は。和 生涯 歌 追 社 候 順 赤 御 御崇 御名 を統。 被 奉 納 え 由 3 信 T 赤 御 肯 N 和歌 網 御 2 御 然 奉 祈 漢 納 山 遊 衣 n 開 敬之上。江 を記 赤 末 出 被遊 冠 樣 神前 3 候 共 記 御 於 御 銀 納被遊 納泰、冀侯。 を業となし候。 文に 肝等 類に 御 節。 川清 記水 0) 垢 上 左 運 召 1 候。 春を THE 歌 学 付 候 具 御 肪 大屋形 相 T 御 候 に候。 御 मा 市上 Do 戶表 御装 主 置 右 有暑往寒來。上 見え中 御 來納 我 上候 額。 御 御 も。出し 待被 候様に素願 依 拜 义 樣心 束 立願 1. 直 被いる置 御 然 謁 候。 り御 御 御 H 御 為遊 之儀 堂上方に 狞 13 思 水 1= F 御 力量 無.是非 本 ill I 召 3 納 能之 品品 俠 局 大屋 奉祈 一候 11-候 前十 一樣方 神 社 H 候。 叉近 帖 後。 被 儀 1-3 耳 御 形 8 子 候 180 候 御 御 遊 同 候 儀 御 U) 樣 尤 挑 年 1.3 须 事 心勞被 相 削 へ共。御 類 御 洲 能 存 御 H 何 る。是 候 赤 付 浴 13 8 2 右 校 候 束 父 小 御 無 T 3

N

2

肯 Ill

B

1=

一御東帶

一頂

纓共に 黒塗二箱 一御笏

御冠

一御單

御襲 御裾共

御袍

一表の御袴

一御赤大口

一 但淺黄羽二重ふく

門卿 卿。和 享保 御 義。自 御 と銘 享中拙者親 平 銘 四 緒 被 淺みとりの 多 分 歌之御 被 年十 郎 仰 亚 計 細。細 下 候 拜謁 雅樂 150 候。狮 門 I 月十五 0) ち 人 一宮 看 知 なし 花 に罷 山樣 板。 当。 昆 H 成 カコ 布を獻 え此 京都 鹽竈 懸候樣被 たし。 饭。 伊東宮内御奉書に 儀 武者小 はっ 其節 上 御 我符 ふくさ 仕 聽に達。越 柳 名 鹽釜 候 衣 所 付 路 處。 殊に名 中 を共 町 候 淺 納 杉 其 言 方 後 3 坂 て。延 神之 に贈 節 質陰 屋 2 越 造 え 後 h

> 義も 候。 大將家下文尊氏將軍願書等。古文書 堂上 有之義と奉。存候。 方に T 1 御裝 東を以 能此 御 祁 神 前え被相收 匝 には。 JL 通 右 候

肯山樣御覽御裏書被,仰付。

に御實物 上 獅 御 Ill 太刀 樣御 判物 相 御 收申候。先 代々樣御 御 源 被 奉納。眞御 以和 逝 御 歌 秘滅 の義 大 有之候。 刀數腰。 113 上候。 其外雲 其 他

此 千 祠 載 官 御 御 學 神师 山 文化御 3 不 は 。貞享年 朽 發 似 導 來 に。御 奉一所。御 中。柴田 詠 歌共御 資減 113 His 造立 1-奉納 御 四 献 被 上之 候 為 何 市市 遊 とぞ 山。 候

様。偏に御執達奉」冀候。

右神庫棟札云。于上時貞享甲子歲六月吉祥日。

大檀那當國太守綱村公。

臣。 久 志 悉地 新造立。 田 圓滿之處。 但 馬 藤原氏宗意。 宮御資藏五 間 立順成就。重乞 w = 字。 武運長 常 國家

と被

仰

下。

拜

賜

仕

候

歸

國。

右之段

別當法

蓮

寺

え

8

相

達。

上よ

h

御

下

织

に付。

着用素

仕之儀

御

瓜

遣候

問

神

前

彩

仕之節。

着用

拜

し自

拜

調

8

同

前

小奉行 手 塚 山三郎

奉。存 不圖 仰 達 拙 候。 者 候 存付。 却 而 以"愚意 も。 前 不 條 苦苦 だ。燈下 御 思 怒 召 1-候 觸 書認 御儀 t. 候 申 に候 義に候 候。 12 萬 10 は 10 御 本 削 望之至 え被 仰

江 權 太夫樣 出

下

間

敷

偏

1:

泰

原育

候

藤 塚 式 部

身體 御徙 夫迄 形 御 者 贱 樣 经 儀 息 震 は 詣 は。 1. 御 同 T 木 右 入 被 苗 一待 賀 御 部 爲 大 雅 0) 願 左 上 樂 屋 扩 市市 御 候 形 日 候。於 候 德 如 は 勤 樣 樣 10 多 意 近 不 も 多 明後 视 年 H 怠 奉: 祈 神前 中 詞 N 御 年 にこ 耒 神师 8 念 御 君 BIJ 浴 亦 一誠 申 湯 多 湯 修 請 療之御 F. 守 心 御 行 斗 候 護 1-發 派 1-なし 此 御 震 市高 候。 儀 意 座 仕 其 1-賜 候。 多 上居 來 節 奉。存 2 明 年 當 は 候 後 は 社 御御 候。 年 屋 拙 え

字 み み ٤ カコ 雞 叉 御 せ 商 6 1 72 湯 弘 祈 あ 5 כמ み 3 と。干 -T-W 度 72 カコ 爾 賀 1= 再 言品 きを 君 度 7 かっ 0) 2 こそ 君 安 カコ る PH をは L 平 まて 下 やま T-1= 賀 置 0) 市市 雞

> 御 徙駕 御 F 待 上候 書 1 臨個情 不、顧。御 積 8 申 E 候

頓 首

随流

形

彩

筑

後守

新

:]:

君

美

也 東 陸 州鹽竈 亦上。 配 號 祭式。 不一載記 肿 Till 文獻 小上 足 微

川。三 神。經 事 岐 等 曰。鹽 取 背 社。黑川 都 後 末 。古今傳真。能 乃和 郡 勝 神神 前师 武 有,功,于是州。 其 雷 有.庭 長 子 為 理 クに月世 津 你 狹 鹽土 家。 槌 等 所 右 主 那 加申 為應 神 社。 郡 島 有:行 祭 雁 省 Tim 前前 而 之神。則 B 以此 有 也。日 而 宫 社。 训 局 絡 定.于 丽的 顺 K 流 鹿島 前。經 城 耐。 名 牡 响 人乃廟。祀之。 英 稱 猿 神 小等 一。特是 胞。行· 一。可 頂 為 也 天 田 有 津 為"嚮導"征"是四 。美按 別宮。 **촌**。日 足 闸 主為 前前 鹿 毎 日 别 方 紀 社。 島 歲 等 TITLE 熊 の神祇 此 背在。草 總 香取 香 亦 刑 野廳 耐 in o Till 以 7得 双 SE. 义 有應 馬 岐神。 式 雁 祭 1113 Till 1: H H 7115 災に 13 之際 市支 味 道 王子 州之 國 理 [3 到 1 jiill! 之世。 神 加 御 及鹽竈 制 平 定天 應 為 到 帅。 加 11: 1 同 有 -1-IIZ. Title 夫。祭 于 左 神神 小 证 征门 庇 E 前。 耐。黑 此 Wills 市上 及國 兒神 阿 任 FI Li 下。 神。 市上 槌 或 伊 坎 勝 奈

者其土壤最曠。後分為"常陸•陸奥二州也。日本紀。河上讀云"箇播羅。即此高天 之阿麻海謂"之阿麻。天呼云"阿麻。具音之轉耳。 原讀,謂高天原地。與"州養,相接灰。高讀云"多珂。天讀云" 也。至 字比 祀典。 不上拘11今字1则思過上半 智邇 被 祀 名。州之宮城 其號。古言宇比 者。字比地邇神。須比智爾 別。則 波 地迹 柳 英 분 狭 海 事 未 後傳一今字 即 古古 土煮。 也 末 古 不 廟 知.是 女名中 祇 延 祀 計 也 則 别 恪 猿 國 日 É 馬 有"志 不 迹 [p] 主。 H 須 世 一讀云"日女。古男女至尊之稱。 以 111 本 猶 彦或 惟 比 以 解 姉 紀 記 共 神是也了郡名宮城。乃神听、都 言 據 智 波 到"于今。 益 襲 彙 稱 师师 祀 彦 古 迹。 也。 大 虔。 The o 闽 始 號 闸 事。字 為魚魚 古 以 今 即 海 所 心。 咖啡 未 天原。乃言。多河海上之地。也。古言之轉耳。 原讀云。屬論云。播雜。播雜上云。多珂。天讀云。阿麻。古言天謂云。何解。 古言天謂 之神 昔 也 今日 按 elli Fleq 余驗之。 當當 。凡東方古書。 此 削 五 鮰 少史太 名 地 須 説 聖。 原 稱 向 謂 7 市市 邇 此 所 之 耳。 那 利 古 大 伊 智 多 作 州 調 佐 形士 称 以 蓝 謭 波 泥 岐 也 凡 神。 滥 奈 古之 膽 循 功 一前 姬 士 而中 知彦二讀 岐 闸 皇家 煮。 言 德 有 加加 不,则之 THE PERSON 民 中市 社 市市 者 男 郡云 耐 者 以 用 載 有 出 須 聖 大 = 所記 名 著 在 故 山城 說 比 祭 德

散亡。 夫 冊 其書 集 安 惠美 多賀 諸 併 志波 之子 聊 信。孟 子通 失之矣、 有 述所 其。其 1: 註 以 國 世 門門 釋 朝 城 為 計 彥 稱 子 撰 預 之事 Till 於 裁 E 柳 。今字 孫 見。以 文永 中 記 風 其 亦 興 事。 近是。 中国 社 今 是事 流 有 + 一种 猫 则 有 引人 作 悉 原 未 俟 信 岩 記 师 天 跋 僅 本 安 然乎 鹽釜 存 一乎哉 可 別 傳 天 計 社 4 45-建 云。 不 या 古 則 知 寳字 循 石 相 Till 盖 JE. _ 君 不 北 初 -[1] 風 1-1 JE 言 礼。共 加 史。行 +: 或或 西巴 子 一。美 相 去 元 書 餘 六 如 加工 以 彻 記 雕 風 明 而 ME 則 年 日。按。風 成 其 [::] FL 和 师 質馬 全 島。 + 銀 间 茶 7 書。穀 物记 诗 記奏 劉六 上。 日 祭之神。 所 文 香 1/5 知 看 女 月。 学 所 不 取 限 也 年 而 仔。 10 +: 神 梁氏 4217 等 in pl) 據 11: -11 心 記 随 無量 也 御 鎮 自是之後 所 デジ Tij 本 吾 殘 日 僧 子 桐 守 勅.京畿七 質是 自 和 古 能 以 们 斯 ---前面 將 殘 不 言 覺 1 in st 社。 LI 是郡 -1-Ti. 鬼 編 和 未 同 除 傳 已 。除 餘 康 洪 萬 75 氣 年 がに 怎。 被 有 疑 嗟 重重 計 莱 原 道 丽 中山 男

址 審 定考

俗

戶

所

在

之以

謂

神

社。

m

古

時

遂

矣。但其說極長。且我有:其書。

天理心 有"交 奉祭 土之別 矣。 女相 彦 可 調 稱鹽 ritin 州 也 。放 (感。因 祁 子 鹽竈 或 名 明 故 則 辨 或 以 及宗久紀行。 也。自 士 宇 TE 釆...諸 涌 號 老 老 弘 消滅 日 內之 馬 跡 者 夫 小八万万 為 道 延 猿 公分 生々。 之地 小小 國 天 婦 妻 -11 為一個 之美 H 道 加 喜式 或 亦 原郡大社 是也 下之名勝 一之謂。 路 彦。 市市 神。 乎。 稱 遠 矣。 幸 啓行 稱 而 所 一 勢 稱 叉 在 無 共 也 或叉 是以 IL: 地 F H 北 號 TIME 猿 名 也栗 之義。而 是乃司 息焉 社 主 mill. 事 。東陸 或 字 女 山支 吾 地 按 稱 自 家 號 勝 一言 File. 君 城 前。 惟 挂 事 。於是乎。 心 說 志 古 之佳 屋 那 ... 婚姻 域。 是 多。 則 復 勝。 日 波 同 勝 王 建。宫 大 也。 號 於 呼道 其 図 子。 志 社 猿 谱 师 古 其 勝 之神 妻之 無 勝 也 保 志 意 洞 E 來 是此 生 田 開 指 加 長 若 合 音 鹽 稱 波 產。 に爲」言 m 心。 狭。 於 神 人 m 而 训 古 士 相 彦 俱 伊 温 倫 自克克守 擬 異 老 通 m 人亦 是乃鹽 前 缩 夫 是 排 地之 其 國 社 小小 mi 酒己 日 訓 社 11/1 男 六 妻 名。 総 稷 世 也 言 著 體 亦 女 绅 北 所 JE 卿以以 194 都是 名 想 代 悉 關 位 位 村 在 界 日 和 右 新 之 其 宮。 造 朝 體 山支 夫 144 ME 始 白 鰮 于 歌 前 中 出 北 電 献 所 以 105

別名

市市

所

近

阴

神

道

子。

不

矧

T

恕

夫與

我

次上者。 神。五 灣 情 名之 古之 "慶長 丧 百八十年。 一凞公親 北 大 地。洪 逐具洲宮於 于 誠 于 稱 心 良 神 朋 流上 如 训 ME 日 此 T m 十 有 神 市市 -115 मार 今之宮 興 地。以,武甕槌 合祭焉。爾 家 矣 增.國 然 年 於。 以 一。 爲 筆之。其 江 玉 浦 始于 哉。 且 丁 丹 售 命 此 別 老 乃今之市 光。 夫 未 州 社 1,1 試 六日 且 學 此 城 1115 今 夏 紛 1 以 請 也 後元 所 一書藏 外三里古內 言.潜 作 釋宗 非社 。經 勞于不 致 N 背 也 太 1 命 也 -111 献 H 뷔는 諸 lifi 部 所 仍 。安 為"左宮"以 如 久者。東 座 見 トハ 以 命 女 11 和记 兼 111-THI 年 者 我 此 今 DI. 所 連 1 者。於 庫。為 據 mil 村。而 癸酉。後 别 朝 Hil 呼 配之別 淄 然之 家 Thill 然 行 先 15 景 Ill 陸 削 将 是乎予綱考。 15 主 以 太 經 光 帅 為 頭。以 则 家 地 代 計 是 守 资 太守 别 詠 帝 隙 一 称 矣。是一 篇 或 宫。 未 沙世 心儿 一黄門 imi 朝 于 Mr. 心。 社 主 羽 晋 詳 是 裁 天九 子·八 路 圳 官 命 可 彩 町斷 船。只 政 林 乃 次 地 IE 起 謂 配 同 北 共 75 111

以。甘養 則 傳 容 傳 之神 此 建 竈 滋味 乃自 可 于 是 地 所設 親 直 浦 境 而 疑 指 道 HIL 見 淄。 不 北 干 者 以 太 輯 fis, 雖 過 總 此 此 古 JE: 朽 相 間 以骨 為 4: 市市 2 失 黨 舊 滑以 授受 管 市市 哉 所 民心 民 所 職 斯 胩 據 器。 僧 其 篇 可 家。 以 之 相 神师 平 然不 所 放 颁 事 TO 胩 他 名 直 m 傳 随流 加可 此 何. 質。 一世 乃言 其節 食養 志 113 歷 号 邓 心心 113 存 察三天 切有。 其 华 世 且 若。 州 筆之紀 也 郡" 末 411 未 器 脈 45 今社 闸机 司 依 闸 产 多。於 民 矣。 File. 混 之 賜 仍 間 而 門江 北 役 鄉 其 證 宿 斷 家 永 者。是 FILE 浮 宫 世 酒汽湾 行。寫。之文字 也 俗 紀 八 老 亦 說 闸闸 137 自是天 女女 屠 m 加 景 行 之 公外 川 H 以 猶 1 以 明 行 乃 敬 厭 有 利 降 柳 非 别 派高 作 現 紀 厚 猶 志 共 匠 言 出 祭 学 E 于 焉 考 其 F 閜 行 德 11: 祭 日 于 此 其 夫。 社 一、
文工。
遗统 始 市門 惟 州 消费 义 m 時 知 又五味 此。 一之證 面 地 TI 约. 行 古 彩空 考 然 人之 也 矣。 司 濱 于 脉 I 之 K 然 則 龙 m 心體日之 稱 於 電 究 名 後 盛 至 然宗 往 其 所 此 E 資 m 無 祭。 功 +11 鸡籽 古 名 夫 鹽 H 則 始 F 温

尤 情 潜 彼 者 種 是 II. 其 寫 麗 者 路 N 依 相 市市 37 管 皆 者 怒逐 威 心 激 浮 多是陷 加 售 新 攸 院 亦 引 器 居 向 2 依 矣。 111 宫 合 -J-TI m H 孙 之徒 第 甚 且 相 店 在 孟 11/5 III 沙 欺 馬 iffi 此 其 1 以 浮 先 者 北 去。途 己之術 在 此 却 見 爾 肝宇 地 後 屠之 次 神 世 前前 頭 然 擇 延 也 みと 前 在 焉 馆 自 畫 32 徒 舊 毛 居 非 因 道 舍 門 弊。 爾 1 世 心。 间文 是以 作 念 中。 址 循 于 --君 给 必 共 県 Till 荷 菱 淨 太 丽尼 Till 固 當 115 逐 新 His 湫 宣 序 Tilli, 微 古 议 且 職 地 以 八 建 踏 無 隘 州 皆 心 前川 即 im 社 2 2 以 智妄 佛 雷 酮 兩 作 人 家 代 何 [-過 標 遷 不 寺。始 Sin: 法 PH 沙 狹 恬 之 1110 J 修 III 四四 剩 念 11,1' 則 君 獨 作 郁 殆 但 Mi 加 AL STREET 移 不 之迹 烷 热 合。 起 計 無 可 17 猶 厕 稱 明 物 妖 11 先 WE. 恐 調 営 系统 ---怪 m E 111 m 世 7月 矣 僧 厥 作 頭 Till! 祀 木 形 致 此 部派 法 致 世 之 1 阪 也 之信 2 述 納 八 而 in 9 慢 祭 File 于 1 漫 進 不 书。 肝宇 菲 為 若 信 而豐 HI 加 輪 がに 夫。 者 ゴだ 自 市市 别是 則 知 恒 尤 形 大 以 绝 茶 示士 IIII 可 一次 得 I 家 之 是 13 往 歸 贞 混 乃 仍 洪

說 者。 豊匪 天幸之賜 之所、立云。今也。 民之功 旋 則 者曰 造 人間始 乎 。言 復亞.于 知. 煮鹽之利 利 有一大盗 世 身生于千載之後。而目 后稷之下。 之制 乎。 一綱。其二 在"夙 夫。 回日 莫,非"觸極。朱子曰。使,衆人得,粒詩思文篇。立,我烝民,書蒸民則粒。 贵唉,两 沙之前。風沙乃黃帝臣。初言"救」 口 上古 一般 之品 所,具。其 王之九 视于萬 刑 鼎望 去。 製 世奇物! 渾六竈。 時 文王之 共 1

予曾念。 或 此 所 彼 制 籍 時 島 手 姦盜 有上覆 青贵。短 闸 明 "神器之由 是奚人為 足忽痺。 市中 。豈夫 也 之義。後 九町。現 胡 二其舟 國 容 不 。凡作之所 易打 有不祥 然哉。妄誕之甚者。不足 能 者。附會 者。因 世 存。其 起馬。故 得 應 般 過 則竈中 跳。 變不可 而爲.之辭. 一者敬 能 好 去战。舉二六 事之徒。逞。產 人呼 恐怖 及, 耶。實 畏焉。此 之止 一覧矣, 日 须四 電電 也。 投 水。必變色而 口 上代神造 來遺竈 潭。水 說 游 今熟視 於是人 信其 中。 合附 者。是 波 其 存 說 興 會 彼神 之物 或 亦習 地 四 馬 者 他 示 今去 高坡 口 質質 也 也 所 器。其 妖 XI 源六 也 異 馬。 如 不 抑 7

美

質

不一部

哉

仍辨

論

其

顚

末

如

斯

夫。聞

老志

卷七

然彼 革 心心 得"其說。及"于兹。實為"住 其 奚此"並 神竈 思 我 .先人之誤。信.神 心。易,其氣。聊 且 也 也。 州 界"神器之妙 。是歲 人於"封 於神 前前 乙未 代之悠 代之舊物 內 不,容,私意 去。天 之舊 用。而 器之質。 遠 物。 哉。 平 而 具 資字 古神 神之格 所 可則 敌 論。其興败。北盡矣。 干 是 予多 バ 知 其 社 所 者獨 年 間 祭子此 思不 年 壬寅。凡 調 元和 多四 帮"考索之力。如 可 不 己 應 FIF 于 讀碑 儿 老 -思 百 說。 更 。例 陸 视 m 九 巴 ご言之 無 可 十年 射 疑

皆都 坐記 是 客 土 坪 A 平 古 目。 也 記 碑 月 一。或 叉 **史證** 和 所 々古 讀 氣 一。否 門門 難 ---考 市市 和 本 E 淮 也。壶信青則 所。著坪 附 氣 。告親 州平。日 古帝 市市 综 宮 症上 1/3 記 白 或或 不然。言、宮城郡 碑考。有"去"我 IIII 井宗 圭出 未 加川 不 合成 道 因 一行神 如 4 Till 社 1 此。此 抄等 啓蒙。 旅 市市 以 原語 宮一之言。調 記 礼。子 淺 塚 之間 称川 = j'al 利 神 大野 知 何 州 This 配 水 任 ता 已 第)別 市中 阴 宫 一。乃風 州 著 祇 逍 鎮

災異之兆

流

毎

々恐懼修省焉

可。今之靈器也。

然則

此

文治六 聚國 其徵 朝 神 可。微 名 闸 記 燈。扉 其徵 不可 邪 m 首。分。以 岐 Li 名 極 臣 日 勅 原 不 史日 兼連 位 帳 书 。姓久 背刻 使之奉 致源 也 之宣 也。又 年 州 有 可 下之百 1 陸 撰 又延喜式 三矣。 風 中 糖。以 宮 與 明 沙辫 社 庾. 將 州 。官璽之記 今古以 國 御 照 頭 日告。 其 軍 社 州 Æ "话 也 字 竈。 有 一一一 守 效 此 將 家 税之祭 時 市市 夫 宮鹽竈神 主 考之。 和 軍 政 此 社 叉近 神师 以 一願電 年 稅 令云。 所 泉三 也 宮之數字。今猶 祗家 例。 文。源 彩 :鹽電 寮 中。授從 F 典。 夫靈 世 迅 日 社 鹽竈 文。 郎 則 貞享 日 1 航 心。 朝野之尊 。祭:鹽竈 方 為二 ihiji 以 忠衡。文治 城 部 楊 並 K 社 一何等 社。 叉 二位 陸 年 宿 明 勢 軸 都是 為:與 間。 宮者 神 與 1 쪠 。崇秘 應文和 X THE . 。有 存 TIME 國 部 阿介 : 鹽電 矣。今也 响 景。 爲 响 氣 焉。且于" 配 州 大 料 奥 於 宜 献 州内 凞 年寄進之鐵 列于 言語 之古 以 秩之禮。王 質 常家常 随流 管 撰 州 萬束。 宫。 F E 夏 来 述 無雙 前前 領 文書。 中市 此 肺 今古 東鑑 大 1 耐 位。 宫。 庙 上 領 言。 宮 阴 者 類 部 貫

制 膘 假 海 氣。伊 之章。 二焉 宫 無 矣 人 前间 稲 封 和 何 氣行。 口着 所 圳 境 撰 勝 內 者 然存一于 一门 足。徵 客不 社 之秋 誰 潜 。乃神 問 謂 111 日 則 和 不 載 不 天子 秀 據 交 八 邪 竞党 都 偶 抗陰能 色。 可號 宫 史 洞 知 扶 槻 想 代 K 州 所被 本 記。其 白 正 乎 塘。 古和 入家 桑。往 始然 E 神师 那 末 少。不一說 河 學也。 故 天下 九鼎不、啻 棚 社 名 郡 脏 東與為神 氣 外雜史。小說。背 啓蒙。或 宮城 怎 海 隆之陰。如斯 原行 都 平 名 社 東無比 職 源 製鹽 各 但是憑 13 Ill Elli 官牒。 由 75 古 图 者 所 大 不 今 附 鎮 相 和1 能因 好 係 之非 川 学 117 Hi. 順、養生民。 31,2 后 心 5/8 虚之說 闸闸 徒 = []; 位 提 若 記 世 社。 所 名時。 洞 光。發 從 11: 以都 宮之封 失 13 由 野 400 世 III 傳 或 野 11 一景於 無 殿 im 死 汇 于。 宗 水 "定家之詠 以 Alis 业 是不二為二靈 哉。 E 非 HL N 有 為 末 其釜千歲 久所,景。膾 种 瑞 5,00 古 其境 加加 旅 者 且 H. 丰 都 而上 固 條 和 道 說 夫 田 夫都 K 亚 駁 氣 名 不 亦 見 黨 祭 古 山 為= F 雜 之學、 唯 和 域 氣 其 料 K 者。 抄。 誣 天 稱 界 日 漢 和 符 之 古 明 地

邇.古。以此號.一宮。終欲、蔑,如故實。客何不、察之。客山川,也。然淺學者厭,常好,異。 偏執,都々古訓語易簡

焉。況於二神 况自能 條囊麒時政之世一者。凡百 浙.雨之詠,此集乃承保二年源後賴奉,勒西.撰。先,于北 以斷之。曾檢"金葉和歌集" 置,於一宮,者。或鎌倉北條家也。亦未,足,信,今微,一事 如何。日。此書既於一宮說一不一考。今古之微。且引」或說 宮之說既得間矣。 阴 以 祠之義,乎,其如,此非,妄撰,而何邪。客醋。 降。 皇祚 亦歷:十四 然以神道名目 四 十年餘。既 中載。能因於,伊豫國 和一 年紀 有"語一宮之稱"。 抄為。妄撰 部門派 且 一不一識 宮 唇 者

鎮守府印記

畠 中 多忠盛雄

守府者也。亦唯問 西睡 者 夫東與於,天下。 以,是乎有,府印 「颗案牘旁午。必也風 也。故上古先王置,府。以 也 齿 "論"于 。謹案。續日本後紀日 無論,于藩屛最大,矣。 共 **介**霆號。 任 最 折。衝鞨夷焉。 I 而大 非 印則 矣。 。承和元年七月 不可 猶若"太宰於 且 此 任 所謂鎮 大職劇 施 矣

掬 方二寸。又續日 宜者。風藻之餘。好古爲淵。 IIII 1 中華銅虎竹節之符。乃队內所實銀硃之封、金繩之檢。 解百役。荷與軍國、者。莫不思待之後行也。復猶 其 辛未賜。陸與鎮守府印一面。无, 用。國印。今殊賜,之。 蹶 鑄"諸國印。然此印也字畫典雅。 墓藏 也 之上。可謂一奇哉。邇得二鎮守府印圖。是惺窩朦先生 堂,俱商論。曩昔久之。雖,則措,身於當今。激,志於千秋 因"其任嚴重而且大」矣。以是乎慕召簽遣轍廪漕輓。公 到一个別鑄賜之耶 不,欲,特受,奇寶之祥 视焉。 所印 然喜甚。途上、石自、洛齎、之。献 耶。將承和 可知而已。 所權 。玉篆銅紐。與、真奚辨。曾案。公式令日。諸 有識之徒。未『言不』慨"然于茲。 所 與一也。竊意或先是與一國印 嘗從"中葉先王之政熄。府印亦不可" 模耶。假 本紀日。慶雲元年四月甲子。今、鍛冶 雖未詳乎。停。國印.用.府 然面 日興語納銀 目 。素 修濶 ··府耶·於·是公之謙讓。 不下一千古之物 適度。實是慶雲所 並 训 臣猪苗 加加加 把 FIJ 言臂于 10 也 國 所 証 偏 是 司 FIJ 亦

秋。 其記。伏惟 宮 响 雖 庫。以 矣 B 臺赫臨之所以致 年 爲 界平。 耀 " 靈祇 木 府今日 烈蒿之德 乎。 之化。 復是 111 質逾 建 神 命 阴 盼墾之 先王 臣. याह 鼎 倬 所 盛 撰 庇

也。以 史牒。凡得。印璽 故 不、欲、公特 者 受"共 莫不。吉祥善事。是故王侯。 祥。 不 亦 宜 乎。 乃檢 Si 之 異 或 郊 或 域

馬。母 熟察之、侯臺之治及。庶物 裡。而後受之。若"乃鵲化龜 1.乃物之無.脛 mi 能 到 一之微。 一豈徒然也 则。 皆其兆先見者。安可、誣 可 以 哉。 觀 必有 矣。 待 固 罔 而 爾。 論

不一在 東奥於天下藩 中中 薬。而 展之大 共 必播 興 於 折 今。若夫信 衡 福 泥 之重。 不爽 則 者。亦未 果鎮 守 回 之 稱 午!!

雨 不 淫。及無些 無域百穀惟 其 稔 。俾太史氏 無違

稽首 謹撰。

簡記

於有

年,矣。

。贵公之福

而已。亦唯神之社哉

也

廼

約

之神

月記

im

%

邦家

永昌。士

庶殷贍。加之風

不

列

和漢三才圖 會卷六十 五 陸 與 州

陸 別 宮 門鹽竈 大 阴 市市

鹽竈六所大 明 神。在 7 賀浦。 社 領。千 四 百 石。

> 燒 社 祭 市市 阴 神始 燒 실수 一。味 原 和 高 鉱 座 命。大巳貴 11.5 代末考。 王命之弟。相以 于一个土 但 往 人 当 造

题 此 浦 風景甚 好 前 则 1 美 而 無雙 地 李 115

陸 T 奥 בת は な 67 つく B は あ \$1 2 鹽 カコ 36 U illi こく舟の

7

ナン

封 內 名 問題 志卷 七 宮 划龙 和的

多賀

rion

社

在"鹽德村"。

神 名帳 []U 座 2 四

府。是 名帳所 今之鹽竈 HIH 社。 三社 今社 心心 前面 地 宮。郷 天"降 多型 去。多賀城址。十八町除云云。下略 神社 說 于 浮島 H 無 明神 师 祠之於國府。 見。 也。絲 今愿電 儿 說 形上 E 。延喜式 至 故號。多 X 門 Will ! 國

鹽竈 社 己下 · 決 鹽 電 献土 過之地 憇 息

市 牛

步 絕

石

千家鹽竈 血或 鹿。又作,干智。义作,干香、以作,干香 °枕 作

自體 人屋市店 社 邊。至前 。漁家餐舍尤多。稱,之千家浦。又號,鹽竈浦 江 11.2 液。 酒 鹽竈 m 寫 地 名。 共 間

斯 沙地也。 商舶之所。幅輳,漁舶之所。輯會。 之便。 而豐 饒繁昌之地。 故行 所以 人來 專"商 往

膝 北 絕。釣 日 有二 殊 晴 高 光 徒 阴 冬 常 Ш 滿 日 京 冰汀 法蓮寺。寺下以 一族 時 開 险举 花 魚蝦 F 々影涵 日 E 間"步 藤 東 陰 有"沙 陰 下。 隈。 仍 本社 得 汀。曰:小 往 北 井 後 名。 山 山 松 頭 「有」寺。 電 一碳。其 有 祉 以

東

有

E

東

震

寺。青

松

藏

山

村村

林

賞心 洪 島是 III 峠 外 更齊。 有二二 也 "碧灣。去二千 日 。縹 島。 沙 白鷺之破 今之威懷奚異。群島 浮。滄溟。 E 家海 高島別 查 凡言 汀 念。 島。 一十町 海 海 餘 日 上之景 鷗 極 "天女島。建 有"巨島。 之 浦之染 HIE 勝。 沙 則 汀 碧。 所 海 烟 非 明月 遠 波 無 天 雲浪 運 問 酮 不 之 鯔

勝 境 也

起

發

应义

者

與

古

所

が稱

相

合。

而實扶桑之名

笆籬島 営或島作 或間 所離島。或作 一郎木島。

千賀以東 二之笆 紙 阴 H) The state of 除。白 東 北 銀 乃 盤 有.蟾蜍。小 F. 心 詩 螺。 蛇。解 島 鞍的內 F 有 裏女 市市 祠

> 各彷 其島 相 洲·梨隈·杉濱。白須 御·宰相·鴉洲·浮龜·鶴舞·姑射·箕輪·罽鎧·兜鍪· 似 潭等。島 々各依 補 が 戎 人 嶼。汀 服 被 形 情等 rh 於 勢。 順 洲 mi 相 是稱 IIII 液·水沙川 分。而 設其名。就 朝 共名 官房 列.于波 等 湯 也 सिहा 中 其餘 開 始 間 灣 金 共 如"女倒 IIII 亦皆 兜 是 北 祭二島。 浉 山 同 次 後 之。 训 相 及筆 續 狀 亦

肺

鹽電

明

本

朝

TILL

社

窓

Fr.

子

道

表

撰

笠島 道 加 那時

爲二。 道祖 歌 放 西 後質 謂 逐 三 名所 條院 神也 方 條北。 外 方 騎 寶 御宇 以 日 一。行 此 に馬 方 寫 中中 州 出 赴 人 Thi SII 歌 弘 人祭 必下馬 出 古 出 将 枕。 路 初。見 里产 藤 過 拜稿 道 鄠: 松 原 圃 質 7E 近 浴 神之女也。 耐 Mil 方坐。不 古 出 方問 古 或 沙沙 野 野 造陰 1 國。 松 松。其 一一 E 敬 m 神。答 例 以 初 是陸 無知 謫 ハいろろ 777 答 過過前 與 EN! 普 巡 則 人。 州。三年 淄 FF. 消的 名 朋 州。 有一 力龙 取 mil 人。故 必 賀 那 丽 -11 註 笠島 茂 今分 小小小。 被 和 川 洪

共 我 驗。今中 1115 1 寫 Hi 將 雀 哉 其 須 徑 那 派 行 來 品 質 王 方馬 浴 城。 Ti 俄 入。內 方 製造の 1-1 。然則 裏殿 實 方 上臺 此 亦 死 10 盤。以 品之女神 因 葬 飲 社 啄 也。 侧。 形图

晋 鐘 唫

芭 獲 游

鹽 T 少 カコ まの 月 わ かっ 秘 浦 つ聲 幽 に、入 1-1-籬 0 相 カコ なてか 島 0) かっ 0 ほ ね 老 なしもと。 ٤ 近 聞 30 誓 五 月 U) 3 小 雨 け 册 0) h こが 空 心 聊 2 Ġ は 知 n in

1= T 8 奥 Ŀ あ るり らず。ひ ع 哀 な Z U 8 り、共 72 0) 3 多 調 夜 カコ 子 目盲 72 5 3 5 法 平 あ Biji け 家 の、琵琶 て 1-3 枕 あ をなら 5 らす かっ 5 舞 かっ

5

n

To

とろ

な

よ

せ L 5 5 殊 ま 勝 n V に覺 て。宮柱 200 5 3 ふとし る す 早 かっ 朝 < 1-祭 Pili 邊 士 樣 カコ まの きら 0) 遭 15 明 風 9 闸巾 忘 1-かっ \$2 記し 3 石 3 守 U) 台 階 再 0) 九 BIL かっ

伊に 果 0) 風 塵 俗 土 重 り。朝 なれ 0) 境 ٤, H て。神 あ H と豊 是 0 V 玉 0) あ n 垣 神 5 多 72 カコ 前 1 1= R まし ふるき質燈 カラ す。 ますこそ。 カコ 7 あ る 30 吾國 道 0) カコ

> なし 勇義 カコ 年 力 2 來 0) と言 忠孝の士なり。 戸 誠に 0) 係 4 5 の。今日 人能道を り。日 0) 面 に。文治 旣 0) 1: 削 勤義を守 任 午 にう 名今に至てし 1= 近 カコ 年 Los U 和 し て。そゝろに 泉 船 をか 名もまた是に 郎 たは 省 b 進 ずとい T と有。 珍 松島 L 3 Hi. わ 72 事 Fi 13

詠 泉 忠 衡 答 進 鐵 燈 詩 並 歌

72

30

人 口 存 名 功 義聞 容 無 足 錠 燈 分。 月 明 犀 秋

影 照 長懸 15 杉 文

剱ツル 太刀名社 社不朽燈 乃扉爾千

文治 鐵 烷 厅 车车 52 校

> 和 泉 郎 寄 進

代乃影毛見

成っ

申 取 附 右 達。致"箱 原 居 候 流 候 儀 1= 1 8 付。 所 難、斗。 入指 寫 當 1: 番 置候 8 取 鈴 候 仕 大 就。 肴 廻 开川 也 御 部 取 市 放 見 庫 當 候 1= 申 え 納置候段。 聞 7 も。片 候 間 屏 叉 方丈えも 坪 候 カコ 被 ね 流 相

政四年七月十八 日

寬

東園寺

四 販工馬 献 此 斯隆。是乃 財。而 日。 湊以助"郵驛。六日。免*耕"作佗邑、之稅。以優"本邑之釋 歲發。千金 貞享二年出 府 於本國。因亦欽。景之。而至。 乃祀典所、載陸奥第 寺置 年六月廿 。有"留守職。皆宗 "綵花一不」與焉者。 |矣。以爲,使。洞喧 來奉之無意。其地富 聖新 四日 先 。耕,作本邑及佗邑,者。赋歛丁役一切蠲,之。八 君肯山公之靈牌,焉。寺北 赈 田給 一个九 日 。張"戲場乎春秋。聚以盛。五日 肯公之靈也。 給之。 一時心 條。 。民食。九日。月設。交易 每一當! 祀之。至。我 三日 宿 宫。 隆.盛乎無窮 曰。以"邑之貢稅"分"與 齋會!此 是 日。 而比 而 令」得,每歲七八 。其民也豊。 鹽竈祠是也。 肯公、大起。嗣慎。 寺。 受,其赐。 邑長等上。于 先君貞公。始受"茅土 拜"其靈牌」云。 則在當 有。大社。嚴然存焉。 祭 尊斯盛。 一、遠 肯 以通,四方之 古者有 月 茂碕 公以 地赈 近海 之。二 間 杰 1. 鎮守 之廟。 享保 民。 舶皆 祭鈴 此 त्ता 祠 日 寺 壇 中

> 師 工匠 絕 禪 出自,本郡松島邑青龍山瑞岩寺。以,大林和尚 之所"以 師之功也。故被許,本執事位。請 破 文才。德景道廣。 之正傳。而定嶽祖 月 次 廢。師 之功。將何處安、靈牌一哉。因今志。寺之所存。 巒溪。次辨山。次老樹。次湖山。 而余不侫也。 也。乃至一今綿々至一余。且吾師 因 經治。學 緇素 「延」師出,世于天麟。蓋欲、令。國 設。樹 乃歎曰 斯 余嗣 法 石。以鑑于 翁之曾孫也 此縣罄者 M 肯公厚歸嚮焉。 執.役。三年而成 瑞岩曹 後。 。党安 靈牌 。定嶽師深二子禪 源 次鎮 寫。中 初 Alli - ° 時 上"此山山也 師之大法。 州 與風。 則 17 "輪與之美。 之所哉 命 松島 次了室。 夫荷微。此 理。兼 圓 地法 爲祖 年 永無斷 则 補 乃慕. 皆吾 次湛 國 有 師

宮城郡鹽竈邑泉澤塘碑安永五年六月廿日。松岩山東園寺第九世惠活撰並立

之西 奥宮 民屋千 北 城 郡 有餘戶。人口 可五五 鹽竈村、東 百 步。山 八千餘 法。仙 間 有 臺三十里。其 110 训 泉。 mi 是為 無有 泉 山 -11: 澤地。 有社 水 矣 稷 洪 去。邑 之神。 下 流

窮。是 常流 之者久矣 皆用,之。則不,能,莫,壽水之害與,其不 為,生無不,一賴之。以是酒酸及供, 濁水雜焉 不二斷。餘水徒多入,海者。以,故方,農 吾耻 縣 也 。民渠而取之。以爲,炊飲灌田之給。蓋邑民之 其間 。設"穿地二面通 民鈴木氏者、 爲橋者二。 。有"救民之志"。 究 為。葛莲往來之涂。往々有 作并而 潔心。而 神明.之諸物。亦 取水。 嘗謂邑民 一時。或 使 其渠以" 涸 之有 民苦 渠恒

取清 門。其助費者之名氏。亦皆書"碑陰、 事之。越三月竣,其 不」已。途記」之。繫以、銘。縣長姓鈴木。名等清。 官可」之。於是穿。邑之東西,八百餘步。作,數十井以、筧 庶幾亡。濁水旱之之憂。因請。之官。以、私費、作、之。 為"民利。冀欲"以不"朽之乎石。請" 水。仙臺之志士十餘輩 功 一矣。於是父老皆日。 。亦助"其费"安永丁西 直 云。銘曰 義記之。余解 吾縣 字勘 長 蓝蓝 右 初 不 衛 敏 心 夏

塞遇,母"發"餘水,方"農稼,將"大用,之時。啓而

統之則

水。渥泥炊餐。薦神以、汚。田則暵乾。鈴木勵、志。穿、地苦何為大。救、民為、難。此鈴木氏。有"樹、德爛。鹽竈窮

天道與,善,況神容闕。孰受,其錫。繩,彼子孫。取,泉。通,筧滿,井、用,渠灌,田。鹽竈之民。斯殆,涡干。

郁臺 奥 田 直

美

記

波亭記鹽竈江後山碑

煙

ME 態。時 繞,舫 者江 也不一蔀 攸 勝可」云著。去,此江後 所認 之。予所,典也 然無,可,想之臺樹 所,稱和歌,焉。時與"同遊,憇"此亭。心濯"煙波,神馳"雲 鹽竈之浦 山 月不」一言哉。江 畔。 變幻者 望地 艇 中之為、觀最矣。朝险等 刈 |棹||松洼||泝||釜淵||亂||瑞島||而 不垣。棟字覆 西 一樣 我皇城八洲。而甲其 有江 不一可,勝記,焉。王孫攸,慕聖 草 。祠之正東 山 伐 之游。登望之樂。去此 後 者恨矣。茲志與"子弟 惡木。於此奇 山場 "風日 者探何 劉 一而已。遂 떒 有。洞 晴之勝景。 رَيْمَ ا 處 那。山 膠 石叢 漁 稻 顏 考 建 们 施則 軒 附包 Dil. 興. 竹順,美矣。 前 地 日煙 製 當當 共謀構 質風人 炉 縮鳴鳴。 此 游。 探 攸 浦 THE 村子 福。 波。盖 何 倚 而已。其 併 畑 韻士之 亭。相 處 以 一波問 炉 情 據 耶 祀 型

際。則啓乎遺」世者。景羨"景觀飛閣,乎哉。質風人韻士之

所"渴望」者。於、余得、之非耶

天 明二年六月廿五日。應,家 君命 以記 藤塚 知周

建 保三年名所百首歌合。夫木集

浪 カコ まの 烟 U)

> 順 德院 御製

50 雲の 波は それなから朧月夜のしほかまのう

子 崎 之碑宮城郡鹽竈島

有。獅 如 仰 日 神隱。護有、靈祇。滄桑之變。誰可,能爲。人口是記,更我 歡怡。藝之巖島 "竹和二絲。無"視 鹽 東名 電 崎。展山 Till I 慶雲蕃滋、島嶼點、波。如"局 干 ·斯萬 面海。景 。形穢可」思。丹之橋立。退舍可」咨、徠有" 斯 匪 與 一書。无"聽非二詩。應接不」暇。耳目 海 勝最琦。左望。富 松島 熟年,雄 布 ご茶っ 雌。爱州爱游。艮 山。惠日 松 杉吟 晴曦 風 右

勒碑 傳之千載。示之八維。

文化歲次庚午夏六月

正 三位 刑 部 卿 藤原貞直銘並篆

與之碑莫,典雅於多賀城。莫,奇,怪於燕澤。 今風騷之土。吟詠讃賞。幾無,遺美。即 始 獅子崎之碑。真樂翁愛,其景勝。而所,建也。翁因,尾州僧 雄嶋。其它鐫題又足一可、觏。 顯,於世上矣,至一如,立石刻。颂者。熙乎未一有 翁之甚愛。而 下之絕勝。而 崎之下。乃至。神 外之連山高原。林麓之崖層。見錯出廻巧呈秀。 或近。若、浮若、沈。星列棋布。波濤洶湧。 顧 浸。如.狻猊 非以,搜, 覽要地 凡 銘且篆,焉。誠記,其碑陰,曰。 篇宗。致"圖與"由以求"其友 不 "助" 造化奇極觀望之致 海中島嶼 一松島。則 奔騰蹴波絕心湖。 其島嶼州渚。爭為"詭狀」者。殆不」可」數。或遠 極夥 斯崎 逐有"斯舉」也。盖宮城 祠之宏麗。佛寺之莊嚴。亭樹之結構。未 又極奇。而翁之所 哉。但詳其 者。又悉聚,其瑰偉秀絕之觀 。獅子崎在「鹽竈東北數里。 也。 然其於"景勝之概。 、地勢。 氣象甚雄。 正三位刑部卿。蘭溪藤公 夫松島 勝名。著自上 一愛。特在,是崎,者。豈 後 其詞藻亦籍之。以 負 雲煙縹渺之間。 高高 鹽電 右 間 莫。鉅 腾 岡 也。 This o 鹽 號 前 以効。諸 皆置 一世。古 記麗於 诗"互 籠 且 左 而 東 平

仙臺金石志卷之三

之說焉 其號 者。此 其才行之美。 不 出力 刘岩 湯, 狮 -j. 1:15 此非 金氏。居.鹽竈里。翁風流醞籍。嗜.學善詩。併 碑之所"以為建 多可"稱述。而是特記"茲碑。不 勝名之所 U 也。翁名 州 損。加 珣德 事理 田 字巨元、真樂 ...附行 誠 有"不"當 季 成 而為: 記 然

文化庚午夏六月

平安

天真道人秦台書

寸。 **分**。横一尺五寸八分。 碑高四 寸八分。三十二字十 字數百五十五字。 尺五寸餘。幅二尺五寸餘。 Ŧi. 碑陰欄內。竪三尺八寸。橫二尺 本文欄內 行 字數四 篆額欄內 。竪三尺。横二尺 百 五 + 竪四寸五 字。

陸奥鹽竈浦白坂 普門院鐘銘並序

則智圓 夫梵鐘 大悲像者。行基菩薩之作也。傳言當初鎮守將軍源義家 朝臣。東征之日。載,其尊像於髻中。 新, 贼徒之降伏。 也 者。般若之標幟。 圓 通自在 無 不,觀音三昧。矣。 圓空為"之形"心空則境 伏惟。 将門院 通境 賊 通

> 化疏。翁欣然忘」勞。以惹,四方。不,日而貲聚焉。造,新鐘 平 銅鐘。元 故小像,藏。置其胸腹。蓋所。以恐,土俗之觸黷 勸弊有 麓 累世 兵衛者。所、分、鑄也。星霜時移豐隙 文化辛未春。有"村翁壽孝者。來謂」余日 後立詞 緣。與"鳴鐘 優今保,齡八十八。更無 於此 土。以 之廢一酬。薩埵之恩。余是,其言一授以 遺"善政之德化。其 "現報希 破裂。 。吾儕住"大士 後作像。 願 無、報、唇昏。越 心欲為將 和 个以" 來 林

一口。因請,余銘。迺勒、銘曰。

大士三味。 普說圓通。 梵鐘功德。 妙用惟同。

悲願 村 民捨, 應信。 凫氏 伏魔 錬 開 夢。 銅 雙椎 序 新 增 度響。 盆 福 论 至 鄧 無 摧 窮 鈴

鹽竈八景

鹽竈專烟

千賀漁夫

鮮。曳、寒分,斷雨。和、霧罩。行船。 嘗預 融公賞。景光黃昏千賀浦。鹽竈簇,幽烟。柳塢涵,風翠。 花崖摊 露

遷 洛川。

離島陰 雲暖 凄然斷 雨寒。沙鷗飛、夢濕、洲鷺潤、翎乾。

松嚴落。 波浸蘆岸寬。釣翁始脫、笠。 仰。霽 坐 碳

加加

社 頭賞春

山社 浥_露芳姿淨 十分春。參差花柳 迎 風艷恨顰。一 新。綠堆粧 枝强不,折。 "燕界。紅 即可 間飾 便 常際。 明

蓮 臨潮

飛樓聳"碧寥。 萬 里 瞬 春潮。玉穴渦生水。 銀 山 涌 接

威洲荻 振。雷怒岸松搖。空逞雄豪望。 依 欄眼 界

遙。

江 鄉 春雪

二月雪,江濱。整斜冷艷新。寒蘆瓊葉亂。斷荻玉花匂。

草禁烟汀碧。梅妒野水春。驛樓吟斷處。漁笛過、雲津。

前 津泊 舟

秋夕又春晨。 征 船 泊 此 排 楫歌 分"土俗。 鄉 酒 心。悲

> 辛。雨卜篷牕月。風禱江社神。 雁雲歸路遠。 瞻望五

湖

松浦秋月

愁。寒光千里 **凄凉松浦秋。** 海。爽氣 明 月滿二 五 更舟。 洲 鶴水 枕籍篷中 歸 "仙夢。 画。 猿雲豁。客 遐 思赤

程

逝。

菇 一种懷古

塵。賴 將軍藤惠美。疇昔示"寅民。字暗添"新墨。 朝騷雅古。宗久遠遊親 。緬想天 平歲。 讀 行銷苦...積 碑喧淚

頻。

鹽 籠

嶼 मा 浮 圍 青黛列。潮 江 水 寬 煮 洗白 海 釜 沙 猶 一殘。神 乾。京洛川 岳 心松杉古。 原水。今思勢像難 發扉 風 月寒。

千賀鹽竈

類 字名

所和

歌第二

續後

撰

活

陸

與

0)

ち

カコ

陸 與

讀 人 不

0) 鹽 かっ ままち カン ts かっ 6 かっ らきは あ 知 は

82 なりけり。

同 歴三

わ かつきにけ かおもふ心もしるくみちのくのちかの鹽か 6

山 口

女 王

前大納言為氏

續後拾遺送別

よしやたゝちかの鹽かま近かりし かひも無き身は

家

新

古今秋

慈

圓

風雅戀

遠さかるとも。

爲

ちか 聞くたにも身こそこかるれ通ふなる夢のこうちの 0

安嘉門院 四條

同

冬

同返し

身をこかすちきりはかりは徒におもは四中のちか

同集第六

のしほかま。

鹽 竈 浦磯

陸奥 宮城郡

古今大歌 所 御 歌

陸奥はいつくはあれと鹽竈の浦こく舟のつなてか

夜

る か、鹽 かっ ま の浦

ふる雪にたくものけむりか

き絶えてさひしくも

あ

同 みし人の煙と成りし夕より名もむつましきし 哀傷

まのうら。

[4]

戀五

同

わかせこを都にやりて鹽かまの籬の島のまつそ戀

まち

載 秋上

=F

鹽かまのうら吹風に霧はれてやそ島かけてすめる 藤 原 清輔朝臣

0) の月。

ふけゆかは煙もあらし鹽かまのうらみなは

てそ秋

入道前關 自太政 大臣

紫 式 部

ほか

山 口 女 Ŧ

續古今春上

しほかまの浦

のひかたのあけほのに復

にの

こるう

後 鳥 羽 院

同 雜中

けり。

隆

き島

0)

松。

見渡せはかすみのうちも霞みけり煙たなひくし H 同

同 F

かまのうら。

條院 皇后宮

煙

たつあまのとまやも見えぬまて霞にけ

大

納

言

經

信

な

しほ

古へのあまやけ むりと成ねらん人めに見へね しほ

かまの浦

續後撰

上 天 皇

太

鹽かまのうらの けむ りは絶えにけり月見んとて

蜑の しは さに。

同

戀二

よ み 人 不 知

しほ H カコ るか まのうらとはなしに君こふる煙もたへずな

右大將 道綱 母

p

同

h

みちの

くの

ちかの浦にて見ましかはいかにつくし

かっ

浦。 從 三位

行

能

同 かまの 旋

竈のうら。 おなし~は越えてや見まし白川の關のあなたの鹽

同 戀 Ξ

正

=

位

知

家

しほ かまの浦 0) H むりも 有るものを立名くるしき

身の 思ひ哉

續拾遺 冬

法性寺入道 前關 白太政

大臣

72

かきくらしふ しねら かっ る白雪 に隠竈 のうら 0) It む 3 3

玉 贈 カコ 莱 まの 賀

磯のいさこをついみもて御

代の

敷とそ思

忠

鉴

ふへらなり。

續後拾遺 春上

> 京 極

煙なるらん。

海士のたく煙よりこそしほかまの浦の霞は立はし 後

同

め

けれっ

新千載 春上 む空哉

しほかまの浦のけむりの一筋にたつとも見えい霞 權中納言

藤 原 爲道朝臣

漕舟も波のいつくにまよふらん霞の奥 0 鹽かまの

藤 原 隆信朝臣

新拾遺

雜上

明ねとや釣する舟も出ぬらん月にさほさすしほか

まの浦。

新後拾遺 春上

正

位

知

家

春のいろはわきてそれともなかりけり煙そかすむ 鹽竈の浦。

僧 Æ 賴 FU

同

同

鹽かまの浦より外もかすめるをおなし煙の立かと 爲 道 朝 臣

そ見る。

新續古今 春上

源

俊

賴

朝

臣

公雄

同 カコ

いつしかと霞にけりな鹽かまの浦ゆく舟のみえま ふまて。 權 大納言 質重

年のしまのへたてゆへそことも見えぬちか

のしほかま。

秋

霧の

仙臺金石志卷之三終

ことうらの春よりも猶かすめるややくしほか

まの

仙臺金石志卷之四

目次

名蹟三之上

松島上

瑞巖寺雲板附鐘

陽德院鐘附雲板小鐘

五大堂鰐口附鐘

雄島碑附鐘

天麟院鐘 八幡宮碑

把不住軒燈籠 圓滿國師行狀碑

阿彌陀山勅使松

松島賦碑

松島雪月記碑

福浦島毒龍遊碑

松吟庵鐘附藥師堂碑

仙臺金石志卷之四

名蹟三之上

仙臺 吉 Ш 友 好 編纂

松島上

嘉曆丙寅秋

松島瑞巖寺雲板銘

五百五十年

圓 福庫院雲板

住持明極誌

瑞巖寺鐘銘

古德云。坐,水月道場。修,空華萬行。降,鏡像天魔。成,夢

竟。號山日。松島。名、寺日、瑞巖。蓋松島者。天下第一之 中佛果。大檀越黃門侍郎。伊達藤原政宗公。建,梵刹,已

好風景,而瑞巖者。日本無雙之大伽藍也。公命,匠人,鑄, 一大鐘。以寄。附于瑞巖精舍。就。余請。其銘。綴。拙語

其需。銘曰

輪與美哉殿閣連、蒲牢高吼白雲巔。氣清光朗接

宿。月 潮 平 到 客 船。 殷 K 海 温 亚 絕 處。 聲 A Ш 寺 夕

陽邊。從。枯華曉積,迦葉。禮樂縱橫億百年。

次鑄焉慶長十有三歲。著雍沼灘小赤吉辰。匠人早山彌兵衛景

釋氏六十八世再住妙心,現住覺範。虎哉宗乙書旃。

道 以 來 松 不 島 動 性 略 123 自 碑 八 鈋 JE 道 無權跡。

枚號八幡大菩薩。 位號八幡大菩薩。 一人正道無,權跡。得,能解脫苦衆生。

大檀越當邦太守伊達忠宗。

寬永十七年十一月二十四日。 住持傳法沙門雲居

封內名蹟志卷七宮城郡

八幡社在。松

陸與宮城郡松島八幡。奉勅便。早良連惟保時疫。類聚國史。畿外奉勅宮社部曰。舒明天皇。三年七月。

松島陽德院鐘銘

大日本國與州路、松島山裏陽德禪院者。東征將軍田村

味 丸遠 不」偉乎。 東照宮之貴公子。上總太守夫人。天麟院殿者 大 女也。孝心太純厚。 禪師 鐘。 榮菴壽昌大姉菩提 孫。清 俾 雲居老漢。 空 顯 上淄 卿 女子。鎌足 侣。 為 松 開 華 值 基 道 知校 "大祥 加 場 公後裔。仙 志 也。 那 忌 書 那 正保 為助 副 Rifi 之時辰。 道 是 始。延 其 風 中 超 納 更 特 邁 稲。鑄 其 大姉 賜 政 功 慈光 宗 時。 德 之息 此 卿 可 與 不 夫

興古 覺 功。插 筵 徹 = 大荒之內 毒 雄 盛 方空。 一獸蟲 事 佛 構.高 草外建"巨梵宮。 來 家 日 再回 風。英 規 本東。大陽之德資始隆。 堂一台,掛。金鐘。是南 龍 範 破 檀 綿 六贼 外護 延 列 三世常住 狄戎。聲 聖叢 及"無窮。且 游 人態回 所作 主 方無垢界中。一 人公。 喜萬 Ш 全將 靈謹 長夜夢 歲 越 配 直 堂 前 霏 封 心 問問 女成 躬。 見.性 些 長 K 透 法 時 殺 大

延寶 陽德院殿尼大姉。廿七回忌冥福。 承 戊午之秋。當邦 應甲 午歲 十二月 刺 史羽 日 林 綱 = 村 預俾 住 卿。 妙 心 治工補,鑄 為 洞 追 水 薦 東 19 初 敝 和 述 鐘。 处比

於,是誌,吾派大機圓 應禪師所著之舊銘一矣。 欽願大檀

越保護。英運長久。國家安豊。

同 年九月念四 日 有司 菅 安積茂左衛門相信 野 次 兵衛 憲次

治工 德 現 早 住 非 大 彌兵衛 領 義 猷書 定次

同 院雲板 鉛

寬永改元林 鐘 三十 四 日 松島 陽 德院現住夢 庵

松島 陽 德院小 鐘銘並序

佛閣。 鐘之爲、器。 鑄.小鐘。以附.之同邑長谷崎觀音堂。匪. 营資助. 親眷先 不可得關 冠 , 絕衆音。拔 , 除諸苦。 功用孔洪是以大小 也。 粤東奥州松島邑居住信男。範金

哉。圓堂司守眞禪人。令,鐘上座銘,之。曰。 亡后死冥福。

復教。幽明

群生。

聞.性

證悟

功利不.亦韙

福。聖賢養、功。宏哉 一。惟鐘 為洪 法器。利濟 驚.覺昏 無窮 念。開 通

慧聰

兩

頭炭

寬保三癸亥結夏日 天童鐘 靈應謹誌焉

> 松 島 水 主 ml 施 主茂兵衛

願 主 淨

近

北目 町 治工 一田中八 兵衛富 高

心月花主守

真

松島天鱗院鐘銘井序

禪種師 姉。 其僧侶」者。儞與」我 種 々修善,不,可,勝言。終創,一字練者。度,三簡 曾不」忘,靈山受付之義,以與,景三寶。 持小 金數顆.來。語.予日。 祖瑞 也。謂,其練若者。天麟 大檀越全祥 而 為 僧 禪院 往 侶。謂: 尼大 生前 也

席。胡爲不」念乎。我此小金雖一不」當。費資萬一。化一一金 **島鐘**」鐘為 道場莊嚴。靈山改觀 法器之最一大姉豈不。在、意乎。 僧園資具。 自稱。常 住。雖、然未,有" 今儞幸司,院

之。 成"萬器。又爾功也。 即 控 "戶々門々"鳩 遺鑄 歷歲 破了底古物。 鐘 價質 大姉之宿志。 鲖 盆 领 祖 金本 肯 錫

鼎。銀 錯。 或 鈴 鐸。鐃鈸。崇鏡鉩 到川 無量 閑 家 具。與 有高

橋氏居士本叟聞之曰。 附,于諸寺。故識、治師能否。我命工 善哉厥志可嘉。 全,其志。於 我 曾聞 七箇

伽臺金石志卷之四

鐘立爲之。銘 B

施功。 空。松島 寂 存"于中。教"他苦趣。破 六根 金萬器 圓 素月。竹浦淸風。淑靈長逝。開性 萬器 通。觀音入」理。福 鐘 物 N "我昏蒙。 同 利無。窮。懿哉是氏。不。浪 體 法 々混融。聲發"于 朝 擊墓擊。 常 聽。 人空法 兩 耳 外。 無

延寶第七己未 年。孟 春 初 八 日

松島山下。天麟禪 院守 塔比 冶師 丘 早 黄 山 河 萬 幽 太郎 淸 謹 清 記 次 作

松島 Hi. 大堂鰐口 鈋 五百四十年

敬白松島 五 大堂寶前

右

志者眞壁

助

安。

右

息災延命。

乾元二年癸卯 閏四 月 + 日

同觀 進叉五郎入道。為"武 運

松 島 五 大堂鐘銘

瑞巖 廣大之伽 寺殿 监。雖 。前黄門貞 然時機 山 大居 未熟耶 士。 剪 肺 開 佛 多年之荒 未 容耶。 榛。建 住 持 立 遷

應 鐘之日。 學助常良。鑄 嗚呼時哉 於是乎 懶」于操 變。而 未成 無四 前 大 寬 映 覺打"安眠。 乘 寺久廢兮境久 地靈人傑古道場 波波 住 檀 永十九壬午年 主席 忠宗公之佳招。漂然而 機自熟 妙 越 五 生。 夢 筆。揶揄自立。 常良告, 膺也,以求, 銘焉 心 松平陸奥 大堂。 今兹寬永辛巳夏之仲。二十四 忠宗公與"營已廢之歐 不 裏明 現住 · 暖。禮 "華鯨數口""構 聲亘大界大千。百八徹三十三天。 分時 骨 R 當 高 沈念滅 流 孟寿 有。四 自 太守。伊 山 歌 樂寂寥。 地 時 穪 雲居和 僻 而撞,鐘作,舞 + 未到分機 巍 曲祝.君 等坐禪。御 生。樓已架分鐘已鳴。 人稀古道場 形 々堂 高樓 達 B 來並席 而 尚 菲 們 製 K 王千 胄 未 学。 院 以置諸 **胯也** 康 Li 常 歌一 佛 續 。境 原 應 秋萬歲久昌々。 陰兮瑞嚴陽。輝 荣 寒 乘 朝臣 老衰拙于 修久 一然而 大開 IIII 奠 寂 堂。樓 **門閣梨**。 鐘 N 歌曰 今寺 断之禮 未 命 住 寥 成 經 730 寒 金品 後 人 歲矣。 大 弄 而 轉 空 山 15 不 樂 光 掛 樓 佛 月 Alice . 意 大 N

奉行

小川八左衛門景成

治工

堀

江

左

吉成

早山彌兵衛利次

早山喜太夫光次

謁言 梳字 滅。 德治 見佛上人來結 日誦,法華經。先十二年中已滿,六萬部。後至,八十二人 吾鄉與州 厥 内午冬、 異 後所 舆 巨 颇 有一松 漏 州 多。道乃遍布。聲聞 奥 子 111 御 州 建長 島 ,再居 島。 妙 手 其侧 一禪寺住 覺花 其 居。見佛清苦精進。身清教 『福山。丁未春 師 有御 賴 行質 山 賢花主 一唐僧 島。有一花 朝 心也 通。性 野。適鳥羽院當字。 一行實銘 。有"僧 山山 六根既淨能役"使神 香禮 日 国心孤 寧撰 並序 妙覺。 足。謂予曰。 運。來 口緘默。 乃曩歲 賜 禮

畛畦 生於 衆攸 法華 賜」之故、時 儀軌也。世壽今八十二。僧臘六十七 既居 空嚴慧和 法 無隱範和尚。住. 松島圓 之忽自悟。謂文字之學。非,出 寺。為"童子。十五雜髮。而學"天台及眞 名最揚。 本尊器物。以旌"異之。其島本名"千松島。以是佛承"御 後。我之責也。相與議立 弟子:三十餘人。匡心孤運等。 一無,異味。仍回。圓福 一待 歷上年老大振興。凡法社之未 歸 心 本州源氏。幼 于。東福一大覺子。建長一佛源子,壽福。 物 住。禪寂。二十二年。影不」出 人謂見佛上人之再世也。矧其天性 盖由,見佛之故,也。吾之師名賴賢號,觀 倘 如一。清澹安恬。 人乃易。今名。凡松島左右列島。僅 新錢 席 。適此 丽 端原 厖乏。主者。空嚴 家堵婆以紀之。 福寺。往依,之居,弟子列。復遊 . 將 . 終老. 焉。 父母 精勤 以師 世法。至一年四 傳出家。乃依 完者成 不意。 之德之功,不,著,于 。居處如"平 الأ 無際 言。数于講席 乃學」師 政求 誠末法化物之 神体 修 遷相州淨 十二。今圓覺 妓 寫 伽 孜々請,控 一百數 远 和 二 之。口 - 數 ·居。時 以補之。 眼 临 鏡 心。 。獨此 成 房。 久 度 妙。 以 無 in PH 福 方

信.于 後 予聆"其語。又覽"其 制。 因思"古之立"道場 構

僧傅。有 法門』者。成數率由"是道。賢師 興 福一科。賢師 其在,斯科 其由"是道」平。養寧師 乎。既有.補,於法門。 作

故爲銘」之。銘曰。

乃臻。厥 德馨。地由、人興。御島之庵。見佛始營。賢師 成。清 明 勝 靜。 開 迷醒 な。 慈善法力。 克亭,脩 後居。

。弟子樹 妓 銮 堵婆。紀二 其德行。予爲銘

是歲三月十五日書

小 師三十餘人匡心孤運同立石

五百三十五年

碑高 寸。本文欄內 丈。幅 竪五 四尺三寸。篆額 尺五 寸五分。橫三尺二寸五分。四十五 欄內竪二尺五寸。橫二尺六

御島 鐘

字十八行。字數六百四

十九字。

威 仙臺城 茅。金.鋪其稜角。加.旃鑄,華鯨一箇。掛,松庭。以爲,止觀 林正 虎居士。為"心源受安"造" 府之武臣。葛西湊之津之世主。笹町門葉之英胄。 御島禪堂。槍 皮其衡

> 之警助 云。

百八報時辰 十二。一聲徹刹界三千。驚回生死去來

安坐涅槃常樂禪

寬永十七年六月三日 寓居之沙門希膺誌焉。

十方 世界一 御島把不住軒石燈籠銘 燈籠 。不」暗不,明又不,空,却名假冷泯沒去

靈光在 御 島 無窮

寬文十二壬子仲冬八日。現松島山

施主仙臺 大町南村氏銕

主

鵬雲誌焉

統宗

御 島松吟菴鐘 鉛

御島靈蹤。潮音答、松。應、聞 自性 持掛。金鐘。

寬文十二祀九月旦。見松島比丘東搏銘。旃

御島 松吟菴藥師 堂碑

建.此 四年。寬文甲辰。泉山大學立,保福新寺。請, 治三年庚子。斯 今之松吟菴。原 菴. 憇. 於先師。以爲. 最初自收得道之地 年。 山和 先師通二十六齡。 尚碑 文所 銘 之妙 家兄松岩道 覺 庵 洞水祖 舊址 處之 知者。 也。萬 公司

遭 鳩工 知耶。 開 出 落战焉。 余徒道空住」菴。 上座 山 松 小 松 堂天祥院。依,自, 主、花。且 险 匠 崯 余近年 招於先師 此 且 接 而鼎新 日幸 待。 美.四 得 來松島 ...慈覺彫造丈六藥師 佛 公辱 斯年屆"先師三十三回諱。仍自"上年。 面 太守 一為二代挿草。初 風 殿。革...舊庵室。客丈六添..對丁。遂 致。而 幼冲,鞠,育先師 遷 中 閱 養廢料。懷 船 將尊官。自,鹽竈,入,于 調ル 路.入..于御 余日。 住之住 朽像一再,興之。余復 妙覺之後 補葺志。此交常修 一之因 島。 持。 朝 山山山 拜 其所 薬 松 御 疇 師 島 島 以 二。余 不 漸 舆. 消

為"松吟之記 矣。 太守送"觚於松島一云。因併書而 來"御

島

心松

吟成.度立

江

窩。凉。於殿閣

南

薰至。五

兩

搏

新矣。

余

時

有

則

專詩。

為

、公見」督

星

進矣。兹待"侯

君

波爲雪華。茶

東饗罷

元文元年丙辰 七 月 + H

松島 興 大悲圓 住 妙 心 滿 圆 現 師 住 行 瑞巖 狀 碑 性 空天 銘 序 嶺 謹 撰

國 師 請 希 膺。字雲居 。土佐之人。本姓 小 湾。 受"業 同 里字

界.揚 北。 法。 來 子。仙臺中納言招請。 + 富 豫 花園。此 学 + + 年 尚。元和元年。爲。塙直之一市,大阪城。後 山 日 堂。庚寅陽德夫人。 留"江 - 遷.于 士。 州加 月。在一起 而中. 興松島。己卯一 年壬 道. 一年甲戌。師 矣。慶長元年受"戒法服。丁酉行 正 散 西 本有圓 此 保元 藤明 堂。蟠 子正 住 年系 都 秋 會津弘誓院。 瑞 在 年。 智山。坐 成 月念五 桃 巖。 成之話。奏對愜 本山第一 春 清清。 大樹家 名莲一子 赴. 濃之瑞 十三年 日 宙和 新開。質樹寺。六年出 舰 立。大称祥巖寺於 閱 日午時。 光公。 師不、應。其 尚 宙先師 日 庚午拾"弘誓 座。又受。若州高 渡。 門逃 得 的 元和 置 從,夫之,勝 子。開 大 誕于 肥 請。乙門 二位 世 十三 解 旨。再韶 法皇天聽。微 国 中 嗣忠宗三詩。 脫 山 學 花。 脚。 十四 丸 回忌設 输 歸 潜 州 萬 大夫 震神 此 尾 居 庚子 道 城寺 多 - 姚 111 不」起、十三年丙 世花 世 年 後三谷毘 花 花 姚 海 統 人。 承應 陽前 E 供 侍 景。 請。四 君之許 手 一类 海。 園。寬 孫 德 花園。歸 餅不,得。 品門 遊 四 也 平 落 慶安己 113 年 Coli 林 夏上 丹 宙和 沙門 天 永 午 未 成 城。 房。 由 問 [] 盟 JF. 太 四

〇元

松島 守 十八。臘六 明 建 H 所 帝 河 得 以 永 水、琉 度 矣 聞 安 弟 + 於 萬治己亥八月八 球 四 照 子若干人,受戒者不一知,算 先法 間。 心源等。為"之上 塔.于萬三嶺。嗣 共 自 徵 寫 師 開 2 大 日。午 刊 加 首。開 H 法 此 後留!遺 徒 春 特 十二枝 加 = 赐.慈 矣。 勸 月 請 偈 八 4 光不 之山。 日 蟠 坐 年 化 桃 味 。壽七 萬嶺 月 幾 罪 後 # 數 光 師

天下 略 今上 日 世 帝 石 殊 嗚 弄 降 D.F: 松 煽 島 哉 手 法 盖 敕 身窟 - 賜一大 生 云 所 悲 二詳 履之驗也 圓 載:年譜 滿 國 Riji 之大論。以 因 乃 摘 爲 師 銷 之大 示 銘

生滅 破 法 法 桑東 身 無 A 相 摧 非 111 帝 龍 邪 相 भाग 寂 介 温 非 大 IF. 略 中 悲 勒 空 疏 猗 圓 若 石 决 與 滿 謂 千 碍 圆 全 秋 滅 師 不 可 度。 傳 藏 戒定慧 "法 風 是 。完 定 廢 理 祖 國 融 光 翁。 派 對 不 有 脈 味 流 经 御 照 通 堵 說

時享保十九年甲寅

八月單八日。不肖

孫三住妙心

燕

Ill 世 现 1E 松島 天 人嶺性 空 百 拜 撰 併 T 青龍電 瑞高岩 寺松 و الما

毒龍卷記碑

明。是 樣體 序。上 資 物 記 = 洪 哥 廢 閱 堂。安、安振 此 젪 福 事。律 "花 等 前 响 庬 浦 m 小小 主 出 。最 仍 言。 調 有 壶 定泉泉 僧 愁 A 召書 之荒 處於 時。 形信 字 以"自 行 余 伏 師 初 舊 菴。乃松 擅 有力 加 祁 石 石 修 法尸變。 嘆 古 余款 附 间 藪 源 行 埋沒 息 此。 池 周 本 自 干 竹 之 光 和 不支。 邻 良 道 經 左花。壁 将平 樂 中 請 地 島 智證 部代 圖 遠 俗 松 中與二 太 也 N 不 季 永不 根 叫 H 47 來 因 有 而 首 唇。花 意 大 肉 前 書 中 。彼此 命 洞 得 師 弗,先祖 一指 書 凹之交 ili 將 尼尼 世。 加 さ 手 特 瑟 育 酒 示 TE 吉 像 11 主 較 型四 此 雕 Miles. 展 腥 石 且 於 君 行師 小 小 弛 念 攸 之不動。余近 五 者 景 於 以 福 師 枚 厨 矣 並 堂者。寬 大 喧。 介之遺蔭 此 斯 島 花 性 機圓 小 禁 亦 花 Jigt 島 后 作 削 中 制 復 無此 前 H Will I 식은 陆 田 應禪 ili 君 A 思思 永己 电 成 畝 給 4 禪 之與 師 消 贞贞之。 將 石 類 施。 师 欲 於 造 落 faij 卯 來 训 之證 島 Hills 之次 熊野 有 成 ins 向 III. 請 江 來 產 順 水 來 相

現住瑞巖天嶺性空拜撰

芭蕉翁松島唫贩序碑

そも 重 は天をゆびさし。伏すものは波にはらばふ。あるは二 を盡さん。 顔をよそほ 0) なる。お 三里。浙江 せる業にや。造化の天工いづれの人か。筆をふるひ詞 ימ み 5 かさなり。三重 とり め 0) 洞 る 72 ふ。ちはやふる神の 庭 あ 潮をた るが 西 b b かっ 湖 抱 1= ごとし。其氣色皆然として。 に耻 H にた」みて。 ゝふ。島々の たれ 枝 る 栗沙 あ す。東南 ع り。兒孫を愛する 風 松島は扶桑第 む に吹撓 數を盡して、欲つも より海を入て。江 左にわか かっ し。大山すみのな め て。 th が如 一の 屈曲 右に 美人の し。松 好風 の中 つら お 0 0

朝夜さを誰まつしまやかたころろ。

風俗文選卷二松島賦芭蕉翁。

松島雪月記

布"白 東 英雄所盤。某余 雪 雪月。則其秀潤玉成之姿、西湖腔,光景。西 伯 曲。有一丁鬟出舞一焉。 别 織月印.千賀片浦之上。瓊華璀 波承。石遜松拱。是與 洞鹵斥。鹺丁蜑戶。吐、輝遞射。左突右奔。掉搖畫活 朝宮一曲未」了。急霰迸」笠。蜜雪壓 姪。散髮蓬底。掬、雪煎、茗。 宜。其松錯落。其石魁磊。 寒駐,松島,有,月。住,松月樓。々面,島背,松。云比孤 松島富矣麗矣。二百餘 元弱冠游,學東都。己丑冬日。自,常入,與。將,遊,松島。畏 鶴。顧余於 隱士。 仲。百剡谿當,北 吁非,雪山 "駿富薩坊|鼎立」。宜申" **基子**。金華東峙、 平。抑爲。余雨。瓊龍一乎。於是隱士 所,漫遊題,名也。余發 面。拍 聚如.月與 "隱士所,熱勝區」飫 縣 繰 島源 如 "絕靺鞨。遠者山 旋以,澄灣,結以 を表 高縣 鶴 釣魚佐」酒。 余把」笙吹。白 現東海。禮織象物四 帝統 上雪。散 琰。 ال ا 逐 游 界 星盪銀爛。 揚 毛美無强。 四 獨界 如二宝與 州,恍惚如,蹈,星 御島訪 顧 "太牢」也。揭蓬 名利。况黄 近者 垄 旋惡慢奶。宜 色 河 合嚴橋发 رندا زندا ه 時鏡 御 刷 幽 携。子 風送 性 某古 時 山 以 112 道 於 雪 N 面

衛臺金石志卷之四

誰 有 爺碑 跳= 部 命 於 圳 東 们 西 是 奚疑 T. 四 悉醉。余 年 干 志 獨 里。 新。 游 亦支 忻戚 叉知 圆 貌 笙 "象潟 以 焉。 而 興 二造 如、恨 脈。 那。 物 有"鶴 何 浴 朝陷 、笑曰 遊。日 聲 化 如 微隱 蒼 子 喚 知 田 士。則 一物皆 加加 空间

各潤. 西行。時 古。征 余不い 色之。 夷 知 賴行 就 聖 德 余孰 特 脚 得志 慈覺・見佛・法 俊成 鶴。醒 雪 源 則 月。拾 融 在 歌 松月 。天錫 余其 身。雲居・蓮尼 樓。 向 驰 秀山 山 点記:併 詩。 子 宋 芭蕉 嘆 日 元之名緇 詩韶 如 此 來 土 諮 記 振

諸老。 松乎島乎雪 刻庭 石 建路 一乎月 。舟 无 尾 大 堂 樓 侧 頭 描 從 不 是 摸。 佩 若使 雨 鶴 通 即 仙 醉 東

海。飄然倩」鶴負,西湖。

月。爛 翠嵐白 銀 蓝干 堆 裏 松島。髣髴 秘 清風 仙 娀 粧 鏡中。 晴好 雨奇 皈 雪

薩藩日向霧陽郡都城。秀山荒川儀一伸元士良。撰

並書篆。

松島寺 萬村。 宮城郡高城

亦樓滄 望微 東溟 光海 僧房 與壯 廢。慶 乃北 法 刑 居 此 令瑞巖寺是也 遊 舟汀。右 迪 合 之徒 + 部 身 寺。或曰 入"于宋。受"法于徑 院。寺 條相 盡浮 嚴 窟。 左 Ш 十餘字排,之左右。左旁龍 長十年乙巳。 恋于 芳 一衛門國· 極 K 法法实。 有 始 歷覽之輩。子細可見 青 模守時 其 海 群 始 欄 觀 門左右皆 祖 山 日 (美) 焉、 島。遊 坐禪 瑕 加 瀾亭。國 門 次者 右旁萬 仁 乃法身 挹 其 賴 明 聽 眺 + ,諸僧海 黄門君 勤 後 號松 浙江 市 承 幽 壯 此。左方日 主遊觀之地 芥 松江 山無 和 店 趣 之。 也。 觀之美。 Ŧi. 也。此 潮 于 Will. 島 晏以 造替 湛其 是歲 赤 準 氏 年 坐 月·青松 山 兵壁。 上。水 戊 而 月。護 圓 屋 住 待 豊夫 一陽 新 午。 六 俱 前 歸 福 也。左 起 "縣賓主之與"焉。來 月癸巳 改 德院。 寺 灣 設 國。實 所 名平 寺 士 始 日 靈隱 傳 松島是 般 旅 開 中国 開 曲紹 木。紀 瑞 有.五大尊 右 舟 舍。構 有 四 珠·圆 落 台宗。而 而 地 方天 巖 寺。歷 即。 處。 已哉。 岩 也 成 隆 圓 州 也。 洞 高 同。大 為。浮 鲱 。得 日 稲 良 修 世 学。 樓 i 寺。 日 匠 慈 造 住 完

松島在松

南極一一賀北磯崎。天影

珠磯。通舸磯。

蛇巖。翁

御島等相連。陽德·瑞亭·波浪灣·荒笘汀·啪

之地。宮戶·寒風澤· 若·藏經·青柳·仙冠· 山王·稻荷·八幡·善逝

綴。放馬島峙、翠壁。 浮,于烟波。西南乃名

勢小町進退。罽端

羅

藏經。般若。旭日。仙冠。翠柳。采繪。笠艇

自

翁九

子

隈

膜

波。其間沙場煮鹽之地

和

群態浴鵜二島並翠

諸

島。

涵

陰。

其北乃寶珠崎

通

舸·龍首

岩

石

磯洲。曲

年十二月修"造之。有"兩短橋。東南

乃馥羅

楠

影

潭火

9 1 3 The 学の画書 级司值作 活計さ to III: 洪門米 国 宗 The offer 生 1 住所 1 部分部 主紫鹭県 先漫 部部

一変語者カード新刊通知その他用名簿作製円

<u>--</u>

誰 有心命 雖 赤 論 碑 於是悉醉。余亦支、笙而 圳 東 们 西 奚疑 7 四 年 干 まれず 獨 里。 新。 游 忻戚 叉知 政 貌 以 - 象凋 焉。 興 公造物 睡。 如 那。 恨 有調 何 浴 朝陷 遊。日 笑曰 聲 化 如、喚、余。慕 微隱 着 子 知 田 士。則 物 加 智 電

各潤 余不り知 古。征 西行 時 色 夷 之。 賴行 塾 聖德 余孰 特 脚 得 慈覺,見佛,法 俊 鶴。醒 志 成 事 源 則 月 融 在 哈捨 歌 "松月樓。秀山 天 身·雲居·蓮尼 余其 錫角 驰 山 法 詩 子 記 。宋元之名 芭蕉 嘆日 併 詩 此 如 韶 來 土 光出 記 振

諸老。刻。庭石一建。諸五大堂側。從上是佩。兩鶴印。

海。飄然倩、鶴負、西湖。

乎島乎雪乎月

。舟

尾

樓

頭

描

不

摸。

若

使

通

仙

醉

東

月。爛 翠嵐白 銀 盡千 堆 裏秘 松島。 清 髣髴 風 仙 娥 粧 鏡 中。 晴好 一雨奇皈 雪

薩 藩 日 向 陽 郡 都 城 秀 山 荒川 儀 伸元 士 良。 撰

並書篆。

松島寺 高村? 玄城郡高城

望。微 僧房 今瑞 遊之徒、 光海 绝 刑 屠 此 亦 舟 法 合十 廢。慶長十年乙巳。黄門君造替 乃北條相 東 通二院。寺 樓 溟 汀。右 身窟 州土 部 寺。或 入,于宋。受 巖寺 嚴 滄 品 左衛門國次者 盏 十餘字排,之左右。左旁龍 光于 芳、法雲。 極 浮 始始 R 日 有 青 其 模守 是也 海 一。始祖 群 欄 門左 **覽之**輩 祖 粗 山 日 坐禪 美 外。 島 環 瀾 門門 肝疗 法于 右旁萬松·江 右皆 馬 亭。國 其 游 乃 賴 挹 一。子細 聽 明 法 眺 干此。左方日 諸 後 勤之。 。號松 徑 幽 市 承 浙 壯 身 主遊 僧 店 一个 山無 江 趣 和 可见。 也。 轭 海 也。此 于 训诫 潮 无 之美。 島 晏以 犯 是歲六月癸巳落成 推 氏 未 坐上。水 湛 年 山 月·青松 之 贞 戊 im 屋俱 其前。寺 月。護 住 地 陽 待 新起"土木。紀州 壁。 午。 歸 福 也。 改曰 夫 馬 德院。右方天 心設.旅 所 灣 寺。先是稱"歷 國。實 名 始開 靈隱 左 傳 賓 舟美 江 里里 開 主之與 有 曲。紹 瑞 含。構 州 有 珠 四 台 rin 地 五. 巖 處。 郎。 示。 岩 E 11 M 大 隆 圓 也。 哉。 洞 高 瓣 質 同 B 得 福 良 爲 Mi 修 世 直 寺。 厅 建 樓 日 堂。 製 慈 住 大 輸 造 瓷

之地。 若。藏 佛于兹。而寔天下之絕景。古今之勝迹。可」謂,扶桑之 旗布 鮮 啄.其 近者乃雙生並立。布袋。大黑相 山 珠碳。通 綴。放馬島峙,翠壁。 浮于烟波。西 御島等相連。 亭。波浪灣。荒笘汀。幽篁浦。小松崖、青春磯、畵 。崩江 釣舟忽出沒。 王·稻荷·八幡·善逝堂社。 極一千賀北 星峙。 町進退。 經·青柳 宮戶、寒風澤。鳳羽 舸 緑鴨 上之雪。王粲遊 磯 桂蘭叢,于其上 磯崎。天影鏡光閱。古今。左乃五大堂。 群鷺集,其 南乃姦盜。放火。鳍燧。吹火。小 。仙冠·九子 陽德·瑞巖·圓 蛇巖·翁島。右乃龜首巖·觀 罽鎧·兜鍪羅列。 萬松藏 橋柱巖撐"石梁。 月斜。 涯。浩 島。納 海賦。所,謂 綵畵島。分,布 珊瑚 通・天麟。寺院隱・于蒙密。 繞 碎"葉 々烟 對。蜆子。多門先後。伊 囊島。桂 皆 于後山。複羅,特 周 入 于其 波 間之 吟眸。 其他 若 稍 華島・ 有無。 夫 于其 金遠汀 月墩。 以一百數焉。 長洲 白 前 島若點 細 鷗 累 亦彷 石濱。 羅。般 一屏島・ 觀 别 。遠望 含 N 那 島 風 島 鵆 寶 瀾

> 想 為。三處奇觀 流 境之稱。未 千百數。曲洲環浦奇峯異石。天下之絕境也。是等 可謂 池。月 滄洲也。向陽林氏曰。松島之外。有,島嶼若干。殆 能縮 坡之景。境致之佳。與"丹後天橋立。安藝嚴 爲 也。僧師鍊日、松島 過 』勝狀於數字,而無。遺漏 言 也 其地東溟之濱。 一者也。天下絕 小嶼 如 島

奇 觀。大鷹嶽 船 觀 山 萬 年云。 壯 觀、扇 松島 有 谿幽觀。多聞 大小 二百 碕 九十六島。又云。 偉觀。謂之松 富山 島四 大 麗

五大堂高村。

宮城

郡

諸島。 年十二 羅 大 在 尊。黄門 温瑞 暎 藏 巖以 經。般若。旭日 ,波。其間沙場煮鹽之地也。 涵 月修 君。 東。 "造之"有"兩 大同 其北乃實珠崎 慶長 二年。坂 仙仙 五 年。 冠·翠 短 攻"刈 橋。 上田 柳。宋給。笘艇 通 東南 舸。龍 村 田 群態浴 麻呂造 白 乃 石 首岩 馥 城 維 剃二島 自 得.夢 營之。置,五 石 桥 破 翁九 影 潭特 洲 役 並 曲 子 儿

其 北 乃高 城 驛 也

賴賢碑在"松 封內名蹟 志卷 城 郡

者。請 碣首有.與 个碧蘚鎖,石面。文字半消滅。更可」情 賢乃御 ini **背...二行。其** 島 ılı 州妙覺庵賴賢庵 住 于相 僧。 其 州建長寺。 碑乃草書。一 碑 在 御島 主碑銘。 而記』老師 西 山者以 南。 並序 門人匡心孤 行 十三字。 書名一干 實 之碑 用 也 運

御島名听集作,雄。哥枕

收死 把不住 徑。菩薩 松千株。左 在,竹浦東南。經,水 也老松八九株。 跡。自 。矗々而植 地者也幽沉 者之遺骨散髮等 軒。希曆往 露深崖 一是過 邊 乃畵屏 岩路滑。 細 古墳荒塚累々而列。 音栖 寂寞。沙汀來客稀。 海風 徑 11 島 遲 mi 之地 踏白 落 吹 上有.坐 有 之處。乃見佛之故蹤 浙 隆 青 瀝 也。 沙 涵 堂。向 堂後 翠。 一行七八町。 禪 斷岸數十份。江波奔 堂。傍 過"長橋 松杉寒鴉集。 西 有 其北岸有"宫千 南 賴 有二 賢 擴 右旁嶺上 一而入 古 底 也 亭。 碑。其 徹泉 號 **福利**

> 非.凡 矣。 俗 鹿 之 地 焉。 登 島 Ŀ 者。 必 發 悽愴悲哀 之

和漢三才圖會卷六十五 陸 奥 州

瑞岩寺。 在 』松島。禪宗。境 內凡三 百 里

號"松島寺。開 法心過"壯歲」出家。不 山 法 心和 知 尚 文墨震 中 圓 雲居 的 和 船 尚 入一宋。

到

臨

坐禪 日。謂 臂腫爛。而不」撓者九年,歸 之。法心應,聲 去 安,登,徑山 時明々、是簡何物、後句,侍 徒 床。侍僧乞"遺偈。元不,克,書 日 寺。見,佛鑑禪 某當城 喝 喝、汨然而化 然心 無、恙。 師。和無 朝居 僧 命 性 性 。侍 日 奥州松島 僧 即 猶 EV 不一信、 唱 欠一 硬 F 丽计 。來時 高 句。 至期 座 終先 學足 明 Will. 齊龍 骨 七

當國太守伊達 正宗卿 震災 廟

馬佐助 正宗 庚子之役。 敵軍。逐,義廣 歲。 姓 藤 屢 而 原 相 深"志於幕下。拔"白石 有 戰 奥州 領"會津。又擊"二本 武毅之名。摺 且請,秀吉 A 也。 父 祖 上 渡 原之戰 代 朝鮮 N 城 松 領 攻二福 最最 取 東 廻 有 奥 共邑。 杏 島品。被 軍功。慶長 數 計 郡 與 m E 破 相

之風操。講武之暇、寄、意於歌林。慰、目於騷筳。宮城郡恩、遇甚渥,後任。中納言。正宗雖、生,東奧。自有,中國

築城號,仙臺。

松島 在"仙臺之東。七里

岩寺記』于前。

其地名。 美豆小島,有。名水井 五大堂。 在。 松島瑞岩寺邊。

阿彌陀山勅使松

と称 鳥羽 3 にひ の二株有り。一 せしとかや。阿 院 め松千 0) 願 御 株をうるさせ給ひてよりて。 時 文治 b 桃 て。大内 年中。 は圍八尺餘。一株は九尺餘あり。こ 棚陀山とい 烹 見佛上人此地に住し給ひし 康 光卿を勅使 ふ所に、勅使松 として、此 其 頃 一千松島 とい Si 所

> まりて井の中におさしたるさて。 清亮 島の市中を巡行す。火災を禳ふの 咒してこれを数ふなりと、猶水を灌きてやます。 故をと問ひしに。唐土徑山寺に火災あり。 僧一人。これを頸にかけて。兩手も さ七八寸。徑四五寸程ある鈴なり。形はつり鐘の 書簡を賜ひて。其功を謝し、禮物として鈴を送らる。こ に至て終りの。其後 近 長五尺幅壹尺五寸。一は三角の 櫻 れすなはち古へうゑさせたまふ松なりとそ。 つの石 を火鈴と名つけて。いま瑞岩寺にある什物なり。 田 て。中に舌 氏 松島圖 て数十丁の ~ 0 神路 水を汲 。此施に住せしに。ある時 in L あ り。毎 云。法雲庵の庭上に。石二つあ 一二年を經て。 カコ 外まても閉ゆ 年正月元日 H 3 せ給 記る 形三尺程 曉 てふり鳴らし とい 徑山寺より 法といっ 北 頻 僧徒 0) 30 75 時 b は。紙にてつ を集 Vit > 水の **b**, り。一は **á**) は。何 め h 印を 頭 如 師 晚景

仙臺金石志卷之四(終)

仙臺金石志卷之五

名蹟三之下

目次

松島下

游松島記附詩 松島詩歌

鹽竈松島屬誌記

發仙臺游松

高剛詩

松島詩並序 松島謠曲 松島和歌

松島日記

鹽竈松島道の記 附鹽松之記

長命崎記 香蓮といふくたものゝ由來附紅蓮尼石文 富山觀音堂鐘附游富山記

宮戶善逝閣鐘銘

仙臺金石志卷之五

仙臺 吉田友好 編纂

名蹟三之下

松島下

松島詩歌

中秋賞,月於松島。電水十二 貞 山

荐。道人緩打五更鐘

今宵待,月倚, 吟筠。滄海茫々一

氣濃。

思見清光佳興

公

八月十五夜 慶長六年松島にて

秋 いつるまもなかめこそあれみちのくの月まつ島の の夕は。

同

かな。 月も今符名残をしまの夕浪にたち歸りこん命とも

心なき身にたに月をまつ島や秋の最中の夕暮 **慶長十一年松島** 1-T いっそ

同

所からたくひはわきてなかりけり名高き月をそて にまつしま。

同

まつしまやをしまの磯の秋の空名高き月や照りま さるらん。

寛永十二年松島にて

渡るかな たくひなきはれ行く月をまつ島や心もきよくすみ

同

としたけて年に めなりけり。 夜の月影をいといをしまのなか

同曇 りけ れは

くもるなり雲はあやなし所から秋の最中にあふそ

は

ねらさし。

松

島やまたも死

嬉しき。

松島にて。御舟遊ありし時。御舟にはたをりむ

和臺金石志卷之五

ありけれ は

草 ふかか 3 野邊 にはすまてはたをりの ぬきかた 5

カコ うみ にきた 3

背 III

公

此地 如"大古人"情樂"山水」自相親。湯盤寫出

遊

江 面。松島日 新叉日新

松 島

狮

Ill

公

異浦の月も およはし松しまやまたなき浪のすめる

こうろを。

文化十三年九月

爽 Ili

公

浪ならぬ言葉の玉藻よせよかし我か松しまの名を

返し

L

思はは。

て見ん身にし 樂局 あらは管屋の 白川城中守 定信。 浪に袖

嘉永甲寅閏七。陪 駕松島。 應数 和。薩天錫 韻。

臣 國 分 Jili 57

車 17 H 感 - ° 奇 彩色 其 如 此 境 何。 海外名 ini 誰 第

源義和氏鹽竈松島圖誌記 白石手翰卷二

其

景、

詫

地英靈 乎。故 中或今古異 梯米 皆白黄。 怪物。余不.敢 漲 H 馬 者 天下名山 桑。太平之人君 言。今夫我 使 遷曰 。多在 月 粟粒 所 言 大夏 之氣。所,鍾 東西 禹 九 相 金銀 水。 州山 一之不在。 避 本 東方國 之後 稱。 隱 紀 一馬 言之也也 為。宮闕 世之所 或或 日 111 爲 子之國 方言 一萬物之生。 也 尚 於 不在 光 河 則 書 銀可= 窮 萬國 出 明 知 殊譯 。美於"蓬萊言」 近之矣。 皆是燕齊怪遷之士。 及 平此 也 崛 शा 之東。 响 古之所 遍 源 。不可"謂 其 發,育於東 勝數 Ш 上 崑崙 惡賭 必在一乎彼 群 歪.两 去 有 哉。 仙之 門門 此已東。寸土尺壤 禮 其 m 日 而 本 本紀 之亦 高三千 居 泉 一黎"成於 考。乃者 下 紀 號為:神奇 。皆是 瑶 陽 理 所 然。其 山 池。今自 夸誕 谷 謂崑 五. 或 我 海 西。 蟠 然也 百 物 式 虚 經 木 崙 競秀 餘 盖天 禽獸 圖 安 所有 張 者 似 里。 司 之 扶 之

浴。連 其在手 社。方 知其 菲。最 已。 方風 之。則 開電 則 國 濤瀾起伏。見雁飛,鳴於其前。魚龍出,沒其下。四時朝 西 那 民 南際。而左 無 大地上下之極際。而我 灣 用 地 所 名 。美竊 曲 平線 峻 宮 俗 海 替 抱四合。隱一若大環。獨 言志 徐 果 為高國 考詳已。今據"圖 中。 城 南國 哨哨 然 世 々蒼々。皆是青松之所。歸 此 以謂。 下。 戶而 波即 右二社。盖是大古神聖。始作 蘭陀人者 兴美 盖 矣。 及物 地 盖東陸瀕海之處。古人以 市市 之先。易 是則 。其地名古未一之間。 形員 鹽 视 大 聖 洞司 也。日子乃古之 之。社 之墟 小 陰陽 嚴 毬半球等圖 以 凡 H 美 誌。其 百。 也。 善游 ihi 元者善之長 畫以之所 東方之東。一邊 和 稷之。舊稱 去此 缺,其 赤崖 氏 地則 所 布 白 略 水行 地 97 東十二。鹽竈之浦 撰鹽竈 在一大海之濱。 沙 税 分。 名 聞 天 机 非 心。 之日 天 朝 皇家 其說。 寫 illi 有言 魚鹽之利 地 天 十二里。 地 松 若夫雲烟開 衣 下 星列 轉 地之至 天 一志波 志散 [] 祀 被日 我 馬 出,於彼 等 地 洲 。從一高 在 圖 F. 與 松島 亡人矣。 亦 月之精 HH H 東 以 微 滅 在此其 机 元に 興. 子 岸 所 任 馬 膽 是 則 世 必 歛 神 回

陸之州。古稱其俗勇悍。好相殺略。美嘗問東方之人仁也。 奇如 雨 晴清 明 耳。而前 變化條忽不可 人之述亦備。余復何言。雖、然有」一焉。東 。盡狀。古之所,謂蓬瀛之洲 其

其俗尚 性 州 浉 共 之地。周 遊覽之勝。以此自 風 染之弊或其然也。仁者必有」勇。豈是其天性歟。背岐豊 之氣 俗之變。 如此 人用」之與"起二南之化"秦人用」之有"併"吞八 孔子 顧, 其導之之術如何,耳。况州之人士出, 乎其 何其反也。古者是州為,毛人所、據也久矣。 图 自。 齊 俾 多而己。非,美之所,望也。於是平言 共 一變至,於詹。々一 山]1] 專"美於天下」哉。 變至"於道。安知 若其 登臨

享保辛丑夏六

桐 I 富 春 叟 筑後守源君美書

所之纒 余幼抱"山 趣。恍然自失。直 病。 得初 相 不能 遊"松島 水之解。每 志。吹 與 退 議不 學高 記 視 蕭草 傍觀。 路 ご見 遠遊。 堂 而 。壁上或 不.覺.目 書劍牛 採 是以 一颗東 屏風 物體贏 染 緩獲 山 煙霞之色。 。然親 中。畫山容 到"於目 焉。 戚 奈為 朋 友。 齡 計 水 及不 游 是 **%媚之** m 余 足 務

英.再 歎。山 午後 可 吟賞 致。 山絕 為 足。 古昔屋瓦碎落。 之路。再歸.機上 洋々惟恨"暑之逼" 人。鳥噪、樹頭。既出。市廛投,宿樓上。倚、欄放眸 碑。有感。韓山一片石舊事。徐而經 駐"權巉巖下平 二三同遊人。 偕。方外人。豈訪! 畫之地 於院之東軒。 余將,有,松島之遊。先宿 宿 月幹 遊之日 僧業已過之矣。一 場春夢。於是始 將欲,作,文以記 敎 」雲洞院。住 ...人發 而已。 已 福 沙處。 微露路 狂。 鳴 鹽竈神 啜。若粥數 知己於東與。許多青碧跋 版戲 於比諸從前勞攘豈不 一持寂 呼 西。夙 歸 壁屏圖畫之翫。 程。松島 識小俗之言具 名勝。 光賛 光。亦 途下 傍泥土。俯拾 座絕 洞。 興區 校。 ・雙眉 ini 馬 此院。 倒。全 以草 同遊 見讀 讀朱統 後泛. 升探 五大堂雲梯 遊 目。 也。圍恭酌茶。頗 瑞 K 兩 此日亦得 過萬岳松風。科陽照 製片 碑 余数 嚴 拔 歷 H 1/1 1E 一可一奇平今茲會 寺。 PE S 之遊。處 邑咫尺之舰。 有 Ili 草 沙殆 不 也 **那** 禁富: 忙 撰賢花主之 忽疑 莽 批 illi 落 J 盡。更促 荒 则 亦 12 感慨。 华 ル版伸 الا 煙 有風 有 3 通 芥 H 中。 111 詩 當 姑 之 零 A 涿

跋"松島諸勝記

脚 者 畫 得 境。而 日。浮華之子。 揚 名 廻是水之致。 誘 美之如 山洞 則物 拖 則彼之不 方對 導。 民 卷 府亡 益之也 俗 而 復於 一彼 不 嘆 曰 圖 近好 論"異 方 勝 可見也 真 本 口 也 婆維 此 何 道 清 然 不樂 域。 亦 豊可、不 且 當 易 虚 居士先、余知之。 阴 吾 無名 人去,其清 ,購 如 严 矣 圆 樸之譚。富貴之家。 番羽 得 青 公 余少 亦 以痛 掌。 順道 所 有。天造 一年"讀 且 重 余 撰 惜 佳 疊是 試 圖 者 哉。 世: 地 至 志 更有 山之景。 而 Ŀ 此。 然人心 者。是故不 設神工鬼斧之 水"其 雖 張,道民之 激世之言 莫不, 感 不 俗 曲 虚 讀 H. 発 能 明 穢 環 書

禪之暇。 略 晚歲 師 本 地 記 邦 決 眼 釆隱 所 非 高 朋 著松 凡境。嚴 見。 數 圌 世 遊 志 藏" 諸 島 者 松 諸 洞 涉 便 島。 巾箱 勝 靈怪殿字壯 的幾 百 服 記。 染.青 多 亦九 越 水 普 事 光 碧 牛之 慮 詳 山 麗千態萬狀不。易 諮 闸 悉 色 修解 醉 一毛 勝 。羅河 2 煙 市市。 失,其 確 嵐 於 質。大抵髣 洞 几 具 瑞 席 證 焉 嚴夢 苞 之間 蒐 毓 搜。 經 大

> 零二篇 蒙蔽 也。今 為。序 之勝 波 復 福 於 大 不 突所 唐曇菲 揚氏 師 —— 肚芽 始。 配 imi 起 就表 明 逃 伽 處 親 白 。享保二年丁酉 嗚 之言。 豁 藍 題 JE 但 桑三景 呼 開 記 大。 共 الإ 美 蘇 可訓清 首。 目 讀之忘 哉 氏 大師 如 中。最 當。與 大師 像 香 閣 之命 伸 心心。 世 制 托 記。 爲 此 秋。 之珍。 者 余。 第 塵中 不 THE R 亦 桐江釣叟漫濡 性 憶 求 水 敏 पि 之士。 而 而 TE 余 序 餘 古 醒 記 在 不 歷 大 夢 辭。 爲 档 武 中 年 之訓 桁 得 逐 推 香老 百 氽 見 함 亦 卷 也 雏 禿毫於 聽 数 所 人。 質 之。 路 夫 少日 字 自 院 增 老 松 冬 見 雅 自 夢 舉 島 A H

桐江先生墓

仕 不に忌 出 武 先 再 七子。 陵。父 逐 生 去道 姓 藩 其 。先生 當 侯 hir. 本 計 奥。 良 列 姓 逸 次。 其 曹 田 與。高僧豪士 字 第六也 一世 姓 御 H 田 到E. 休 少 中 後 小 晚 氏 轉 THE STATE OF 字 有 為 交 小 素 書好 故 叟。自 即 相 臂促 變 州 文。 雜二号 护 築 號 。特長 膝 名。 城 桐 則 隊 主之臣 以 江 計 吟劇 武技。 っ富 釣 排 客。 談 為 勿 北 及 姓 生 朝 --进 者 北 草 於 有 氏

衲同 廿六日。沒"於隱 平生風流蘊藉。 或時洛浪探"名勝。雙鳴鋏 二年。而還.武陵 "先生 寓 與 跳.嬰兒 所。享年七十五 時。修 更隱 , 攝之吳山。 風雅盟 能 瘦饰。 馴 是歲寬保二年壬戌六月 有"隱 葬"於监山萬松含翠處 高 飽醉 視濶步。至、老益壯。 雲林 煙嵐 之約,是以 著述頗 多。

深山関分。群蒼松兮。道其得兮。 節自剛兮 竹道人梵

預撰

一种

文

併銘云。

病中吟

拂 高臥煙霞 で
皎 潔 氷輪 泉 石 特 鄉。 地 凉 併 忌 痼疾與" 膏肓。 久霖 **夜風吹**

垂,終述懷

守。薄氷深淵。齡過"晦翁。四年終焉。萬古一心。雲山森七十五年。心直如」弦。今當」易、簣。清風連」天。英雄所」

海內之勝為" 们 臺 與之松島。 游 松 島 記 去,東都 千 柳 齋半 里而 遠。 井行藏通 以放游 老

々。桐

江

一浪靜

。自然清

步廼上。 盡上得 其用。 待,旅客,之處也。當問祠前鐵燈籠。藤忠衡所,供 躋數十等。 賀」去。松島一十里。聞之上古之時 大如"門闔。西嚮立。所"謂盡 也。喜而不、寐、抵、仙臺、後三日。 夫子所,謂不一遠遊一之義。而不」敢往。然有,時 不,甚多。余性喜,遊。家夫人尚童,視 落 無人 背鐫。銘與こ名也。今也觀 右顧綠草尊々遠粘,青天。無,田 輟矣。會五月三日。家君因。公事,而將、抵。仙臺、則從、余 訪:燕澤之碑。 々然。云是忠衡所,手種。考之六百有餘歲。骶 夫 鹽竈即其 .雙門。門有 其 廼學,首東望。浦口 五彩之雲來着 側 有一杉。 左過。多賀之據有,石在。丘隅。 八神也。 "位紫軒 幹 山勢匠院 可二二十 之字無有也。余甚疑之。欲 : 杖頭。 漏 神 將 心心 國。湖 前三之洲 々。神 早發,含館 且無人、宮城之野 。而開 身如:飄平欲 東至"鹽竈"。 。創煮 鹽平兹。以 余.而 成散 然芥 石磴高三十仞。 然。随 然到 者松島 不、行。 mi 而方 鹽竈在.千 思心馳不 行 然。森々 加加 型 TE, 者。土人 + 然風 也 廼敬 《視』民 然。 iffi 也。行 里 ıli 亦 m Fi. 問 餘 仰 持 等 外 共 腰 廼

可彈 里一衡 而去。 者。僕 或曲 多藻 甚.急泛.舟 所 錄 隙。或足引。綠苔 福 重 為上驚傷一為二城 竟蠡敗。寫 島。曰:變島 言古一探"墨斗 日。燈籠 田 謂創煮鹽之釜也 。以書見 或直 拜見 處 陪 記記 其 翼"于 焉。 以余 於 名 海 。或峻或平。或圓或方。或憑或隆或波齧而 m 龜陵 總名日 放。于松島。島麗八十有六。而其海 則吾忘」之矣。 神釜者。其數四、徑五尺。高尺許、皆相似矣。 日 者最著者日 月一多。奇麗之石。停一舟 于邦君干東都 藏"于祠中。予意始瞭焉。突至者曰。子嘗爲」 ?余所 市市 身。 楊 而 多彩。 而 促 書 柳 殆奇矣。 江聞曷也。曰。祝輩恐,經,霜露之久。而 .松島。其以。各有 .松樹 部門 "松島。不R得以久留"。立問 其幹。 島。日 。露之幾千年。 酒者也。耳 或齷齪闆,溱濜。或為,象或 推 "柱島 夫我不」圖 之朝 人突至讀,余名號。余卒然問 島日 各有,名我不,能,盡 日 子名 羅 者非歟。日 Mi 帽 島。 知,吾者在"乎斯。故 回 而 島。日 久 看 不一少 日 也 矣 旭 則 鎧 然。 灣。縱可二十 一腐。土人敬 其 祀 其 島 島 知。知 島 水多 藤家 舖號 嶼之 而 日 日 爲 寫 何 二公初 奇 不 形 血魚 生 日 福 鵬 爲

其鬱 伐之可穿以 耳。又有 絕 則亦爭為 傀儡松樹悉瘦。踞"巖 見一大古碑。大可」丈。宋僧一山之書也。古匝 浦 有 守亭者之所。其庭有 上置』小 來三年。不一知。其故。又之島名,於竹 無。夜狎"舞 謂、士曰。島中 浦島有,小室,竹樹繞 則別献」奇不」 瀾。是國君 島。日 似 口 々騰 吐二 一乎瑟琴之彈 二掛鐘 祠 , 兩島, 去, 人家 々。寸. 放 奇狀其鱗 雛松。問"之其人。日 日 坐 觀之所也 休。 島。 五大学。 上。 有異。 而 毛。 若 若乃雄 帶 情 掛 三番 物 鐘島藤秀衡所置 雲者。 な蜿蜒 御島橋而度。 余甚厭 小 日 焉。刺舟而 是時 上。東西南北無見而不二島。 行 觀 咫尺如 碑 猫。 無。 月崎 众伏 矶 而登高矣 島崎、寒鴉崎。琵琶崎 者·仙鶴之翻。清風 霄則 也 有。它奇。背 壁立 而 檜化為,石。 有声。隨阮枕水, 坐.兩 綿 到。見。入道之十居 足 臨.水者。若. 魔龍 駒 色或若 以 慰 美矣眺望好矣。 難 华-。 淑 為歌 有"狸三四。無 水軍 窾 共 多 自 船 余珍撫久之 闕 之 或者者。額 碑 焉 伯 也 悪 而下。白 架 處 扼 牙 狸 戾 。余嘗 兩 絕 之蟠。 焉。 心 至 腕 共 去 橋。 過 則 崎。 忽 松 松 余 試 石 書 福

如靈 月睫。 忽題 逐皷. 楫北走十里。到. 斷岸下 含. 舟而陟路如, 羊膓。 下。飛島視 路盆隘苔盆厚。 下上五里。得,富春一茂樹蔭蔚磴道畫暗。陟者三百 山。日。今黯雲妬、我爲之何若。 子覽"其半一而 既而 則尚木也。携之謝去。 主人出 變矣。俄 一。予觀之色翠而厦。 "洪濤滔」天豕 业数十二 湖々 如一好。 後襲余。乃行、舟洲嶼之交、五里七里。反顧島形頗 余大稱"快哉。衝" 因山 而雲氣決 小々者二。 沒焉。 上 其背 島。 如 一勢之崇與。海潮之漲 未 其狀 人將 余謂 去人益遠。嶺有、寺。曰"大仰。夕陽藹 遠無 見,其 々起。洲嶼靈變。乍近乍遠。如」往如、來 而無二聲也。若、窮鳥爲二詳也。乃奇乃 如 曰。嚮所,看來 和记 來 寒熊 不見。 一人。瑞品寺,鉅麗可,觏。出午後之 全 輕雲 余日 而 一 也。 未 如。橐它。 皓爾如"象牙。欲化不、化皮 干,時 而嚮所 且 起。 此常彼之與得者也。 日 不 須叟八 行而 聞 一夫。殆不」可、狀也。其 而島盡乎。升 也 看來 雄 松島風 如 登。富春。霧且 風暖 震影光 十島 者大盡 至 景 殫 如"桃虎" 扇 在 人曰 # 靐 變矣 手子 聚 餘級 富春 否 晴 雲。 在 於 Mi

> 已歸:東 後不北能工,其言,也云爾。是歲寬政之八年也 名.而未,見,其處。今也見,其處,而遊之不,早既遊 而 鳥 妙矣。於是碧水街 則天與海。青々洋 刺、天。其色若、削、瓜而輝、余不、問而知、金華。隣金華 舰 筆,之哉。夫子長所,未見。 善。於月夜。雨又宜焉 魚踊躍爲文。鳴乎天工之妙。造難,傳之口。 卑。曰 所遠望之致 識,帝置,諸茲以備,松島之觀,也矣。 也哉。此山也。玄聖之所,遊哉。 日和 都。為」記以僅言,其狀 山。聞 也。 論流 々然不」可,得而 自,富至。金華 日和在一石卷。 則所 一萬麗綾衫 道子當,套,其筆 未一覽也 如 抑又羽 去。金華 斯。 海道 分。飛鳥聯剧若 知 。於。余恨,第 而 岩 可二百百 東商 客之所被 夫善. 已矣。六月三日 六十里 信天下之北 有川 又況平易 E 干 徒 一、洪聚 烟 1 哉。又 聞 其 北 中 日一。 洪 他 游 大 几 m

宮城 野

野 鄉々宮城 風吹 碧 賀城懷古 野。青天 草。碧草 盖 接 四 天 降。濟 滋。驅馬行回望。山遙落日遲。 津 何 處問。 而已。 不一看一人。

城 地 空臨 E 惟 野 餘 水 湄。 片 徘 徊 禾 黍自離々。駐、筠懷 古 時 回

籠 社 削 杉 云 是泉 Ξ 郎 所手 裁。 **慨然賦**之書

邊。似 有,杉生"山上。 手澤 疆 存。嗤々 | 々摩, 蒼天。蒼天無, 窮已。 種人何處 鳴亂 蟬。

松

奇絕。難裁八十島頭松 言仙 境斷人 跳。 自喜扁舟載 酒從。欲,賦 錦篇 對

登"富春山,二首

氣疑 霧。還山人似,六朝 扁舟泛去與堪,乘。 。向,夕風波搖 『島嶼」或疑白石作」羊 P僧 。灣 步 上富 前鳳 春 懷 刹 子陵。 歸 雲覆。 起 興。 水 天 鳥如,千里 外 金菲 瑞

蟠龍。已生天 西嶽 々富春峯。 際眞人想,欲,遂,巖頭羽 聲鐘。 不一識 古木聳邊鳴,舞 登行幾萬 重。 鶴。彩雲垂 坐 石平 陷 處 F 賀

山

尋試 攀。 海天 東秀金華 山。 誰 知 羽 客居

> 上。下笑吾曹屈 世 間

點 日 落山頭烟霧披。 暮下。富山、入。高樹 遙看松島聚 山路 山缺處望、松島、 灣 哑。 水雲出沒三千 因 赋

。疑是仙 人圍 基。

月

潭

收。 戢々犀 驛路 寺門臨 民物俱 此 松 稠。巖陰藏 翁去未、人。 見佛遺 聞說松島勝山 梢 作 蓬萊與 神神 脩。 那 康 顱萃。安禪 蹤在。法心 白 T 遊。 既乏.凌雲錫。 阜。游 濶 鶴。 慈化二 一烟 舍一磯 洞 侯 水甲東州 波 播播 道 德政 不解 奚須.別 臥 쑒 即宇 遐顺。 蹟 繫 节 兩 愛。 Ш 修 又無,縮地謀。 漁 阵 前。 殘 處求。 小小 繩 仙 宅興古梵刹 E 舟 鹽竈連 碑宋僧字。蘚蝕歲 臺城 々芳裔彩 鏞撞。旦夕。於放 天 嶼千百 聞 然 郭 勝 近 黑 幅畫 汀 山牕濟夜夢。且 欲呼 董席 画 瑞 消。 星布 礎聳 摩詰 氣 士腴 振蕩 陇 月悠 薄 翠 瓊樓。 流洲。 雲頭。 筆 螺 迢 草 館 A

登.圓 福寺方丈

恒

寂

釋

松

島

秋

月二首

圓 漏 珍。可。容八萬四千座。環堵空寬床 古叢 構 重 IE 因 始發。 道膺 前臨 新 楣上草 海 嶼 花誰 後 雌 巧 响 絕 凋 雄 塵 辟 基 本 間 自 法心 畫 世

真。示 拉 我 亦 我 應難 題。披 間 身生,羽 #: 何處方 中 力君人間 。石子道藏松島圖 妈 融 玩 有 字 翰 幾 伊 ·仙。同 初 斯 回 畫 未見之靈篇。 心 觀。松島千 見將 翰 茫 遊 牛 然。 歷 時 意想。不 向東 縦我 時 息島松巓。 點 聚 搏。 排 同 思 菅 路經 僅 得 灣。故 解 init! 使.其 海 茶 遍 助。 Ŀ 人 熟 對 製 短 看 11 寫諸 神 毫 山 圖 好 山 受意 一。直 待 求 勝

松島二首

長 心松 江 接 懸 海 巢 流。 鵬岸。雲鎖 大石 拔 蜺 心山浮。 龍 湫 眼界移: 遊客 無 \equiv 虚 島。 日 人 幾 間 當 見 烟 浪 +

群峯 仙 亂 温 海 岸 面 風 一。廣 月蜑 潟 接 扉 山 波 河。 沙 々滄海水 燒 藻汀 烟 豐。隱 。適聞漁父歌 松崖戶 多。

煙

波三

一萬六千頃。

。維列

二百

JL

十品。鄉太舟万年云。松

島島

有=

天。澄 月生滄 江 海 明 大。 鏡墮。 且 近 群島 可禁 翠螺 彩。 魚羊。 皎 氣 K 爽 開 汀 銀銀 烟 界。 歛 呼 画 K 沙 碾 更 粲 碧

然。

月出 平 群 。今宵萬里 島 青 海 嶠 螺掌 秋色澄。 登樓 F. 明 。烟嵐 眼。但 水 窓 消 影 金 蓝冷 身遊 銀 光生。 清 不 影 恒 遠。 高天 城 浦 飜 玉 鳴點 兎波心落。 白 沙

狭。從 拙 海 屬 藩 韻 余 用"咸 [p] Ш 參政 余才踈學 松 僅 昔遊之 島 如 严何 能 佐 也 韻 成 處 藤 业序 したが 膝 赋 F 淺。其詠 絕勝 君 跡 君 . 松島詩.以配 初戊 則鷄聲 筆。 自用 三二日月 猾 執 事 記 雖然官 幸 江 存 已報 諒 平 韶 既 其微 長 H 五 作 七之。 之命。 NE 非.吾 金金 大 更 波 於 且 推 矣。 槻 可 是退 限三十押 分。 七 不可 11 不 古 清 而况感韻 自 im 固 篇 次 計 崇 僻。 第 以 逐 洪 F 使 巧 全 mi 險

pu

然眸 臂 空濶 長沙 **鄒·注摵答也。共間可,容,一一**欽史記天官書。魏過,大白間,可. 瑞 春 脫 走、險捷 絲 無 な。 供養任!老饞。為是蒙密遮 。倚 嚴。 蚌 佛 興衡。 幾 樹 泝 曳海十餘 俯 則 面 而 天峭 海 渚 谈 不 須臾大月擘,波上。 VID! 溟 渤 嶺。卒、翠 **吟**。天女凌 宮屹 修 走,秋 無 過 於獑。 松皆蟠 船 群 群 盡干家浦。 壁毒巉 頭 天。天吹、髮々髮々, 然占 寒 那 鑫。 里。 相 煙 洪 語 雲際 白 迎 屈。 緘。 烏帽 呢喃。 一勝 衣 波曳,藍衫。鶴 な。 船 遙見蜑 波浩蕩 長麓 概。 **乍現大仰寺。**天門咫尺 入 右 尾送。看 + 俯 傾兮黄冠 忽有 二世。上界自有,高僧 。檜杉。喜見雛 腾左 ji. 樓船 仰之間 含.風翠纖 團明鏡開 魚龍 J 水 遠月。高 顧不」追記 拾 鳴嶼 程 他姿態盡神劉。 有 躍。葉 帶 侧。 白日 海 萬 張翼兮龜曬 時 來 潮 蟩。 點青螺 飜 樹之巓皆掃 鎧 掺。 寶 奔 城。 盡 大 僧 平 連山 鳳 會。 漁艇散 函。 來 騰聞 、鍪乎 萬 緣。 籬 島 導 聚. 紛 我 象藏 島 獨 斷 住。 釼 含 金剛 我 大森嚴。 如 願 鐘 背。 處 見 以 可城 千 **嶇。高** 立。碑 变。豁 響 高 輕。 煙復 舟 外 形 金華 漪 帆 出 躍 攘 勿 趫 更 漸 馬 N

> 锰 誰 高 算 宫 能 水 顶 1: 俗 何 儮 興山 云說。 漫把 から 擬 脾崖 夫 凡 大 東 橋嚴 大字 自 神 島 依 所臨 比 題 值. 日 監 將特 電製內 IIII III K 筆雪 無 访访 雙 洲蓬 勝。 % 100 來 る島。 下 仙 公言 唯 眞

碑。 盖名固 名 名。于博治。 一或云。 則江左以 霊 無常 Ili 然名固 加 名也。 後名者皆廢焉 島 碗 無常名 寧師名,于禪不,子,書。今 帖 跋 小小 子章慕 膝 是學豈概 m 帖 太 之。 於 唨 此 子 415 雄 1 也 島

端 鏡。 圓 妙覺卒華 雲封 題 誰 致巧 四 以 Ti 碑 奪 口 年此 鈋 市市 吐蓮。一 I 然 手。直 如 字 岸 把老仙 ___ 立 鐫功 無 闕 遷。 用 m 晋 目 賢 名 傳 師 隨 達 形 狍 隨 氏 天 摹 開 筆

類字名所和歌集第五 廿一代集拔書

山

路

高

低

花

縱

横

鐘

樫

時

雜

宿

禽

聲

峯

则

徐

上

赤

背

月。

上

御

島

桐

II

富

春

叟

同戀三

くなは

松島やをしまか磯のゆふ霞たな引わたせあまの

新勅撰春上

前

參

議

親

隆

陸

まつしまや我身のかたにやく鹽の烟のするをとふ

重 之

續後 撰秋下

人もかな

源

後拾遺戀四

松しまやを嶋か磯にあさりせし蟹の袖こそかくは れしか

詞花賀

元

輔

うつなり

松島やあまのとまやの夕霧に沙かせさむくころも

權

律

師

公

猷

同戀三

權 大

納

言

質雄

ぬ思ひに立

まつしまや鱧の藁鹽火それならてたか

\$7

まつしまの磯に むれ居るあしたつの をのかさま くみへし千代かな

新古今秋上

鴨

長

明

松しまや沙くむあまの秋の袖月は物思ふならひの

土御 門內

大臣

浦かせやよ寒なるらん松島や蟹のとまやに衣うつ 續古今秋下 けむりかな

なり

同族

みか

同 悬二

にあ

立かへり又も來て見ん松島や小島のとまや浪

俊

成

72 るかな

あ

ふ事をい

つしかとのみ松島のかはらす人を懸わ

丸

陸奥にありといふなる松しまの待に久しくとはぬ 同 悬四

72

讀

人不

知

前

內

大

臣

君

かな

二五五

新 後

上 御 製

同秋下

松

しまのあまの衣手秋くれていつかはほさん露も

定

家

かけ。

新後撰釋教

成

俊

同冬二

啼くなり。 松しまやをしまの磯による浪の月の出入りに千鳥

やみちには迷ひも果し有明の月松島の 蓮 生 人のし 法 師

るへ

ま

つしまや

を島の

あまの捨衣思ひすつれとね

るゝ

前

參

談

忠

光

義 門 院

同戀二

1=0

事を松しまやをしまの 遊 あまの 袖 は

n \$2 0

つれもなく猶逢

玉葉戀二

淸 少 納

言

便 のある風 もや吹くと松しまによせて久しきあまの

はし舟。

續千載春上

後

京

極

やほ 長関なる 春の ひかりに松しまやをしまのあまの袖

> 同戀二 しくれと。 IE 三位

松島やをし まの 海士に尋見んぬ れて は 袖 知 U) 色や 家

カコ

同 は ると。

新續古今雜上 袖 か な

前 大 僧 Œ 實助

れなくも今は何 をか松しまやをしまね 老の浪を

カコ 3 ねて。

2

松 島

ッキー我妻の果しなき 道の~。奥まて 猶もたつねん。

し、又鎌倉に當夏を送り候。此度思ひ立陸與行脚と志 し候。夜をこめて鎌倉山をたつ雲の人へ。足にまか 是は鎌倉邊より出たる 僧にて候。我 國 なを 修行 せ

北は山 ち秋 を照す 松島 る。旅 なれ 是に営屋 徊 士のいさり火 は 0) 里の清郷萬里の天。各々たる百島うかめ するなり。質にや 0) 0) 境 人を得て顯れ人は境によって傳はる。 し候 秋 界 U) 師 の夕も。是には のけしきかなくし。ワキ「い 3 南 0) 契の 松 程 野の p 0) 0) 幾峯 道こそ果なけ 名 如 風法をつたへてとこしなへに。をしまの海 植 0) に。は 色見 候立 H 秋の色。一村の桑拓一村のけむり。東 は。 カン 月なををし照や。をし も。つくることなきためしなれは。萬 ん松の。陰 P 白 ある。山上幾株の 誰うゑて此松島 えて。 こえ 鹽 B 川 か 0 いかてまさるへき。 0) 宿を 暮 まの八十島かけて。 n 關こえて。 此松も日 ni 〈天 カコ て候。宿りなか らはやと思ひ 是は聞 下を U) かに此内へ案内申候。 0) 松峭壁巉岸翠を含み。 安達 名そ高 本 まい 覆 1-及し松島 0) 5 其 かなた まの 海あら され きっち b り吳江 72 すむ 名 俠 候 め 8 3 しに はにや。 =/ は 月 此 高 ろ 月 な テ h 楚岸 0) き水 こし 面 方徘 は萬 3 日 P 80 光 白 境 境 3

此 にけ 2 L 9 ワ 又この ワキ「惣して見得渡 0) 2 h ~ 0 ん。 h せと候や。ワ テフ き「扨は此島は。古へ見佛上人の住 入らせ給 候。 きい 浦 8 寢 はりなり。 カコ をは。誰とはさため申すへき。ヮきがにく あ D 0) な。本よ U) る り。宮屋 何事そ。ワキ「是 十一 0) 何 破り 軒 床。シテ「かすにもあらすかるにもなき。同「あ 73 八 扨 れも皆名島 3 は をは 十島 松島 も。近 中中 は へや。ワキ「い 千鳥の音 り此 カコ あるしを誰としら波のうついも 浪 の木 12 をしまと中 とは。 K カラ 風 UB 世 る島々は 浦 立智 も旅 h 8 U) 13 にて 1: 何 寢 事 行 あ つくきく。 かに なれ 松 弘 たて 0 らさ 脚 候。 =/ 夢 0) 1-テ 0) 。皆名島にて候か。 は。 御 申 僧 島 8 -ゝ。友人をよふ To 是は 63 物 候 を申 候。シテ「何事 朝. 1-カコ 第 30 て候っ 程 候 かなら 遠 h 御 給 P) 1= 候 0) 島 調 カコ 0) 20 ~ 干 カコ やとり とも L をしへ 名 1 ん。 松島 シテー は H 夜 跡 島 にて候そ。 なり。此 去 T 聞 候な。 かっ 0) と申 シテフ 申 夢 冷 是 0) な えぬ 御 宿 h て候。 は 候 あ む 8 かっ あ 智 候。 俠 月 L は 3 方 3 かっ る n 8 カコ

納 よ 門。本尊ほ に六萬 籠 山 T 32 12 八 にのサーとり 五 覧しとう 3 テ ひ。二人 大堂の め給 け b 50 13 72 1= 候 地 中 中 る。ワ かっ B 为 主 な 此 8 ひし 10 島 Sign Sign A 1 5 3 とは 30 + 島と申候。 B 島 多 0 n 所 T うきを参 見て給ふ。あ 候 事 2 候そ。あ 0 によって、經 て。此邊 御 72 南 **新** 水 分ふる 此 候 ての 島 肌 波 n D 何 御 如 0) 3 は + まか 彼 き松の 5 島 隔て より 0) 成 0) 浦 あ 5 あの 島 せ にて 月 つつ 御 扨 カコ 島 カコ て。徳妙 3 は \$2 なき。ワ TIME なる め は五 2 カコ 0) 17 島より陸つつきなる岸の上 木立。 中や 島 1-日 カコ カコ 見 きに 0) 松 T け。和 島。 御 候。 候島 と申 夜法華を讀誦し。 御 鳥 大質のましますゆ 鹽竈 + ねなり。 あ 闸 3 在 を顯 シテ「朱の玉 D 浪の 沙。 候。 72 こそは。 所 1= 神 + 光 つてつ T は は 同 とい し給 3/ L 忝 又これ 镇 候 學 テげに 50 3 < 2 その 圆 ひ。シ ひしか 八 御社 8 彼の n 2 ま 相 天 3. は 1 =/ カコ 1= て 成道。 テ テフ 仁 好典 十二 松 き神 よし 0) よ カコ 0) は。 ~ 佛 島 V 候 程 あ U) 10 カコ 1 夫 御 年 南 な 鹽 3 を 1 あ 3 碳 n

ひく鹽 くとして。とこしなへにすすしみの聲絕す。 こゝ 5 なし 松 月の 波し 千 島 草木國土 h はらは。名にしおふまか るまし。シテ「抑 10 らて。シテ「千賀の 0) 難 浪のよするも、をの 0) お 5 里の と申 つか 又なしとも カコ 7, 木末の名も高き、今の 有の誓ひやな。二人一松の h お をも汲 海潮 L 外 も。あ かさす棹 D 悉皆 T 國 なるわたつ 故 香。 3 2 n 人の 成佛無 cop of 八 みてし 1= 是は神代より。今人の代に。ときは 世 L 0) 何を 浦 心 見 お 間 30 した わに。 B L ~ 0) 情非 み。 るや。鹽 במ 72 L 2 かりつ 音 > 同 60 かっ * 3 0) 6, 新金 鹽み 澄月の りの。 心なれ は 爱 ま弓 5 地 浪 カコ 島 1-む。 島 あ 響波 0 は カラ 后 2) カコ 1 とよ。 神 忝 まの のへたてなき。 八 カコ よ 淡路 鹽 砂 は。 光を和 3 多 U) < n 3 + 0) U h 音。 結 浦 00 \$0 いなり 有 島 3 0) 數 な 帝 郷 ふる つくきつ 無 0) 响 カコ カコ 陸 都 3 てちり 樂 72 H 0) 0) 5 奥 をさつ 0 有難や。 同 同 3 世 T 2 む 0) 3 行 8 また 7 72 是 有難 時 御 近 1= 松 舟 まし 法 遠 てニ 2 75 8 2 島 72 (i) 如 法 8 P ほ る 0) 都 破 5 あ 0) カコ

より 同紀 の音か一 きは 青樂もかたふく松の木する。花も紅葉 秋風樂の ひ。シテ「琴の音に浦の松風かよひ來て。同いつれの 島のうらはの つくる時 に。引鹽の にさかゆくや しらへそめけむ。 の葉笛波の皷。同「浦の松風かよひ來て。シテ「琴 や明行や浦の答屋、爰そもとより千松島。常磐 ると人は言け 面白や。 舞の なく。 浦風に言葉をか 袖。シァ「さすは月の 鹽もさし引か。 お 同一老か身に月のかつらをかさしのま 0) n 0 かっ と。本より真如 調初けむく、シテ「玉の緒 C, 千松島こそ外しけれ 見 かっ はすは 同一青海波 くは磯 かけ。同引は カコ 0) 5 のなみ。 珠の。お も波のうへよ なりつ の舞 0) シテ、松 しまの 潮 折 袖 0) カラ 0) 緒 海 5 カコ

. 少將の尼侍從のつほねらは。いやそきたるすまい。み わ きは更にて。おほし出るたに。なき世になり行 の宮 松 なしきかきりはこゝらためしあるへきを。 の。は 日 かっ なう おは しますにつけて。 清 少 さる物 言

やこの とめ しも。今日をかきりの。なこりとおもひつ にやとりね。こうもあふみ る事 つひあしるとして。み 守なる人は。我ゆ たりも。今日は いつころ。ものうふのとかめに。あひにたる清水のわ 所を常に 3 のりこちとかめ くや、水のまろとの らいかうも。ねかふにはあかすやは なら る。干とせの松 うるとこなれたる 住家は。おほつかなくうしろ いり ての よ。け へはさらなり。もとの んには。い 內 日は をかけまふる。 しる ふしも時 伊勢路 カコ おそろしからす。おほいし。しもつけの カコ ならぬ。身の ん。年 に老さりねへきすら。 カコ たのしほ 雨 b にあらぬ ちの なる めく ころ ち カコ 家の の國なりときくに、夜ひと お 左の お き所。甲 頃にて。 放に。その りして。住うか すくせ 1 B おうなの旅。 犬より 0) ひ立ついく おとう יכל おは 賀 みやこ たいこ おもひけ も口 娘() のこほ 0) けなき。彌 במ み いいれ たれしか名 らずか をし を さそ お る。 12 8 to い B カコ 72 U 3 め 我 立 よひ は T 水 0) 陀 ね 8 5 zt 0) 3 2 to. h かっ 0) 82 Da

その 日 石 山 U) かっ た。三井寺 しくなとう。獨こちぬ U) かた の行雲をなん。 る夜。まきなる 在五 0) 草 南

過 過 3 は 秘 根 2 しらぬ道行人の。老 カラ う。おほつかなしや。友とする人もなしやと。つむや は。けるいつか かちなり、日もたかくさしのほるに。しくれの雲き てたり。いそくへき道ならす。 もやう もいたりて。お り。かのまひ人の るに。むくつけ の枕。い 72 るに。そ て。みの 河 (。所々 殘の 雲もはつか ととほ 國 と名 n 0) かさをもろうじぬをとて。いつちとも カコ 日 よ か 道 72 3 しかりけむ。なるみ らす。 U) かへす袖なと。その 0) b を來りけむ。伊勢の 12 2 あなひよくそ。 0) 3 むまやつたひをはるかにゆ 聞 1= ため。ねさときにも。明 都を出て日數もわすれ かっ しをなん。 りてうして。つれ 宿のあるし尼人のす しきまて。 聞 しり といふすくを かみのうちす 海 まか つら青みわ たるやこた 元 しらみ もう なひつ か 72 1= # 3

思ひつるくるも。むねいたしかし。けたへて。枯たる落はころろ水に浮ひて。おかしきに

物おもふくもての水に散うかふかれ枝の柳おもか

けも

なし。

佐夜の中山といふに。うちつゝきやまかさなり。いつち上中下の へたてわいためなし。駿河の國字津の山ち上中下の へたてわいためなし。駿河の國字津の山ちかけてやすらひぬ。

うつの山うつゝも夢も 同し世に。つひの別れやい

清見 雲 日 ころのなくさみにとて。めかりて歸 して。霜の毛衣も露うちはらふよすかにて。ここに 得させぬ詞よこなまらぬを。みやこの人といひそら ふた日やすらひて。 お ほ か關を越るに。旅の心ほそさ所に。つけたるもの。 ひたるはきの 及ふへきにしもあらすかし。浮 遠く見やれ は あ る女にや 高 我に 根。

め

たきに。八橋の蜘手も朽にたるに。

青柳

0)

お

6

かっ

も深過

る。見るか内

h

くのおきな。むくつけき髭に。吹ついも吞ほしぬ。小夜 すとや。松に火を吹ためて。あた」め酒を、かのうばそ うに。立こみたるに。まさなの雪もふりね。ともしあか そえ玉まつる。うはそくの翁。うはいのおもとたつも。 て。唯ゆすりする心つかひる日なりとて。松に樒たて の坊にこもりて。薪つき水 こりたむるたつきもなく にてとしを送りぬ。冬の日にはいかてかとて。ひぢり も思よらすして。念佛してあかすに。 か原までも、道行人にたすけられて行。ゆくとしも のおこなひすまして居はへるに。ことしはこう へし。ひしり翁更 て麓の里に。とみのことって。ほのほの立のほ になんありねる事よ、今白雪霙ふりこりて。わ おもたらしきに。とまやの里といへるに。ひ 坊に來りつたふに。其夜海 はけしく吹よせた 16 1= かありけん。その里み おとろかす。 30 與砂 春といへとも往 あすのつとめを いかめしふう 雪をこほ な灰 にな すや 來もすくなく。旅立おのこもみへす。雪もひるのこと くも彌陀の來迎。かしこきものかし。東瑠利の國に生 二十日の夜。まとろむ心もゆくはかりなるに。 く降こめたり。とかくして。二月の頃も過やよひ けられてこえぬ ほるほとに。つみさり所なけれとも。そこの山をたす れてまうのほるに。心きもうつふるうやうにしての を越ゆへきといひしらふ。いなひかたくて。いさなは も。ふすのおきともおかしきはかり。我ををふて高根 郎の。おなとゝかすまへて。十かしらは るしのひしりに。いとま給りてみちのおくの れよとの御おしへある心ちして。さめぬ にそめてなん。さへつる音聲のとかなり。 は。こうもとういへとも。花もさかえゆ 思ひたちぬ さしのゝ末の ふ人に尋つゝ。白河の關 。所のうはそくたち。若き太郎の 古我 れは。十日はかりさすらふてこそ。 O) 渡といふに にかっ

ימ

h

くつけ

おとと一

るままにあ

72

ひに

なりて。濱風

此ひしりの

しり

5

んすも

き。鳥

0)

翅

も霞

空

やよひ中の

島

なき、旅

うるに。女は老たりとい

至 る

き

といふをきくに。おそろしき物から。行に カコ て。つる とも。關守の見とかめてなまからきや。行あたらん n 5 > わけ に通 T ふる あ 72 に事なくて。關もり心ある人にて。 へのの 程ちかくな

くる涙は 名をさへも 4 さ白 河の関もりのいかにまかへてか

け 外にそこをまか して。みちのお このひしり。なにかしの僧都の御うへは。都 カコ こともち。あきた なる人の子なるへし、長和五とせの頃に。こうに來り と心に念してくたり行に。二十日はかりを からきめ り。ことし りぬ れは。傍 たり。是よりきりやの庄といふに。しもつうけのみ へき浦に住むと、聞て至りけるに。しれ る暮にたるに。年の行衛を聞は。こうの大と 僧 (0) 房 て。松島とか にか 0) 宮城のこほり。國府の屋といふに たはへの家。作給りてくらし 娘すむと みやこにて聞。 聞て尋ゆくに。 耳 のおとう 思ひの る物 お かっ な

> に。みやこ島といふに住つきて。おこないすました 3 此 は とけのいとひたまふ事とこそ。なにかしの經にも に。おくれさきたつかなしみ。さかさまなる佛事 と。かたらひちきりて住侍るに。此 ふへき語るへき詞 るものを。さへと善を積て。我をつみに に行逢に。なにをあひあふしほりとしてかたみに。 し身まかりぬ。我におくるゝこと。 月おくらんには。まさるす せん 島 れ生とまるへき身にし侍らぬ。 0) とての さきい 守いの もなし。佛の かっ りあるよしを聞て。 みか 御名を唱へて。うき年 こゝをさり 大納 むとせ 尼ぜつとめ 言の) もおとさて。さ あなた T ふみまい 侍 T は、ほ なる のと 5 侍 43 る

釣舟。 たよりある風もや吹と松しまによせて久しき蜑の

ん六とせは。けふにいたりて むかえついきうし とよみておくりける。それよりつとに おき夜に るにも。とみさうほたいのゑこうのこゑ。絕すしてな いか

給

ふといへり。彼あきたうのあその尼。たつねまいる

ほ 身 ひてとか。今歸りさらんともたれゆるしなけれ ひたうす。昔のあのゑにか 8 まか n カコ ינו h てすさ 72 む。あ し、あたに立行浪 まの たもともよそならすして。し いれ僧の の行 衛は。 様に でう室にも うらみ勝に は 思

らむ。 ぬれて沙干の 方に身を盡すあまの恨をたれには

ち

此 けても。みやこの いとうしくきさいの宮の。 心には。さためたまはむや。 年ころは。 末も。夢よりはいくらかまさりけむ。い 例よりは心まとひたちい かたの おとつれも。まれになり行 御 面影御堂殿 安 0) カコ カコ に佛 3 御さ 12 につ 0) かっ に。 御

亦 仁治皇帝の勅宣」畫之。今借」道朝親王の御本 寫之 右三卷の日記。號"松島日記。繪圖者士佐光俊蒙

村某甚 作 また聞 。清少納言 し事 もあ の奥に下り らす。 し事。 カコ 南 口 るに一と 碑 にも

> 與へて寫させ侍りき。 よみしか。まこうへくもあらす是なりと云。則かし 侯御家し 取 し内に。松島日記 せ江府にて。赤坂を通 と云。子も此本を出して見せしかは。彼つら 得 てひめ置しに。或 h の内 1-0 とい 清沙 2 H りし頭。 もの 那 約 須 言の松島 十太夫來り。 あ 古本ともひら 50 日記 つらし 付 所 持 3 收 せ 野

父曾孫 或百人一首抄に云。清少納 と云。 言は。清原元輔女と云。深

邊におちふれてとあり。云 條院 皇后宮女房。枕草紙をか ける。老の後は 四 國 0)

け 雑中に。老 契冲翁云。古説に清少納言老 たるよしあり。たし n は の後こもり侍りけるを。 かっ なる出所 の後。四國の きか 人の尋 す。 續千 邊にさすら てまて來 池 集 9 0)

とろ 2 3 בת 人の n あ りとはえこそいひ出め我やはわ れとお

この なるへし。 詞 書に よ n は 。都 0) カコ 72 H とり に。 こも b 居 け 3

薨後 中著 清少納言。一 始賜。清原姓 移 述。 四 號,枕草紙。與 國界。於, 洛誓願 一。通雄 條 御字。后宮女房也。舍人親王曾孫通雄 五 世 "紫瓜 元輔女。故以"清字。長德 寺 源氏物語。 出 家 住。 古墳寺有 並行.于世 是 L。 皇后 保 年

或云。老後死。于阿波撰養郡延虫村。有上墓。

來り授 婦人來 清少納 り歌を教 慕 は 該 M 州 。何 九 心も 龜 1= なく あ h 打過 其 1 邊 に U) = 百 十度 姓 夢 まて 1: 美

ありてしもかな。

是 此事 n け には古歌 其 るとなり 段 事 N 弘 に 0) 弘 1 清 は 成 英。其 包み。誰 小 納 所 言 0 人 領 0 よ 0 主よ 2 歌 歌 6 1= 京都 0) カコ 風躰 有 之哉 へ爲、登。或公家 あ h と聞 20 L 42 は

結既錄松岡玄達著卷上云。讃岐金毘羅山ニ清墓アリ。相

峯雪 清少納言。肥後守清原元輔女也。 大日本史卷二百二十五 齊名"仕 非ス。安藝一 1 傳 ヲ 夢 フ。清 1 想如 V 4 シ F 少 何。少 定子皇后 云。 ナ 納 士人ノ家 V 言 ウ)納言即 h ツ P 慕 カ ツ 被"眷遇。皇后 北 ナ テ 起。寒、簾。時人嘆,其敏 1 事ナリ + 3/ 列 寺 力 r 女 僧 ナ 1 或 佑 1 1 雪後顧 左 農 有"才 2 人云。 曾 N 3/ テ 學。與 清 是 ヲ 金 15 久 右 捷。 納 毘 V 紫式 日。香 為十二訓 雞 言 = 力 = 1 部 爐 歌

等流寬 窶。憫笑,之。少納 者。哉。笑者惭 枕帝 草子樓 不、果。枕草 皇 后 而去。古事 時 言自 嘉 老而 其 簾中 才 著枕 家居宇 華。欲 呼 草子一行 E 表 甚 陋。 爲 不」聞 内 郎 于 侍 置 有質 世。 遭 年 小 膝 歌 見 原 馬 共 伊 骨 周 貧

叉世 蓮煎餅 老 凡客之游,仙臺,者。蓋莫,不、探,奇。 境心。皆 後 落 有清氏 歌。紅 魄 為"友人"校 流 松島 蓮煎餅。松 寓 松島 日記 其所著松島 者。 改 島 名 產 記 物。 紅 中 有 道。 土 製 康 人 聞見錄者。戲 松島稱"天下之 和 此 相 五. 傳 餅 年等 清 取 15 字。 給 作 納 云。 勝 康 紅 言

贅。 海西鶴峯戊申。 是耶。日記亦幾"乎蘇·也。因姑書"其歌於紙尾。以代』 是耶。日記亦幾"乎蘇·也。因姑書"其歌於紙尾。以代』

蕭寺大 氏遠尋"明順女。宮城野露敞衣拂。遂漂"松島寺門邊。更 清少納言元輔女。 錄。掩、卷拭、目感慨中。 清氏每、聞。京消息。歔欷流涕慕。 虎子度。山 名紅蓮」首無、髴。 嘆"駿馬骨。野 擬,內待。兄弟流竄往事負。中宮既立 德相門族。長和五年來』此境。京師消息 已御 州明順 風。一家三后御堂光。天下榮華一 昔日雪後起寒、靡、今也月前坐、煎餅。 一條帝時。仕 皇后緣"其女在下與。當剔髮。 故宮。吾讀。松島聞見 皇后一皇后愛」才 皇后崩。清氏有 知 人窮。 何 事。 清

鹽かま松島道の記

郡に道 鹽竈大明神は。この つみ去ところなくなん。文月十日今日はことに。 智 72 國の 72 後とかくして。いままておこたり ま へ。先この御社 國 の鎮守として。往古より宮城の にこふまふて侍 かの 82 3 3

神わさの日なりけれは。おもひ立て また夜深く城を出ぬ。明はなるゝ空打曇りて。雨もやふり來らんと思出ぬ。明はなるゝ空打曇りて。雨もやふり來らんと思出な。明はなるゝ空打曇りて。雨もやふり來らんと思いふを聞く。

待暮の軒端にかゝる糸ならて日影もよほすくもの

なと思ひ出られて。 かきつくしてよなと。詠ることの前の右大將賴朝の かきつくしてよなと。詠ること

つほの石ふみ。、

浮島をはるかに見やりて。

の松はふりせね。

野 に立入。衣装なとひきつくろい 田 0) 玉 川 0 あとなと見侍りて。程 神前 なく にまい 法述 h 寺 0) 坊

72 3 お てまつりて。又としころよみをき侍りし歌なと。 はしましぬ。奉へいはてくのち。太刀一振、神馬一匹 春より社造營の事 はへるとて。 いとなみけれは。 いまた假 殿に

手向 らすな。 ても色なき露の言の葉をこの神垣のほかにち

見 h 浴 カコ 8 5 め はへるに むく。波の上もしつか \$2 h する時 かっ 12 まに となん。それよりまふけをきつるやとりに行 あひなとたうへてやすらふに。空の氣色も うら りて神 は、かならすいろかはり。ゆたかなる時はす ひもよしとい いりて なし。 おか この に眺望たくひなし。 みはへるに。水もいときよく へは。舟もよほして松島 見かまの水。國のさとしあら 籬島 をす へお -Co

漕舟の波のゆききは日に近くむか へたたす。 ふまかきのしま

舟子とも の聲を帆 にあけ て。 うたふもおかし。浦々島

> 見へたり。夕日のうつるけしき。繪にかけとも うかひたり。左は五大尊の立たまふ島、右 0 見しは。 ひて。袋まて來る事。さらに興ありておほゆ。とか かれらはまつしまへゆきたりしに。 々行過て。都 カコ るうかりの て未のおはりに松島に着ぬ。月見崎といふ。海見やら たし。 法菲 經を。おさめ 物の數にもあらす。むかし見物 やとりに入て見わたせは。 島のほとりに。藤原のなをしけ、源 ける經か島 3 むか むか 舟の ひにまち 上人の六萬 には ひの舟よそ 內 松しま にし お 头 くし よひ 雄、 部 T <

のし 72 か筆にうつしもとらん浪の上の夕日 にうか ふ神

ま

くれ 相 つく かっ > る雲の 程 に。し 色も め eg かは かな れに。 あたり なる 寺 マの入

な 0) かっ かっ ね。 めこし浪路は くれて破 -のこするし残る入相

秘 ふくるまてなか おりいつ つとめておきいて 見

はへるに。今朝はこさめましりの鹽かせに。なみもし

そひなとし侍るほと。たたにあらんやはとて。是かれいへは。さらはけふも舟にて所々見るへしとて。舟よ

歌よむ。海邊の月といふ題を得たり。

雲晴れて風もなきたる浦浪にころかもすめる月の

しつけさ

みの月かけ。

けはもりけれ。

たてそえたるを見て。をめくるほと。左の磯のかたに海士の鹽やくけむり。雨風やみぬれは。やかて舟にのりていてぬ。經かしま

よそめにはあかぬ見るめのうらつたひ身のうきわ

さにたてる煙も。

沖中にこき出る程。釣州おほくうかめり。よりてとへ

らては。なきよしをいふ。えものはうをひとつ。ふたつな

身をうかふらん。つりの絲にかゝれる魚も浪の上にこゝろなかくや

さにこゝろをやひく。

舟にのるへき沙ときも。すきなんといへは。変を出 麓にくたり。またはし舟にのりて。おきなる舟にうつ あ 舟おろして磯邊にあか 1: は舟あしもおそく。 たすに。海上に千島うか 遠あさに舟をよせたれと。引鹽なれは便あしく。はし てて聞けは。浪ここもとに。立くる心地して。い りね。すこし行ほとに風吹あめそゝきて。浪たかけ て。とみ山にのほる。しけ 5 やまたる。なにくれに立かへらん。名残おしけれ たれ 30 更行 に雨風をやみ からうして暮すくるはかり。松島 50 ひて。沖神舟も梢よする りたる松杉の。ひまより見 それよりついらをりを なくし て。枕をそは も寢 T 5 72 n わ

れす。

夜もすからうら風あらく見る夢も浪にま近き磯の

カコ

H の山 はりて今朝 の上も殊更 は磯つたひして。元のやとりに入て。歸城すへきもよ たり。見佛上人の住しあとなと見侍りて。日たけぬれ なといたして。物語に時をうつす。是より雄しまにい 日 日 し人々し侍 な n 0 3 庵に立入にたれは。天りん院きたりて。くた物 は 程 。瑞岩寺まうてゝ焼香なとしはへ 五大尊にまい 一に見 1 り空 るほと。おもてを見わたすに。よへに 所 お も。ころろよくはれ侍りしか ほくて。 りぬ。けふは 曾祖父忠宗の忌 50 うしろ は。浪 かっ

秋のうら浪 島 の名のまつとしきけは我もまたたちかへりこん

此一 日もすこしなゝめに 清水谷前亞相質業卿入, 見參。歌詞書等得,添 なり侍れは。爰を出てかへりね。

寳 永元曆初冬念六

左近衛權少將藤原朝臣吉村

記

茂

義

質

鹽松

之記

としきに御屋形を立出侍りぬ。よへよりか えんにはれ にしたかひ奉りて。また明やらぬ空をくらく。た 我君しろしめし給 ほつかなか 雨もようの あふせを蒙りて。葉月十日あまりひ カコ それより松しまのか ころ。空もし とりもやら ねて 御もよほ ぬやうに見 n 空なれは。やかてふり出んほ りしに。原の町といふむまやちを らみ るさまは。 わ しありけ مک たりて明仄 たに。 御國 へけ 春のけし るに。 れは。 お の一宮にまふてたまひて。 8 の景い むか みつ きに と出 せ給ふへきよし。 カコ 木 は 8 C, h とも。 おささ 1= 3 かっ きくもり。 なん。御駕 御 たなく。 行 ともの すくる 末 お

空。 昔よりなと春のみと詠めけん秋 も哀にあけほの 0

なと心のうちにうちすして。行手の道の邊に。御粧 多

たる景いふもさらなり。 0) **書樓とい** くりなせ みちも。さりあ 見奉らんとて。おのこおうな打連れゐつゝ。玉ほこの りつかせ給ふ。先別當坊に入らせ給ひて。あやしくつ かくとも筆も及は如さまなり。年か島はさなから離 やうにみえ。その外沖のしましつの。なみにうかひ の宮に ふ額をかけたり。此ところの眺望は。むへる りける。一間にしはしやすらひぬ。こゝに勝 n への程になん有ける。みの刻ちかきこ かつかせ給ひて。程なく鹽釜に いた

うつすともゑやはおよはし霧晴てたくひも浪にう

きかひ給ひて。を島か崎こなたより 御舟にめさせ給ふとき。禰宜とも樂を奏す。しらへいとすみわたり、神私頭におもむかせ給ふ。唐門を過て 神殿に入らせ給社頭におもむかせ給ふ。唐門を過て 神殿に入らせ給

行浪路のこのもかのも。めくらすに靈元帝の。

近くむかひとをくうかひてしまし、のかはるみる

となんいふ御製にたかはす。遠近の島々の みへみ見となんいふ御製にたかはす。遠近の島々の みへみ見て。 ところに。上らせ給ふ。をのれは御舟にとゝまりはへる。やゝありてかへらせ給ふ。をのれは御舟にとゝまりはへ

草を。立よりて手折もあかすいろ~~の花咲山の秋の千

色々の花さき山に行やらてあかぬ盛りをみぬそくとなんよませ給ひぬとて。みせ給ふを拜吟し奉りて。

くれつかたより 3 る 時 過 3 ほとに。月見崎 63 とふかき曇りた てふ 御 殿 h に入 らせ か。 小夜すく 給 ひ

ゆくり 中 繪 0) 3 る頃 見ところあ U あ 3 し侍りぬ。このよもすか に カ 明 72 む に似て。こと葉にのへかたし。やゝ漕行まゝに。いろ 72 < カコ h 。睛そめて雲の絕間に。月かけの 日十二日 には なく御 L かたちして。 らせ給 近 誰筆にうつして波の上にかっるゑしまの名 き寺々にまふて給 島 り。や 真帆 U) 舟のことなと。 ふに。蜑の釣舟こゝかしこにうかひ、沖 かっ は。とをつ御 かっ 72 片帆の數々見ゆる。さなからうつし は て人にとへは。繪 をの らにっならひ ら音樂あり。これ又與多 か名におへる。島々の おやの ふ。晝つかたにいたりて。 もよはさせて しまく 72 御 島といふとなん。 3 はかなとはしめ。 見ゆるも與を催 小島の わきて。 見ゆ カコ 3 h

霧のくま松のけ る はひもよにたくひ波のゑしまのみ

しけ

九野 て。みや戸しまちかき。とうなといふあたりまて。わた 島。 つらしま。ほうしまなんといふ。 島 A を過

> 鹽やく! らせ給ふ。磯 烟の。立のほるも見へけれ きわには、 、髪の家々立つゝきて、その はっ 末 1-

船 つなく浦 わの末に立のほるけむ りや蜑の もしほ

成

3

お 8 らき仕業を。 立なひく浦わ ひ 出るま ンに。 か 0) けむり見てそしる鹽焼 5 つけ侍 b n くあ まの かっ

をみ給ひ。興 このほとりにて。釣い糸たれ給ひて。いをあまた まのけはひ。面かはりしてみところも。ひときわ と成 3 きくもりて。折々にはひちか なりにた て。船子とも る。元亨丸 ふも。興ありけに見へ給ふ、又ころに ER L מל 幕 n は 觀慶丸なんとい を催 0) つかたよりいとよくは P 帆 かて漕 ふさ 30 かっ せ H 給 梶 かへ 7 をとるさま。 らせ給 tt ふ船 さの雨 る程 150 3 公 1-0 れわた 乘 つなき H 降 日 な 5 2 **z**, つら 30 h りきぬ 0) 入 置た 2 空 相 せ 0) まさ るほ 仕業 獲給 h 8 近 給 H

カコ

5

U

遠近のみるめさやかに空はれて夕日かっやく彼の

かさの 給ふほ 5 30 に。漁舟 れ行。かけ しらす。みゆるをひくしほにさそわれて。浦遠くなか ほとりにおよふ。ともし火の數はかそふるかきりも 奉りぬ。を島のかたより帆かけ見へそめて。 二子しまのほとりより。くれそめて 月見崎へ入らせ とは。島のなか 火 なかしとかいふまねひして、御すさみ め 影寒燒浪。 も浪にうつりて。なをたくひなくみへける しに て。 とし毎 はにもや有けん。こよひ郡 といふからうたの句も。思ひ出 の文月中の六日に 福浦島 にみせ すとい のつ 0)

数あまた千里のおきにともす火はさなから波をや

十日 1 るさの 8 明 は 道 なる 1 に おも みゆ >頃より。そらいとよくはれて。沖の島 る。朝 步 かっ せ給ふ。をしまの カコ n 5 なとめ させ給ひて。 かたより。 かっ 御

終らさるに。はやくも大代にいたり。御船 入 もつきせす思し給ひぬれと。かきり りて。浪の音松風に和して。いとたくひなく面白く。興 破新羅。陵王爺武德樂なりき。 船樂を奏させ給ふ。鳳笙。松廣、辰續、篳篥。 舟にめし今日は 大代といふ所まて。渡らせ給 名残多く。おもふよふなり。しはし棹さしとうめ。青 ふへき所も。程ちかく見へけれは。たれもししとみ 樂の三つを奏すへきよし。 きよし。皆人のいひあへるをきかせ は終りぬ。されと上らせ給ふへき所まては。 ふ。まつ壹越調 利亮なり。おまいには、三管ともかはる人 廣菫。みつからもそのうちにくはへらる。 のさきに。いひしことはにたかひて。輪臺 御もよふしなりき。浪路はるか らせ給 ひ。これ 胡 ひは盤 飲酒 破。春 泄 あふせあ 調 鶯囀の。颯踏。羅陵 1= りちのしらへすみ て。 に消出てさせ給 輸 給 あれは。九曲 りけ 1 ひ。 青 3 なを つけ 0 離笛,義肥, 友賢 にのみ 海 また程遠 80) 曲 波千 させ 8 E ふへき **爺利** ひて。 な人 ま MI わた 0) 0) 給 秋 入 72 數 給

殘 道をたとりつ はしあるへく思ひしに。音樂の興にまきれしゆへに のまつも。あまたしけり たにおもむかせ給 や。あまりにほとなく來りしやうに。かへすくしる名 波をやめて。すくに千秋樂をそ奏せらる。松しまより ふ。名に高き所々みめくらせ給ふ。むかしは此 おしか に入らせ給ひ。しはしやすらはせ給 りき。これより陸 、船路三里あまりあるよしなれは。やゝし 笠神 ひ。沖の井・都島・末の松山 てふ あひけん。今はわつかに五 あ へ上らせ給ひて。田つらの 77 ちののい ひて。八 3: せきしつか なんとい まつ山 幡 0) 8 かっ

末のまつ山 薬より 5 年 なみを越えきてか こたかくしける と斗木た

カコ

く見ゆ。

ימ みつからもそれを。まねふとにはあらねと。名所の物 む をひろひ。都のつとにせしよしをきゝおよひ侍りぬ かし筑紫の宗久とかいふ僧の。 爰に來りて 松かさ 拾ひえて。家つとにせまほしく。そここったつぬ

> 名殘の氣色。い そへ奉るもいと賑々し。苦竹といふあたりより。田 ことも打つとひ。御道すから松明をてらしつゝ。つき たらせ給ふころは。はや日も入ね。爱よりむらの れと。みへぬもわりなく打過ぬ。 面はるかに一西の方を見やれは。をちの山々の夕陽 は FU ימ たなくおもし 福 ろし。 田といふ里 村 1: 0 0) 0) 40

入し日の名残かゝやく山 きそら のはも麓は くれ て霧ふか

叉田のもさやかに月のてらせるを。 秋 の田 の稲葉をしなみ置露に宿れる月も影そさや

け

300

日なれ 200 h 0 なと打興しつい。御 n かっ ね るも。あ と。旅 8 遠近 りか 0) 1= 0 U たくおほへて。我屋にまか בל 72 れをやすめよとて。 くきあ ちにいたりつきぬ へぬ。 この よ 御 は n 殿居 いとま給 は。 Ò はへ すへ ね b は 3

文化十一年中秋日

香蓮といふくたものゝ由來

けることも。同 成のる頃、こも同 ちを。たゝひとりのみ行ほとに。やうしいせち 内外の宮に。まうてんとて出にけり。 めくしうおやにもけうふかいりけれは。うへや神 にまうてんとて。なれむつるゝまゝに。あした夕のう せたらん。やうに 合たり。かたみに こと露なし。年 の給へる。たからなりけりと。かきりなくかしつきけ たりける。おほしたつるにつけて。かたちよく心もま かりけれは。神に申佛に祈て。一人のをのこをなんも to り。この子 人有けり。その人つまをむかへて。とし月ふれと子な かしみちのおくの たみ 世は にいとうれしと思 月願 し筋にてひとつ心を。引わりてうち合 カコ りに成 物語りする程に。おもふこともいひ しかたにまうつるとて。人ひとり來 な わたりつるを。いさくら ん有ける。またなくよき友得たり 松しまに。ひとつのいへとめる ぬる頃。この親今はよに思ふ ひつく。宮に はるけきうまや は伊勢の も諸とも かく

らんには。何かはとうけひきてわかれけり。 山はへたつとも。思ふ心はさはらしを。た もうちして。ねかひわたることにし侍るを。おほ 子ひとり持侍 しの國人のいへるやう。君もかなしとおほす。御ひと んことこそ心ほそけれ。いかにせんいかにせましと。 つかは逢見ん。かくる友こそよに有かたけ ける。かくて宮にもまるりて後。つひに別るへきさは 淋しう。出入人もかしらかたむけつう。わひしけなり。 1= ~ うれしき。御こころさしに侍るか り子もたまへりとや。我 手とりかはしつゝ。いと別かてなり。思ひあまりて。こ てんやと聞得たり。みちのくに人。こた に成て。かた かくそかたらひける。さるはこしの國ひとになん さもわすれて。こうら年月かさねたる友よりも。 かへりて。は みにものかなしう。我も人もいま別 り。この子を君 る かに我 かたを見やれは。門の もいとあは に奉ら ん。は te とお な。さ Z る 1 う遠くなら ほ れ。よし さて松島 は は ンみ ゆる。 こくに しよ とも 給 心 海 女 有 U

は。思 まことも出こす。たゝなきに泣けり。いまはのちの 8 12 よ と思ふ。子 カコ なと。いか り。こしの のまうけもことたらぬことなく。こはむこ君の いとなむ。をのみたけきことにて。有し道ゆきふ 3 0 たりとて。よりふる」人にかたりつう。かきりなく じ外に。何こともおほえねは。かいること有と聞て 5 ほえす。涙にのみくれまとひて。打ふしたり。聞ま 市市 ひ出 72 ね H からうしなへるなりけり。限りなく の俄 め 圆 しきにふとむねつふれ り。もとよりい くもあらす。 も空にて入ねっさるは十日 1= だ またとりそへて。 しうの 添て松しまに來にけ は。い にうせぬことにしあれは。刀自 に け くしりて。かすくへのたからもの とも 30 くうれしき。よすか 夢のこゝ地 おくり へとめる人なりけれは。旅 ימ 72 1 50 て。 は らひし月を こゝ にて月を しそくの は なにことの かりさきに。 には 口はもの かっ もと へにけ まめま 72 戀 料よ なし カコ かっ 出 な め b b ~

もったか る本性にて。こは思よらぬ御ことをうけ へといはせたる。されと此女かとくしき心つきた 人おとろきけり。いとかしごうおほしとりたる 御心 たいめんもたまはらし。とくもとの國に。かへらせい まつのことをつけて。いまはかひなきことに侍 れは。御身の疵とはたれかせん。よく カコ かっ 奉らさりし。をこたりによりて。 も。ことにより侍 て。なきゐたり。かくかとあることを聞て。みちのくに す人おはせすとも。かくなから御子に。 まべるとて。はるくと出したてられしを。 むと。思まとふ。さて有へきことにしあら に。かくことたかへしこと社 は、やうく思出 な。か な。されとお へぬそ親 くお もむけそめ もむけそめたること。 り。こたひのことは て語りけ の心なるを。さる 給 30 へは。 なけ いか 4 カコ n カコ 御 に く立 たか なに せ お 心 なることの なさせ給 ほし ん 出 0) ね うち 給 給 は。あ n 代の よし心さ はるも 8) Ch といる くら 12 あ 72 有 5 は 3 へと U は。 給 7 13 72 T

ろくたてつらねたるいへに。このをとめこしより。

し わ はにや。きのふけふまても。まめにしちやうにつか とのきさみには。人の心もかはりもてゆくものなれ 泣けるに。心も消け ても。むか に。いとゝかくはしき心さしの。ふかさのみまさりけ ことく。まめくしうしけり。かくて日かすふるまう ける。さておやにつかふることは。いふもさらなり。な ひこしらへれと。さらにうけひかて。其いへにはすみ とならしき人のことにしたかひ給へと。さまくい ならす。人わらへなること出きて。くいおほさんを。お 給へ。わかき人のうち思ふまゝに。身をなしては後か し。下人なましそくなとは。おのかじしたからものを かることもせて。引つつき身まか れは。涙のいとまには。うつくしと思 きたまにものたむけなとも。いましも こゝに有人の かちとりて。いつちともなく散失にけ しの人を思出てこひけ ん父も母も。 物も見い 300 りけり。 かっ N くたゆ かっるにつけ 50 れす かやうのこ そこら お 3 きあ なく

のかてを。もとめんわさもなけれは。越の國にて仕出 けるとなん。 より。このくたものを。 る寺にゆきて。下女とともに尼になりけ ける。まことにせんすへなく成ねれは。その 來たる。こかねにてそしける。それもつきね さるものにて。いかに心ほそくすさましかりけらし。 たかひきける。下女のみはすみける。かなしきことは りてかてにかへけり。 るくたもの。一種 あきたもたる。衣ともうりてそ。一とせは のちの わさなととりまかなふことは。こしよりもて おほえたるを調して。行か その尼の名を おのつからしかいひならは 香蓮 り。なほ とい かっ れは。いと は りは ふ人に C とり H 過 る 5 日 な

めにいうた二首。
此尼の値おきし梅かけ高く成て祭ふるを見て。よめ

植置しそのあるしこそ何ならね軒はの梅のさか

す

よしやさけ花をあるしとなかめみんのきはの梅の

あらんかきりは。

なしみにたへすしてよめる。これをみん人。いかてか袖をくたさゝらん。われもか

かかみなる。

紅蓮尼石文

名殘惜 別なは くする 事をと云。掃部院諸ひて。扨我家に歸は。其子小太郎煩 くり 名も芳は 島 拾餘三所 人の娘 の掃部といふる者も。同敷志にて獨の旅なるに。 みけ 又逢 道 もたり。願くはこを配せて。永く好みを結 0 敷 に。志遂 觀 る。時 事も知難し。君壹人の男子もたりと聞。我 0) 紅 伴となり。いと懇 蓮尼 音を拜奉むとて。獨旅立ける。陸奥の松 に思 てしら は。出羽國象潟の商人の子也。父三 ほえす斯く親み 川 0) 關 にて別 に語 ひ睦 馴 んとして。 82 ひつく。とか るをつ 今遠 互 10 彭 1

て住けり。或時其花の盛成を見て。悲みに堪す。 邊にて。遊戯つゝ手つから。梅壹本をなむ植置 世を終けり。 そを此 頭をおろして名を紅蓮と改め。 にも孝を盡し。質々敷事世に類なし。斯しつゝ歳を經 なな 男を見給へと云に。女痛く驚打泣つ」。とみにえ物 先た て。舅姑も無成けれは。圓 思ひ侍らしとて。いかに勸 にせむ。今より唯亡靈に事まつり。命終 驚我子早くみまかり侍き。さるを疾告けさりし意は。 ては 云す。親 今はたいかにせむ。はかなき縁と思ひ。疾歸 斯と告さるに とも。 5 במ 82 尼の亡つまの なく 々の許しゝ中は。 心 猶妹 の間にくれ迷ひて。日をへつゝ象潟に、 成 先に 82 幾程 背 とて 小太郎幼き時。常 とこそ思侍れ。宿 もなく。女を送おこせ 形見と見つゝ忍ひ。 人々悲み 福寺の明極 未對面もえ賜 れ共聴す。途に止居て舅姑 合るに。原現 向 1= 世つたな 禪師の 觀 1 法の る迄 5 世 h 音 弟子と成。 72 とも辨 侧 行 きは にうせ 0) 他 て更に好 り。精 12 御 耳にて し心 1= 施し 堂の 5 給 カコ 未 8

植置し 花の主は はか無に軒はの梅は 咲すともあ

限りは。と讀けるに又の年の春。此梅のみ花咲す尼又。

禪師 もう しき蓮の花は散し物かし類なき香はあせし萬代迄も 靈を。妹背と思し花蓮、身の盛人老にけるかな。 な感たの の在かも定かならす。世愈遠隔りなは。語嗣聞嗣し事 とはなれり。然あれとも。今は其うせにし年月も。其墓 はやし。園福寺より歳ことに。國の守に献る事恒の例 をおほせみ、こうれむといひ。今もまねひて人々もて なり。又其手すさみに作し。せむへいと云物。後 といひ。軒端の 是より年ことに元の如く花咲けりとなむ。今心月庵 に計 せなむ事を憂て。江戸の宮下信教。圓福寺の 志や。穴悦はしの て。石に記 梅 と云るは。 L て永く世に傳へむ事を願は。あ わさや。 循當時のを作機植 逢も見す世に亡 機た に其名 惜ら 中方

天保十四年三月

長命

崎

保田光則誌

より松島、鹽かき、富山の神佛に、論つるも 数ならぬ身の力にはなにか及ふへき。唯 と思ひけるやうは。君の御壽を長うし奉らんことは。 壽。千代八千代にもかなと。日頃祈りてありけるに。ふ しゝを。此翁ふかくうれひて。いか なりけり。さるは邦の守の御壽。代々短か すめる。萬年屋清左衛門といふ翁 眼 手に。長命の崎とい みちの 功徳をつむに如はあらしかし。彼の三寺の をこそ祈らめ。されと是を祈 なやみつる處なりとそ。さるを此邊 かなる。つゝらをりの道にして。ゆきゝの人の。いたく の下にうかひてたくひなきところなりけ おくな る石 U) へるは、松しまい 卷より。松島へ るは 自 0) てノー 浦 かっ 5 5 きり 高 よ 0) 神佛の 力 0) ~ 一个の くお ひら 城 0) 坂 を溢 る しまりし。 0) 60 は 道の行 君 はしま さつる 古 そも 冥助 M の御

P 30 暑き寒さのいとひなく。唯ひとりいはほをくたき。土 らしめ玉へと。ひたすらに祈をこめて。齢ひ六十あま かっ ねそこは まにまうて給ひしとき。御目のあたりにめして。我為 御壽は。代々の君に遙にまして。長くなんおはしまし 大凡三萬に及ひて。けは としになむ。し を運ひつく。 b にせしめたらん 1 なや は。御心に協は 崎と。呼かしとのたまはせけり。 一とせの春より。老の身のいたつきをも忘て。雨風 其誠 くも路 めることい 此事いつか君の御耳に入にけん。ひとゝせ松し 心を神 を賜は 人の なるころろは つくり始 佛 かして三とせのほ には。 なやみを除き。詣つることを安らか くはくならん。さらは ゝ。君をまもらせ給 の感應なし給 りて、爰の名を改めて。今よ 神佛の めつる時は。嘉永四とせといふ しき處 へと。かつけもの品 御 13 心に ひけるにや。今の君の とに 平 翁宿願 B ひて。御壽を長か 5 春を傾 叶はさらまし 是を開平らけ カコ の就 に開 り長 け りしこ 1 にけ る數

> そ。おのれこたひ南部に遊ひてかへるさ。松島を見ま 今の世に むも。めつらしくかなしくよろこひにたへす。さしく く。翁の道つくりけるに す。かいれはますく まるゝ涙を。如くひつゝよめる に天津日 ほしく思ひけるまにく一、此所を過つるに。ゆくり る。是をつたへ聞人々は。其ころさしの 人。さきのけはしかりつるをは、覺へす るをめてあひて。物なと翁にあたへ通るも多か て。おほすき鍬を荷ひ出て。此道をものすること怠 と深くよろこひて。ことし七十あまり二つに 織の もか 動きなき。すめ いる眞 心の。 みちの めくりあひて、其本末を聞に。 あつき翁の 平らかに。今は ら御 圆 0) あ さちは なん りけ ね もころな なりにけ ゆきくの 3 至. 2 は。實 なら りと るま な 5

長き日や名も壽のもの語り

宇津宮 夫 山

华嶺聞書

夫山遊、于東奧。咸老翁清左。

關。長命崎之險。薦

邦君

誠。夫山遂梓、之。乞、废因書、當時之語、還、之云。 法海之遗珠。夫山宜、示。之於同志、以闡、其幽、而顯、忠詩。賞養不、敢措。情哉在、僻遠之地。知者甚稀矣。可、謂、詩。賞養不、敢措。情哉在、僻遠之地。知者甚稀矣。可、謂、法海之遺珠。夫山宜、宗,之於同志、以闡、其幽、而顯、忠之壽。而其勤勞忠誠。非、世之爲、名利、之比。乃叙、其類之壽。而其勤勞忠誠。非、世之爲、名利、之比。乃叙、其類之壽。而其勤勞忠誠。非、世之爲、名利、之比。乃叙、其類

文久辛酉七月

宇津宮六石緝

當,戶雲消松島月。穿, 窻風送鹽竈烟。 此翁亦非, 貪名忠誠感神竹所題 鹿沼 鈴 木 赤 城

者。定結平生山水緣

之餘。聊綴,一絕,以述,鄙意;

白澤 釋 東 岡

富山觀世音鐘銘

不」可"勝賛"。絲、弦鑄,巨鏞一備"篦簧"以掛。之作樓。 未」有。見鐘。而本州主中納言政宗公之女。天麟院殿。 僟凍如」雪寓居端坐者六歲。幸創,建 禪室一者。有一年矣既亦事,佛、久聞、法甚、之。故肯然得」道 現住松島洞水老師。 跨, 攀崢嶸 陸與國富山境。大仰禪寺者。遞代觀世音菩薩之靈區 叙而銘」之。 無數信根益 日 m 愛, 圀民, 愍,孤陋,不,拾,悲心,常信,三寶,供,浮屠 堂宇荒廢鐘鼓敗滅久矣。補陀境。寬永十九年壬午 大 抛 1. 淨財 一作,諸刹,或建,禪院。或設 登山剪。草萊蔣白 一字以 為道場 法 芽。 也。 參 平 而

銘曰

國遠天。福壽長延。 中國遠天。福壽長延。 中國遠天。福壽長延。 神。吳隆、清明答、天。觀音三昧。 入理百弘是氏傳。獅吼動、墜。鴻韻答、天。觀音三昧。 入理百東與之國。富山之巔。々樓新搆。寶鐘以懸。 受伶倫巧。

明曆丁酉季夏十七日

正法山下比丘天洞叟乘筆撰

行 菅井 源 滅 管 信

早 山 頭五助 實 次

富有 名曰 是也 者。燒 南極 大仰 栖也。 綠洋忽生"ノ\之字勢。布帆之接 悲閣。大同 目刀。加之洲渚之動石 西峯之木末。 內 山 流藻鹽 名迹志卷七。 群島之横,海上也 寺。去,松島 斯地 無邊之幽致凝"于吟眸。其富有"佳美甲,天下。故 島 也。 年中、田村麻呂建、三觀音牧山、箟峯。兹地 北 也、急雲之崩騰者。邀"江風 此間脩洲之臥 大塚·宮戶浮,于東瀛之微茫。松島聳,于 特鍾 東 宮城 東 北十里 南之佳美于寺前。盡、壯觀 鷗之集也。林梢之点。星鷺之 郡高城富有山。權村、 疊。青螺 除 波問 。近境之高嶺也 而點々。 也。 一也。漁舟之分。 引.素 更竭隱見之 篆烟之靉靆 F. 有 幼 有"大 寺 一而浩 也也 號

禁制

伐 採山 殺生之事 林竹木事 魚 肉之類葷酒等入事。

上

醉眼茫々。不,可,以分。敏修。小敦說日

蚤英。秦叟曰。

右 以堅相守所 征 夷 將 軍 。於有,還犯族一者。速達,于官總一者 田 村 公。 開 此 山。相 粮 iffi 馆 永以 來。 也 彌

月 日

富富 山 記

桐 TT. 當 春 施

楷。頗 明白。 宇宙 隴 擔 翱 肥大雖在一少 外。雲房烟舍一 書古器。古之奇士。 亦各以異。敏修行年十六。神澄骨清 泰叟誘。老夫 遊。富山。恍然威發。 翔實眼 頭之雲.坐. 瓢 間 似 零 盃 無"可」伐之者。遂以"十九 : 成 前 訪 面 人 景色也 所 海門 以深勝春 年 制 樹下落花如」雪處。傾 望中 揃。 111 東。 事泰叟。而 湖水沈 來明清癯 。不、知、實景入,於盃 而不 又作」詩記」之。是歲己亥晚春 。是老夫初遊」富山 **迷**嬌 髮影 山處々、從遊者三人。容貌氣 好 金青 非修 變種 出入不」離 如 山環岸·風 日巳時。出 A 御 不 が脈腫。 惟 動止関 風 溺 耽 時 中。龐景 "左右。小 渺 風 學 詩 帆沙鳥出沒 謂 泰叟及 雅 17 松 騷。而 色 心。 水 見 惟 敦形 去 天 踏 自 爱 松島 於湖 年 帆 通 古古 謂 來 加高 銀 再 鳥

蜿蜒。 山 西 視一 門小敦 猝起。身 華草書、 所流 右 唐庚 彈琴群。倚 焉 路傍有。老樹。 將,遊。富山。不,亦可,平。於是携,手 入。里正 可、笑也 大咆 礼祀語。 有,井圓徑六七尺。澂清可,鑑,鬚眉。 有"村童 所 花枝掛一破 鴻 哮 家。服 後願 园 。視且殺 處。 。直行里許。左右皆山。 者 於井 謂 如虎 遊 杖傾 吹 目 數 一皆疑睇。 距 夫 日 步 温 長學,少年,者。似為,先生,設,也。 土缺 節而 Ł 非 非十十 一。石 推 草鞋。蓋馬卒 耳 風景。况鞋哉。 老夫 湯 至. 丈餘。土人相 脚 久之。覺,腹 腰 過 燈急峻數容百 露根輪風 。泰叟以。健自 步乃寺門也。 椀。 者。雖 力弱 乘」醉追」之以 敏 曳 立得.爽然。而 也。而 瀏売可 袂 。萬樹櫻花 盤結。 所。戲也。 來明 冷痛。 相視 石背 負。所 一級。級 扁富·富· 傳。 逞 · 聽而 在 同 大笑。右折入」山。則 一。偶 老夫 狂 於脚 水月大士淨瓶 行 後。 盟 後斜 Wil. **芬**釋襲 逢 山 李義山 老藤 態。 。放歌答 坐其 無腔 m 武 石忽 二字。福 也也 行 忽聞 小 人菊 雙嚮 枝蔓 可。百 徑 又笑入 衣 有 無 .t. 日 1。林泉。 紆 柳 池 花上 而 村村 総午 唐曇 調 而 相 導 遠 步。 兴 颠 亦 憇 而 墨 舍 面 中

> 笠 隨 焉 芽。相 接回。 同 E. J. 音堂、木竈密鎖。 山 遷。 怪松 者。所、戴箬笠脫然而舞。努力追」之。蹶 日 頷 Mi 事。而使,今至,此 七 與:手 经到 諸 風而 共憑 今再返*去 年前 今日何幸。 竹茶墨可湖。 君 非 就谿 脚 欄 遊 泥 則 山 年 兵者。風 時。 土。小敦敏修欲、扶 及歸 展。隻手、援之, 千 煙雲竹樹以供。巨目 所作詩中 里江 極。第 殆乎發 異禽豐々於杏花叢裡。 風烈。來明食看光景 敵縮 山 哉 狂 亚 。歸於松島 素稱 笠 集.眉 僅 余追 赋 不過 來 富山 ILE 明 而 心途修,世 一晚仰 絕 具 掉 不 Thi 人之句。上 。勉强曳、杖下 頭匍 落。衣裳沾 仆者三四 及。 回 似 時 顧 浦 此 匐 逃 111 論。实 肝疗 mi 主邀 则 不 Ŀ 焚 温 頓

本尊者 島。靈 赤 海 进掛 底 大 日 一般 驗 **三薬師瑠** 本圆 薬 日 年語。 師 新緇 與 如 璃光如來 曾自 感 薬 州 競聚。 拿 桃 係 像 生 那 竟以 漁 永,祥,何 宫 御寶前 鄉 一戶。大 為。寺矣。 m 现 島 1 鐘 于 刻 Ili 水 作。又未 後 1-0 地序 衛風 乃奉 知 idi 雪霜 大 于

半腹 潮汐不淨之地。遂與」檀主,合」志。建,立一字草堂於此山 適住 之嗣。 來日厭 休.息 君而 所雖.為 籍髮 京大夫宗永老母貞岩院。悲,大夫之早喪,恩愛 永年不朽之祭。耳矣。于」粤信心施主坂上后胤、 珠。佛 人 川勝苗裔和田房長者。幸好』洲嶼之勝一是構」亭。 子。其形窈窕其情孃娜。 安乃以"宗永二弟,妻,之,敬,之嗣,其家封, 也 京就 一般 』于當寺。恭敬尊重。每謂、 為船 削 而 干貢運費勞。謂只惜功牟 為豪英。往 閣 而莊 奉」移"岩窟許。多"年于兹。方今雲州沙門 ·勝境。悲、未、有、花鯨。我法祖上宮太子大臣。 低 成 頭夕挑 信信 浮 筏 嚴盡,其微志。冀以,質堂所,開基一之處,期 行 恒崇,三寶。夜祈 尼。 流 **咯**』武勇。氣欽.佛 通 含。彩裘 』燈明。口唱,名號,寢殿連」心。然則 祖 封 前黃門政宗卿 四 且願 親 一着"與衣。 爲 。靈臺山下路傍汚穢。 『親戚安寧而子孫繁榮 國 』都卒恩深二一世。 未成 發 咖 朝備 已來。為"撫 以為 輝先 必 後 嗣耳。 君遺命。 "芳壇"常 香花 也。因緣契其 奄絕。 民 手持 是故 田村右 有二 眞慶。 遣 决 仕 爲 海汀 矣 念 除 秦 民 其 女 影 當 爾 立

> 揖 母 爲之乞、銘。本寺鷄山老和尚。命 凡梵鐘之能用。 儀與"息女。兩施 彼俚語。以爲記 不追勝 主 却綴 一齊信。 計。本尊之納受威應。曷空哉 此愚偈。而准、銘 心 捐 捧 於供坊宥雄一筆之。 命 冶 工 云。祝々。 m 鑄小 。而 鐘。 唯

施主坂上俊秀后胤

日村右京大夫宗永母儀 (後秀后)

同

上宮太夫大臣

秦川勝裔和田房長息

女

別當

醫王寺現住長順房眞慶

何

燈

大僧

都質音

大和尚

延寶七己未天陽月吉祥日

長運叟宥雄謹書之

鉛日

扶桑陸與。桃生海蜒。宮戸佳境。久來梵堧、靈場改地。

,施檀双主、利益于員,花鯨打唱。聲振,三千。

造殿境歷

醫王現住卓順房與傳

冶工仙府大出和四郎藤原治具

宮戸善逝閣在"宮戸濱 桃生郡

高城松島條下, 以,其地在,松島佳境,收,之松島部,其說尤詳,宮城郡

同卷第七

宮戶 島之景勝相連;而古來混載。

前設 多。 也。堂下有。巨島。曰"都島。其前島曰、孤月島」 日里濱 帶頭。似醉 空洞。上連、青松數百株。下蹈,白沙,十餘步。石屈 移。今之地。其地曠濶。南北巳長。堂下斷崖巨壁危岸 有。善逝堂。文明中得。之魚網。安。里濱山頭。延實元年 [絕景]。堂後聳,高岑,日,之酡霞峯。言春來絳 三日月濱。四日大濱。 素色。仍稱,之、島上之水汀、一 繁商舶 業。魚蝦 日室濱。二 其餘 之地 曲 霞 堂

仙臺金石志卷之五終

仙臺金石志卷之六

名蹟四

樫崎山田

平泉毛越寺碑 塔。觀喜坊小鐘。

大松澤氏宅碑 岩切館跡 碑

市川路傍碑

高城淨峯寺碑

燕澤碑

新城

質鏡寺碑

船

迫鐵 佛

來迎寺碑 尾崎海藏寺碑三

南宮慈雲寺碑 下新田邑碑

鮎川濱 平形 信樂寺址碑

青葉山

吉津春日氏宅 富澤大佛岩 碑

神谷澤牛山 碑

岩切東光寺碑

山目

邑碑

仙臺金石志卷之六

名蹟四

仙臺 吉田友好 編輯

貞觀 桃生郡樫崎村山 五 一年五月 田碑 九百八十年

高道 墓

斯人討。夷賊一而戰。死子茲。後人立、石遺。忠死,然不。相 生焉。下畔文字不」見,左旁記曰,貞觀五年五月 山 傳其事實。故高道不、知。何者,也。古墳徒存焉。 封內名蹟志卷十三。桃生郡高道墓。在"樫崎村。鄉人府 立。上題有。高道慕三字。文字方二寸。有。複樹 田碑。或號,貞觀石。高四尺潤九寸餘。石圍六尺。 日。相 挾石 南面 傳 m

己酉。從五位下。坂上大宿禰高道。為。陸奥介,至"貞觀 命。高道任國不幸值,東夷蜂起。 五年癸未一已六年。其戰伐雖一不」見。斯際夷賊 之手跡,考。之國史。文德實錄曰。天安二年戊寅。正月 今見,文字。鳥跡不,尋常,高古遒勁。不,知,當時何人 王事 無, 鹽途身安戰, 多反.王

赋. 其實 者。住名徒朽一子泉下。荷可」惜故具舉此。 』忠誠于千載一可,貴之人也 。然州人無

有"坂 坂 小 代質錄曰。貞觀二年二月壬午朔。十四日乙未。從五位下 谷者 文崎 墓。其 崎。 以前也。然則合戰崎碑者。往古伐,蝦夷,時之事歟。按三 臣也。近年於。其谷邊一發,新田。人馬骨多出。又有,刀劒 遊佐木齋紀年錄。貞享三年丙寅十月。 生考之。古記書 不一知。其數。皆朽腐。其刀長或三四尺。或五六尺云云。好 幡太郎源義家。伐"阿部貞任|時戰場也。高道乃戰死之 上大宿禰當道。為"上總權介。蓋高道誤"當道 野朝臣春枝。為。鎮守府將軍。鎮守府將軍從五位下。 plj 上高 左旁曰"貞觀五年五月廿五日。 。音訓之訛也。貞觀者。 日登"山田山之崎,見,有,古碑。 南澤日 道 心據 "加瀨谷"邑名曰 "國史 合戰崎 則 不 二則貞 止 書。合戰谷。今書。樫崎書 當國。 觀五 清和天皇年號。義家 "樫崎。土人傳云。 鎮守府令"近國守介 年。免"將軍」之後也 此 洪 遊,于桃生郡 處 碑 號。石文崎。石 面 書日 一乎。若別 古昔八 高高 加 朝臣 往 凡 道 瀨 樫

> 擊,之、故坂上高道以,上總權介,來。 以表。墓也 死、于王事。時 立。碑

郡平泉邑。毛越寺址碑

六百九十一年

仁平 二壬申年。

前

鎮守府將軍

基衡

室安倍宗任女墓

四 门月廿有 日

碑 今在 同 毛越寺址鐵塔 嘉祥 寺址。高三尺八寸二分。幅 四百八十八年 九寸三分。

素。安。置平泉。觀自 在王院池中島

奉_納,六十六部妙典塔婆

寶 萬銕塔。鑄立功德。法界民 生。速 成 佛

文和第四亥月上旬。

鍛 冶 久 行

行 鈴 師 祐 淨 法 H 師

作 周刊 師 是 管

金

權

在

勸進衆

法印幸海

金剛覺秀

衆徒首敬

塔今在 井 小 那 वार 關 爾 山 堂。高 中绅 井 尺六分 鐘 五百零年 銘文浮字 四分

仰考。平 閣薩 賜 埵 堀 粮 河。鳥 泉中尊寺草創歲序。 、榮。勵 33 推 鐘利王志" 勅詔 一靈場也。爱建 于茲 長治貮年 一誌。 武 春。 四 年 藤原清 廻 禄 成 衡 回 忝

康 永二 利物 劍 關 推 伏 山 年大大 魈魁。 心堅。 輟 曉 苦 鐘 鑄 肥 感 月 降 施 音 無 無邊。 金 明 灵 錢 仙。 眠。 恙極 鷲嶺 銘 普配 加 銀 六 乖 晚 字。 賢。 道。 嵐 永不 下 拂 四 化 達 煩 父子" 朽傳 九 惱 泉 塵

鑄師散位藤原助信

願主權律師賴榮

大檀那當家大將沙彌 義

中尊寺在"中尊

學。 学鐘 櫻。愛宕·二王門 屋 址 重 子守 一別 一池島 金堂 西 所。八 樓。東南 南 堂。地 上辨天。腰懸 。經藏等 北 有路 王寺。蓮 藏 有 其 ·址·毛 址 堂·藥師 辨 址 才天。 臺野,天 大佛等 也。北 松。 分坂 堂。山 西 小經 北 有 衣 神塔 地。 有 七 關 王。鐘樓。 滅 叉去.東 老婆 重塔 跡。大佛 。熊 跡。 野。 杉 मी: 爺 樓·大 南 大 慈覺堂。 南 床 堂 結 有 西 遊遊 有"假 淡 H 名 摩 堂 弯 黑 =

之遺蹤。 與富 尊寺 中 傳 年 陽 乙酉 Ill 中 稍 村。其 麗 中尊寺。堀 落 尊。 頗 成 毛越 奥羽 極 地 焉 皆此 海 年凡六 經 押 河。鳥 內 些 領 以精 之 寺之餘境 使。 記 壯 于 羽 左少辨富任 觀 舍 御 兩 一於 近 朝 舘 也。 勅 是 清 于 衡。 願 衣 今盡荒 指 所 關 此 卿。 11 至。鳥羽帝天仁 地 而 。堀 奉,勅 廢。 Ш m 河 號圖 縋有 鄉 帝長 至"東 民 呼 山 治二 则。 中 輪 年

釋迦堂 兩界堂 二階堂 金色堂

五分。 文傳"共 觀白 並鎮守 門君 記 雙立。六地藏擁 六尺廣二尺。裹之以 是乃定朝所,作。觀音。勢至相 首凾。高 基衡。右陸 三壇。各上置 胎藏界大日十二體彫 堂。如今土人光堂者是也。有"經堂"。 是乃天仁二 合。其他今所 一寸。廣 時 一尺六寸出。秀衡棺中。三日 衣 府將 世修「補之。 八雲慶作、 二尺方五寸。黑漆。 表"錦袍 秀衡 一寸二分。二日 軍 年己丑 佛 Ell 。外有,珍藏者。一日 後。 像。擅 藏 削削 孤。 一。秀 次 有 擅 所 衡 共雲慶 白綾 命吏 清 螺 下皆三代之屍 藥師 基衡 立 亦 衡 鈿細紋。堂內 同 用太刀。 後藏二代民者也。 也。後水尾朝。寬永中 二軀。 發而點檢 擅上佛 之 裹,之以,白 漆"其體。納 所,造也。今暗與東 ·並於其前。多門。持 義經自 藏 俗子以"聲音之同"誤 共丈六。 秀衡擊 像中立 東南堂柱 和 也。 馬 盐 泉 絹 金色。中構 殺刀。九 雄劍 左擅 清衡 朱,其 有 者 郎 大 乃座 各圖 彌 長 忠 相長 金色 體 黄 口。 NE. 日 國 史 衡

鎮守社自山社。 大月堂雪慶妙作。俗呼 老婆

杉

鐘樓

泉 在 四尺 二光堂 中 尊 寺草 東北 寸許。厚三寸徑二尺三寸,其銘云。仰考 創 - 見鐘 歲序云云。 猶 存。有一銘 文字 半 滅 不.分 明。鐘 45

天神祠。經堂經藏堂母"之經堂"。 雜息松三重池

毛越寺址泉村, 西。

也。 為野 祉中 護 鄉人今日"之班 願 山 樓 所。基 摩堂。 伊 春 火 日 牙 地 社。不 雲慶作 一焼 衡 權 現鏡 建 藏 號 之。 動。堂 爾 彌 响 一器王 山。最 酷 後 陀 祉 弘 極 勅 地 熊野 山 明 使 荒敗。纔 富麗。正 並 毛越寺 寺宅 館。 東 像八軀。 育 址 共 除 一親町帝 有 作 金剛 南 到F ·慈覺堂·吉祥寺。 西有.天 西 Tinin 往 F 北 沙定 天 時 院 有 IF. 丽 三山社 神。大 JI. 元年 鳥羽 **阿班** 多字 THIT 癸四 假 日 帝 哨哨 雞 白 作 宫 像 泐 鐘

圓隆寺址嘉祥寺 羅漢石圓隆寺址 池

法華 堂业则 東隆 晋 總 門大乃 門南 鐘 樓 皷 樓 經 藏

吉祥 嘉祥 寺 寺 址 址 東圓南隆 千 手 堂 址 東金 南雞 Ш 鎮

守

社

東金

北雞

Ш

王

院

池

中

島

云

云

学上。

文

和

四

年

75

後

光

嚴

帝

元 年 壬

在 圓隆 寺址 東 南。 此 邊 售 地 虚 爲 池 塘。 絲 淨染、波。

m 漣 漪 源

駟 五. 重 自 塔 在 王 址 **址嘉祥寺** 院 址

売 廢 舊 地 乃 圓 隆 寺 址 北 是 也 此 地 亦 爲 池

塘。基 建 立。

陀 堂也

衡

妻

女所

M

娴

陀

堂也

鄉說

是乃大

SI

小 大 विर प्रा 彌 彌 院堂常行堂東北 陀 堂

元 龜 四 年 月 八 日 。燒 失已荒廢 。今毛 越 寺 地 中。坂

母 17/17 "建立。乃左少辨富任女也。 堂中 藏 運 慶 所 浩

上

茆

堂往

一昔之址

。是亦

基

衡婦

人

所

建

或或

說

基

衡

醫

王

新 御 悲。圍 堂 彌陀及儛草 五尺六寸。 毛-房所作 其銘有"奉"安"置 燈 臺 脚 平泉觀 堂前 有 自 在 鐵

> 關 辰 也 品 院 金 色院

山 中 尊 寺 弘、 台 壽院

泉 院 小 前 澤 坊

住

院

南

谷

坊

利 地 藏 院 東 谷 坊

圓 乘 院 櫻 本 坊

和

音

院

犯

智

坊

積 金 善 圖川 院 院 犯 池 泉 邊 坊

禰 藥 樹 宜 王 周 院 北 明 本 院 坊

山 毛 越寺 日 輪 院 隆. 藏 寺

IE.

僧

白 E 院 覺 城 坊

光 圓 院鳥屋崎 院 圓 光 坊 坊

> 德 院 圓 藏

> > 坊

慈 光 院 連 態 坊 坊

法 總 别 當 仙 常

大

長 壽院 西 谷 功

願

成

就

院中

野

坊

生 缚 院 院 £ 觀 四 喜 谷 坊 坊

瑠

璃

光

院

水

根

坊

真

珠

大

林

坊

蓝

法

院

金松

森

坊

釋

坊 圓

大 穀 德 院 院 吉 别 所 祥

坊

坊

承 仕 行 善

大 乘 院 柳 下

五 九

院 池 上 坊

正善 院 善 E 坊

院 寂 淨 坊

覺性

院

梅

下

坊

院 院 山 千 繞 繞 坊

福昌

院

弯

全

坊

本 坊 坊

院 院 千 光 岡 坊 坊

義經堂供掃岑野坊

多寶院

寶道院

承仕鐘全

烟明

連

成

院

蓮

乘

坊

手

院

常

觀迹聞老志卷 磐井 郡

駒形嶺 枝嶺。

里,者。乃此峯巒也。來神河流遶,山下, 長部山。斯地往昔阿 在 高高 館河館東北。以其山在長部村中。 部賴時 。植"白櫻 萬樹於三十餘 與一衣川 鄉人今日,之 一同流。

西行集所,賞多和枝嶺者。廼此山也 みちの國。ひらいつみにむかひて。 たはしのねと

山の侍り。こと木はすくなきやうに。さくら

0

きり見へて。花の咲たるを見てよめる。

山 集

西 行 法 師

きゝもせすたはしね山の櫻花よしのゝ外にか > る

ほとくきす。 おくになを人みの花のちらぬ へしとは

ありや尋をい

らん山

櫻川

來神河 為。田 飛。此 艷陽之時。一萬樹櫻花爛"漫于峰頂。風光漸去飄零日 肪 流過,平泉館下,是也。往時透,駒形山下。每春 滿川如、雲河流染、色。仍稱"之櫻川。如 尤可、怪、或指,衣服小 一个其地

衣川

衣 關

武帝。 於清水大森。而 磐井郡水原有二一。北乃出,於上太川村北增澤。南 在。當郡。且 之衣河。古其地謀,岩井。今屬。膽澤郡。 延曆八年三月辛亥。 衣 關亦 至"同村百袋。合"雨流,入"來神川。 在 .兹。故載。此郡中 諸國之軍會 然太河館 伽 於陸奥 整考。 事實 多賀 日 出 桓

也 櫻。去.高館 寺村。其 舊事實及和歌等」姑收 奏狀。知·官軍 餘 日 史曰 北 道入 。於 有 南平泉花立山。 此 其 龜井松·兼房墓。 賊 酉 成 中 循滯: 地。五 地 昔時 間 一町餘。山下之道路。 立 衣 月 西界,白河關。 調門 川 癸丑 之磐井郡 共上 往 勅 [III] 名日 時 征 寅 伽堂址·鈴木松。 此 東將 乃有 一云云。 地屬 太關。 京限"外箇濱。行 軍 解井 是昔關門之址 辨慶堂及 衣關 日。 郡。 見此 在 故依 辨 統 中 墨 慶 算 來

磐井川

火而 八百 最甚 水源 麻。貞任走入"太河 追之不息。自 八千。闞 冷泉帝 つ。自 追北 出 應。急擊之貞任 。康平五年癸卯九月五 "官兵 駒 午 岳 逐,亡。且傳,銳兵五十人。潜入,貞任軍,學, 至,酉貞任途敗走退,磐井川。武則以,敢 。其流古之磐井川。今日之一關川 少,來襲,小 高梨宿 追 兵大擾亂。 松棚。 之友川 北也。源義家。義綱 日。阿倍貞任自將 關。 自 相 其間 踒 躙 僵 死如 武則 一矣。後 精 奮戰 亂 死 頻 兵

吾妻鏡卷第九

千兵為 處。河田忽變,年來之舊 奥 文治 献"此頸於二品 郡。此間 州 泰衡 五 遁 年己酉七月小。 相 發向給云云。九月 持 旦命害隱如.鼠 製日。 揚、鞭參向云云。 郎 從河 十九 好。分。即 逃似 小三日 田 日丁丑巳尅。 次 從等相圍。泰衡 郎 態 到 庚 。差.夷 申。 于 肥內 二品為。征,伐 狄 泰衡 島 郡 梟首 被 赴 曾 園 糟 棚 為 之 數 部

下二 心。仍寺領 蓮大法師等注 見之。各全止住 十七日甲戌。清衡 守秀 陸奥 月。繼,於父遺跡 紙壁 押 衡 次男 領 悉 書。可,押...于 使 必被為附。 一献之。 印 藤 之志云云。其狀 已下三代。造"立堂舍 前 原 為 此 朝 圓隆 出 部 臣 親能朝宗覽之。二品 上泰衡, 近年 可一个一家。御 33 15 輔 寺南大門二云云。 陸 奥 藤 かけ鎮 押 原基 日 領 祈禱 使 成 守府 事。源 女 一管,領 一云云。 將 文治三年 衆徒等 忽催 忠已 軍 那 兼 則 講 御 陸 被 心 與 信

平 廢之地。 泉內寺 至 領者 佛 性 任 燈 先 油 之勤 例 所 寄 者。 附 地 也。 頭等不」可、致 堂塔 総 雖 其 為 妨 荒

寺塔已下 注 文日 衆注 中之。

Ш 中等

寺塔四 1-餘字。禪 坊三百 餘字 也

滅年。 城。東 請 三尊二天·六地麗定朝達」之。鎮守構,三壇·悉螺鈿也。阿彌陀。鎮守 院中央有 濱。廿 關路 為 金色 不。遑、注進。 清衡管 领六 一階大堂 白 迦 山宮。此外宋本一 像也。次 阿 餘 大。與福等寺。至"震日 俄始修 彌陀 簡 ·旅人往還之道。次 多寶寺。安。置釋迦。多寶像於左右。其中 院像。脇立山林同丈六也。高丘丈。本尊三丈。金色彌 H 像。計 凡清衡在 行 郡 兩界堂兩 逆 一之宏 程 當當 也 が。 國中 當"于百 初 部諸 世三十年 切經 草 路 』創之。 心於 釋迦堂安一 天 尊、 藏。 即 町 箇日結願之時。無一 台 南 皆為,木像皆金色也。 山 别 पुं 之間。 內外 方景敬 次金色堂。 頂 立 先自 上。 笠率 每寺供養千僧 鄭 白二 百餘 立 自,吾朝 莊 П 都 吉社。 河 嚴 皆金色也。堂內 装。 數 體 開 墓塔。 金容。 字。 至 延 其 北 病而 間 層。園 于外 面 臨入 樓閣 方勸 叉寺 開 昌 即

越

四四 十餘字 。禪房五 百餘字也

基衡 在之。九條關 八眼事此時始」例 等。盡"萬寶 建 立之。 交 白 衆色。 。講堂。常行堂二階。總 先金堂號,圓隆寺。鏤,金銀 家 染 本佛 御 自 安藥師 筆 被下額。參議 丈六同 門。鐘 +-樓 致長 紫檀 經 市市 藏 將。雲曼 卿 赤木 書

中

色

紙

形

担

堂

戲 語 稱別 此 年終功之程。上下 達絹千疋。希 金百 上中下之三品。基 千端。信 此 本 論云。雖,喜悅 尊 兩·鷲羽百 禄 由 造立 夫 生美指 基 鳥 地 33 衡悔舊亦積 間。 摺 婦 禪定法皇叡聞。 千 細 尻 無一極 積 基衡乞"支度於佛 训造 七 向 衙令」領 布二千端。糠 船 夫 等 問間 課駄 猶練 = 也 一練制 艘 此 中 狀 制 山道之間。 送之處。 外 徑 命 於三 中品蓮功於佛師。 大 副 部 水。豹皮六十余枚。 切 拜,彼佛 駿馬 艘 山 師 也 雲慶。 海 流 云云 佛 Fi. 片 珍 遺記。 像 部 十正·白布 時 物 他 排躍 雲慶 心。 者 加 絕。 此 奔歸 之除 所 注 處 出 又 簡 更 次 安

合掌唱"佛號

加

眠

一二二

彌陀堂 面扉彩 崇東西也。 像廿八部衆。各鏤。金銀 洛寺本尊哉生身,之由有,說語。為,嚴重靈像,之間。更 勅許。途奉」安』置之。次吉祥堂。本佛者。奉」摸"洛陽陀 申子細於九條關白.之間。 洛陽靈地名所。佛壇者銀也。高欄者磨金也。 次觀自在 建,立丈六觀音像其內。奉,納件本佛,也。次千手堂。木 無此 失度。閉 類。仍 同 書法華經 王院。號『阿爾基衡妻宗任 人建立也。障子色紙形。參議教長卿所。染 『籠于持佛堂』七箇日夜。 不」可」出。洛外,之由 次嘉勝寺 廿八品大意。本佛者藥師 也。 未,終,功之以前。基衡 殿下分。何。天氣 鎮守者。總社 被 建立也。 斷 宣下。基 水漿 四壁圖 丈六也 金峯山 四 給 新 次小 一衡聞心 壁並 蒙 詩。愁 泰 繪

無量光院

圖"繪狩獵之躰。佛者阿彌陀丈六也。三重資塔。院內莊秀衡建"立之。其堂內四壁扉圖,繪經大意。 加之秀衡自

嚴。悉以所道。宇治平等院,也

鎮守事

西方北野天神。金峯山。北方今熊野·稻荷等社也。悉以西方北野天神。金峯山。北方今熊野·稻荷等社也。悉以中央總社。東方日吉。白山兩社。南方祗園社王子諸社。

摸上本社之儀。

年中恒例法會事

二月常樂會 三月千部會一切經會

四月舍利會 六月新熊野會祇

園

會

八月放生會 九月仁王會

長日延命講。 彌陀講。

月次問答講

正五

九月最勝

館事

有,嫡子國衡家同四男隆衡宅,相,並之。三男忠衡家者。金色堂正方並,于無量光院,之北。構,宿館,號平西木戶

所也 在一子 泰德 泉屋之東 無量 光 院 東 。門構 郭 羅號 加 秀衡 常居

相

居

所

町建數十字高屋。同 觀自在王院南 大門南北路。 院西南 北有 於,東西及數十町 "數十字車 造,宿 倉

再 焉。有一不對 和 陸 乎。可,嘉可,倘 原厥濫觴實出 瓦 故老相傳五 來治諸郡 泉衆徒 興 年中。當州太守羽 喜之。人成號之曰 義經 國高 大將 平 泉 廟新成輪與美。爼豆來藻川漣漪。簠簋高館城蒼 館者。 II. 朴 共義 之次。登 高館 尺寸地 賴朝公 十年先。此 仍 郡吏定恒之善心 之而 源氏義經故城 義經 赋 命弟。 此 林 白 剪 堂棟 綱村 地 山 偈.充.上梁偈 公公。 其。其 有"靈 訪 莖茅 札 軍功 公家臣。 堂。厥 太守命」之草 "遗麈。 祠。 也 威名 云。 而安#厥 功 義經薨 定恒 寒煙 厭 河 市醫 豊可い 目。 德 東 熊 蔓艸 神 後 雅 田 副 以,平等心,為 街 然 不 靈平。 作 專 長 童無.不 而 四 兵衛定恒 売 宇 獲 歸 歎 顧 塘。 善善善 日, 荒 太 以 即 知 守 與 凉 義 天

> 趾。我 夫。降"伏 翠。君嵩悽愴 口 從 有 前汗 魔軍 馬總兒戲。血統漂鹵古戰 卷 如見之。勿疑台靈 超 了美經 佛 地 天 龍 八 部常侧 TE 光賞。 場。 平。 盖代功 幸是猛烈大丈 白 述 事 名 捧雙 胜 夢

大功德主 綱 村

與 州 監 刺 滥 史仙 矢吹字右衛門良成川田 勘 助 笹 成 臺羽 林伊達 英胄 膝 原 右 朝 Hi

天 和 二癸亥 年 月七 日

松 島 iii 10 此 厅. 通 女 達敬 流

白旗 祭 明神 市市 源義 相 州藤澤

妻太納言。及女子 治五 祀 判 不可 氣房自焚,家匿 官義經 。靈於此 年 一分明 凹 四 戰 一。辨慶之首所 月 死於與 卅 T. 四 日 死體。 逐 於於 州。 自 》 埋 殺。三 頸 im 州 塚 到 切 亦 于當 腹 + 楯 有 入 城入 之。 談。或云二 處。 一烟中 明神一也不審。 賴 持佛堂。 朝 矣 則 F 增 檢 首 尾 稍損 以 郎 共 後 文

今 夷 按 禮。則不:敢 島 俗 二。土 傳 臨縣 有 日 人 至。蝦 悉 命 為 平一伏 經 上害也。恐此 期 有 夷。則 不.拒 之 相 似 疑 終天平後沙古丹建 戰 1 將 徒自 說 代 一般之。 可是也 死 殺 者。 乎。 自 唱,南 焚 義經 從 者戰 無義經 祠 勇健超 遁 以 死 奔 爲 Iffi 於 所 為 神 於 蝦

義經 含狀

統

首

凯

有

157

異

賴朝

强改,之乎。

於義經 莫 謹白 將 子 首 野 等。雖然開。當家之御運。被 來。 伏山。 又似 大之勳功。親兄弟 渡 曝 鯨 抑義 京 隔"繼父清 感 鐮 鯢之腮。賣靡三年 义或 經 "不,可,有。今生後生之恨。萬端難,盡 前 倉。 末 世之業 雖 時 期 者。 雪.源 茍 盛。為極。邊土 出 被 漫 因 清 仰 替 氏 々海 會 和之臺。自 三月 願 思 撰於 稽。 上 召 切 変 遠圀 一能 依 非 梶原父子 風波之難。 勅宣之一 梶原 侍 共 耳 被 が対対 人唯 讒 生補 服 多 言。空 頭。 田 社 是不 切 或 滿 大臣 土 被 高默 仲 時 一敵 民 運。 手 家 潜 徒 百 殿 臥 向 存 北 父 之 姓 以

> 文 治 五 年 閩 四 月 11-八 日

義 經

義 經 + 七 騎 或 云 + 騎

武藏 坊 辨 廖 增 尾 + 郎 維房

郎 義 盛 鷲尾 郎

義人 熊耳 龜 非 六 太

坊 游 例 片 間 次 郎

備

削

4

DU

郎

郎

忠

基

郎

重

清

常陸

伊

勢二

六 御 原完 た

猪

俣

小

平

佐

膝

兄

弟

兵衛 駿 河

堀

源八

黑井

江

白

七道 於 七日 武 加 台 未 者 。力戰 微 鑑売 具。長刀、斧。熊手。又又:小搦・鎌。槌。鋸 詳 西塔。强梁博 初 人神 多被 師書 滥 於雲 西 校 塔 記 州鰐淵寺 武 強 稱 藏坊 武 刀 跋 虅 辨 坊。父 及播 扈于 慶。 紀 州書 文治 衣 州 111 田 寫 Ŧi. 立 邊 111 無一銳扳 年 死 雞 壬 馬 後 哥 外 四 負 所 權 廳 月 笈 現 # 父 謂

慶芝。出 山 城 條 雲槻 河 原 木 東 Ш 南。武 鰐 淵 寺 藏 相 坊 辨 傳 慶宅。 武 烹 坊辨 此 應 慶學 寫 浣 生之 地 地 称

世。

辨

進帳

筆 紙 恐

别

當

辨

JE.

名

地

曹

惶謹言

夫倩以。大恩教主。秋月隱,涅盤雲。生死長夜永夢無,可

烯人。戀慕難.止涕泣荒.眼淚貫.玉。飜思,善途,建,立遮驚.人。爰中頃帝御座御名者。奉.號,聖武皇帝。別,最愛

錢奉.財輩者。此世無比樂。當.來而座,數千蓮花上,乎。那佛。簡程靈場悲絕。而俊乘坊重源勸,進諸國。一紙半

歸命稽首敬白

東大寺沙門

攝州矢田部郡若木櫻制札

辨慶筆

之例。伐,一枝,者可,剪,一指。此華江南所,無也。指折,一枝,盜,之輩者。任,天永江乘

壽永三年二月日

一筆啓上。十六本松簟進。恐惶謹言

武藏坊辨慶

寫 遺,舍人。其方大栗毛 君御代官。 從 未明 一當國六社 預 借 者 也 大明 市市 社 參。依 馬 病

正月二日

武藏守辨慶

龜井六郎殿。覽

上包二

仙墨金石志卷之六

志願文

渡邊角太夫

今度南部御領山口。黃金華可,為,践旨。奉,蒙,

嚴命當國工趣學

神,下。四海永可,奉,仰。仍誓禱之狀如,件。精心此土二止り。志願於,成者別殿之奉,再,建讃州尊,武藏御坊之尊像。八百年之雪霜無,恙。武錦益盛也。實

方之ため 右 御 普請 天 保戊 被 戍臘 相 金山 下 月吉日 見習 = 而。 奥 州 金 銀 渡邊信名羅拜 山 方金代方等。教

日本古今人物史

幹.奥 九年也。 事。保國三十三年。其子基衡繼 時 藤原淸衡者。荒河太郎武貞之猶子也 衡。官秩榮華 一屬 義家 有 軍勢。成功之後義家。附 清衡 二州之蠱。泰術雅、義經 伊達泰衡 越、父祖。自 者。秀衡之嫡嗣也。繼 清衡 至"秀" 父領 而守。故父之道命。賴 衡三代。 與 ,武衡。家衡 交祖 羽 一。 以 三代之跡。 活数 迨 陸 拒命之 與之 儿 孫 朝 秀

基

且官符數下而

催督無,倦也。泰衡不,獲

保

攻殺 使 而 庶 去。到 兄 義 經 國 肥 於衣 衡 內 據 郡]1] 為本河 阿 棚 津賀 一頭 朝 志 田 入 111 所 奥 ご戮 國 州。泰 衛之兵破 矣 衡 親 陣 而 于 泰衡 國 捐 分 原。 营

30 稗穀 領之內 有之 形 桐 人の きた 或覺書六七 1 0) 0) 0) たけ 不損 り。棺 太 成 白 盗みしことあ 0) 樣成 刀 木 は T 頭 75 は 中 五 左候 + 振 つつ は 8 h 此者 人少 重 。秀 無御 出 のにて棺を詰たり。五 12 は 前 あ 低 0) 衡 カコ 其 3 30 置。 德 原 きなり 9 座 カコ H 2 外の 州 にや。側に泉三郎が 死 僉議するとて。 樣子 候 御 るとその 骸 光堂之佛の 座 。髮 生る 承 棺 候。 度 は は 秀衡 事 三寸 かことし。 塗 若是 1 72 百 目え入 カコ り。内 は 候 秀衡 に似 棺の 年は 件 かっ 棺。是はし h 年 0) 寄 カラ 72 0) 內 カコ 生い 棺 所 棺 程 77 る b 5 は 五 をあ 3 金を。 50 ---成 72 仙 事 I + 1-0 50 臺 枕 72 は 除 8 は

右之通· 越承知仕候。光堂仙臺領內に御 に付。左之通 來 俠 申 登之事等。委 付。仙 岳 院え申 洞 被 座 造。 成 候 中 間。 御 尊 尋 四四 寺よ 候。御 々御書付に h 書 書 付之 上候

向ひ。左之通申上候

を金箔 え放開 山 質之 1= 肉 8 中 秀 绅 承 金箔 水 1-御 寺 棺 光 衡 見得、長は中人なとにて見得中候。年齢は見分け不 13 傳 佛 座 别 の老僧共之内見申 光堂。奥 當 棺 は 潮 候。清 骨え乾付。色薄 候 水 を納置申 にて 堂之修覆之節。三人之棺仮 金色院 ぞあ 1= 陀 3 曲 目 て濃 山三名にて、 申 御 1: 濃み中族。往 州 衡 躰。 俠 は 阿 て。 仙 秀 É みり 候 候 板 衛三代 1 覽仕候 目え入 死骸 百 本 厚 其 磐井 候, SE No. 所之寺 约 候 餘 を一覧之事、先年二代 寸 阿彌陀、 光堂之別 棺 く髪 古 0) 那 たる 所。損 所。秀 以 程 平 より 死 前 は 號 被 泉 重 にて。内 金を 1-白 衛之棺 1= は 东 光堂と申 も無之山 2 入 被盜 中 50 當 て御 候 申 尾 23 外共 は 棺 所 介 外 す 双 金色院 座 1= 到了 移 30 共 寺 多年 1-一候。死 村 + 兆 納 て。 置 110 と申 1-恢 32 俠。 俠 堂 傳 漆 申 依 由 3 秀 を建。 放 0) と申 骸 候 候 躰之內。本 候 個 {] 7 をい 衡 右堂之內 死 カコ 不上損 T 得 145 0) 元 其 舊 骸 候 塗, 候 共 能 候樣 時 DL 派长 您樣 跡 はつ 所。 £ 中 方 皮 分 年

申 つ之棺は。木地を金箔にて濃申 申 候。清 俠。 。基衡 种穀 は の 様 破れ 成ものにて。 不,申候故。棺中 候 由に 詰 候義 御 見不」申候。右貳 座 は 相見 得不し

b 包候內を住僧見屆不」申候由 泉三郎 72 稍 端程 棺 は にて。首を卷包置 無御座 候 ,秀衡棺之側 1= 候故。 御 座 門 1-0 如何 6-泉三郎 御 座 候哉 首桶

平

碑

置申 右三代之棺より出候。太刀之由にて。 候 。枕 有之は不"承傳" 由 1 御 座 候 = 振 光堂に納

右之通 文三年八月十日 。中尊寺住僧古人共。 承 屆 從 遠 國 藤 元 文 申 七 登候以 郎 上。

山中尊 寺觀 喜坊 小 鳉

中尊之寺。 支院歡喜 三衡遺骸。 笔 多高 關 坊主 ill 鎮東 良 公。 封 陵谷 傾 囊捨 金堂光麗。 時 變。 財 命。是鍊 太 地 知。奮 震 惟同。 隆

小 鐘 禮容 清音 一普通。 摧 劍 休 鍵。 奏 商 應 宮

法 食有 井 清 水 記 晨昏 随 海 不 竭。 福 壽無。窮

> 矣恐 知鄉 澤村花流泉。故名、之矣。是則秀衡煮茶之石泉也。於是 所,汲非華水之清水也。今此地謂,岩井 磐井郡松川村磐井清水者。 集詠藻。成為、松者蓋此緣也哉。又同郡 松川云。徵。諸文獻 生"松樹於此。鄉里人以 坂。蓋磐井 泉府下一而獻之。 所"相傳。元旦鷄鳴吏人開 4:3 井之郡 世 其名 郡 名 名想據 湮 起 師 此 不。傳。庶邑人刻。石 古歌最多、載有。夫 此泉 其 泉 八間數里 寫 也 天 也 此 往 。傳 降 包井 汲 新 地 前程 昔鎮守府將 松 紀 往 馬。 雖,多闕。非蹟可己 古有「嘉瑞。一 有"險阪。 闲 格 停 流鄉於。 木集及諸家之撰 声"川 水。 地 之不朽 軍 矣。 味 是謂"手繰 藤 口 有於 刻色 原 夜之中 鄉 村名 到"于 心心 秀 人口 衡。 金

東與 IE 保 文 摆

河千 11 ·里屬 懷 東 州。衣 水 幽都今則休。 释 育 滿眼 Ili 古 風 光何 源 所

似。彼黍離々 秋

45

泉

小遊

古

山

衣

菊 池 卿 巷

高 館 城 都 130 野 村。 應家過 處是誰 孫 武 金堂 13 43 停

业 石 存 南大門。鳴草愁蟲聞有」怨。浸麻 老婦

、秋來想像行人跡 偏吊當年忠志魂。

平泉懷古二首

大 槻 清 崇

。春風占斷九十年。 宮楊柳是平泉。 堂握 二州 兵馬權 Ŀ 國戰 塵飛不

到

月。來照當年 金色堂。

三世豪華擬。帝京。朱樓

碧殿接」雲長。

只今唯有"東山

平 泉覽古

松 西 厓

幽 英雄割據幾星霜。寥茫金城跡渺茫。落日獨尋林樾裏。 禽自似、說 具。

無 名 氏

館聳、天星似、冑。太川通、 賦,高館 戰場 海月如」弓。義經運命紅 塵

外。辨慶揮、威白浪中。

貞應二年七月六日 熊谷平三直宗之墓 本吉郡 新城 村寶 立之 寺 碑 六百二十年

封內名蹟志卷十七

本吉郡

直宗古墳在新

問

有,寺。號"金仙 古松,曰。之熊谷松。松下有,石墳。 山寶鏡寺。 直宗所,建也。 題日 寺中 熊谷平三直 東北 有

宗之墓。貞應二年七月日

立之侵州河帝元年王午也。

柴田 郡船迫鐵佛堂三 體 五百七十七年

綿

• 辟 支 佛 8 0

文永三年丁子 十月三日

山 氏 • 法 師

行 封內名蹟志 阿 彌 陀 佛 卷

柴田

初5

鐵佛 也 中 船 。各南 堂在船 迫 西四 面 佛 无 辟支佛字者乎。 高可二尺俱並坐。第一 四軀。 十步 許 盖舊時安。五智如 間。 農家 有小 左有。綿字一欠。上下文字 胸 堂 來一而 間有。文字 鄉 欠. 共 日

n寺宅。堂

- 消燥

二一者

在時寺院舊物歟。被"白綿各佛頂上"問,之曰每年蠶藥,者也。其西有,寺曰"松光山神宮寺,修"真言。彼像亦行阿彌陀佛字。不,知,何年何人安,置之。文字多爛滅。 左記,文永三年丁子十月三日。第三左有"氏字"右有" 左記,文永三年丁子十月三日。第三左有"氏字"右有"

至,今幾四百八十餘年。爛壞亦宜哉。 文永。八十九代龜山帝七年。是歲無,丁子。丁,丙寅,

茲農家寄附。而告,蠶成之事

一者也。

事罪。而

奉,之告,成功。第

佛

胸下綿字有,故而書。因

弘安九年两成九月日 五百五十七年文水十年癸酉十月二十七日 五百七十年

淨峯權現在"高

封內名蹟志卷

十四

牡

鹿

那

廿七 Ш 傍有,古石墳。高三尺餘廣二尺。 頭 日。文永。 亀山帝 建 心社 日.之淨峯權 現。 鄉說 題 社 乃態野 日文永十年癸酉十月 三所 權 現 也

宮城郡燕澤邑碑



大日,直宜介彰

登第五元 新史書里大清俊該接元 海 虎。上子後殖矣

字。向 寅 字。欄內高二尺九寸。幅 碑高五尺五寸。幅三尺。 五百六十 未申 間 跳石三壇 年 二尺二寸五分。五 碑 尺五寸許。至 額 圓 相 尺二寸。 天 行 保 字 製五 十三 中 有 年壬 + 雜

碑险

大乘妙典一字一石之塔。 亲嗣,一字一石之塔。 天徽

順主

某某某某某

光明真言曰課,表人三百四十九人。

享保八年癸卯重 阳 ル 日

某

宮城郡燕澤邑碑。 五百六十一年。

夫吕以 上益 中沙。 公 义 ノ人 直宜介置

又

业 担 判 元 出 冠。
市
遠。 後 殞矣。

梵

弘安第五元並默 仲秋二十日 里末清俊 謹 华

碑高五尺五寸。幅三尺。臺石三壇一尺五寸許。 一尺二寸。欄內高二尺九寸。幅二尺二寸五分。五行字數 梵字圈

五十一字。向 右碑 。鎌倉圓覺寺開 未 申 間 山。元僧佛光禪師。

吊

大元軍

兵

十萬人沈沒亡寬。代。卒塔婆,所 建也。

燕澤碑考序

膝

太

沖

黄絹之言近、諧哉。雖則近 盖雅馴也。吾藩燕澤唯是一牟塿。 一譜乎。 固無韓陵片石足上觀 逸韻之徒口而不 ・措。

> 之與義俱下不, 質嚼, 蔗也。乃徵,之以, 贏 之籕歟。岣嵝之篆歟。何 得。則 黨源子章。博洽好古邇墓一本。 不,可,得而讀,焉。 焉。特其側有,古碑,燕沒數 而以」口。於逸韻之徒者。寒滅。曹娥氏之閩、耶。請余撿 確, 乎文獻, 實何物易,之。於,是乎碑辞雅馴。傳,之四方。 軒之便錦囊之客。 何為望雅馴 若能譯之亦唯侏靡而己。諸乃不可。 探奇之餘拂。蘇 也。果乎不能 不,近,人情,者。 + 百 年。 零 上口。麵類日是石鼓 而打之。字樣最怪譎 以 不辨何等物。 典 途東 プレ 一問之。則字 fin 去 湖 矣。 。適層 -0 五

故題。

燕澤古文碑

據 尺余。徑三尺。石面欄行其文古體。或雕合殆 奥 打一碑。且添,私考譯文,以贈之。然其來由 府之後。乞"打文」告以。攝蒹葭堂好古之求。予令"子弟 安永壬辰秋。中山仲廷者。探"奧中之勝。則臨"此碑"還」 八州宫城 故闕焉爾。 郡 燕 廼者書生河成允者。話.子曰傳聞此 澤 村落在,古碑。弘安五年所建也。 無,可,得 不以易。讀焉。 砰 而 文 考

欲、濟、憤粉入溟之苦。而手裁、古文雕合書。處、于邊陲幽

心邪。然察背僧眉語腹非之隱諱。不能無恐懼。

敢密

元本生。寇賊之地。

雖異"緇素。同邦同鄉何無" 斷腸悲

可」情。十萬沈屍見。聞之一者。誰不」發,怵惕仁憫之情。祖

四年。 廛如」充」覆載。京畿之騷擾貴賤之憂懼。似、無」所」措"手 心刻。骨。相傳而不」可」忘。誠神國之稱不」妄哉。元寇雖」 嶼。可。踐而行。海門為之止。潮汐、矣。嗚呼神明不」禳。此 不」虚。一夜颶風覆上艦。元兵溺死藏十萬。積尸如島如 足,也於此上下所,所。唯有,負,神祗之保祐,而已。神感 安二年、依、北條時宗遐招、東航。同五年相州開、瑞鹿山 不,可,捐之傳說有,必以,矣、竊想。釋祖元者元人也。弘 下。考,此記,執筆戰慄堪,喪膽 擊兇。吾邦之人忽必烈之奴婢。危哉危哉。即今于"百世 圓覺寺。後諡、佛光禪師。先、是元主世祖襲。 毛地。也。故其文難,解了,實如,說軟。子曰街巷之談。亦 溥僧祖元和尚。自書而所.使·托,空門子清俊·樹·與辟 卒餐, 艨艟三千兵士十萬, 來寇, 於九國。二島。胡 也。偏蒙神明之賴恩一銘 皇和。弘安 不

> 牌之地,者,警有,所,忌,于上,也。今兹弘安五年仲秋。丁, 稱揚之志。誠以 寓者。此。陵谷不朽之舉焉。冥漠君若有,知予鑒。吊古 會所,詩本來面目,數。然叢中拂,埋苦,打,碑。以傳,海 者可,察焉。予就,河成允之一言。而著述者恐有,臆斷 覆溺之小祥。因以"彼岸功德之佛日。樹"浮圖 有類於九原之下云爾。 弔 附

天明癸卯秋八月

鹽亭藤塚知明識

碑字考 目。 謀文以字

警也。人字左邊離合成、人八陽經曰。ノ、成、人。字 典每無,所,見效,于此

置 古文道字

豆。 古文正字

弗也。人字右榜效。于上。

4-亂糾通又學也

效。 下文有"于名勢字、歐"一脚"以"此例。讀則效知、為"

教之古文省畫一也。 盖人。教。敦三字不。全成一按

宇 所 彩 八體。致 見人人人及 天 有 皇大 敦之支畫 國 譚 止 父帝 者 而 心三字同 所 。在 智 一入"荍 為 册 2字不 其 御 字。 歟 諱 磔 。碑 人仁。 則 畫。 成 爲 H 誠 。皇大后 圆 仁者 藏 體 法 放 乎。 人而 者 诙 此 懼 子 唐 久 此 亦

2 篆文云字。 火 與 lix 同

據。古者可

古文丘 字。 判 切 也 斷 也

北

出。 古文囟 字、囟 者 腦 頂 中 也 凷 者 古 文塊 字 0 m 从

新佛 于 出 不 可 混

古文前 氘 古文 队

坛 注 隙 坛 相 通 咒 古文天

午。

相

次

也

强。

殁

也

洛

也

中

記

云。

nii

背

文私

艺

古

文

五

夫以發語 也辭 人直 宜 從 平也。 0自 道 正就直有 敢道 道而之 也不 之儷語。正焉可 并邪 回思 從則 也宜 JE. 後.明 益 庇 正 也直

> 默。在 大歲在 者三人而 養之衆 々佛。云 欲、還。 館墳大地 也譚 殺史 于邨 碑 有雖 此老 議 獲卷 額 。附"用"区 推張 次後 千餘人。是可」謂"元前死」也 乘碑 意訓 刻 信議 官議事 妙也 耳得 H 充 日主教日 百 殞 日本 語言 戶一 清 文 不順視 相漢 XIJ 洋芝 弘安第 雑 俊 礼羊 為:主帥。 來 粉。各自擇"堅好船"乘上元史卷二百八曰八月一 下。故皆葉 字 謹 仲 、戦の整 之追 魂 塘 斷 拜。 以 秋 II. 為二今神面。 代 端之緇宗 彼 多日 號.之曰"張總官 天。 耐 餘 也一 砥 港。 軍軍軍 河 小 + 當皇 浮 歸。久之莫青興、 兀 虚都 三萬一 依榜 者丘 元 前 元朝 國名 圖。 對"叢寫 被游 兵 世後 死 丘 石隱渠爲之辭。意許遁"編露之已優"太宰府。十三日大破"元兵 一日。風破,舟。 丘顶之土 刑字 為:其 大 之酸死。有n前% 有二今地之以 H 作二小等。此說 林之大利一則為二課 元天 魔 其約 經 十島 而奴之。 九統年御 九 本"前後」也。大日 東。 字秘 一云切" 九日至二八角島で 女 Ti. 餘萬子山下。 不者。亦逃還。 群彼 製 譯云 彩型: 頻 新自然 一論 敦 露之忌。 親剛背 一。里 而斷 成日 雅爾

佛 3 救 金剛 迷 火。 途 大 扭 成 旭 者 H 輪 觀 有 復 此 次 字 器。 若 矣。 视 日 月 輪。

凡

夫

成

桂 漫錄 卷 £

澤

碑

桂]1] 中 良

y 州 宮城 殆 那 P 派 三語 難 = 3/ 在 0 y 此 碗 祖 7 造 兀 和 1) 遠 尚 下佛 7 證光 此 ス禪 地 ° दिवी 1 = 建 樹 タ w 所 n 志 ナ

高勾麗ノニ 此 北 五。 萬 八 年元 月朔 條 1 云の二萬 兵 時 兵覆 宗 士 日 ナリ将軍 盐 兵 夜。颶 溺 命 7 7 年元 1 魚艦 = カコ 小 應 汉 風起テ三千 F ラ 祥 シ 世 1 ナ テ 10 = 0111 祖 當 リ。生 渡 八角岛 我 V 抔 祖 ルヲ以テ。 元 ノ艦 テ 朝 還 21 鎌 7 元 1v 艟 澳 襲 倉 人 者 ヲ マテ 1 1 ナ 覆 。莫青于誾 圓 1 私二 り。 シ 寄來 欲 1 寺 3/ 弘 y 塔ヲ = 安 21 裳4 住 シ 吳 0 ス。 ガ 造 年 萬 古, +

碑 地 額 = 讀 = 得 圓 サ 相 ラ 中 1 焚 カ 為。古 文 1 雞 文離 字 7 合 題 1 シ 體 テ ヲ 以 浮 テ。文ヲ書 圖 = 换。 製羅レ字 シ。

立

セマ

7

欲

V

1

Æ

恒

iv

所

無

=

3/

モ

有

サ

V

>

0

人ノ

白

教フト 。植 ト。大日成 久 經佛 = 四九字移譯ニ載の必必必以上 テ 有 ケリ 7 0 土 猶 人鹽 E 東 亭 風 ナ 割 w 僻 者 此此 地 文 ヲ 7 1 譯 3/ シ

考證一篇ヲ著ス。卷ヲ開テ鏡校スルトキハ文意渙然

1 次子 3 テ 君鄉 氷 如 3 ŋ ク。釋 拓 本壹幅 ク實 = 考證 此碑 卌 叔 ヲ得テ。 孫 通 ナ 12 架二 哉。 挿 4 亭

南屛燕語卷下

釋南山

ノ末位 鄉 里 末 頭 1 某 ナ 鄉 1 1 n 者 1 7 最 2/ 云 長 久 フ。 者 n ラ云 モ **清**勅 規脩 フ 末 仙 1 臺燕澤 鄉 義 捷 = 1 テ E 識稱 古碑文 鄉 末 ナ 1 IV 1 末 鄉 3/ 11

川內筋違橋大松澤氏宅碑 五百六十一年

皆悉見。雖,末,得,

其

中

諸

衆

生。

右出, 于法華經卷

九偈文中。

+ 切 梵 字 九十 半川× 甚 0 因 0 た 弘 = 等 眼 切 安 月 R 岩 力 諸 £ 五 0 0 4 0 年 恋 得 衆 女口 0 0 午壬 見 是 眠 生 コスナサ

來迎寺蒙古高麗二碑。 弘五百五十六年。

〇奉為過去幽儀。

頓證菩提,也。敬白。

〇人求心專有志者為過去幽。

梵 字羅菩提心父死元二年八月二

000000000

弘安十年二月、 宮城郡。信田 小太郎古館。岩切山碑。五百五十六年。

宮城 郡岩切山信田小太郎古館跡碑。五百四十七年。

永仁四 年两申十一月八日。

之 兹、

嘉曆元年四月二十二日。 八十年三 桃生郡 一月十五 尾崎濱海藏寺供養塔三基、 日。 五百十七年。 五百五十六年。

四百九十四年。

真和五年二

月日

封內名蹟志卷十三 供養石塔在"尾 桃生郡

> 年後號字。多 年二月日。 有,三基石墳。各記,年月。一 二日 嘉曆元年四月廿三日。後醍醐三日 年號以"其年歷之久。鄉黨傳之 日弘安十年三月 貞 + Fi. 和 H

无.

宮城郡市川邑降侍碑 而百九十六年。

三拾0人合0000

梵字 弘安拾年丁亥八月八日

加 美郡下新田邑碑 勸 進 西 阿 彌陀佛 五百五十三年。

願主

大圓中

右奉為 正應三年十月

細圓中梵字。

敬白

三迫平形邑信樂寺碑 正應六年二月二十日 五百五十年。

密方敬白。

封內名蹟志卷十五 栗原郡 三追莊

信樂寺在"平

寸。記』正應六年二月廿日。 焉。此地謂,泰衡之戰場,也。古址上有,石墳。高三尺八 橋北有、寺號、江蒲藻山信樂寺。 今荒廢而古址猶存

吾妻鏡卷九。文治五年已酉。八月廿一日戊申。 一松山道一到"津八茂橋給。梶原平二景高。詠"一首和 爱二品

歌之由申云。

祝言之由有,御威,云云。 陸奥のせいは御方に津八毛橋渡して懸ん秦衛か頸

觀蹟聞老志卷八 栗原郡三追津人毛橋 編章稱,之江藩藻

金成驛五町餘。大悲閣下有,水流。三迫河流架,一土橋

館址。立、石刻、銘云云。以下雖,詳悉 津久毛橋是也。橋西平形村,東岩崎村。跨,南北。上有,古 當疑

宮城郡南宮村慈雲寺飛壇牌陰 四十八日列時〇。 五百四十九年。



永仁二年甲午八月00 二十五人敬白。

牡鹿郡鮎川濱石墳 五百四十二年。

爲祖父大祥忌所建也 正安三年十月十三日

古石墳准點

封內名蹟志卷十四

牡鹿郡

屋菅川 十月十二日。為,祖父大祥忌,所,建也。且帝辛丑也 傳, 篡說, 矣。高一丈三尺。幅一尺二寸。題曰, 正安三年 桐井此兩區鄉人。呼來而聞,其由。則曰。不

志 H 郡 隄 根 邑石 佛 五 百四十二年。

同梵字 同 梵字同同 同同 梵 同同 同 字 同 同同同 同 同 [17] 壬寅 F

立 年

安四

大

歲

妙三右 法十意 華七趣 經世者 正四傳過

十二位。位。位。 月

宮城 君[5 吉津邑 春 日 氏 宅 碑。 五百四十 年。

寬 保元辛酉歲

梵字 正 月廿 安四 九日建之。 曆玉寅八月

以前 有山 中建之。

此 月今之地移也 。數惣四百三十八年。

青葉 山 碑 五百四十一 年。

往 右 生極 志者。為"四十余人講 樂。 乃至法界衆生平等利 彩。 面 々各 益。 々所、志 正安四 年十 聖靈

梵字

月十四日敬白。

青葉 封 內 山 名 記有"音葉川名」 蹟 志卷 宮 土 城 廣湍 那 111

萬楽 廣瀬 今城 臥村 河。其下 取川于囊 集作 府 川 典 南嶺。 流日 名 原村。 "青" 濫觴 取郡 "長驛河。"總是廣湍川也 春 羽 出 山 來 同流 新 于當郡 吐 歌 川邑溪流 句 綠 入,于海。城下縈 先 多詠,冬樹之狀。比,諸 大倉村 群 合。 山 最 巨 經 早矣。 舟 愛子 山 回 多 岳 處 村 號 麓 鮎 俗 復 魚鮭 日 m 綠 青 合.名 仙 至 頭 莱 龍熊 鴨。 山 魚 臺

御于陸 吾妻鏡 聞 泰 加之於 衡 者 二品 奥 卷 庫 刘 或 九。文治五 發向 田 于國分原鞭楯 伊 那 達郡 給事 又構 於於 m 年已酉。 城 津賀 阿 郭。 津賀志山 志山 名取 八月七日 邊國 廣 瀬 樂 見 甲 兩 澤。 城 午 my 壁 引 而 0 固 泰 大 衡 繩 更 밂 日 害。 著 柟 來

南 無 柴田 SI 彌 陀 郡 佛 富澤邑大 佛巖 五百三十七年。

封內名蹟志卷二 柴田郡

大佛巖在言

山下岩面彫,大佛像座佛。長八尺左方書,六字名號。

宮城郡神谷澤邑牛山碑 五百三十三年。右方者嘉元四年丙午卯月二日。為"亡父"立。

延慶三年。

梵字〇〇〇攸目

二月廿七日。

山之目村碑銘二行五百三十三年

右志者為、、、成佛得道。

延慶二年七酉二

乃、、也。、法界無恙平正。

宮城郡岩切村東光寺戒填牌陰 五百二十六年。

梵字

正和六年丁巳二月廿五日

宮城郡岩切村東光寺斷碑五百十六年。

華嚴如來成。正覺,時。於,其

身中。普見。一切衆生成正。

焚字 嘉曆式年丁卯四月日敬白。

醫王山本松山東光寺ノ斷碑、集古十種ニ。陸奥國宮城郡

電子山水平「東光寺ノ 鬱碑 集古十種ニ。陸奥區宮城郡方ハ全石ニテ右方梵字三分一ホトヨリ。下マテタカオニテ。切取ショウニテ見ユ、里人ニ聞ニ。昔何人カ切取、今東南高崎村ノ邊ニアリト云。猶尋ヌヘシ。嘉永已四仲冬中浣三日。

仙臺金石志卷之六終

仙臺金石志卷之七

名蹟五

小木氏宅碑

平邑藥師堂碑

愛子彌勒寺碑

大松澤立石

上余田八王子宅碑

新井田東源寺碑二

海門多福院碑

小野目碑

北宮澤琵琶澤碑

三輪田高德寺碑

小野田碑

北宮澤福性院址碑

福室西光寺碑

島體吉祥寺碑 輕石男兒石

川上幾世碑

箟峯寺鐘附鰐口

飯子濱碑

關場龍泉院鐘

小田斗藏寺鐵鉢

仙臺金石志卷之七

名蹟五

仙臺 吉田友好 編輯

相"當慈父順阿靈幽一百ヶ日、、 同心町通長刀丁角 小木氏宅碑 五百二十四年。

令 乃至法界、、、、、、。

右旨趣者。為 元應元年七月廿一日。夢子

柴田郡平村善逝堂古石墳 五百二十二年。

0 • 00

諸行無常。是生滅法。

元亨元年辛酉臘月十五日施主 生滅滅已。寂滅爲樂。

慈母妙蓮大姉

善逝堂古墳

奥羽觀迹聞老志卷四

柴田郡

墳小个倒而半毀裂。高九尺澗二尺六寸。首圖。圓相,中 去,平村七八丁。路俊有,古字一置,藥師。右畔有,古石

墳石面爛腐文字消滅 有。慈母妙蓮大姉六字。是亦草字也。其餘多。古墳石 樂八字。各書草法。其字態不,凡。頗好草書也。左方下 有。諸行無常是生滅法八字。左下有。生滅滅已寂滅為 日。其下施主敬白四字兩行書。 皆楷法也。 圓相 右下

黑川郡大松澤村 碑 五百二十年。

觀跡聞老志卷八 右為。過去覺辨。元享三年癸亥十月三日敬白。

黑川郡

古石墳

在,大松澤村高九尺廣一尺五寸。厚一尺五分。 石上

人日立石。 銘曰,元享三年十月三日。重高敬白。未,詳,何為設,鄉

元亨四年甲子三月廿五日。 宮城 那愛子村彌勒寺碑 五百十九年。

遺弟圓默為"先師一立石。

封內名蹟志卷七 宮城

彌勒堂在下愛 有。石墳。題曰元享四年甲子三月廿五日。遺弟圓默 鄉說慈覺作。或為運慶。有一寺號,正覺山彌勒寺。傍

桃生郡三輪田 村高德寺碑 五百十八年。 爲先師立石

正中二年乙丑二月時 右為"平直 重逆修 造立者也、 正敬白。

平直重嘉在"三輪 封內名蹟志卷十三 桃生郡

石墳高六尺七寸。廣二尺一寸。 有"古石墳、題日正中二年 二月。 有,寺號,淨峯山高德 為一本 直 重 所 建 也。

帝七年世。爾

名取郡上余田邑八王子宅碑 五百十二年。

右 年 四 十八 H 食

梵字 元德三年十一月十二 日。

余 田

登 米郡 新井田村本源寺二碑 建五百八年。

題目 元弘二年二月日。

右

為。日用

上人小祥忌

遺弟日位誌

為"日用上人大祥忌。

建 武二年八月日立之。

封內名蹟志卷 寺在:新井 十八 登米郡

法華

五寸。廣一尺五寸。爲。日用上人大祥忌。建武二年八 小祥忌。元亨二年二月日。門弟日位誌字。一基高二尺 號,法龍山本源寺。修,日蓮宗。寺畔有,兩石墳。一基 四尺五寸廣二尺。石面記,題目。下有,右為,日用 上人 高

月立之。

天

工寺在"上野

封

內名蹟志卷

+

玉

造郡

栗原郡 北宮澤琵琶 潔 碑 五百八年。

右 志 幽 儀。

梵字 建 武二十一月。

往 生極等。

玉造郡小野目村古碑 K. 白 七 年

梵字〇〇〇〇遠江 前 司

相

光成蓝

000000°

梵字

右〇者爲建武三年三月三。 敬

正覺00000。

僅 碗 右興國山天王禪寺。大悲閣 リ。守屋大臣 ニ其敷字ヲ アリ、山茶一株又其左ニアリ。○文字讀へカラス。今 地上高七尺餘。橫二尺際 錄 石碑 ス 情ムへ 1 一云。街 シ。 跗石ナ ノ廿間許左。 道 3 IJ シ、古杉 丁五十三間 護 林 株碑 1 中 7 = 7 後 P

緣。而是亦後人擬。其事實。設,于茲,乎。傍有,稱,江蒲 寺。有"古墳。相傳物部守屋之墓也。想失依"天王寺之 號,與國山。文武帝。大寶二年。 聖德太子遷. 攝州天 Ŧ

牡 鹿郡 海門驛多福院碑 五百零三年。

奉。為。吉野先帝御菩提,也

延 元二年已卯霜月二十四 日 心敬白。

御碑傍碑

碑高二尺。廣二尺六寸。

多福禪院奉"崇

後醍醐帝之御神靈,之碑 則

天皇 帝八 、王子 崩 御 及 成良親王。並 親王御聽。御孝實泣血餘。 北 面臣。在,日野。日 下氏。 為, 御菩提

遠國。由是如是記云。 建。當山。土俗世 明院。曆應元年也。帝都在《兵亂憂。故年號改元未、通 々傳 此 語。延元二年。則人皇九十七代。

> 廿四 天皇崩 日。是則 御。曆應元年八月廿四日 御供養建 一個 神靈碑 也。當山御 月日 哉 神靈碑。

古跡名。 御所浦。 皇子大明神。 大門崎。 朝臣稻荷。 热 田 神 社

殿原

小

札立場。 御隱里。

共詳問"里人可知。

封內名蹟志卷十四 牡 鹿郡

吉野先帝御墓 村在一湊

陵墓也。二字恐分" 相傳天皇計至,子與州。親王親臣慘憺之餘。所建之 先帝御菩提也。有"延元二年霜月二十四日敬白文字。 古石墳。高五尺。廣二尺六寸。其石面題曰。奉、爲。吉野 海門驛東南有"古刹。 多福院。置,大日。春日攸」造也。寺背有,斷岸。岸下有。 古月光山日輪寺。今改,日輪山

日 應二年己卯也。南帝崩延元三年。或四 按斯地題" 御陵 也。斯日霜月二十四日者。盖記,立,石墳,之月日, 日 。延元四年,考之。則是歲北朝曆 年八 月十六

也。

御所奥在港

從 乎此 鷲峰山下。 王子·公孫居宅之名也。建武中。 地 王于 所貴家之美稱。 日 美。 "御所奧。二臣子孫。亦後來下,民間,而 此鄉居焉。故土人推尊稱,之御 多福院以東山間。鄉人日,之御所入。 北朝莫、敢知之者。 所以為禁闕。柳營。竹園 其親 後醍醐帝。親王 臣 日 所。後 野。日 ·椒房。 一避, 窓 人指 下某。 日后奥。 今猶

者,誤矣。且皇居之地。分劈不,傳焉。唯日,御所,舊蹤稱,後村上院。延元元年為, 奥州太守。土人傳,避,寇存。 等, 縣, 唱下源左廣 親王乃第八宮義良親王。後奉,

伊達吉村朝臣記行

可

惜

也。云云

下略。

る。寺に行ておかみ奉り。牧山にのほりて。大悲閣·鷲 てて。失より川船にのりて、むかひのみなとへわたり。 でき村風は。今朝とく日より山の愛宕大權現にまう

> なし含りの西なる。在家に上宿し侍 峰 は 右享保三年秋。獅山公十三濱御巡見の 山 るかにときうつりて。中刻のおは 長 禪寺。 そのほか名あるところ りけり うにきたりぬ。 記中の 見あ 一大云 詞。 りき To お

五輪石 梵字。 銘文七行凡六十七字。水門多福院碑稿一尺一寸 四百六十六年。

夫以塔婆者。、、成、、、。

、、、、誠、世依之、、、、

古志。

The state of the s

至德四

年丁卯六月

肺

日白敬

、、莫迷心、、、、、、

九品淨刹乃至法界平等利益、也。

加美郡小野田本鄉古碑 四百九十七年。



文政十一年戊子夏。加美郡小野田川水アリ。小野田本 得。屋舗ノ側舊祭ル所ノ八幡神祠。殘缺ノ古碑ヲ藏ス。 郷下ノ目。藤澤屋舗崩ル。諸行無常云云ノ斷碑一片ヲ

否考フへ 古此所藤澤寺遊行上人ノ弟子某。庵ヲトシ此碑ヲ建 トン。故二屋敷モ藤ノ號アリトノ口碑モ存セリ。其是 ノ殘碑二片ト。今得ル所ト合ラ初ラ全キ圖ノ如シ。往 レヲ討ヌレ シ。 ハンノ神體ナル ヨシ。祠僧大皇寺云り。ソ

> 宮城郡福室邑西光寺碑 四百九十一年

光明、、、、、

梵字。 十方世界。、、、、。正應二年七月廿日。

正平七戊于年三月十八日立之。

古碑一。

封內風土記卷一下。 在,西光寺中,正平親王之碑也。記曰。正平七年三月 十八日立之。意文按。正平親王未、考吉野帝皇子也。 宮城郡福室邑。

迫島體邑吉祥寺石墳 四百八十年

封內名蹟志卷十五 島體城。 程鳴 貞治二年二月三日

栗原郡一迫

鄉說。狩野式部大輔居館。一說曰。赤松館。是乃佐藤 祥。有,佛像,安阿颁作也。有古墳記曰。貞治二年二月 莊司長子次信舊居也。館下有、寺、山號 三長水 寺號,吉

三日。不、記,死者姓名。 貞治後光嚴帝

栗原郡北宮澤邑。福性院墟碑 四百七十六年。

今此三界。 過去慈父。相當三十三年。

其中衆生。 皆是我有。 忌辰 右意趣者。為,延文二年八月 、生平等私道也 白。 敬

梵字

元是吾子。

T 刺郡輕石村男兒石 四百七十二年。

封內名蹟志卷二十 延文六歲。 辛丑十月二日数白。 江刺 郡

男女石。

枕石。

六字。其石痕相並堪,可、怪矣。不、得以,何故,及是于此 柱。載,兩砚之石頭,而不、動焉。曰、之枕石。男石頭 圓相下有,延文六年大歲辛丑十月二日。孝子敬白十 砚 年號改元康安。 相並臥。又有石長五尺七寸方七寸五分。 以上字考則。為「兩親」建」之記,石形 若..梁 題

長廣于下。

男兒石 長九尺七寸。曠五尺五寸五分。厚八寸六分。

有文字 記一一前。

長六尺六寸。廣四尺。厚八寸九分。

爲、聲。其音如、鐘。乃號 "鳴聲石"往昔石畔有"悲閣" 日

學」之則。

之鳴石觀音。今已亡。去,此地 山西光寺。歲、古書羅漢十六軸。唐銀八寸夾山圖等。 十五町。有、寺號。音石

柴田 郡 關場村龍泉院鐘 四百六十九年。

後 光嚴帝應安七年甲寅

奥

州柴田

.郡高木鄉。無畏山靈感寺。住僧得秀所"寄附

也。

高 木古刹在"顯

封內名蹟志卷二

柴田郡

鄉人曰。地名高木。且相傳古寺跡也。然不」詳 此南山下有,寺。曰"高峰山龍泉院。 有一木佛 其 正觀 地。去 音。

5

12

たのあはれにきゆるみつせ川しつむも嬉し

奥州柴田郡高木鄉。無畏山靈威寺。住僧得秀所,寄窑海作。又有,古鳧鐘。記曰。後光嚴帝應安七年甲寅

附

也

名取郡川上村碑 四百六十七年。

幾世墓。

永和二两层三月十日歿。

雄幸橋在"川 鄉人日"之小佐治橋。雄・小元封內名蹟志卷六 名取郡

一女,號,幾世。有,桑島宮內者。甚張,威福。而稱,善人。有" 黨。俱同,巷。幾世佗時見,雄幸。思念日夜不,息私通, 黨。俱同,巷。幾世佗時見,雄幸。思念日夜不,息私通, 黨。俱同,巷。幾世佗時見,雄幸。思念日夜不,息私通, 、死時十有六。其遺吟曰。

末のあふせを。

商。有,小橋,往時雄幸微行之地。土人曰之雄幸橋。幾世墓。永和二年三月十日死。雄幸墳亦隔,川為,參雄幸亦遂死,于情。二十有一歲。鄉人哀而立,石題曰。

名取郡

川上邑。

龍

吏

山

金剛寺

茶銚

所

藏。



是四百年物。藏一子與名取郡川上邑龍吏山 寸二分。唇脩九分。殘缺如。景牙。底徑六寸。 右鐵茶銚。高四寸七分。深四寸。腹周二尺七寸。 七斤。十四 雨。 兩耳 兩環中央有 清清 至、勁 金剛寺。土民 如 容。三升。重 品 口徑 曾 五

時 威。今茲享和元年八月。 在"水濱"今也 嗚乎亦可」悲也。有』圯橋。邑人名,之雄幸圯。二人墳纍 撫。衾禍 思念不 我三年反而 逐欲 為婚 之 乃使 人稍 視 遊,於奧。乃為,道士。戴、笠負、樸吹、尺八、跫然至矣。幾 求將,及,良 傳 永和 而喜之心動。目 云。 弛 去矣。 此 已。 流於四方 負擔於 之故。雄 郡 m 器幾 嘆息。花 吾其從 伶 光景 水極淺為 族。有一女日 世之所,用 傍獨 月 梅津少將第三男名雄幸。 此。君之惠多矣。况敢辱,是嘉 幸便嗚噎失聲涕淚滂沱。 十日 知之留 ,未,恢,夙心。是以不,敢 注 濺 立 也。明旦戀々而 雄幸亦 也。 如 淚 ,溝瀆。可。揭 余與"同志」見"招"于石川氏。 也。 幾 渉川之無い梁仰 月 道,其意。雄幸曰。僕 而 旣 增 往昔有 世,有,容色。年方笄。 宿焉。 大祥 見 恨。 其婥 雄 鬱悒作 使 去矣。自是之後幾 而 桑島宮內 幸反。 約。 涉。 幾 世 徘 泰元命。 有。男色,自点京 屋梁 不 光景泣 煎 自 病 徊 命乎 無 桑滄之 投 朝 茶進 小 焉 也器族之 水 露溘 m 姚 輔 踟 請待。 mi 而 惆 唯 婉 蹰 名 帳 死 告 消 親 世 是 世 光 A

觀,是茶錦。又聞,土民之所,傳。屬以記,其事云。

田邊匡敕記

幾世歌

辭。相 病。布 立。惻 册 秋的 東 H 擬 此焉想。少女喜煎茶 如」臆。願得,如」此夫。丹心指」天誓。阿 同 際 + 氣己洩。趨進遠稱 上照 之未 與有,佳 題 身 三燗。容 : 結契 能 思天一 奥,朝菌,娄、春與、秋互換。日與,月代點。即君 々獨自咨。恨別復恨兮。 被 K に繋。刀環 吹自 坤 『錦羅衣。薫以 丹 郞 塊。郎 人。姓桑名幾世。 儀。 霞 君敬 涯。少女 闽 王 十四 多谢。 我 君欲 簫。劉亮難可繼少女等一 應有 耻 K 能 茶馥如,蘭蕙。一椀合, 試啜。排問 綠雲髻。郎 逃起 叙 蘭與 書遞。 期 何 别 別。 以 爲 後。 斜 得此 容 桂。 我 先催: 流 十五 色信 泣下 悲離又重悲恨 待二二 君從 睇 惠。 樣 生別 學認 m 絕 無盡期 公 一歲。情 結 父通 災 西 倫 淚。 织 發。 素 髮 京宗 何 此 四 "慇懃。債 長 一門が 見·心悟 一。伶 盛 去々從.此 性 滥 覺 方志。似 悲結 意。留 亦聰慧。 一件顧 捐 夜 棉 京畿 学 涉 作 成 短。 影 宿 媒 管 义

翼鳥。 修禁。 滅寒。 松 放路。 返到怒 柏悲風起。惝怳暫踟蹰。時有"雙飛鳥。哀鳴向 心 地 危石。學身 背 有 推 砌 連 观滅 如飢。空閨買 理 滴 衰。云余是何顏 枝 遊 找 相 與 阿父見。郎君。語畢 對 水 徒生飲 欹。遺歌 崖。骨沈 無 見。香帷慘空披 。誰親 し恨 存 黄泉裏。 上 片石。 讀能 。不如 可"興 源漣 烟斷 死 怡。天 洏鄓 儮 ~茶鼎 涕 長 一居 水 有 河西 111 君 些。 湄。 攬 IE. 比 便 煙

幾世詞

龍潭 新井源義路

亦塗死 焉。 和 墓。永和 聞 雲雨之會。 女,號,幾世。有,容色。鄉有,山上雄幸者。男色 戀之切。詠 年 老志 幾世見,之而 一子情。 云。名収 有。桑島宮內者。甚張 一年三月 爾後屢欲。再 首之哀吟。投 二十有 訓 思念日夜不息。 十日 111 上村。相 殁。 歲 會而不能 鄉 雄 身 傳。 李 人哀 而 一威 墳 死 百 灟 私通: 艷 亦 而 。死時 焉。 立石、 隔 而 代後 幾 稱。善人。有 111 + 書 圓 Iffi 世不一耐 題 有六。雄 動"鄉 融 為 而 B 院。 終 幾 當 南 有 黨 世 永

> 有小 以"聞老志 詠云。汙多瀉農哀仁 今茲享和 橋。往 爲 昔 改元初 雄 事 幸微行之地。 證。故載 冬。 消留 應 此 田 水 備整考 放鄉人曰"之雄幸橋"其 瀬川沈茂 子順之雷。賦 嬉之末農逢世 : 幾 世詞

陽。花 春光花 荒。 中 幾 永和 A 名不。忘 如是。神 求。友偶 蟬鬢傾 雪.膚疑 封建草味計 犪 静好琴瑟御。松風 世。 國府以南有。處子。名取郡中川上鄉。桑氏之女名 年時 茶 底 家張 相嫉 國粧。吉士誰復不、欲、誘。珠簾 测 高 目送風釆士。 自入尋、芳。桃李花邀金蓮步。蝶 何 芳年二十有 果 。宛轉 媽然 威 無遑。距,今四百廿餘載。邈矣日月 御字。一 郭 配 白 投 有類光。 眉黛雙蛾長。八字 藩 面 笑人欲惑 百世 郎。郎 相 即 羅韈雞袂 間 和 ---統之人皇。後 示 音鏗鏘。嚶々 是同 明眸 三年誰 , 攸, 视 是 鄉字益幸。许問 碧維裳。 照 成 輔 尤 第 牙 更 自艷 勝 米 語窓瑇 圓 梳 脈 鳴鳥 玉 子都之姣 於 舞器歌媚 幾 融帝此膺 金 逸, 墙。 鳳叙 星霜 攸 促 肌 瑁 沿 作情 並 春 屬鴻 梁 總影 更。白 應 思。 艷 閨 烟 戀

者定 欲著 結。一 結線帶、 裁。嗣 無」信。了鰻丱髮好易」成。交惡息國不言婦。 明。豈忘望余催,延視 世 醜 後會 子兮無,折 别 不 白玉之硯文犀管。 水中央阻美 者 一妾沛 名。父 级 來 離如"幻夢。投 良辰 Ing 小 日三 見驚然池 音 唱想。生平。雄 命。 傾 母 回 朝雲暮 浥 不可 祀。 之言 一歲泣 文兩 貞 聞 行露期。夜 人。寫 中 道 別 犬吠 水 '營。面戀胡 三回。 亦可、畏。 吞 雨誓叉盟。 夜 浮 胎 1. 聲弧 並 水 屠 雕箱 寐 忽 悅 。生憎 恐 幸悲惋 之思獨 身比塵芥輕。徒 乘 有 邃閣深閨 換佩 行。 一全懷,良亮之潔 使 枕 殊 三生。殞 危垣 垣 非禮 邂逅 鳥 獨夜思。卓氏。 有 今夕不」知眞何 蝶粉白色。 玖。又期桑中屢 乍絕倒。 一一一一一一 輾轉。 耳驚。饋食裁縫常侍。母。 鳥雙棲鳴。旦暮哀怨心蘊 去 初 我 消 何得愧"弟 命 復 塗綢 不、往。 新。私叙。懷抱一尺素 好述之求豈告親 何 關 遺 辭 泣 身怪蘭麝惹.香 經情。 清。看 昨 國 幽 M 游 逃走當 挑分達分寧 「冥契。 兄。不 夕。良 。暫解 號哭殆喪 風 此 相 生 他婦 卅 迎。將 行 存 墟遺 程 人欲 容 自 德 図 同 字。 大 汚 婚 斯 仲 No

> 我心 今我 落月 端。且 止。在 加加 岸墳瑩屹 真 異、室心惸 家紅拂妓。 下有!傷心 **匐咫尺曼** 路 可 冷 夫更。一 坝。 水 影遍跳 羡。 聽 . 色之辤 水一 記 死 相 好 橋之上。懷古 々。死 女雨 爲 之激湍。今悔鑚穴身何 身比 橋坦 向 成 難。貞 邑人相哀極 連 戒"少時。 。言是生墮淚之悲 此 祖 理 何 綠 。背傳 一枝。 目 貪食息。 蘿喬木縈。予美亡,此 婦不」看碧水寒。上有「無心之孤月。 不一報。同穴約。豊護抱 死 又有 毎期潜 獨 何 一條。懷 悲 被 張 並 一戒後來者。 悲風 屍。 娇 行 游 李妻 渡 隔 沙 花 吹。情 物換 及。 院 泯 不 雄幸橋名因是遺 任: 11 没 身 星移雨不、改。 關 欲 再 流 水 柱 誰 後 何復 存 立 浙 請 尾 與 生前 連 馬 瀝 班 日。穀 可 生誠。匍 理 不 雖難 碑。兩 憂百 相 並 海 利 楊 黑 則 7113

封內名蹟志卷十四 牡鹿郡

牡

應

郡

飯

子海

供養石

四百四十八年。

供養石。 子在: 飯

高七尺五寸。廣 趣。記 日 。應永二年乙亥十月日後小松帝 尺五寸。上安十三佛像。下 述

遠田 郡箟峯寺鐘

應永二 沙 爾 十八年六月二十 道 太 所: 寄附 也 日

B 寺 鰐 口 鉛

永享四 年六月十八 B

中冬 屋筑前守 源 光善

封內名蹟志 彩 遠 田 郡

箟峰大悲閣

沙 山箟峯寺。鄉 人呼. 篦 岳。其 地自 古獨 稱 其 地

名。而 間 心 曩昔坂上田村麻呂。造"營堂字,乃飛驒工匠 不.紀.屬.何邑。但 知 臺 大田·吉住·小塚·小 里 所 之

施"斧斤。像乃竺土佛工毘首羯摩作。閣乃向"南方。左 不動,多門。但運慶所、造。 堂宇之制皆隨"地勢之高

> 字。 其境無數之山岳跨"西北。千畝之田野闢"東南。疊」青 乃沙彌道本者。應永二十八年六月一日。所,寄附 記曰。永享四年六月十八 尺。長 低。東 展、翠江分河裂。 堂後 短 南短 不均。 有 柱四尺, 熊野 堂前有。二王門。是亦運慶作。有。鰐 實極 市中 西 而 南二尺七寸。 目之壯 堂。 日。蜂屋筑前守源光吉。鳧鐘 北 建 犯 潮 心 陀 西 東南 堂。 北 Ŧi. 其東有 有.坊 た。 含二十 東北 也 口口

祠。其 南有 強 樓。

老婆 江杉 堂東。

白 山 社 元年所之建鎮守。

祈 师詩 澤 堂北。

閣四北。 毒矢嶽 前前 樂岡 同上。 堂北。

射 箭嶺

箟宮權

現

旗峯 堂南

清 鮮 网络 泉 党東。

台宗 無 夷 山 2 案 一寺。凯 音坊。貸常 住 院, 衆徒 脇 功 -11-

Ti.

坊

天

東之坊 之坊 藥師 松 本 坊 堂

中

大門坊

维

之坊

相 泉 功 非 上坊

何基金石志修之七

林泉坊 藤本坊 仁王堂 長 之坊 圓 坊肝 人。實壽院 林崎坊 櫻本 常 杉 本 音 坊 坊 坊 實敵坊 吉祥 實 梅 鐇 相 撞 本 坊 坊 坊 人禰立 智之坊 坂 熊 屿 東萬學院院 之 本 野 坊 坊 堂

州 伊 伊 具 具 莊 郡 斗 斗 藏寺 藏 寺 鐵鉢 千手觀 二百八十三年。 音之鉢一 器。奉事寄附置。

奥

家

中

門前

+

人

伊

具

郡。田

手助

三郎

藤

原時實

寺主 圓 海

I 匠 佐 藤 助 左 衛 門

于 ,時。永 禄 三年。大歲庚 申 九 月十 六 H

封內名 蹟志 卷三 伊 具 那

斗 有。寺曰 山 大悲閣 "安居山斗藏寺" 田村。

城

帝

大同年中。 田村麻呂建立也。閣乃南面。 高 坂登々巳十 \equiv 町 本館秘 相 傳 平

子。值 辛丑。 進于華 七日。閣 佛。 焦爛 鄉說 竹。又 鎮守 銊 羊膓縈回 竿。或用,之銃 日 匠 兵衛通次 鉢。鉛 整 佐 杏 有"安" 中 恶 膝 日。 附。伊 有 木 大 有 鯨 助 : 槲樹 以 稻荷 瑟 是也。俱凌、雲藏、牛。此地之名產。或用,之槍 唯 寬 沙 山 居 左衛門。子」時永祿三年。大歲庚中九月十 者。欲新鑄」洪鐘一而 南 具郡。 永 本 m 则 門嚴圓者。懸. 是鐘 林之深。 器。寺主施貞者。作、銘 山 有 而 架。堅實軍固極。其美材。斯地樹下多 尊脱"于赫炎之中。而 銷燥。 相 州 五年戊子八月。 i寺院。登山之間。 左右山王·白山。 交生 字 伊具 H 新。當 手 餘烱 莊。 茂樹 一、其葉秋 助 肝疗 斗藏寺干 及 喬木數千株 安井門主真翰。其 郎 伽 來深 藤 興步人廢。於是乎寄, 以"金山市 盛須臾為爲有。鐘 in. 原時質。寺主圓 松古路 口。其後萬 其界曰。正安三年 紅 飛揚去矣。寺 手觀 夏晚 緋 K 語一之鉢 秋 人。星野 **暗杉老陰深**。 其大者 好看 系統 治 H 西 三年 于一十 中 海、工 方 俗呼 有 置 庚 郎 小 亦

仙臺金石志卷之七

仙臺金石志卷之八

目

名蹟六 白石城鐘

畑邑藤太碑

青根温泉碑 赤沼地藏趺石 小針彥次郎復讎

附

植松路傍碑 鹽手實方墳碑

耕野沼 上碑

秋保温泉碑 田城跡碑

仙臺金石志卷之八

吉 田 友 好 編纂

名 蹟

刈田郡白石城鐘銘

諸行無常。

是生滅法。生滅

々已。

寂滅為樂

文正改元丙戌 霜月廿五日

大 I 藤 原 正 綱

主 事 僧 士 英

之片倉景長。再鑄成焉者也 破畢矣。故寬文元年辛丑閏八月穀日。藤原朝臣第三代 移來高掛。奥州苅田郡白石城內。而以來年深月久。終打 如」右此洪鐘。東昌禪寺鐘也。然嘗前代亂邦之時節。遠 大檀那圓崇住山圓良。奧州伊達郡無爲山東昌禪寺鐘。

有司 大河內外記吉成

副司 門馬善兵衛真之

冶工 早山彌五郎質次

仙臺金石志卷之八

封內名蹟 志 卷 XIJ H 郡

白石 門君 其 地。而 廣 津保障之要害也 高 寅十二月。與"亘理城主片倉小十郎景綱。以"亘 遂城門爲之陷。以此先登之功出,于衆軍。而同 im 城在"白石 (名鳴,于天下。以,都將甘糟備後重氏,而居,于此 留 時長尾宰相景勝屬城。東奧之咽喉天府之鐵甕。 司 。天下稱 ·使君 守 時。其亡 與"伊達安房成實。自」是景綱 城中。有、故潜 出師之前 之呼 一而急攻」之。其兵起"不虞 "伊達下 。慶長五 歸一一會津。是歲 臣鬼小十郎。子孫世々相 年 。備後 令。其 雄 威 七月廿四 而 甥登坂式 益 不。違 顯。 七 功名彌 防 H 一理城 年壬 部忠 糙。 戰。 。黄 。會

栗原郡三迫畑邑藤太碑

藤 太石 塔偈 併引

鄉 赋 性 人傳 朴 直 說 賣炭爲業。 近衛 院御 宇 。與州栗 日有 原郡 異女,來宿,藤太家。 三追 間 有 太 者。 强

> 字消磨, 富 有,時 太掘 六。不. 幾太富起. 家。到, 今其鄉號日 約 石 有。三子舊館地。日 N 金。致"太掘" 為婦。 。刊。余偈引,贻,之後 木左內田 請。余往昔看之。 金地也 鳴 云。山 問 余乃求。偈記 之日多得。金。太有"三子。 之自 莊內、佐氏 。其左有"鷄坂"太積富時。 南有"藤太古墳。有"五輪 謂京洛之人也。其 ·南館·東館·西 星霸已經,五 焉。佐氏恐,其舊跡 世一云。偈曰 天性好。善 施仁。 館。其右有。金澤。 女 百 二金生。 餘 知 作。金鷄一安山 双 日 年 威其 册 石 倍滅。今特 橋 塔 塔。此 鄉 其鄉內 次。橋 Ill 石 以 傾倒 内 舊蹟 誠 內。橋 產 光 山 致 建 黄 文 胨 上 佐

故

奇哉 遺芳千古分 藤 太至誠深。化 人欽 女感來大富金 功勣只餘雙石塔。

告 正 德五 年乙未盃夏望後

正宗三十五 世 前住 大年

卷七十二。 111 創 城 Ш 瑞 老 人書

泂

北 開

鳳

和

漢三才圖會

橘次井 西 陣五辻通南櫻井辻子。 此所金賣橋次末奉

水。

す。共 0) 藤太は。白河 產 にて。 質京師 其爲人質朴無欲にし 近衛帝の 宮方の 姬 時の 君 に。お 人也。 こやの 奥州栗原郡 て。 炭を焼て。生業 前とて侍 三迫畑 りしに。 村

こそ汝か夫なれ。急き下りて妹脊の語らひせよと。あ帳に。奥州栗原郡といふ所に。炭を燒く藤太といふ男く。暮し給ひけれは。淸水の觀音へ祈願し給ふ。滿參の

如何なる故

にや。年

たけ給

ふまて。定まる夫とて

8

73

藤太後に官名を給 5 る たなる靈夢を蒙り。夫より乳母壹人ともなひて。 此 所へ 下 50 は 藤太に夫婦 り。藤太夫と號すとい の契り淺か 20 らす云 藤太 な。 は 夫

墓は五輪なり。文字漫滅見分難 限貞慧大姉 樂居士。おこやの 。藤太夫夫婦 削 同 年八月七日卒。法名は。德 0) 位 牌 し。 畑 村 其所をとふのこぶ 0) 常福 寺 に在り。 雄 院 智

仁安二年三月十七日卒。法名は。

開基常福寺殿

安叟長

しといふ。

圃山碑 炭工藤太夫者。馨"金鑛"致"豆

11

断碑苦蝕圃山陽。云是炭工藤太夫、武問黃金鎔冶跡。

花飛春色滿。平蕪。 關元龍名跡吟稿。

開基常福院殿安叟長樂居士

栗原郡三迫

畑

村。炭燒藤太夫婦塔五輪石

德雄院智眼貞慧大姉

金生村有"藤太夫者古墳。里人說。嚮鑒、礦獲、金。且得

奇不」可」言矣。偶鳳山師樹」碑記。其事二云。有.人需.詩故傳婦,產.子。其得,豪資,到,今數十百年邑名亦為,此也

賦贈。

窟裏黃金難一可親。寥々仙竈幾回春。花飛莓沒云々,

栗原郡三迫畑村炭燒藤太夫婦塔

C



開基常福寺殿安叟長樂居士

宮城郡高城赤沼邑。路傍石坐佛跗石銘太郎地藏。

定勝

喜兵

衛討留申候。右

兩

人は敵に付討申

候間。

其場え札

右彌太郎は拙者討留。

五郎七をは家來武石孫兵衛子

を立置

五郎三男五四郎親子三人。十ヶ年以前に。白川立除申

御當地え罷越候。右彌太郎親富永八兵衛·次男

富永彌太郎

定重。

富永五郎七

此石佛造立

戰死菩思

提

潜也

肉姪富永道仙。 享保十七壬子七月念四日。

不中 今日罷通候所。宮城郡赤沼海道にて。彼彌太郎・五郎七 速下野守え暇を申。 候 親小針四右衛門臥居候所え。富永彌太郎儀。 拙者儀。白川本多下野守下中に御座候處。去々年八月。 に逢申候所。右兩人も拙者を見當。互に取合働申候處。 而。其場より欠落仕候。 彌太郎行衛不"相知 諸方尋廻り松島え罷越仙臺方え 其節は拙者儀當番に 候に付。敵討申度奉、存。 忍入討 て居合

早

申

九四

候故。右八兵衛,五四郎何方に居候哉。行方不,相知,候

以上。

延實三年五月七日

小針彥次郎

御家老衆中

郎七と申者討留 以派脚 領內宮城郡赤沼 啓上致 候。然は と申にて。過 同 日 暮 其元御家中。小針彥次郎。此方 1= 當地 る七日。富永彌太郎・同 城下に罷越。 敵 討 1-御 五

郎五 座 郎主從三人共に。手負申 候由 郎 七兩 思 慮 人之死 書 1= 而 骸 相 為為 出 申 候間。醫者相懸置 相屆 候 間 工其儘差置申 委細 承居 中候 申 候。 候。尤 加 右 彦次 論 彌 思 太

同年五月八日

慮書も指

遣

候條。御受取

可

被被

成候。恐惶

謹言

山崎平太左衛門

國 井 忠左衛門

佐藤右近右衛門樣

岩崎新兵衛樣

深手に而。同月十六日に相果申候。右孫兵衛指料大和小針彥次郎主從三人共に。手負申候、就」中武石孫兵衛

年仕相 立除申 津·秋 討留 申 江 不 夫 子喜兵衛貳人。同月廿三日。本國之罷歸 衛遺 作貳尺貳 右 被 石。字佐美長光之御 え召出。委曲 より 彦次 拾枚被下。 候得共。一 戸え罷登。三月迄逗留仕。江戸中色々心を賦り相尋 治 相 言に 申 越。 田。仙北。津 知 候。 尋申 鎌倉 候間 郎 候 御醫 寸。右 て。右 働 下野守殿え御 に付。 候處。彌太郎兄弟。拙者着仕候を承及。石卷 相尋。京都。大阪え相 前 過 切見當不」申候故。三月廿日江 御尋被成候處。查次郎品々申上候 師千葉宗綠え。小 仙臺え御使者にて。 代 脇指遜り申 脇指赤沼 る二月始松島え罷越 輕。南部·松前·仙臺御 未 北國 聞 刀被 と申 海道相 為之丞に看病を受候故。 下。 聞 候。 属。 家 尋下 右彥次郎並家來孫 判或拾枚被 爲 來 登相 候處。 御 武石喜兵 御 相 褒 領石 寻 武 寻。 美 。其後下野守 候 頭 最 漸五 総に 一相贈 板垣十 御 戸を F 衛 共。 加 え。 月七 而 增 は。先 相 澤一會 行方 兵衛 孫 兵衛 銀 立。 质 由 殿 兵 日 越 E

延寶三年五月廿五日

彥次 郎 拾 Hi. 就 渡 页 19 所

家來 孫 兵 衛六 拾 歲 掋 四 4 所

同 喜兵衛貳 拾 ナレ 歲 渡 壹 15 所

彌太郎三 拾 九 歲尸 面 疷 共 1= 四 4 所

弟 五. 郎 七 = 拾 三歲 面 底 1 所

守

殿

忠

华

朝

臣

奥

州

白

居

見

得。當 右 本多下 彈 IE 坚产 小 死 殿 主天 EA保貳萬 石 寒 州 泉を嶺し給 111 城之時と相 30

田 郡 前 川邑青 根 温 泉碑

實永二乙酉七月十六

地。 新造中典妙 間 應 間 ---除 湯。 不 祥 幾 日刈田郡長 一箱 人解 底 厄到。生長。 石 六長野 端 泥 平町 濁 穗。 青 根溪 使,人 洞 拔 麗 病 金

南 無 M 補 陀 佛。敬施 白主 苦一榮昌。温泉改

巧子孫

爲。二

六

時

中

療

弱强。

封內名蹟 志 卷一 柴田 那

青根 温 川在前

屋下 武 .湯舍。東西六間。南北二間半。板,其年。下隨瀬

> = 湯之所 望之名取 浴 通,于橋下,而至,下流。又去,此可,三間 亦令"其落"場合。又去"湯合二二間 凡二十間。 舍下。病"頭 而 架而 不 長 也。 許 短 旋之。及"下湯」含方四 大倉 四 焉。 風 叉自"坐中 其 架二長筧。横。舍東 者 Ŀ Ш 其下乃衆 。受之則忽得 頭 大 可... 森館等。入.座 一設 間 人群 小 廊 有 集雜 至 其驗。自 間 而 温 許。有. Ŀ 泉 湛 流下 浴 其第 來 而 惟 锡 别 馬 P 多。 含。 士 涌 源 河河 證 橋 有 順 出 此 泉 東 左右 長筧。横 一个二个 興 於 所 肚 至 西 禁禁 IIII 山 牖 短 此 間。 筧 筧

塘 泉 居 温 凉 堂温 泉 記 序-

まて。 此味を考辨へし。相應の病なれは甚し に 凡 多あ t 光 3 とへは。百三四 と應せ 涌 地 b 3 入 0) 出 温 8 7 47 泉。出 3 語 T 來 共 3 病 あ 、其功 3 拾 3 悉 事 50 癒 年 はず 1= 13 L ひとし 1: 此 なれ 是 3 め 湯 なる を知 b 3 5 V カコ とそ。 义 す。 5 5 n 加 す。病 は。 ん。 此能 お 此 は 國 何 るし行 因 2 山 彭 17 17 1= なく \$2 38 1= 1 14 ひ 所 h もし 5 湯 他 0) て。應 3 8 0) 0) 数 A 0

たのみおもへり。甚あやまれり。湯に入にあまた心得とのみおもへり。甚あやまれり。湯に入にあまた心得をのみおもへり。甚あやまれり。湯に入にあまた心得應せさる病惱にて入時は。かへりて害あり。世上おほ

先飲食の後入をよしとす。空腹なるにはあしゝ。さ 入もあし、。强き病 入へし。あまり人しくひたり過すへ 柄抄樣の物にて湯を汲。肩よりかけて後しつかに ちに。惣身をひたすへからす。まつ足はかりを入て。 ありて食氣のめくらむ時に入へし。卒爾に湯のう 32 つさの程は。人々のほと能かよく。ひねもすしけく あ こ、元氣をつひやすわさはひあり。いかにもかろく は。强き人もあたゝまりすき、表氣ひらけ汗出 れはとて。 き病には。一二度をよしとす。久しく湯に入を 食事の後則入もまたあしゝ。 には。一日一夜に三四度をか カコ らす。湯の しはし T 3 あ

すって入湯の日數の中。身を慎しむを第一とす。湯

俗

にい

ひ傳ふ。醫術をまなふ人も。

まれ

には

カコ

1

ふもあ

惣て温泉に、冷湯・熱湯とてふたつの

品あるよし、世

捨すへし。又湯方も虚弱の人はあしゝ。只氣を調 高く濕氣はうすし。入湯の間。一偏の補藥熱藥を用 し。雪もまた深くつもれ も。二七日程は慎むへし。ときく一歩行して氣をめ は熱性のもの。甚寒冷の類食すへからす。 す。氣めくら飲食進むとも、大食すへからす。あ より上り板の上に久しくをりて。 にして蚊稀なり、秋 此所山深くして。甚 りても。風雨はけしからんに歸るへからす。 くらし。食物を消して入事第一よしとす。日數おは かす事ならひに。灸治する事甚忌。入湯の日敷過て らす。邪氣入やすし。上戶たりとも酒に せしめ。山嵐の氣をはらふ輕薬を用ひてよし。 冬は里にか 山嵐瘴氣 り。さはありといへとも。 おほし。夏もひや は りて、冷氣 風にあたるへ 長すへから 色欲 猶 つよ かか を る ימ 和 地 N

り。然れともすへて。温泉は硫黄の氣をもて。

鹽氣 人の よりし る様の し。し 2 2 て、腹下るには甚 強きわつらひ。虚熱ある人・中風の性・暑氣 金氣をもて生する間。 によりてかはる。此山の湯は清水の如くにして。い り。是等をもつて。冷湯といひあやまりしにや。或 に浴するときは、必應す。此釜崎の湯にあたりたる 出 からす。惣而內 בל 入て るゆ 性 ある湯 ימ 薄きとは 病 五 濁 1= あ よる し有 ひに 程 る事なし。味もなし。和順にして。さのみ へに 應せさるわつらひには。刈 れとも應すると不、應はおほし。其內部 にも も有。又は色濁りて味しふきもあり。所 熱性 なれ もあり、又し は應せす。其外もろしの あり、但本草注に朱砂泉は、不熱とあ あらす。すへて此山 0 あしゝ。かならすつゝしみて、浴す なり。 は。ひとか 虚くたる煩ひ。心氣のつか きひしくとか 所に るし たにはい よりて なきも 金山 硫 也 田 ひ あ る 黄 割5 病苦。 カコ **b** なるゆ やまひな 釜崎 にあ 0) 12 氣 病 れたた 人に 0) 惱 72 L 熱 热 は カコ 湯 此 b 2

h

。無用

0)

事

72

る

し。

し。涌 變する 汲揚とて。此地にいたらすし とし を隔 人。此 遠所へ汲よせて入らん あたた の性を考合すへし。 からめ。 て、如此 出 所 0) め浴する人あり。 るせひをもて、肌膚 に來りて入ときは。こころよし。わつ み。再 その にかは U あた 上日 るをもつて。能々やまひと。湯 > 数を經て後。 1:0 め いささか カコ 筋骨まてもよく通しぬ。 よの て。遠境より汲よせて。 して。 常 湯 の入湯 も益なき事そ 何 氣 0 つき水 功 にこそひ ימ カコ あ 0) 0) 5 性 か 道

號の 此山中に。わつか壹貳丁北 涌 は 湯なりいひあやまれり。其ゆへは。世 號を唱へて。地をふめ ひならはして。地中より涌 出 あこ、 湯 るなり、餘り奇妙をいはむとて。かくい す。名號を唱へすしても。 とい へるよし。い は ひつとふ。 かっ ならす。湯涌 出 にあたりて。妙子湯とい ろ 湯 地を あり。 L あ 俗 カコ 出るとて。名 5 n 1= もと名號 彌 とも左に へる 3 陀 0) 75 名 は 0)

仙臺金石志卷之八

熱て水たゝへたる地は。皆如是人のものいひにも いふ。まことは是も左にあらす。いつくにても。水底 うしれは ふ。湯もとへ立よりて。い るへし。攝州有馬にも。 。湯花たちて涌あかるをもて。名つくると 砧湯とて此たく カコ め うはら 72 ひありとい ちい ひの

山に答る木魂のたくひとしるへし。 限らす。音曲鐘皷のこゑにひひきても。みなおなし。 いさゝか湯の

性もも 眼 病瘡 との 0) 類によしとい 湯 とは かっ は 30 る入る人心得て浴すへ 疝 氣痞には 相應せさる し。

享保五 庚子 年十月季七

も有とそ。

泉室に 右嘉 永二年已酉 おゐて寫之。 一 月中浣。湯守佐藤仁右衛門宅。 温

名取郡鹽手邑實方墓碑

中將實方朝臣之墳

陸奥の 國にまかり下りしに。野中に常よりもと。 おほ

> 枯 しき塚の見へ侍りしを。人に問けれ もなきよふにおほへて。 て問けれは。實方の御事なりと申け 御墓なりと答へけるに。 しかりけり。さらぬたに物哀れにおほへたるに。霜 のすゝき。ほの ~見へわたりて。後にかたらん詞 L. つれの 人の事そとか る。 は いと哀に覺 是な h 中 さね 將 0)

悲

山 家 集

西 行 法 師

1 きかたみにそみ 5 8 せ ねその 名は カコ りを留 め置てか れ野 0 す

封 實方中將慕 內名蹟志卷六 名取郡

問 不一敬。 行成干殿上。仍贬 奥州刺史。註解今古和歌名地 殁。鄉黨以為"神之所 不,知,其神祭,猿 在"邑中山頭。鄉人日 回 古屋松。得, 羽州千歲山 時乘 馬龍鍾頓仆。實方忽落馬 田彥。妄以。道祖神淫女 "之北野宅。一條院御宇。實方擊" 一罰也 想自"神 |歸路過||笠島社前。里人 明之至德一言之。 杨 告之。實方 身。 去不 因

源。 則 夫然乎、 不一辨。其事實。 偶 馬 而自取。害而已矣。 於,是後人欺,神 明 里人不,知,其 誣鬼神。 遺妄 本

鳴呼一條帝一時之英君。不、案,其是非。黨,行成 之和歌。行成叨非。實方干帝前。故質方懷。恨亦宜哉。 方非罪之證。見,花山帝叡作。及能宣。隆家。公任數輩 說,,乎末代,尤可,通恨 矣。然無」質」之復 Ē 統之 人。實 而

惡,實方。使,千載之下寥々乎無曉,喻糾明之,者。 空

實方陷。不恭之罪。神明負。非義之崇。 之誠不可渰 至、今里人村老慕。實方。辨,不辜。愛,其 然其實方非 罪

之下尚貴、之。樂天所、謂龍門原上土。埋、骨不、埋、名 方、其聲名之不朽之證可」視。是以一堆之古墳。千載 奉」稱"中將君」之情。古今不」變。其證見"西行詠舊墳 人一者。父子之親。敬,其人,者,君臣之義。不, 斥言 而直

者。宜哉是乃其遺址 也。

質方朝臣。 みちの國へ下り侍ける時給はせけ

る。

花 山 院 御

製

なにこともかたらひてこそ過しつれ 5 かっ 1= せよと

て人の行くらん。

夫木 集

實方朝臣。みちの國に下りけるに

to カコ 3 ~ き別れ なりせはおもふとち涙の 3 ち 1to

能

宣

朝

臣

せはましやは 實方朝臣。みちの國に下りけ

るにつ

馬の

はなむ

る。

けすとて。よみて侍 りけ

新古 一个別

4)

かっ n 路 は 5 つもなけ きの 絶せぬ 1= 4 ふ悲

中

納

言

隆

家

秋の タく no

返

同

藤 原 質 方 朝 臣

とうまらんことは心にかなへともいか にやせまし

秋 0 さそふ

實方朝臣。みちの國に下り侍りけるとき。 くらつかわすとて。 L 72

右 衛 門督公任

質方朝臣、みちの國より。人のもとへ弓をつか

はして。戀しくは是をいたきて。ふせと中た

b

路の木のし たくらくなりゆくは都 の月は戀さら

陸奥の任に侍ける頃。 五月までほとくきす聞

風雅

戀

三條

院

女熊人左近

し返し。人にかはりて。

續後 撰夏

ぬよし申で。

實 方 朝 臣

事も語ら

是やさは

あた

ちのま弓いまこそは

おも

ひた

め

72

3

都にはきくふりぬ らんほとうきす關のこなた の身

こそつらけれ

同

よみ 人しらす

子規名こそ 0) 關のなかりせは君かねさめ にまつそ

カコ

りの關

カコ たら ひ侍ける人のもとに。 みちのくにより。

弓つか わすとてよみ侍ける。

後拾遺雜

藤 原 實 方朝臣

みちのく 0) あたちの眞弓いまこそはおもひた めた

> 藤 原 實

方

%拾遺雜

につかはしける。

みちのくにゝ侍ける頃。

中將實方朝臣のもと

やすらはて思 ひ立にし東路にありける 8 0) をは

實方朝臣。みちの國に侍ける頃。い ひ造 は L. け

る。

同

大江

匡房

朝臣

め

都には誰をか君かおもひ出る都の人は君をこふ

返し

30

りて過るに。簔輪・笠島も。五月雨の折に觸たり。

笠島はいつれ五月のぬか

り道

雨に道いとあしく身つかれ侍れは。

よそなから

眺

op

同

藤 原實 方 朝臣

わすられぬ人の中には忘れぬをまつらん人の中に

陸奥の國へ下りて後。ほとゝきすのこゑを聞

て。

拾遺雜

藤 原 實 方 朝 臣

年を經て深山かられの時鳥きく人もなき音をのみ

安永七戊戌歲 名取郡植松邑

はいつこ五月の n כל り道 芭 蕉

笠島神社 え 三十丁。

笠島

仙府

止鳥

庵松叟主

從是 質方古墳

える 三十六丁。

藤原中將實方の塚は。いつくのほとやらんと。人に問 芭蕉翁奥の は。是より遙右に見ゆる。山際の里をみのわ・笠島と 細道に。白石の城を過笠島の郡に入れは。

猿蓑に。

ふ處 なく。打過 と尋侍れ 奥州名取 に有と数ゆ。降 は。道より一里半はかり。左の方笠島 の郡に入て。 るに。 りつうきたる。 中將實方の塚はいつく 五月雨 い 2 とい にや わり

笠島やいつこ五月のぬかり道 芭蕉

伊具郡沼 上村

云。道祖神の社・形見の薄。今に有と教ゆ。此頃の五月 忘一也。我 津吏山本氏易信家、焉。其舍邊池塘荷花蓮葉。 於孔子。孔子榮。君之賜。以名。其子。是又其示,不忘也。 召伯治, 南國。而其民存,甘棠。上下大小不,齊其示,不 古之人。有,德加,干生民,功施,干社稷,者。則勒,之金石 播"之聲詩。以耀"後世。其不」忘"于無窮。魯昭公賜 大君巡"封疆"過"南郡"而至"于沼上。休"于 亭々淨

吏。俾,其子孫永傳,之。實享保十五年秋七月廿四日也。可,遠觀,也。 大君詠,蓮花之二章。手手濡,毫賜,之津

非"閻里之榮而己。又邦家之光也。又從强之曰。 君行欲,勒,之石,傳,其不忘於永世。詩,之記於予。予謂是特其後裝潢以備,之 高覽,焉。於,是山本氏榮,拜恩光。而吏。俾,其子孫永傳,之。實享保十五年秋七月廿四日也。

延享四年丁卯夏六月

兮。邦家共民地久天長兮。

部

從

』封疆一兮。省,歛農夫之慶一兮。德光與一芰荷,維

遠香

本府學館教授 高以仲修甫謹誌

伊 見 め 具 5 て。歌よみてあるしにあたへ侍 都 b 九森 3 0) 3 \$ かっ ひ見んとて。 4 なる池 に n 土はしまて見 んけ りけ の映 る L 多

吉村

池水のうさにおいてもはちす葉の露のひかりはさ

らにくもらす。

澤。御城米問屋齋藤六郎右衛門え。被"下置"候御詠歌。右享保十五年七月。南方御出馬之節。 伊具郡耕野村水

秋保温泉記

犬聲達 勅,於四方,達,温泉 經 帝叡威不一斜。而賜 保温泉。而以浴焉。帝病不一日治矣。妙功不」可,勝 皇三十代 樂。而所"以 逸幾峯巒焉。 於藏王嶽。北歷,長流川及諸山以達,於泉嶽。而四 回、首眺"望四 焉。且眼下之致景、 不肖往年屢 山谷源水以達 回 境。固邦家之光暉品里之繁荣。相 不こ忘也。 欽明天皇。病"小 病 恰似。群兒之於園。老翁 方。東自"臨之橋·神田山。 達」於老出 小 從觀益感,心。餘情登,湯元頭南 瘡。 。於羽州最上山。南自,青根綠 雖浴亦不一治。遂達東 斯有.名湯.平。 御製。 每度浴...秋 擔。醫禱百計以 覺東那雲之上迄滿之哉鳥 保温泉 宜哉 一也。其間 而 抑 無驗 以奏 與 與 名取郡 國史曰。人 優 田 游 遠 言也 矣。 山 岡。以 森。西 妙 辟 山 四 達 功 帝 秋 鷄 秀 時

濃身往波迹 形毛 無志

言也 鳥之身往者。比,於小瘡。初發之間。 行而入一者也。 文字心。 五文字云,而自終之七文字。一首之意味。歸"乎初五 消而失也。凡此妙功叡威之汰湛者也。初五文字臣之 謂"覺束 滿哉者。自,遠國 ·往者。謂,治而愈去,也。無,迹形 〇此之隱題之歌云者也,以。名取之御湯立 不.思寄,奇妙也,雲之上迄者。禁中迄也。 叉踏冠之歌云者有也。各々有"口傳 温泉通達到"於禁中」也。 所 者。謂 副 如 而治 瘡之跡 = 鳥膚 疴 也。 共 略 而

也。

觀迹聞老志曰 御湯在 名取上流秋保村。 温泉。相傳曰。古昔勅封之地也,故以 一御湯 鄉人曰 稱之。 秋保

專也 感賜。御湯號。且温泉之四方。建,封境。號,湯元邑之 聞 說刺封者。帝勅而達。御湯。而天王病愈焉。而因 御

拾遺卷之七物名之哥。

平 益

> 覺束那雲乃通路滿志哉鳥乃身往波跡墓毛 無之。

心謂對之哥云者也、雜盛之是哥則是也。反哥云者稍異 是以上迄通路云。以,無跡形,無,跡墓,云者 反云。或回文哥云者也。 或對。古哥 而用 此 世 事。則 。是赐鹉

所

某亦扶之。公之孫裔後世事,邦君。而 湯守家云。七臣奉。侍幼君,來而養。青之、焉。同邑大田氏 一書曰。平維盛之孫降。而住"東奧名取郡秋保村 存.干今也 一也。傳

致也。七臣之中佐藤氏時為"湯主 維惟六代君為,源家 隱密所"生育 而至一十 之子。而忠臣之所 今.焉。大田

奚疑矣 也乎。小松三位公之至忠至孝。達,於天,所致,神威

氏亦存焉。以"世數之法」考之。則君臣相共二十

10

寬延四龍次辛未春三月。

波青陽藤原廣父謹書

名取御湯。海本村。湯本村。 封 內 名蹟志卷六 名取郡

三〇四

加"御字、以尊、之。古詩又有、御湯搖蕩雙龍影何。在"名取上流秋保地。鄉黨呼、秋保温泉。古昔勅封。故

大和物語日。名取の御湯といふことを。常忠の君の女大和物語日。名取の御湯といふことを。常忠の君の女

を。となん讀たりけるを。かねもりの大君きくて同し心

は

かもなし。

のみゆる時なき。

名取川

名取郡 紫赤。於"歌林一亦自"古時一賞"吟之一者多。風土記曰。名 中 魚。又 下行澤。而 田 北 اال m 方 世 東 水 夏秋之交。設"魚梁,入 流。至" 閖上濱一而入"干 稱。埋木灰、者。燒。河流沈木、用、之。其色 源有二。一乃出,自,同郡 合 于野 尻地。 其河 "敷呂。 流 海。一 過 中 二道清泉嶺。 以補 乃出 田驛 三組織 自...吾 北 仍

取,廣湍兩流,者。是乃其一也。東史曰。文治之役。泰衡築,壘干刈田郡。引,棚干名取川貢,鱒。健。健。又出,怪石,水材,奉,官家。永材乃沈木取川貢,鱒。健。健。又出,怪石,水材,奉,官家。今不,出,鯉。

名采川埋木灰記

並 之 不」顧 変 者。燒以為灰貯,之金鴨。 振古有"山木之沈"於水底 惟綺繪奇怪是稱。自託,其懷。是無他以清之可,貴而 知"讀書者。雖"身在 欲.濟.礎砌之用。視 尋常之樹端 奇石怪樹爭移"於家園中。而尋常之樹端正之石。 凡物為,騷雅之人所之愛。則其名亦清,為,麤人俗士所之 士。慕做弗殿。逐至一有。理木之稱一焉。言 问 不然乎。豈其不然乎。東與名朵 ,則其名亦汗。是古今之通情。而不」可,以誣 一賤也。余故曰。是古今之通情而 焉何 也。騷雅之人。綺,章繪句於奇石怪樹。而 正之石 焉。 。良木」則欲、濟、梁柱之用。是故 」塵裏。亦耻口 非如"魔人俗士之視 者。不知此數幾多。前,不辨 以試養,火慈佳。一時好 道。梁柱 郡 有川 不可以逐 。多歲埋沒至是 礎砌之用。而 亦曰 名采 也 也。這 不於 石 世之 則 IIII

物比. 興 顯赫 乎 水中,不,受,紅 呼 於 不一可"以加」也。無海漫遊 亦亦 图 人逸士 有.其 塵。所 人。宜 之前 に開 哉 也 江 漢以濯之。 嗣 都 後 鄙 以 愛馬 聞 重焉、 秋陽以曝之者也 朝 况此 貴 戚 物久在 官 客 託

豐 田 城 跡 碑

碑以 有.勤 經清 此 白旂 之邊。浮 地 池。俱 傳 所 也 王之勳。 東 焉 城 梁之稱今存 事 也 西 詳 經經 Ti. 乃封 十七 ,封內風土記。多歷,年所。人不,知之。立, 清戰,死平泉之役。以 . 與六郡。復居」之。 步。南 東北。有"高 北 三十 水寺 九步 址。東 其子 。在 當時 昔 南 北 權 日 太 有"鎮岡 E 理]1] 郎 權太 在 清 城 衡 夫 祠

臣

時

一年甲午 四 月十 五 B 江 江 藩 刺 戶 儒 三井 郡 田 餅田邑人建之。 邊 親 希 元撰 和 書

居

餘

安永三

豐田 古館 名蹟志卷 田在村鲱 + II 刺 郡

磐手六郡。

居干

江刺豊田城。康平

後

相"攸干平

泉

移

繼。父荒川

太郎武貞

後。

領

"伊澤·加

美。江

刺稗拔

志

波

温

父藤

以

受

實於豐後介實俊。 於是武 異父弟武衡。家衡 此城 奉,勅 焉。 移"居 。告之朝廷。以" 武 則 母 去 凰 賴 衡。家 州 時之壻。 為 窟 生 一。後 探 先是武 虜 堂 則以 攻之。 干 題 一子一武 平 徒.平泉 衡 + 職 泉。 恨 賴 兩國 餘 日 義 道 來 則 其 町 康 理 衡·家 對 朝 衡勤王其子小太郎 命。荒川 守護 武 奥六郡 甥 4: 權 焉。東史曰。賴朝 不屬黨。其不 東 日 臣 眞 貞 中 太 西 令。其 衡是 衡。 職 及其子真 經 夫 昔泰衡高 五 計劃清 太郎 經 清 而 + 據 也。 母 亦 清 七 屬.之清 東地。 仙 再 武 戰 居 問 衡。依 與清 北 人眞 貞 死。 城 が、 金澤 繼 南 也。 卿 衡。 館是時 成 其子清 衡 北 衡 其 亂 羽 舊機"質父墟一下 義家朝臣感賞之 衡 三十 城 貞 家。 後。 原淸衡。 州 爲 繼 戰 一反。 任 淸原眞 太郎。以称"御以 衡 問 死 異 荒 武 九 父兄弟 干 則 二歲。與 滅 問 川之家。 奥州 義家朝 此 肝疗 以 安安 人武 一郎 後。 役。 爲 事 倍

名蹟七 目 次

六原百寄塚碑

天遊館碑 附阜東谷

野田玉川碑 鎌先温泉碑

南山閣承露盤 梨崎姉齒松碑

芭蕉翁養塚碑 附與幡東安定之 附內池長宜

仙臺金石志卷之八

仙臺金石志卷之八 終

仙臺金石志卷之九

仙臺 吉 田 友 好 編纂

名 蹟七

斯也。三者既得後有,此學。然非。茍出,孝敬崇庸。恩惠庶 之肥磽 應之俊。則不」能」如」斯也。非,尚得,術之巧。則不」能」如 順不」遠上百。非,尚得,時之宜。則不」能,如,斯也。非,尚得, 鷹之術。所 乎、蓋省,其所 地乎磐井膽澤之間。以"十三日,發。以"十二日,還。適時 意在,斯平。今茲安永九年七八月之交。託,事游獵 田獵古之道也。春日、田夏日、苗秋日、獮冬日、獵。皆是 驅逐鳥獸 百有五於遠谷幅高谷野。他日所,獲或八十。或九十。 察中 膽澤郡六原村百寄塚碑 仁德帝為、獵 』自使,鷹擊,之者。六百二十七。八月三日獲 一除、害。上奉"宗廟,下御」賓客。且所以膽"地 民之盛衰』也。若"夫殷湯王好」 江獲。凡一千二百八十隻云。 而海內民富是也。 田 邊 希 今公好」田。蓋 田而天下用 文 公旁巧。放 撰 而略

美事。是以請「官。再築」百寄塚、立、碑以示、出、孝敬恩惠、 禽百餘。以爲,美事。乃爲,京觀。然未,知,何世何人所,爲 今公好田之意。且此行也。一日 塚。邦俗使、鷹擊、禽曰、寄蓋視、禽而寄之義也。 託,於褒貶黜陟之意 之志於後昆云 臣定周奉"職此 也。傳云。 川。鬼形。各行"其賞。 於柏塒。松山。桃花。 修髓之類以,色別,其優劣,之儀,是以賜,金鏃及金絲條 其群,者也。乃論,擊擊之巧,恩賜有,等。蓋養騰之法,有 者。如自柏時。松山·桃花。早常巢。第時。鮎川·鬼形。尤出 八翼。 者。有,輕而捷者。有,巧而華者。 民之志。則不 有一善擊高學者。有 先公所、築。然方策所、不、載。以不、能、詳焉。 能能 學。而周旋飛蒼走黃方間有一年。能 如,斯備二三者也。此行所、臂俊鷹二十 焉耳。高谷野中有" 紫條於,早常巢 第購 朽葉條於此 此非 "衛公好鶴之類。乃據"古義而 善逐遠飛者 所,獲之禽百餘 有"綽々然以」族禽之慢 有"善獲隱"干草 一土封。 。足"以為" 所。獲之 名 知 百 寄

鷹士長 松坂團治定周立

登米公子別業碑

左 てう館

右ようむ応

有」重閬 抗高門 雖、末、黃。融風久己分。素磯島。 陶靖節集卷三述酒詩。 重華 心有 天 固,靈墳。云云莊子雜篇。 遊 室無空虛。則婦姑勃谿。 重離照 "脩渚。 南陸。鳴鳥聲相聞。 南嶽無 外物第二十六。 心無天遊 除雲。豫章 秋草 胞

則六鑿相攘云云

餘雲庵 巡照版

匪」僮匪 僕

将

命是朴。 扁

天遊館 額

天 游

鳥石

天 遊館記

仙感食否志登之九

皇 容 謹 撰澤松軒

皆從 堊。椽 山 焉。其 流 遊館是也。館縱五步。橫半之。左折作。乙字樣。壁垣 折 畝。雉雁時下啄。或云玉田之道。跨。自,東門。則羊膓 屋々左有。小蓮池。奇石可、愛也。其東南之隅。得、田六 斗折作,路。躋十餘尋抵。 以家焉。其後鈴嶼平家焉。宅廣六十步 衡野逸駒者是也。塗過。二岡一撫。老 距"仙臺'七里。 以使。其氣莫。壅,閉 天明橫艾攝提格 所」裁。國初之時。采女從" 不可。遊 。躡級三十步。乃抵,上階。可,列,座百 腹。平田。勢為二一大階。 楹用 其自 廻觀 地 日:小 見 。則松島、金華之諸勝,咸常,其軒 然 栗東茅 也。北則喚平堤。近在"簟狀之下。宛若, 視 也。南 田 南對 原。 年。 湫底 爲字。虎鬚為席。 含號。天遊館。蓋退 山相嚴之諸峯。東 一瞬間 藩公子玉 也也 初階。廣平可。容: 尚。古詠所、稱。執 南設二門。西 貞山公,而來有,功。賜,此 小田原台玉田衡野之地。 111 公。 松而跨。老松高采女 東 。麦百 池 庭中 郊 人.新含焉。即 朝之暇。時觀遊 大 自 得二 車數十一 海帆 :以"樹 不一設 一辆門 餘 分繁兮玉 步。 舊宅 橋 泉 背松 雨。三 茂。放 入.欄 地 舍 石 Hil 天 七 七 田

思之所 因 有"進退」斷以,已。即其有"言之不」擇,解之不」修。固狂 先王之道一為上宗。尚以"管晏之術 章。治國之要害略 不」知"適處 日 臣職日 為序。或有、取後君子采之。 日 携.書八篇 貨殖。曰强兵·曰勸農·曰學術。凡八篇。八十餘 亦何 也。乃開、卷閱、之。日君道。日修德、日賞罰 來示」之日。久辱"啓沃以屬焉。 必 具。題曰"狂愚子。因細讀之。大率以 難。 惟其附托之不, 苟。憾, 志之湮滅 與味 升降。有,取舍 竟出 去

安永八年冬十一月 東谷 阜容子德識

宮城 郡 留 谷村野 田 王 JII 碑

能 因 法 師

鎌

先温

泉碑

封內 野 田 玉川 ゆふされは沙風 野 田 0) 玉川千鳥 越て陸奥 なく なり。 0)

田 玉川

名蹟

志卷

第七

宮城

郡

往昔有"河 深潭之地病影沈,璧。皆爲,月得,嘉名。而今爲 廢地。 流 一部 汐亦來往。加之石瀨之處。浮光躍、金、

> 唯遺. 野田之溝渠、耳。或 日。 南部 九戶郡。 亦 有 同 名

陸

奥にまか りけ るときよみ 能 侍 因 け 法 る。

師

啼 夕されは沙風こし なり。 てみちのくの 野田の玉川千鳥

順

德

院

御

製

月影。 みちのくの野田の玉河見渡せは沙風こして氷る

XIJ 田 郡 藏 本 村釜 崎溫 泉碑

天正七年。其畔有二一 亦名,鎌先一也。建,藥師閣於 飲 奥刈田 云、察之數堙數沸。 又沸焉。然後享保中。 乃以雄 郡 有 穿、巖温泉沸 温泉。盖正長元年。白石農夫樵. 于山 其有"神護」耶。管轄者一條安藏 地震 苾芻。 夢 焉 重堙焉。 人試 此。康正 "佛陀 浴之。病 無幾 之瑞奇 元年邑大浸以 涿 悉愈 而鑿之。則 沸焉。復 矣。 堙焉 放地 求 舊 其

祖長吉京師人。古背避、制 來之 詩樹 碑 記 故銘。

有源。 神漢不。啻。 以洗,厥 心。 疵 癘茲已。

仙臺 滕 太 中心

鎌崎 封內名蹟志卷 温泉 本在村城 XI) H

郡

名湯 療疾者。不」遠。千里」而 在,八宮村西筧取之山 也。湯舍上建,善逝堂。 輻湊。 問。能 治路 得、驗 症。 而歸者多 是以 佗方久 封內之 病

原 郡 迫 梨崎邑碑

とい 1 h は は まし 5 p あ 和 は 0) 松 0) 人ならは 業 都 0) つとに 平 い 3

3 カコ くは h カコ カコ 6 年 13. 2 8 5 D 我 より 祐 も姉 は 0) 松は 老 y2

2 るさとの 人 1= カコ 72 5 ん栗原 P 姉 33 0) 松 0) うく ひ

長

朋

すのこえ。

ひ 栗原や ימ なっ 姉 は 0) 松をさそひて も都 は いり つとしら n 72

能

封 內名蹟 志卷 栗原二

高級 松。在一梨

姉 用明帝朝。貢"美婦於京師。所」貢"于氣仙 去,澤邊,東十二町餘。西葉。後人繼兩所,植今之新松。鄉記、 郡高田

仍重 女某。 葬.之兹 召"妹子于京都。上京之時經"此 不幸路 地。 以 F 曜 松樹 病 而客 植之塚上 死于此 其妹子容色類 村落。鄉人憐之以 地。對"亡姉 墓 姉

之去。 因日 此。爾 "姉墓松。 其 處呼 後 小 日"紙折坂"今存 後改"姉齒。涕泣難 野 爲一亡姉 建寺。 焉。 で攬出 曰:松 說 ||懷紙 小野 語 Ш 小町 黿臟 Iffi 屢 寺。 拭

さと い 應狩 2 人 0) もなき 1 る T 1-世 1= あ あ 和 ねは は 0) なる まつ 松は幾 0) H 2 とせふ h T 'n

23 吉 村

殘

るら

右

JE.

德四

年七月。與筋

御

出馬之節。

栗原三

迫

大肝

い

入。菅原文左衛門え被,下置 候 御 短删。

朋 和三年八月 迫大肝入

菅 原 文左 衛 門

相達 先祖 出 心 入 入 多 役 等も 用 拾 奇 代 永 よ U 々御 特 丁 無之樣 村 5 成 年 方 五 素 事 代 相 年 に付 も手 勤。其 百 貢被"成下 取 扱候。勤方之旨 拾 · 依」之其身持高 當 後 六 宜 共 万 扱 右 年 一候 中諸 肝 0) 事 入 間 役 上 御郡 四 祖 納 引 貫 父 續 8 奉 七百 助 相 捗 行 右 勤。 取。 御 拾壹 衛 公事 諸 代 門 文 官 肝 事

をつう をゆ 栗原 千 さち 巡 b て。凡 h 山 頭 町 12 るさ る H あ L 1= 郡 בנל 百 V め め 有 迫 な 穗 み る 餘 出 め 流 13 < 頃 お 年。代 上に 3 給 よ 鄉 2 て。耕ところの 同 は 0) お ふ。よろ 郡 かっ 々公の 訴 は せ 大長菅原 8 72 沼 なく 給 17 3 倉 L に此秋 70 ひ。 こひにた け 2 事 下 なきよ 5 1-1= ことし 親 たなつも L 身を委 爭 安は。 は 氏 山 民 80 L へす。 里 な 明 (聞 0 かしか ね。私 五 和 7x P 0) 章萱場 代 内 折し 0 V とり 戍 0 認 永く公税 U) n 秋 0) も手 長 事 李 は。 八 を 智 1= 1: 月。 3 獨 君 L 猶 尋 かっ

南山閣承露盤銘

承.露於盤

求"仙於山。

南

山

閣

八景

序

膝

原

村

候

可!以 於 城之北 某 此 洪 乎 絕 則 政 欲 人 及 遊樂。 此夏 勝。幽 二前 東 仕則 序。予也不文 一庭 金城 壽。此人情之所 閣 奥仙 内 朓 德 粉 東 欲多日。賤 收馬 則 間 一焉。其庭內之美觀固莫。論焉 弱 引,清風 寫 面之山 牆 茂 蓮 非 臺 之壯 趣 前前 林春 世臣 先有司 象於雙明。朝 何 唯 冬望,白雪。以 腹。命 隧 樂 花 也 恐 所 间 則 13 如之。 秋 自 有。孤裘羔袪之愧。然而予自 欲貴。 一个 有三 爽, 圖 日 躬鞅掌 句: 幼 難乎其 南 濃綠淡青千葉萬 焉而喫,若平 丽 團之富庶 今茲某 山 貧則 壯 老 歌 閣。 能 而 乎 馬以 欲。富。 其寬 **爺得** 老勤 老 蒇 而 近 飲馬 自 旣 Till 可 逃 仕 而 此。夕焉 語 全享 旣 向 丽 图 不息、途 以 排 別 予八 當 態。 佛閣 上 以 遊 菱。 矣。 且 迹 遠 馬 鍾 ifit 景和 IF. 貴 八 馬。 幼 im 詠 至 衆 景 石 於 則 極 月 郡 執 田 叉 H 美

大槩。詠.八景.以塞.其請.云。

寬政三年辛亥春正月

東與仙臺南山閣八景

從四位左近衛少將兼遠江守藤原朝臣村候

鹽竈浦霞

鹽かまのけふりもそひて立なひくかすみにうらの

みるめのとけき。 末松山花

うら風に花のしらなみこゆるかとむかふも遠きす 松山

名取河霖

五月雨の頃 なとり川せいの水かさもそひゆくや日数ふりぬる

宮城野鹿

きのの原 もとあらのこ萩 か花や咲ぬ らん庭のねたえぬみや

仙臺金石志卷之九

十符の浦月

旅人も十符の管こも片しきですめるうらわの月や

みるらん。

かきくらしあふくま川の風さえて凍るみきはに 阿武隈河 雪

2

n るしら雪。

南山 閣望

萬代もなれて住らし朝夕にとをくみなみの山のは

る秋。

松賀浦島鶴

ゆたけしな雲井の鶴もとことはになれきて千代を

まつか浦 島。

接無、暇者也。就中題"奇絕八景,以乞"和歌。因投 東與仙臺有 南山閣。其眼界鍾、秀重疊出 艦 外。應

茂礫 如 左。

日野前亞相資枝卿

鹽釜浦霞

春きてはけふりいつくとゆふなきのかすみにまか

∽鹽かまの浦。

末松山花

沖津なみこゆるおもかけ花に見るはるはやよひの

末の松山。

名取川霖

名とり川あらはれぬへき埋木もみかさにわかぬさ

みたれの頃。

宮城野鹿

萩か花さかりしられてみやき野のしかのねおくる

秋風を吹く。

十符浦月

雲のなみはるゝ夜さそとみわたすもこゝにはとふ

の浦の月かけ。

阿武隈川雪

放人やけさふる雪にあふくまの川瀬をさむみわた

南山閣望

ことふきもいやたかしらし遠近をみなみの山のい

ほのあるしは。

松浦島鶴

はる――と見れは木末にたつも來ておなし千年を

まつからら島。

南山閣

法 橋 謙

宜

たかき屋に松と梅との生茂る葉こしの末は雲井成

らん。

有餘亭

春すきてまつや五月の月影もなをあまりある折か

らもよし。

千秋亭

こともいく**秋**。 こともいく**秋**。

望楓亭

折々に續く詠もくれなるのこのめわくら葉秋の紅

清風

いさきよき風の 行衛も末は世に吹をいていや夏を

軒端梅

七重八重あるか中にも此花に軒はかされる宿の梅

かえ。

めつらしな岩ほならねと松か崎わきて小山の春の

苔清水

松かけの岩間をつとふ苔清水とくく一音に千代や

かそへん。

落猿巖

細石のなれる岩ほに落くるもいく千代ましの聲を

かさねて。

吹律谿

仙臺金石志卷之九

松風の音もさながら糸竹のりちのしらへに 獪かよ

河虹涯

雨ならて霞もはれぬ岸陰にこれやいかなるにしの

筋。

吠雲坂

塵のほる坂鳥のしかけたもものくもにそひへてほ

M るとそきく。

時雨軒

つはりのなきとて春の松風にたかまことより時

雨もそきく。

翠松岡

幾代にか峯のあらしのならしけん中にみとりのま

つの局へは。

承露盤

露をうくる雲をしのきてとる筆におくゆかしくも

見ゆる石ふみ。

臨川 亭

にこりなき此山川をのそみではこうろもすめるう

てななるらし。

白鳥

稻 社

山城のそれにあらねと白鳥のとは山まつの花のゆ ふして。

あをかりしいなりの山のうす紅葉うつす光は露し

くれかも。

竹駒社

竹駒の杖にかゝりて百年のわらは遊ひを神もあは め。

松葉集。 繼塵庵內池長宜家集。

けるにや。藤原元直の翁は。三代の公につかへ。くれ かたにて。ありしいえのかみふりにしことを。しはれ すへらきのおほんうたにつくろはね。 一拾三首 和 歌序 內 池 岩木 長 を庭のす 宜

> く。もんすしりほさちのこやたの峯につゝき。分入道 ほのいろに心をうつし。冬降つむ雪の 竹の かっ ふ人心をとめすといることなし。東に海つらゆほひ のあふさきかさには。あまたの名ところありて。行 らうせられしに。谷の鶯春つけそむるより。夏はすい る地をえらひて。有餘亭といへる。すみかをいとなみ。 青葉といふにとなれる。かしこの山のいとしつかな にけれは。いとまある時は。老の心をなくさめ つかさをかうふり。 ふれたるなかめなるへし。一西はつらなる山いや しき青葉の木蔭をしたひ。秋はそむる梢の紅葉。 に見わたされて。こかね花咲山も手にとるは 世 々に いさをしをかさね。まつりことをとれ いつしか七十のよはひにもなり 明仄 まて。折 むとて。 かり。 ちし 72 カコ かっ る

萩さくころは。織人なきに錦とあやまたれ。廣瀬川の もこうによるかとうたか 名 のすみける。松かうら島もほとなく見へて。沖こく舟 にしあふ鹽釜のうらも。 はれ侍る。 まちかく心あるてふあま まい て宮城 野

は U) 4 ひけ としもなく。は 時に安永 水のなかれは。むすひもやらるはなたの帯に似たり。 なはせ 給 カコ 一くさを給ることの一かたならす。 h ひ、 なし。か 給 あるしの翁歌讀てささけられしに、御かへし は 九 年九月廿九日あまり。 りか とて。 れわたるよものけしき。さらに興せさ くて秋 ら人かたのそらには。たなひける雲 1, の日のほとなくく とも かしこき 木々の めい 公の n 紅葉をみ て。山 ほ 5 らせ くてふ 風 給 2 8

すみ感 D 3 水のひゝきあひたるなと。こよなう此世のものとも を 思はさりしに。心なき紫こる人も。ここかしこにたた を奏せさせ給 なりけ め n 40 はや T る させ給 く更 カコ 例 山の鳥もおとろくはかりになん有ける。夜 T のみたり四たりまねき給ひ、磐 ふっと ままに。 ひけるに。 みたちにか 12 む 5 0) 笛竹の妙なるこゑい つ 御歌。日をへて御筆をさへ。 5 L せ かみあそひもことは 給 82 しか 沙 る は 調調 1= まの 0) 紅 樂 薬 T

> なる織 9 る後も。山路の菊の花の下敷かかるえかたきは。また 々の歌をも一 つ。青柳のいとなかく。家におさめ て。いそさからのとうきやうきにひとしく。 そめくたし給ふの。 時を行末に。たれもしの もの をもて。一 帖となし。 おほ 軸によそほ カコ け はさら なきよろこひ身に れをあふ ひ。 め 軒端 Bo きこれ 御 0) かっ 72 松のちよふ は を め 8 め あ 5 きるり T 0) あ op 人

寬政七乙卯年五月十二日 弘誓山正雲寺

音なき夜半のい

とい

たうしつかなるに。

御

カコ

72

は

5

繼塵菴長宜翁之壽碣

豪。于財居恒不、挾。 意於贏利 矣望々然日。此蟻 盖古之人。有"身逸而言顯者」令於"長宜翁|觀焉。 葉云。復與"芝山黃門卿 事 理。洞、曉音律。先是往、京遊、敬義齋長 乎,奚以為,吾地,也。壯歲酷愛,和歌,氣善,筆 幽 齋君。 親受其說。藏語塾 一善。相俱切。則 途投于翁。至一今变 於國風 因門。 翰。旁達。著 洪 祖 売売 嘗 颇 世七 從

顯者 逾 酬 進 其 和 縦 也 風 。古之人耶。古之人耶。翁其在焉。繼塵菴 日 格 公为 尋 於 焉 喜 而 吟 日 远 已 ·嘯。杜 則 慕. 吾者去矣。於,今廣莫為 時其什 **共子入**。貲為 門 .聞.于世 謝。交関焉者、無人 士 間 云。是所 於是乎 也 產 謂 唯 地 其號 逐 身 哉。 與 一麼。 逸而 也 自此 吾 業 輩 門 言 更

國

主

居

賦 咏 虚箸。 無脈 生 衆 之攸に需 唯 利 與 樂比 之視 肉。

特

虛

m

逾

出

,千秋

有

名

生砂

澤子樹.

壽

碣

請言放

題。

盛 雄 撰

四 知 明 書

長 宜

野

徑

秋

風

秋 風 0) 分 行 かっ 72 は 海ならい 野邊も尾花の 浪や 立ら

芭蕉翁

蓑衣 翁 芸 衣 奥 之仙臺 人藤 鐵 船者。 埋

"芭蕉

公初

之雨

衣

而

所,立也。翁諱宗房、字某姓松尾氏。其先出,于宗清之後。

稻 荷 山 妙 心 院

> 伊 據 加 元間 堂某侯。侯卒 Ŀ 一野活 歷 敦 以 H 正 世。 服 関 保 翁之大 中 年 生翁 市 三十 加 父 于 清 餘 北 IE 泰其 地 HH 及 大 遺 曆 父某。 ジ 間 逻語 出 仕 始

自

一保

開 應 茅 紀 深川。 禪。從此每、發。語 之野 島 記記 山 四 根 至彼 簷皆樹.芭蕉 來寺。參"佛 發 心強 句。大有"出格之風。起人者多矣 頂 髮。 以 禪 為 旬有 師 一般 副 號 馬 是是 動 束 水 L 侍。 去 何 抵 N 合 于 承 去 ir. 印 赴 戶。縛" imi 常之 志

人語 在遊 何 方。居無,定所。而與羽 亦不為少。翁之於 非 二州者。其所 諧 也 可 謂 "履歷 興 之地 廢 新編 絕

+ 質 月八日 得。宗匠之體裁。而 預有 世之句。而 足 回 古 順 先 之 念 風 人口 範 者 一五。 也 1 元 門門 派 始 知 年

從前 靜坐安詳。焚、香含、唉。以"十二日 14 階總錯了也 是月曜 疾 知 其不 終于浪華 記 却諸 之旅 陽 河 到多

而

門 歪,自,四方。則 奉。遺體 率,于江 之大 非 東。

之雨 義 日 藤 仲 衣 源 鐵 公之焓 有 船 死 年一子兹 褐。訓 側 立 一乃相 氽 石日 業 攸 1. 芭蕉 蹈 盛.諸城東妙心禪 之眼。頗 翁墓。曩者予住。 好。俳 計 刹 大 增 年 光光 之

其上。後 四 年癸丑屬。翁之百年諱景。 增愣構.小 洞 扁 日

翁之墓墳在, 諸州, 也。百千不, 啻。世之俳諧者流。或 碣亦唯示 修行窟。乃請 』曾遊之遺證,耳。其埋,尸者江之粟津。其埋,衣 禪門之諸大德。 而修:祭敬 LL 追 "慕之。顧 一碑或

之記 碑面 之一振。今兹 者與之八塚。然則鐵船之此學也,使,好,俳諧 林 1 得此子力。則豈間、衣塚、云乎哉 本太夫之舊蹟。可"併稱 甲寅之冬十月。介"衡長老,來。 一焉。宜矣與之俳風。 吓與"藤清 徵.予銘。途 者。就此 為 輔

序而

銘

奇木。芳芬沒邊。于銘于勒。鐵 眠 光耀沒前。澹泊生計 俳 出 味 弗 風 海。白 "無味 大起。死灰再燃。濟 仙 改裁 禪。化 浪 制規 滔.天。解身之縛。脫"他之纒。提獎昆 古可 矩。改"削 『厥民物。希"被聖賢。 傳。彼美君子。種 。凛冽風顛。溪流飡飲。花陰睡 迷津 石愈堅 方圓。躭,着 輩。投"餌魚筌。為 衣 伎術。五 非 名川。同臭 儒 非 ナー 佛 無

> 浦 花英 罪

山蒲菴大禪 恐其行弊失也 芭蕉翁遊,手我與,之日。所,擔之裝衣職,手家,有,年 師。鐫。之真石 塞...諸城東妙心禪院之山 以 標近點。 庶幾長 隅。請, 銘黃檗 存 遺 矣。

故物。傳 寬政七乙卯十月十二日 流風于名區矣。 澤月房鐵船敬識

大空軒雲洞素龍居 霓 士 稻 荷

山

一妙心院

政十年戊午二月十 有 東 四 安定之享年四 日

幡

十四

族

與幡東安定之

眞 業益進矣。二十有 東都。先 奇之。既 夜不.解 藩 醫田村顯文一學"其術。居五六年。而顯文寢」疾。定之日 幡定之稱。東安。本藩人。幼喜,方技 帶。病少間則從容問,經方。孜々不 而顯文卒。 別家世 死生。五藥之治九竅之變 所 菠 傳, 師事其嗣 禁文秘要學授 僦 居城 頭次。亡何顯次 市。專施、治以 無地 年前十有四一從 ,諸定之。 以 倦顯 祇 自試 例 役 放其 ifi 文人 赴 精

寬政六年甲寅冬十月十二日山城州黃檗山萬福禪寺

今相識 曰。己虖若人。壽人不。自壽。其業在、仁。吾必謂。之壽。 義。且感。 文壽。及其嗣子將 諸伎一出,于斯,與。戊午之春曜,疾 如,己審,疾處,方。不,, 芍投 甚富。常敬,愛之。以、故名益著云。至性 蘊。宅邦之客遊,此 於是乎 要 及。悲夫。業已卜二 矣。 五六年。聞。其疾不二可」起 廢 大成 文壽之能經 浴 陳 矣。 疴 旁喜,险 葬于 待,定之 表,其 伎者。 城 紀之。略 墓。謁、余銘 東 池之技及諧 能 未曾不 一劑、人亦以、此信、之,其長,於 妙 起者。 心院之山。 叙 心。將 其狀 造調 往 之。 終 N 調 温厚喜、義。 道人古梁識 殁"于德臺之宅。 往 家之學。皆 而 系之以 焉。 余已高 越五月 面 任. 家計 訣。 馬。 旣 定之 鉛 友 盖其 雖 視 imi 窮 人族 不 1 不 銘 A 其 業

略傳抄

芭蕉港

桃

青

加加

芭蕉菴 士爾兵 を以家業とす。 あ り。長 桃 青 與 清 公为 左 U) は 衛門と云。同 次を平左衛門命清と云。藤堂主殿 苗裔。 。伊 背貨 0 松 圆 尾儀 B 國 拜 J: 左 那 野 衛門と云 柘 赤 植 垣 村 MJ 0) 10 ふ人 人 手 な 蹟 1-50 長 師 --北 45 館

> 主家 F 忠不 房と 同六月年遺髪を供 呼て月花 より 房十 ひ 0) 豫州宇和 封を残す。 臣なり。三 。幼名を松尾华 を避 幸にして早 南吟の 九歲 山 嫡子 2 退し To 8 を翫 主 45. 島の 悉あ 10 計 L は ひそ 產。桃 て。 て。初 るし n 良 則 1 忠 り。同六丙午年二十三才の しとや。 七。後改。忠左 芭蕉翁なり。 か。 同 なけ 世を解せらる。 L 蟬俳吟名 T 地 僚 1-て。 藤 氏 遁 Ui 32 に仕 堂新 0) 高野 此 採 世 13 女 太大 人北 0) ふ。良 七 なり。寛文二王寅の 山 共 志 iE. 郎 衛門。宗 とい 年 報 村 あ 保 思 良 恩 季 0) 宗房深く 'n 元甲 精 か 吟の s. 秋 T 院に收む。同 0) る 8 七 房と稱 頻 申 臣 時 月。 門 O) 1-歲 は。 とな 夏四 傷悼 に ゝ宅門に。 逐 暇 1-して。宗 す。母 宗房 30 牛 3, 月。良 年。宗 して。 月 私 乞 3.5 .2. 末 夫 給 はま

雲とへたつ友かや鴈の生別れ

宗

房

と書 に あ 60 1 短尺也。 良 精 O) 臣兄牛 宗 房 0 左衛門 宅 地 は 发に住す。孫 藤 堂 新 七 郎 太夫 中 屋 は 敷 隣家 拔 東

に住 なり。今河 に上り。在 し。泊 京七年。拾穗軒 合何某住する處 船 堂桃 青と號す。同十二五千年九月。初 季吟に遊學す。此頃東 宗房の舊宅なり。夫 より 山 て東 0) 楚 洛

髮し給ひて、風羅坊又杖錢子、桃々齋と云。杉風志厚う 武に下り。小石川水道に功を殘す。延寳二甲寅の して、深川に 庵を結ひ入参らす。門人李下芭蕉一株を 年。雜

は せ 8 植 て先にくむ萩 の二葉 カコ な

うゆ。

深川に 繁茂するよ て春 多 迎へ給ふ。 世人呼て芭蕉庵といふ。元祿二己日年。

叡慮して賑ふ民や庭竈

此 1-春 野 集 成 奥羽の旅 に趣んとし給ひ。住る方は人

ゆつり。先杉風の 草 U) 戶 も住 かへ る代 别 をに移 は 雛の 50 家

同行曾 h 0) CZ 尽 良 鳥啼 1= 三月二十 别 魚の B 七 は 日の曉。 舟にて千住に至り。見送

仙臺金石志卷之九

0) 其日草賀に一宿云々。飯坂 大木 戶 を越 白 石の城を過。 に宿りつ 桑折 箕輪笠島を遠望し U) 驛より 伊達

笠島 はいつこ五月のぬから道 給

ひ

岩沼に宿り武隈 0)

櫻より松は二木を三月こし

名取川 右衛門。此わ を渡 りて仙 72 りの 臺に入。 圖と草 鞋 四五 を送る。 日 逗 留 し給 ふ、悲工嘉

あ P め 草足に結は ん草鞋 0 緒

に多賀城 奥 玉田 岩寺に詣て。十二日 山を過て。鹽釜にやとりを求め。 橋よりふみ違ひて。 かし。泉三郎 の細道の山際をたとり。十符の菅を見給ひて。市 横 野。つうしか 童の碑を一見し。野田の玉川。沖の石。末 忠勇をか 平泉 岡·藥師 石の h し。松島 と心さし。あ 卷に 学天神 出 社頭 に渡 金花 0) ね 山を の批 h は 御社なと拜し。 无 0) 月 網 海 松 中 + に目を 統 1 日日 0) 詠 絕 瑞 禁 松 川 め 0)

りて。袖の渡り。尾ふちの牧。真

野の萱原なと。

除慶

さはると覺へられて。廿九日より。泄

痢

のいたは

h

有

申

に見なし。豊間 に含り平泉 に至る。高館。

夏草や兵ともの夢 0)

二堂を拜し。

五月雨 の降 h 残し てや 光堂

南部 の小島を過。鳴 海道を遙 1-子 見遣 0) 湯 り。岩出の里に泊り。小黒崎・美豆 より尿前 の關にかいりて。 含り

給ひ。

蚤虱馬の尿するまくらもと

出羽の國に越給 四度結ひし深川 り云 々。元禄七甲成年五十一。閏五月十一日洛に趣く。 0) ふ。誠に人跡まれにして。嶮岨の地な 卷 を出ると。はしかきあり。

鶯や竹の子藪に老をなく

亭。廿八日又畦止亭にあそひ給ひて。 九月廿一日二日と。 又浪華なり。車庸亭に遊ふ。園女

き隣は何をする人そ

往 芝拍かまねきに應し。此發句を遣し申されて。翌日必 んと約し給 ひしか。園女か亭の饗應の。菌の惘癪に

の中の刻はかりに。眠るか如く遷化し給ふ。門人おの

流し香をたいて後。安臥してものいひ給はす。十二

H

之。御堂前の花屋仁左衛門か家に臥給 介抱に侍け 木節。乙州膳 さる。七日に京より去來。江州龍か岡の文草。大津より 々の門人親友へ消息在。六日の頃すこし心よしと る吞舟 所の正秀等來る。八日の夜深更に及ひて。 を召 ふ。五日には所

旅 に病 て夢は枯 野をかけ廻る

と。深くたのみ置て。その後は左右の人を退て。不淨を はくは。老子の藥にて。最後まての唇をうるほ とて淺ましうありきはつへきにもあらす。 まり 物等のさた有。 の可否を問給ふ。九日病革なりけれは。古郷への といふ句を書しめ給ふ。その後去來支考を召て。此吟 とに。木節をさとし申 ぬと覺ゆるなり。 十一日の夕。其角來るその夜 素 されけ より水宿雲樓 るは。 吾生死 0) 身 8 の。此 も明 明 72 某 1 文遺 候 るほ ね 藥 华 彼 カコ せ

葬儀 塚 乘 の三字は。僧丈草筆なり。 力 0) 十餘 ינל をい 無 派 3 にく 名 人從て。伏見に着岸す。 施 1= 22 は 入奉 な せ カコ あ 50 -50 果 つま 十四 その 津 0) る門葉・舊友。 義仲 日 夜亡骸 をも 十三日 寺に收墾。石 心を長櫃 て埋 湖 葬 三百餘輩 南 3 に入。川 1-3 至 碑芭蕉翁 72 り。木 なり。 む 册 ま 曾 に

30 00 芭蕉翁の 續さるみの。 冬の 炭 日。 俵 あ 春 3 0 野 日。 あ らの員外を言な 飛さこ。 猿み

幻住花記

芭蕉草

份 धा 體 翠微に登 或 石山 兩 に、 一分寺 は は 部 人の 光 彌 0) 化给, 與 20 吃 0) る事三 E I 岩間 0) 和 名を傳ふなるへし。 し草の 修 V 像 利 のうしろに山有。國 とか 曲二百歩にして。 益 戶 0) はっよも は。 Po 塵 を同 唯 40 2 き。根笹軒 しうし給 麓に細 0) > 家には甚異なる 南南 一分山 八幡宮立せ給 3 き流れを渡りて。 U と云。 をか ふも又貴 物 L こみ。 その つか し。 à 事 カコ 屋 75 神 み 根 日 を る

し 十年 L よ 月 波に漂ひ。 8 h 立 便さへ有を。木つゝきのつゝくともいとは ~ 72 くるしき北 て。奥羽 0) 0) ゝろに興して、魂吳楚東南にはしり。 つ。山 哭 名を 僧何か り壁落 り。辛 0) を。 お お 0 ろ 涉 P 8 初 8 今は 0 b ひ 5 し。 め 象温の 崎 は そみ ち 2 L 巖松に懸 て。狐 5 0) 北 未 鳰の浮すの 八年 殘 は。 かっ 2 海の荒磯に。きひすを破りて。今年湖水 松 風 申 軒 D. かっ き身は。蓑 せ は慢 そは 暑き日 狸 海 端 b 勇士菅沼氏 は b 臥 35 さすか カコ 淡 手 初 て。時鳥しは こめ 浸し 處を 27 h あ 1-1-ति ち。人家よ 流とうまるへ 彭 5 入 虫の て城 て凉 面をこかして。すなこあゆみ。 中 得たり。 に赤 カコ 72 b 多 しに 曲 め さる事 みの 有橋有。釣 し。日 0) 垣 水子の 111 し過 名殘 なり き程 和 0) 幻 を失 枝 0) 住 る程 + き。背 て。正 結 8 0) 1= 身は 伯 4 花 U, 年 111 隔 遊 派 72 父に とい かっ 許 る 此 り。南薫峯 カコ の一 蝸 なとして。卯 宿 淵 T 1= しなと。そ らす。つう 牛家 公 湘洞 な à 出 良 かっ 册 本の 住 h あ (1) て à) 老 侍 高 庭 る b . 關能 Fi. 陰 0) 人 根 h 0)

侍 巢 水 山 松 なり 野 云事 登と い は を筑紫高 3 笠とり 8 2 1= あ 0) 多 多 0) りてった 虱を捫 汲 棚 ほ 古き らす。唯 け 心 なし。中 となひ主 のほりい か凝ら千 カコ 1= 良 藁 茂 柄 2 かっ 自分炊 も思 夕闇 山 て坐す。たまく心まめなる時は。谷の清 0 5 よ 画 朓 にも三上山 は て。網 圓 2 大か峯。袴腰といふ山 辟 置る物すきも 望くまなか た昔住 まそか 坐を敷 300 ひい 僧 薄峯に菴を結へる。 U) 木 山 空 樵 IE くとくべの 代守にそとよみけ 人と成て。孱顔に足をなけ出 處なとい に。水 は てられっ 0 け 聲。 りけるを。 て。猿 は。士峯 甲斐何 ん人の。殊に 5 鷄 麓 0 なし。持 h 0) 田上山 3 0) 腰掛と名付。 と。後の峯 pp の第 小 カコ 雫を侘 > 音。 L 田 カコ ある人をして額 有 か嚴子にて。此 L に古人をかそふ。 佛 にか 1= 心 美景 王翁除佺 ん。萬葉 つら 早 、黒澤の里は 72 て よ 苗と 間 1 カコ 物 這の を隔 ひ 炉の 彼 く住 72 りっさ て。武 る歌 集の 海: らすと カコ し。空 て。夜 ほ なし 備 徒に 棠 bo کے 30 変 v 藏 72 3 1= ~

8 跡をかくさむとにはあらす。やゝ病身人に悠 我聲 て。い 頓て 乞い 樂天 籬 はかり。枕の上の柱に懸たり。晝は をせ いとひし人に似たり。情年月の らす。か に。心を動しあるは、宮守の翁里の 云さる器多くい 3 に月を待 ひとし ふに へなれ 祖 め。 室の 草花 しら は とやすく のしょ ある時は。仕官懸命の 五 からさるも。いつれか いい て 花鳥 扉に入らむとせしも。 Da 0) 雕 は。終に無能 農談。 は。 紀念 0 へはとて。ひし の稻くひあらし、兎の に情を勞して。暫 神 影 をや ふへ をなし 日 を伴ひ燈 旣 筆を染 くもなし。 ふり。 無才 に山 n にし 0 老杜 E 多 -すへ 幻の 地 取て 端に 幻 る く生 をうらや て、 移こし。拙き身 12 住菴 は て山 木 72 栖ならすやと。 豆畑に 閑 瘦 は カコ 此 とり 稀 お 曾 涯 > 寂 72 图 の三字を送ら (1) 0 1= 0) 居 り。賢 を好 n 子 筋 は なき 兩 とふらふ 旅 とい みつ は かよふなと、 1-とも入 カコ 笠 1= み。山 夜 是 ひ旅 2 5 風 越 -雲に 度は 坐靜 文 科 非 な 0 世 思 質 野に をこ 人 菅蓑 カコ 8 寢 る。 77 A 身 (1) 佛 re h 3 カコ 2 お

先たのむ椎の木もあり夏木立

題。芭蕉翁國分山幻住菴記之後

其人,而益美矣,可,謂,人與,山川,共相得,焉。廼作,鄙章美也。間讀,,芭蕉翁幻住菴記。乃識,其賢且知。山川得,何世無,隱士。以,心隱為,賢也。何處無,山川。風景因,人

詩城。此地自,古寫,勝覽。今日因,君尚益榮。內有,住人獨養,生。滿口錦繡輝,山川。風景依稀入,

篇

歌

E

元禄庚午仲秋日 震 軒 具 草

蕉門十哲

其角。 嵐雪。 許六。 丈草。 李田。 千那。 去

來。浪花。几兆。曾良。

古池や蛙飛こむ水の音

○同三年の蛙合にも見へたり。○葛の松原に日。芭蕉芭蕉翁句選年號春之下。貞享二年の春の日集にあり。

b • は。風 にうかひて。蛙とひこむ水の音といへるは。七五 花の落る事 に閉 す。かならす中間 なと 得給へりけり。晋子か傍に侍りて。山吹やといふ 0) 定まりぬしはらく是を論するに。 字を。かうむらしめんかと。およつけ侍るに。古池 庵の叟。一 しなり。しかるに山吹のうれしき五文字をすて 素にして質なり。古今の貫之ならし。 ったなし。定家卿 h つは、その 水 カコ 給 1-もねんとよめ 回は へは片雲の 流にして花やか へは 落る音しは 日階焉とうれ 白 時 雨箭 遲し。彌 衣となりて。ともにといまれ 0 風に臨め そ も此筋 の一理ある にして鳩のこゑ深 る歌は。 1 め 生と名残をしき頃にや有 3 なれと。古池とい ならねは、 る。日 には。 ものならし、 るか かは へしとて。春を武江 風雅の 如し。 あそひ給 かり 意外の 山吹とい ٢, 世に行はれたる。 にて 柿 されと ふ五文字 風 回 本人 ふとは聞 風情 る は op 柔 花質 所を え 正 かっ 皀狗 儿の 3 11 にし 75 此 は。質 八八八 しら とな とは 0) 侍 h ひと 0) 文字 五文 筋 北 蛙 T 72 b 8

傳を より や。誠 月の は 立 1-越 を 音といへ 3 ノ古池 ひ。兩人出 後に。予 n -的 眼をひらき申 h は。杜 論 趣 ימ 俳 武 情 か支考 流開 諸 意。 せ 2 殊 江 かっ て。天 の一道はひろまりけるとそ。 る。幽 なし 過 るまうに。古池の髪句より。眼 所 北 園 0 勝 安言 露川 。史記 \$ 深 越人 0) 0 汝等の 72 給 カラ 言の 書 次韵 禀 友な]1] を中。 さる を難 h 7 に隱 越 なとを置て。 0) 0) とて。 る心こそ る り。支考 もしらぬ 滑稽より。心を傳 \$2 如きの する 蜊 句に。自己の心眼 遁 1 道を建 业主 72 0) 0) 飛込 1 3 兼好 災 夢 不 發 て。 かっ 者 と云 猫 想 故 0) 立 淺 何 十論 ともの 1:0 恐 蛇 淨 15 句 虫 せ かっ 古池や 辨 136 5 1-L 5 は。 h 飛こむ に、天 温 なり。 云 1 0 英 2 8D 知 次 稽の へて古今集の は いり 頓 あ 其 をひらきて。是 角 爱に俳諧 蛙 をひら 剖 3 世 和 3 h の句 角 m 傳を カコ 事 公初 より 蕉 飛こ 0 め とあ 法 服 死 嵐 1= は 給 0) より。公が 師 あ 3 き申 傳 ては 後 當 + 雪 L 50 h は 年 水 と思 め る 流 田 0 て。 3 名 3 な 舍 列 0 73 2 風 8 建

へなけ P とい を。は 考天 蛙 0 州 事 意 1= 蛇 句。上五文字此度句案加へ候て。別に認證候 日。古今集の。おかたまの木を知 6-なとさ る 巢 は。 に。夢 蛙 則是 1= 味 Z 返 > ふを。 て。殊 和 1= やうな 答 游 0) 形 しむとも 次韵に限をひらき。古池の吟に今の 北 T 0) 削 0) たする有とい 此 想の 其 驛。千 談 む水 は天和の句とせるは。支考か 句とす。越人真享の元祿 'n 句 0 飛こむとい る。句 笑 け 智 外 沙汰なし。前 に支考日 0) 0 傳授 代倉 古けれ い 貞享 香 場 な は な 次郎 h \$1 な bo へとも。全 とっろ 年 2 歟 は 3 ふ所 文章 八 と申 せ も。飛こむ水 **春文**通 風 趣 後をよく 所 多。 作 Ch 雅 Ím 持。芭蕉 讀 通 0) しき場 集 は く後 違 500 3 に田田 お 背 古池 0) 0 よ かし 見給 0) は 事 人の 社 と云 1 小小 0 先達 岩 に虫虫 しめ 粗忽にや。恐案 お 道 は 2 感 fo] 菲 祖 附 此 カコ 跡 re なり、〇 3 。按 4非 事 ifii 1= (1) 分为 頭とすっ し。 會 思 1-0 所 初 句解 諸の 那色 な 0) (1) かっ 也。 3 ひ。飛 Ill IIII 古 (4) > 入 0) 吹 古池 〇尾 せす 或 72 風 池 3 節 誰 不 変 蚋 覺 支 は (1) 入 3 0 8 0 猫

鳥 心にた を鎖 3 より。風 池 行 0) 古池 是又御 h 0) 1= ふくすの はとい とも覺えすと有。○按に、 反古に被 UI やと 0) 。はせを西上人をし 何 僧 も哀 道 心 かと 2 し。梅柳 品品 集 111-へさりけ ふ所となみか原をすくる 1= り候。信偽 直 こっさ 茅 し。弁 2 す に。深川 はしられけ 叶 方に澤 成 一と有 け U 3 なと そは 可被下候。 に。ハ 侍 动 に腐 ん、〇 1-それ 3 翁 邊 は \$2 13 知 妻こ 111 何 應 0) 0) 1, U) き燠。山 り間 又筆 は行の また 吹や 地 舊 たひけるとかや。 明诗 のこゑ聞 句其 足様はせを右兵跡。 飛 庬 8) ~ 此度其角上方行 西行物語 立澤の を見 かっ を加 立 驻 不 角自筆に てとな すか 移 音 吹 飛込 知。 L け P 3 ふ。元祿八年。東 秋 1:0 1-0 H む 0 植て。人の情を起す。 n 72 0) 分 150 U) ब्रेट 1= 开. 水 應山 てあ は。 かっ 芭蕉 野 タく は。 の音。 文字 かっ 原 相摸 11-原 集 りとっ 脚い 1--7 其角 カコ > 32 0) 1: U) 侍 是心 殘 る 心 小 ゑは 彩 3 國。ほ たし 見 與行草 武 朝 風 b 說 雏 73 應 0) 3 行 にて T 廷 情 え 3 ま ひ 1-略 ち 候 門 脚 0) 72 县 な 2 かか 3 3 古 9 U)

桃隣となみか原の歌。山家集に見へす。 良 へく。草のもとにて。へ蓑むしも聞 ひこむ便りもなし。 夜の 月池をめくり 芦の花 てといい は 12 H: n 0) 47 3 かっ をまね 半埋 H 30 32 くか To 命 かっ 2 蚌 間 飛

梅

かっ

香に

のつと日の

出

る

山

路

哉

沓の 1 日、八梅 何 0 A きれ 選年考 奈良 香 啼 底 立 0) 七重 字 0) 72 5 カコ 菊の る沓 1= 香にの 野坡 云。元祿 七 73 つみ 香は 些 の底。梅 カン 彻 開胡 七年 つと日 His . て。明徳を失ふ慎むへし。 陰をやしなふて。徳をか 有 八 の炭 カコ 之兩 I 0) 0) 櫻 旭 出 俵 (40) 12 る 集 。陽に 111 1= 哥欠 路 あ 仙 TITE O bo 问 ā) て仁徳 h 云 菊 度 < 17 0) 17 を發し、 せ 届 香 1= B 突 雉 庭 1-子

此等を疊字の格といふよし云々。

候。近 年。珍 昨日者。 所 重 0) (1) 為御 衆 御 へ承候 事 慶 1: 候。 御 出 ~ 定 はい 忝 而 标 お 所 候。先 ال K たっ ~ 御 N > Will. 御 き前 無 3 計 序 1= 0 あ 3 る m 御 逃 12 1

る氣色の 由 前 後を知 らす 寄と察存候。はや

句。

二日に 3 n カコ りは せしな花の 春

上戶 0 為に は 日 本 0) 挨拶なるへ し。 猶永日と申

殘候以上。 日

丈水丈

世 多

は

笈小文に日。貞享四年の十月。東都を師 句選年考云。貞享五年。はせを古郷伊賀にての吟なり。 餘り。名

詞 護屋を出て。舊里 書に。室の 名殘をしまんと。 に入 る。明れ は貞享五 舊友の來 走十日 年の りて酒 春 15 则 り。其 L H

る に。元日の晝まて臥て。曙見はつして云 八。

けん。病變やふりにけんなと、 かにして御便も無。御坐 候 一若や渡海の船や 方付 をくた くの みに わ n

句

選

年

考云

元祿

年をとりて。薦を着

候。されとも名護屋の文に。御無事の し。拙者も霜月末は。南都祭禮見物して、膳所へ出 旨推 量 8 見え 越

年歳旦京近き心

山 中の子 供 2 2

初

n

猿

B

L

3

0

をほ

しけ

なり

菰を着て誰

人い

まかす

花

0)

春

雪か 初雪 なしい 1= 兎 の皮の髭 つ大佛 つく n

0

瓦

2

3

京にて鉢 叩を T

長 嘯 0 墓 8 聞 め 1 る カコ 鉢 72

歲墓

何に 此師 走

急使早 々に 候 JE. の市 月頃伊賀 に行 鳴 へ御越待存候。 宗七

も噂

申斗に候

正月十七日

万

菊

九樣

12 世

三年 て云 0) 々とあ 其 袋 集 30 1-0 前 書都 に近 3 智

所 1:

仙臺金石志卷之九終。

名蹟八

H

次

啼子温泉碑 新田小町塚碑

作並温泉碑 高田表道碑

五串天工橋碑

蛇田禪昌寺碑

附廣田勝景碑

青柳文庫碑 附中里青柳倉碑

鬼首牧馬碑

仙臺金石志卷之十

吉田 友 好編纂

名蹟八

玉造郡新田縣夜鳥里小町墓碑銘

以觀。國光。故刻、子、廣達、者于、碑陰。而為。之銘。銘曰。 佳 也。烏赙賢哉。公也。澤及,朽骨。民德歸、厚。百世之下可。 獨采"其言雅馴者。辨"其實。詠什已有"成書。奚贊"一 然是非相貿。真僞舛標。安適從焉。故無稽之言省,略之。 日可。於是靄。銘余。親倫日。世俗多稱"小野小町一尚矣。 君義公命」之也。今年正月請」樹」碑。黨廣達謀」之也。今 野小町墓在。夜鳥里。釋西行亦曰。寬永中墳而樹、松。邦 謂"八十島。今玉造郡新田縣夜鳥里也。大江匡房日。小 隨筆。袖中抄。無名抄。袋草子。古者,與羽之郊小山多。之 體,唱和哭泣。始掩,之語。在,於江次第。及故事談。東齋 亡,常處。逶迤歾,於與州八十島。在中郎業平。與,其空髑 加以。妙麗,選入」宮。之謂,小野小町,也,及,色袞籠弛,出 人。小野氏。出羽郡司良實女。參議篁孫也、慧善。國 風

備臺金石志您之十

大者 死。 穀也萬乘 一焉。小人稱 君 玉 爾 "其小者」焉。千歲不朽可」謂,死而不」 。死也千乘國宰石」之云。君子稱: 其

寬政十一己未年夏四月

田郡 松山 佐 福 佐 井 致 親 孝 倫 書 撰

志

月伺 土人日 郎廣達か、謀らひなり云々、 小 町の を上け。四 墓を築立 。寬永中。邦君 月中 一松を樹い 命下り。石 忠宗公。 せ給 大崎 ふ。今の家是なり 砰 を立也。是庄屋の喜四 に狩し給 کم 時, 當 年正 小 野

封內名蹟志卷十 玉造郡

小 町 塚 田在 邑新

墓也。 家溝畔 次第。則 王 而 房 有 梅,夜鳥宅。又據, 西行共言。小町古墓在"夜鳥鄉。今土 古墓。上有。古松。是乃古之小野小 袖中抄:無名抄。愚見抄 人呼 町墳

L

て月 ひ。十 更衣 和歌 かけたるたくひも、疎 に衰。花やかなりし顔。年々にすたれつ」。ころろ て弟をさきたてしかは。單孤無緣の獨人と成 陸の珍珠をとうのへ。身には蘭麝をかほらし。常に てくた いまた此驕をなさす。衣には錦繡をかさね。口に れと。著聞集日。三皇五帝の妃も。漢王周公の妻も。 みちのくの玉造江にこく舟のほ け むかたもなかりき。いみしかりつる。さかへは わすれやしぬるとあ るまてに のみ空しくすみ。庭は に心をかけたりし程に。 を詠して。萬の男を賤くのみ思ひくらし、女御・ 九にて父にをくれ。廿一にて兄に別 りけるに。さそは なりけ れは。文屋康秀。 くのみなりしかは。 る君た れて。 あ n ちの 十七にて母をうしな て蓬生い にこそ出 お 三河掾になり くる たつらに。 家 れ。廿三に ね に 君を戀 は て。 破 n 毎 72 海

0

古今

小

江

為"八十島。今考"其地

則在"羽州云。

町集群書類從。卷第二百七十二

ひぬ れは身をうき草のねをたへてさそふ水あ

小町と詠 て、次第にをちふれゆくほとに。 果には野

山 にさすらひける。人間のありさまこれ 1= て知 る

云

音曲七小町。

叉市

厚雲林院高安山

本小町等

ありと

し。

草 紙 洗

まか なくに何 をたねとて蘋の浪のうね (生ひし

けるらん。

雨乞

ことはりや 日のもとなれはてりもせめさりとては

叉天 か下とは。

關 寺

佗 68 11 13 身を頭 のねを絕て誘ふ水あらはいなんと

2 思 200

通

さまし に富士のけむりは立とてもいその森なる

仙盛金石志卷之十

わか袂 かか なら

都

極樂のうちならはこそあしからめそとは何とてく

るし かっ るまし。

清 水或 云流 見

なに D 物を。 智 して身の 徒 1= 老 にけ んたきのけし きはかは

鹦鹉

5

雲の 上はありし むかしにかはらぬと見し玉たれの

内そゆかしき。

百人一首拾穗 抄

小

季

述

岭

古今目錄。並 野 小 町 拾芥抄云。出 羽 和5 司 女。仁明 時 派 和 之 頃

人、也云云。古今我に同し。御 良質女。亦常澄女。三光院御說當澄女。云云。圖下守亦 抄云、 或 說 云 111 羽 那 司 小野

主張主典さて。あるを郡司さいふなり。像・目あることく・大國には郡に大領・小領・

袖中抄云。數十年在京して。好色なり。然とも歸 本國

死去。故屍在"八十島」數。 榮雅說

らす。 平とは 草子 9 の人にて。陸奥にくたり給ひし時は。小町 は一決しかたき事なり。 あ 思案。江 なめ 說可然也。 其說古今後撰。伊勢物語に明なり。童蒙抄。袋 あ 抄清輔吳草紙 紀。無明 なめ はす、親房卿 0) 下句を。つけたるよし侍れと。 抄なとには。業平 は には。只 質方としる 然とは小町 人とは 小町髑 1 かっ は りあ 給 業平 態を見て。 死 り。然れ りて。業 と同 n へか 範兼 時

なる事。其 り。大 ろ かっ 徒然草云。小 書 へた h 師 るさま は 承 後 說 野 0) 和 は あ 事 小 0) n 玉造 下にや猶 MI は کی しめ カコ 事。きはめ といふ文にみへたれと。 高 1-杉 野 ほつか かっ 大師 くれ てさた 0) なし。 給 御 3 作 カコ 0) ならす。をと 小 目 町 鍅 此清 カコ 1-60 盛 \$2 行 h

の頃人。小町のさかりは仁明・文徳の頃、温昭、業平造と云書み三吉淸行か作ならは。淸行は寛平・延喜恩案。作者部類云。或人云。玉造小町非,此人,云々。玉

別人なるへ 廿一日なれ 72 事。古今後撰伊勢物 安倍清行等。陽成 相當す、大師 L は 猶 時 の作にでは。 院 代 徒然草の段抄 不相 語・大和物語等にあり、時 の時、 叶 康秀なと歌よみ 。然は小野小町玉造小町 大師入定承和二年三 1 委 かっ は 大 せ 月 かっ

なるへし。 ころあるに似たり。 うにてつよからす。い 古今序云。小野 0) 小 HIJ つよ 13 衣 通 ゝよきをうなの。 からぬはをうなの歌 姬 0) 流 15 6, あ なや は n なれ 13 め ると るや は

花 は る 祗注云。六人の中にて。小町難なき也。 で女の な の色はうつりにけ かっ め 歌なれ はなり 5 と云 ない な。 72 つらにわ カコ つよからぬ 身よに L

古今春下。題しらす云云。家集には。花をなかめて云を、花の色うつるとは。散かたになるを云也、いたつかのつうゐたるにとなり云々。

小 良 兵 小 出 MI 分分 英能 4 0 拾系 沙守作:郡司。按 其 4= 出 木 小 未 女 町 或或 有 E 參議 絕 世 篡孫 之姿。 也 長 交 日 於

和歌

仙之

紀貫之撰"古

今和

歌

集。

多擇

其

玉

MI

子

莊

汗

群

1-

自一姓故不_取 所訓 歌。序 矣。古今和歌集。○世有"玉造小町北衰書"未、知"何人著。或曰○僧 間觸機歌。為"一人。徒然草以"空海小町年代相隔。疑為上非"其所上抄。著聞集。皆載"其事。興"小町氏」為"一人。與名抄亦引"在原業平 **新論**之日 諸美女之有こ 野之歌衣通 所思。 姬之流 婦 人歌 心。 詠 詞 自當 意 悽惋 如 終

芥抄。 小 也 野 小 小 平平 HI 潜住 MI 之事。 所之名歟。或 直觀之人 見 E 造云 也。彼玉 人云。壯衰記 文。書。生 出 批 涯 衰記者。 壯 者。 衰。 弘 其 佗 法 姓 大 玉 與。 師 造 所 氏 拾

定 玉造 カコ る (1) 7 也 後 2 5 說 3 小 2 に清 書 町 は は 行 心 [h] 小 カコ な 間 3 \$2 小 V かっ はつ 門 事 5 とは。時 そ。 ま 大 72 部 弘、 法 U) 說 代 筆 大 隔 師 1-は b 0 南 72 101 3 かっ h 部 7 8a 0 大 せ 清 事 給 阴 師 行 カコ 5

> も大 善 遊 NI: 小 縆 0) 前 清 從 行 怎 1= 别上 第 は カコ H あ 晋 5 一善か す と知 首並 文法 る に似 72 h 部 2 + 10 五 60 4.

> > 0

物。田 袋 知 步 子 歟。無.兄弟 良室之娘焉 頓 一方情 一。猴 行 中 。裸形 路 何 腰。匍匐 黑蔦花。筐 料 體被瘦。頭 之次 物 已虚 懸 1115 一破 何 垢 敷。有親成 步道 朝 衣 村往 腻 壯 **管。右手提。壞笠。頸** 衢 。徒跳 II.'s 人 之衣 夕之冷難,支。糠粃 間 如 之間 逻 憍慢最甚。形衰日 部 何物。野青蕨薇 。何懸 無 器容 蓬。眉 哉。女答子曰。吾是倡家之子 徊 徑邊 版 路 去 序 河 頭。予 似 涂 一來。有 振 物。栗 伤。 凍 不能 係 梨。骨 問 肩 有 悉罪 父母 愁 豆之餉 女日 破 账 **墨**背負 言。足蹇不能 竦 女 妆 旦幕之命 哉 沙汝 筋 悉 人。容 無子 抗。 笠入. 何 胸 鄉 頭。 貌 面 採 坡 何 DATE 顦

步"戶外。被愛"珠簾之內"

無行

份

P

朝

[ii]

及二八之員。名殆

乘

之列。被

福

花

帳之裏。

維之服 紀 鍵" 翠。幌 蓝. 蓝 沙泛 絒 腰支 綾 袂 蒼 李 創 业 氣 右。仕 濱。綺 夫人 鞋。 香薰複之貌 柳飄 称 眉 蟬 白白 瑪 巫 盾 誤 徕 m 瑶 粉。 接 峽 光 集 粉 之蓮 錮 維 好 行 史朱 脂 翠麝之薰。 彩有 數滿 垣 子 二十二 颜 裳 如彩 照 雲。恒 錦 僮 容 畫 柳 變之 睫。 AIK. 染 門之 二丹青。 地 僕圍 之亂 貌 不 餘 隙里 衣 窄 恣 "紫蘇 斷 雲 光 心心 筵 在 非 一 丹· 流 異。蘭麝散風之句。采女奴 颜 色飜 暗 之廻"翠嶺 約 春 括 表 禁 取 之內一羅綾之衣。 **簷**貫。 色美艷 .蟬翼不、著 实 庫 朱。桃 前 鳳 而 風。不、奈..楊 州 百花 上。洛 一付。 面 後 色麗。光 天。莞貂 釵 旗 于 虎 顫 。家裝,蒜 戶浮 之姿。相 帛 畫 m 111 珀。 疑。芙蓉之浮 露 履 餘 廻 彈 贬 照麒 被 並 觤 雪。 宝宝 水 一念裘。 食非。塵牙 貴 柳 型。 ا 耳。 象 精。 係 同 中 妃 髮 多餘 常 胜料 華 Mi 花 矛 之花 蚌 室粧 新 床 處 釗 濕 似 風 理 魚思 之 胎。 碧 蠟 到 豐色 紅 梳 桂 開 床 袖 曉 眼。不 香薰鴛鴦 婢。陪 不食 7 瓊 色。 珊 帳 露 端 中 藍 浪之疊 殿 浪 腕 燈 之唉、 。燕聲 之間 瑚 並 瑶 羅 如可 而 肥 mi 屑 桃 壁 從 錦 翡 韈 色 不 娜

之篩 晚 號千 4= 梨 集神 塵 脂 公之妻。未致 七 頭 您 紅 酉育 儿 食 班之前。 隨龍 三春 之牖 鱸之鰓 魚有 枝 "赏露" 乳之枡。趙 充 廣 備 溢 果 關 石 滿。 陵楚王之杏。 m 於銀 之始。 珍珍 。鹑縢 珠 微 騰 菊於簾簷之中。待 腦 滿 素 劇劇 奩 未 味 南 杰 洲 堂 粳之. 雅。調 美 丹 北 煌八子之榛 ||徐 iffi 早翫 其多 味 上。萬 東 橋 鷄 鵬廖 掛 香 。納 河之鮎。職 紅 心之棗。泰 溪 ⑪ 粒 ~ 紫 東王 雪 於金 窟 鮒之炰 蚌。 鴈 皇五 北 棕 梅 任 剩 炊玉 青 西盆 於 父之柱 焼 給 机。饌於 心 應 花 於 帝之妃。未 柚 凰 帜 蛸 非 煮北海之鯛 身。賞 処五 翠鮹之炙。 黑 加 山花 河 時 帳 焦蠟 Fi 洞 汞 矩 之下。 東 m 思 四 創 東門五 岳之乾 孫之李。大谷張 釗出 過 素 自 態靈 腫爲膝。 盛 之腴 玉 E "。 差。 "金烷。 足。衣裳奢侈 成 雏 於 份: 應 膳於 能 之神 螺 鮹 17 此 不管、 詠 鳴 D. 柿 膽 觚之齋。 縣。漢 九 南 熊掌 條 -11 紅 勝 絲 桃 一。是 鍵 翠起 秋之終。 觚 鱼甾 F 櫻紫藤 膠之清 - 又 鮨 楚 兎脾。 西 公之 主 都 尾 玉 計 周 萬 厚 ள 鮭 飲 育 恣 御

母。十九 寡獨 裏。蝙 如歸 適留 已死 露偷 儷於 影靜 之和 佛寶之粧。 空王之施 僕無、仕 朝居。孤 别 妃之議。 鳳凰之管。梁塵 鶴之聲。 是以是以 歌迎 殘蓄 。洞 時辰 浸 蝙蝠 imi 放 跡 門 業自生 棲 舘 嵗 一富貴漸微 專無與 佛 問 絹 戶既 iffi 然而 君 叫"漢天」而 道。欲 而殞,慈父。二十一而亡,兄二十三而 繡服雞襟 道 答。 蟋蟀居 月夜 畢。嗟呼哀哉。 臣子 布之殘。皆報"亡親之德。僅餘遺財 路。 落淚。幕坐。孫 财 荒。草木悉塞。荆棘繁 娜 廻 "凡家妻之語。 操"金絃"調"鶴琴龍笛之妙曲 播 旗 孫 iffi 無。益妙。人界。 產屢盡。貧孤獨遺。稻穀之餘 、衣食屢疎。家屋自壞 不上許。 聲斜。 死 争.婚姻 不,作,法 壁。熠耀 聽幽 後之德。伏惟 告 聞 手取"鸚鵡之觴"漢月落 。離鴻 兄弟 庇 於日夜。富貴 衣之備。是以削 而 满 鰥孤 無諸 而間 徒懷 營 音 晃 鵬。 晚 金釵 而 雷 其 + 唯。 生前 餘。家門。今見 胡 內。狐 七歲 電 。風霜 奴與不、從。僮 王 有一献 發聲 地 主客。競 環。無 之耻。 而爽 而 三和 狸 暗 接 沾罄、 盡就 弟 王 隕 愁 口 福 室之 不 吹 切。 成 死。 共 丽 悲 宮 伉 m 根

> 詩。且 爾。一 徒雖 僧以聽法。 實之境。戀鏡翫掌之日。青黛畫眉。而 之嫗。就 常。寄言老衰之女。誰 色。不」定。受樂者人之所」感也。 而愁吟。夫以"富貴,者。天之所,與也。 々。予聞。此語。自陳,其 頭之時。 整遺。 長 .億二心。猶 一效 百二十四 子數歲 自 欲、厭、六塵之棲。剃、雪髮之緩 幸地魯 亳温身而 然染而 有 韻 E 未,啓,十方。 湖康 無,可,被之衣 詠 備。月 人永 之賦。韻 言。仰此行 ilyi. 年有、保。富贵。 貌。須 因 仰 近 好 一古調 大 Mi 生老病 且 作,尼以 諸 ini 學 而無可 好 佛 悲泣。 詩 : 樂天 東西 延。 "風容。鵝 必導.孤 死之風 赋 欲 歸 忽應歸 茶中 南北之雲 俯"白 八供之食。 說 佛佛 新 音無 身。云 吟之 抓 珠 從 H 戴 =

推 眉 遺髭。行 身衣風葉乏。口 路頭有"老女。其 高鶴 移 。哀 髮如 哉 步 "霜蓬。鮎背似"凍 別 躬 猶 弧 食露花希。 弱 旗。歲 體 甚弱微。 起居質甚贏 月多改之。 夏不 。氣力皆順頓。容顏 梨。叩 一點道 似 頭 霜封 哉 梳 湖 ILE 落 划约 父 本 岩 引: 骸。 無 悉渡 拯 一 造柳 首 燠數 瘦。 明 挑

贱 疎 逼痛 得 翼 浪 體 身自憂 碎 先 被 玽 頭 易絕 仕 喃 洞 衰。 玉 洗 墳 無 制地 亚 綾 影 房 力 屍 杖 黄 遺 强 疵 無 組 愛子 。巢覆 棉。 鄭 间间 母 不,雙鰭。秆子 指 松 一風 青 用 湌 歎 月 。憂悲 :。 唇 除 子 老 服 似 姿。日 飲 鳳 黛永捐 佛 我 底哭 難 屢 唳 師 風 談 麁 班 不足"家治"。告 形 憐 咨 颯 過 有 一交。测 朱 合。噬臍 加 暮眠 瘦。有 僧 雉。勝 一等影。 慈。子 々。寄言雉 日 N 無潤 鏡。 志。 。菜 程 婦 売闡。 益。 麒麟 を一一被報。 智 。產得 報思 夫藝 瘦 碧箱 思"子 孤 生 花 順 無 栖 面 雪 **姜無** 前 難 创发 謝 皚 能 將 划 長 貌肥 一男兒。 朝闌 间 H 步逶迤。 支。 並 巢。 粉 齐 德 力 猶 灣。夫妻 T 被 後 不 。身衰 路 思。 劣。 思繁。 琰 胸 夫尋. 雌 化 婢。二妻互 皮皮 湄 夫 騎。 "坡扉 肝 雄 容顏 錦 秋 膚 寡狐 婦 臓 富 貧 腸 處 春 線 貞潔 悉 約 霜 不 滿 今時 游 早 難機:影 有 ...是非 放 美 送...年 。鴛鴦 綏 擅 諺 金 梳 潤 斷 剩 談。 飾。 念 穩 元咒吗。 萬慮疑。 素 隋 屋 妾身 染 帳。 心心 無 夫 閟 髮。 處 骨 腸 廻 N I 如 命。 頃 會 君 糙 心 瑶 貴 筋 形 膽 淚 聽 嫁

翠嶺 麋。 有習 樂。 雲楣 脂。 無 不 年 露 狸 比 釐 游 漁 君 夫 縮 衰 影 為。秋 前 願 公为 屑 田 林啼 蟋 鮮 臥 脂胸 妙。 水"珍 秋 禾 復 m 香 製 荆 六塵 塵 蟀 疾訪 幾。 我 渡 種 夜深綿 服。 過。日 喧 唇 N 蕀 蓝 月 前 棹。織 後 な。 芝。前 過 難 懸 拾 E 富貴 光減 滿 福 子 被 R 散 離 幾 湌 橙 政 掃 回 無 婦幕新 K 傷 器。 請二 艦腦 前天 朝 是 自田 稅 歲 盡。我蒿 野 專 耀 。春 亦 為 除 非 唧 氣 祭 越 剂 惆 夫瑟。父 法 身 III. 鼻中 H 雕 盃盤 實 齊 雪 帝。 送 一河和 帳 衣。悲、六 機 永 後程。 な。 處 受持 語。 送 未, 苅 髮 色增 寒 時資。朝 歌榮 胎。生 翠畝 園。 144 遲 多時 唯 歸 古今 力 母 完完家 唯 走獸 沙。 有 蚖 娈 佛 請 久 道 削 捫 應 = 業 有 威。 放 價 弃 不 蛇 輪 地 士 辜 剃 淚臥 膻 棲 厭 圖 Pin I 阜 町红 據。夫 不來 鋤 廻 虚 疝 延 不 膠 鵝鵙 蝙 悲 獵 思想 有 月 悸例。 | | | | | 前引 青 限 腐 H 檀 風 幅 漏 湖 更 兒 坐 溪 開 别上 死 起。疎 非 破 飛禽 作 無 齡。來 河端 瑞 偏 是 猶 殞 途往 餓 蛇 後 斷 屋 厨嶺 尼 岩 賞 欲 無 少。 苦 求 蝎 腸 居 腥 窓泣 磁。 願 歸。 7 無 列 無 依。 起 袪 妙 餘 毫 狐 順

箜篌。 筝 蓮 黑。 遊。路 極樂墀。 頌 駕 浮 悃 A 光 色游霏。 意 神 喔 赋 挑九 一細。金蓮 然遊! 15 沈 馬 印印 法 片 往 鄉 泉瓊 陂。永 其 音 瑶 酬 雅 有 來 琴瓊 唱:琐 乔 番 玉 枝。 操 復 生 注: 時 認念 飛 池 視 堤。 純 任 數 丽 袂 N 领 茶 瑟徽 中中 卷絲 樹 郷 難蛇。 宜 A 粗泥 花 灑 為我 指。 往 寒 な。 風 不 任。 1 3 娄。 隨 天 行 4 鴻 金溪 身體 認 唱 な。 雲底 和 聽三 + **餞**。忽致 琵琶鏡 精 九 翔 友。 長 喜思 樫 四 方 品 重 調 焚 世 校枕 翠 業 伎樂 界 戲。上 相 德 嵐 蓮 - 滉瀁。 風 A 潤。 佛 悠 潔 施 瞻萬德 一副 臺 銅 底 扇塵 憑 發心資。 作 易、欹。愁氣 A 曲 金波 埭 沙村 地 無 就 組 說 I 悦 吾 。彼 緩 玉 視 月 々。惠 鶴 動 妙 疑 间间 念自 削 預 六 搖 泗 易 E 威 身菲 響 韻 速 智海 意 門里 根溰。 機 吹 拉喜 儀 TI 菲 悉 月 日 謝娑 餘 無 嬰鳥 步 座 前 清 池 安 杏 测 色 光 心 なっ 此 な。 磞 佛 訓 鳥 樂 實 折 心 漪 魚 語 波 翿 1 F 轉三 府。 性 國 晰 漁 界 歌 金 畫 簫笛 資樹 王 翹 償 無 舞 金渚。 繩 夜 址 葉 湍 笛 慣 猶 慈 法 横 懣。 雪 詠 知 珪 燭 琴 幾 產 冬 前 金 雲 城

> 轄語 結 界道 跋。凡 鷲 彼 西 眉 同 並小 约 流 方 頭 彩茶 間 四 流町 大 殿。 遺 H 相 绅 衆 金梁。銀 悲 寶 布子 爲 先導 導 跡 毫 漲 海 之壯 一談 綱 桂 11: 印衰 刑問 我 相 13 M 斯。 本書 证。 修修 相 佛 生校合畢。以"古寫 等 碰 引 底 鷄 超 班 乘 行 浮 榜 佛 Fi. 接 足 櫃 間 煩 者 杜 德 須 王 普 不 矣。 樓 當 魏 楷 續 彌 樂 容货 T. 剛山 和记 相 。鳳亮連,殘跡。 証 圍 IT . 佛 排馬 作 如聚 達 願社 書 棹齊 M 斯 白 六趣 中 1115 棺 E 詩。 秋 瑙 道 肉料 邊 閇 應 生 被 教 T 法彩 船 際。 館 前 鄉 其 造 楼 菜。 光。 图 筏 黑丸 感 +: 19 小 我 似 作 問了 相 美 泛 青 17 74 部 儿 並 不 别上 生 中 慈 蓮 牛 死 瑞。遊 技 是 平: 音 肿 開 舊 死 化 尼 H 王奇 11 海 旨 佛 月 知 AILE. 服 枝。 却 期 涯 隨 退 服 背 七 玉古

寬 永癸 孟 春 吉旦

條

通菱

国

町

婦

強

林

世

右

猗

四

通造

た歌 小 IL いの 野 東 ふさま 0) 京 小 山 2 町 よ 小 カコ は 町 5 衣 物 वे 語 ओं 0 姬 浮 67 0) 册 は 流 は 源 よ 15 比 3 6 給 30 九 à) 5 11 編 な 32 1/3 0) な 今 3 集 なや P 0) 5 序 8 1= る て。 云。 所

在 承 師 72 かっ あ な n お 0 るに似 云云 良 和 ならす。をとろへ ほ れと。此ふみ しっつれ 御作 質 0) 0 bo カコ 0) 頃 カコ 0) 0) 72 女 な 小 n bo 目 2 人 とも 町 也云 錄 あ 治芥 清行からけりとい 草 かっ 0 に入 h に言。小 本國 盛 よ 一副 R 72 かっ 抄 h n な るさまは。 5 1= 中 1 50 言 3 かへり死去す。屍は八十島に 抄 八雲御 Da 野 ことの は。をうなの に云。數十年 出 0) 大師 小 37 2 抄に言。出 町 0) 玉造とい は ふ説あれと。 郡 0) か事。きは 承和 0 同 在京して。好色 0) ち 歌 0 羽 女。仁 0) はし る書 13 0) 事 め n 郡 にやっ 明 め 高 T は に見え 司。小. カコ 野 3 (1) 15 大 時 1 猶 72 る

あ

5

T

111

山

72

30

り。此 とは す。されと古今集い つけ かっ 卿 b (1) 3 72 あ 弘 る 業平 b とも 5 よ て。業平とは 0) L 小 くに 1= MT 5 見 カコ 下り せもの 60 髑 72 機 童蒙抄 るも。 いり し人なれ を見 はす。又質方とい カコ 72 て。あ 72 ·袋草 り。大和物 L は。 なめ カコ 紙 なる 3 1 3 は 本 事 カコ たり 傳 72 L 0 あ 下 を 3 說 72 句 3 あ

> る事 見 \$2 は。小 -T-餘 年。む 町 カコ カコ 3 L カコ 0 5 美人なりし は。 仁 明。文 事 德 は。た 0) 頃に To かっ 1= 今 見 智 3

科(0) 州名 1-里 り。小町 清水有 0) 鄉勸 跡 名を 志。雍州府 櫻 かっ 修 小町 といい 寺 O) の東一町 草 2 5 紙 志等を案 る。此 re 南 餘 5 所 に在 るに。小 ひし 1= 小 5, 古 町 跡 野の小 0) 小 とす。 塔 町 あ カコ 町 50 住 古 カコ 木 1 カコ 家 12 所 0) は 櫻 は 2

散樂秘 邊 關 伊勢參宮名所 つて近世 に住 寺 0 中(0) 72 跡 な 实 3 秘 3 h F: と云。木小 亂 事にして。其人に 63 圖繪。江 S 舞 英 會 不像あり。 宴 州 時 1-志賀 0 \$ 歌 すり 小 湖5 りし 野 の條 あらさ 小町 事 關寺 なし。 年 te は 老 小町の能 なさす。 L 安寺 關 寺 は 是 よ

露と 南 は 思 n な ひ は h 我 身 0 は てや あ 3 みとり 終には野

0

終るまて身をは身こそと思ひけれみつからしつる

又草庵

0

柱

1=

書け

ると

のへの野送り。

さとさし 小町といる窓 或云。小町關寺に住 め h かっ 曲 72 は 小 め L に作りたる。 町になそら 事。何の 書に へて。 も見る事なし。關寺 作者 人世の の寓言なるへ 盛 衰 智

秋風のうちふくことにあなめ~おのとはいはし清輔袋草紙四 ニナ九夏亡者歌 小野 小町

すすか

お

ひけ

30

歌詠。夢 人ノ夢 屍ナリ云々。 取 "其髑 = 慢 サ 平 3 テ。 途 テ = 尋 閑 見 目 所 = = 0 3 置キ IJ 有: 薄 ヲイ 又 髑 1 一云々。 體。目 B 1v 人アリ。稱二小野此 3 此ニ知ヌ小野ノ y 源 生出 汉 り。

玉造郡啼子碑

夫啼子村處于 于羽州最 然易首爛々乎。鳴子嶽乎。堂 £ 羽5 境 王造那 田村。此 西 山連亘數千里 北 隔 之則悅自失也。胎孕源猶 仙 都 里則百二十程。降 何 瞼 佛,峻 其 德

> 岩手關 出一楼, 者曰不、然羽者敵國。主順而可乎。從。侍臣之言,矣。經 融 鬱劫 行 矣。此靈泉之功乎。號』此邑一稱"啼子」云爾。 娩。平龜割岬。產。於男 避"於脊令急難,矣。至"于羽州。妾靜相陪從矣。 定保者、舊家綿 突 则亡矣。今存"于口占 所燕勃 熱湯而下亦功勝,于它山者顯然乎。 唱"鳴子」者乎名聲籍甚哉。此之由 到于此地。有 然換然乎 々焉有。舊志及辨慶之書藏家矣。爲礼 、嚴頭溫泉平火道相 告温泉 者。浴 一號謂。龜若君。浴以。蟬溫泉 舊話云。文治元年。源廷尉義王 世子於此 益駕 並 則 **停勘** 矣。出 有 有身矣 始 左 45 一矣。從 硫 泉之 imi 衛 門 或

左衛門者。 考。可。以旬。天下之名弊,矣。 治元年二六百十有三年矣。予被一本堂樂選。 年。經,營大厦,爲。街巷,矣,至今則百六十有二年。自,文 賜。佩寒云。寬永年。前人屋。二亭以,茅葺之。同十 獅山周侯士四汲 之亡矣願選,口占 委奏,于舊事,聞,溫泉功,矣。 ~ 平好 矣。欲,使予招,于里 勘左衛門定 不」置錫蔣是詢。 一个保者。 而 周侯 選者事矣。 有。鳴子之 嵯。舊志 雀躍矣。 湖

厚矣感激有 餘 不 這 Thi 亦。 則 **共**赫 々乎顯 於 後 世 彬 A

子

矣

温

泉

出

于

兹。占

所

FIT

温

泉

闸

社

地

今

無宮

耐。

以復 古之記 建 碑

時寬政十一 年已未九月吉 辰 就

右 任 撰 願 者 仙 啼 子需 都 今 遊 佐 H 勘 定

左 恒 衛 大 門 原 定 撰 保 建

大沼 大 沼 善十 郎 良 次 加加 3 同 建

需

m

啼子

石工 江合。

主

仲 計 Ш 略 山 書 鈴 木 珍 平

玉

造

郡

啼 封 內 兒 名 温 泉 蹟 子村。 志 卷

前 條 詳 响 社 之下。

温 泉 闸 耐: 子在村鳴 已下 = 社 共 見 中市 名 帳。

斯 疾。其 地 有 夫 北方日 人人開 温 堂。是其 聲。後人號 胎於龜毀 =老婆湯 社 共。共 地 坎。 也。 地 辨慶藏"之笈中。 名 温泉自 相 傳。 往 岩 年 部官 出。 來 於於 酒 克 治 京 斯

地。

始

出

瓜

17

其

地

于

啼兒。鄉

俗

轉謂

鳴

徒 趾 m

牡 鹿 郡 蛇 田 鄉 古 碑 福一尺。六七

817 重也 田 造 4

狺 猿絣 洛。 感會緊 矿 除於 伊 ŧ 水 門具 家開

鈍

崇之

字或日星氣。又日壘易。其義余未、考。

3

埋與 塞同盖坐字落-**吴** 豐 字 文 **ジ**文。古 当会会会 **財** 神 字。 ブケ 古 **幹** 7 古字。 而實康鄉註如淳日幹轉也。 · 安古 美深字。未、詳。 湍 拜字。

立疾馬 臒 鄉 右 追 此 Mile. 田 遠拜脩 道公公 砰 昌 寺僧 IL 之碑 方式以中 感 門 FT SV 惺 なっ 亨 竪 画之以 府 和 碑 矣。 1 元年 。下"幹於伊寺 寺僧 土人 Ŧi. 將,建,供養塔。求 亦 月 賽者日 。得 官。文字剝落殆 奥 水門星 牡 多。 應 洪 郡 赤 或 開 石 有 輕 卷 鎮 穿 港 作 土。偶 者 可 皆 田

者。因 爲若字書。 俳 附 。公頭· 末于 後云。 盖公戰沒在 年。

先 於那 賀須 帝 Ji. 碑造-。碑 十五 华丁 uli 去 享和 华西 凡千 四 百 三十 五.

無 道之手 蛇 則 矣。是後蝦 日 人得。免耳。故 為蝦 本紀 一發.順 知 纒。與其妻。 日。仁德帝 夷 目 الز 所 自 し敗以 亦襲之。 に湯 時 H Fi. 人云。 死。于伊寺水門。 乃抱.手 十五 以 略 H IFE 人 年。 道 蝦 纏而 、氏。因 蝦夷 雖已死 爽。 悉被 統 叛之。遣。田道一令 以 掘 沙山 時有"從者"取"得 逐 贮 Ш 門 HIF 壶 道 人聞 智能 1 m 何 多 之流 則 死 死。 有 之 雕 大 游 田

墓人。 蝦 蛇 之。造。墓 和 悉平服。異之謠 臣。其從 夷。田 歌本記 出 自意 道 出 納 上。武篇 臣 1. 弓戰 玉 中。 户 過"嶮 鉾 。蝦 的包 者。 夷 沙 日。高津宮。十七代 難。夷賊 盗.田 夷 道 賊 間 首 其象宛 之大怒。 咋 道 等。 臣尸。懷之縊 = 衆 知,其 如 **火。大** 軍軍 。李衆 御字、命。田 陣。餘 所に続之 殺 城。途 來 死 灵 破 矣 三其 等恐,蛇 不 道臣 墓。俄 形 殺 咋 员 田道 山水 造 威。 学 大

陸與者繩一筋之懸引于治今矣總一筋

用 道臣 居。 為"灰 [J.E 被 国 Kin 死 H المالا 助 死 Ting 鬼樂 朝

就生也焉

而沙女

極焉 宿 後 部后 淡 臣 逾 按。二背 於遐陬。故 言 俗 而 文有:拜 態門 勁 不 順 一賞。其 pitti 足 憤烈。發, 語歌謠, 從容就, 死。而 也 心其。白 蛇 殆 。王師 流 見 卒.蝦 简武 現。靈群 可可 所被 修 功 之言。 筋之謠 交有:下 一 日 りき 不一振。將 吾壽者千代乎經而 而不、知、文 記記 品 雕短 之由。以是 計 福 兒 な。其 碑一年之光。 可不謂 之類 则 畏服 亦或 幹 簡 軍殁。財 N. H. 之言。 不元 修 业 朝 理 灰 1E 或 亦 ना 悉。頗 红 -世 靈哉 哑 々自 狗 斑 以 上古多不 河。以 手。朝畿 以 心學。 爲 朝 後 安。 此 央之膾乎普 足聚共事質。嗚乎公 帝 朝 與 版 4 红 赏功慰 思悼 砰 狂 靈所 A 於是恩優 命 2 約 記 二文臣 mir. 所 部各 世 LI な從可 樹一發掘之後。故 版 作 沙 私 16 反 記 Ti 。喻教 兴 第 術 如 ない 泥 製 光岩千有 The long 大 泛 是為河 非 乐 周 館 将 115 訓 形器 資 以 TI. 小 沙沙 il. 护 忠 191 被 馀 1111

錯.中 年矣。以 乎。抑 前 外。各 朝 靈 出 說。以 是 與 土 幅 叢 之 庾。往 胃以"佛 未」見" 第廟 忠憤身沒"於戰"循思。與 村麻呂。源 以以 廷 矣。 國。 者 知 年 夫古之德 二古墳 名。 乎後世。盖可,前 代悠就 蝦蝦 卉 問 乃公經 無 義家二公之攸、居。以、遺愛 習 赤祭 服 處戰 攸二在。及所。以蛇 朝 所 不 底 民率廟 知知 何 千戦 容 廷奴。蓄之。畏服 獨 争。 也 古古 疑 会が 。中古以還佛 而賞.夷膾 何 HI 酮 近 人陷 知 洞 已。方今昌平 以 爲公所記設。 而 々奉"大士薩陀之像。多稱"田 III. 辨 金。 逍遠乎。 蝦 堅 H **虜**。德 其或 無二。貢產 為鄉 之謠。 碑 敦 紫 熾 存"于 及于 所 化 今碑千 銘 亦 名。 東 殆驗一千數百 証 隆。 之事。其 或 名 民也 民 證一皆有 im 不。斷 寫 群蝦 今而 四 山 僧 深 百 洞 立。自" 部 去,游 侶 况 海物 徐 车 廟 所 威 皆 昼 年 丽 混 而

享和辛酉改元夏六月 仙臺奥田直輔良弼識

嚴美溪橋之記

陸與國磐水天工橋記。左近衛少將源朝臣定信題

額

壁画 餘弓。 伐木 之妙 水窄 陰相 以沿 壁。為 木 猪 流 水 蹶 奥 合 机翁之所 甚樂 岡里正 出.州之栗駒 則 illi 中 益 而 ,量委凡六七十 可可 雖有 规 城 默度久、之。以 河之民。适途往來。自 人。悍然而瀑。泊然而 於 密 梁 石以出、東 出 水之勝 激 松 火架.飛 之。馮 山召。匠 為机 水 險 佐 縮 能者。殆不可狀 藤 圖 復 匹有半。下 為礁 橋 概。 時 撰 卼 雖 الا 而 他 西三百步 茂。聚. 里民 文 m 訓! 自號。而其族汝 mi 里。獨官道之當一 曰: 五. 爲是溪下距 東流 郡 起 濟力之。亦恤民之急務 為一殿洞。 がた 。胥 處崖岸 册 架 串之溪。 無後柱 為是從。 黎 Will. 。南北 桷 古 府 m 商議 淵 沈碧地 馬并 病沙馬。 内 殊 版 史局 一關一十有二里。 磐水之來。淙 法 居"十之一。此余老友 形 溪中 以 朔君 整孔 双规 IE 製以 異 利 暴 漲 뎲 直 民皆 介 白層疊 態 之石。 寶隆 君之繼郎那 行 II. 治 南 會 奇 =欄 沙 興 源 峡 踊 -11: 香 請 漂 析。其 価橋と 弘 之巅 避各 乃與 流 皶 橋 Thi 歷 肇,工文化 湯 北上之 暨 馬 100 なだ。国印 落。 地 器 峽 是 TI. 疾, 出 桐 IE 三溪 灾 力能 寫 Till I 其 布 -1-川村 大 也]1] 是 南 1 :Jt 大 崖 顶 IIII

今居"伯

府

精。歐選巴之學。

事

聞

大

朝

志奉

旨

孫 譯

其

如 紀 民之功見,於橋梁,者。殆百數。或木易,草。或石易,木。 無有源 所營耶 行行 元。告。成於三年 出 隱。悉聚. 途。雖有,浮濟 塗名曰,天工之橋。君之理行久服。郡 一驅之內。民皆額 十二月。於是昔之病 。萬不可 犯 其手,日, 水 石之奇。小大高 沙潜。馬 中。而 此豈神 牛負 便山 皆 之 深 擔

奇壯。 樂. 共 末。與 籍以告夫世之樂。 喜其 餘 坝"於悠久。而 年余始東"遊 小而 大 · 翁之所"甚樂。以附"里正 則游 M 位配。途 奇壯。而惜,未,甚顯,於 者自領之。余問 斯橋之造。最其章々者 與。晤,君之弟子繩於德臺府。因 北 松島之偉麗 訪 君於紫井 不能 時茂。命」刻。之溪水上。又 者。併獲,津速、馬 世 、狀已。五串舊名 之中 也 % 里。偕游 爲叙。其造橋始 有記也 一概 松 是 一嚴美。 溪。又 後 如其 島 +

宮城

君[5

作

並邑溫泉地坪

之碑

書。逐 來一 春正月。 國 稱 序。 日 門。又可」尚也。仍獲、聯級 支澤先生。子繩 得"以"曾臣 亦以"名儒 擢"任其府學々 素と朝。諸 名清 Ale: 神 稱 共說 民治。少 而書。文政二年歲在己卯 頭。異材績 老 與。余同 皆從受業 學"昌 同 時 平 者 咸

猪岡 里 佐 藤 時 茂建

之間。 作並 今土 我 重 溯 我朝當二 勝。于 相 湯。 距臻.于奥。 公復 俗 藩 一去。都遙。 時黑鳥 將軍 稱 城 以 之西 野州 調 爲人々須声方 元正帝之時。養老辛西歲。 源賴 來擊. 頑嚴崛之間。公卒爾往 御 蹈此 。爰有"温泉沸湯。葢名湯 北。皆 自 坐湯 朝公丁,東 那 環 图到 須 乃其處 境。我 縣鹽原邑。 愈 Im Ш 疾 征之時。至上 也。連峯之間 也 苦 N III 湯 推崇以量宮社 拾 溪 矣。 村 此 釋行基巡 11 窺 路 州草 個 云。傳訊。其 森 見 乃探 及有 以 颈河 則 视 津之温泉。 來 Im 作 H 阅 龙 北 以 温泉 並之 建久 人 洲 山 謂 祀 泉

其

國

語

同

故。

延騰

獨

用

无

串

今從,之。大槻

氏

終非

郡

舊

族

君

名

清臣稱"文作。以"族之宗子。

世襲將井

郡

E

一。好

吏風。翁名茂質字子煥號

磐水。為

本藩

侍醫

栗駒

山蓋有。嚴美之神。

溪與人村因名。

後訛

爲

五

串

以

續,用 命之。 政丙辰 Ш 其浴泉去之狀。於是乎公勃然意 有.人携。弓箭、來云。放。一矢、射。其翼。欲、獲、之。公乃告。 莫。人跡。可以問 此山,日,鎌倉山,云。輙邦內風土記所,載也。 涌出。一鷲乃降之。浴,于泉中,頻也 狀。余為之謂曰。雖有,名揚可一愈,莫,其人,乃止。 畸天 能復。勿、藥致、喜者弗」遑、枚舉。喜總治价謨、余曲 間辟遠之境。 男名壽隆喜總治者。知、歎如 忘,行路之難。遂歸,鎌倉之鄉。而 藏。當。浴。于斯 百人。殆無。虛 信壽者。卜...居于兹 一云。公咸格之餘,葢取、此温泉之風景也。以故今稱 而為"其 歲。達 喜總治努力截。石洞山。千辛萬善夜以繼 辟以為"一邑。 日。而 功可調動。今也疾苦者至,于斯也 一其愈。想寄驗之湯也。公亦浴,泉中。 大邦之公聽。請,辟,其 "終始」為上有也 一份乃其 面愈,舊疴,肉,金骨。仆者能起。痛者 古。世名藤原壽縣 其家故無, 儋石之儲。謀人 此 名湯可"以助"人 。蓋有"岩松對馬 摭,作 卒職.飛於空 土 並之勝。以造"假 地。 乃聽 部 疑々 秀藏。 尉 11 训 心數十 去。忽 告.英 實寬 喻然 地 藤 物 E 凹江 IL 原 Ш

命"于石"。 之奥"土功"也。固無"間然"是為"仁之術"乃以為"不朽"途

岩松十二世。名藤原壽長諱善藏修造也。岩松十二世。名藤原壽長諱善藏修造也。

仙臺高田衢表道碑記

錯出 距:高 是與"某々等」謀。建二石於高 前慈恩寺住廣陸上人。近卓, 錫於廣田 未,經,名人鉅公探索欣賞。 樵漁賈豎日來往 望廓然。洋溟無際。 島霧之間。樂而不」能"自己。又愛"其醒晦無"人知 獨領"其奇。堀籠履卿偶訪"上人。 岡陵起伏。綿延逃避環,其 ,其超妙勝絕之觀。與"鹽窟。松島 田 東數里、抵 - 海灣。 陂 陁 煙煙雲絲隱 左。日。宋崎。自 田之衢。 蜿蜒斗人 見出沒。 相與賜。肆心目於新復 以表其 对 果 此 村河 川島 其 館。朝夕對此 酒 石。日 123 道途。 而轉然已 则 清 ini 上下。然 711 也 眉 朓 庶幾 學可 111

勝游者之一窮討。寄"盼睞於此。亦不"獨樂"其樂

也

夫

島,並馳齊驅。則固為,因,履聊。而微,上人,亦無,由,以勝不,自勝。因,人而彰。異日其勝之彰焉。果與,鹽竈、松

得,此。則曰"因"二人者,彰,而可、履卿乞,予記,之。刻,諸島,並馳齊屬。則固為,因,履卿,而微, 上人,亦無,由,以

文政庚寅秋八月 石原患者增島

固記

其石。乃為記。其事。以告。後人。且待。彰之日。

應。堀籠魔唧需。客。題仙臺廣田勝景。

詩佛老人大窪行書

侗庵 古賀煜

筆。爭教』山水倍』輝光。 著高人, 名始彰。吾乏, 永州司馬

篁園 野村温

天星。他年願挈"吟臺,去、收"拾煙霞,入"畫屏。東海曾鍾造化靈。就中最好此禪亭。湖回"衆島,分"鰲

五山池桐孫

鵬雲垂似」墨。翠岫列如」眉。誰復同,廋信。寒山愛,此风暗松島勝。今識氣仙奇。雙驛分,村路。千家接,海湄。

码

青柳文庫記 益城松崎復撰文 男谷源思孝書

堀田左京亮紀正衡題額

於是喟然嘆曰。我今則可以讀,斯書,而達。夙志。矣。精 画 已。於是從"買人"學"貿易。十餘年間。家願小安。有"書千 志。而貧莫以養」之也。處士又以爲讀書無、資不、可、得 已,乃從"時之通儒金峨井上氏一而遊。金蛾雖,愛,處士之 稱於世。以爲醫者意也。以意意。人之病」也。非...聰明 世之士子欲,以,學業,自表顯。而退,居鄉曲。患.無,書 讀且賈。 餘卷。處士以為此可。以學主矣 理者。安能任之。求"其聰明達理也。非"讀書不可得 為業。處士幼壯生,長江戶。年十八發憤。欲以,父業,著 時者。不爲對馬 可,讀。欲,遊學從,師。思,無,資以自給。 金。而 所有書殆二萬 日不"暇給。途一意權"子母」而行。 初處土之父。居一仙臺之東山。以」醫 餘卷。則處士之齡。 又以為吾今年紀已大。且 如"青柳處士少 最 亦己七十 後資既 矣。 沙

中。至 文庫 楞目開莫,能為,已。不」如,使,付,之世之士子,如,吾少時 驩,以全,交乎,君子之交,人循恐 也 滿,於俗士之心。君子喜,成,人之美。如,其所 其為二人。烏敢 也。余文雖」拙不,安許,人。然已聞,處士之高義。又了, 望羊,喜,飲 乎。急延,之而 將一勒,之文庫之門。余聞,道生之言,驚日。 介"余之弟子二階堂道生。來"羽澤之山。 者。臣今雖死 食以"其贏餘。與臣父之里貧無"以自給 病無"以藥」之 郡東以歲時發劍收,其十一,以供,文庫之收理。 肄業飲 荷能得。賜。府下空間 抱」志不二能、遂者讀」之。 一。遂叙 以藏 「請割」資千金。買,粟於東山鄉」賴, 其颠 斯書。 酒 末 及百 入。處士年如。五十許 亦莫憾也。邦君聞之。盡允、所、請 拒,其請,乎。顧處士之爲,富也驟。或不, 。嘆息久」之日 許"士子骚客醫卜遊方之人」肄" 鍾 地數畝。 而不、亂。 回就 使 。禮不」日 其恪 。臣建一倉。名曰 余益驚日。處士誠異人 仙臺府有司以請 世 豐頤 ,君子不,盡,人之 請 大主之靈。使 世豊 况乃於,布衣 記石之詞。 短短 廣額。目 有 不。論可 斯 於是 青柳 業其 如 人

府百 以近近 則存。 已。此 松川 斬情。以成, 士子之志於後世。則雖, 君子, 亦恐不,能, 為 以"二萬餘卷之書千金之資。施"之於不報之地。而不"之 唯恐,其不,饒給。則有,施人之心。亦不,能,及也。乃今 其所"好美。而凉堂温室園池之奉。 以一錢一龍之於人。其侈靡者。衣食之欲聲色之娛。恣 庶人之賤, 乎。今之富人其纖嗇者。 義。則其書之得、所、託而傳、於悠久、也。 盖亦出,於金澤 託"浮屠,以傳。處士乃今以,布衣庶人之賤。而上託,之於 足利之校以傳至一个。 書。託"於稱名之寺。三百年而後始散。上杉氏之書 上杉二氏之上,者。洵足、欽哉。文庫地積百餘步 磐石之大府。而大府之景。又能受之以終。處土之高 邮中 騎町醫學館 H 余之所"以 失所託則散。古今藏書之家。不過 所 里 "親睹。如"藻疫堂紅粟之齋」是已。然金澤氏 者。 益驚而嘆」也。 南。余所、記 處士自 彼乃以,執權管領名位之崇。而 在 "碑記。此不"復赘述。 是也 抑又思之凡物得所託 」。如 藏 所 資累,千萬,而不,背 以自樂。其身一者。 粟之倉。在 在 再 。在.仙臺 傳 託 東山 illi 散 於 之

達。其名"文庫以"青柳」者。竊沿"之於金澤氏例」云爾。 出"於大中臣清麻呂之裔。名文藏字茂明。父曰。三

天保辛卯八月庚辰朔建

青柳倉記

江戶 青 柳 文 滅 撰文

福山小島 知足字 止戈書并題額

原系. 共利。 飲散於 業。又於,臣之父故居。磐井郡東山松川村。賜,中里之地 館。地積 市井之臣文藏。平生 記 書日。庫倉之事。使"有司者看掌永世不上廢。臣拜"命之 穀。與東山之貧者。病者之不」能。自活:自藥、者,更賜 如"文庫 金、上、之仙臺臺府。 。動。石於文庫之門東。 叉每石學"息若干」以給 東山中。 廣。建者青柳倉。以「所」上金買,栗四千石。以「時 百餘步,建,青柳文庫。以藏,其書,供,十子之肄 m 與"臣父之宗族。故舊。隣里。鄉黨。俱 退 越一歲文庫 所,聚四部書、凡二萬餘卷。藉以,千 太主引見。乃賜 旣 而中里之倉亦成。 文庫之修理。肄業者之館 成。臣請"益城 "府南百騎町。醫學 是事 松崎 之緣 子撰 同 穀

業,而顯。父祖之名。耳。不幸有」子而不肖。則父祖之績 不"感歎泣下」也。一旦又自解曰。人欲,有,子者為,傳 肄業。則吾子可」謂、得"其所」矣。藉以"千 得 敗塗地。不一若,無一子之為二幸也。今吾不幸次以 山 其勢既不」能」返,先廬。以爲他日荷得,有,子。當,送,之東 起既詳"於文庫之記。則臣但其成之歲月而已。然其心之 此書乃吾之賢子孫也。 則孟子所,謂不孝之罪。吾居,其大。每一念及,之。未為嘗 倉中,曰。臣之祖先世農。及"臣之父三達]胃 矜"臣之愚。買"粟於東山。以」時 而已。遂以"其書,上"之 爲、醫。俱 修 放舊。隣里·鄉黨。同"其利。而舉"其息 所"感觉 。藏書二萬餘卷。亦可。以傳,其業 理肄業者之館穀。與東山之貧者。病者之不」能。自活 以使"守"父祖之墳墓。今既開"八袠、恐未、有、一弱息。 與欲言而無已者。敢 居"東山之松川。臣生小入"江戶。逐"十一之利 大府。大府受之。以供、士子之 其宜。早爲之所,傳之以,其 綴"拙劣之詞。又勒"石於 飲散。與"臣之父之宗 而顯。父祖之名。 若干。 金而 以給"文庫之 「小野寺氏」 無子故 太府 則 族 亦

Tr.

於所 氓。往 大侵。 周 太府 出於 歲 四 可"以 自 今五十年矣。前 青黄未接之際。以 一計"歛之。不幸歲小不」收。則蠲"其息之半。 方。 心 爽 如 之封 猶 委人原人委積之政。至矣盡矣。今雖 者。則 救荒之法。 不 居崇安縣之開 発 有一至 州 太府 以為 子社 抗抗 出 疆 白 所 幼 有 倍 川 憂。過計諸略陳之。凡天灾 再造之大恩。所,謂臣今雖,死 山 客 倉之設。 傳 弱宛 师。 而 稱 以 1途。而 谷細 時之不戒。後貴之鑒也。臣嘗泛」覽古今 之業, 往 臣 救。民之乏食。及 之息。 東。仙道 來 亦 鸭 民。 耀 不」如"七郡之惨。 無上 地之荒菜者。猶 則 得に結乎 溝 。貨。食豪 因 鄉。借,常平 沙 無蓋藏 世 七郡 以 誰 策。臣少時 道 不 患 村市 野 墜 而謝.無後之罪 右。 有 之積 所 無青 秋赋 而 米六 泥於 在 此 未悉復一如一昔者 臣之父祖 丽 相 而 新 厄 已畢。 草。壯 流 百 荒 未 睹 枕 陳 亦 亚 亦 石。 行。 籍。 歲 天 爾 朱 易.飘 哉。 無人憾者 毎 者 句: 乎。 明 大侵則盡 無世 馬。 接 時 雖 之名。 年 流 耗散之 乙卯之 石 朱子 於 散 雖 及。而 以 磨推 此 加 無 之 也。 之 是 樂 息 心 皆 亦

米若 三千一 貸 山 若干百石。以 赈 散 ba 千石。爲,米若干千石。除,文庫之修 十石 食 滋。荒萊益關。殆大國東北之一樂土也。有。望焉。然此 量之年。則 及 年其積至。五千石。以是一 百 獨之。凡 千石。為"米 濟。歲用二百 。假令及"十四 食之困。雖有,大侵 東 云。 石 鄉永 干百 4 爲 山 臣市井之人。何敢 百 猶 社 + 留 若干 石。 郷]則 僅 足 倉。不"復収」息。每 四 後 今之三百 以救 則子 二千 石。修 年。以...元數六百 萬 石。所 更不」收息 年。子 足 若干 石。殆 五. 矣。夫朱子 開 理 。餘亡盧萬若干千 亦五 於母 耀 亦 石耳。 干 館穀 七 発 石之儲栗。 望其法之通 鄉之類 鄉之間 邻 於 倍 矣。 赈 流 朱 朱子 石 小。 齋之用。 配 石 石 雕耗散之惨。而 然僅 子行。之十 止 倉米六百 止 远 則通 食 。雖遇以 理館 所 收 收 官。 今目 矣, 不 備 耗 莫不 耗 行 右。 子 但 米 流戏 以 米 今中 矣 之 [1]: 四 石 無 為"米若 三升。 三升。後十三 東 現 大國。 年。人不, 缺 一、宋量 一號 依 一得 年 樂歲 Ш III Ŧ 米 。得 其 給 戶 東著 乏儲 Ti. 三千 貧 亦得 但 法 息息 居 倍 mi 干干 病 口 Fi 一余 亦 稱 東 之 益 米 Ti.

言上 賜。是歲九月二十又五日甲戍建。 八月倉成。 及金。乃賞"賜臣食十八口米。又明年辛卯七月文庫成 也。文政已丑三月上請献。書狀。天保庚寅後三月献。書 待,十餘年後不,收息時具書,於碑陰。俾 **洵東山一鄉無窮之大幸。而臣亦預有"餘榮」焉。因以"是** 能於,斯垂意。則洪恩之所,及。不,特治,臣之一家,而已。 來者。若其 在。看掌者之公康。與『綜理者之詳密』而已矣。 出納之詳。子母之積。歲有 太府。而 庫 倉所,用竹木碑記之材。皆出。 太府介"其言。 乃退而記。之以告 . 豊歉。是難. 懸 。後世有二致可 太府所記 太府芍 擬

栗原郡鬼首邑收馬碑

> 馬事中目安堅。又克廣"其業"逐建白 於,是牧馬之業復興焉。事在,文化七年。暨,文政 乙亥歲饑。邑民阻飢。牧馬之業途廢。而良馬亦不」出。 不一忘永不區廢。其 謀,鐫"其事 成之功。何以 之出。良馬、雖、日、由、水土使、然。而非、有。 與"賀"杜馬:之資。賜焉於是出。良馬 御厩愛馬號"綾波,者,與"之邑民。且歲賜"蓊料 可以為言。於是國相岩崎主中村君。議而 於石 亦能至。干此一哉。里人大場東右衛門者。 八業。也 |傳播無窮。盖欲,使,其民威, 戴德澤,而 一个看上古馬。蓋斯 以之 白諸 上乘 君上致 初。知 數匹。併 金岩干。 公。出 裁 H 有 收

天保二年歲次辛卯秋八月

影田隆惠撰並書

仙臺金石志卷之十終

目

次

神 祠

大崎 八 幡祠慈臺

事 表 龍寶寺鐘

附

龜岡

八幡

祠擬實珠

倘

附

千手院鐘

涌津八

幡

洞

鐵

五

普賢堂熊野

丽

鰐

口

東照宮鐘

附

排

表

前前

橋護銘

4

附

村

田

白鳥神社

邑大高鰐口

宮城

洞鐘

小鐘 內藤以貫

宗阿和

熊野堂鐘 迫

附

石川 利吉基則 碑

稻屋敷八所宮鰐口

八幡 那智山 洞 鰐 爺 口

二五五二

仙臺金石志卷之十

仙臺吉田友好編纂

神 而

大崎 八幡宮華 表鉛

奥州宮城 那么 當

宗卿。相"攸於此地"改"造其洞廟"方 朽 八幡神宮者 君。取, 瑕石於州內東山。為, 華表, 以創立焉。欲, 永年不, 也。 。州人之所"奉崇,也。慶長年中。本州牧君政 今其昆 採 龜千代

銘曰

敬。惟國以寧。永與,華表 嗟國之爲、國以,有一神。嗟神之爲、神以,有、國。惟神以 商年無極

寬文八年成八月十五日。 閑齋叟希顏敬書。

大崎八幡宮擬法 珠

供養 軌 範師 法印 大和 倘 位質

仙臺惠澤山 八幡宮御寶前。左 擬法珠。

大檀越藤原政宗公。

慶長 十四 年酉己 八月 十五 H

莊 尾 山 城國 上京 條之住。津田次兵衛。

木幡杢助。 早山。 定

奥州宮城郡。惠澤山龍寶寺鐘銘並 序

之道楊矣、院也治府構、南。秀嶺景鬱祗林連、北 否。皆 前。白月入觀。朝瞻夕眺 茫。 山門巍 澤山龍寶寺寶珠院,乃奉」之而後之大別當。乃三密瑜 並. 甍擁,護大邦。乃是 藩府。世欽,英靈敬,存明祀。 恭惟大崎之社。乃三女垂蹤之窟。五城鎮護之壤矣。三靈 新範於 之能。日若實曆癸未之春。隣里有緣之緇素。捐資勠力, 地府林辛之福。廢。巨益一莫大馬。徒愈為之嘆,蓋愈為 口。葢天文中所掛。而星移世久。物何堪」舊乎。 不」振。朝誦暮課。亦將」有」闕焉。至、若。吨玉免、刀輪之緣。 有,因緣。今是學也 々。仙佛影向、松杉欝々。龍天 ·換.其古鐘。 而永傳 。何暇指數之乎。院常有 就調 匪良緣 一于不朽 The o 乎。嗚呼赫平哉 皆降院 惟夫物之成 鯨聲 一洪鐘 清流當 廣原渺 恶 伽

大因緣 鳴鐘之偉德 登、大菩提之果位、而己。廼 。其功 鉅 唐指乎、尚 聖 非性之 以 迷 爲。銘曰 此 眠 過 福 德 慰 力與法界有情。 三途之劇苦。 是此 俱

鯨證 傳 至。明 A 東奥之鎮。雜實之寺。山崇不、蕎。野曠 說 開,實池。福期,方昌。祥光呈、瑞。代襲。龍 法 前 瑜 法 降 莫不 伽 一分鐘聲 福 不 匮 。僧伽献、秘。力等,金湯。威 呵 、梵唄喨々。群 字。遺響聞 般 公若句 義。空寂 處。生。金剛 生破 清淨。法界 睡 拾翠。維背侯臺 米の常 位 仰完帥 素散 光。四靈將 致意。撞 財 乖 頂

穀城別所玄李

聞老志卷六 宮城郡

輣

蹟

大崎八幡

之盛。山節 A 十二年八月十二日 在 中藏龍 城外河 五 郎 藻稅 珠。仍 北。慶長中。 者影 恭 為一 刻。 一一 落成 而 青 號。宮社 妙術 光彩 黄門君遷』之自"玉造 。社東建、寺。日,惠澤山龍寶寺。 之美。其 在上左手。 也。额闡影 所 時 莊 人稱"左手甚五 嚴 者 「富麗 那岩手城。 。天下之 結 構

> T 齋作、銘。虎岩道説書、之云 以致"修造」加"莊飾 飛動之勢。如今現发存焉 郎。是以今所」存之人物。禽獸 國之奇觀 也 爾後寬文中。 -[13, 此 。非後 11.3 建石 花草 後之太守網村 世之庸工凡于之所 華 。蔬果之象。自然生意 表。 合 臣內 君。下命 旅 及 関

惠澤山龍寶密寺小鐘銘

載規 其用洪大。 法食 能仁 龍質之寺。 內 藤 集衆。 占勝。 "異域 以貫 其德 瑜伽 金容放 呂律奏商。 留迹我 無量。 道 光。 場 鄉 所 院 经分 優 古鐘 願 挹 林 塡 應響。 神 摸 111 失所 逃 像 水。 虎岩道 國家永康、 毘 经司 地 新器 J.V. 休錢湯。 到 天長、 個 説 出。鎮。 能

好 仕.於我 籍。博聞强記 閑齋氏內藤 人温柔寡默能 心問。二 國之事。仍數讀,三國志。 先君 晚改"以實"長州 能赋詩屬文。 寫 忠宗君。而 ...應對 一放 甚蒙恩 領三百 人也。少好"讀書"涉"獵于 叉學,擊 石。 逃 忠宗 劍。 也。老臣 常 君既聽。繼事 密 頗到.精熟。 其左右。 古內 主 膳 為 于 省 群

伊達家世臣傳卷下

伊東七十郎重孝傳

貫

=

-

重孝甞ラ

道ヲ内藤

閑

灣二

聞

宗君

儒

士

=

3

ラ草書ヲ善ス。

十九

册

綱宗

君

開務名ヲ以

H

下云。宋地三十四

文ラ領

ス。十八世

忠

7

甚長 家譜。 自知 子孫會得。罪不。得 病不」勝"官務。 以為能 遊之子久太郎。而妻」之以爲,後嗣 遺稿。而為" 而作。石經 送此于學十。後不」喜。程朱之學。 趣。凡 專肩"其婦。 君。而 故 中將綱村 詩 世 書 候 文不。留 人謂 大學諺解, 掌娶, 某氏 也。 卷。元 命 品川別業。綱宗若能遇。 性勇敢 隱"居於 物 而修"||闽史" 君 又好"書法一而學"朱子之筆蹟。 長 稿 禄 居"封内"可"謂"不 。亦介,之撰,政宗君 稱 中竟以壽終。 IMI 故見之最 根白石山中。以養。老病。其 関齋人中 輕,死。故同僚數有"爲之屈。多 當」是之時。 而 用"陸氏及明儒之說。 稀。 心也 生一女。故 也。平 葬 幸也 弟子 宽文中。弘文院林 此此 家事 忠宗君年譜 列國 日 於某 須 仙臺人物志。 風 大小不能 藤氏 諸 山 侯皆上 "上野景 國 中也。 線 m 八人中 人 集 以 皆

王

窟

力

志此 慙愧 爭論 正德 其夜一書ヲ遺シテ自殺ス、其書ニ云。我前 他邦ニ追謫 ノ世 命ヲ全フシ 3 二男權太夫就 1-第六左衛門講不 似 死 -10 E 綱宗 ヲ欲ス。今年六月 シ。相 = 元年卯辛 。其家跡 ラ ス ス 及 六左衛門。武關 綱宗君 至テ藍ク、故ニ自殺 1) 12 V V 然 君 = 1 討 テ、 七月十 遊 徒 ナ 1 ラ立ン 師夕 テ 12 -よ。、北 思顧 ラ 死 明 愿 = 死 恋 v ナリ = 武 ナ 17 4 、采地 四日 ヲぶん ヲ発 宇 肝疗 關 サルヲ ラ 7 其家 源市 大事 1 自 12 行 F テ n 3/ 六左 テ 君ノ 跡 殺 納 + 7 斷滅 範章ト 嗣 ラ。反 アラ 7 以テ罪ヲ蒙ル。 頗 州 貫 請 ス ナ 捐 F トスな。 北室 1v 文 F > " 衛 ス。 渥 27 館 JE. v テ ス 2 7 爭 門八 シ 命 シっつ C 賜 0 ア 人二類 院二 怯 1. THE THE テ、上野 綱宗君之ヲ憐 澁谷權七郎某 7 云 E 儒 11/2 是臣 ノ事 Hig 二十 放 テ。 來テ 7 邦 途 = 以 E 辱 ス 我 = = 看 君 年武 Hi-命ヲ惜 貫 大隅景 -ヲ受ク It 座シ 流 文京師 之ト 生 制制 致 1 我 カコ 宿 落 雅 父以 後 品 本十 +> 生 共 君 1 俊 4 1 カョ 111 1

殺 。人皆其 遊學 素 志 7 w 怯 訴 1 儒 F = + 前 3/ = テ H 3/ 追 1 テ 耻 0 7 せ 親 雪 ラ 3/ 7 w 7 事 -聞 事 7 テ 知 7 其 ラ 知 事 テ。 ス 體 臣 其 7 故 自 知

=

7

2

り。

意 閑 淚 切 ソ 퓆 7 回 V = 諫 朋友 學 ナ 齋 = 7 3 隨 y 甞 其 用 テ フ せ 垂 諫 志 所 久 フ テ 重 7 ラ 1 重 V 性 ラ 日 孝 會 = ~ = 孝 F 憐 背 急 3/ 3 ス 1 ク カョ 压 毛 。私 。我 前 ヲ欲 テ。今此 1 = 閑 聽 諫 先 シ = w 孺 7 力 = 2 生 テ 來 F 3/ 殺 相 ス 7 V テ然 リ。剣 怒 性 。故二今日 サハ 孰 閑 擊 1 急 リ易ク。 附 テ 祖 E 齋 リ。今其怒 先生 = 聽 死 載 即 7 3 3/ 按 テ チ 73 せ テ 耻 惡 1 モ 2/ ス 衆人 鴯 殆 。是徒 0 叉死 テ 言 w 7 F 色 = = ヲ 1 日 危 7 堪 叶 せ ラ 中 死 重 = "。 示 ス = 1 ク 門 ナ = 至 0 力 0 視 1 y =/ 采伊 閑 感 士 1 n > 先 w テ。 女東 服 事 恋 = F 0 0 生 切 7 重 勃 力 F 2 3/ 面 喇 孝 第 數 然 テ テ 折 恐 何

樂山 閑 藤 奫 爛兵 以 貫 衛藤 族 晋 先 原 生希 和 平 輯。 顏 篤公 沒。年五十一。萬法義端國知平實永六已丑八月廿二

分日

謝

3

去

w

云

专尼

智 3 蔵 ひ 出 0) なき 墓 身 1= 2 8 ろ 年 月 8 < る

は

3

物 1= 2 有け 3

宅 設 元祿 擅 申壬 茅 歲 屋 首 春 開 邹 齊 此 华 併 先 拜 生 聖 物 金油 故 今 朝

試

始

新

年

龍 資 筆。憶 四 + 普官 世 尼 感 獲

贈 權 僧 F 慶 義。 嘉 永 元 申戊 歲 二月十 日

寒

龜

山

密

贈 僧 IE. 宗 阿 Ŀ 人碑

天。實 十 仙 晋 乘之 年。 臺宗 文前 不 गुं 可 弘 其 训 石 即 化 復 敵 E E 无. 聽 表。其遺魄之藏。焉。時著宿皆先 人。 1 年 館 一欲 清 申戊 晚 嚴 演 年 赤 釋 化 下當 退 __ 密 月 度 栖 世 乘 之 初 無 耆宿 負. 地 + 際 也 日 與 **%**留 也。 流 E 其 日 重 亭 人。恒 脫 徒 名。 離 年 掮 七十八。 主 披 人 化去 寫 界。經 法 日 相 權 得 邁 葬,密 者 歸 存 德 西 Fi.

豊吾事

耶。

此

老衲習氣

未

、除焉耳

然才華煥發造

語

奇

焉之所。

乃刈

洗

植

花

物

外

浦

然。

赋

順

老。

自

謂

上人年已老。

乃拓

城

TE

蘭若巷廢寺。重建:

精舍。為

三終

師

法填之盛。從遊之衆。

近世

※监

流之所。希

也

命 者。便 遊方 寺 氏 乃作"之文,日 今亦老矣。愧.無.一 師 而 E 派 國 一、金革 。陸與名取 勤 誰 學。聰 車 使。余撰文表。其墓一焉。余辱。方外之契,者四 旅。其 跳。其 浦 回 Ill 二 仙臺 語 水之秀。出 郡岩沼人。蚤歲 前印 籠眷之優如此, 所 解 上人譚慶義字 興 住"大聖寺。 前 。莫 語略 交 廟 此 所 祭祀之禮 者、 **替**"拐其德」焉。然義 南 弗 琛一。 背 通 有流 文英。 再 公聞,上人慧 俗 []善 一記 胩 來 元 道之志。蘇髮 百 官咸潔 奉,命移 緇老 差 號"宗 # 已 哥 孙 久。負 馬 阿。俗 地 象。 不可 業 住法 超一凡 文化 披 棄 笈 智 沙生 十年。 解 斯斯 希當 蓮 稱 飛 宮 九 從 也 之 錫 澤 年

戒 四四 方景 仰。 而 從 者為 衆 道 彌 高 特。 崇 群 由 所, 曾著。洗眸 泰 龜 造"立 香。 天和三年葵八月 H 此 規 老 八幡 微 而 模之大。 虢 音容雕 之也。 徐 與 宮 出 州 升。 其徒傳鈔 八 FI 们 幡 逃。 自 絕 乃係、之以、銘。 宮擬 有"髮弟後 城 日 松茶 道德

永

澜

龜田梓

撰

輯而刊,之。名曰:花園

集。與

工工

集

俱

推

: 製林

焉。上人道業之

藤

清定

所

茶

傳

宜

邻

日

引,

演

花

資 珠銷

願 主 從 M 付 F 。行 左近衛 權少 將。 爺陸與守 旅 原

朝 臣 綱 村

于仙臺

皆縣

"于龍寶」焉。

其徒推之。為當今密學

住

一持凡

八年。後又

奉」命移,住龍寶寺。凡密宗精舍。在

建

頂

壇

一。授

大

东 行 Fig. 田 115 岐 影 原 TE 昭

從 事 大 清 儿 郎 膝 原高之

臣是 I 師 造 島長 左 衛 衛 PH HI 族 原延昌 泉浩

師 引 兵衛

銘曰。

殿 赫 なっ 儒 ili 樹 生 森々。 大 島 神之 良 設 所 此。 仰 施 謹 須 奉 丹 心

大別當 神 主 山 千 手院 田 現 土 住 法 佐 FIJ 權 守 大 僧 紀 都 宥秀。 清 貞

奥州仙臺龜岡八幡宮鐘之銘。

鳩嶺 竈暮 顯。法 吏 横 鈴 巨 島 勒 111 虹 秋 信 鐸磬皷 律 書 I 敬 烟 津 一潤 滄 隨 應 於於 全。百 遷 棟 州 其 游 平 因 曠 東 业 流 八 。金石 餘 湛 彩 泊 圖 勝 丹 幡 然 屋 Ili 爾祭器。 像 徹 狀 時 榱 鎮 道 接一字銀 繁乎市壓。貴賤羅 蓋旃 堅 聲 機 观 樣 座 阡 一。功侔 共熟 字 雪 奥 峨 馬湯馬 修 頤 且 收 陽 短 A 浪 なない。 架 風景正 造 矩 j 高 中 。發、帆客 迷妄眠 化。 雙 巅 圓 。益投"筆 府 界。 儘。 德 惟 殿 仙 鮮。 月 同 列 浦 帳 閣 臺 船。 後 密 超 車 先賢。 车 瑚 輪 城 砚 負 奥。 鞏 乘 大 璉 乾 新 象 馬 松 頓 豐 千。 懸 命 轟闖 篮 浦 枯 龜 悟 响。 嚴 為 朝 擂 證 呂 固 岡 暉 遙 分 7. 泉 前 依 柱 和 搬 理 籩 重 臨 懷 闢 願 頓 1 房 随

> 門 當宮 家 遄 朝 大 恭 院 檀 虔 臣 信 注 垭 舰 即 别 綱 越 却 述 善 Inl 興 當 村 從 社 巧 弄 111 祐 干 09 稷 方 性 H 当E 王 位 便 萬 天 慶。壽此 融 院。 F 當 和 年 放 身 宮 現 行 河 生 心 मीम 住 癸歲亥舍 本誓。護 左 祚 侗 老錢。鉛 主 法 近 歷 即 年 山 衛 世 神 權 秋 田 力 權 地 國 土 大 八 學鐘 不 137 託宣 久起 佐 僧 月 將。 测。 守 都 + 淵 天 行 兼 看 紀 Fi. 加 芳 效 清 秀 党 陸 特 欽 膽 真 卿. 無邊 们。 守 哥於 一十二 المال 私。 賴 自 本 旅 沙 邦 義 行 原 任

龜岡八幡祠改鑄鐘銘並序

監

编

安積

茂

左

衛門

膝

原

相

信

。菅

野

治

兵

衛

當

原

憲

次。

監

造

豐島

長

左

衛門

藤

原

定

昌

古古

田

仲

兵

衛

1

部

茂

文

富

H

G.

岐

藤

原

氏

紹

從

当上

大

町

清

儿

郎

族

原

高

速 遍 之歲 响 蹬 權 狐 大 以 弗 僧 背 之岡 文化工 问 都 Ш 用 宥 公始 八 焉 秀 幡 今 為 發 Z 命 敬 而 弘 之 有 鈋 儼 景 司 願 然 星霜 使 改 如在 有 韓馬 治 丽州 八 I 經 成。 威 鎬 形 3000 非 因 也 别 道。 速 爲二之銘。 於 施 蝕 T 是 m 惟 手 座 粉湯 普 院。 叫折 併 先 天 順 刻 故 和 公 之 持 逐 玄癸

不!咸 遠 迪。 振 新 舊。聲 悉 T. 以 林 純焦。 無古 迷 省 党夢。 今。參 刻 司日 施 沔 I 以 杏 引 金 沙比 石 扣 心 Z 別 固 妙 UJ 鬼 音 萬壽 水 高 怪's 411 達.九 克 第

朝臣 大檀 越。從 H. F. 四 位 文 化 F -1-行 四 左 丁战 近 衛 年 ju 權 月 少 7 將 八 兼 日 陸 與 守。 藤

原

浦 生 秋 赤 别 當 行 保 石 連 千 喜 田 手 4 院 品 盛 前 現 辨 住 膝 書 原 法 中市 FII 华 主 權 值 代 大 從 僧 自 事 都 永 大 島 漏i 松 升 順. 泽 波 謹 丹宮 磔 識 孫 天 原 原 原 妙 文

惟 消 。治 I Ш 喜 太 夫 源 興

Ma 岡 丽印 配

封內

名

陆

志

卷

宫

城

郡

以之奉。 伊 在 達 郡 此 薬 高 地。元 Lis 慶長 古 西 城。 北。 日:龜 七 年 號 伊 1 政宗 澤。因從"舊名 達 元 岡 君 祖 八 遷山 朝宗 幡 宮。 君 臺。 自是 號 勸 他 天 和 請 出 以 = 鶴 來 年 圖 隨 制 八 居 幡 村 城 君 7

> 則 仙 15 膨 海 微 泉 照宮 鐘

東

營庇 籚 於仙 童 加 瓦 地 闖 跡 北 平 己 欽 遠 右 。爐輔 之氏 旃 成 消 溪 來。伊 商 惟 近 絡 衆 紫 臺 使 宫。 根 山 Ili 衛 沈 大 釋 形 職 擂 連 艮 族。 少 治 力。 為 達 B 清 朱 陰 樓 圓 沙 則 維。 將。 其 美 所 本 淨。三時行。六時行。金曼陀 甍 雅 年 T 中 恃 中 造 茶 陶 計画 國 並 棟 胸 納 籴 門門 I 境 派 中 依 節 世 陸 言 鯨 鑄 档 爲 也 盐 地 致 邦 東與 阴 系 之 此 依 彫 牙 霊 也 態 月 削 呀し 綿 守 稅 模。 凫 梁 高 Ш 東 東 大 州 17: 肝 藤 則 K 胤 缢。 -11 啄 秀 至 黑 相 路 腿 阳湖 十八 應 原 山 非藏 者 造 以 宫 湧 大 國 改 朝臣 出 時 清 滄 也 殿 權 大 備 贱 城 代 金 曾 狍 海 人朝宗 風 難 绝 现 樹 郡 野 之末 宗 忠宗 自 档 有一管 之宗 4 源 仙 PL 收 社 兆。 約 邓 接 4 验 秀 羅胎 之是 乘 苔。 原 自 自 視 太 胸 忠 關 玉 神之遺 腰 旣 也 2 ·j: 若。 遠 於 曼羅。 香。乃 石 。當家 樓 峰 八 Illi 名品 職 而扩 此 好 聲 築 程 廻 下 從 im 育 彩。 冠鲱 地。 絕 胸 設 --+ 四 人天 掛 王 H 親 耳 參差 語 世 位 以 相 列 水 里产 稿 此 著 邹 足 根 開 功。 經 國 陳 動 清 桐 攸 松 之 範 碧

道 之態 之源 緣 佛 增重 洞。千 道。熙第二 萬靈聞,之感 於將 歲 酾 來 桃 際。諸 流 。敷 案于 光光水不 IE. 般 與 高麼 妙 朽。而 用 仙 時。仁 臺之 合 哉 風 城 株 怪哉 威 大 衢 風。横亘,十 樹。 矣、 视 A 騰茂 仰 望 因 鈋 于 E 斯 飛 前而 陵 善

殿 東 。解 記 膠 睽 境。 構植。與 天台 靈區 金信 添。 恭 夏 **彩**·神 璉 殷 意。 瑚 伏 壁 定 "平謨。 門 輝 H 玲 瑞 瑶 臺 宮

掛 映 地 郛 一透 樓 徹 1. 。輪與濫 ---遠 一塗。覺 聞 ,美。 海 彩 隔。 順 惱 高 喤 夢。滅 I K 圖 報 業障 陶 應。 鎔 謂 辜。偉 銅 N 錫 告 哉 新 脯。 君 쯟 德。 出 通 實 爐 1 民 高 -

幾 此 者 蘇 無 近 供 旭艾 帝 應 闕。太守 平 。縱 横 仙 那些 都 樂。 忠 永 学 心 爲主、仁義 声 處。 称 徒

承應 = 车 午甲 四 月 吉辰

志 行 門士 富 塚 內 藏 亚 面 綱

山

內

從

四

位

F

行

左

近

衛

權

135

將

兼

陸與守。

據

原

朝

臣

綱

柳 生 權 右 衛 記 門 重 嚴 成 如

监

选

大 山 助 兵 衛 常

同

車

住

妙心現住覺徹宗叟源筆,記

2

冶 I 匠 人 F Ш 弧 兵 衛

利

次

東照宮華 表 銷

屈

鈋

刻

小

I

Fi.

ill

彌

左

维

門清

次

奉,献 石華 表 基

仙臺

東 黑 大 權 現

得 F 石 於 備 前 運 手 南 溟。達 語 际 周惟 刻 以 創 立之。

同 官 午甲 闸闸 橋 護 銘

承

應

四

月

--

七

目

從

DU

位

少將

族

原

朝

H

忠宗。

汞 慢 警

亦

庶

與 域 仙 毫 城 東 眺 加 山

東照 宮 前面 橋

延 如此 九 年 西辛 九 月 + 七 B

村。

TI 封 照宮神 內 名蹟 阿阿 志卷七。

宮城

郡。

第 H. 庭 僧 而 精 石 承 市 郊 IE 川 舍 應 樹 安 自 亚 法 大 許 迎 字。奉 徒 即 和 年 年 將 之 間 小 晃 だが 午甲 寅庚 歲 乃欲 兒 太守 海 弘 廟宇 威 有 進 月 2 供 事。號 低。 逞 祭 + 擇 忠 落 iL 六 E 心思 永 宗 色莊 成 地 東 B 眺 市市 行 以 公公 馬 干 叡 夜 闽 列。 游 一設 ナレ 殿 功战 請 Щ 邀 iffi 北 Ш 月 宮宮 堂門應 m 高輪台 姓 奥 展 至 艮 + 前 TYY INTE 門。 干 國 開品 七 + 干 命為 寺 神 七 東 後 日 悉 携 Iffi 仙 君 ارا H 極 爲 拒 起 花 岳 廟 舞 仍最 莊 于 院。 者 祭 社 1: 太 市市 猿 嚴。 巧剪 T 日一。 木 守 分家 連 绝 致 事 治 清 别 共 院 於 矣。 温 府 綵 建 道 次 廟 族 權

於 無 爱 東 陸 焉。 邢印 黑 群 加 奥之 Z 宫 集 信 大 所 時 滿 太 權 何久 之奇 城 以 守 現 點 奔 道 者。 A'A 觀 走 于 最 公 林 也 電 図 致 武 唐泰 内 倒 食 院 原 鎮 勝 壶 被 權 朝 護 概 漿 世 僧 臣 之態 建 耆 此 忠宗 地。 法 公 滿 廟 即 巷 廟 新 安 仰 晃 横 築 m 圆 沙 無 路 祝 心 利 疆 逐中 壇 民 之。 不 之 之 约 响 將 可 阴 前 德。 奉 帕 月券 安 致 矣 數 婆 华

> 之 請 於 喜 記場 因 飨 亦 不不 挺 稍 排 朓 不 海 北 Ш 之 版 法 读 账 寺 仙 創 岳 处 院 院 固 愁 圳 字: 克 代 IIII 以 不

易之衛 承 應 三年甲 護 武 曆 **威黎** = 月 茂之 日 大 毘 本 沙 門 堂 以 主 在 削月 此 大 mi 僧 JE. 公 游

承 應三 年 三月 7 ナレ H 於 Till 削 法 绝 能

公为 千三歲番 德八 右右 衛衛 [11][19] 絕點 太次左右 ["]["]

開 口

夫 完 當 社 下 之 無 霊 類 地 0) 智 御 お 心 かっ な 3 1) T 高萬 不 比 石 快 樂 3 七寶 成 诚 樹 1= (1) 冶 林 3 Li 御 3 代 双

3 高 かっ P 砂 衛門。 1110 五源

荷

果

者

誇

访

彿

喧

一鼓

吹。

張

行

装。

而

過

斯

日

也

通

國

八

右

右

衛

郎

作五

一十郎

郎七

漏 0) 前前 大倉 右 衛 門

H 村 栗 H 主 口 馬。 采之丞。 右 衛 長太 十兵 即衛 1

西 蕉 伊庄 右右 衛衛 門門 五助 郎

紅 莱 狩。 彦北 右十 衛太 門夫。 兴兴 衛衛 權市 七郎

子 盜 打 I

三非 寺。 七八 右右 衛衛門門 五助郎 作十 訓

安宅 金札。 七十太美。 彦十 次東京。 右工門。 勘七つ 作勘十二

郎門。

以上。

迫

普

賢

堂村

熊

野

祠

鰐

口

七

百五十三年。

永寧 十二 年 四 月 + B 李 低重 一納之。

封內名 蹟 志卷 十五 栗原 部 = 迫

白 象峯普賢 堂。在二普賢堂村

後 花 園帝。永 验 中, 平低 重 所 建。寺 號 白 象 山 洞雲寺

傍 有能野 談 洞 。有"鰐 口 記 銷 E 。永寧十二年四 月二

平等 低重 一納之。

整 非 那 流 涌 津 邑靈 Ŧī. 五百八十九年。

建長 六 年寅甲 六月 + H

鄉衆侶 相 興 TIF 是建 mi 亦 冥 福 也

卦 內名蹟志卷 十八。 那 非郡

帝

第四皇子。橘豐日尊

皇也。

灰廊

奉刺

遠

浙

於

東

鐵 无 輪。 在二流津 村

祈 在 冥 福 幣 社 也 中。記 Ħ. 輪 E 今亡。所, 遺乃其臺 建 長 六 年寅甲 六 月 一世 + 日 死 鄉 長 乘 リリ 後兴 侣

相

肌

IL

年 也。

或云 社 中 記 日 能 Ш 帝。文永五 辰戊 月 -11-无 日 沙

彌

西 信 建之。

柴 田 那 平 村 大高 無号 口 Fi. 百 71. 31=

正 應 心六年癸 Ξ 月 无. 日

御子

息

延

命

諸

願

圓

滿

所

勸 進 沙門 法 橋 女 感

封 內 名 蹟 志 卷 柴 H 积15 Hi 1/1 作 745 H

山 响 社 或 作 :大鷹。出 : 一神名帳 在 平村

是 鄉 訓言 市市 गी 人謂:大 西 。綠起 南 **学** 略 高 A 日 地 。芝川 Fi 是其 明 神 那 派: 25 世 心。 村 大高宮、 延喜式 有 寺曰"六 所謂 乃三十三 應山 大 高 大林 代欽 111 Fift 阴 址

容貌端 矣。 所 說 疾 州。 方路 將,還,干 鳥 心干民。於是人懷民 藩 見之於"父母"皇子 日。今於"懷胎 之革 游 東 村 國。而 方來 稿 m 山丘 則 IE - 引: 白 寓。居 京師 計 有:異 须一个中身 入一十 所 而 后 點。檢庸貢賦歛之事。是以去。皇都。久在。干 之水 馬。 鳥 乳母 ·植,树 絲 眷 F 悲 。臨別縣懃寄」言曰。 神人矣。想 日 無.乃其 相 相。皇子相 懷抱。 戀父君。 斯 不 中。 痛之情。 久 待 有。妃 代 而 III 地 遠望 小时 巳三歲家 。然後 去。爾後前之白鳥集一一樹上。 時幼兒化 化 中。此 問 有元 號"玉 后 今將 斷膓 m 夫神之所 絕之至。帳 抱 喜。寵異尤深。徐 有。身。皇子 死 際深,慈愛,厚,恩澤。 所感 親附愛護 幼 終 倚 絕 殞命 一白鳥 而 兒 划是 發 "言耗。夫 與。曰 逐中 。歲 化 而 吾將,迎,小 疾 焉 車車 仰。慕皇子。猶 飛揚 臨 日。 雙 乎, 將 餘 妾 而 親 而孕焉。 前 死。 君 河 死 俞 人 皇子 去, 后 再會之志。 若 省。 即半 H 妃 鄉 我 后 乳 市市 夜 君 依 產 1 在 夢 施 垂 吊 明之 妣 草 干 相 認 葬 泣 兒 東 自 幼 H 看 亦 阜 子 思

> 。實鏡 天意。言 之。或 雪。 官使 無事 鐵 鞍今猶存。 祚為"天子"前御之後。 衷痛慘憺不,可,抑 夜悲鳴不去。鄉 制之。 外 音 龜 有"翾 톎 形者 。筆砚 日 路 丰 奏。干皇子。仍 未 手 戏 得 花 华。經 其 不。堪 具. 形 終 為上 形製高大異。今製。 ·樂器。袍袴等。號曰:大應宮。 者 便 有 樂器等干 黨怪之以狀 古制 以 白 露控馳 代制 नं 馬。 至一个 命 不是 長 悲歡之餘 無可 白一鷹作 处。白 證間,之用 北 No. वि "白鳥朋神條下"。 揚 地。 之。平 干. 應社。重 鄒 以。螺鈿 於陵 7 聞,諸阜都。皇子 官 於是鎌 焉, 使 使 治 明天皇。 兩 十。職然乎 。侍臣 之役 至 双 郭 令 有 而 於 不 一件 徙 H 以 古 造"天 夏陵 問分 所順之征 皇子 兵 -臣遗玉 館。 一根 衛 戫 水 卒中 板 旗雄 E 逃 花。 粉袋 m 開 朱 蔽 上大 述 計 削 机 內

劒

村 田 白鳥神 社: 在"村田 鄉

始

馆 在 有"规樹。 三驛 源 所 北 田 一根園 那歲 系统 餘。社 七尺餘有藤蔓糾纏 起 E 育 祀日 有,寺。曰" 本武 19。因 大高 山定龍寺。寺 干樹 称 = b. 身。 木 点。 を行い 池 們 計 祓。 釋 HIJ

者投河 宮下。 レ龍 宮社。 宜,以 乃日 日 高宮

計 矣。官兵張"兵機。遂斃, 並徒。其際接兵危急。 日 往昔 護 軍中 蜒々追 本 放 一种 源義家從 父賴 福 以賽, 僧 有 武尊。左右 建二乳母 記れた 山 德 舉 袋 白鶴 。敵兵。敗走退。仍康平六 佩 推劒 而 干神明。後人呼,藤蔓。 前 原 乳 加典兵威 說。背 寺 母 宮干 雙白鳥 宮 乃大件武日 執"弓矢。左"右干白衣冠。自言 隣 莊 義 言 去。白 干士卒。也。父子稽首 非也 東征。詣。干宮社。而 足立 鳥神 翼。 此地 命。宿 村。 洞 m 是其 乃祭。用明帝皇子。 今日 飛 年外癸 十二三町。 禰吉備 翔 證 二之龍 賴義 干旗

施

之 也。詳 寢 則 武 百再拜。 于 新經 彦 藤。 藤蔓 有上寺 大高 命 市市 大 E 營 也 化 是 阴 前

奥 观 觀 蹟 聞 老 志 卷 四 。 柴 田 郡

大高宮。或作品大應。

寸五分。有"文字,日。正應六年學云々。相傳為,舊物 在 平 肺 村。非 詞之在 神 西 處也 南 。有 云 ~ | | | | | 々。社中有 地。松杉翠深。 古鰐口。 村落路遠 經二尺四

> 有. 鳧 觀 焉 月朔九字。今猶 十一年展 想夫在 按永枧十一年。 藏鐵 鐘 鉢。經 "邊鄙。而 器。文字年滅。所、殘者。有,永應十二 十月一日。奉,掛,於明神松丸上之。 45 九 寸高四寸六分, 廼六十六代。一條帝 未,知,改元之行。妄用,其舊 有 文字 止曆四 横壽 年十 號平 年 目 已癸也 永

按永應 年也。此一 年。是亦 廼 遠國 丁"七十代後冷泉帝天 器可心間。舊物 不如,改元 也。 者。此時賴義專 喜四 年中丙 無 東 征之 1-

奉 謹 宮城 鐘 記述 郡 寒 八 州 幡邑 末松 八八 山 幡 八 洞 幡宮 鐘。 TI 百 DU 十四

永仁七年二月日。

延慶四年至正月五日。

迫八

幡

村

八

幡

洞

鰐口。

五百三十二年。

封內名蹟志卷十五。栗原郡二道,

八幡社在二八幡村。

板菊 腹板 功。而 五分、 此 綠·碧·腰佩一尺六寸。長八尺五寸。社中舊物 下减、五分。坐金菊華 下散八寸五 寺號:小 正月五 祉 姆五 藻糾緣 一尺,下 是亦 桓 園六寸二分。銀 屯 社 市香 治山 納。六十二行鍪兜。前三段垂篠。 武帝 太郎義家朝臣。貞任宗任征伐之時。 段。蔽耳 日。大檀 舊 邊。 縱穿。割札 分。八行一段。各異,其色。紅 散板九寸。菱縫板苞以」革。共 延暦 源東寺。 物也。有,銘曰。小 相傳勝利 廣表額飾一尺二寸。上形三寸五分。 那大麥生藤內 年中。田村 五段 。領下澗八寸六分。長二寸。 鄉說 其 。納雄劒 政 一則筑前 所、藏甲胄二領。其 麻呂建 綴 治 胸板 山 次郎國 〕甲胄。鋒 源東 立。後冷泉帝 守所 八寸。其下亦同。 寺。延慶 紺 E 納。 上竅菊花蔓 八八下。 鏑 絲 心 矢。 **議** 其 胄 制 。其下 古 則義 栴檀 鰐口 七寸 天 四 紫 有 喜 年 成

> 辛壬 按延 頸鎖 字也 字誤 一慶四 誤 世 此 年辛壬 字 取之則 鱼鱼 ,平。大 字俗 ナレ 十四 **鉔字義近之** 間用之胄衿。 麥生姓氏乎。盖鄉農長 代 花 園帝。 於加 考:字書 應長 切。音鳴 元 無此 者 竝 也 字。 鍛

名取郡熊野堂鐘銘。三百九十七年。

殿。馬 臣 大 檀那助成。天長 一寸。口二尺六寸。重二百貫目。自尅 日 大膳大夫持宗。并惣代官三河守朝時。同 本國 場 殿 奥州名取郡 聖 慶鷹 地久。 御願 於 熊 圓 野新宮寺。秦、鑄、鐘。長 滿。為。只木殿 到來之所」蒙十方。 田剛 大檀 殿 。櫻 四 那 田 源 尺

封內名 文安三 蹟 年寅丙 志 卷六。 十月 八 名 日。 耿 郡 此 大 I 性 永

熊野三山神社。在:熊野堂村。

新 證 宫。本 誠 殿 雨祉 爲 宮那 .那智。建二二社 在"此邑。 智。日 之三山。如 那智乃在 而祭之。侧有 吉出 今考,之地 村。 此 老女宮。以。學 理。 地 新 則 宫 新 地 别

門。以 頭。別 高 門者 舘 權 六 當 ナレ 現 司 月九 月十 之 新 有 宫 以四 舰 日 П 音堂。 外 為二社 為 月八 示 社 司 別當 日一。 日 六 日 祭之。 人。巫 木宮日 日 爲此 物 女 響 日 之藥 一寺。禰 __ 祭之 人 師 騎 宜 堂。 那 射 日 智曰。之 次右 五 1 郎 衛 右 屬

中。有: 。可 當 臥 傍 品品 比 院 山 千 平 建 III 社 而 有 起 古 加 11 彩 證 年 役 品 於 美 世 年。老 日 。役 诚 徒 老 女司"之老 名 兄 殿。有 則 徒 後 XX 欲赴,與 和 取 (繁隨 年 曾星 崩 不 乎 河 連 名 來。 不 小 茂 志 111 南 拢 取 時 並 相 東東 和 土之茂 頭 枕 長 郡 州。 一告言。 見 祭 須 上有 那豐 稱 途。 有: 八矣 **元**豐 m 高 THE. 著宮 巫 游平 鳥 伊 志 無 舘 椰 女。信 豆志 東 羽 。役徒 權 須 息。 殿 葉 刚 帝 松 現 賀 J. 憑 有 中 保 東 島 紀 爾 叉 於 有 號 安 名 行 爾 平 粉 州 建 證 伊尼 文字。 四 泉。解 傳 傳 崇 取 能 善 年。 老女 語 誠 野 德 之老 近堂及 計 帝。 殿。 Ξ 勸 且 東 乃和 里 者。 Щ 付 行 女。 於 保 西 請 雪 此 悲 毛 歌 宮 mi 怒 延

> 幸 有"原 也 河 有三 一。役 流 爲 野 徒 山之 平 聞 移 無 派 老 形]1] 女 息 勢。是 語 15 鄉 合 गाप 對 擬 其 南 地 部 有 理 地 诚 狀 濕 理 殿。左右 方角 布 推 。祭 日 者。 沿木 那 是 智 乃 自 那 市上 前申 然之奇 小小小 澗 威之 不 114 所 逃 IZ 北

按 同 新 姑 古今神 存 以 備 祗 參考 部 。載 能 野 前而 詠。 小 同 大 異。上句 不

致

也

す 道 n 遠 L は とも 滥 にへ 72 12 h n 思 ひをこ せ 1 我 8 わ

3 此 て 5 け 願 歌 御 前 30 n は 13 1if 陸 てい 臥 例 72 よか 怒 1h 住 5 3 V V 72 T 3 72 侍 3 夜 5 人 V 0) 0) 70 3 0 夢 63 カコ 能 0 V-カコ 野 見 12 せ 7 = H h 5 年 ٤. る よろう < なん な る T け h É カコ

坊、竹 樂 徒 名 坊 + 取 六。辻 郡 北 圓 能 林 坊。梅 野 坊柳 之坊 堂 澤 村 往 泉坊。西 坊 能 馬 生 里子 坊 場 山 光坊,一有。非 坊。橋 中 新 之坊 宫 哥 本 石 坊。東 اأا 元山 本 社家六人。流 斗领 光坊。 坊 九九 質 漏 光 封 知 頭 坊 鏑 來 坊 極 迎 飛 馬

歎

感

不

涕

淚之

隆。

乃引

役

徒

示

其

地

日。

斯

地

內 4 社 馬 0) ひ 境內。古 き延 9 大: 大將家文治 かっ らさるもの の制 なり。 にきか せつ 此 より

定。

喧嘩口論停止事。

跳 為 **非** 無 對 し 計 弱。 物、 而 MI できる は かっ 1 ~ かっ

らさる事。

放火人禁制事。

押買狼籍すへからさる事。

附 押質取へからさる事。

博奕すへからさる事。

右 條 K 令: 違 背 電 有 之は 糺 科 0) 車丞 重 速 カコ 1= 處 二嚴

科者也。仍下知如一件。

寬文十三年九月七日 柴田中務朝成花押

名取郡吉田村耶智山鐘銘

此 陸 物。詩 與 國 名取 於羽 初 黑大 仙 權現。權化 學 南吉田 村。 利生之靈地 有。能 野 = 也 Ill 創 之 一寺號 TE 跡 也 物

> 昆命 年有 安穩后生。善處 伏 至 崇 響寺。雖然川 希 時 心 也 動 善男 照 原 。夫鐘 而 三風 破。 施 質 善 雷 之一善者。欲.績.斷 資 者 女。 一朝極事學 久月深 行 财 開 。馮 哀計 TIE O 鑄 圓 道之本。而 - 950 阳 八 無量 m 簡 無, 閑夢。昏 字打 茫 金管 非 根 第日 破 利 鯨。以 力。孫子續一枝 開 桃 生之元也 香。 矣 倒絕 ini 備湯 好善家 鐘 沈 錬金 之功 。兹七 肝症 否 雕 童偉矣哉。 些 男女。 德 一夫。荷 品 薬。長 拾餘霜 則 不可勝 去 平 來 稍 各自 所以 御 心。 現世。 晏 好 算 味 合 15 11/1

施主 福田五郎左衛門尉

郡司 郡山七左衛門尉

願主田高村、中澤村。四郎兵衛

秦加主吉田村。佐伯村。久兵衛

神主 山田次兵衛

鑄匠江州生綠。田中權兵工藤原家次

寬文第十二章庚戍八月十三日。

華園末葉環正宗山主洛輝宗夷銘

仙臺住。遠藤玄莲吉。

修 名取 老女墓記

所。傳 能往。 耶 能 葦 女謹 他。即驚収 保志年毛漸老仁氣 此 焉。夢 女。語 帝 此 其所居遺址。今在"前田。下餘田二邑。而其裔孫猶存"民 保安中。 奥名取 興 御 名取 于。 明之報不。虛 聞。 有一 杭 面 建小 而受之。於是算信 「。吾欲 形 。老女 m 心 別鄉三 老女崇 都 奉,之拜 老女。霍然而覺。 老翁。衣 常嚮 神 削 洞 歌 探 少也 田邑老女之墓 新 其 往。 載在「袋草紙」。 信紀 社 宅 松島之勝。先之紀 耶。今去"其人、六百 而 冠整飾。 干 理思應古世余我母不」忘。字皆如 剧然輕殿。 紀 至 傍。日拜之。 去。是實神授勿疑也。 云。 熊野 震境。—— 诚 感神 夫奥 神。往 益篤 持 即 也。土人傳言。往 竹柏 粗犯 是老女鬤年積誠之 視 在 赐是神 興 。大疑 黨上有二歌 紀 適 吉田邑。 品 紀 葉。囑 有 三祠有 若 拜 相 赤心。 八十 信熊野 歌。 距數 旅 路。 行 日 餘年矣 然此 二在熊野 汝 千里。 乃與之。 雖 年。 人。 邑民助 日。 洞。 老 到奥 來得 事 老 美知 因 の所致 m 非 然而 出 而 就 鳥 不元 力。 以 老 靈 不 平 老 堂 登 服 33

> 未辛 弁 之事。又嘉。邑人之謀。故 此 亦猶。余威。昔干 土起、墳家域 兒傳:說 間。是實 邑人相 其不 髦。蓋修 其影。而 朽 其 神 與日 者耶 事。 霊之 有。蕩,乃使。人謁。余為 老 老 所、補耶。其 今 敷。 軒 女有。大,造干 女墓 過 立石勒 而問 任 不一解 F 其 人與骨皆已 江 餘 跡。 事 田邑。 其論。 聲名赫奕。 於於 洞 文。 是芝 馬。 浣 後之觀 一朽矣。 廢巳久矣。 忍视 草 余 今个人的 此文者。 開 既 然而 荒 咸光女 路。谷 慕 今茲 田 -111 女!! 舍

文化八年来 季八月二十 八日 仙 百 臺 田 石 111 邊 匡 清 敕 则 H 撰

碑高 六尺 四寸許 幅 尺 五. 一寸餘。 向 成 方。

清輔 し。是陸 しもやら 袋草 與國 やう 紙 50 卷 より 四。 智 4 邻 希 にけ 华 代 に参詣 和 b 思 歌 能 2 里子 をこせ V 御 る。女の年老 歌 1 3 3 n ち 8 わ 0) 後夢

新 古今和 歌 集卷 --ナレ गंग 派 歌 1:

見

る

歌

75

道 遠 し程 もは 3 カコ 1= へた > n b 思 U お こせ よ 我 \$

け 5 この 2 ると < T h 歌 3 と。願 は て、御 陸奥にすみける かっ 6 をたて it 前 \$2 1= はつ L > 1 ま 72 5 まい」 人の。 3 5 け T 72 侍 3 熊野 ひ け 夜 多 3 0) 5 へ三とせま カコ 夢 カコ 1-1 47 2 見 せ h

封內名蹟志卷六。名取郡。

老女墳墓。在"下餘在"北釜中島之間」也。

在。神 能野之使 或說。老女祠 烏宮。去、祠 命也 在前 。仍今問 田 町 村。 除。老女建 之鄉里不 新宮東 神 南 分 鳥 里餘。 明 洞 祭之。以" 遺址 獪

石川無盡先生之墓。

大藏山松源寺。

六歲。出 第二子也。會同 號,世仕,仙 墓。先生 無盡先生 水 初 一歿矣、 训 京学 臺。親生考佐藤君。諱則次。妣國分氏 清 後。因同 僚石 则 嗣子管門人厚 後 111 改 德右 石川氏。及"稍長。樂齋田邊先生。 "基則。字子 衛門君。 險 而 法。稱 葬 夭無嗣。先生年 之 又俾 二利 古。 余銘 先 無続 生 前 其 其 其

照偏 類。官屢賞。其功。又作,人奈志利地圖考要害。她。折衝之 外 戊辰 人 大 壽亞相三十二世,入木相承。 可知的。既 索 亦 通調意師 肄 再過。京師。藤公嘉 師。登持 氏 王。出,入歐處。而自成,一家。最善,實質大書。又受戶 恒 與馬 皆曰 畑驛。々 豪放。內 一書者 刀法。於。橫山元林。小笠原氏軍禮。於太名瀨 求二古今人墨蹟策札。賞學。 答無亞 譚。皆異數也。先生於是改 火遠。且我在。上風。何避之為、先生日。風之變不 ,先生以,兵具掛及宿 無 風 明院 會失火。先生急借 謹 庫 果變。延燒始蓝 花。點茶之技。何 "大義。性 極蝦 嚴 三四四 三位 而機等過人。蝦夷 夷。慕 il: 族 力 尤嗜。臨池。學。書法於藤塚知 公諱 篤志。悉授、入木秘訣。 來學者。盖二千有餘人。先生為人 府 命 非 念然始斯服 其事之勤 割 延之門。 東 船被 撫不一知一他。其 與陽書學進士之印章。且 金遣 談 收 之役 統他 從,其行。 。其任、戊學措 谱 得。入 也 路 。文化 兵 沙 伙 山 備 木 叉許 書規做二 丁卯 沙沙 TI: 一前 ilii 文政巳卯 學 直 部。宿 避 明。 图。旁 遊京 用 7 水滸 傳。 田 山 居

fill

古錢 端 載 以一 貴賤 氏於、余為 殆二十年 剛也。顧余之幼 月 感 欲興之 此 覺範 衣 削 策。旁及"風 者。 所 坐 in 食 後 泛致。 斂 日。 岩 少長。皆 寺 十一次云。先生爱才 粒琴。先生 الا 女。養二澤 廢亡巳 济 干 溪 一待二齡 襟 賜之。 封 稽諸 貫 神 今來 可 内 布 從祖 土物 老 古鏡 然終 佐 得 胃 七十三。葬 木君譚 師。其 執 也 載籍。參"諸 叉與"名 具叡·鳥 先生官受神學於菊田師 其歌 影 自 姑。則墓銘之請爲乎辭。 產。先生在 一。奉"提 紼 於 擔 行 枚。 接 家。 mi 心 今昔之感豈可.勝言 員 其 人 屋 歸。 碩 民 馬 命之致。而 命次 於 鳴 所 领二 未 匠 好 故老 人子 仕 其解 城 [阿= 時 學 事 施 子 相往 南 哀 撫 途.凡五 洞 矣。 置 來經 口 有。貧不、能、給 為 乎。 松 京 以 碑。相,攸關 實 來。 城 嗣 助 源寺之瑩。室八 弘 師 係 始 Ш 府。 飲 一。縫 化 問 1 以女配 距 面 一漫遊不.相 因 乙巳二月六 七 生安 生。 佛 成。 談 殿 其 天 哉 叙.其性 年。褒賜 頭 雜 氏之學 朝 灑 於是慨 人以 榛斧。 況 永癸巳 者。 尾崎 = 虛談 之。即 祀 洛 先 有 THE 訓 自 見者 為 行魔 生 卷 於 君 銀 所 E c 獲 如 無 減 14 THI 放 帛 小: 基 比 然 贈

歷之概。係以。銘訓。日

潭.思 生 應 級 一知。説 書 變 展 學 藝文。致 傳秘 其 如 之 殁 人 刘日 ナナ 分 部 歸 武 子 份 家之選 專 片 、焚膏 孫 碑 亦 -1-組み 網 被 維是 不墜 红 刻字 達 勉 -1-或 其 间 成"蝦 不一質 识 學 究 雖 夷。見 TIL 則 精 或 微 赴 邰 京 死 機

化二年冬十一月。 同藩 國分章撰文男基剛。

德

音

不

滅

弘、

寄 封 時 内 宪 附 名 正 態 蹟 迫 口 年 志 稻 悉 华王 屋敷 112 + 二月二 於陸 五 村 八 奥長 十四 所 栗 權 原 岡 日 現 称 机 願 個号 影花 口。 迫 主 谷 常 鄉 三百 安 一養寺。 八十一年。一

八所權現。在"稻原數村"。

鰐 附鰐口一器。干陸與長岡郡荒谷鄉安養寺。。時寬 鄉 人日 其。器二口 高 松 一銘 權 现 日 往昔有 : 善喜二年 寺。號 三月 春 H Ш ניין 一给 松寺。有一舊 日 IE 告

年壬二月廿四日願主常德。

藏,此寺院,乎。

作。而出,干麗氣記私抄及海東諸國記。 東諸國記作,喜化。貝原翁曰、此僞年號、浮屠所,荒 或曰。善記繼體天皇十六年。始建,年號,爲,善記。海

仙臺金石志卷之十二

目

神洞下

大龜洞鐘

岩沼竹駒社鐘町能因法師

茂庭左治馬秀時

菅野佑

倍陳良

高田氷上山碑二

越路

愛宕

吐

鐘

吉岡

八幡

洞

神門

八津八幡洞鐘

笠島道祖神祠碑

高野兵藏飨良

六

謄澤八幡碑

仙臺金石志卷之十二

陸

與個

城

北。黑川郡龜國巓。有一神

宫、號、岩下。宫

耐

沙漠

神洞下

仙臺 吉田 友好編纂

黑川郡大龜村大龜社鐘銘

顯家 市市言 16 陸奥 露 菲鲸 然。既爲,南迫七 氏友再,營之。雖 宮。又文龜年 國。 停.息 大鐘 州 稱 黑川 举屹 爲 岩下 從 三塗 口。架 恨。 將 郡 中。 **啡**電。 報恩寺左近入道高遠。 明 極 南 鄉鎮護 干 樓 市市 "星霜己移 苦。 丹波遠江 近 前 。鎮 古己來靈神現跡。日 鄉 掛之。夫鐘之爲。德 佐藤 護 大龜 學之, 神。世建,社宮。不,乏,祭 或 氏 。山川陵夷。神威 守正時 家威應嚴 村 與 有.靈 則聲 神 粉络 主內海氏 所 跡 興之。 如 傾,心敬崇中 至 。文和 大龜 寺 心。 無 日 **然**。是 赫々。徳光 藤原安房 等。 不 年 梅 前 宗然。 中。 祠。只以 社 澤 **予**誠 人夫 Ill 近 睡 國 依 號 其 迷 雜 心 司 社

> 古永 脫 碧 就 經 虚天。魔 圓 年。震 左絕。音韻終無、盡。德功豈有邊。依、銘今記、此。萬 。华. 鹿 流 傳 威 碎邪障念。衆醒"頂熘眼 范 淵 如學。 横、鈴。追拘留昧綠。 黎民悉敬。金銅以 。泥型併 夕敲 為體 松 思畜。 頃月。 His 且 離 魚京 吼 苦 套

干時元祿十二年紀季秋初九日

臨濟正宗卅五世。靈嶽鳳山沙門書

御

筒

屋六

郎右

衛門

兼

定作。

名取郡笠島邑道祖神祠碑

逐蒙 也。祠 不失 R 奥州名取郡笠島邑。有"猿太 將有,行者。必先造,洞 時 享保十漆季子 官实戶 मीज़ 所 盲 。歸。東遊 門 隆 E 時。具其事以 位位 南 秋 行亡、恙。 並 染月貳拾參日 賜 庭。 常的 彥洞 m 白 以得 亦斤 額 师 心號 為 福 等 祚 濟 志。 119 管 加 事 道礼 北 領 者。 不 1 部 迷 神。州之士 皆 兼 神之惠 所 雄 適 明明

善利一不。忍間

辭"略序

,其由。乃爲、之作、銘。日

功。莫大不」可。思議

者

也。佐藤氏等請

第五子

Ili

野。

見

其

化遐 越实戶 立。一片石。 生。未終 建"立碑"永顯" 邇 降 一戮力。 殁矣 時隆 而以鐫 丽 。方今其子彌 D). 庸父子。世 德之 成 其文 "厥功。村之上平 昭 120 学院 為洞 三右 傳隆 乃父之志 官。 衛門。時 肝手 而造。營殿字.焉。 之籍。 彌三右衛門。 年 八十餘。 而 需 文 欲祠 於芦 而塗 慕:

寶曆九卯年五月穀日。

30 延喜式 地を 陸奥名取郡笠島 定めら 座も。國 を建て。人民 照皇太神 て。数は 崇祭する に 则 0) 0) 瓊 し時。佐 の郡と云ふ。醍 猿 名を陸奥と云。其名の 大 へた に萬の 一々杵 田 日 所 彦大 向 なり。 り。夫家 Ē 具 萬 尊·高皇產 叡 業を教 智 殿猿 闸 猿 前 杜 U) 殺 國 社 砌天皇。六十餘州大小 1: 田 田 0) 天 彦大 彦太 な と記せしは是なり。委くは。 へ給 靈尊にして。千 り。開 道は。 降 响 ての ふにより。 神。合殿天 起 開 る所なれは。鎮 大日靈貴の 八津嶺 3 U) ち 初混 0 早 鈿命。攝殿天 道 30 1-沌として。 1 0 碳 振 道にし 神 奥 城 多 神师 に鎮 座 守 代 祇 市市 護 よ 36 籍 0

禍 神主家 神。高 れ。山 或 72 稱 書綴りて。信心の なり。人に取ては不見不」問 命 死者を引返し L 信仰して。庚 君臣、夫婦、兄弟和 多 1: いり また分れさるのうちに。芽を含 ig は て。世 T な 含める所にして。國 る者尊敬する所の大神なり。或 し。武勇を以 邪氣 かるへ 配 岐]1] 皇產靈尊 偶 神と稱 神秘にし 海 To し。愛敬総 智 濟 陸旅 し。上古よ 拂 申の U し。天 2 、困窮落迫し。渡世なき者を引起し 帝王を守護 民 0) 儀 行。連 て。委曲 萬 日 輩に示す事左の如し。 を導き給 合の 式 此 物 F 孫 あ 孫繁昌 常立 h 送 to. 降臨 大神を祭 道を。 3 道 は逃 化生 風 所 饗祭 约 L 2 0) 波 な 不言のうち を守給 時。先 かっ す 网 ीं. ,邪氣 敷 0) 50 と云事 たけ 3 0 る時 施 難 第 所。人 め 御 は兜玉 調品 igo L 10 此 n 柱 る ふ。今神 は。水 排 発 給 1 國 大 は。 20 あ 7 倫 給 え 不 \$2 先 勝 Hill jilli 13 h 恶恶 3 綱 り。又天釧 即 當社 火 あらまし 60 11 同 と稱 て。 间 放 根 U) 常。 萬 大神 們 鬼 朋务 に、武 元 0) 天 邪 物 難 0) 異 或 100 父子。 先に、 なり。 給 照 0) を逃 名 傳 0) 狭 11) 獸 腳 堺 30 智 大 理 德 女 -1: 2 0)

朝觐 光を 神な 蠶桑 叉氣 射 ほ 1-給 0) 老 云 0) 响 海 此 h して。千 時 伊 導 ふ。又孝德天皇二年午三月。始て圭田を寄附 し。首途の 知 F 小 2 の恙 。庭火 0 响 勢 と稱 時 所 响 3 地 と稱 事を 家 1 給 教 13 船 0) なか 宅 3 鎮 し。彦火々出見尊を教導 0) 圃 2 燈 を焚 は 導 始て かっ を守 座 事 時 で表旌 して。壽福 火の 幸先を祝 烘 或 らん事を願 神 如 する時。太 祈 場 T 給 は 敎 し。故 念 當 護 山と云。又御室別王東國 金石 代 鹿 え 給 L す 1 社 卷を見 り。又 島 るも 給 ふ。又土 n ひ祭 を祀 1-を授 香 0 は。 ふ。暦 うち 景 田 取 To 0) る せら 行 t 命と稱し、倭姫 て知 柿 忽難 は 所の 天 1= 金の 五穀 書 神 武 帶たる矢を以 此 n 皇 1= 天皇 本革 を救 し故。 し。 杉 を成熟せしめ。衣 御 8 出 德 故 し。又船 原 樹 宇。 民 あ 事 h 東 或は て。 中 180 U b 5 な 征 今せ 日 津 給 て あ ho 命 を領 今認嫌 U) 王 鑚 本 國 à 3 を教導 時 神师 て神 武 四 天 -んとうと 出 多 或 800 大 せ 7 i 照 時 平 と皆 尊 せ は し時 稱 給 杉ぎ 此 和 木 東 は 1= 皇 鹽 治 食 し。 7 是 水 大 巡 大 人 士. 征 國

き。不敬 身 將 許 當 絕 連 3 な 取 す。文治年中。 勸 して功を奏 請 事 は h 。貞 に問 社 82 綿 1: 郡を寄附せ 請 6 h 376 質方朝 せ なし。又延 文 カコ 9 後 し。今笠島 1= 72 あ 貔 し。故 今 る本 祈誓 らす。是人生 b ひ尋 をな 康 世人男根 年 V 臣 1-平 中 る事 は 至 ね す なり。男女 し凱 1= 年 曆 融 源賴 しよ る迄 为 古 T 都 神 中。源 45 年 大 時 陣 知 。皆 社 老 中 T. 0 n 臣 は h 朝公東征 0 田田 腰 K 形 1 と云 (1) は 三月 當 賴 し。 。足利 時。 應 を造 1 0 0) 言 0 响 義 社 村 6 根 h 根 を用 驗 知 十八十十 罰 。義 r 將 武 大 bo 尤 0) 绅 1= 本 3 约 軍 30 藤 凡 0) 州 家 所な 速 疾 氏公寄附 疾 しして。 蒙 ~ 信 東 時 上に述 Thin 原 す。 在 あ 南 13 し。京 征 b 一公。東 秀 原 九二十 前 當 50 50 3 る 馬 0) 馬 衡 1-郡 者 時 社 時 俄 男女 75 實 公名 委 捧 木 1-都 或或 は 故 1-征 4-條 3 45 亦 1= 乘 五 3 在 日 0) 0) 斃 は 事 子 FILE 誓 7 和 事 収 山 條 T 陣し、 時 如 子なき 妙 32 然 0) 孫 合し 郡 は 示 八 0) 40 を 亦 生 は 質 景 如门 前 な 削用 衢 形製 T < 子 又 寄 丰 K n る 坂 驗 方 意 30 派 1= 叉 な 孫 市中 過 中 附 勸 な 0) 8 あ 3

得 扇 3 て。凶 枚 の風 に。世 智 變 招 して吉となり カコ 市市 如 致 し。仰 を領 奉 へし貸むへしと云 N. 300 て。 祁 多 信 死 心 n U) 嘉 畫 邢 は を得 神 0) 75 加 護 30

宜 中 臣 光延敬白

所 爺 州名取 並 郡 岩沼邑。竹駒 神 洞 寶窟山 竹駒寺。

傳聞此 于名 那些 蓊鬱烟 知所徂 路 九 耐 野 夫 矣。 年。能 修 篁卿 一刻 中市 是 取 會」騎:干 詩 厥 林 處有"稻 為 何 馬 因 後 於 稻 之中 也 陸 世 法 撑 荷。 是 佛 師。腰包頂、笠 火 傳 、果 统 荷 之迹 织 州 即今之竹駒 童子竹馬遊 因 陸 有 華 祠子。童即 收 公初 州 也 税 駕於 並 人。 處 小 齡 芍 A 隨。童子教。專。于稻 社 頴 名山 有 明 遊 戲 悟 馬 净 指點示 斯 TIME 奔走。 歷 。 高 處。 。於是感 信 鎮 奥 境。 風 威應 座 茂林 州 声 雅 因 權與 步 筵。恒 一%問 來。着 林 不 心心逾 涉 修 也 虚虚 。又須曳問不 遊 竹 "彼童子」云。 哈 荷 此 履 中 焉 院 爾 社。 和 境 這 造 在 景 來 心。這 歌 坤 承 敬 当 老 營 好 歸 樹 鲴 和 1/2 小

> 鳴功 鳴鐘 各 生膳 需:予銘 寺開 風 逢 於清 破裂殊甚矣。 助其 に誓以 景,締.于 廣壽英士。 報是昏 测 德 縣一丁 功。 尤 詞。其詞云。 一漠大矣 風 此 新 明 __ 因緣 今兹竹駒 者。有年子兹 小字。柄 月。 鐘 此 地。且 出 武連悠久子孫繁榮。拾、貨革 四 也。许寺中 型。 時佳 非 當 居 見住 多 臻 村氏子 興咏 शिश 年 時 林 之志 節 鏡 有 夫 吟幽賞 者 因緣 光僧 銅銅 中 越 腐镇 三四四 鎖 歡 為深 不 都。 手。 -10 焉。宜哉受 H 口。 年 踊 志深檀與暖無 信之願 Jai Jai 于弦。 HI 耀 П 就 錦浦 光翁 同 馬 主 號一竹駒 心 於 价 派 推 戮 红 隈 カ。 夫 111

稻荷 檀 般若幖幟 門榮昌。群生 靈境 雲行 森邃落蔚。 阜 雨 樂。 施 福壽 歲 歪 聖 羽 ·無 足 示神 显 展 降 延 國 及 士 跡 丽真 [ii] 滚 辩 鄉 座 濟施 四 愁 消 金苗 安 含 新作 茶。 THE O ENLI ENLI

形 寶前 住 法 FII T THE STATE

寳 **| 皆七龍舍五** 五月二 + 又 + H

道 師 竹 駒 现 住 法 即 缩 光

願 主古內 主 膳 廣

冶 H 中 權 兵 衛 金 泰

11 浙 瑟 額 竹竹 屬印 開 師

小 阳 110 額 E 位 竹 駒 大 開 Hill

部曾歌進

勳 密门 門 进 拜

南加 宣 正 位 竹 脇 前而 社

拜 額 IE 位 竹 駒 大 .開 前

陸)利 名 取 郡 竹竹 駒 寺 爺 守 稻 荷 社 黎 起 之記

市而

建

法大節。 也文 談 E 府 跡 鎮 笙 沼 泉 計 護 H 鵜 瑜 向 和 山 闸闸 贈九 所 临 柳 開 國 蓟 城 城 手车 修 府 草 守 阳 筐 國 南 闸 序亦亦 創 2 府。 紀 有 州往 則 感 其 學陸 伊 11/6 白 市市 別 陸奥市。到 其 那 狐 窟 Aith 於 洞 懇 當 府,歌《篁博學洽聞。篤信,佛神。與守。鎭。多賀國府。籍,是父子爾,與守。鎭。多賀國府。其子鏊議左鎮正四位下。小野朝臣岑子。弘, 11th 介 也 途 台 奈 所 E 出 過 情。 H 住之 利 竹 名 承 111 假 馬问 和 武 所 取 现 明 恭 儿 [型 那 名 闸 年. 白 清 茂 南 狐 竹 林 長 稻 仁 野 形 駒 谷 荷 华 堂 阴 中 堂 村 阴 神稱 神。元 大辨。元 是地 帝 為 闽 神 橋 能 御 諮 狐 天 知 暦 寫 例 地地 啼 法 F-0 所 守 小 八 或 修弘 部 处

十墨

一第

武

一四

呼 爲 酮 Fi. 郎 橋

震 人当 號 世六世俊世 世阁初名 体士 六世 門。 跳 爺 明 HILL 永 肯後 神中 冷 丛 版應 也也 味 海特 名 操"玄々集。著"縣」 派 雅六第世 法 音第二 那道 京 第 泉 地 社 年 於 常限 師 院 十第 凄 亚 間 浦沂 雖 因 二七 御 十後 因 年 風 7 悟 9第十 擔 世世 五 到 第二世 坐 宇 于 世空尊。第八世空尊。第八 世宥 殘 111 指 签 武 詠 THIR 好 宥 能 照 联曾 罚 跌 點 世宥專 **万央。第** 雄。東省 限。適 彩。 鬼 杭部 間 天 旗。 1 Li 华八 义本 FF 法 娅 十三世快轉。然 他有謎。第九世 林 湾 徒 哲本世。 逢 遊 间间 十第二第 以 地 此 無 足 之歌。 之能 童 世政 歷 忻 111-1-地 市中 增 秀後 胤因 所 八世宥 子 所 奥史 嘆 游 瓊洲 乘 也者 1 身 膼 州。 第十四世 现 作"八十"八十 罹 第四世 造 和肥 不 悲 答 第慶二 竹 文字 馬 往 思 遊 干第 馬。 学 獪 炒 111 13 局件 上 企 世 矣。 世教轉。 第十世 温泉 112 故 社 策 其 隨 記甚 北北 唯 法 111 肥于 强世 處 力造 天 見 師 前姓 17 秀 。 短 照 第門 終和 63 馬。 in 人桶法 塘 相 JE TL 以 老歌。 111-15 五。世第 驾 第 走 問 為 部 狗 攸於 二第 年。 計 冷 肥兄 所 小饭 阳 设十

僅 寄 伊r 達 稙 四 取 宗 甜的 。遊 公 小 (Si 遭 F. 20 一戏 島 地。永 馬 周 之起 允 古 。是放 趾 村。 寺封沒收 再 又復 HIL 记 丽 丽 家。 市北 及 1 171 竹 泛 周旬 水 -1 min] 目. 亦

規

其

地

為

耐

個

徐

此

橋名

齊

橋。

徐

111

訛

時 氣 然 荷 易收 之人。 拾一名 出 肩 出 那並 國 世 H 雲 73 日一。 烱 陸 面 TE 嗤 此 馬 州 Im 源 Di 故 更 好 IZ 形能 是是 并列 兼 開 袂 Ti 猛 號 門 代 出字 别[5 B 此 鵣出 馆 八端太 福 接 州从 华 系码 使 前 赈 世 節 引印 临初 稻 永 13 城縣 天 倫 分 俊 以 希問 Hi 曲 偶 初 IL 荷 年 仕 房 來 內 村 使 **外時四**。 世 堙 + 也 午 多 值 诚 献 奶 等 有 咖啡 企 歸 祭 逐 甲 荷 鷂 門界 前前 馬也 十元 禮 城源 集 年 月 佛 我 威 祭 逐 稻 伊 六和 馬 於此地。 不 相 馬 者 伊 尼 初 門 蓬 以二 老 衙 益 伯 公言 さっ 减 試 也 午 幸 襲 政 外 熾 人。 名。名 樂 ill: 八線 克 忠宗 2 耻 宗 书 砌 部 月 劍。 卦 JL 大 爲 百員 日奥 H 也 底 時。 訓 在 介四 見 岩 民 初 dili 二輪崎城 加 村 群 公 習 後貨 于 家 派。 午。 沼 引人 來 涿 何 今泊 謀 列 祭 臣。 今 射 鄉 寫 泰 城。源俊房亦思。久在。武隈。 法 不 端 以 旦 自 III 市 日。不一刻 放 大 東 。能 日 備 J. 起 m 據 定 元 寒 白 胩 部 鳥 臂 升 寺 間思 1E Ш 其 好 日 脉 初 銃 6位 當 那豐 謡鳥 旛 村 廢 市市 出 強 後 其 午 诗 初 之 ナレ 公。 社 羽 出 特 乎 成 惦 間 H 百 國之 原. 費 者 者 。越 以 货 自 稜 野 為 城 司築 州 獨 歷 飛 年

是 巨又 理 內 等 衛 電 明 彈 喧 柳 朋 際 沼 不 加 荆 日 門 領 汗 那 矣。 指 爲 前市 谷 名 您 之 植 址 出 旅 清 條 部。 命 別 切 主 汝 後 直 括 松 茶 場 時 有 婧 上 清 順 慧 此 而 雲雀 不 月 湖 激 亭 為流 攝 非 E 數 今 H 鷂 业 知 然 有 鄉 長 行 其 其 Ŧ 华 K 有 以 当に 我 谱 礼 告 麒 222 [1] 娶 所 內 儷 炬 11 祀 m 何 理 炬 里 1-1 如 落 如 犯 立 火。 2 不 外 事 THE 斷。 火 分 同時 在 m 場 練 如 45 去 。若不 更 1: 者 不 K 修 無 主 色。 矣 跪 AHE 色。 無 我 13 植 人 岡 からい 技 不 得 無 别 具 班 型 港 木 :It 方 足 震災 致 乘 題 此 淨 JE: 井 劣 則 狐 他 旷 型 命 Mil 馬 搅 擒 悲。 此 皮 有 Jest. 発 膳 出 似 秀吉 到 Titi が 岩 金欽 間 通 彼 日 確 狐 如 我 罪 悉 停 岩 耐 行 於 命 公 次 Y 业 择 地 藤 間 胡 有 HII 日 初 外市 Hit. 伙 派 几 It. THIT! 场方 則 冷 落 班 午 知 階 院 計 狐 间 彼 YIN 1 悲 初 FI 111 是海 唯 诗於 老 市 批 1-1 1) 松 何 之賞。 Als Li 有 l'i 17 名 作品 形容 偷 加 不 我 付 女 北北 淮 稻 松 Hi 例 흷。 利。 山 战 部 此 按 起 知 亦 伯 清 水 心 1115 400 Ⅲ 川川 管 北 岩 附 耳 勅 左 何 唯 朋 13: 手 H

多 云 够 狐 派 妖 州 獸 勵 狐。尚不 鬼 修 所乘 飾 之功。 見者。皆嬰,禍灾心 持。宥淨二十六世住持。 吁 以凡 如 在 祭 獸不論之。自古竹駒 祀 。殆無虛 也 可、畏可、崇焉。 無 日 疑。 也 如 說 寬 文有 應之 住持

壤。不 詳著"其 日 。圖文見,諸 中 事。而 - 將吉村 筆.梗 紀 公。語、余曰。竹駒明 載。 恐無。以白 紙。 葢 誠 有敬 來由于天下後 神者。 市 也。 東與 龍寶 世。 方 沙 阿 因 名

紫

如霜

淨之哀。

焉。記 僧 都 成之年 十宥 七世竹 龍次 住駒 持寺 "戊戌 別篡 余從 詠 武 東東 隈松古歌 都 還 陸 府 局 一之春 以 爲 心。 寺 鎮

質政

應

命

拜書。

Ŀ

吉村

公

公賜"之竹駒寺

宥央

文化 四年丁 卯 十 月 勅 E 位

武隈松 一木 松

花輪松鱼輪叉鼻端

木 交翠馬嚴 去。武隈 松。鼻輪 THIP 乖枝。 松 洞二町 樹 去。元 怪 除。岩 其 浬 達 館 誓售 沼 可写 驛 時 五 西 傳 MJ 五町 說。 餘 一、土人曰 餘。今臨 上小 坂一入二其 一之武隈 其 地。 松 地 松

雙松

相

並

枝葉繁茂

後 拾 遺

李 通 朝 臣

け 1 まの 松 は二木を都 1 5 カコ > 2 > は > 3 きと

こた h

72

家 集

武

隈 0 夫 0 \$ ٤ は かっ n 1= V h 風 1= カン 72 5 3 こる

重

之

朝

臣

O) 3 ひ 1 3

與 義 抄

重 之 朝 臣

72 け < まやは な は にた 7 3 松 72 1-3 我 2 U とり

有とや は 3

花 後 輪 撰 0) 集 松 U) とも。 pin] 書 3 見 60 北 1) n は 一。左 の代 1j は b あ 有ける物とも 5 す。二木 松

知 n すっ

竹 駒 社 削 砚

芭蕉 小小 2 1 5 よ h 松 一木を三

月

越

當 社 t 1) 木 0) 松 <u>一</u> 餘

芭蕉 小刀 東 龍 六世 邓 雁 謕 よ Spi 松 は 夜 1) 月 にこその

6)

岩沼竹駒明神神勅

理 時告乃儀 主應於喰 龍 開 時 仁就天。領主乃宥見至 前與原 語 之使那些。 同 斷農儀奈里。 徑乃旁爾畫寐志帝在乃所 極奈和。作、去其命婦者。 依天彼命婦夜前 召執天。 10 領 日

松樹上經利附左世領主乃意於宥也,

日本中古記。山中山城守基俊著。

若其子 何之遺 本國 共 方支配之野干。 中 恨 狐 糾 無候 狩 一致其能 间 者。早 中 付 一候哉。 秀吉召仕之女房に A 候。 可 委 被 此 船 之儀 義 引 取 被 者。吉 候。尚 聞 屆 取 田之神 付 於 可 し被 為 延 引 腦 申 主。 候。 者。 越 口 有 候。 E 日

申含候。恐々不宣。

三月十七日。

太閤秀吉判

羅山子。

稻荷大明神殿等

攝州古會部碑。

名能 能 因 後守元愷。 法 因 師者。左 。號。吉會部 永愷 大臣橋 入道。善,和 補,文章 諸 兄 生。 十代之孫 歌。 號 肥後 此道 业 告無: 進 。本名永愷。 ---師 种 弟 遁 。父日 至 111 改

> 其 繁 因。初 献和歌。三室山 人而其名彌頫。 櫻樹。每 以 八姓名。 為 多不」可 美談。 以.長 以 年能 傳手後 能為師。果然否。嘗有,秋 枚 兵部大輔大江公資。五 因 舉 |者自||古曾部|入洛。往玩 也 楓龍 後冷泉院永承四 世 攝 田 云 州 川 高 錦之句。不,亦榮 槻 城 邊有.其 年。禁裏 條東洞院宅庭有 風白河 其 售 一乎。其 歌 花。 跡。 關之詞。 合時 今 花亦依 餘 記 略 詠 大 世 歌 因

能 T 後此所 因 法師 慶安三年 古跡。攝州島 に住す。因て古曾部入道と云ふ。 春三月日。 Ŀ 郡 日 向守 古 會部 大江姓 村 1-永井氏 あ h 直. 70 清 遁 建。

津の國古曾部といふ所にて讀る。

わ h V カコ B 2 U) 梢 0) 夏に な 3 時 は 生 駒 0) 山 そ見 えすな

所。 松 和 林 漢 庵。 \equiv 才 在 圖 古 會。卷 曾部村。 七十 四。攝 能 因 住 州島上郡 居

于此。塚在

一伊勢寺近

能因法師。後命泉院肥後守爲愷之男。出家名。古曾部入

道。初為。肥夜進士時,人,長能守藤原倫寧之男。 家。

受。和歌指南。

能因法師塚。在"別所村。自"高槻」五

百人一首拾穗抄。

能因法師、俗名永愷。號。古曾部入消。

守云々。橋諸兄公末孫橋忠望孫。肥後守元愷子也。任《長門

す神 御 T 抄云 なら 天 能 0) 河 天 神 な 1.1 は 道 と讀 L 1-ろ 名 水に ての 學 雨 (a) せ 智 h 3 Z < 5 者 12 せ 75 せ 60 72 あ ま 伊 (豆三 72 島 b

1=

は。まへりて新申ける哥 けれは。守能因哥よみて。一宮にまいらせて。 は。なはしろも無く。 りたりけるに。正 愚案。天の河の歌金葉集に。 月より三四月まて。い よろつにい 云々。家集 範國門臣にぐして。 のりさはきけれて。かなは 是におな かに 雨 雨 伊 9 43 ふらさりけれ 豆 0 n 9 國に で申け さり まか n

袋草子云。和 宅 師 當當 車 捐 初 亚 肥 仍 歌 後 進 はよ 7 土 告 車 と云 よ 取 6 に遣 V 無 3 间 1 時 L 0) 物 て 間。 能 入 W 因 彼 1 始 家 3 1 始 於"長 長 面 能 會 能 智

數寄者 實歟 出 奥 云者 す 翫 江 す。 因 所 束をつくろ 部 長 由 云。古曾 るうへ 州の をはいい 3 公資 物 其花 能 實不。下。向 云 を禮 跳有"叁 。陸 に見す R 云。 書。八十 五條 能 也 に時 n 一云々。 由 部 奥 。始 は。 -[入道 風 1-因 かっ Ili ひて。 東 仕 相 雨 7 下 古 聲云々、一 T 島記 歌 3 與 き物 洞 3 耳 0) 逢 製 公資 U) 向 曾 カコ 州。 は 院家 。秋 契 心 3 形 部 2 能 彭 0) 讀 侍 云々。又云。 なり 約 時。 より 為詠 にて かっ 自 お 因 かっ 風 了 b 云 す。 孫 一度下向 然 ち そ吹 白 云 2 とて。自需 F は過 公仲 口。 每 1-T 1 な。 lak 能 有 此 如 年 過 白 問 0) 因 感见 歌。 此 叉云。 件家 8 花 ん云 1: 0) 候 河 云。 剔 云。 加 可談 絡 は 船 由 緇 0) 久夜長 古 32 々。殊 常 何 4-能 0) 何 中 あ 開 1= 1 る 竹 李 等 1= 樣 南 Ŀ 因 籬 云 ho کے 錦 る 田 紅 有 云。 匠 浴 0) 170 1-云 居 勝 B 們 小 よまれ 太 於二 薬 如 放 有 [1] 數寄給 袋を 見 0) 11 刀 夫 自 0) そや て。宿 Iti-櫻 T III. 詠 然 節 殊 國 カニ 此 哉 度 歟 樹 候 W 信 0) 72 0 行 は 1-能 哉 出 引 は 寫 大 は [11] 装 17 答 3 2 其

之見 共に感歎して各懐 長 0 悦悲しく。又自 Ш 柄 0) るに、か (1) 中 紅葉は 橋 に釧 つくる \$2 屑 たつ 72 懷 ときの 筋 る蛙なり、是は井手の蛙に侍云 中 田の 6) 之退散す云々。『あらし吹 紙 50 河のにしきなりけ 鋸 につゝ 亦云。 屑 也 む物 と云 是は をとり な。 わ 于,時 かっ 重質 5 出 節 な 三宝 信 30 な。 開 喜

九 10 所 0) 3 ili 師 後 1= h 价指遺 の) 歌 Ili 説 上 のさまと 能因 る 0) 南 嵐 古 1: 紅 h 1-0 時 薬 秋 0 ふ〜三室 カコ JE. 雨 ちるとい 下。永承四 (1) 粉骨なるへし。御 散て 出 多 風 ふるらし。」此たひ只 『立田川紅葉は 思 體 す な なる 事。 45 0) はて流 あ カコ 山 年 洪 は n 0) 內 身の せて。見傳 來 もみ 裏の歌 來 b 粉骨な なかる一种南備 抄 72 て ち 云。此歌は。古今人 3 葉はと云て。 合に 風 立 るへ 時 り。是はまこと 田 情をも 云々 節の) 111 きなりつ 0) 歌 景氣 の三室 た 錦 心 せ 2 かっ کی は 72 あ 3 0

> りのは 能 を聞 T 游 是を稱して肥後の進士といふ。後髪を斷て。攝 を好む。幾と歌人の體 曾部に隱る。本の名は永愷。又能因と名く。性甚 落花 凶 态 哥 て。和 は。肥後守元愷 i 寂 を喜ふ。偶 め文章博士 A 哥尔 72 30 h 詠 能 春 に補せら 因 を惜 の子。姓は橋氏、橋諸 語 を得たり。一 T ることをしらす 金龍寺 れの総 に後 て肥州 時の 3 兄公 名公告とも 1-H H 刺 U) 菜 路 12 後 11 111 争 胤 和 無 U) U) 序 歌 古 か 人

散ける。

丸 を撰し。是を左右に取て。五十雙となし < 部 人皆今に至まてこれを誦す。元曆 し。又陸 士 1-に配し給 中 終。まさ 1= 奥に 圳! る。能 む 游 死 U て八 因嘗て玄々集を撰し 15 3 h 十島 とす る 0) 記 時。多年 F 作 帝。親 る。 0) 給 吟稿 能因 遂に C, U_c 古今の を取て、深 歌 を以 老 枕 を古 を著 て明 歌 人

能因偶和歌を詠す。

都 をは 長 2 1 3 出 L カコ と秋 風そふ 1 白 河 0) 關

村蘇生 能 閉籠 2 な i. を乞ふ。こと は h 此 歸 りけ 因 h せ 歌 りと 伊 10 日 るよし h 110 豫守 窓 0 n 1-お 雨 よ 11-思 は 8 12 5 ひ。奥 實 を言 り首を出 ひをなし 炎 (= 0) 綱 b 照 天 歌 お と思 To 1-1) 州下 俄 をよみて。 伴 > 1-て。速 この 5 32 け して。日 へとも かっ 向のよし て。民 て、彼 3 さくら 歌 に歌を詠 となむ。 3 Ξ に晒 居 國 0) 世 島 h 歎淺 に下 20 な 4-0) 世 カコ 大雨千 出 し。みてくらに 神 數 5 1= かっ b すとなり 詠 5 11 日 披 赤 す 露 0 3 せ 里に潤 3 後、 頃。 し。 ん事。 此 きこう 夏 能 與 時 ひ。民 書 室 無念 因 州 國 0) T 3 始 司 t

111 苗 代水 にせきく 72 せ あきるく 打 ります神 なら 13

カコ

孙

因 自 東鑑您 法 नार् 秋 風 師 九 占 治治 草木の 風 文治 關 不。思哉 明 孔 浦町 露を拂 年己酉。 御 之由 奉幣 せ 被 7 此 七月二十九日丁亥。二品 君 仰 間 カコ 出 召.景季 越 景 n 不 は 控 階 關 馬 時 守も 詠 初 秋 なし。 也 首。 能 越

放

33

林

因 法 師 墓 伊 藤 號学 君子嶺養

能

薦 Ш 村 秋 慕 風空唱白 道 自逶 河 迤 帅 辭 樹 蕭 條圍 二古碑。 行客蘋繁無可

平 廟 鐘 銘

宗卿。 焉,亦 從是國 陽 社 之眞容者。空 斯 王七十四 人王 凰 於宮城 成帝治宇 **鈴體**。 地 州 六十四 也 宮 人王 品出 城 同 分世 勸 玉 主鳥 忠宗公蠹再 國 五. 所 白 慶長 手 分 請 主圓 城 也 西 + 家。連綿 崎 小 州 樓 羽 Ŀ 岡 11 俵 皇帝 市市 之八 人之影 融 東 + 在 邑王 洞。恭 帝 Ш 九年 阴 111 御字天 临 御 榴 與美志。爾後慶安三年 菅 F 手 宇 峭 田 敬渴 刻 神之 女 崎。 卿 當神 者。東 佐 一的 也 帝 州 延五 藤 御宇。 仰。新 廟。名 答:造 始 後 太守 莊 年久 遷 鎮 史 司 SE 稱 些 寬 致 座 照 聖窟 平 非 夫。 永 柴川 國 修 111 藤 志 朝 星 ---人王 蘭 城 分 进 原 臣 七 而 感 鞭楯 和S 國 朝 將 寄,附 加 此 年 川内邑。人 竹 瑞夢 臣 百 赤 賜 歷 一古里 内 八代 黄門 奉,守" 天 太守 师 神 東 滿 移 領 領 政 後 然 蓋 宫

年六 夏。聖 必 年 遷 宮 致流 七 聖 經 後 月 月 塔。巡 西 堂以 一廟 廿 11. 帝 無 於 治 五 Fi. 山榴 7 一
止
於 不 学 H H 樓門。供 。定"祭 安 膊 出 寬 東林。今稱 微 文六年, 同 鳴 祀 閣 聖 成 吓 之 拜 容 乖 形。 於 殿 冬、集 元 太守 當 新 恋悉 神之 爾來 天 殿 被改 神弦也。 匠 亦 德。 晋 故 柳斧。 加 膜 左 7/1: 勃 %出 附 少 人王 如 哪上古 將 素 前前 迨一翌七年之 不 除 綱宗公。欲 領 百 可 兴 imi 十二 矣 測 求 以 斯 世 福 毎

顯認 然威莞爾應。 像亦 滿 有 德 六 者 File 平 部 一。鄉 若 四 夫 關一不 造之篤 N 大 壬 平 今 亦 荷文 誠 迹 不 -世 11 倩以 誠之罪。 菅公之照際 雅 爲 聖 道 何 111 而 以 前巾 心心 酬 不在 响 恒悅 荷 道 思 妓 至誠 旣 哉。 也。 行 其 渤 爱 厭

積。受 之跡。姓 敬孳々不 有。仙 府之住 傳 "营家。而 深 心俗。其稟性 秘之薀 骨野 = 既 **聖** 盾 右 二非 好 衛門盛 王羲之書 之绕 是 我 胤 所 豐者。 得 故 風 一。稽 以"當 m 自 能 古筆 先祖 IF. 社 以 景 道 世 威 。運 繼武 加 前市 神。 心 加 功 門

時 茄 哉 也 為 是歲 謝 使治治 此 洞师 思。新 造 大鐘。空 鑄 大 爺 分 欲 巧 釣 匠 市市 建 削 "鐘 旣 一樓。其 有 年 功不 矣

> 矣。於 懸 敬 當 壁玉 宜哉 H 相 景 市市 鉤 靈驗。鼓 於藍田 此造鐘之功。 此此 成 祖 中市 imi Ejíj 神 **盛豐速** 約 一一皎 永 當 ·嘉幸鳴 動 爲 然 社。 果 至 社 天。 最 誠 夙 爲 财 巨 勝 当。 北 聖 相 。悠久之重實。 無窮 鐘 PIPE SUL 列宗 此 而 慶 lov 大善 不勝減 證 大善 通。 廟。 前面 当 光之日 业 风 得 及子 望 。而是致、誠 激之至。就,予請 宫 Mi 連 绅 祈! 乞子孫 成 A 孫 號 煽。 悉除 新 管 矣。亦 金品 共 TF 鈋 繁荣 35 盛 百 開刊 拾 鈋 難 鐘

鎮,開榮華。

維

明

和

三龍

集孟秋咸應

H

龍乘院大僧都法印秀應謹志

光善院權大僧都法印恕永代寄進

願主 菅野三右衛門盛豐

鑄工 大西五郎七清次

菅神庙號照星閣

封

內

名

蹟

志

卷

七

宫

城

那

所 祀 初 管 計 亚 相。 文永 往 元 時 年。 在 宇 局 H 沙 郡 H 八 移 市香 于 崎 國 分 天 业 延二 小 田 年 原 平 村 持村 3

君 會 崎。天文十三年白 湿。于 宮經 檔 固 營之事。而 而新 造 石 替。 參 河 移 爾後多年所 守 地于東林。寬文七年。 宗 明 再 興之。 植梅樹數百根。 慶安三年 綱宗

贈 固 照

非

初黨十里

香

風

をさ 世 菅公御遺訓 ほ にして、い わすれ。末の となりて。神 て末なると 200 0) つたへ 誠 有 くそは おて カコ 仰 由 5 佛 事 75 1-0 有 來 T 3 ありし。今日 h 事 1 て。後 此 は 5 0 8 か 111 苦勞を受け かっ L 3 り侍 T 世 彼 威應 とい 世 0) 0 りきっし 此世 あら 父母 ことなとを。 る事 To は んや。 は。則 כת カコ 父 あ 8 母 くのことく人 h 古人本本立 n 0) てい は其本を 72 願 まも 唯 U 侍 佛 る 神 0)

をうつす此

身を

惠 正直 給 カコ は 人其徳になつきあ h な かっい 12 こそ。我門 を えて。孝道 カコ カコ そいろ にして一生。此趣をつとめ給ひける人の死 んや、佛 常常 5 ち 1-ん。此 左 L もこ るく侍 神とい 0) 弟 右 志侍 0) 心 0) > 床 なくて佛 1 1= かっ 5 ~ 5 1-る め奉るにてそ有け 4 から るも。昔年我人のこときもの は 書置て。 L まそのますか 8 天 よくよく 市市 あ 地 につい h Ze 朝夕な な 動 כת す 父 1= ほ 廿 かっ > 派 200 (1) 2 る。 め 末 御 めく 心 应 るとて、受 恩 此こと かっ 應 超 2 H なと 0) 侍 お 000 影 諸 B 1) b

鄉 上 教"論孝弟。辭簡意尤深矣 之有,感,終繼 見一 木。弘一于世 小 **|||||** 題曰 其 二。願 志 使 "管公御 各國 尚 計場 刊石 。實為 遺訓。以本邦 高高 短 "神製附 今德及"菊莲"也 不 杉 馬 Fi 所.智熟 云。我已得之 之話。

獨吟

唐 m 菅公御

大神不

轉

肉

身

0

佛

2

お

A

は

えて。朝

な夕な我

父母

をう

天

明七丁未六月二十五

H

新沼

称

父

建

東溟

井民

和

書

伊

排

計

伊

排

HH

0)

兩

今

釋迦、彌

陀

0)

二佛。

此

身

天

照

生身

0)

佛

加加

きると

は

かっ

h

け

m,

کی

D

ימל

2

き奉

りて。

後

にこそ

佛

神

3

願

5

汞

6

な

は。

F

0

つか

5

和

光

0

御

朝

露

升

路

行

非

	路に野草の枝ををき別れ		品には例を月の山に見て		不のふさの寒はなき物を		戸に人は住とも道はなし		けのしられぬ枝に風立て		かっる袖に露をや沖つ舟		ぬまの夢に都や残るらん		風の吹とも月は朧にて		雪こそましれ 梅の花
聞ゆれ	鹿の音こそすゑに	の秋	出てつれたる古郷	霞けれ	遠きかたこそなぞ	やふるらん	雪まかくしてまた	たまれる	積る木のはそ音に	冷まし	雲より雨はゆふへ	秋	旅の衣も同し世の	夜すから	やかて鐘き~春の	夕陰	一しほかすむ松の
	曙に別行夜の春の空		類なとうき世の中と成ねらん		侍人に問れぬまゝに秋の來て		谷水はよそに流し水なるに		松あれは雪の下より風立て		子を思ふ心の闇の夜の鶴		誰とても同し春をや惜らん		むら雲の山にからりて吹かせに		松高き奥に紅葉のほの見へて
の一行	後れていそくかり	かせ	雲ある月の花の山	76	涙のしたは袖の上	くゆふくれ	霧のそなたのいそ	h	山や桁に瀧落るら	霜	枕の上に月かけの	の鳥	長閑に聞や籠の内	L	近き峰より霞とは	目なるらん	陰やこのまのゆふ

浪にかっ

型

82

山

風

山かけの

柴の戸に

紅

12

										~~				-			
	軒ある		枝まて		あたし	月見れ		行舟を		忍はしとなるへは猶も戀しく		をも荷		不二の		船の	
	>		まてもすくなき春の老木		たし身を友にあばれて袖の	は		をとめ		とたも		を		高幕		漕沖つ	1 1 1 1
	庵は春の風なから		なき春		及にあけ	雲に盛の影見へ		めて瀬にふす波枕		へは猶		は分てや歸る樵人		果るまで		つしらなみ	
	の風な		の老木		れる神	の影見		にふす		も戀し		や歸る		まて陰		なみ隔	
	から		にて		の露	へて		波枕		くて		樵人		陰高く		りて	
空	雨か	25 25	霞も	にそ	物每	明れ	くら	芦の夜風	にこそ	ふかき契	任せす	もろ	折を	まよは	く成	かへ	
	と思ふ村雲	<	かれて	なる	になっ	は消る	む	夜風の	そあれ	き契り	す	もろ心さへ身	はする		るらん	り見る	
	村雲公		朽そか		むしか	秋の灯		のなに戦	,	りはうき		身にも		しとてそ枝		見る跡とほ	
	0)		133		13-	71		平义		5		8		112		14	_
	幽に		花 哭		深山		遠里	7	わか音	Ž	充て→	但	_	ひとり		雪の夜	
	にもい		突ぬ 草		山にや時]	か草		充てよする	1:	_	ひとり寝は		雪の夜やたり	
	にもいほり		突ぬ草や青		山にや時雨か		里も今日	1	か草にましる		 	は立名		ひとり寝は鳥の藤		やたもほの	
	にもいほり		突 草や青葉に		山にや時雨か秋のよ		里も今日白雲	1	か草にましる	7	水	は立名				やたもほの月に成	
	にもいほりに里の顯れ		哭ぬ草や青葉に春留		山にや時雨か秋のよに成		里も今日白雲の打	1	か草にましる	7	水	にご名こる事を死しい	これらいたとのとしす	聲さへうき物		やたもほの月に成	
3	にもいほりに里の顯れて 捨	近	唉ぬ草や青葉に春留ん 朝		山にや時雨か秋のよに成ても		里も今日白雲の打廊ゆ	b !	か草にましる早蕨又もへて 焼	日日	水のたくたくに重	に立名こる事を死して計	これることを受けていま	整さへうき物を 我		やかもほめ月に成ぬらんっ	
3	にもいほりに里の顯れて 捨	近	唉ぬ草や青葉に春留ん 朝霧消	一村	山にや時雨か秋のよに成てもみ	出ら	里も今日白雲の打靡 ゆふへ	りたの松	か草にましる早蕨又もへて 焼ぬ野に	日日	水のたくたくに重	に 立名 こる事を死しれず 山な	これのでは、変しすれば、	整さへうき物を 我像	にし	やかもほの月に成ぬらん つかるう	
3	にもいほりに里の顯れて	近	哭ぬ草や青葉に春留ん 朝霧	一村	山にや時雨か秋のよに成ても	出	里も今日白雲の打靡ゆふ	りたの松	か草にましる早蕨又もへて 焼ね	日もなし	水のたくたくに・垂氷	に立名こる事を死しれず、山ないさせの	これることを受けていま	整さへうき物を 我	にし	やかもほめ月に成ぬらんっ	

誰 袖 1-泪 0) 雨 0) かっ > るら h 雲となり 别 2\$ ち は長 3

花の ちる嵐も風 かゆふへ にて 春や日 數

の年に行

0) 名 残に霞む山もなし 夜ふねに見る

古

鄉

C, h

は波

やよとむ所に氷るらん 底にまた聞うき鳥 0)

川

册

包にも下やすからぬをもへにて

身を炉火の 消 もは のこえ

おとつれ てはや なし

の秋

寺

くまるゝ心もしらす待暮に

風 そふく

露はなと果しはかなく結ふらん 出ても月にうき雲

の空

夜とても思 はへす 里はいつくの 礁 な

與

山

長

35

へかへの野 の暮 3 薄雪まても残 る下

今朝分し道さへ

風 たにも多枯の水はすくなくて

TI

川や音絶

5

派の) む

夢にさへ其人をのみわする。に 遠さかりをも

82 面

れては心の殘 る花 ならん 命

别

0)

すへ

0)

春

をま

カコ

H

たする

定なき世の有増をかすめきて い カコ

なる

人の

山に

勤工後は 佛な

はしらす苔に道ある巖陰 Vt. るへ

御社の して合點。二十五句長なり。御連歌不審に 應安六年二月二十五日。二條殿點を望申 出 えも。只今童子持参點を望申 る人に書留て被為。置。又此 し候。紫 内へ見入れ候。末代不思議 面 白 候 まく留 て重 子の 候 由侍公に御 (1) 行 合盟 li. 末 なりつ 見 せ 吳佳. 用. 十五 候 有。 る 召 1-0 所 救 何 御 北野 長 恋 削 御 1= 所 な 完

大般 岩 2 n 8 利 L GR. 3 は あ h な カコ 5

木

0)

薬

連

歌

1=

L

<

物

2

3

せ 此 ٤ 3 借 河流 2 は。これ 0 よみ 1-給 原 は y 3 3 なり。 事。 筑波問答等 連 歌 0) 家 0 1-書 T 营神 1-見 を賃 72 景 h

筑 波 問 答 1 見 す

心 會 と云。其前 敬 H 於 煙 僧 莱 5 都 中 U) 云 何 付 大 誹 句。秀 事 1-並 志 水 岭 深 0) く。北 な 卷、臥 3 事 野 ,完 浪 聖 0) 滿 廟 怎 宫 1= 感 T 書を。 應 連 さる 歌 L 30 授け 始 ま L 重 給 て。 。或或 2

人を送 6 T ء 3 野 0) 末

身 都 ん。た 8 感 は は 動 叡 灯庵 い これ 山 住 かっ 心 烟 あ 60 心敬 院 0) 12 0) 住 僧 夫 め 職 都 よ 1= なり 0 h 0 連 丽 -誹 3 3 立 3 此 7 市中 h と。付 re 烟の宮 缚. 敬 5 と云。此 n 奉る 多 2 僧 帕前 13

閣星照

元 献 月二十 年 尤 計 歲 五 書 H

> 之。榜 別 此 此 先人之製埋沒。翁之志願 當 法 額 恕應。更 即 高 大字。於"梅花似" "躑躅 一。法新 橋 謕 即一六年。而 岡之 庵 加 所"道求"。冷 修飾 市市 廟 而 THE. 合 一。後 得.其 之所 懸 我 亦 有 不 先 被 廟宇」永傅云。 傳 献 ,途矣,於,是乎請 人名旅術。稱"小兵 房 也 置 小小 景.仰 者 學 殆 製 六十 于 营 跡衛 阿 今 年 大 子。 鰢 晚 廟之 路 恨 刻 道

暦 一壬申 成 六 月 高

野

兵藏

兼

良

謹

T.I.

獨 阿立 恋 澗

層

八戊寅年十月十九日沒

高野兵藏脈良之墓

松 居 士

廣 澤 III 浜 福 寺

立齋之碑

身 殁 涉 即 齋。父 吾族立齋。姓 書 有 後從 吾 H. 史。交 度 小 世 佐竹義根。 幼 兵 祖 衛 有 通 親 藤 兼 悟。 記述 兼 猶 原 之士。亦 君 出 小 氏 之弟 ifi 好 于 高 得 學。 HI. 例 高 也 好 野 立 旨 天 部 间间 加右 齊性 兼 们 文。 45 良。稱 高 利 衛 孝友 水 此 4 門 先 兵滅。 (銀定) 遠 御家 命 生。 族 進 講明 兼 學 有法。 北 東 定之先 舍 辰 小小 義 流 泊时 圳 檢 立 瓜刀刀 沙

八月。增 此 而 法官。數有。献 。今丁小 數十卷也。 神氣不上骨。知 場場 祥 采 一藤 地 替。 書及刻印 甚 三貫文。兹年十月 原 便"于 死 明斷懸到。 倫 不 兼 疑 事 一。仕傳 立 。從容 赐 石 , 帛賞, 之。又以, 功寶曆 颇 丽 託 有。能名。嘗類"次於 公子。導輸 十九 後 事 條 日 以病 然 有方。 殁。 終。 年 後徙 決事 五 病 戊寅 久

萬句 誹 計 納 記

州之人。遊"于我與。號"東 氣勇名知 元。時 衛 自有、驗。得 美惡.有"巧 遊藝之於人依 而 信從者日 値 與 朋 元氏 州 師 於天 且以"所 松枝 人 則 拙之異。然得"淵源之正。教育之精,者。 "師道之駿誘 也 如"水之就」下而沛 下。 學習之邪 名 稱 。時元素 用點印 號 未 又師。大淀三千風誹 久 滴。 左衛門。囊昔復"義兄之仇 掖之踈。雖、勞、已無、功。 往居 自 愛,朱滴。以所 正。而有。得失之差。因 喝之。 壯 上。時 歲 然。 好 叉議作,萬句,而 元事...門下 訓 武 諧。 諧 田 得 一治景。 學"朱角 三千風 一干居 寫 生稟之 或頴 名 熟 雖近 弘干 士 而 舊勢 權 翁 楚。 m 敏 蕊 時 兵

> 致 滴 殿之森々。所以 封 立。石 榴 世 者 故 次 則 者 不二立。誘"誹友一起"大志。孜々能途"其 多賀聳"古城。 問 姓 善 郎 此 尊"斯道一崇"其師 。倘! 寸眸 内之名蹟 固 一未上果。是歲慕春二十八 美功者 名于 其 時 梅 于岡 管神 末 淵 尋,柳之徒。遊歷之際感,幽致 侧 有 源 上。以"朱滴 詳二 廟前。而傳 一。永 で質可」 而宮 之出 舊 赤碑 一識。告 1專 骚 望。 其 城 斯 貴也。 之志一乎。 人墨客致,鞠躬景奉,也。今藏"之兹" 餘 順 人。 成 之詩。其 片石。玉 野 爲之主。抑 " 芳乎永 功乎 菅廟祭:子兹。 木下醬林。松浦 聊 是是 日 述朱 不 無 一世一一世 是併緣"師 記 世。仍作者之輩。 田襟 於 滴之志 斯 前师 小小小 、朱滴 青丘。横野帶 感 地 功。於 一賞雅 亦 也 JII. 翁之橐籥。 烟景 ph 较 爲 有 郭 威之赫々。宮 師 之記 是欲濾藏路 小小 夙 趣。而知 外 鹽釜 中 苦 各 之 素 子 一方原 佳境。 刻 戮 、望之 復彩 m Fi. 力 朱 郎 今

享保孵冬十月二十五 日

朱角門人 五. 城 老 隱 廿露 太白 堂朱滴 111 人 並 立石

果而 銘 岩。首藤 小 室之傳。仍立。學 。。第日 野 卒。 氏 追。億三師之恩。樹。 文林 門弟 松岡三士一受業。特據事 道 子含 照居 字。 於遺意 士。本 教.諸子學,字。 福於 貫仙臺住 而今立之。請。銘子 天神 社 馬三十有 。幼冲學,臨 前后查算數千人頭 下。欲顯 奇 其 余 終得 池。從"虎 義不 走、笔 石

三師行則。為、渠常師、恩義海濟、維石緝凞。

保十一年午十一月念五日

亭

角里道人識 東礬書之

小野年右衛門實成門弟子同等立之

筆塚 東都龍湖親孝書

植色

世 0) な 4 は有 て事 速 にまか 都 る 我 八 十歲親 せてまたたらす こそや 和 के it 書 n

筆塚銘

鐵閾進隨、玉筋銀鉤。何物是窺。吾藩井氏。廉買之兒。心龍湖之泒。瀉、之硯池。鳳素戀翔。實一世師。自,西自,東。

紫花拂 图 竣.事 化。馬 體 象。不巧 手。羔牆 去" 竿 牘。 思邃 中窽。日 所 。樹 蠹 』適從。議、我 繭。 之感 逐封。 石 不。 爾可 其 五雲凌 標 沙錐。日 上。鐫 容"之彫 致 鎮 而 誡 存 自 心腕。時一 授以"形管"如"椽 以"嘉銘"千 彼。復 一盼 恫 一種。藏 諸 图 墾. 月諸。窮 不, 松遺。絳帳 雕 極 相 之黄 蒼穹。 发 秋 攸 報。 仰 指 于 境 留 厥 頭 。豐毫 丘。 如紅 尚 遊 好 罔 與歎。既 有 中市 結密宽綽。 胞 銀 終。 物 图 軸 不, 翅主瓒。 心 五 逻 惟 表 義 称 請 兎 =儀 献 飾 惟 造 具

東都深川龍湖三井親和門人 荷澤 藤太沖撰

東溟 井民和建

記插花碑

謂 世 能 逸 曲 一。捕 技 淹 韻之士。寓。目 池 星羅 一坊。位置妍醜之整。既過二二尺。 花 朝 夕。而 者流有」二。或立花。 以 百數 未,及"位 於茲 焉。 以 然 置 裨 未 妍 醜 哪 聞 日 掃 生花。 其 詠 義 而 花 詳 出 列 令"甲然得 其立花 說 唯 此 郛 論 獨 矣。 瓷 元 三眞 銅 開 輓 阴 落花 之間 作 近 祖

六年八 图"當 粑 和 牆 知 弘、 安 授 耶 叉 在 可 松齋尋 日 に問 心 以 、未。嘗 春 水 也。 水 制 片玉 IE 嚮有:高 一。鉢于 Fi. 是 世者 道道 非其 逐 風 葩。 皈 年, 月二十 獲 画 體。其言 其 後 不.内 進 際、秋蔓。 共 中。實 秀時 徒駸 志 表 運 歷一有 於 於 橋 業。 共秘 一則不 。二流自 技 - 技于 Fi. 秀花。 惻。爲之醵 者。果 不,異,丘 E 々。升、堂入室 日。專 馬 甞 一哉。其 技。 折技撓 阿 能能 温泉 茂庭 治城 秀花 受技於池 云獅 是劍 登 弘 水 處 所,好六十 秀 」類 副 道 壑,是為,得,兵 肝污 門生布 字瓶 受此於池坊。經一若干 此 江 時 立た上 物化。 賜 祗 於京洛。 從 龍 和。 派 家 數 坊 乎得 抑叉末 合。珠 而 秀 會 問之覽云爾。 與、余善請、言 年。一 T 顓 游 几筵一竣事。 至,今且。三期。羹之與 時 上。設北 百 喪不り放 於是 門 IE 亦 青藍 П 人 矣。 與 回 乃心 于 不一衰 蚌。 焉。然後 夫秀 授 藩 天 入"方 柳 然之 彩 野池 弟子 即 故 矣。天 其技 亦 月 時 顽 各 其 書 先 想 也 李 問 在. 寸 内内 而 功 然 方 称 可 雖 概 明 乃 非 别士 事 此 海 存

天 明 八年 秋 八月 荷 料 藤 太沖 मार् 卿 撰 于

石。以

画

丈之惠

秀

時

勾 堆 與 直 輔 良 部 1

うつ 0) 3 ろ カコ は 72 す 7 ちら は 步 す 8 1= ほ 茂 15 は 庭 左 花 治 圣 馬 2 旅 原 12 12 秀 H.F L 3 風

今 老 H D 0 to 5 は m 明 日 多 3 た 0 ま h 命 多 8 知 i, て 72

日

ろ

琴

と花

とに

世

圣

秀

時

む

壽明 院寂響定照 居 士:

需。銷 茂庭 馬。 獲 池 技 君 新 HI 宽政三年 で技 坊 君 潟。以其 旭 興 父秀 左 共 惠弘。則上書乞添有 從 述 mi 余乃受狀 事 治 選。 池 知。慶惠之致 漏 亥辛 出 馬 功。 十月 所 旅 既 藍 母 吾藩 Thi 稱 原 汽 能 按。 秀 fali 湯 H 授 夏 -1-時 弟 高 氏 君 浜 之 验言 君 橋 119 池 が生 秀花 泉 世 君 H 坊專 然有差言 族 C 馬 夙 原 時 温泉 受 秀 好 语 純 會 道 111 肝许 其業。 方流 插 君 琘 東。 江 經濟 秀 花。 生 攸學 卒。 1: 時 釋 1 得 徒 最 111 族 慶 fali 分 錦 是 大 -1-2 忠 茂 師。邑 嗣 願 踵 派氏 内 便 IST: 於 秀 流 家 欲 水 治疗: 小 稱 芳 自 松 近 花。其 表。第 左 亦。 逃 技 能 治

政

相

於是平 著.秘 辰甲 者儘多 忘年交。且 **飨晃君之叔子秀芳。** 畑氏。有,男共先逝。 不 加 隋司花太悠生。於"君 業 夫易。地則 厭倦。 供 施 矣。 至。率實六十 弟子彌多矣 及 公赐 道。遙山 蓝 然其 其 彼從 秀芳。乃可。恝 當 目。 撥 而 天 ال 書 只畜花 後 明六年 有八。葬 尋使 配」女嗣、家。能繼、業濟、美。以"享保 幸 再娶。古山氏。有,女。養,大夫高 所以好。君爲人簡 所,修池 周 可 旋旋 知 "秀芳 耳。 風騷。頗以。隱逸一終焉。 午丙 然此 城 門流 也。 想 十月朔 率 北大願寺山坐。余嘗辱 當非其 役 余聞 門客 風 一哉。逐銘 可 日 元 重 復受 一調得 造是廷。各工。其 明之間 頴 直旨。况 悟 日 其 爲 弄好 命 亡論 妙 與 元 君 に訴 乎, 之 自 酒已

研

技。工... 插花。醬.. 贻缺。子 克

仙臺 源 義路 撰並書

和漢 六角堂頂 開 三才圖 基聖德 立花 法 會卷 太子 寺 七十二 坊 在京誓願寺通 舍池之坊立花之宗匠也。 III 城 鳥 九。 天台

> 矣 色五 烈之。 天文五 其家系,善之,累世 者。不一得一立也。投一入花于筒。亦 城能定,法式。家有,小卷物。大卷物及秘 和 公。啥.茶會。 傳插"花於瓶 屯 柯。 年青。 牡丹 凡無千花。春蓮華。夏菊。秋水仙。冬松。四 年正月十七 又樱雞冠木之一 ・小貫 石蒜。石楠花。竹檜謂,之胴之作之五 m 师 立 浆 日著。 一花遊 隆 以事字為名。 松謂之前 於聖德 興盛 花傳抄。 色。乃花葉之至極。共是七 行 太子 各 置之三種。苟 īfii 有 六角 同 時 中 行 朋 矣。 則 堂池之坊 細 專 傳 有事 慈 抄。而 至 不 設 謂之 引 好者。 善之。 口 門人 軍 種 護

筆塚銘並 序 伯壽菅野大 人献 額 出字 年 八 十有 八

男

自少善。書。 筆頭。座,之。 百子。所、退筆 昔鐵門限居:永欣寺閣上。 年迨"二十四 所 號為,笔家。自製、銘云。占家君伯壽老大人 業既成。 置人竹簏。應受一 師 事 者二人。 乃設。墊於"梅華橋東。 凡三十 日 石餘。五雙 年。 滕 佑 子 俉 Kin 寒順。 離 書眞 撰 背影 並 多聞 玉子 帅千文八 書 取其 安清 閣 西

数投 整生者六十年于今。門人凡以「干數。於」是退笔作」 正月十七日行年五

+

能

堆作,林。 題於碑 辰與門人等謀 額 贵止 他 信佑任 築。筆家於城東躑躅 鐵門限之人一元億 元 事。 家君於 而已耶 岡。以。家君書隷字 書六體共備 余弟鈴 就 木氏 中

以 大字 法 鳴于 111 是 添 徹 公命。 書歌 大字 公院 賞

旬 焉 有 估 介 悟 m E TIT 神氣 家君從 酒 健 如 弱冠 北 蕨 以 心書筆 此些。 縦 敎 横 一授諸生。 其 弘 盆 道 今齡 显 非 1

月

者。盖餘 積善之人。 慶之所致 水 大龍 111 造に奉 哉 估 佰 不可以叙 趾 無似 m 馬 猶 得 因勒 繼家聲

文房毛錐。爲。君子友。鉅 細得 宜。 憑心冉記 手。 生施

石。以銘。其

詞

E

塾林 文 化 正 --體 ___ 年歲在时 神阜。刻"之貞珉。永圖、不 夏五月辛壯朔二十五日 奶 之卯門

人 等 建 云

賞野 付 借 陳 良 点

無爲

山東昌寺

文政二年

洞雲院環中 ·無適居 -1-

> 氏以 古今書 受。当 陳道 政二年正月十七日病沒一子宫。年五十 討 + 北 詩為。門子。天 和六年十一月十八 吐、舌矣。 益 二號皆我侯 君菅野氏。 勉。 四 東昌寺先堂之左。君娶。熊谷氏生二男。長 增! 秩若 京 年。 木 師 所 知 法 研 。祀一女亦 法。於是蓮 書法 號"大義堂自 命。書。掛幅。近衛公嘗天使 過程是代氏 精凝 未 干以賞 諱陳良。字佑 當 所賜。 由 明七年 思。 間"于世 有一過。自 是馳"名四 頗 筆之訣 天 家 不 H 其勤勞不 有 IF. 齋。徒 世世生 能能 二。君 生于仙 所 君性 月 幼 低 及也 英 ili 因 得 方。 于本流。 好 凡三千。 温 元 參政 號 所 所 旣 -110 關 書 厚縝密。歷 训 任 志 1. 自 而 弟 從 ili 圳 温 光光 官 鷹 父陳 從 來手江都 子 自自 八歲 小: 田 -1-源 1. 司公開 侍 木 公。 肚子 源 命 波尘 文化 村 又號 質 大 年 招 侧 年四 受法 通 從 是月葬 氏 進 府 為 者。皆為之 君 圆 侍告 刺 F ナレ 近传。 E 世 我候 it 追 君 4 部間 家一。 年 1,11 手 及 天 任 以 J-屋代 + 凡 温。 氏 長 次 招 使。 明 遠 城 文 四

樂告 赐"白 燕簑 供 此 共 记 並 亦 之天 云 H 從 扁 3 銀 學焉 MI 氏 额 他 影。 若 雅 17 辰 聞 + 聞. - 0 君常 是 以 病 又嘗 因 君 請 以 膊 命 甚 相 用 不 四 命 訊 之。 君 使"人問 方 心 忍 書 書 冰 雖 於 否答 内 君 學者 書 數 不 也 既 殿 法。 之。且 紙 沒數 能 扁 於 因 夢 額。及 自 歷 公前。 按 月。 寐 往 遠遠 賜 其狀 死。 不 其 一之食。及 君 而 1 公悉 至。 弟 寢 毎 且 氏 有.問 相 我 持 叙 疾。仍 辰 訪 紹公英公 其 II. 所 請 則 之者。 書 沒 命 东口 必 --去 11: 書 至 -[1] 如

文政二年己卯夏六月 仙臺 櫻田質仲文誌

越路愛宕社鐘銘

郡 前前 于 刚 各 作 伊 III 州 或 弉 雖 仙 城 箭 HIH 國 绅 E 城 之基 其 之 南 也 初 乾 名 云。 爲 請之地。皆 取 除 郡 其 帝 根 金 觸 都 岸 图 水 鐘 以,之為" 13 災心。 地 護 击战 之神 安 即 路 愛宕 置 爱 社 明 宕 火 號。 部 即 大 產 權 本 天 故 地 現 市市 號 長 即 七 者 之愛宕。 勝 代 茶 軍 當: 陰 地

> 藏 被 初 10 -[1] 戲 喜 君 造 法 五 煩 浦 福 被 薩 語 代 惱 願 H 築城 那 捨 摧 妓 岩 垭 提 之 中 左 U戌 泰 餘 1 若 怨 一次 也 手 開 納 京 天 場 比 實 F 北 报 敞 安。其 魔 111 祖 言 大 號 淨 震 此 潜 遷 永 軍。 政宗 夫 城 散 约 詳 财 宫宫 質 致 平 社 情 勝。 彩 時 丹 稅 位 徽 寄 高 宗 見 圳 君 鈋 遷 永 悃 主 图 號 說 進 君 地。 間 好 信宮 日 派 率 發 心心 心]]
> 字 116 悉 者 之 領 降 代 E 堂 0 投 義 恒 魚京 城 पां 伊 德 增 服 脏: 洎堂 ATT 地 人 政 提 北 Ħi. 於 4,3 天 迹 滅 摧 いいい 圆 心 之住 救 移 彼 1 红 那 -10 破 思 卿 通 塘 -11-境 民 飢 111-天 之陣 之旗 ___ 門 掛 营 途 _ . . 成 復慶 安 味 於 任 10 IF: 速 里戶 院 戰 11.3 日子 EX 一爱 1113 置 開 = 年 長 馬 國。 固 形 此 右 從 石 中 修 元 SE 當 19 者。質 居 一大 質 符 因 一月 無不 智。 中 5 像 PH 于 削 1E 将 宫 滞 Til. 中 普 俗 斯 城 于 1 非 IX 批 遊 1113 勝 時 亦 原頁 王 藏 旗 积 + 村

全。 閻 浮 遠 穀 樓吼 傳。 體。 若輪 月。宝鐘亭天。 真 聞 永 勝 系 脱 爐 覺性 範 樂器。 久策 顿 圓 號 計 城 合 路 府 思 元 鎮 資 掉 言隻 部 願 淮 家 船 高 國 松 安

御

勝

次

第

候。

倘

吉

EH

七

左

衛

門にご

委

細

10

口

1

斷 安。 心心 世 遊 仙 擅 眼 空界? 。灑 心 碧川。 石 橋齊

度。 道 果 方便。 關 柱 聯 續 功 德 無

維 時 阴 和 六组 年二 月八 H

現 北京 願 = 世 權 大 僧 都 堅者 法 出 亮 專 和 南 撰

論

主

F 三右 衛 門盛 豐 執 筀

高

H

文左

衛

阳

延

傳

先 當 砌 中 地 B 愛宕 は 遣 햕 御! 社 ~ 賜也 0) て。 走 本 1-此 尊 預 度 は ho 将 常 軍 大 0 地 歷 地 藏 藏 存 尊 候。 4-體 在 相 去 之 秋 下 由 俠。 龍寶 兼 右 寺 T 意 承 J. 趣 及 京 は 候 之

故 前 年 死 將 軍 地 藏 信 心 申 恢 近 年 城 下 錄 度 N 有

之。 當 絕 地缆宕 有 四 之候條。旁以右 民 及 社 『迷惑 內 随 .~ 一候 相納。 と申。 一兩樣 0) 永〈 且 為 は侍 派 國家安全火 共仕置 心态 相 下 80 候 難 間。 近 消 頃 右 波 は 0) 本 不 尊 亦

共。 浦壽 N 仕 被 度候。 申 右 談 0) 秘 心 於 京 得 1-再貴 仕 都 晋 泰 候 僧 音 開 樣 和 1-腿 尚 3 せ 開 存 6 服 候 n は。被 。誓願 開 帳 仕 寺 0) 相 義 8 F はつ 密 申 其 1-候 EI 得 元

> 申 含候 IF. 德 先 四 は 年 廣く E 月十 沙 冰 Ŧî. 無之樣 11 1-御 存 华川 候。 恐 惶 神言。

们 岳 院 樣

東山 大 原 八 幡 宮 鐘 銷

仙臺之所、封 南 閣 浮 提 東 阳 111 為 大抵 大 日 天地 本。 之一處 П 本 莱 隅 方 爲 爲 陸 最。 與。 日 州 月 乃 之所 吾藩

之解非 昇 决 大 歲 國 時 之所 那 列城數 東 111 E 縣 十。表 清 大原 淑之氣、 於東 村 有二八 殊 諸 於 候 中野 三隅。其 者 Hill 洞 乎 。窓未 不 ALC: TY. 地 11: 可 宜 品 矣 初 置 说 业 115 滞 决

。葢爲 其 四四 故 也。 有 别 當 以 彩 祭 祀 亦亦 日 市番 寺 爲

襲神 其 市市 。為,所,後禁一云,覺性君 號 一枚 心心 藩之先公子冕性 譚宗 一君。 房 號 管派 肥 前 大原 先君 一层数 義

安寧 公 年 10 一之子 民 至。今賴 111 而 公 狮 述 Ill 馬 職 公之親 乏暇 。於是乎 311 和 行 北 及師 封 亦介 内。 不 山 川市。 至 公 大 Mi 入 原 THE 統 助 拜 國 州与 絲。一 ilili 馬)[[p] 0 保 游

111

先 八 恩。奉 幣派 油 Ä 夫遺愛 所 存 召 見 别 當 陽 III 租 感

年 財鑄 素祭 日祭里 17 其宮於,是為,國之命 質文。長 别 破 烈 場の 當 馬 禮 朝 初 爲 岡 而 應 府 祭 宮有一鐘 後二 本 時 、田。命 茂 城 夜 + 一献 成 幾 四 再 延寶三年。別當 神符。 H 破 年。至二 祀。且 捐 宮宇修補。歲時之祭。葉看,怠慢。 烈。 具才 上殿謁 村 加 新 元旅 胆 馬。 别 大 當特 十一 mi 小 見。 興 後 檀 年 雄 後 恩。每歲八月十 + 起 世以 時 別 六年 戮力謀 掛 常 日 為典禮 至 興 豐重 言 ĪE さっ 用等 德 一系 捐 = 五. 稍 =

之後 及掛 兩變九 浉 且 寫 願力與衆勸 夫 師 加。 世 H 地 乳能 庭神 乎、逐 圖 且求。文不。朽 將 本 破 村 威先公之德。 終 進 序之為 製。 111 其 村 老少 功。越 11 今 其 老少亦戮力散 别 一、大 銷 事。余有.舊.於鏡 當鏡 孟夏之吉。供 先公子之遺愛。以 小檀 傳。 越之勤。豈 能 繼 い財 養 先人之志。 傳不 可 聚工 新 鐘。 不 至. 一是氏勤 使 得 乃詩 世 公不利 部 别 發大 當 馬 余 職

隆 例 邢 伊 民 大 伊 原购 民懷 々。其 德 制 祠 器孔 有 血 塡 格 兩變九 帝之神 乳 普 公戾 律 調 止

> 新。百 永 久。無疆 里震 淡。干 幾 春。 石 鳴漆。 湘 IN 傳夕 惠和 報 レールここと 妙 否

導師法蓮退隱老頭陀萬春撰

別當慈照山八幡寺見住法印鏡傳

羽 犯 明 遇 和 聞 六 龍含 老志卷之十 己出 Tim, 夏 東 初 修井 八堂 郡 鄉黨稱=

山

深山權現

卿

捐

以財

復

新

馬

im

後

五

+

七

华。

至...

好

明

和

陳

中 在 。義家 大原 朝 本 臣 鄉 東 有。寺 征之時 號: 所 滋 照 北 山 进 八 置 幡 湛 寺。 慶 後 淵 冷泉 陀 帝 治曆

伊達肥前藤原宗房願文

敬。 倍貞 郡 就 水 朝 夫伊勢八 中 仕 東山 於 任。祈 心放 則 與 茅茨之營 大原 扶 域 州 幡 後冷 桑國中。 元 膽 者。 有 幡 澤 泉院 本 郡 大 致 八幡宮。 朝 鎖 神 此 時。 | 頻繁之禮 逐 守 神 府。 所宗廟。而君 無 定 伊 共 末 東 豫守 所不在。 地 夷 以。属 幣八幡宮云 义奉 源朝 以 來。文治五 手 臣上下 寄 臣 此 来 賴 宮無 進 地 龙 三種。別 々。今也 一放 奉認 無不,欽敬 年 所,不一營。 特 九 致 征"安 月 格錄。一在 列头 景 賴 非

萬壽無疆。 嫡男號八 致,奉幣之敬。門葉繁榮。武運長久。致,敬禱於神帳之前。 基公身上 新維三郎。 昔賴義祈,八幡加茂新羅之三神。求,男子、果有,三子。其 無。微恙。國 **帅**悉 次所 ゴ: 太郎。次男義綱號,,賀茂次郎。 一>

場如 一次 亦 是惟 中有"大治"神明守護。 者 新。 愚身安全。氣"得 伏所,奉,祈 者。 三男義光號 弄璋之慶。屢 呵禁 當太守綱 不祥。

延寶四年八月朔

除

『災難於萬里之外。再

拜。再

拜

達肥 削 藤 削 黃門 原宗 房自 政 宗 筆起 劣 孫 請 伊 達肥 文 前 藤 原宗房敬白

謹上再拜

伊

敬白起請交前書

第 國 候。各大悅 本.承 殿樣江 中諸事首尾能 御滿 知。難 足に 戶御發駕 可仕 有御 被"思召 使 被 三相劃。 之刻。 事 其 と表し 上 候 爲。御同 門中 御 彌 存。 参勤 萬 御 事 和 被 道 意 回 陸 U) 0) 申 遊儀 何も罷出 樣 趣 合 體。御 無間 一当。 御 大慶思 處。 被 覧 斷 被 仰 回 御 遊。 出 召 在 相

> 然は単 妙 合義念 り。 聞といふとも。 其段合。遠慮,候の條。 守.覺悟候とい 7 門中陸中合へし、郎從の不足云違逆の義 無承引 私の 願に候得共。 竟先件之輕 鬱憤 は 殘 を以 ~ 其品其人え相通。 ときい 門中 嚴 不可 手前若年 命 一心の え合 凡 相 + 當 人放 "對 候 絕 と云。 存念無。違 條 談 事 門不和 致和 一。依 門中 各思 诗 談 宜 失 之義も 意 互 事 依 回 樣 以 縦 0) に相 其能 神 伺 品品 話性 文 斗。 人中 理 (-慎 申 非 よ

之。其 聞 對 不 動 つて。不知 義の 泰」對: 御 1= は 是非猶 不 お 為込事 存 いては。 埋 念 道 伊達之御家。 有間 思思 承 は 理の旨之條。最不」可。口入。雖 順。 庙 勿論。御家の 敷候 不。殘心底 は不」及、沙汰。若不 直 可逐言 御 御 仕置等之儀 為心 存意旨趣。御 可及"廢亂 上 U) 事 及 は。 所 能 屬 家老 **爺て不** 程 其儀 忠 0) 信。 然萬 しうへ 儀。 於 川 IM 致 1 不 達 不 見 よ 忠

窺 其 旨 頭構 一一一 簽 不 可 、黑。 愚慮或 謟 私 欲 或 成

右 利 條 用 々於達 分 0) 挾 犯 は。六 遺 恨。 十余州 猥不」可 大小 喇喇 非 响 祗 人 を 殊 事

竈 春 大 日 明 大 THE 明 神。本 各神 朝 罰 0 可 武 被蒙者 市市 八 幡 也 大 仍 阴 明前 起 宮 請 當 文 如 國 件 (J) 鎮 守 随

與 域 前 延 管 府 君 四 年 羽 秋 林 八月望 次將 忠宗 丸御印 子。 伊 達 肥 花 前 藤 原宗 押 房 再 拜

天當 前 兼陸 享保 統 誠 田並讀歌 的 乎致世利。 於承續天。 及自己弄璋乃慶於得手事於冀此願 社於尊崇米。 奥守。 八卯癸歲 捧計 + 寄之泰利天 首 藤 神 圆 原朝臣 月瑞 德 一乃政 磐 不 非 於身爾 H 測 郡 吉村 视 綱 良辰。從四位 震 東 詞 村朝臣乃壽寧。 Ill 仰 再 於告天日。 維 大原仁 機願久波 拜再 新奈利。 拜。御太刀家定 座 上。行左近 一須。八 身 我 文於捧 吉村 健爾 本 國中 親 幡 民 忝 計 伊 沙 太 寧久。 久 衛 達宗房甞 伊 市市 屢 平 權 安 達 社 表 振 中 子 アケ 幣乃 於前 ブウ 祭 將 廣 孫 IE.

多賀 洞 碑

名取 俾 之下興廢。 物 换 校 星移。 郡富澤邑有"古祠 質傳,于後世。靈蹟 于 觀 故實 漸 蹟 廢。獨 之舉 馬。 三世 顯于無窮云。 賴 傳言昔祀,諾 区 副 經之営とつ 师 遺옑 之趾 館。 表 僅 稱 存。 洞 "多質 建 TITO 自 师司 世

攝社

鑰 封 蛭 日 荒 內 取 向 子 前 名 社 社 社 社 蹟 志 同 同 同 去 卷六 本 社 四 名取 + 119 5 丁 T 間 郡 餘 餘 餘 餘 Ш 伊 兒 帳 勢宮 H 社 宫 同 同 去 本 社 74 丁餘 T T 餘 餘

名 賀 市市 社 在富澤 村村。又 載于神 名

祭。神 明。 鄉 柿 號。 人曰 所 名帳 日 祭 之少少 豐受忌魂。亦 伊 秘 宮。風 弉 書目 話 介 土記 名 也 名 賀 日 雄 伊 宮 名 略 吹多主 伊 賀 排 年 市市 話 始 社 神 约 末 圭 是 洗 圭 H 也 右 田 无 一神 十八 服 行 代 目。 卷 束 河川 以 伊 肥 出 弉 定

護

於亚

給邊登

惶

美似

湖

謹天祝此祭留

天報 則 常人布 諸 二八幡 约 命 構 泥 之若宮。本來且文字亦異。妄傳 仍 区的 銀 留 宮于 倉 宅 鶴 淡路 於日之少宮。 圖 岩 之洲。寂 宮八幡 然長 师 鄉說 號。 隱。 呼 M 若 亦曰 稱 H 唇 之少宮 之者矣。 伊 八 特諾 市香 非 约登 也

膽澤 那 八 幡 邑八 幡 洞 咿

八 幡 福 碗

膽澤 末。田 亡。邑民 上。洞 恶 败。 賴 置 器尚存。 Hi. 路 年 美 於是乎經 干。初 ブレ 郡 東 村 滅 於 月 有 征 將 權 功。 斯。以石 語 泰 八 源 軍 祥 亦 舟 將 道 幡 所 ル 中 營以 窪 之助 丽。 軍 作。 釋 命 坊。 於 寫 滴 慈 E 體 遂為"邑名。在昔 iffi 報 圳 于 者 南 浦壽 覺 洞。 11 棚 多 尊 于八幡 東 滅 來 本 引。 屯 聞 坊 于剱 而 . . 後 祀。 詳 手 坊 如 在 紀 太 本 與鳴 副 闸。 万八 稱 斯 乃 田 坊。多聞 膽澤 一祠之所 建 鄉 坊之後 東 田村將軍征,於高 町之地 鏑 四 峨 征 1根邑。 矢 城 等 利 一盖是 由 坊 也。天 以 有 Ili 馬 太 祭。嚴 安 是乃 攸 國 H 也 111 喜 征 。文治 一寺。旁 以 坊 中 延 碕 然其 爲 唇 皆 因 九 源 棚

> 之為二 公寬 扶 邑至、今無。患、疫者。歲早則等。于斯 故 其 其 禁,食,禽獸 日 再 所 志 桑第 地。 而 成 老 焼 永初。 去。 一祠。不 以 祭 洞 且 田 明 斯 有 型 寺舰 宮。傳言前 其. で之目 亦復。惜 謁"于 夕各 靈符 亦美 適 感。以 資庫 有 奉小 形 斯 誤 哉 平二 併 西 如 祠。 放 古法卿 者 為高 紙 氏 木 命。有 必為 於 何 之族 就 雛。歲 all a 所 有。 之 训 之禍 柏 詳 可 宣符 天 地 其 人日 111 祭 JE. 審 新 章 後 北。 之亂 Ш 莫。不"畏 祠。原 高高 泛 也 夜 之。肯。狮 頤 一刻 品 驴 家 民 存 灰。 是 此 皆 F 不、驗。蓋邑人 乘片 後 政 我 避 和了 石 W 之門楣 爲 問 者。馬 H 斯 公 清 īfii 遺趾 先 洞 1. 經 君 野 丽 貞 燃 氏 於

册 弗 偕。 至 誠 響 香。 有 凰 思思 驗

安 永 七 年 中前

其

盛

哉

百

仙 臺 H 看 元 TILL'

鎮 封 守 內 名蹟 府 八 幡 志 在二八 悉 + 幡 儿 膽 泽

机

25 等。己亡。 力龙 帝 大 个 F 标 红 中 益能 H 愈川 村 一。是 脈 呂 尺义 师 处 有 -HI 植 往 仓 :H: 弧 论 矢 加河 鞭策 傳

言賴朝護持之像也。有。綠起一不,足、取之

幡 गाः 本 以八 地 乃古昔鎮守 乃 彌 幡 陀之俗 而崇敬。 府 說。 都 高 而 會 之墟 平 一次 安。冀 以 護 也 持之 按 泰平 賴 朝 信 Mi 沙 浮 足 源 矣。 圖 氏

汚"神德。大可」疾之甚者也。

欽仰給、 鎭 東 卿 將軍為一征,東 被仰云 师帶 史卷 守 府。 九云 。今本 马 於 箭 文治 向 並 夷下 後 鞭等 八 者 五 幡宮號第 向時。 年酉己 Mili o 納。置之。 事 九月 Pir 悉以為 奉 勸 瑞 二十 于一个在" 部 御 H 給 請 願 景敬 云 寶藏云云。 可"報行」給 云 之靈廟 品於 是田 部 林 也 之由 仍 澤 麻 郡 殊 彼 呂

八幡宮本紀附錄諸國八幡社

開きて 賊 陸 村 發 奥國 つせら 高 九 る。高 鎮 攻 ゐて與州に攻入合戰し、 上 守 るっ 府 2 九此 八 8 征 幡 0) 由 夷 宫 を聞退て奥州 達 大 將 谷窟 桓 軍 武 坂 天 よ b 上田 皇 起 延 に引こも 村 曆 5 神樂岡と云 九 二十年。 T 節 駿 ink 刀 h 陸 20 國 給 例 所に 75 18, b 國 見 田 進 T 15 沙豆

> 陸 等 鎭 は。奥 高 守 九を射 與 多 納 府 州 下り に八 置 悉くし 殺 3 給 幡宮 文治 U つまり し時、 又惡 38 玉 72 年 て。 路王 n 此 源 八 顆 と云城 3 部 朝 > 0 宫 卿 1-カコ に参 伊 お をも Co 達 3 加片 記 泰 て。川 打 -5 せら 衡 25 3 20 け 所 朴 制 6 九 U) 马 膽 まし 7 矢 学 L て。 鞭 机 か

氣仙郡高田邑水上山碑

今尚 発奈 御 絕 **今**祭 其 質 惟 m 殿。登奈孝志 地。山 由 圍 殿。 頂。概 氣 *** 日。僅 仙之鎮 存 來 東 之 焉。 尚 為太 八 F 爲 矣。在 十丁。盤道 献 避 盖 日 社 所 洞 其 太手 氷 小冰 也。文 是也。 背 風 Ш 地 上山 上之山 雨 所 别 子。 祠 各 德天皇授 祭之 也。山 委蛇 麓 三匹 祠之東 聊 隔 有 號 一。有 寫 。履 巉 殿 地 J. 。熊羊之遺 理 高 今廢 了。 極 西。 ilili 訓 Ш 階 目。 所 舊礎 嶮 有:高 矣。 許 位。 者 然 中 南望 段 古 造 有 延 衣 世世 洞 谷 低 喜式 E 石 太 大洋。 有山 经到 從 陶 手。 田 致 峰。 老 河河 之地 終 是 條載 也 杉 理 稱 义 山 北 加 古 訓 雖 累 入 各 iffi 社 行 1 廢 主 至 號 陸 石 御

流。稼 之境 所以以 並於 明 有: 隈之涯際。 現"陰陽。 愛樹。 此 也 峯。號"大黑森。古祭"大國 稿豐穰° 傳 所 其餘怪嚴 許 一渡 護仙 東 云。有"祭場。 劣 西亦 故其 村落環"山足。炊烟 其至 花者。善光者所 無遠 飛泉、不」追"枚 足 誠則不能 無、不、蒙。思賴。子..豐荒。 称派 不 一到,横蹙累積幾無"隱 **禱之原**。 魂。 無威馬。 學。 植 稠密。 黑與 。潭池呈,變凶。 誠上帝之圃 九岐 國 潺湲 享保 滯。鄉 楓葉 其 山泉 于 學 年。 雨 者。 相 緊。又 入 百 南南 通。 =溝 早 大 明 石 肿

放 宮、足 恒 于三社 例。此 二周之二 念 敬崇焉、 日 步卒 也 忽睛矣。 依。 老 每秋 若 小小 相 公献 儿 引。登山 月初中末之九日。行.祭祀 拜者三何絡繹 報賽之歌詠。今摹刻揭 拜謁者為群。 不、絕。嘗祠家 以是官命 以 "于行 為 中

馬。 三 丹治與昌。 途上京 大 職。 阴 inito o illi 發情 具 〇〇千 自自 唯 清 Till 神 思。始有"復古之志"。 配管 民祀典陵夷。 宜。 領 社 記 從二位 TE MI 而多做 主受領 1 部 告官請 浮圖之 辽 許 俱 狀 驯。 共 職官許 法。 秘 乃賜 至 滅

> 舉 寶基。兹時寬政五 哉 興 一昌於. 是樹 1年 異夏五 石 勒 事
> 其 月。寔 可 imi "朽之不。其 修 随 料袋 鈋 絕之盛 日

市市 四 舊。附響萬 海同 威 赫 々。景 寅 高。 場清 德嶙 响。 地 彩雲高 東 日 照徹。六合浴仁。西 旻、天 人非 者所。禮。記 異 阴 理 風 本 支 典遊 均。 温。

例 州 合 鹽竈 禰宜 藤 塚 知 明 撰

配 官 高 橋成 允 計 集

晋右 軍將 軍 王羲之書

守獅

公巡,封

內。震

停

今泉驛。而

為。霖

雨

沧

民

集

派

封 內名蹟志 卷 二十 氣 仙 #15

理 訓 許段 闸 社 在:高 田村 載.于神名 帳 社

登奈 孝志 神 社 其

世

衣 太 手 市市 社

其 也

五. + 五 代 文德帝。仁壽二 年七 月 平: 未。 陸 则 國 衣 多 家

前市 理 計段前、並 授 從五位下。文字典 3%

邢粤 右 因 公公 高 具 田 考 村 作 相 地 傳 则 、與一个 闸 市上 所 AE. 山外 斯 地。 異。 mi 按鄉 各 行 人嘗 THIS E 引声 理 祭

於是 其 訓 七町。 七八町 小 所 火 而 各 焉 西之社。 訓 一跳 祠 許 有:神事 十餘町。 如 許段 不,及,宮殿。自然撲滅了 祀 來 跡。 犯 今俱 是 末 御 旦方 維 當。四 移 Hill 一殿。其 當。四 "醫王山安養寺"寺亦已廢而 則 也 登奈孝 水 而古之宮社 此 去.冰 耐 是皆 祭禮。土人言前年有。野 以九 荒 德之稱 二之理 成方。是古之社 廢。以 方。衣太手 二曰"中御 登奈孝志神 乃去。今所。祀 Ŀ 志 後 月三九日為此 而建"之山頭。日"之三社 訓段 社 下以 世 爲伏 衣 所以 北 盏 太手 社。 廢闕 今所 元 निर्मा 殿。其三日 火之神。 心。 盖理 十餘町有:一 出。于崇奉之名。實勸 社: 三神 鄉黨以為"神德之所 水上三社山北,五十餘町 可一情 地 在 。乃去、登奈 乃去。于理 訓 Mi 者。 而 日。村老 號 火而罹,宮社 匝 許 為氣氣 且考:其 具 為,野田。其山 沙 段社 因 御 記 山。山 弦 上三 殿。其 馬 仙 孝志社。十六 訓 舊 野人參詣 權 有 許 割 舊 鄉 社。 माः 現。 東。中 總 段 上有.三 地。 地 也。 一。然其 鎮 社 說 格格 請 而 其 相 4 東 西 理 阻 今 E

> 峯。 舊 樹。想 基 其 而 鳳凰 三華表。同邑自、古有。祭田地。每 者。自,村落,之東。有,氷上參詣之道路,矣。 地 曰"高 小 地 阿 神 于酉 二家稱"之東 備神供。 祠。日。之孝志社。是亦登奈孝志社舊址 西 有。古大杉。杉下有。小池。是亦古之修禊川 山 一礎遺 夫杉 而 巳七八町。 田 大通 戍 分 之 郡 ili 已十六七町。 石 光 木櫻樹往年之神木。 院。此 又有: 视部 猶 寂寺。寺已廢而 存。 中 西 叉有! 神守宅。藏,华王 地 以 是亦 世 頒 主:祭祀。 傳 叉 焉 衣 ili 其 太手社 有 。鄉人曰 之神 為 Ш 盖古之 寺 野 111 其子 歲九 號。 田。 舊 印板。 鄉 北 其地 孫 人日 月 舊 今無知,其 也 今猶 邑人恐懼之 此日 物 Ill 古 也 長 之太 西 也 有一寺 也 有 山 主 坂 古有い寺 中潔齋 去。此 間 去此 F 古 祭。 太 設 加 有 櫻 手

按 勤。行祭祀 居宅等而考之。 祀之踈,而浮圖役徒各奪"其位,侵"其職。專立 三社之事 一者。可.推 實 此 則曩 花 識 郡。則 太矣。 背各 傳之義尤詳 恨 有 事 後 來乘 職 m illi i 也。以 威 本 之寂 丽 加记 礼。 祭 部

修,法而污,神慢,鬼者。實可,歎哉。然郷黨克傳,其

事實舊址一而不一失。可」謂,後世之幸,也。

陸與牡鹿郡大瓜村八津八幡宮鐘銘並序

也。盖不」詳,何人草鄉。傳言當初平城天皇。大同二年伏惟八津八幡宮者。應神天皇垂迹。而東海鎮護之靈揚

頃日鄉民戮,力。村豪捨,貲。雖,規則復,舊觀。然未,及,創建焉。社殿豊麗。連綿至,今累重星紀。毀頓寢至矣。

造,鐘者。不,能,無,覆箕弁井之歎。今茲文化乙丑春。使,

雲水僧清道者。振、錫提、疏普募。四衆。天道與、善。不日

神器新成焉。因請。予銘、廼勒、銘曰。

垂跡應物。不」測日」神。梵鐘一打。響震,八津。報,晨破,

。禳災棐民。化緣無。竭。共豪,勝因。

(番司)なる名単子

八幡祠石華表銘並序

貞山 邑。宗清 人黑川郡 公 捌 封"其 今邑吉岡 建是祠。其 子 YIII 內守宗清。 有八幡 後宗清絕。嗣 洞 其 以"田三萬 來 云。實曆七年正月。 尙 矣 往昔我 石。 此 地 為 先君 属

> 不」忘。欲」繼,先考之志。廼使 有司掌,其事。遂請。余辭。 之心。將欲,献,石華表。而不,果,其事。 其嗣弘行焉敬念之心。將欲,献,石華表。而不,果,其事。 其嗣弘行焉敬念。明行深致,崇敬

孝。事」神以誠。佐々華表。國寧無,傾。 靈明如,在。懷々威神。用降,祥慶、永庥,民人。繼,志惟

文化十一年五月朔日

田邊匡敕撰

但木弘行建

仙臺金石志卷之十二終

然可 自"多 形製 大祭 祭 II II. 肚 云。 組 而 1 人白 上夫 賀城 然登 奥州 有指 白 雪 識 111 111 過.小 時 取途 刺 丽 省 功 遇 业 或或 一世 宜 有"爲"志波 切 鶴 須在"多賀 雪于 于 云。 以 YIII 即 之歌。 小 北 斯 大 此 鶴 途 巴 者。 地 併 中 者 往 貴 考。 想 **彦**說 乎。 洪 城。見,其 古 TE 夫 深.志 盖彷 跡 地 刺 者 况 狭 也 史。 矣 言。三月之祭 神佛 隘 按 波 集。偶 當必 不 选,于 彦 不 考之古書。 足設 是乃當 詳 有二二 预 木 自 下之祭 心。 大 月 何 短 郡 社 依 之 代 源 則 大

急

太

先に是 戒。三 四 魚鳥饌。 此 坊。 臣 地。 各浴 馬。 何: 1-1 國分士。 射騎體勢觀 月 E 此 讀 河 談 午 之潔 11-祭、 形 三月 水 五. 市豐 于 一還直 國分 日 也 白 齋 。騎 H 館 山 自 寺 拜 射 古領 馬 自 行 僧 殿 耄 徒 場 是 祭 會 闸 本 主 列 所好。 女衣 學頭。院 人 的 國 坊 騎之"東 舞 司 浮 分 舍。 蹈蹈 堀 īmi 之舊 居 日 11. 表...素 于 主。別 水 之齊 溟 氏 例 社 之 渡。 此世 削 當 神师 他 m 含。 然後 率... 日 人 故 戴 從 之水 家 預 有 馬 遺 瘡

時

可

面神

也

至 學.其 殿。以 之舊 槍笠佩 一河越舞。等 結黨 出 皷 皷 齊 暖 和之豐歌。者。 州 爱 靄 心心 聲 mi 制 人 里产 善逝 人 的 内 mi 融 為 歸 外 肝 分 待 目 應 mi 的 追 17 拾 長 其 群 舞 丽 隊 投 之狩 皮 口 馬。馬 彩 床。有"太平 學 九夥 宗 塘塘 蹈。 争,之南 而 招 行 設族 原 期 自古古 裝 騰 群 的 I 自 堂堂 1-奔 東 輸 携藤 稠 氏 司 々。樹 是 踏 馬也 北 贏 相 之例 人之中。 立 者 其 如 青 樂心僧徒著:或 7 窺 是 焉。此 社 矣。 弓。 徒巡 者 形 训 邊。 也 也 此 之白 而 設 殆 所 射 揚 行 肝疗 名 射 乘" 駿 两 此 踵 徒 櫻。 金 収 的以"檜片"地 也 徒 HE 堂 儀 Di. 一後 矢 相 扇 並 舞衣。龍 成 E 走 因 馬 望 樹 宫 而 馬 种 勝 中 क्त m 直 晚 功战 去 古 爬 -J-王 男 関 色 逞 兩 僧 來 如二 所 之 社 女 納 李 那 一 こ 徒神 家 iffi 先騎 東。 蘇 如 **農夫** 夷 K 驗申 於 徒。乃 斯 於 羽 利 扶 塔 是 特 其 人 B 拜 獵

味

預

年

祇 袁 市中 而

得

在 山 社 南。 郷人曰"之天 F 役徒 萬藏院 者 司之。

夏六月望日祭之,男女群集

圆分寺 有焉 僧房颇 之一寺也 護國山國分寺。三字僧交勤。寺務。其屬坊有二十四 建,學頭。院主別當三字口備之。號,金光明四 矧义其 好事者彫 極 。其後鎮守將軍 一行祭祀 間 一門 及"兵燹等灾 而砚之 設.長 等。 聖武 堂廻廊 一。藤原 乎。 市。 前 秀 天 如 及。尼 衡 今往 4 中。 基 一寺。 昔古瓦遺 好 773 1111 一佛建 每· 後 州 傾 天王。 一寺院。 所 碰 侧 猶 院 建

尼寺

在國 分寺 東。今改二宗。而曹洞之徒居焉

宮城 明子

平々。 家贖電、松浦島。末松山、浮島、電碑、與井等之名區。而 藤袴、刈萱、桔梗。 水 F 林北 原上 護朝殊 廣野 錦萩古今專,其佳 天下 多 及無名野草。無名秋花。以一百 古今所 里或方。東則海 名。女郎 稱者是也。 花 水悠々。有二千 我裳 原渺 香泉秋。 R 数馬 草野

> 此 則 莊。東史所 絲·多賀 蹤。而堂。回于其際。西則寺院。精含森々情々 襟。帶于其中。而 不忘· 莊號 川東 一世 古城。利 鄉黨 調 與岳台 國 府 分原是也。國 則有。茂山。千貫松。笠島。武隈等之舊 村 之生災 石 落。盡入"吟 大岳。 分寺號 淵 胂 列 峭 此 立。 亦皆所以 地 乃古 北則 秤 其木末 七 出于 三 回 疑客

型 间

文法器章衆所,服悦。萬年正續即永以護持也。今更 放 到 以 說十二部經 君盛德之標善綠之端 嘆年積月深。 樂無念 武天帝。天平九年 П 慰一 |動。諸寺一鑄。加之擅 暗 本東 覺 十界昏睡。 告 間浮 衆之願 雖然歷,星霜 南。與州路宮城郡木下護國山國分寺者 一也。鐘之功用 今也際。嘉蓮。 望。自鳴則聞 丁业 鐘 111 南 。開闢之靈區也。爾來朝鐘 鐘旣 哉。 唐 一潭 不一旦學一梗樂 E 毀壞。 大檀 者工 則 開 古規 有 根清 浦 池 暗鯨 佛 阿 学 日。夫鐘 im 淨 命 微 魚儿 于 匠匠 心 妙 而耳。按,百 . 顯于、密。演 學 者 師 將 派 给洪 鄭業古。 發...三有 慕鼓 人愈 所 弹 府 他 市豐 平

然一子 自:多 重之。 所認 且鄉 大祭。然登 祭 肚 云。 m 同 人白 賀城 有"指 矣 白 雪 下地 小小 Ill H 過.小 出于 取途 咖 码 省 乃有肾爲 遇 史 或或 儿 宜 切 鶴 須在"多質城"。 雪子 于 训 云。斯 河 即 之歌。 小 "志波彥說 北 大 此 途 鶴 E 地 者。 併 中 者 貴 往 考 想 乎。 其 古 TE 夫 祭.志 盖彷 。見,其 跡 地 刺 者 况 也。按 狹 史。 上矣 言。三月之祭 佛佛 隘 波 集。偶 當必 不足設 彦 赴于木 不 考之古書。 詳,自 是乃當 有一二 預 下之祭 禮。 大 月 101 國之 郡 社 依 代 源 則 大

先 族臣 四 此 流 戏。三日 魚鳥饌。 坊 ध्या 前 馬。 劃 何 回回 此 月 讀 E 一期 午 城 分十。之 之潔 11-時。 を完 水 Ŧi. 市豐 于 逻直 國分寺 日 也 白 射騎體勢觀 奫 。騎 Ho Ш 行う 自 拜 射 馬馬 古領 行 們 自是列 殿 輩 徒 場 祭 會 闸 本坊 主 所好。 女衣 學頭。院 人 的 國 騎之.東 舞 司 浮 分 含。 蹈蹈 堀 之 居 而 日之齋 T. 舊 于 主别 木 表 溟 氏 素 [4] 社 之神 此曲 澄。 削 當 袍。 m 一然後 含。 率二十 日 宅。 人 放 戴 從 家 預 有 焉 組 遺 齍

而神

急皷 味 學.其 得 時 也 歪"于 年 預 之舊 太 殿 枪笠 可 出 而人 心以内 酢 暖 公に 皷 和之豐歌。者。 州 愛 越被 三心肝 調 聲 1 而 制 派 野 人 的 善逝長 舞。等 融 mi E 外 部 為 分 待 而 應 的 追馬。馬 12 拾 之狩 群 而 隊 其 投 舞 皮 日 床。 彩 不不 尤夥 蹈。 招。 爭"之南 mi 行 宗 信定 有"太平 原 期 装束 縢 自古之例 的 群 II 自是 形 。堂上 輸 奔 携藤 稠 氏 司 な。 路 馳 贏 北 人之中。 立于 相 者是 樂。僧徒 如飛 樹 其 青 窺 矣。 焉。此 社 弓。 間 徒巡.行 者 揮 邊。 也 也 此 之白 mi 殆 設 可问 射 揚 一。射 白刄」而 名 時 商買 乘"験 此 通 徒 金 櫻。 取 心 徒 的 堂 儀 D. 發失 相 之以"竹片 扇 舞。龍 並 走 成 E 因 馬。 望 樹 宫 而 神 馬 市 而 勝 直 晚 中 城 去,二騎 應 古 于 王 男 関 が之つ 色 逞 兩 來家 僧 所 之 社 納 平 女 那么 之。 徒神 游 imi 東。 蘇 如 農夫 夷 K 驗,其 於 斯 於 利 33 扶 是 特 1 拜 H 獵

祇 原 市中 而

在 Ш 社 南。 郷人曰"之天王"。 役徒 萬藏院者 司之。

國分寺

僧房旗 有焉 之一寺也。其後鎮守將軍。藤 護國山國分寺。三字僧交勤。寺務。其屬坊有二十四 建,學頭。院主別當三字以備之。號,金光明四天王。 區。逐年巡 矧又其 好事者彫而砚之 極 别: 一行祭祀 間 問題。 及,兵燹等灾,乎。 設。長 110 堂廻廊 聖武帝。 原 而 秀 天平 如今往昔古瓦遺礎猶 及。尼 衡 中。 湛好 寺。 三73 一佛建 每州 後 傾 寺院。 所 侧 建 完

尼寺

在。國分寺東。今改宗。而曹洞之徒居馬

宮城野

平々。 藤袴、刈萱、桔梗。 家鹽電、松浦島。末松山、洋島、雷碑、與井等之名區。而 木 F 林北。 原上錦萩古今專,其佳 叢寫殊多 廣野天下古今所 及無名野草、無名秋花。以一百 或災或育。東則海 名。女郎 稱者是也。 花 水悠々。有一千 我裳 原渺 香森 々草野 数馬

> 此莊號 **新·多賀** 襟,帶于其中。而則有,茂山。千貫松。笠島。武隈等之舊 莊。東史所謂 則 蹤。而紫回于 不忘山東 也 占 城。利 鄉黨日 兜岳·白 國分 其際。西則寺院、精含森々情々 其 府村落。盡入,心阵。此地 原是也。國 之生災 石 大岳。 羅列 分寺號亦皆所以 峭 立。 乃古 北 [II] 和 七 出于 國 木末 疑 分

藥師堂鐘銘

丈法器章衆所,服悅。萬年正續即永以護持也。今更所 說十二部經 幽 以 放刺,諸寺,鑄。加之撞 君盛德之標善綠之端 嘆年積月深。今也際,嘉蓮。 武天帝。天平九年丁北 樂無念 暗 慰 本東閣浮南。與州路宮城郡木下、護國山國分寺者 覺,十界昏睡。背 衆之願望。自鳴則聞 雖然歷是霜 115 。鐘之功用不二旦舉一梗聚而耳。按,百 也哉。 鐘 南 。開闢之靈區也。爾來朝鐘 企道 唐王 一潭 既 毀壞。 大檀 茶耳 則 開 古規 有佛 蒲 根清淨 越爾 暗鯨魚黽 学 E 。夫 illi 命。匠 微 于順于統 也 金道 妙 些 者 间 将 寂 雕業 台洪 發。三有 幕边 人愈 演 道道 府 惟 形器 平

英。 变 加 萬 安。 圆 家 遠 虚 珍 H

大檀 越與 府 世 PH 侍 郎 膝 原 伊 達 政 宗 公

寬 第 沃起 年 中 冬 佛 歡 喜 H

住 東 丽 現 東 昌 應 白 贝 圓 眞

削

冶

工

早 Ш 彌 兵 衛 景 次

享保 那 世乙 月 点几 日。 依 古鐘 破 裂叉改 鑄 馬

州 國 分 丰 系 起

> 小 野 口 六 右 衛 門 R 定

师.

 彫。 服 不許 閣 陸 逝 TE 洋 與 悪之 宮 金 城 肥 形。 勝 郡。 所 找 鰢 如 金光 自 闸 阴儿 SE III 阴 將 代 權 DU 便 者。 如 現 灭 遠 排 隆 旅 王 未 隨 足如 原 護 詳 之 北 / 1 A 國 走 何 衡 Ш Ini 命 1 成 也 或 所 佛 容 分 廼 T 诚 造。 寺 灰片 運 可是 者。 慶 振 古 醫 所 矣。竊 逝 封 E 以 龕 善

天皇。天 平 九 年 H.T 之 春。 隆

古史之說

如

若 餘 州。 年 己卯之夏。又勑"諸 毎 州 剏 國 分寺 各 州。 安。丈· 建 國 分 迦 尼寺。 及 各置 大般

僧名

集, 教師

新章。令: 哈那。此

其端二字。

且

有

in In

願

示問

間

浩-寺宿日洪印改作,學頭坊?寺號各

為加上地

小的網

河水。河南

鎮海年

行から

fH.

略印

1

興。大 轭 天 讀 淨 光 脬 像。及寫。金 豐穰。靈贶 像 頃 戶 其 高 者 世 五 E 視 尼 明 又寫。金字 哥 + 年 祭 四 上の 安、藥 崇 勝 小國分主讀師 上座。寺主·年 丈六尺。 像一 戶。田 泉 -1-天 僧 國 福 E 膺 不一登、 王 號 如響。 東 永 經 師 光 講 此 護 爲居 金 為 矣, 明 西 或 嚻 師 百 光 西 是故 及 師所此 群 = 3 最 法華、枕 之寺。 前 敞。又 大 阴 凡天下 生 者。 滁 大 懼 分寺講 師 ジュ 最 般 博 植 王妙法 法 寺。 撰 施 滁 輪,差 岩經 國 求 福 114 19. 27. 27. 釋 [降 妙师 捨 干 國分寺。 7 年 分 阴 電 -1-經 田 六百 北大師改為:院士·扶 德 尼 今分下天 所。十三 新 為 於 W 七 福。去歲 - . 樂。招 寺。名: 洲 大 其 所謂 部 H + 怎 寺。所 秩 畝 岩 人 年率 T 個 提 經 限 法 自 分 须 学 证 談 來 寫 34: 各 天下 ·坊。又以"讀師玩 4 住 本 大 已之非 各 兩 州 風 維按 居 河战 亟 元 寺 國 B T 若 部 发 HIL 孙 浩 僧 順 句: 順 之寺。擇" 172 各 年 引人 华 月 序 来是 尼 174 福 一门 讀師 丽 號 登 主·都 呼 附 天 Ti, 训 所 E 日 小儿 佛 金 兀 四 元 事

廻 廊 界 者此 水 生集 地 1111 臚 佛美 奇 煙 皷金 那 大 相 人 水池 馬 信云。 奴首 北 别 巧。 周 話 延 迎 以 果 如 凡寺有 鍾 師 左 尼 湖 是 陸 金 后從 如 FI 41 從 右 不乃 焉 븏 法低 栭 之 州 計 1)]! 刹 師師 名 10 粽 是四 全 得亦 温 國 计 得 雜 位有 者 為金 八 與 mi 桩 踈 分 法神 作 統 功有 威 泽 途 朱 院 迎 形 変 突流 四于 党請 砚 钱 [3] H 名座 也 金 心心 神刹 伽堂 管 闆 横 岩 清 連與 上分 题实 故 師 全之 乔 世如 世 Hel: 並 塔 理场小路 犍 [刻 心質塔。 六 尘 心入 物 間 飲 微。 也複 五老 17 達 規 横 椎 人 到 分 回 樹 視慮 0 風 拖 佛記 模 尼 尼 思 妙。雷音,師 延 誠须 焉 林 棟 炳 爱 首 徑中 咒载 月。 者有。= 映 驱 17: 寺。 岩 寺 中 蔚 吻 永江 燈威 灰 尼心 六具 蓝 後 蘇柱 大 是二 獸 云。來 中 約 輻 人版師 型 普 先 插 心 其 如說 0 攫 護日 共遺址 一。礎 有 輳 四 帅 自 H 造 十八 前 師者 修生 殷 里 今 臨現 趾-0 至 形 行難 41 0 亦 Fi. 之 17 偉 穴在 븝 也。今 ++ 0 野 許 皆 人 绝子 首 層 在 天 徒 傑 • 歎 港自 有 以 田 所 大 大 七想 楯 自 即 蠣 常流 神梵 谷 七 中 塔。 回整 都 護響 起 也刹 從 清山 拓 居 學 此 向衣 邹 箇 17 A 湯 其 水神 儀 大進。 壁 寺 時 婚日 時 特 表 而可 来 院 也。安人音。 雄 所 壓 間 場 Billi 出 護 為 左 鐸 窮 堂 焉 0 泛及 等 廻 八 加 七 謂伽 桶

之 湿。 矣。 慘 爲 藤 更 像 乎 火 忽 先 多 麻 旌 知 サマ 迫 春 家 学 15 中。 加 原 如 及 權 播 共 Hiji 烽 淨 白 泰 驛 充 逃 右 幾 池 SI 營 火 唯 1/2 寺 卿 北 山 衡 城 直 消! 魚 局 矣 被 擡 STE 如 事 僧 一。 而申 永 源 智 抵 外 兎 都 侵 體 製 保 劫 调 殃。 1 無 志 衡 在 公 之 域 成 就 舶 火。 後 家 分 出 III 言 消 此 又 分 校 局 及 局 数 年 彻 以 城 兵 11: 於 寺 原。 於 普 -É 有 分分 T 實 年 藍 射 死 禍 共 _ 平 四。 時 尼 院 院 馬 虜 移 之 地 災 道 戰 泉 字 殺 大 寺 THE 四 鞠 重 文 凡 克 者 館 場 務 秋 寺 小 随 國 ___ É 治 ナレ 地 爲 败 AIIE. 具 以 11: 封 F 跡 像 B 衡 許 胜 衂 FI Fi. 康 為 不 劣 Ti 排 政 絹 m 有 园 斯 乘 + 1 SE. 胆 m 架 牒 燃 分 必 寫 分 肝芋 1-八 中个 2 田 木 出 寺 扳 烧 日 原 月 房 小 兩 抑 里产 自 寺 mi 之計 失 己 鞭 年 豐 小 源 雕 且 僧 走 餘 白 居 楯 堂 牙 火 櫻 運 周 賴 胆 佛 事 多 康 事 安 相 噗 不 數 隧 武 源 像 八 朝 壁 寒 首 + Z 公 彻记 走 公 日 代 復 莊 H श्रीड 烟 如 從 餘 使 入 晋 J 征 副 想许 伽 旁 師 田 卷 記 IIII 利 像 未 不 伐 然 1 平 亦 大

所 足力 非 日。 公。伐 釜山 外 感 君 在 譜 黄 有 勝 雄 天 風 護。 被 阿 到 眉 JE 掠 樓 容 地 所 如 國 之年 鴻 調度 藤 此 浦 工 分 僧 高 祀 疑 品 眉 原 烈威 庇 木 地 幸 能 突 麗 老 一。 若 造 卿 萬 政 落。 答言 恋意 F 発 自 搜 僧 比 点 之 振 力 日 應 循 分 我 在 何 謝 宗殊" 時 風 卿川 年 11 未 : 胖 彦 余 被 圆 濟 久 波 欲 鸖 僧。 域。 之於 亦 四 九 題 及 話 欲 7E 不 之難。 之罪。君 香 N 語 國 郎 文祿 白 不 F 馬風 未 X 倚 膳。 知 從 諸 盛 從卒 髪が Bill 分之 就 斯 中 和於 將屯 飽 軍 所 重 老 元 儻使 逐 答 率 以 洲 之 而 H 所 年 滴 僧 寫 音 一也 就 坐 日 之秋 未 肥 此 船 福 兵 馬 領 一舊 同 無 思 附 貧 之前 境 拉 而 及 以 不 命 木字 改。 Mill 文文 跡 我 消 愿 曾 灵 池 怨 知 ti 前用 繫俘 駐 是 知 州 禄 鼎 船 食 爲 青 旣 TIVE 謡 水 名子 随 爲 凰 尾 元 Lj 及 建 F 所 丽 府 挈談 國 斤 m 州 年 新 管 高 渡 得 殿 咒 君 解 。然誤 從 分 流 。一世 塱 尾 HE. 学。 內 忌 到 未 此 網記 碧 將 們 舟九 來 沙 茶 中支 『本 征、 句: 兩 芩 三 海 理 無 乘 修 視 們 伊 藤 秀 在 视 那 野 歸 抵 加 寫 训练 有 府 灾 寺 卿 達 近

背 5군 矣。 概 敌 是 著,之後 於 艦 な。 訊 護。二十 命 報 屋 海 報 或 中 未 感 织 津。 無 在 無 新 世 H14 聊 門等 激 分木 His 殿 之云 果 里产 復 中 不 ini. 處 緩 風 鈋 7-宮 行 视 厂厂 老 者 九 頰 日 北京。 使 1 當 善 平 肝 心心。 M 更 事 僧 激 老 月 出 浙 他 偏 加了 問 方. 作 潮 或 明 接 典院 僧 1-1 + 慶 非 忘。 繇产 衛 域 かいま 德 अंट 學 八 是 升 有 行 TI 門 BIF ·升 現 派 M 日 中 詢 -1-消 間 寺 寫。 假 元 整 先 心 才 手 逃 中 いた 諸 密宗 年 茂。 之 物 升 别 趾 聞 水 之情。 親 :。排 旣 浴 -Mill 當院 訓 如 色 身 灸 有 答 白 巴 從 思想 This was 行行 何 臨 其 饱节 Mill 意 之 训练 哪 倪。 石 國 处 波。是 गाः 邃 人。 厄。 1-1 泛 뭐 主三坊。 縫 不 鏡 衍生 茶 藥 分 去 我 0 1-1 殿 -T-心 異 老 隆 IHI 四 filli 面 死 不 11 逻 君 助 們 III 厨 根 迄 際 Hill 别 所 歸 復 肥 一片 女 逐 拉 捷 海 慰 僧 本 7 頗 平 帆 及二十 以 而 佐 外。 興 「墓 外 华 熔 粉 部 舍 八 無 DU 風 言。 TIE 天 最 殿 寫 無 里 目. 永 恙 沛 陳汗淡, 戰 自 而 筂 渥。 矢 日 The state of 二子 自 統 斯 則 政 卿 立 亂 線 弗 14 出 湿 元 構 4 求 强 刻 +1+ K 院。 必必 健 社 訪 更 奥 我 妮 多 近

著岑 經始 省曹 趨之 ---時ご 致 不」目 女 莱 隆 小 河 海 手 行 且 茂 此 別 11 如 杉 守 修修 即 時 垭 宗 ぶ 樹 牛 僧 战 立 當 是 M 全 뷔 祁 头 寬 计 FIE 萬 房 見 其 無 在 杏肩 麗。 光 樹 高 等 がピッ 治 曾 集 乃 永 区 去 餘 不力 當 矣 永院 iffi 111 思 向 隨 有 株。 Ŧ ,繕落。 亦 島 未 地 H 樹 年, 遭 袂摩 他 順即 堂 諸 寫 如门 H + 元 以 丰 华 和 爱 亦 浮 Mill 修 總 月 吾 陸 寫 封 焉 聳 香積 有 丰 須 巳能 屠 見 佛 便 邦 宥 則 足 前 ti 栽 迺 臾 郎 悉 名 無 佛 類. 老 圆 之資 馬 涓 護 記 嘉 点示 之 年 萃▼ 整 會。 宮之 THE. 分 = 標 致 召 The state of 間 = 補 次 一等。 之 見 日 榜。 鯨 伯 。。 月三日 等 E Thin 於 句: 聞 冠 一世 自 報 其 月 佛 社 营 其 門 其 門 Link 猶 TE, 帳 縮 # 非 元 遷 時 臘 白 香 樹 前 列 月 開 制之 栄。 今諸 日 徙。 有 月 唐 刹 去 念 鑄二 志 兩 木 扉。 至 || || || 岩 蔚 四。學 淘 願 官 K 乃 美 不 七 削 州 八 宏 府 相 人 堂俗 有 分 雖不 平 焉 大 或 隨 之工 開云 日 B 深 錯 前 鎮 者 M H 梓 京 鐘 帳七 分 之 迄 亦 折 宛 守自 北 皆 斤 複 蘆 寺 他 自 斷 栽 如 能 弯 悉 其 野 宥

春。 道。 暖石 是是真 記 亦 疫 具 意 有小 占 41 棺 其 陸 射 此 脊 白 杖 神川 在 之 現 與 必 山 "凯" 局 有 分 則 射 - -E 统 有白 -+-女女 ilili 2 祭 别 创 太 H 馬奇 THE . 擇 理 者。 萬 年 Ш 蒋 祭 温 銀 守 月 若・興 行 放 金 大 秘比 早 11 馬 升上 有 之。 椹 136 漶 葬 Mill 女女 茶 TE. 俱 鬼友 又 童子 而 T 现 更問。前 中 不 傲 义 非 起 自 Sir 致 矢。 促 久 考 必 出 投 理 州等 者 然 致 H 桃 大師 祭 焉 - mi 其 外 Mill 則 若俗 腰 吉 網 彩 或 之 運 有 NI I 悉 鬼 111 25 密 7 14 記 M 味 殿。 村 かべい 工於 金 则 不 非 你 拜 夫 嚴 促 倒 北 m 公 於 洪 心根 第 之 流流 伊弉貴と也。 蛇 F 祭 茶 村 殆 薦 順 위난 和問 可比 さえの 三族 饭 之 岩 山 則 R 鏑馬 胜 國 T 1 雖 1 我 PELL 李 [] 初 111 於 川野 瀬に 1 秤。 类 曾 PI 他 原 逃 本地上 聚舰 府 誰 白 置 長 J.i.V だ 薬 和 來引 分 ンリヒメ 設す 11 另 無 不 陽 薬 通 之 者 部 中 媛神。 白 手でラファラテラ B 構 かか 介 JE. 也 如 文 則 III 七 以 白 in 公 取 F. 顷 仰 自 亭 一一 不 派 龍 比 回 郛 -1-111 見 沉 特 一哉 名 Ш 植 之。 保 唯 笑 鼓 比 科 मिन 旭 開 派 香 函 园 祭 著 呼 宜 13 阿姆 ゴミ 塡 亭 新 及 家 社 有 的 年 1157 密 5 過 Mary . 加 11 侯 Īt. 2 敎 之 安 突 緬 ATT.

綠

擁

非

者

似

緋

以

流

Ill

理國

式

質

疾

于 111 願 為 笔 一十 像 颠 末。 余 日 唯。二月初 吉 記

六則 仙臺龍寶二十五 世 雪政 人泰音。 書 於 梅 國堂東

牕。

金光明 四 天 E 護圀 山醫王院。 木下國分寺十八伽藍。

舍。义云"衆剧"。

法領 權 現遙拜 午頭 天王

八 幡

鹽電遙拜

犯

音尼寺

遙拜

闸

明

白

ili

權。

現

訓

訪

熊野

實

船

山 王

准 胝 觀 音

天

神

小田

原遙拜

辨

財

天

M

彌

陀

駒

띪

稻

荷

帥

Tills 將 藥師佛護身

宮毘羅 大將 伐 拆 雑 大將 迷 企維大將

天 達 羅 大將 波 夷 羅 大將 麻虎 羅 大將 安底羅

大將

额

儞

離

大將

珊底羅

大將

眞達 大將 招 杜 羅 大將 毘羯 雜 大將

進

眡

音堂工。以

來年

N

五

月廿

日

得之.申 達 候 以 上。

屋

形樣

51

御名代

可被

指

上

候

申

被

仰

出

候。

爲心

電保三年

遠藤對馬

國分寺學頭

あ やめ 木下準照堂 草 足に結 側 ん艸 碑 鞋 0)

盖徘亦言也。言可 掀 楊 厥 不 絡 杉 哉 嚮 芭蕉 桃 青 小小 小小 巧 俳 非

抖"數于與初。乃與"藩工 集中。距,今九十四霜云, 一某一善。 发雪中 花嵐雪 臨別 有"蛙 四 世。 恭 岭 駿東六花 被 13-

花 然皆他拜之吟,今所,鐫是確,于藩,竟上此 。慕,其高風,復雲,遊于斯。竊謂碑,于翁句於藩衆 11] 於石。需 矣。

祖 則俳亦不」朽哉

余言,謀,永不,墜。以是敢記。且遡流之徒

以一翁為"初

明壬寅小春 日

荷 澤子 漫 題

行 脚官風 建之

暮 カコ 同 爽 ね 師 7 堂側 鴉啼 柳 15 h 冬木立

古寺や鳥は巣に寐て朧月

是非菴芳角

霓政 元年四

月二日

門人等建之

宮城八景

宮城秋 月

高玄岱號,天漪。

洲步 然無際 野原秋。 天上桂枝月下荻。 干萬錦叢顏不

盡。蟲聲和、露

制 彩

木下晚鐘

萬木遮.天大作. 群。 相 穆密蓋幾重雲、釀成玉露繁,於

雨。撞出鐘聲帶,夕曛。

本荒夜雨

抹本荒冷。濕烟。萩花可」惜目相憐。任他處籍夜來

榴 岡夕照 雨。斷送凄凉沒有邊。

城東十里有高 尚 躑躅當年映「赤裳」 人去物亡空寂

々。菅公廟古照"斜 陽。

玉田落 雁

九疑拔得七疑拳。移置吾東欲、擬、封。下有、玉田横野

澗。呼,群落雁侶相從

隔嵐

古。遙知上象應。奎星。

東皇早占葉青々。嵐氣分、晴翠鶴停、城間、仙臺、三、萬

松浦歸帆

征帆片々莫 知涯。 出沒波濤望眼赊。 還去還來松浦

多賀慕雪

外。由.他

風信

1.各歸

古城廢壘十符池。多賀森邊暮雪奇。聞說源君犒民處。

宮城八景

至一今遺惠遠相思

宮城 秋月

闕名氏

幕烟收 滥月 明 天。露重胡枝花轉鮮。浩渺宮原更閑 殺

木下 晚 候蟲唧

々草

間

傳

森下柳密淡烟封。萬葉露珠濕翠濃。路入,林間

一人跡

絕 惟聞木下報。昏鐘

本荒夜雨

秋宵漠々黑雲通。十里本荒雨冥濛,三兩人家燈耿々。

風刀剪斷故枝叢。

榴岡夕照

紅櫻千樹錦相圍,管廟亭々映,夕暉。日喜榴岡求,句

客。花間催、醉乞、詩歸。

玉田落雁。

郊原十里草蒼々、目送西山返照黃。閑步尋來人少處。

相呼落雁下。清塘。

青葉晴嵐

風輕日暖陽和節、壽葉山峯露翠新。兩翳吹收睛景好。

烟嵐一刷繞城屬。

松浦歸帆

漁家三雨鎖,柴犀。蘆荻翠松挹,萬霏。浦々布帆任,風

信州

有一寺。

寒夜寂寥霜

月

照窓縮

茶

相

集。

不

批

图到

信。夕陽各自伴、鷗歸。

多賀暮雪

黃雲漢々暗"斜橋。名賀荒城雪亂飄。早已人行皆絕

後。靈碑空在更蕭條。

宮千代墓

塚上 鄉 生,花草。稱,花紫。 木下 東北五六町。 青葉紫藍初 11: 書有... 荒 秋 坎。 着 花 其 遣 其 蹤 花 业 加

豆花。其色紅紫如。糾繩、相似、相傳。往昔松島寺有"少

年。日。宮千代。 容色艷冶有。才而貴重。後死。于此野

塚底 馬。 有.人語。吟聲最 里人哀,之為, 堆 哀 塚。 怪怖告,之人往 鸡 子 牧 Tr. 毎 過源 災 之 宇 則 聞 果

誦。和歌前聯。日月者露露者草葉耳宿假里天。吟畢而

島寺僧徹翁者。往足"下聯,弔,幽魂。 日其古曾夫與宮大息。復有"嗟嘆之聲。聞人或恐怖。或墮,淚焉。 後松

城野乃原。自是鬼吟熄行路無恙。

按。宮千代。元松島寺喝食、御島有"經歷之遺蹤。昔

闃。設"歌會。有"一少年。得"歌句」苦吟巳久。傍人問」

M 形體 得 下 飛 ゲ作 何 E, 未及上聯 月本在"于天 肾日。 奚亦墮 今背 乃月 地平。年 者卒 13 耳 故

之。

曾

なり 夜 17 發赤色。 但有 哀 吟不 其 が一 聲 自經死。于房內。例 m 寺 不見,其 H 竹 畏殊甚。途 人。 聞者 死 幽观樓 發疾之处 屑生 前 栗魂 之悲 者 相 吟馆 繼

沉 逐 無害人之意。 且 寫 IV. 一般寺。 本。其 近鄉 自是夜雲之暴々 無行 人不。畏。鬼物。相向問之。 得.其人 客。 古路 而虚,成之。 絕人 腥 風 跳。 之浙 則足」慰」之 有 17 偶 鬼 鬼 日 過 必 出。 其 被 我 地 限 素 且.

月 鬼 不同 恨 出 頁. 公宮千 在一字 歌乃慶 為:悲吟哀誦 矣 客日 一。幸得 品品 10 子子 F. 今夜逃 月鮑 聯 相 111 似 以竢。其 13 浴 請 詩。 池 足成之 一大 君 誕 以 水 阴 人。 奇 適 乃 月 上者 怪 吾 以慰。吾鬱結焉。客 在 然無 不足言 天 願 氷升 將鳳管者 た。 政 鎖羅 向 遂 之 我 失 連 而 且 11: 事 帝 华 亦 貌 於 難 客 义知 其 難 也 之 是 愁

太平 院 風 此 常臭 质 亦 同 H 日 之談 也 人慶日 路 逢 下有百百 塚 爲 詩日 年 塚上 常眠不 一兩竿竹。 知

माड

芹餐 西陽 了芽。織 雜 狙 日。 是乃鬼詩 I.S 寒食月 双 飛客還 夜人見,於楚吟 家、 荒村人是作,寒食。強 詩 云。 流 水 、宮空 消 K

關山大悲圓滿國師碑銘

運龜山大梅寺

臥 開 長 IE 雞 佛 門政宗公。 稔 針芥相投首 居 師 桃。亡何蓬累 庚寅 不起。其夏公货志 丙辰 表字 棋 祀 心 幡然而東矣。 其 布 釐 五 道 。癸酉 fali 业 傳 喪父哀毀禀戒為 平 名。微 市 imi 域 使 出 衆 悼 中。國 出 秋 見 而 他 於 年 IE 雪 迎 111 便 法, 小濱 徑進山 。天資邁 於 iL 師 平 殿 攝之勝一 摩視擦袴 戊午。 已 共 而薨。 氏 和 咨詢 游悟第八葉 門 士佐 州 門 倫 僧、庚子 分 春 四 永 献 尾 法 而 H 人。其 昕 要。 法無異 加 太平 堂開 君共 一閱藏。寬 為 旅 幣交奉請。住 加 於 庶 秋 氏 服 父母 **與公。以** 法法 對 八味。主 Ali 推 孫 未 於 稱 永 蜓 也 许號 閃 、今其 有古德風 甲 瑞 共 省 明 給 戊 ili 松松 名 IE 闪 1: 見孫 于 源 便 公 看 水 高。。堅 族。 了. 敦 雪雪 持續 た 膺雲 水 111 星 道。 桃 脑 蛇 凹

賜號 其行 皇帝 墳 矣。谷 行 林 起 五 殯 質萬治己亥八月八 師 焉。 篆于 府。 百 手 由 女 寺 員 柩 陽 大梅 。背 赫 也。登門卒業未 家 記 孫 藏 褒 日 本 德 THI 剔 登 出 三温 日 K 大 Ill 光 其颠 所 幾至 賜 扁 於是整徵一子撰 穢 光 し樓 處 夫 沙步 公 遺 紹 楣 一桩 荒 。距其 明 綽 E 1 火火 表 末。紫之以、銘。日 德 素 諸 衣 撑。 有 太 H 永與 執 西 館 勅 言 道暨 就 后 廢 可 廟 集衆 戢 加 地 旋 H 俱 日 视 召 以 化。己 出 中 座 城 盏 亭午 異 慶安己 泉。 月不 者。 西。命 師 心 域。 世 號 於 訣 文。 先皇崇 問 源安公。 己 萬 茍 歷七 者 也。享壽七十八。歷臘 別。趺 鳴 凡 從心 卯 之矣。非邪。寬 不。信 師 法 七名。其 三之項 H: 呼 請 住 欵 刊 --師 坐 夷 師 添三力辭 法 接 掃 住 不 儀 上八 山 猶 于 北。 徵 殊 粑 年之久,矣。 餘 先 河 琉 頌 開 平 渥 斯 紀。 雄 徒子 部 移 也 祖 球 烟 師 碩 市豐 il-窓 或 岩 圓 震 不允。 保 特 謝于 137 嗣 訊 不 保 堵。 中 覺 水 辛酉 夫 賜 見 頃 其 MI 六 石 取 彼 复 当 徽 院 一。殆 法 + m 而 之 路 國 正 Iti 事 號 輪 間 足 四 逝 帝 關 按 德 Ŧ T.

> 宗 場。百 朽。 鄰 驯 人 厅。 N 居 中 泉 彪 雪 就 阚 石。 外 景 地 資 宇 仰。 惟 物換 於於 宙 道 師。 如 之 斗 克勤 各 間 移。樹、碑翠阜、靈物 泥 PDD 洹 聲 翱 光。 已迫。 证 翔 H.字 認 南 係 なっ 雙林 北 連 野 大 末。 侵 鶴 方 法道 孤 自 有 Hill 生 離 命 面 陵 一。履 夷。 Ħ 數 TE 暖 儼 德 眞 據 然 不 質 道

寬 得 大 年 保 瓸 堂。 第八 王 成 代 佛 生 主 H 僧 東 湖 當 111 游 第 願 + 显 冬 代支 稽首拜 孫 撰 加 併泚 那罪 棉 毫於 林 稽

開 Ш 特 賜 慈 光 不 昧 大悲圓 滿國 岛市 略 行 由。 井 終焉

首

百

拜

敬

立

瑞鹿堂記

之..客路 氏 人 圆 而 狐 領 師 出,於小濱氏。父左 小小 手 請 希 濱。 國 而 門 焉 誕 房家 。號。雲居 生。 剩 有故 湖 謂是豫 imi - 0 がら 秘.土 京 園 大夫。 州三谷毘沙門堂。 先,是 初 佐。 加 抵 仕二 祖 一一四 于嗣 之母 世 條 行 房家 之系
他
也。 子 將 賴 寔天 侍 房。 卿 於 JE 為長宗 IE 排 湯 + 土佐 州。 藥。 年

龍 山。戊 壬午 公 考 F 服 加 州 謕 帰 尾 111 請 灑 IIII 清 卒哭 古徽飲 以二 修 未 围 白 111 育 掃 削 解 IE 一版 非 詢 住 午 加 不 贝易 神 月廿 The state of 政 信 修 長 讲 祭 器 難 = 豫 問 宗公 座 大 州 園。 災。祖 肝芋 年 他 派 法 त्ता 15 五日 問 徒 稍 印。 Mi 加 不 県 老 敦 公疾病 慶 法 風 出 進 旅 君 算欽 :JE 則 永 陞 起 安 前。 也。戊子。祖 要。奏 。甲寅。 就 馬曲 阴 猫 道 111 廣 座 誠 戊 著堂。 雲臻。 I 成 名 于 終出 温 切 說 朋务 瑞 -11 子 盲 E 對 聊 THE. 逐 罪 創 訓 嚴 夏 瑞 德 執 來 奉 目 家 稱 沙沙 平 咸 岩 法 以 音。遣,使 回 戒 品的 完 進 潮 悼 達 山口。 莊 言 弦 治 甲 打 大 瑞瑞 於 諭 年。献,大平 天 承 住 申 法 永 嚴 參 志識。 刹 干 再 品 於 報 身 嚴 使 癸 應 部 ナレ 一號 宙 別 法 紀 中 四。 士。 入 爲 重。 不 间 濃 尾 山 桃 善 宵 field 記 英嗣 出 州 東 國 111 知 哉 請 告 加 樹 眞 莂 宙 開 宣 都 調 太 瑞 跡 不 住於 西堂 府 延 以 家 部 龍 抄秋 忠宗 丙 E 堂。 得 勅 於 百 子, 光 皇 加 請 攝 倒 請 解。 退 値 松 宣 而 餘 振 公 為 公 次 之 飛 來 祖 島。 員。 先 執 旨 朋 開 東 乎 厥 年 細 本 出 法

亥。秋 作 11 萬 場 飛 祖 號 夏。 夫 去。 園 發 1111 白 頃 山山 所 奔 平 革 應 求 藩 嶺 捨 型。 而 猫 35 恢。 平 些 洪 君 塔 初 八 謂 治 太 手 髪受が 歲陽 累歲 1117 福 秉 报 號 元 守 月 彩茶 戊 IM 修 則 炬 永 ग्रीः 洞 焉 和 被 戍 綱 初 德落 塔 常 銳 蕊 逻 水 法 以 八 以 安 追 心 在瑞 乃名 半斗 寂 吾 志 次 皂 於 老解 公。 琉 忠宗 號 日 崇 逝矣。 光 成 於 微 年 午 且 球 用沿 -0 是 111 請 應 出 瑞 請 浙 以 國 後 出 小 見 不 為瑞 被 堂 矣。 七 留。偈 肿 一言時 111 大 加 心 也 捐 便 大 今 一十八 允 学 道 Min. 源 iffi 開 殿 殖 椭 舘 赤 安 開 雲。稱 TIE 等 是 LI 坐 FIF 堂。 归 机 泊 之所 順 矣 加 執 加 。祖 老 為 舘 U 三日 然 副 號 此 司 以 版 終 上八 法 夫 寫 身 m 向 沐 寺 是上 The state of 冬, Hill 或或 -1-厭 人。亦 由 此 為詳 馬之 後 化 一造 衆 加 儀 四 即 潰 祖 E 非 皆是萬 牛 丰 111 示 化 於 座 淵前 -1-洪 得 服 亦 賜 XX 巖 澤 竹 粉 嗣 楊一。 於 174 額 後 來 世。 交交 山山 殿 矣 諄 也 樓擊 萬 襈 + 綱宗 光 14 化。 苦 光 許 位 殊 Ti. 三。二。 阳 陽 壬辰 邦 九融 不 架 次 形势 信 員 移 公 帝 田 爺 君 年 德 于 床 午 迎 感 莊 王 旅 神 小 徒 之 大 遂 斯 徽

以 所 孫。 辰 盖丁 恭惟 灑 殊 鳴 生絲 寬延 開 秋 域。諒 立 然 吗: 北 記 且 八 成 戊 六 逃 The same 左 守 月 處 车 间间 辰 昭 德 后 安 mi 塔 八 遇。 越 堂。 二置 帝 不 龍 于 恭 H 智 住 發 問 大 保 隔 鹿占 北 m 於 開 校 普 111 咖 堂瑞 章 H 甲 逢 事 餘 局於 111 勘 实 EX 111 昭 也 史宗 ili ili 宣 裕 他们 人則 道 元世 الله 拔 + 進 安 間 永 昭 神师 111 不 家 前 궲 乎天 义 傳 夫 位 IE 者 出 世 世 公 朽 像 私 於 莲 德 手 1 子 不 出 之德悠 淑 開 下。仙 古 徑 皇 拜 於 後 国 吉邨 省 則 III 加 昆 不 部 帝 關 际 HI 念 ALL 俗 遺 作 臺 敕 111 加 州。

虎宗 出 雙 E 公 書 不下 撰 -歷 堂 加川 加 可 亭 言 世 24 寫 乃 位 泊 蕭 大 保 幸 觀 世 寫 验 果 一矣。加 容 悲 其 壬寅 併 。今兹實 mi 厂厂厂 之 侍 法 行 干 以 圓 H. 原 稱 者 金 藏 萬 174 廼 稱 U. 問 玩 應 沙河 平 履 國 大後 問 傳呼 化 厳 曆 國 平 龜號 哉 践 Aib 世 矣。 距 暑 石 庚 间间 院 - 0

瑞應堂記石之背後書

秋 此 值 記 石 湝 開 궲 F 於 自 本 年 图 嚴 牡 111 應 同 甜5 赤 渡 7 波邑。 造小 時 徒 雪 自 曆 堅 第 藏 八 司 戊 TE 演

> 塚氏。德 堂 出 課 不 大 右司 氏 升 言 衛門。 信 兩品 父子 調 馬 驱 運 于 則 力 應 m 旷 抄 路 画 审就 門左 沙 十藤即右 佛 程 石奇 綱 间 明点 打: 於 與事 加 村 天 村 木 际 鹽釜 知 兵衛 胎 瑞 才 所 郎仰 R 衛門。 矣 助 折 H 2 應 桃 昭 17 系统 厠 詻 居 谷 報 非 如此 不 力 左司 既 藏 氏 彼 不 R 衛事 11 IF 著し 者。 香。成花 同 1.3 亦 景 0书 伙 念 岸 製 志 宇 IIII 4 邑之長 則 东 = 所 則 Tiij m 力 各 開 合源 處 Mr. 57 -15 請 総 自 加 1 捨 निर्मा 少 11 之遺 現 米 给 大 III. 於 -111-记 木氏 力 П 品 代 爱 安 洪 德 於 省 内 居 体 渡 D). 一。衛傳 此 狐 凡 民 海 到 波 門右 後 近 Dil. 修 濟 之長 氏 邑 。作議。 生 肾 著 耶子 N. 减 濟 之長 蓝 鄉 则 於 木 学 所 加 福 地 涿 鄉 自 4

仙臺城下八幡町

石工 伊藤市三郎

名 以 那 茂 庭 村 制 木 瑞 小 想 龜 山 祥 岩 大梅 禪 诗。 現

生益州虎拜敬建,之。

八遺偈曰

治

年

己女

八

月

八

日

世

。釋迦文出生。先。阿逸多.入滅。今世二佛中間。

後

瑞 庭 111 祥岩 禪寺定箴。今加 號大 梅

山 林竹木不一可 :猥伐 取

殺 生堅停 11-

不忠不孝者不」可。許容事。

佛 闸 所惡況於"出家一平。

酒肉 无 辛不」可、入矣

當寺者。 慈光 不 床 禪師遷化之地 心 猥不」可。污染 事。

寬保改 元辛酉中冬八日。 現 住 瑞岩天嶺性空欽

當山 + 世現 住關林祖 河山 石。

瑞芸靈龜 اللا 天旗住妙心

शा 上 THE **活**。三块 一住天嶺。七十一翁書。

把不住希唇

元文第二年丁巳

三住 妙 心 現 住 瑞 嚴

俗樣雲開照。天王威 德力。 內院 月豁 难 响 擁 護 心

春三月八鳥

天嶺 性空謹 #

> 白 應 紫船亭 ナ 1

木

國客

常 派义

光

島瑞巖中與大悲圓 滿國 師实居 和 尚 年譜

松

法孫

現

11:

瑞

巖天嶺

性

李編

悲賀通玄老大 和尚 休 "居于大 称

稍

子熟來百

雜

碎。

不

施

扶

Ŀ

一古今春

深

111

佛

法

[11]

誰

說 。禿拂 須歸 無事 人。 肯 Ill 居 雲居 上稽首 里希 手手 腭

題一 個 於壁上。

三毒生時雙 心眼暗。 萬絲 脫 處 心安 孙僧 行履 只 如

是。傘 下枝頭天地寬

題,過 二口關 有,熊出 mi 闖 filli 温

人傳萬二萬三郎。兄弟曾茲伐"鬼王。 山下清流 湛 定

水。巖前 怪石自禪 牀 靈熊重耳呈嘉瑞。 異 應 留

路管

現。吉祥。高嶽深溪殘月白。老松古柏 影芥 な。

逢師 後 悔 。事、親 不」學去後悔。逢、賢 不。孝喪 後悔。見、義 不一交別 不為 後 作。 過 後悔。見危不 事。君 不 忠逃

避陷 後悔 得 國 不一仁亂 後悔。 得 财 不 散失後悔。不

信 因 果 一報後 悔。 不。 信 一菩提 死 後 悔。 萬事 一失悔不

青袱白 顾 日 一。剃 步窮.千里之大 向 通自 君 |成 拂包。風挑 平生 音 一在之破 那畔 要無悔 道。 生。 月, 别 樹 著 陰石上擔 超過 立。生涯。 虚 空 高 一無礙 仞 水 之健鞋 之 懸 崖。

大 崎 山 昌 **沛**戰 寺 錨 銘

左近衛 之室。陽 武 師。唱道之梵 宜,效分。 和 子。及淑女等。聞,其言。而隨,喜之 應天實數之鐘。是以晨進夜 報時之鐘」歟。侍臣對日 日 滅 隱于茲。 临 州 之別莊 社 中 德院 於 原 將。雜陸 是命 以以 郡 宮 殿 公免 榮庵壽昌 也。欝彼 爲。卷浩之地。今 大 與中 崎 執 柳山 Ш 事 左兵衛督。藤原朝 一番昌禪 南隣。我 。是地也宅 一告。見氏華鯨。 水之。日 大姉。插艸之地 退克 寺。 大檀 茲寬 偕戮力同 顧問 可"愁憑"庶幾 图 被 而 那 保 黄門 三年努 阻遠。是故 臣 左 而 公之賢 吉村 右。日 從 大 伊達政宗 my 志。其功 秋八 悲 公。 位 為鐘 此處 人夫人貞 [6] 難問 F 爱開 月一 滿 有 烈 以 卿 國

> 登易、量哉。 予謂 有"一 **峯之殿** 器之最勝 於戲 機。 前。時 介音。 不從 进 吟雲。 其 々 晋々 H 扣擊 功烈豈易、量哉。不,日 無有:一 僧 根 当 作 IMI 間。 聞 修.更 那豐 發 佛。 遐邇 佛 解 點 不以,音聲 悟。由是舰之。 交景。 --一两 嚴 手諭,之銘 事。君、 沙校 Imi 鐘 而化。群 平 齊 成 分。 之 迎 以 確 懸子 初 菲 鉛 11 口口 鯨 若 E 無無 吼 崎 法

忻。献 声 蒇 清 永 7 秋 動

留

二餘

脈。

祥

雲

時

至。

佳

氣

自

杰。

鴻

思

如

群

頫

如

日

月

。蒼

龍

寬 保 三年 九 月 良晨

現 住 流 花 瑞 旭 識

執 事

營造

秋 佐 伯 保 削 基 助 藤 45 原 主盛 水 續

右 所 系 舊 鐘銘 -11 以以 TE 後 鑑

治工

गांत

田

住

小

市番

內

厅

族

原

勝

行

大 崎 山壽昌 禪寺。三鑄 部 鯨之記

精。 夫鐘 幾。鐘破矣、延享二年丁丑之夏。再鑄之。是咸 m 也 扣 者。不朽之法器。 业 亦 過 度乎, 寬 而三鑄之者 保三年癸亥之秋。始 111 乎, 纬诗 放 陸

Ill

文字。

守。羽 銘載在,上件。寂菴師祖之所,勒。歷々矣。昭々矣, 者喜之。命,子記,其事。至,鳴,六時鐘,之願末。則舊鐘之 如一銅鉦。 今所,錢 林中郎將。藤原吉村公。隱,棲於 也。今茲實曆十年庚辰之夏。亦始生。韓鳴之則 問者憂之。 祖君之意命。有司三改鑄之。妙音新發。 今陸與守、 羽林 剂崎 之日。 次將藤原重村 下。命 余言 聞

實曆十年庚辰秋九月穀旦 現住萬崖陶愚謹誌

營造 石森

青木內藏介源賴存

提

太

夫藤

原元

宣

冶工 神田住 西村和泉守藤原政時

封內名蹟志卷六 名取郡

磐山在一茂

釋雲居開,寺。號,瑞雲靈龜山祥岩大梅寺。鄉人曰,之安,磐次郎磐三郎。二人乃古之獵師神怪之人也。中年在。網木之地,高山也。長坂已十八町。山頂建,小祠。

躑躅崗釋迦堂碑。

所原願 緣結.因而竟無.一不,成佛。 罪生善。也。乃至 福。 加於此 大姉。告年以二赤 此 為"人母 攸有.月。途築、殿于城 於城外一合。貴慶觸、順遊綠。乃是不有增壽長 而為。不作。所。福澤圓 久 令為,人子,者智,不作誠孝之意。各為,存亡母 且祈。 成 者慕 矣。 如來之 **貧靈之無上成等正覺。凡** 尊妣解世之後。常思之。占時 一切所過,此之人。及牛馬之類。 **尊妣慈仁之志。各為** 梅檀香木。刻,分寸 **貸像者。** 性妣 清 有躑躅 وال 岭妣征 **尚。安。置于** 心心初 子。淨眼 部 邻 子得 所 日 像 116 L 後 所常 福之基。 院了岳日 除除 于 有一年。 來須浩 IIII 此。 以 使 災 得減 成 分下 招さ 持。 相 一彼 嚴

元祿八龍集乙亥年三月八日

奧州太守藤原朝臣綱村謹志。

覺

之釋尊之像堂、御建立有無緣參請仕候樣之所柄に。被, 浮眼院在世之砌。被,仰候は、為, 御祈禱。御細工之赤檀

成度。御 PH にて 御 坐候。今度於"榴 ケ岡 少分之 地寄進候

元祿 七年 堂建

立

可、仕

候。貴寺可為"支配

一候。委細奉行可」申

候

綱 村

+ 月 十三日

孝 勝 寺

建立與州 躑 閩 出 釋 迦 臺城 堂擬 質 珠 銘

奉

仙

東

釋

迦

元禄 八亥年三月 分辰

從四位下 行左 近衛權 少將氣陸與守藤原朝臣綱

村

末 行 山 家 織 部 重 賴

野 氏 村 家 四 清 郎 五 右 衛 郎 門辰 成 孝 成

監

細 目 助 太 郎 重 紹

風

土

記

日。

躑躅

岡

在

府

之西。

出

紅

躓

蹈

官

工師 松 原 助 兵 衛 重 成

師 早井 彌 兵衛 定 次

封

内名蹟志卷七

宮城

郡

釋 迦 堂

地 織于 和泉。吾妻。 之綢繆、多賀之縹渺。皆入,吟眸。玉 色。 千餘 學。習之。植 淨眼 古之鞭楯城 流之設也。是乃所以示 在。菅廟 也 宮城之曠野富.秋 芳原。極 院殿護 株。 東。 未聞 元祿 之以"單 址是也。自"岡 持釋迦像。南設、騎 峻于西岳。實遊人壯觀之狀郊外絕境之 目乃松浦島也。 他 八年綱村 方並 重絲綸 爽。 一樹鬪 - 儒 木下乃本荒鄉 上.望則。木下之喬林 君。 人追孝之遺愛一焉。 花 櫻各數百根。 布 如此夫多。矣。 射場」以聲控忌縱送忌 帆 始關 一田横野 斯 于瀛 地建堂。 也。 及青松紅 日 一手北 游。 錦 抓 好事 萩 傲 千家 地 野。 績 春 風 乃 楓

躑 躅 岡或或 作"榴山 问榴

以之摺 太 號 都 A 兹揚。 古府乃多賀

迦堂鐘

佛 種 從 総総 起。 有 銘 時 m 果 成。 我 奥州仙 臺 二城東。 有

佳

今慈也孝

也

真

也

俱

完

然矣。斯

積

功

果

德

都

歸

我

乘。願

入

战

果

歪

矣蓝

矣。華嚴千

地

起

二於

初

法

地

心法

並

致

乎。為人婦

mi

為

夫。應

機

行

事

者。至

貞

之所

致

乎.如

我佛堂 協圓 培.於 補 寺裡 石 置 揽 智氏千妮夫人。 嚴 郎 舊跡。名蹤面 至 將。藤 文文 植 德之所, 致乎。 大姉之遺分。元祿 一矣 在二子質 久 顿一 菩提之樹 有 成如 不,納受,焉 福。 原綱 行 加 一新鑄 貫矣 旃 路。右 圆 來之質 些 村, 轉 奇 梵 机。 門 多矣。於"斯 竊 阿 為其境 曾奉= 鹽竈。左松島。 為,人子 鐘 尊妣淨眼院殿之十有三回 誠 以凡 像。 租 且 母維 乙亥春三月。新營 排,樓緊,篋 是可二謂 孝道之楷模 田 傳 厭 心心 岩 為"人母"而 呕 9姚 因 而 1: 地。 啄。 為母 如 由 於實堂。布 接手宮城 源 則 來 其他古人所,詠。 雌 本州太守。 初 鎮 遂 雄 子。 宛 爲子 座 果 同 如電 太守 之封 淨服 機 囑 於 里子 面 宇之寶堂。 發 君自製。文 者 疆 女之献 功 也。 伊達 院 原願 盖 德之種 于 忌。為。追 屬 至 殿 꺠壽 好 於一茲越 孝之 于 33 倭歌 了 王 合。 祥 孝 H 林 岳 安 者。 子。 刻 所 勝 中 横 悉 日

> 中。經 + 入"佛道」是此 界生於 目 如我 法界。 FI 者所,願今也 乎。是此 豊不」謂 時 乎。祝 已滿 塵 刹 至 派詩 足 成 化 马 歌 摩耶 切 衆生 夫人之胎

法。無 々。悉 男女。 便 之。于爐滿 於鐘分鐘 佛 外一 情 勍 勸,兮懲,兮于道。 利子。牛鳴漏 附 。于"法器 頓 鳥 所。 圓 伐 于以 木嚶 音欽々。肅兮 巨。合。于宮商。應。于 擊"之于、鎮于、隱。授兮拔 溢 な。丁々 應 學侶 Till. 發一丁 修則 [su] 温 難 17 耳 精 孝心。歌 源。 進。 倾 12 往 聞 樂只。和 怠 呂。于 な。 公信商 則 禁禦 分子。信 返 以 性 分 齊 鼓 萬 根

鐘之吟。壽山峻々福海深々。

維時元祿十一寅歲。二月初四莫。

光明山孝勝寺十九世日相志

總監山家織部源重賴

鐵 造 富 里产 村 田 語 四 左 郎 衛 右 14 衛 阳 旅 原 源 III. 辰 成 弘

監

監

石 横 1;]: 111 Ш ナレ 义 郎 兵衛 右 衛 游 m 原柴實 源 I 信

早 井 彌 兵 衛 定 次

覺範寺鐘銘

右近衛 曾有: 知到 兆性山受心大居士。相,攸于郡之遠山。草,一字「而拜」諸 原夫當山者。本邦太守。 創 世 吾礼宗匠老師。以 心。無不通十方。銘曰 鐘之功德。 備。齊粥 一物換 ·古叢林。使 州置賜 星移。 少將 踈 開 鐘。 誦之資。具鉦 鳴世久矣。多少音律遠近雖有、限。不二信 兼陸 郡 後 前 车 長 代深 住。 奥守。藤原忠宗公。命』治工 為開 井莊米澤鄉! 太守 所以 遠 領 舞旋篆盡"善美。至祝 山。始祖 im 前中納言藤原朝臣政宗公。始 名山 此 其體敗壞 地 時。所為。先考君 日 移 之禪刹也。 初 遠山 。于,時 州 遠 號 山於當處。新 爾來治 至稿 鑄 寺称"覺 今太 洪 心故左 守。 鐘 朝 嗚 節 以 巤 阵 京

> 惟 時明曆元年乙未林鐘 吉 日。

末 行 門 士 Ill 口 內 記 重如

监 造

冶工

早

山

辦

Hi.

郎

質次

管井 源 滅 質信

東與宮城 郡 遠山覺範禪寺住山。 比丘再住妙

心。源徹宗叟筆記 馬

覺範 寺

封內名蹟志卷七

宮城

郡

在 城 北 號 速 111 一印 遂十 六世。 輝宗君墳營。在 伊達

今移

在一

此

保春院鐘銘

覺樹久 無 於佛 原夫 嚴妣 殿花窓久築大姉 K 不息。行年七十六。 少林山 乘。聽,法於吾祖。強 植 福道 保 場也。 赤禪 然後 院者。 先考輝宗公辭世之後。 終以,元和九年癸亥七月十七日 「莊飾」披」法服 爲所 奥州太守。前黄門政宗公之 天 輝宗 而號 公持 嚴处傾言就 児念 保 佛 本 孜 院

曾報 派園

曉。又鳴...豊嶺霜。

心聞

離

有

相。

知

見屬。

粥敲

一發月。先燈送一夕陽。寂音塵刹々。

謝世 城 陪葬遠 矣。於是太守政宗公。令是祖 命 II 有 司 輝宗公塋傍。敬之祭之。 開 創 道 場。 明號 少林。 清 岳 m 和 寺 相 尙。 稱 攸 课 司.葬 於 春 仙臺 院。 儀

請清

岳

老禪

寫

開

Ili

始祖

住

思

越寬

永

+

一支こ

年

當當

J

加

+=

回

忌之辰。

丈室

落

成

香

厨

接

就

然法

器

修 移。鐘 前。以 太守。左 主宰。 昭程 温度 未。備 助 资 都 南山。為、廟日 川 城 念 约. 佛 聲 始 **炙。**其 介嗣 TAX. 改 近 政 殆 洲洲 班 近 擂 之暇 衛 忠宗公。復合。清岳老禪 有一篇。是鐘 明 明 若 交。兹 權 珊 年丙 华 7 年 中 H · 鎮艦 内辰 口 一献。等 同 鳳。 將 加加 新 有 年 千五 綱 清岳又隨之遷 春 冬十二月。造 馬 施 PINE PINE Z.W. 之志。 IE. 村 月二十四 以 巡 馬 月。 以 公。延寶三邓 備 軒 1111 資 主 現 泛昏 府 不,果 躬論 助 约. 住 内 H 靈冥 給 煙 營 道 導 也 于 河町 彼 水 空 師 俗 洞 一嘉哉 人者。特 北 太守政宗 福 樵 年 滿 信 堂 住 葬 年 也 秋 和 113 男信 矣。 於 儀 見聞 尚。 保 儿 城 月矣。 。藏典遺 爾 然 月。 發.志 茶 程。 女。 隨 廼 星霜 公 院 來 蓝 以 以 始 用 低 殿 當 體 其 願 入 寢 前 山 于

結。良緣於現末,耳根頓證圓通。 更耐。皇國佛運國富民

豐矣。銘曰。

元文 有.助 妣。扶 無窮 恭 根 府 伊 部 達 感.動 其 五 剛 IF. 給。剛志盡忠。簨此 迅 烟 一唇。八 商 功 供 吾宗。寬 水 天宮。魔 香弗 樵老。始 政宗藤公。 月之中 竭 永乙亥, 外 。當 爽膽。 永 遍 臣 昔爱插 夫宗 山 鐘。日 感 ナレ 風。 衆生啓 儘 世。別 岳 洲 彼。 國 殂 加 開 家 道 月 小小 晨考 している 崇 逝 滚 到 安 泰 通 呼 THE. 夕樅。 _ K 拗響 叢。颛 派 敬 壶 佛 脉 氷 法 拔 解。 為先 非 紹 蓝 廖 德 隆 世 冥 E

維時元文五典八月良辰

虎哉七世正傳。現保泰。別道叟崇通謹

でに

冶工 太西五郎八清貞

鈋日

助 給 禪 總 人。 不 清 鑄 刘色 余 自 欲 有 改 餘 ·造之。而 年 於 此。 力乏。 星指之久。 有 自 信 生微

者。本街之長也。發願殆十有三年。為、余助,資財。於、

迷者。或倍,於故,足,以為,本山之寶器,矣。

嘉永六年歲次癸丑林鍾如意日

現保春海航欽識

海T 津田和四郎倫次 願主 榮吉

瑞鳳寺下馬碑銘

奉,献,上石下馬。

下馬

此下馬兩大字。點畫法式。摸『寫曾我丹州牧。听』使』

朝鮮人書。攝州國天王寺。石下馬之字。者也。

瑞鳳殿盟銘

寬文三年癸卯七月十二日

莊子助三經吉

奉,献,手水盤一筒。

正宗山瑞鳳殿前

寂

一聞

非有

」問覺亦非,覺,以考以擊。玄風載揚。無思

無

寬文六年五月二十四日

柴田外記朝意

予嘗少年奉"仕英主

政宗卿。且受"拔摹之恩。一旦英主卒。今殆三十一年。祠

廟已破損。幸使、予總、督其修覆之事。因

具,此解於廟

前

輸。微志,者也。

瑞鳳殿鐘銘

鳳殿 則覺 之質殿也 士白 林藤原朝臣忠宗公。修" 大日本國奥州路。宮城郡仙臺居住。 惡道諸苦。並得,停止,也。 夫鐘者叢林號介資始。 盡、美者。 香衢 也也 業。下,地於州城之東一里。營,建靈廟。號,之日,瑞 非口 、孝心大哉。加,旃鑄」成 疏 鏤"珠玉,金銀。雜,黝堊丹漆。 』 真珠 矣。增一阿含經云。若打 鐘時。 所以宣非心所以測。 曉擊則破"長夜 先考。 或云。若夫大定常應"大用 前黄門。貞山利公大居 。鬼盡 大鐘 松平越州太守。羽 警睡 扶桑中 以 綵 備湯香 畫嚴篩 眠。 少。等 一切 菜學 輪 類 常 処

量不」可,勝數,也, 他日 永雍. 々乎仁壽之域清泰之都 仰冀 大檀 逃。 依 矣。 斯善根力。 鐘之功 子 德 孫 111

益明" 盛 德。家國長屬 祥华 一矣。

怠。正 市豐 樂縱橫已現 法千年勒,所行。瑞鳳樓前 成。 白雲深處吼, 華鯨。 坤杵 報。最夕。望仙 圆通般若警,昏 臺上卜

維時寬永十 四歲 强圍赤奮若小春吉日

陰晴。人天等得耳功德。動盡乾

大檀 越羽 林藤原朝臣忠宗公

表

行門士 鴇 與 田 Ш 大 駿 學 河 助 介 周 常 如 良

郡山治 左衛 門 尉 重 祐

大和 石 田 田 傳左 衛門伊 七 辰 久

監造

遠 山 市 丞 成 茂

副

者

匠人 早 山 彌 兵 衛 利 次

心現保春清嶽叟宗拙 銘 嗣 馬 法 小 師 源

徹

宗書

前

妙

封內名蹟志卷七 宮城 郡

經 峯 靈廟

地心。 心也也 10 相並 國 在 地 图 逕。 也 君三代陵墓。 放 隔 河 皆所以致 東廣湍 砌千壘之江山落,于欄外。 宮殿廊廳也 層巒衆峰凝 流過"于 西南。往昔有人藏。經于峰 寺邊。 而日。寺正宗山瑞鳳寺。 . 順終追遠之孝愛。示此臣義士之赤 盡。富麗。 遠 肿。 欝林遶,于門前。 開 寺院樓門 牕 萬里之滄海涵:于座 可上謂 也 頭。仍稱一之安 古 **殉死墳** "佳境 極 杉老 神 壯 绝。 松 、塋亦 柳 部 之 其

感仙 殿 瑞 鳳 寺威仙 殿擬

實

珠

銘

寬文三縣五月十二日 早山 彌兵衛定次

同殿 鐘

大日 岩 廟之 本 國 两門。瑞 座 州 路 鳳是禪 。宮城 郡 禁山 仙臺 後峙 城 之東 F]1] 岡。 削 仙 流 鶴 城 献 邑班 連 瑞

參雨 慧清

SE.

致四 自 以 藩 m 矣 于 下 於 規 目 榱 而 蕊 左 好 安 行者 法。矣。 性 有 圓 陰 矩 所 徐。 院 圍 陽 迪門 殿 則 俗: 省 旗 所 視覺 誠 誠 到 遠 所 不 須 蕭 考 像。 手 設 不 於 前 水 大啓。 到 大 甲二 Dite. 在 撞。 知 順盟 也 懲 刑步 小 Z. 扁 羽 問行 TI O 惡 悉 7 處。飲 樂。夫鐘行 匪 人 林 然 長 梁 July-日 有 腦 記 三段 右 鐘 而 家 短 形 鐘 感 開 結 ili 功 哉 所 非 者 弘 矣 法 目 東 仙 則 乎。界 德 仁 手 形 承 施 妙 殿。 定 倘 於天 所 滿 公 手 道之本,而 塵楹 無 器 色 (iii) 聞 其 以 大居 各 普 星 鑄 内 絕 屬 也 地 美 鐘 勵 資 柱 隨 構 無邊 師 佳 矣。 未、判之 耳 也 +: 等。 聲 行 政 共 一高 所 境 霊 鲖 漂 願 者 治 器 利 に造っ 也 矣 雜 樓 音) 瓦 廟 也。 生之元 些 而 旋 矣 間。一 鈋 丹 于 其 於 m 化 則 非 倒 緩 放 能 掛 漆 屋 中 度 發 斯 杵 稅 急 專 字。 間 積 記 路 也 鳧 加 地 者 模 自 高 祭 設 全 鐘。 三慧 開 彩 迈 低 脫 金 建 普 插 通 祀 管 聞 妙 者 寫 書 铺 匡 自 」爐 事 聞 功 所 智。 聞 隨 坚 勸 大 平 鞴 大

通 呵 破 西 大。東 唱 如 來 清 淨 禪。 H 丈 亚 規 弘、 佛 林 陸 仙 大 大 奥

閣。大 慈 形 錫 湧 前 泉。月 樓 耳 答 松 杉 外。 門門 序明 高 淵

> 專 派 验 英 問り 檀 おと 蔓 覺 们 飛 次次 生 長 願 親 伦 ilia. 族 法 綿 輪 延 常 剪 FI T-

寬 居 文 士 四 七 年 周 甲 忌 辰 夷則 賀 落 + 成 且 H 間能 當 銷 于

再 住 妙 心 前 住 松 島 训司 水 則 東 初

檀 越 瑞 岩 寺 殿

臺 中 納 言 政 宗 公 曾 孫 伊 達 並

國

主

松

平

龜千

代

公。

末 行 長 I 主

計

元

景

副

早 111 左 衛 門 益

泰

鎌 田 六 兵 衛 景 明

清 永 里声 沼 久 茂 左 兵 衛 門 衛 定 景 成

監

造

B 早 Ill 彌 兵 衛

師

現 住 孝 陽 朋彩 寺 德 大嶺 孝 勝 Bri 義 猷 殿 書 鐘

推鐘告"四 方。 誰 有、大法者。

岩為我 解說。 身當為城

域一机之而移來焉。其德也轉,妙法輪。布。薩設戒之具、 除 夜叉羅刹之横災。 度"用之,攪",牛死長夜之眠。向",涅槃圓妙之現。加,旃却 金鑄之論典所記。由來良尚自爾以來。於。月氏震旦。日 殊佛之往古。大衆以"石造之牟尼如來之現在梵王。以 夫鐘者。七佛的傳之法器。 遣,去波旬章 列祉相承之規矩矣。故拘 陀之邪見。 無如此 留

順兮斯來由 高樓」鳴」洪鐘 者。乎, 偉哉至哉 其德也不,可,勝計

歟

日訊尊靈之重恩士。

入江清延。 齋藤 近義

天野正 知 牧野 重 成

米山如俊

寛文十一 亥辛

孝勝院殿靈閣造營之砌。 調節を整鐘以 **本**握 報恩 矣

> 萬代。 而已。 于、发星霜在一年, 令,再興摸鎔。尚又使,金重洪大功德。 況乎等大會妙聲 豊不 周逼 見鐘聊逮,于破裂 兮。 乎。以之備"于供養 是故 施永劫 太守公。 利 益 到

鈋日

於寺院。赈兮殿堂 華鯨功德 得"佳祥。 長、二六無懈。百八不、忙、安身合、宅。 々和」霜。 海。響旦.十方。下橫,地府。 院訴"殘月。 ,妙應難」量。告嘶॥印度。今吼"扶 聖靈幽 夕報 一跡,必垂。道場。見聞真俗。咸 1 斜陽。 上竪天堂。 **啖夢** 攝意 易。是。 悠々交」雨。 桑。音溢 棟梁。 愁眠 嚴 四 殷 111

國主豐樂。家臣歡康。仙臺玉樹,子葉繁昌。

大檀 越

錫鑄役人

從四位下行左近衛權少將氣陸與守藤原朝臣綱村公。

营 野 次 兵 衛 憲次

谷 津 五 郎 兵 衛 重快

師

早 山 彌 兵 衛 定次

陸奥 州宮 城 郡 仙臺 光明 Ш

孝 貞享第 勝 寺 常 住 四 卯丁 覺性 天 霜 院 月上浣 日 逗 欽銘之 三日

勝寺常題 目 堂小 鐘

陽 那 孝 足 夫 萬行。本 人冥 故 勝寺常題 常唱堂之權 羽 林 福 一。 中郎 地甚深之與藏。 目 永四 興也。夫唱題者,七字之中 將 堂 了车。 綱 村 陸 風 君 温建 州 肯 三世 仙 山 新 大居 臺府。光明 堂 諸佛之師 士 修"唱題三 追追 一合.攝修 山孝 父也。 昧 勝 先妣 法界.具 一質是奧 寺。大檀 況乎大 淨 眼

覺皇重 耳 以告:輸 伴稱唱。 至、末法。除經 信。顚 根最利 倒之衆 後 次。且 五百 心。 生 法菲 是故 時綿 眼 歲 配星 身鼻意之得。益多方悟入也 識 THE 鳴鐘 々無 經俱無用。唯 什屬。乎本地菩薩 阴 一。 告 慢 四 盖 朝擊暮叩。 方。 一人以二一 唱題立行而已。堂中結 則走卒兒童生。隨喜之 哉 其響所,通 時 。放吾祖 勤 但 闖 如 鳴鐘 此 徹。 土 愈 今

> 靈冥 獸艸 萬民豊饒。 元戊辰之冬。不肖宗繼、席住持。 日 潮 木雕 上 福 人。別 寂 不 光寶渚 亦何 鑄 解 脱。偉 新 有.外霓.耶。 不移 鐘以 哉 備 步。 先君 法 器。雖 元文元丙申 堂中 遺徳。以之薦 依而 然無、銘 儼然。且 詩記 年 其 七月。 趣焉。 今茲 國家 夫 先師 寬 長 1 逐 久 延 约

不」辭肅然為

唱 遍 法法 别 頭宗。 界。益 告漏 為無窮。 以 鐘 化 功 醒 歸 順 處 吼 國 家永 月。 際に夢 晚 風 聲

寬 延 元 戊 辰 年 十 月 H

十五 代 住 持 沙 門 大 義 日 宗 謹

法之威 僧 力 鑄工 御 何 宗比之。於 感 九深 高 H 國 日 定 無 74 本 比 郎 國 慈 類。 中。

延

仍 執 達 如 件 宗弘不」可,有

妨

者

也

妙宗

後代

難有

绅

頃

年

數

多真

文永 + 年 五 月 日

蓮 大 上人

H

城

左兵衛

表

黑印

申候、 鎌倉執 は。 具 紙鉤 候。右之趣 下。誠以宗門之光、 被成 へは、 至て大切之 被 取 淨服 去年夏中持叁仕。當寺 成下.度旨 下一候得は。 必所望可、有、之物に御 權時宗 村 E 院樣御 姓 一通に御坐候。 屋形様えもの よりつ 勘 願 作 由 差支申 當寺重寶 申 と申 裕 宗門之高 上候 御 者。 坐候 處。御 為に 御 什物に 那盟 不過之, 先祖 後日宗門木 得 坐候。 申 祖 御坐候付。 表具被 は。從 上度 え よ 從 相 h 弘宗之免許狀。 J. 納申 奉。存罷 家 難有 成 大屋 山に N 下。此 候。 御 大屋 所 仕 形 上御 出 相 持 於 樣。御 合 度 聞 候。 形 に仕 宗門 本。存 被 表 樣 得 以 本 相 表 1= 具 候 居

享保三年二月十 日日

御

序

御

前

宜

御

被霧賴

入

奉存

候以

孝勝寺

瑞鳳寺善應殿擬 質 珠 銘

奉建立與 州仙 臺城 F 祖 父 見 性 院 殿 廟 堂 字。

IE. 德 第 六申与 歲三 月 念 H

從四位 上左近 衛 權 中 州等 兼 陸 奥 守 藤原朝臣吉村

> 造營奉行 芷 名 刑 部 平 盛 連

坂 本 出 雲 平 重 隆

從事

柳 生權 右 衛門管 原元

常

監造

石 H 作 平 克

資

佐

賀

庄

太

夫藤

原顯

長

木

匠

/生 田 市 兵 衛 I

置

冶

同. 殿 鐘 鈋

庾 州宮 城 期。 仙 臺 城 F 正宗 山瑞 鳳禪 寺。 故羽 林

旅

威

公

廟

鐘

銘

于 得 域 志。 鑄 席日。先考之廟營"於宗山」者。將」在"來 表 正 禿 德 111 辟 吁 甲午 在、、 鐘 東都。謁 琛 旣 則 附鎮 不 而還 琛 春 公襲原 .慣.于文.恐不,勝,任 於 景琛董 馬 ili 宗宗 前藩 揆可無 銘章告 于無疆 14 則 命、琛号 法 斨 盖 主羽林藤公於麻生之館。 ĪĦ 冥契矣。 斧之響與, 楚 為。住 至"七月"還 鈋 持。 也 僻 抄 殆,平二十 顧宗山 宜 之聲。丁 職將,歸一仙 無無 滅。而 乎、 辭 藩 師 偓 依 年。 々許 共 功 途唯 111-子 公前 府。 Im 寫 17 子 未 な。 兆 唯 且 進

喧! 嘿 故 鑄厂 乙未 震 方 M 不敢 東 駁 独 10 济 The. 鋪 林 於 金 夏念 計 獲 11.5 Ili 結 壁交 乃 候之 雖 111 之間。今茲 峻 熾 义一 景 精裝。 拒 洞 爐 旗 琛 力 日 堂 够 扇 俄 漆 够 新 未有 疾 炭 丙 抱 相 鐘 於 援 鎔 病 田 映 已 一堂乃序 日 乞記逃。 液 非 如 成 月。 MI. 金 斯 뗴 三祖 漸 銅。 飛 隆 宇 Ele 及一个 然 宗 麗 人 祀 落 Im 雕 詭 兩 成 融 春 環 先 肝 廟 小票 制 巴 環 也 將 傑 恕 売第 奉。公之 献 於是命工 然 厄筍 形 如 廉 相 那色 塔 抗 震 瘥 縟 命。 禁 焉 懋 越 盟

寓 則 大矣 志 聲 哉 香 岩下 账 吾 夫 觸 佛之法 拉及 在 聯 視 颠 則 也 4,1 影中 聞 真 汇 學 TI 派。 苞雞 發 皆 Die. 於 妙 有 IMI 不 L PUR 旁魄 聞 則 而 萬 精 歸 有 眞 無 在 之所 聞 應

銘之銘 可 霑 即 動 誣 一被 前f iffi 則 不 吾 人於 休 息。 藤 公之薦.于 進。 惨虐 則 利 未 车 有 姓 先 心心 冥 君 すだ. 平 可 删 鐘 所 調 者。 記 至 泥 矣。 昭 景 A 涿 腷 乎 胖 不 纏

其 靜 111 辿 111 顶 沪。 态。 動 大雄 打 葢 設 无 教 塵 所 盖 周 取 "諸鐘" 惟 聲 爲廣 鬱乎宗山。 發 揮 廟 沈

> 庶。公 大皷 亦 厲 堂 無 風 新 "秦篇。 里。 造 之至孝。 不 制制 廼 醒 廊 3 先 勿心 菲 相 離 與 侯 晚 魚京。 之意 音 抔 1.14 無 福 模。 輪 手 第。 長 救 應 妥斯 顕 碎 苦 節 考 天 幸 陰 宇 通 殷 撞 2 - . 法 图图 地 為炭炭 器 嚴 徹 道 否 儼 明 存 然 石文 造 世 魚 化 日。 懸 中 音 之 于 造 が出 凌 原

29 廟 位 堂 大功 1 左 近 德 衛 主 權

樓 臣 從 綱 鐘 村 入 功 德 丰 從 四 位 中 將 E 左 兼 陸 近 衛 與. 權 守 中 膝 將 原 兼 朝 陸 持 吉 與 守 村。 藤 原 朝

造營 從 事 奉行 芷 名 刑 部 平 盛

連

隆

監造 柳 坂 生 本 權 出 右 衛 雲 阳 當 平 原 重 元

常

佐 石 賀 H 庄 太 作 夫 平 膝 原 克 題 長

津: 田 市 兵 衛 Ti

冶

木

匠

IE 德 丙 申 春 三月 中 浣

時

座猷法崇右。

執

證

入。回

通。

悅

Ill

兩足山大年寺鐘銘井序

以 觏 法弟 居 底 綱 節奏 動二十 事 乾 夫 了多。 國際 鐘之 而 村 VI: 公 波 受。紫雲先師 音 瀾川 度 依 則 E "娑婆 往 為第 无. 其 號 不 R 而 黑。 K 思。修 青 淵 有 來 入。大 世 各談 尚 以 器字 m Ili 界。 也也 矣。 居 至 足。 也 之印 小 则则 于 所 以 肠 ---HILL 豊非 始于 故 證 一音學 中 林 州 THE. 在于 幼 天 m 心视"其 生乎。 削 KK 拘 而 柳青 湖 而 N. 祇 學 爲 留 其 海 令:文殊 藩 佛佛 。秦佛 【草】 邦。幸 儒 規 並 如一大 於耳 主 各院 事。故 则 乔 博 海豐 羽 相 根。 請城 以二 料 通 雄 有 林 簡 楞 其 清規 經 悟道 鐘 猶 中 當 嚴 于 中 邦妙 存。 少。 郎 浅機 四 會 将。 而 亦用 相 以 王。 1. 詞 考 心 mi 見。自 一學 加 月 藤 Thi: 鳴 派 源 塵 兆 辨 耕 113 F 部 原 E

> 膏 之銷 及。佛 為。四 耕 是倾 功 以 頂 牛 之 其 瑞 公不 機用 日。 浙 昭 腴 1-公 第一為二 兄。 弯 地心裕 法 德 幸早寂。 心信之。 11 開 像 遷 喜就 好 睃 博 佛 三設法器之官。 兩 城 發 作二件等 妙 挺 加L X 僧 世。 足 其 心 W 不」亞。古之張 公法 昭 TE 統 食。 山 就戰 宫 追請 郭 通 部 範 大 您 城 支流 者矣。 之意 復 奸 創 年 齋飯 部 4 牛法 消 依 建 निम् 爽 公和 小 兄 情 寺 庶 公法 四 彻! 現 J.L 門應流 林 兄。 彩色 相 排 商英楊。 4. 道 藍 住 舊 尚 於 姪 契。 清單 輪 游" 受,菩薩大戒並傳衣鉢。 鳳 林 舘 等 U 城 林 Ŧ. 稱三代。 111 所宜有者 為 諸 帕 大 党懷 乾 所以 原庫原大 الالا 小 名 IBI 開 大老。有.年.于 大年之賢 樂 開 fili 蓬 取 厝 III 香 兼 3/15 111 就 師 郡 加 很 修 -1: 们 請 是 國 一丁 具 根岸 [44] 爽 小浆 特 師 備 瑞 資ク 放 斑公在 銷 小 出行 余詩 公法 請此 [نانا 1/3 品 及 林 含。 那。 F 山 茂 鳳 和 世世 為 割 姪 以二 鐘 以 宇 游 临 師 Ill 延

+ 海 陸 111 之與。有 汞 將權。山 111 随 外修 然 是為 闪 = | 厢 足。寺 力彌堅。 日 大 度 地震 年。 有 匠。學. 個 檀

野。鳴 揚 TH. 傅。又聚 谷 非 館 Wi 金 銅。 沼山 猶 範 龍 成 非言非 F 鏞 停 默 酸 厥 止 韻 楚 從 警告 容 娑波 啓

管 永四 紫傳臨 年 滅 次了 濟正宗三十 亥中秋 四四 H 世。道宗 前 住 悅 黄 山 媒 和 山 南 萬 敬 福寺。第七 撰

效

日は

耳

孫

寫

たい

願

開

聞

者

證

入

圓

通

奉 遠 藤 內 匠 藤 原 俊

信

從事

西

大

條

主

計

藤

原

定

賀

副 中 村 七 郎 兵 衛 藤 原 景 信

須 田 伊 兵 衛 源 成 辰

富 石 母 田 田 善 叉兵 左 衛門 衛 藤 膝 原柴 原 直 貫 弘、

鎔 I 早 非 彌 兵 衛 定 次

官 大 日 金 所 本 國 鑄 東 大 山 鐘 道 銘 陸 併)到. 序。 州 名 取 郡。 兩 足山 大 年 禪 寺。

見 西 為"聲瞽 聞。 方大 显 聖 良 有 1 回 聲 成 色為 愍也 無 F: 道 障 於是 犯。 為 礙 隨 見 機設 法 大樸 界 殺 無 旣 擊 散 非 牧 皆 妙 椎 覺 覺 以 合 故 塵。 集 逈 絕 衆 #

吉村

君。

轉

歷

世

廟

堂之設。易

以儉

素

惟

竪

石

結

花

謁

見

無

不

激

揚

個

事

二病

中

受

用

雅

古

人,亦不,多得。六

以

備

祭

祀

im

巴

子

於

四

月

自

本

山

一奔省至

二東門。

毎

大鐘 鈋 演化 本 至於 佛 山 隆 故 如鐘 素 破長 大 则 有 和路 M 雄創 大鐘 彩 枢 後 往 西 由 開 是 清 /s/v 本寺 一原 來 平 寺 规 Ш 繫鉛 衢。 院。所 濫觞。挈.其綱 禪 以 faiji 非 為影 併 11: 在 雅 序 有之、 Ш 木 林 E П 師 號 THE THE 夫。 大 此 分 平。 。黄檗悅 之始。 土 今以 加 自 部的 官賜 良 過 亦 山 有 去 和 谷 构 以 尚 儀 别 五八! 小师 刑 鎬 撰 秦

公之曾 應 於十一 來隱 歲 肯 家 本 州 順 諭 山 時 師 前 大 武 戶 就 院 祖 居 藩 月 之東門 爲 手 城 主 此 士 11 鼻 開 南 不 四 自 祖 故 松 茂崎 日。手 枚 者 妙 沙 後 島 學。按 林 商品 嗣 伽 相 揮"鋤子」親 十七年。去歲己亥夏寢 FF 歷 监 法 他 郎 *参宗 元祿 於 之生年,亦奇 將。 創建 鳳 山 藤 内 厅 子九年 和 開 原 。得揚 山 基 尚 姓 為 綱 自.癸未 址。不 也 兩 大 村 足 年之盛 公。 途 疾 寺 公表 期 請 法 年 日。大 豫 而 公名全提 大 秋 致 學 合下 命 慈普 卅 仕。 年。 八

時。相 清規。 華。而 香奠:是也" 所 之云。 鐘住 住 朽 不 中微 大幻。 歸本 = 館 合此 人是也 持·尊 朽法 賜 含。 白 头 ياً 凡大鐘 大鐘 則 賜順 行 器。 第 日。 互 宿 公因 金 公之忠義。於是乎顯 折 何 等。時 林七月葬,全身於本山 用 香 刊 銘 予同 岩。 定..于 嗣君 日 其宜 時。凡 金 逃 上遺使慰問。 悟 清 者。 聖 鳴之。 更 調予日。 為 规。 嗣 餅 一。今既 中 上復 也 集 節佛 胎 君 山全 嗣 範 我 臨時 衆 君。 命近 E 域 曾祖 後世 縦 嗣 本 上殿必與 誕 有 師 不能一 鳴之別 盡預,末後 君 成道涅槃。 岩 如幻三昧。 山巴 上遣 「僧堂鐘。凡集、衆則擊」之。殿 後絕 臣 養 稱 公起 何 矣 7 善。 如。 意意 有,鐘 横若 使慰 之禪 謝 如蓝 々遊」古各設。大 白 次歲 欲將" 而 一僧堂鐘 予 大事 金 恩。途於二十日 干 那嶺。 繼之則 以 日。 敌遺偈自 矣 問 五. 善大 庚 入:大爐 佘 及,接"送官員 百枚。 所 。自"曾 验 子 可 菴 相 何。予日 夏 幻 矣 賜 為 應 其 修 賜爲 五 若 白 七日 鞴 國之 大祖 稱小 月 榜 金 佛 接 鐘。今 論不 。按 膊 將 事 造 日 後 解 指 火 光 幻

> 不獨 無 鐘 者矣。為之銘 稱 成 不一窓說 共聲鍠 爲、公資薦,冥 觀 者 世 體 音菩薩 題:說 悉 R 文以以 來意。 日 十二部 隨 福。 毎 學答學。 餘 佛運與 撞 材 經 確 結 则 國國 其利 構 聞 合.摩 運 築度 學證 甚大 相,為終始。福利 延 以 道 長 mi 掛 不 所 合掌 之。自 出 叮 勝 訓 晋 偈 感。 肝疗 数。 無 凡

仍

同

m

窮

興。紹 時控擊、 鋪 永錫 道契。 演 梁州 說 雙 所 隆 一能 爾 品 **乘。**返 聲合"律 貢。赐 國 護 類。君 死唁 運 聞 恩贻 子 生。 自 聞性。 圓荷 孫 呂。譬如黑夜。燃無 繩 柳 俊 惟 飾躬。 營。幻 頓 妓 微手厠 豁 蕭 香豐。 寺。 翁之膊。 謀 諸 係 談 回 梓 因 小小 此動動。 人。高 蓝 經 命是 品间 炬。光 始。 君 懸 氏 甲 一、箜篌 中 峙 範 法隨 有 址 君 成 佛 檀 隨 南 臣 百

享保 庚子 五年 夏五 月 规 日

當 命 山 月 第六代。傳臨濟正宗三十 洲 行亮 書。 pg 世 孫 香國道 連 焚 所加

撰。

部 寺 此 丘 山岩 Ш 元 賢

幹事比丘至玄元 要

無 文元文

鑄匠 石塚叉五 郎

長 信

早井久右衛門

為之

封 內 名蹟 北在"根 志卷六 名取郡

茂嶺

城

城。今去。國府仙臺。已可。一里。 應 永年 中。栗野大膳者。領 "名取北邑三十三鄉"。 阻"廣湍河 流 m 居.此 芥翠

萬株峯巒溪淵頗多。岑鬱蒙密。仍稱。之茂崎。先太守

峯。號」南曰"善那嶺"。卒後葬,于此山中。 綱村君。 建,寺號,兩足山大年寺。且夫呼,北曰 ...般若

聖盤銘

大將軍 賜膊 金岩 干於政 德院。 於"其忠肝"个孝太守鑄

此 魁 盤。以 重 高萬古 日 新 德完。

于,時實曆八年戊寅五月廿四 日。 大年十二代東溟急

謹誌

奉大献 五 叡 明院 殿廟 年甲辰九月。 前盤

水盤 壹基

滿守姬真 مرازا 井 伊道富夫人詮子。

東桑法窟。 兩足山。 肯山公御筆 鼓山道属書

沒滋味。 鳳山 瑞 100

覺皇實殿

额可 Ш 公御針。

祀 逾 開山 七十

廣長舌覺天書。

住

無所

教 香园生。

虚字體露當。陽。笑便 臨濟正傳。三十五世住持。沙門覺天敬 點 頭

解脫門開拶入、誰勞,彈指。

六和僧 兩 兩足殿開 足 111 集。挽 仍這氏德子毛書C 辜,負德山 回 H 丈方 間 伎倆。 風規。當寺第七代。比丘七十三 富原玉裹院殿。

大年禪寺。 伊達氏村子自古。常师心定院數。

無遊燈。 背山公御筆。

寂照。

藤政德書土井山城守 克

崙

藤邨侯。少將遠江守。

1=

被成

候

資準林。

惶敬白。 **幷萬壽** 存候。弘 樣に存候所。書狀等出來候間。今夜發足申付候。 先刻は。首尾能珍重、始終御取持幸甚々々。於、下官、大 明日理右衛門。貴寺幷萬壽え指越候 且又此度之義申入候,大條理右衛門為相登一候。內々 慶萬壽。和尚被、爲、悅盡入候。弘福和尚え、關山等之義, 被下候樣 和 丽 尙より。 仕度候。委細太田將監可。申 和尚當國下向。致"開 御狀跡より成共。被、遣候樣 山 可然趣 上も。 述一候間。不盡恐 被仰入候 被仰 に可 和 然然 遣 尚

月廿四 日

綱村

東昌堂頭和 倘

侍者中

少林院眠少室。 鼓山道霈書。 院様え御覧に

相入候へは。御裱装被。成遣。大年

寺什

物

右東昌寺所藏を。安政中。大年寺え贈

h

遺候を。

延壽

追啓萬壽え一々被"仰遣

種

存 候

人天 大慈普應禪師之號。以旌 尚。久慕"其風。近閱"語錄。道眠圓 朕惟普照之宗燈。傳至.於紫雲。克大。其光輝。鐵牛機和 蔭凉樹撥。 八福田。 轉.靈山正法輪。 吾國僧寶徽飲 一版 可嘉。 腰 背 功 永運 簡在: 朕心。 道账 明機辨迅捷。宏起 高萬 一所益良多。 世。 故 特論 一刑氏 質是 賜

正德二年八月十四日。

本寺開· 山 勅諡大慈普應禪 師。鐵牛機老和 尚

第二代月畊道稔大和尚 元禄 十三年庚辰八月二十二示 第三代泰嶺 寂。

第四代鳳山元瑞和 香國道蓮 尙 第五代泰宗元雄和 元斑和尚

尚

显峯海顏

覺天元期。

仙巖元嵩。

湛然元 皎

東溟海

Mil

扶 大安淨仁。 桑元 暾

俊嶽 衍 哲

淨

大通

衍

智

蒲菴 淨英。

日。終

於所居亭。壽七十。娶。錢

神氏

上生男

一。日

直

方。

日。元良。壬子秋

寢

疾自

知不起。

屢

肝

藥師。十

月十二

顧命

屬方藝於松濤禪院。乃

奉

待

先君

廟

之志也。孤

梅岳真白

如

來 鳳 瑞淨文。 鳳衍 梧

子泣血狀

其事實。

徵余記

颠末。

哀,有,其喪。援,筆以

白月院 自訓 元良居士之墓

大年寺中松濤院。

大龜通

東

吳如

江

居士諱任清 表庄左衛門。別號"自讓。氏田丸。 叉大島。

克嗣 元祿 祖父在次。 家業。 癸未 泉 藤君 州境 藩侯 、縣人。曾移"居於仙臺南街。乃父在宜 藤中將。居請 居"於江府邸第。特徵,在清 』作階。辱賜,手澤茗甌。 一恭陪" "侍

風白月。質以 年 給 以 月俸。 佳 詩茶傷。 旣 而還鄉適築。亭焉。 。享保丁酉 。增"月俸。己亥夏逮 君 命 扁 清

君已遺.下爐問 時服。自 春。今藩侯 藤中將。以為 二君恩渥沒齒不」諼。曾參,我師於本寺。名 奇品。蓋非一分』渠嘉、玉川風 先君 所愛,召於 韻耶。 金城。赐以 辛 北

調

編

塔主襲祖沙門至玄撰併書

壬子仲冬。

哀 子直 方稽首敬白

故界屋庄 左衛門在清

享保十七壬子年十月十 生.於寬文第三癸卯 年 八月 有 H 十四 丙寅。 日。 行 年七十。 殁於

種玉軒觀光白雪居 士

兩足山大年寺

石田故豐前

藤原

元直慕。

始奉仕累進諸職一至一于家宰。在官凡 以,正德三年十一月十六日 年三月十四日卒。壽八十有七。請,官葬,于兩足山中。 生 享保十三年九月九 五十 七 年。 宽 蚁 日。 +

萬壽寺寂靜殿擬資珠銘

建建 立 與州仙臺城高 松莊

殿 廟堂一 字

實永第六已北 七月初 四 日

從四位 F 行 左近衛權 157 將 兼陸與守 藤 原朝臣 吉村

從事 造營奉行 布 野 施 村 和 內 泉 記 藤 源 原 辰 定

安

成

柳 生權 右 衛 門 藤 原 元 常

監造

瀨 成 田 爱 藏 藤 原 利 長

木 村 Ŧi. 郎 助 旅 原 貞之

津 生 則 兵 衛 Ti 問 以以

所 仙臺城、 開元 山 萬壽禪寺 。新 编 銅 鐘 一鉛 井序

冶工

田

Ti

兵

衛

制 蓋開天以"震雷」而皷"萬物。佛以"鳴鐘」 音。 石鐘收 Ell 開即 去。 之造。九乳。鐘之絲來也久矣。又至」若、挫 證 龍府轉輸王 度 生死海 達 涅槃岸 之餘。金輔。遠 和 而做"大夢 自 劫 背拘樓秦之 初 迦葉之 言。揚.此

去城 肯山 月四 將。 眾元山萬壽寺。洪鐘者。 初 從。 倘 嗣 改 樂陸奧守。藤原朝臣吉村之夫人。 源貞子。為 先姑 功烈一些。動勞。載在一銘典。其制是徒然哉。仙 月耕念和 寺法諱寶蓮 厕脈 在 乃月畔之嗣 也。 高壽。即元祿丙子之冬也。 H 綱村朝 夫 居士。 兼美濃守越智宿禰正則之女。 』州之賀美郡黑澤村。號』安養寺。前 日|卒"于家"壽四 東北 至.第 人源貞子。 之益。物其義博哉。復所,以協 尙 之銳。休"琰王湯鑊之譴。咸"智興之誠 里 觀政藩維之日。以,寺僻,於城邑。擇,相今 臣。 三世 淨晃大姉 爲此一流。 也。 圖德斯 餘許。線造落度禪刹鼎新。 現 大姉亦號。萬壽寺 住 一十叉 蓋師槳 諒不 所鑄也 輪 宗 從四位下。行左 0 幸而婴病。 而 璞崇 謀 山第 因請 有。顧命 大姉 實 和 画前 臨濟正宗三十四 者 否開鐘 间。 世。 者。示不,敢 廣樂。昭 從 |葬||于萬 太守 以一質永 近衛權少將 木花 太守 山名 四位 纯 府宮城郡 者 計 德美 那 珀和 羽 加州元 法法 下 所 林 -法、 以 imi 倘 年 中 行侍 萬壽 攸。 稱 郎 和 法 主

潜茫螽。 爲鉛 愼也 亦盛 倕鍊 尚 存 由 洪言。 以 入道。 沈 一發。深 哉 E 薦 非 爺 罔,佛。悉 廼 前 命 冥 省 成 則 之材 太守 丽 社 。見民 斯 律 之意。 障 鐘之 難 脫 需 不上日 一效 寒。 被 苦 予 建。 也。不 "漢水之奇珍 趣 質在 銘 固 頓。 語
隨 而 請 辭 成 於是。 で可以 予 流 者 喜乎。 哉 一人 懸"之臺簾。 日 0 大圓 雖 塗告"太守。 不 探"蜀 言被 政 然由 一面 層 寓 備。吾 山之秘 金 海 梵 聲 一厥 石 於 響 m 太守 爲 先 彫 勝 「霆震 生 寳。 先姑 篆。乃 哲 利 悟。 嘉 所 不 處 沈

三英皇哉 氏。兹 仙臺麗 龍 長夜驚。弗 來儀。文殊 象攸。凑 與 簡 世 鐘 城 赤 夫。 不 常常 阻 關 戾 金。 終 止其高 致 挐 轉 遐 革鐘 新 體 法 邇 就。 石 在 輪。 原 懸 拂 西记 中 : 能流。 Ill 作 去 美。 間 帷 薊 丽 聞 三 | 经到 開 體制 子 聲 。應二霜 祚 明。大 115 悟 啊 無窮 中程。 一共 寺 則 T. 迺 則 隨 四其 鳴。 # 召 萬 處 界。 音響合 壽。 如 銅 圓 浦 吏。 以 世 通 雄 證 牢 朝。金栗 狮 願 吼 所 無 咨. 是 心無 崇。 生。 使

時

資 永 嚴宗 第六歲、 長 更。前 次屠緒 大僧 E 赤 奮者。 道恕書子 彭 則 安 四 非 日 東 門 室 大 寺 别 兼

淮

冶工 田 市 兵衛 重賢

留 隻 履。 綱藤村原

當

寺

開

Ш

月

耕稔

老

和

倘

塔

居肯士山

輪。真 於 舊 座 村 覲 謁 派 爲 師 天 高 公。贵 寬永 半 部 丙子冬。 和 北。太守 沙岭 雲 百 道 壬戌 字丙 濟 居 州 五. 稔 一殿 瑞 三十 和 入.黄 師 年 秋 737 前 尚 宣 為妙 號 戊辰 太 夏。 林 四 于 于 構 莊 月 守 築 政 雲 中 世 宝宝 再 嚴 擇 心 儿 畔 一念:木 州 居 孫 郎 退 心橋 月 亚 第 於 一城 將。 松 和 馬。 一備。泰 于 城 初 島 姓。 東 尚 庵 綱 座 安 宇間 落 高 延 瑞 笳 村 -- 0 尾 蹇 住 寶 為 號 岩。三十 松 和 幼 公。 髮 州 **月**综 經 庚 開 尚。 永安焉。二十 納 而 红 名 欽. 崇道 地一。 申 此 慈孝。 Ili 至一。 戒 能 尋居 春 四 加 僧 111 屋 迎 了 学。 癸 回』與 本 名 太 志 學。咨 未 第二座。而 師 H: 衆 州 田 開 存 春 施 太守 氏 滿 年 年。 州 元 本 們 聞 子 千 出 韵 門。 闢 脇 也 二月 羽 粮 指。 法 安安 波 號萬 面 不 林 資 要。 生 五 養 元 啒 沾 綱 食

墓地

辰時。問答了泊然而坐化。時當,于元祿十四辛已年,也。 越初八酉時。奉。全身、塔。於本山方文後。有、語錄。鎮、本 佛成道日。受、太守命。應、大年第二代請。辛巳正月初 七。開、堂復、指庄田若干頃。以充、雲厨。庚辰春。示 微疾

法身常在。寧有一變遷。 三祗果圓。雙林 七十四年。福惠兼全。名聞。桑國。化行。與天。 院。茲撮,其大要。以前,永久,復為,銘曰。 · 际」跡。忽謝"世緣。樹」立靈塔。孟峯之前 五葉花放。

御藏方屋敷帳寫

小田原村

拜領

一代九百

九拾七文

本

地

九百八拾八文

新田

和尚

九文

仙臺金石志卷之十三終

仙臺金石志卷之十四

目

次

佛 院 下

牧山觀音堂鐘 正樂寺鐘二 毘沙門堂鰐 口 附鐘

根白石永安寺鐘

三居澤碑二

附

榮存法印

登米覺乘寺鐘

篠谷觀音堂鐘

津谷淨勝寺鐘

無澤善應寺鐘

金華山大金寺鐘

根白石藏經壇碑

七北田 八幡寶國寺鐘 大倉 附 阿爾陀 通 支和 洞雲寺碑 堂鐘 倘

文珠堂碑 大法寺戒壇 附 銕塔 伏龍石記 碑

戶 澤不動堂鐘

仙臺金石志卷之十四

仙臺 吉田友好編纂

佛 院下

毘沙門堂鰐口銘

奥州名取 那 北目。金光山 大檀那藤原朝臣宗國 二百六十二年

封內名蹟志卷七 宮城郡

干。時天正九年辛己十一月日。

本願若生信濃守家定。

多門堂

安置于此 主。栗野 在 城 東 大騰太夫護持之像也。天正四年藤原宗 ति 店中。有,寺日。金光山萬 福寺。名取北目館 國者

奥州仙臺毘沙門堂鐘銘並序。

社也。 福寺毘沙門天王宮者。往昔名取郡北目村所。安置 南膽部州大日本國。陸與路宮城郡仙臺城東。 然本州之太守從三位權中納言政宗卿。築城之 金光 山滿

> 王護世 時。 無,貴無,賤。誰不,信,仰之,乎。伏願 萬寶。衆人授。福滿。又名。護世天。故經曰。爾時毘沙門天 惡鬼。不一个一人惱亂。就 也。 使。興祐 會出興,者乎、華鯨功用。經說論文不」達,枚舉、云。鐘 家於泰山之安。比"佛門於劫石之堅。祝 山 四大天王者。帝釋天補 屬之弟子也。非可一醉之。故綴"俚語。以應」需而已。 然梵鐘絕無尚。粤前住持有照發起悲願。不一假 無。怠"緣日之勤行。緇白男女。 云。多聞天住。水精山。 命。匠人」鑄。洪鐘 。而多門。持國。增長。廣目,鎮,,住東 遷. 社壇於斯處。 居..須彌牛腹。 為此銘。施主宥照,強染弟子沙門照長。余寺法 佛言。世尊我亦為。愍。念衆生。云々。然則 一口。献備之寶前。曉聲慕響。 須彌山 以還歲々不」關。祭禮之儀式。月々 而夜叉與"羅刹 **鸦臣。佛法擁護。衆生安樂之天衆** ,中毘沙門天王者。北方之護 者金銀·瑠璃·水精·四質所、成 參詣 依,此天王力。 南 絡器 領二鬼 二缩 西 北。 而薦 日 各伏二 無不、驗。 掌中 . 衆力。新 永期三 市 雨 茶 類 附 成

東與國府。仙臺城邊。兹有一神 洞。多 間 天帝 释。 補 所護

幟。破 新鑄。法器。懸 世安全。貴賤崇敬 ... 塵勞眠 … 實殿 。驚覺九界。利 多能 前。鑄 馬并 爲 。圓 形體。 。益大千、邦家清泰。寺社 住持 一發願。 內容外圓。 不是假 般若標 衆 緣。

時延寶三年歲舍乙卯小春吉辰

長延。慈氏出興。億載萬年。

同 新義派門全春 寺現住 尊濟 ・叟興祐 監 造鈴木 欽誌 孫 左 施主 一衛門尉 當院 前 重 勝 住 持宥照

冶工田中權兵衛尉藤原家次

仙臺荒町

毘沙門天王。往古奥州名取郡北目之城主。粟野大膳

御勝利之被,遊,御立願,候由來。 政宗公葛西大崎。並增岡陣え御發向之砌。御合戰

跡 金光 山滿 分也 福寺 宣株 往 有之。 毘沙門天王之像は。運慶之作。 古名取 郡 北目に致。安置 於其 御 長 舊 八

一天正年中。貞山樣葛西大崎え御發向之砌。右北目之

御立願,侯。 城之被,遊,御一宿。毘沙門之御合戰御勝利之被,遊

慶長年 被遊 被 御堂御建立可被 城 に御 如如 出 假陣 中。真山 一候 御立願。且又別當滿福寺え被「仰下」 由 被遊。 樣增 」遊俠間。抽"丹精|御祈幬可」仕之旨 任 岡陣え御發向之節も。 天正之御吉例に。 毘 亦北目之 一候 沙 門え は。

被被 寬永三年。滿 相 立取移中候 沙門を可、奉、移 右增岡之儀 延申 成 下、由にて。追て寺場御見立被遊迄に。假 候 は。御 然所其節若林御普請に付。 福寺住 0) 手 由。依 持質快 に入候以 |御意|に。只今の所へ假 願 申 後。白石 上候に付。 と相 御堂御 改候 御 建 曲。 建立 屋 に毘 立 相 可

寬永廿年。 馬。渡邊七 立之願指 御 宿。 上候 兵衛。 至..義 並 北 處 片平 目 山様の につ 1-御 T 壹岐 御材木被 尤に被"思召。 御代に右之住 等に 被 下置。 柳 付。 岸帶刀·大 持質快。 若 御 町 林 御 御建 足を 波 西 曲 對

以。當寺迄運送被"成下。其上御職人等被、借下。御建

立被"成下」候。

一寛文七年。至"綱村公の御代。滿福寺住持宥照。毘沙

門堂破損繕の願申上候處。渡邊七兵衛に被,仰付。御

右之通中傳候。扮叉明暦年中。滿福寺無住の節。毘沙門

材

木

科。

並葦茅被

下置。

屋根替飛檐之繕等

仕

候。

の縁起勿論寺の記録等紛失の由。

滿福寺

龍質寺

元

派

九

年

九

月

三日

右は御領內一宗各山の諸寺院の起主。書指上可、申依"

同年同月

綱村公の御意」に龍寳寺質養書出申

候

寫也。

笔育

滿

福

寺

寬

正樂寺鐘銘

代成。傳云。平泉秀衡之四十八箇之內其一也。敢未、知。正樂寺華鯨一口。不,新鑄成,物,而古來有,鐘。不,知,何

其實狀,而已。後 政宗君劉,古銘,改,銘。解日

迷。故三界城。 悟。故十方空。 本來無。東西。

何處有。南北。

陸與州。名取之郡。日邊鄉。北原村。正樂寺常什物。

願主釋明慶

大檀那藤原朝臣政宗

北原山正樂寺巨鐘之銘並引。慶長十三戊申季霜月十五日

宗名山 。坐化 境也 原山 夫佛 八幡 場 鐘聲。感,格人之耳目焉,放稱 前黄門侍郎 也也 E 之叢 家立。制度,導,勤 雖 往 風 一樂寺 靈蹟必先应焉。大日本國陸奥州。偃城之震北。北 雕 光 年在"本邦名取郡日 心。随 開 者 也。近隣院落。自 。政宗尊君之嚴命。所,移,于茲之處 洛陽 प्रीग 鍾 人家連綿。 秀 大谷山 氣 行。以鐘 也 本願寺 東 他 不。染紅 邊 1411 **踏宗。**斯亞層軒。 為 一此地一日 鄉。 朓 第一也。是放天下諸 正流。 中 則 町 塵 宮 二八塚 依 西 原 īfii 于先 樂 專修念 轉 新 间间 Hili 寺小 心心。然 之靈場 則 大 ini 佛 燈 验 刺 非 此 史 道 山圣

已矣。 唯 夫 唨 則 移 朝 武 同六之丞。 護宜、秘、藏。于 所 日 悟 而 云。平 口。然而 。惜 邊鄉 成壞 增之建 秘 已。後 」賜"于當寺第三世明慶法印」之法器 大檀那質君背日 放 在 . 震裂於鳳霜。音韻 + 泉秀衡之四十八筒之內其 有 北 。庫藏。以稱、當寺不二之大寶、焉 方空。本來 此鐘 政宗 原 時 立 政宗 歸。命三寶 隨 巨 村 哉 不一新 鐘。 约 111 「父遺命」告。于鳧氏 千歲之後 十三戊申季霜月十五 正樂寺常什 9 F 君 預緘 君刻。古銘 為 無 能 前 學 選、於 成 念頓發自,非選環 東西 報 每 以 計 物 消 佛 闖 一矣。爱城 此 黄 殞矣 一。何 、古來 此 解 物 思 金岩 坳 改 境 哉。 處 願 脫 可 銘 致之日 有。鐘 有 南市闄 然檀 主釋 真 干 一鼎鐘 に謂 心 且 兩 因 南 辭 為謝 日。以上之考之。 改 不知 明慶 未.復 信 北 日 心也。 和 政 置之也 。特寄"附 有.高 篤 陸 此 觀 口 未 迷 鳴 國 世。 君 大鐘。 爾來物 大檀 與 啓蒙者 何 遺 知 思之宏故 故 呼 州 德 田 代 言 其 旦施 市市 其 氏 名 華 那 成。 日 界 實 且 物 孝 換 取 藤 法 鯨 須 城 狀 所 巨 惟 子 實 傳 名 星 原 郡

> 呼。金湯 予 鈋 以 辭 所 赤操脈 三為 外護,其 河 非之因 書以 功其德。 餡 由。 。鉛 不,可,勝言 則 日 安 復 至 于 馬矣 妓 領 一乎哉 成之日 心 INT: 鳴

鐘

號表 于,顯 全。修 姓 普 君 閻 稱高 湮。雖 外 浮 護 敘 : 我 感感 萬 體 田 丽 趣 刧 日 金 一。用 不。虚 耳 珍 脫 善。必言是 仙 間 心思 温 野。 一考學 捐。今 爲 共 器 敗毀幾 先。北 功其 般 一者。宗嗣 夜眠。維 新 K 德。此 透 取,則。偉鑄 原 年。蓋 **暖** 廣 怯 徹 訓 然。 器世 長 H.E. 小 坤。歷 舌 東 人天和 緣。正易行道。 惯野。 界。 際 · 豈以、言宣。于 告告 風風 市 鄭。 舍 有一一級 悦, 霜 淨 久 別 禮樂 财 遷 候 施 非 रिरि 兼 斷

現 維 念不」、愆。依 住 時 寬 當 保 山 第 木 能 ナレ 願 ti: 集 力。往 沙門 並 默 層 生 茂季春 金 蓮 恶器 --

四

賞

願 丰

果果 犯 順

淨

蓝

謹

銘

釋 尼 妙 應

田 屋六之丞

THE STATE OF 高 H 定 四 郎 好 延

冶工

牡鹿郡牧山觀音堂鐘銘

不,可, 勝記, 矣。撞鐘道者常念之文云, 只願一切衆生。夫造鐘之事跡過現太繁。鳴鐘之利益, 古今惟多。其功德

初夜之鐘。信...務行無常之苦。

後夜之鐘。解"是生滅法之集。

午後之鐘。行,生滅々己之滅。

子時之鐘。證 寂滅為樂之道。

常念之偈曰。

鐘聲起,法界。 銕圍迷暗悉皆聞。

願此

閉塵清淨證。圓通。 一切衆生成。正覺。

字。 場.七處。此山蓋傳,其第 希順一日登。收 之。又塑、延鎮並自壽像置之。 於帝都。旣知 自 九自彫。刻千子大悲·並勝軍地藏勝敵多聞之像。安。置 在菩 時有。異人一移。諸像於他岩阿。 薩者。延曆十七年。將軍田村丸,親誅,高 是延鎮法 山。巡堂禮 師護念之力。東奥州建。立觀 一。以放仰。萬西總鎮守。田 拜。時 村翁 時到, 澆季凶兵。火, 于堂 **他町伊賀守重持得** 語 余日 抑當山 九。献"首 音道 村 唨

豈不"復悅」乎,於此胤持自裁、松杉於山林。 培,花樹於 城邑。正保二年春 致,其身。寬永九春,元清領、湊。 父兄子弟 普代士民等。 性雄偉而仁誠一孝,于父母。友,兄弟。仕,政宗,食,其 憂。國家喪亡。只憂。牧山朽 嘉,其智勇。電,胤持於宮城。因,之得,不,死 井黨。胤持親擊,殺惡太夫。俗謂,之與 弱矣,與"門族 也 輔。仍胤重構。城郭於小應郡湊之津。十八代國家共安泰 笹町彥三郎胤重。為一分,而賜,封戶數簡邑。補,宮內 郎清重 堂年々頹敗。重持嫡孫隼人助 延鎮。則村九二像。現在、空殿左右。爾來依、圀家喪亡。殿 之。再建"寶殿。後來又恐有"凶 商共進。三年秋終、工矣、殿堂復、舊。輪與備足。士 秀吉横。領泉羽葛西大崎。一 一十九代本朝為、戰國。諸侯守,其雄。天正庚寅 。領、與羽之探題一之日。源公賴朝。下, 手檄於同 一共謀催 殘黨。 催 "修造之役。經之營之。 廢。有二子.長元清。 要陷木 胤持。又中興。原夫葛西三 徒。密穿、隧秘 時喪亡。 州 村 伊勢守。丹波。赤 ---胤持 矣。胤 揆。 二在靈像。 士 伊 猶 民 次 持 達 豐臣關 奫 悉喜 II 不敢 政宗 三民富 終軍 唯 沙生

致也。 樂。市 揖,余曰。堂前新鐘未,有,銘詩. 索。只村翁所語 余聞威歎。當下山。 町之赈潤。 事事 循膀 鯨腹 F 古也。 於、時牛渡右馬助。勝股 上。乃鳴,鐘。祝 師 只是胤持公願 染,筆余老衰無力。思 日 力之所 對 馬

願 願 弘誓 騰走魔魅妖怪之靈。 透二 際 洪音傳 蓝萬年。 願 喚醒 一群生煩 惱之眠。

111

鎮

正保三年仲多良辰

雲居 夏希膺

當 山 別當榮存

叢叁竹庵 工 田 主 次 郎 左衛 菛

大檀

越

冶

I

塚 本 E 右 衛門家 次

早 山 彌 左 衛門清

次

時 延 齊 九 年 辛

刻

字

當寺中興始 加 竪者 法印 築存 大和 倘

二月初

犯 蹟聞 老志卷九 牡 鹿郡

牧山 大悲閣

> 在 乃惠心作也。有"駒犬。是又古作也。有"右方不動 峯山長全寺。其像所,得,干海底。秘 開 雖、阻 海門村。石卷河東大山。古杉老樹鬱蓊。有上寺 基也。 其 或日 地。山勢之突兀也。如"鼎足 H 村麻呂建是悲閣 于此地 不許見之。 相 及箟 峙

像

慈

削

佛

號

京花

三居 澤碑

慶安三 一年寅

不 動 像

十月廿八 日

> 石 田 藤左 衛

癘 宮城郡三居 不 子光廣常深質奉。 松浦致榮·高 為·三浦信帖·加藤 間。上有"飛瀑」高四丈餘。不」可 動 加護。福澤長久。維文化二年乙丑六月利為等搏心揖 明 主 . 薦祀。往古來今。靈驗弗達。 碗 澤在 橋 信 歲時 住 信 青葉 遠藤 林 來 佐藤 П 集。 安 傳 祈 信 信 柳 言昔人鐫。不 孝 遠藤俊元 國之祉。施 禁。後 我妻珍 继, 人景之。水 如期。 延菊 高橋直 動 及黎 像于 地 高 質·庄 永 庶。兹 巉岩 橋 早 紀 利 疫

宮城 那 國分根白石邑永安寺鐘

着々。海雖、遙。直 仙臺城之西 嶇。十里雲路絕.囂塵。甘泉迸出。 定、躰聳。雄勢。朝則月映。嵐光朗麗々。夕則雨收 北。和泉嶽之東南。中有二一 接一目下。頃征航 寶樹成, 陸。 隨"指點。村 峯 堆螺排列。 如 故 近 で、黛色 老相 隔 傳。 崎崎 冷 由山

古寺廢跡 也

不味禪 形聲未光。曠然奚佳器用之後。幽靈絕」常。 殷々警,戒人天。頭々拔,濟苦趣。於戲偉哉 矣。兹歲丁未春。法兄葉不聞。施檀鑄,巨 扁,寺日,永安。祝,家延長,也。爾來香火相 大檀越前 為一大。惟聖人則」之矣。豈苟旦哉。是故平 勝攸。命。侍 師 寫 邦 臣 君 "開山始祖"號」山曰"乾惠 剪 藤 開荒榛。創造 原朝臣忠宗公。 字精 遊獵 鐘流 舍。俾。先師 當府之乾隅 于此 等會 乎。古德曰。夫 繼。厨庫浸備 放聖人以。鐘 以懸 地 而深 , 第馬。 無 慈光 軌 心 愛

> 遐敷。與 銘。以標。識 佛圀 音。是中更不」容,於言。只寅昏聿咸 蛇蛇 成就 坤一而永大矣。 之,矣。伏冀洪音流施將,日 衆生,亦不 他矣乎。 小比丘 聿省。 月 不一揆 M 于和于節。淨 無 無似 第。 温

鈋 日

露溥 寬文七丁未稔三月良辰 吼夜漫々。條深省發。廓羣塵殫。 聞 和有,節、能急能短,例,浣雲漢。催,月團 眼。堪清淨觀。幽溪伸 山備乾惠。地 息.彼輪若。除 · 梵摩爰搆。祖道開、瑞、大器成後。應用千般。有. 鎮 此障 自完。資林窮邃。 難。圓 舌。唱,方年歡。甘泉氣 音無欠。國家永 逸夐絕 性 宛 爾。 々。態。同夢宅。 ,灌。遠 耳根界寬。 例。 海 接

比丘 月耕 宗親撰

奉行

治工

平 次 兵衛 真澄

早 山 源 Fi. 郎 國 次

覺乘敎 寺鐘 鈋 並 引

奥州路登米城主。藤原姓 伊達氏式 部宗倫 本

仙毫金石志卷之十四

則加正

節。差別界裡。

無………通

以曷和一今。

如脈玄趣妙

中

也。是 以。寺 武威 浩々焉 其 以 可不有鐘 暮推則破」昏衢 鐘。々其 君 宥」住,此 居 考大慈院殿。前 者。刚 擬 証 掛。諸寺 士。相"攸於 廟 永 放 為"大覺敘寺 一陳 煽 法 山山 考 林 以 山 前。寅 器之權 喜 公之庶 宗器 赋 次 届 此 矣。粤大檀 亦 而 一個 願 城 羽 鐵 之闇。 到"于 為)剣. 夕鳴之 者,默。 THI 寺 林]]] 州 與 -f-附 開 之山 為 院 即慈 也 太守 其 音 此 庸。 E. 山 内 越宗倫 除 其 頭。艸 聞之要也。曉 傳 鼻 外 專 爱 大覺寺 m 平 四 功利豈其 尤渥。 志 ,授廣 祖 安 祈 已矣。既 分。修 in o 皮孝 然。說 創 檀 也。 君。 宮接 右羽 澤 越 一字梵 順恂 季 施 賜。食邑 再 流 福 而 治捨 無 乃使 可 靈之冥 侍 林次 壽增 法器 撞 說 竭 A 淨 法 T 刹。紹 則警。長夜 焉 說 些 寧。賜 財。逐 將義 言 以 延。氏 悉 而 。顯,實 其 洲 福。 也哉 具 歸 此 請 器量 到 山 此 鑄 矣 族 雕 厚 浴 野 仁 開 新 詞 。乃不し 之眠 腴 相 影 一公大 弘、 宗 衲 都 權 嗣 修 鐘 字 地 焚 深 倫 快

下雪霜降 前 」曉天。寸筵破心魔百八。 林 禮樂自一今全。 樓 頭 游暮 整 通 迎 刹 界 明

羽

寛文八 三千。聞 大 年戊申六月 A 無 間 得 恕意 河 間。 珠 心永護 H 法門 利 高萬 年。

檀 山權 越伊 大僧都 達式 嗣 部 法 旅 原宗 [m] 家 閣 Fii 梨 倫 法 成 君 即 澤 滥 快 總 精 左

衛

門和

開

冶

I

H

中

權

兵

衛

金

次

記

115

家。祖 宮城郡 懈。是時 儿 近 臣 下"於是州"乃食"邑於是鄉 原。其 藏 歲。為 世 經 族喬木之故家也 一與"本 塘 父 藏 氏古內 根白 者 經 D. 增 來流 州豪 伊 石村。 重廣 誌 。諱重廣。 達 林君未、承家。本州黃門君嘉、先生 洛 族 光 國 昔者其 於鄉 。今之福 生婦 分氏 初 一先生幼年喪父。鞠 世 人高 宫 稱一平 結 33 遠 子 城 澤 林 婚 加 木氏之 割5 庄 孫 滅。 君 結 。回 國 भाग 相 城 被 後 分 邊 續 分氏之亡 七郎 改 所 根 徵 舊 而 い統 主 宅是其 白 而 住 朝 石 仕焉。夙 於慈 This o 膳。生於 心。 光 村 也 先 自 所 相 母 生 刷 枢 市 居 與 與 姓 吧 東 + 州 藤

共 之法 日。 於齊。子產 惟 息 器。 邊光生有功。 羽 賜以田 後 稱 外 望 烈如彼 政事。家 林 增 法 当治 孫 悦さ人。 先生自 後臨一或之日 號日 重安 為 號 他 酒。其幼 其卑 邑 E 献 生 無、秕政。人無 思 则 數 之臣。於鄭。則專政之任 相 景 元和元年之役。黄門君在 梨 其行 大阪。五 一樹院周 也 白 傳 子。稱 [his 松島 徇 Jail 境之風 戶。慈母 萬治 不。 於冥 羽 長 院 依 聚為 仁 林君素愛。其武幹。义知。其有。重臣之 山寺 表"於家。而自不,知,其 於 臺妙盛 月六日。 肥 是 岩 元年七月十二日。 路。壽七十歲。 三整 梭。改 主膳。既 浦 執 遠 禪 慈 総 羽 事。 加 學。其仁父 光不味 尼 德 如 林 禪 古内氏藏 也 修。舊宅 居 我兵戰,於大阪城外道明寺 賜以二岩沼 君膝下。賜以 尼。 士。 穆 禪 如 先是以 婦 母 郇 蓋 雖 也 居焉。 排 經經 人高 而 結 盖 於 境 與此 數 州大阪。先生為 局 T 足。而 士 羽 善。造次頭 道 三個澤 木氏 木氏 如是子之臣 百戶邑。專 無 部於此之所 林 民 宅邊 絲 相 男子。養 無不失 君 生重 不以 一。 又落飾。 似。 數 辭 有!如 + 郇 mi 世之 沛 直 執 戶。 為 功 姑

經

砌

藏 諸壇 經。相 壁經。 旣 東。於是自手書寫。法華妙典五 也。禪 餘 能 動之功也。雖然非有 也。頃者屬、予請、記 食邑於此。而氏族皆榮 尼 卷。 馬 而 成矣。乃相。攸於新宅之中。樂」墳 至 無量功 則 中。設 封焉 是以 於此 或 尼 宜哉 國元模爲一之記。 刺史白居易為之碑。蘇州 寫 素 德 法法来 經數 信 有 佛名 也哉 其 無可疑者 此事也。予何敢解, 佛。乃以 志 凡干 經 號 以 寫 供 順東 所 願 先 部 一歲 養 先祖 調古內氏雖一 餘。煎 且夫追遠之志。 生 謂除 者也 頃年 求 於碑。予聞中杭 諸 諸佛。圖 **佰德之力。佛菩薩之助** 是誠 大方 其裏患。今得 並 冥福。 以 中以預 部。且 舊宅 重玄 境男女聞 是歲 取 為三子 丈五尺。高 明君之惠。而 旦襲之家。 借二組徒之手。千部 陝隘。遷居於村之 所寫經 寺亦有石 胎厥 延寶 勝絲 州 一安穩 孫 水 出 八年庚 之義。 祈玄祐 者 邢品 到。 一龍」匠 是也。 ini 寺 背納 先 壁法 一。何 今復 或 在 有 生忠 1|1 以 加 石 业 m 七

生藤 篤閑 齊叟謹 誌 月

十二日

法華 干 部 前 丽 之緇 素

百 部 仙 岳 院 部 常 定室

百 部 部 天 耕 祥 和 丰 尚 部 部 永 重 賴 直 室

月

四

十八

温

矣。然後

遇

兵

時

寫

派

塵

者

久

也。

今

些

五 部 水 源 更 部 恒 眞 室

部 部 景長室 妙 盛 禪 尼 部 部 伊 春 藤 康 茂 室 庵

H.

先 生有。子十 六

重 如 室 遠 旌 平 太輔 英 任

山

口

氏

大和 成 H 氏 田 之勝 氏 重 清 室 室 男子早 伊藤 采 世 女 重 門

主 膳 重 安 石 母 田 氏 永 賴 室

早世 茂庭 氏 恒 眞 室

片倉氏景 長 室

早

世

氏常 定 室

奥山

古內

造

酒 施

TI

直 男子 田 早 氏 春 世 康室

> 牡 應 那 金華山大金寺鐘 鈋

傳 恭 當 惟 初 牡 武 應 郡5 將秀衡之椒 金華 山 者。 建 市市 辨天之靈趾。 祠 佛 閣。 規 與東之名 模宏麗、 院宇 副 也 一。相 有

見 察 凾 之間。往 A 有 坊 跡名 是 知 所 傳 不 虚 誕 一焉。中

世 溟 構 八 紘 大 疊. 金 水 寺。為 品 抽抽 別 海 當 際 亦 八 久 十餘 矣。 丈。 其 可 Ш に開 形 者 妙 一音之淨 四 園 跨 刹 滄

與"同 也 交三五 嘆 院: 主 圖。拾、貲鑄"造 每 無 鳴鐘之報 鴻 昨 鐘 夕。 口 越 以以 檀 黎 信鈴木氏榮 不 朽 兼 祈 秀

現 當之福樂 一而已。為"之銘 日

晨 禁 山 香 。岳壽萬· 稱。金華。寺是大金。神天降迹。靈嚴 報」音。 丈。海福千尋。聲々不」竭。 結 使 自 去 般 若照心。 吃王息若。 成功德林。 古今。犍 椎 獄 沐斯 新 卒 就 伏

勝業。普.濟 迷沈

時 元 旅歲 次 T 31: 林 鐘 穀 日

封內名蹟志卷 菲 山 别 當 + 大 金寺 四 現 牡 應 住 那 附古小田 權 大 僧 都 法印 宥 性

黄 中京 社 鮎川濱島 出"于 神名帳

鄉黨曰 後 社 田 人 號。失,舊之地 于此牡鹿 無 』金華山。是乃古之小田郡 知 共 兆 郡。且建。天女堂以下 名 由 一今無 ~者。事 詳.于陸奥山下。 知之者 一。稱"遠島金花山 陸 淫 奥 山 洞。 心。 以廢,古之 何 代併

陸與 山

形五峯 十四町 分曉 此 社 想夫大古已來 間 堂。有_寺號曰。金華山大金寺。自。島汀,至。鮎川江濱, 二十三町 地乃古之小田郡 阴 Tital Tital 换 白 餘。其 々巒六十八區。溪間亦四十八壑。山牛立。天 "佛字"併 至"岩下一六十四 四 。然後代併 + Ш 山 間。 高 F. 郡 峻突兀。高八十丈。島廻三十二里。 里或 十日 町五 須 而其山 變名者 壮鹿 立立。此 間 郡。 自 自 稱 。不,詳,何 而 山號"金花山。 "陸奥山 山 江 祭 "黄 巅 即宇 至 至 金 世代 馬。 前前 海 華 矣。後 岸 表 也 其出 去點川 二十三 + 代 田了 所 除 來 四 HI 東 Ш 市 巴 女 歷 +

是也。然後世合 斯地古之所 調 其 陸 地 奥山。延喜式 乎牡鹿郡。稱"其 所 載之黄 山于金華山。 金山 神 何 社

> 此者 之輩。 佛 具 世 忽之詳 一考。古 像。立,淫祠。永沒 何人俾 如此 所以 考馬 書 。然國 其 學 逞 地 左 ,其術 改號 な。 俗州 證。以 古往 周*其 易 人。惘 反 二名。而 神 主往 誕。 然 市上 古之事 無 々號」焉。皆是浮 失,名 而惡。世 知之憤之者 質于 inri inri 换.售 來今。識 称。 圖 矣。 役 者 安 放 徒 不

龍藏權 神师 明 社 現 所在淫洞佛 宇中

天女堂 晶輪塔

孔雀 明王 池

金 非 山

新 #: 義

縹緲 樹。天 逐強碧 柱 高 今誰 懸 海傍。 日 記 月 安期 光 蛇 遣 加 紫府 東 此 滤 處 干 接 年 猶 人 傳 扶 大樂方。 化 福。 仙 丹 4 长 厨 Fi. 映 色石 金 銀

笹 谷觀 音 鐘

成

、羊。只

堂 大 一。鐘銘一 日本國東 山 道。與州柴田郡 今宿村鄉。無耶關。觀

晋

筵。東 無耶 佛 末 信順是大 法 陀 到"濁 晶 之本誓。薩埵之方便 南 犯 海 音 土 岸 111 建 + 可 遠 堂 西 根得 间 北 定 鎭 A L 社 益 焉。 **元**。則 **碱。** 山 。隨 中當 連 寺名號 機而 整 羽之堺嶽 國 石 太 應 -仙 府。 丈從 物。種 任。 33 笙 密 林 谷 N 鳥 穀 忠宗 之絕巔。 而 悠 開 AHE. 飛 邊 賢。 剧 法

又然 黄泉 通 掛 世 肩。嶮 年 々。老 自在 資 出 寔 金 割 前。 仙 木 造造 員 化 屈 人 自 大 有 備設 澤 募 圍 曲 撞 悲 頂 道道 坂 謂 餘 無二流 加 且 及泥梨 夕。永 4 俗 稲 被 。豈獲 北 濺 鳴 助 休 動 陸 形 力積 劫 小。皆 能 往 奎 如 迷途鳞。宥敞答 是烦 越紧 同 典 還 々。奇 金錢。 結。良 雲埋 惱 道。 暴態 花 眠 一行 緣。 新 搞 時 騰 因聲 命 不 IE 善 客 砭 於於 三不 善哉。 男語 節 跡 骨。 與 。雪 冶 轉 門思 果 1. E 氣 九 沒 我 乘 黎。 界 斷 花 鐘 旅 發 月足 向 直 融 館京 願 人 長

祀 等...高 天

遊八葉

運

高萬

邦

共"豊樂。上下增"安全。

至稿

徹

大

地。

告 正 德 壬歲 辰次 曆夏五 月 + -1 Ei

仙臺 城 東湯 國 111 弯 光 院 現 住 法 FII 宥範 神

> 本願 催 谷 犯 音 别 堂東 國 山 仙 住 4 宥 微

施 者 數 千

喜

羽 親迹 冶 聞 老志 卷之四 华 田 大 兵衛 郡 尉 藤 原

實本

田

關

凰

踰 山 登 大悲閣 伏 前 越 三羊 高 坂。東 脂绿 而 望 登 寸 相旨 甚 盆 坂。 仙 左 不 旁 城 有 起 一层是 太白 雪 Si's 峻 Ill 嶺

有上寺 堂前 不 右 絲 山 邊向 篠 献 察 继 坂 翠。東 E 平此 遂。 仙 東 稍 盃 至 故 卿 溟 矣。 大 及 绝的 Ш 海 鋒 悲閣。古 fi 俗 仙 濱 鏑 稱 11: 島 是過,朴 寺。 四 响 眸 篠 汎 谷 稱 本 声高。 杏 關 H 峭 约 木 Ш **嚛**响 左 坂。西 相 Til. 地。無 田宇 傳 在 峻 起 彩 北 邑及 目 其 弘 行 也 训 1 奇 北 犯 省首 西 絕 横 音 作 111 不 响 是 也 剧 勢高 陵。 可 閣 斯 外。 登 峻 地 諸 勝

言。

有 也 AILE. 也 關 山

鄉 詠 俗 Iffi 謂 之篠 有 也 谷 4IIE 關 担 於 關 東 其 史 說 稱 詳 大 于 關 下。 111 其 者 地 是 也 心 去 在 篠 歌 谷

歐 兵。法 大 山。山 五 里除 外岳。皆鋒鏑岳 F 罗門 和 山下 "截撐鳴 。其二二二前 一風報也 駒 應 角三羊 鋒飾。其三 其六日 腸 神仙 中岳 m 游。 后。 江 た右 外 114 击 大 智

之為。食。時 古稱"關山。往 山陰乃兩關封 III 中有二一 古有"山 引出 也。 鋒飾 雙鳥。 鬼 一代山 神 人或 们 間 兩大嶽。 年跨三子羽 品 不知山 一行客之來往 鬼之害。 浦 州 m

過 關 山 則 Fili Li 謀 111 鬼有 無 或呼 有 心。 或 呵: **訓** 也。

也 故 ilik 剔 有 或 E 無 RA! 111 人避。其 视 音化:前鳥。 鬼。脫.其害 鳴而告之。令人覺 一也。自是日 有也 彼 無

有無。以脫其難。後人建二一閣於兩地。稱,有也無也觀

音。

神仙嶽

在"大悲閣西北。起,衆山,而鍾秀之神蹤也。云云。

薩經原

至悲閣以西巴二丁餘。立"石地藏」而曰"薩埵原"云云。

和漢三才圖會卷六十五 出務

牟夜牟夜關良材集御抄。云。牟也年也乃關在"陸

與出羽之交。但關在。出羽方。草木森々然行人不一菜。

則難:往來

武士の出さ入さにしほりするをちくしとりのむや

人の關

学院 云。点 捉人為 俗 謂 海 有 鳴 山 告 业 近 庭 無 有 也 有 無 關 此 人因 者 關 宗未一審。文 訛 训 业 聲 出 京 奈 年 夜 報 歌 為 此 往 Ill 來 鬼 說 Hill 核 愈 安 不 HI, 時 或 出

夫木

がすらん 宿世山なといなむやのせきをしも隔る人にねをな

津谷淨勝寺鐘

宗。而 夫獎 宗信之儒 推 利 乎。東 偉 战。 桃 E 之爲 海 则 凡天下梵刹 人。所 本吉郡。津谷邑。安養 澤 制 111 - 拟建 差 Til: 光 以 教寺。 。無大無小 也。蒸漏 邓三 三胂号 沙伊 樂 人平泉城 利 遊 山 不 例知 淵 可 淨將 儿 明 ili 业也 主。 加罪 划战 日 寺 IL 主。 佐 陽 者。 功 旅 作 者。 神 始 秀 脉 哉 洪 衡 庄 天 江 之 司 台 牧

翁 妹c 族。無 道。 云。事 豊自」非 島。賴 跡 疾。以 天 資...兄弟 養光院 焉之志。 飯自剄。儒 所 器震資。 地。儒 如 T. m 所 鐘 日 跡 尚 惘 夜 寫 玉 湯湯 念佛 之冥 驰 乃 云。其 存 人 淑 次 無無 然 然不 兼 菲 自 構 人不」忍。其 其 程 沒。然宗 德之大過 口 昌運 終 流 福 悟 碑。蘋 舘 到.于 一場心 不。虚可 慈 忠信之母 本 一也。共鴻 生死 安 年前為"颶風所"吹倒。 母 咒之餘。相」攸於 尼。雖、然以,次信兄弟强 館 春 備 堵 本 信 露 者 、人。奚以有」若 質 無 也。 焉 不 郡。 知矣。凡有、形者 訣 周 嘆。廿棠歌。洋 建 元常。編 殆有。年。今傳曰 有"忠信。不"敢 儀 宗 基壯麗。輪兮與兮 稿 豊不,亦盛 女fi 相。巷不 也。越文治五年秋丸 人亦 以身殉。家臣 寓 年。 嚮三實。剃 息馬 津谷邨。創營本 於 歌馬。 是解 二月 々焉。な: 乎。 籠村 此 鉅鐘忽轉。 必有 遺 十八 支心敵、徐々把 信 今雖 旣 懷 死。未 愛 翼衛 髮染 像設供 夫 m 鄉 抱。 製也。 溢 耳 日 館。 一乎哉 尼公 民 綿 陰 心 嘗不 衣 滚 以 是其 ılı 貿 中 具。 寺。 號 入.小 。尼 出 染 有 造 其 鄉 城 升i. 一般 微微 間間 日 公 愛 以 遺 法 貴 爲 民 終 白

歌。泉 雖一百 取 小 得 衛 馬。 碎 住 年 開 逐寫 有、败 古今比々不為不多。蓋是龍 泉川一而沈沒。今日 皆不, 闕然,矣。 任。是故倍 泉。 方 中 "其不」足者。大公自加"衣資。廼命"是氏」鑄"一鉅鐘。以 持痴 邨 石 天 爱 之祖。葢 『禪林。乃易 里。 一廢且 而已。厥後雖,再 復 金三十星。 而 幹緣於遐邨邇 日 有 元不意失,火殿宇梵 雖 爲 臻.于此 馬 學。以 裕 其 松島 風 籠 也。 為此 徒 雨 三目 隨 門 今名。 乎。甚 于统 其 不敢 郵 平平 乃歸 瓜刀刀 派。 主 法 鐘 之鐘淵 法 鄉 不乏 者。听以 未 降 師 懈 順 座 興 當 寫 一者非一。 備 雕 一殿字。 以 共 态。 元龍淵 可惟 倒新 波知 煽 具。 它 一者是也。 其 用 時 感 理 7-|陶 __ 以 洎 係 神神 心 之間 主。 上。咸戮力得 大公白。一 Bill 許 矣 鑄之費。 = 要 共 日 世 供 時 年來。 恩 世 然後寺基或廢 源 須之 以 然也。 厨梵 菲 "津谷。日 勤 為 遠 余謂 自 皆以 而 一智門祚 馬 裔 未 發 具或 大 m 鐘之沈 累 有 元 是:鉳 願 嘗不 公 月 營繕 然 然乎。將亦 اآا 唯 派 岩干 資器。 H THE 不 積 败。 存 改 田 Bili 嬰懷 年 斧 水 别 或 為 元 為 兄弟 自 元 絡 無 者。 已 和

。繫之以

銷

通 假 信 自 看壤之際。 吹 劉 融 個 。寂 一透。天 紹 範 隆 im 非版。 宮。朝 萬 音 E 不 空 金堂 书 同 Jill. 杂 而 永 非 其 學 奫 功 巡 於 空 利 教 一台 無 犍 爱 分 推。 有 第 啓 以 いたべつ 庶 扶 勝 德 幾近日 博 地 迈 風 音 稱 聞 雨 洪 願 12 旦是 安養 性 下 共 试 il il 冬 徹 吾 聞 三檀 道 目 性 地

延守 改 兀 四 月 佛 生 日 現 松 島 ar IJ 石 暗 证战 馬

奥羽觀廣聞老志卷之九 本吉郡

羪

光

寺

殿

E

洲

日日

述

尼

大

如

鰾

應

座

元

佐藤氏古墳

文治二年九月廿 1E 也 家牌子 il: 龍 消 村。 谷 有 銷 149 與 -17: 有 村 性 號 古坟。 深 院 安 老 勝 11: 卷 左次 信 湯 [1] **甘。七十七**萨。 冰 淨 信 之 勝 寺。 地 光 明 是以 佐 院 清 游 H 光 多 莊 训 寺 院 11] 妻 忠 院。 祥 信 所 院 有 立 次

信文治元年二月十七,忠信。藏,釋迦像。堪慶作也。

燕澤善應寺鐘

造 明 以資 信 等。 T 化 於 被 大 原 酬 甘 (第 萬 師 其 信 ∃I: 州 小公 像 不 北 mi 必 春。 大 插 路 間 薦 氏 棠 PIT. 福 者 成 相 徙 有 草 膽 坡 不 经验 UI 于 m 其 Th 阿 111 澤 聖德 命 喇 時 相 省 W. 龍 歌 共 谷 郡 塘 中 殿 平 77 1 余 捐 于 然 不記 殺 黑 其 神 将 惠 兒 舉 銘 以 境 于 寺 石 -17 綱 有 日 加: 金品 E 胸 朔 遺 既 縣 此 村 殁近 其 學 中 開 割 有 fil: 港 公 幾 和思 遮 好 矣 游 -J-膏 矣 加 肚子 矣。納 果 那 自 FI 宫 功 聞 有 膄 成 今只 命 年 在 城 徂 德 圳 Til. 松 111 大 突 未 期 亦 甜 岩 [1] 像 ---13 H 追 111 引使 115 近 7 長谷寺 m 野 除 1,1 余 俱 111 無 7 清 高 頃 福 能 遗 熟 相 常 之 111 時 任 小山 封 男 迎 石 多 实 Iffi 中 H 乎。 法 問 さっ 义 持约 UI illi] 資 IIII 1: 天 僅 THE STATE OF 台宗 111 元 林 大 竹 抢 赤 道 有二 物 少月 香阜 士天 派 四 價 1111 尚 和信 别 像 因 原 -1-慈 H 金草 號 打 館 N 宇 是 F 年 -J-香

無 考之則 鳴。云云。元祿辛巳。 二月八<u>賞</u> 再

任 HE. 園 派 山 主盟 大 特 樹 下通玄達銘

大 雄 山 善應 禪 寺大鐘 革鑄之誌

庾 州 路 宮城 郡 派澤 邑。大 雄川 善 應禪 寺者。吾祖 大照智

光 元 師 通玄達 和 尚 剏 草。云云

今年 明 現 住 和 陽 第 德 四 T 益 州宗 亥首夏吉祥 更 謹 H 革 鑄 此 大鐘。

願

主

當

Ш

世

兴

田

性

精

恪

110

城 那 國 分大倉 村村 Sal 朔 陀堂 鐘 銘

寺呼 藏 吉也。治 廷 西 A 日 家.于 局 踞 事 源 義經 三西 仙 期 兵 方 城 衛 此 承之亂 清 母 一、嚴掛,賴 矣。如今定行 泰。 常 十里外 足釜。銀 般 西 後。平 方極 手 製 陀 有一 族 緘 正 樂之稱 一世。 决 日 像 亦 波。 村 遠 建 ----存"於今一而感" 裔也。近更 氏於早 順 質 寺 名。大倉。有 而 一也。因 者。 不 定吉明誓保 巡 平 也 問 家 矣 1、寺山 其 武 於古 然 將 由 身塗 m 统 秤 則 坂。交名 也。 奕 後 極 逃 係 守 K 如 聯 源 遠 定

> 齊 11 其誠之感。 驗。於是誓,佛天 新國六右衛門重 護情.系譜。 天 正 亂 於冥 止。而 m 也 定行曾祖 福 不。以自墜,其志。有,子嬰病。 心以一子得一座韓一姓 子 。本會津蓋名之幕下。 病 如 某。同潜。迹於大倉村 。洗。途 錯 鐘 強 m 口。 新 篇 矣。 國上總之 也、二家 且 際高 報 会に円 洪 無 德 老 後

作 銘 日

活火 談 誰 空、 為。聲 塵相 與物 證 中。鐘體 為 則。隨緣度 獨 路。 妙 生。 音 通通通 晚 月 由 應風。 來非

晨鄉 呼 非 。騰 古輝今。 道 Stat 2 な。

享保

七

闪

申

初

冬初

七

金

剛

が

Ш

主

森

杜

多萬

樹

題

Fi 则 國 州 们 宮 基 城 住 君!5 國 分 大 倉村 極 新 樂 國 Ill 六 右 114 方 衛 PH 現 T 住 信 福 M 立代

同 所 施 冶 主 工 高 早 坂 H 定 源 JU 兵 郎 衛 慈 定 延 行

封 內 陀 堂 名蹟志卷 七 宮城 和写

强

筑 隔 後 河 流 貞吉所 有 寺 持之像 號 極 也 樂 Ш 滅 西 茶 方寺。 日·茶竈等 相 傳平 重盛 家臣。

重與"洞雲寺,碑

中間 岛 之最 不老 東與仙 水 姉 以 請 之家。定慧乃見 住 僧定慧之所 云。慶雲中。定慧適 者 施 合 此 所 年 廣平 成 高 則 111 地 。年常 領 項。而 建 於夫婦 藏 Ш 之地 立]1] 同 谷某 矣 如二十歲 城 開 諸 一横 攬 郡 夫 數 郡 一。夫 堂及浮圖 也 那 ill 温 白 III --日"大菅谷。 國 。蓋傳 四方。占。所 石 下 妨 谷 游 匮 頃 分 不 幽邃 山中巖窟之間。定慧受此地。上 某谿間數十里之地。施,之定慧。夫 化 七北 平之中分 国 許。與人每 背 焉 平 寺。以 之以九十 清潔。而 當在背古之世。有"夫婦 東 施 旧邑。龍門山 婦日 之。 與 任于兹 宣精舍 者。宜經,始精 到此 語。 意 . 佐賀野。二人容貌 固 九 謂 詩。 動 墨。 地。 九 此 地一。 及 洞 夫 地 **雲禪寺。始高** 十九群峯。與 五百 而 則寄 則翠巒欝 流 宜 九 不一得 建 舍 + 年 宿 焚 11 九 異 前 夫婦 発う 山 上。 刹。 な。 人。 事 共 比

市上 巖沼 我 天 稱日 蓮 九十九谿 大湖 壶 侶 矣。所"以然」者。 美子之情。二人交書相通凡數矣。然而 通寺。 而見 竹阿 艶矣。時圓 飛。定慧所 而 食」之。以」是里民絕無,近"湖 香山 長之際。近邑有富 準 死。化 龍。 手目嚴 祭 一。安如 驛 水。二毒龍 大菅谷保。佐 事 此 一因 第三祖 िंशि 時 寫 分流 也。普 起 大龍 ill: 山 其 音 中 夜 竹竹 草。殿堂浮 平 明峯 潜 震 THE THE 普美 美子 水 宿 駒 像 通 居 風 賀 前 明 其形 和 im 幾 焉。人或有,至" 暴 色揚婉。而意欲通之竹阿 人勘 神神 妬 子憚,家 野之寺。至一今千 尚 社 稱 雨 不成 游 圖之地。三日 竹 勢宛然。如 明神 圓 mi 深 新太 [11] 通寺。 見祭 方之次。至東 邊 者。亦榮三子色。普美子 展震雷。 人勘 亦 其二 時 者。其妻曰"普美子。 者。幾 溺 TI. 有 情。 以 新 湖 運 死 心他 祭 太。 異 三夜之 有數 五 邊 Ш 平 投 並 引 逐 將 人 FI 崩 湿 一 身 竹 不 於 华。 県 兜 年 年 俱 11/2 水 於 Bij 能 是 則 居。 矣 矣。肝應中 H 宿 間 池 郡 TILE 亦 時 一龍 成 训 水 Ting. 忠 亦 原 人民 名取 時 木 ifii 之 挑 iiii Ш 寫 欲) 後 提僧 老 出 倒 洲 當 日 情 = 誓 成 圓 The Thirt 郡 石 而 叉 IIII

龍。人 人忽馬 深 諾 府 濟 間 賀 间间 宿 寺古跡。 无. + 法 死 日 + 里。住 也。流 者 老 野之寺。山 111 怪 竹 11 E 加奶 師 駒 可 拜 大 此 然 若 旅 日 部 不見。黎 市市 請 至食」之。以」故 氏 則 湖 德 城 言。日 约. 宮 問 議 社 岩 有 家 方 我 那 者 師 日 城 有 功 之。日 溢 下 题 欲 有 逐 叉 汝 從 郡 亦 示 德 祭 有 分 問 JII 建 骅 居 國 欲 阴 是 之姓 法 七 則 事 佐 三數 廬。 分 间自 E 我 濟 北 法 要。 im 師 北 老 店 ili F 藤 數 欲 名 喧 训 質 來。今 田邑 未 人 人不 filli 日 氏某者。大 名 前 里。 城 何 尋 间的 者 至心 廣 知 示 坂 殿 部5 A 敦 以 來 E 中度 其 Ill 有 日 中。 日 所 而 之以 一宿。 m 聽 "老人之言 欲 名跡 将 近 間 伽 群 佐 住 重 濟 有 法 有 湖 非 歸 德住 in. 牛 則 矣。 迎 藤 處 歌 於是 汝 售 邊。 大 大管谷 負 名 村 氏 何 嚴 則 E, 75, 有二一 為 基。日 湖 m 311 里。 某 在 經 是則 無窮 収 方從 告之。 宿之。言記。 我 於 要文 相 答 Jil 湖 鄙 保 酮 人濟 i 大菅谷·佐 书 俱 導之不。日 是北 中 E 展 大营谷 時 佐 意 至"村 證 -E 去一六 老 有 佐 人 門 仲 私 說 川 二二毒 一世。 人 藤氏 六七 野 安 春 怪 保 里。 老 副 者 之 前 七 然 佛 眞 初

之言。 整 乎 更 扶 寺 老 中 兢 写 者 白 大 H П 日 佐 年 德 人復來 2 來覆 古 者 者 年 七 有 賀 我 Ill 湖 師 秘 廿 蹔住 廢 野 間 白 松 也。師 號 + 水 文珠 德。二 DJ. 之寺 基。 蓝 湖。二 狐 高 月 倒枝 事 消 而 水 于 謁 法 也。 以 聲 以 門 落 復古 堂之榜。 味 龍 狀 古跡 此。 住 師 一种 日。從 住 民 毒龍 Im Mi 不 限 訴 前 Im F 顯 人 何之 此 北 自 也 可 之國 頓 寺 以 再. 數 從 古 然 山 此 盛 佐 構 備 脫 目 一萬之 容 拜 水 枝 地。 必有 + 藤氏 胤 以 1/11/1 我 苦 E 洞 易 主 水 投 中 公 有 。大 些 域。 生。 伏 等 尋 國 花 你 中 湖 餘 神 召 形色 111 願 建 分 [11] 矣 疏 師 寒 以 法 德 年。 5 後 護 騰 永 间间 刑 普 水 思 見 實 立 饵 影 ·携 11: 败。 鎮 美 見 向 部 則 其 如 居 難 THE STATE OF 殿 Mi 湖 南 者 大 條 T-が続 Ill 之 杖 我 始 JIT' 兆 馬 於 郸 數里 水。 之故 於 輔 忽 獨 不 加L 亦 訓 如 賜 是 盛 稱 風 竹 -即 通 行 也 去 放 有 印 叉 師 胤 起 至 駒 沙沙 矣 华 居 計 諮 公公 持 大 從 波 所 首 THI 松下。 2 訓測 以 月 於 大 珠 德 又 浦 前。 佐 Ill 願 徐。 一。 是 興 船 W. 遽 古 趾 且 之 雪 藤 がない 質 高声 堂。 约 數 彼 雲 七 约 數 手 相 氏 地

人之地 與。而 乃建 是則 FIII) 滝 "大悲化緣 肝芋 師 還 道 悲 Élli 中 欲 待 iiiii 應 狐 亦 泣 中 坐 風 慌 所 持 部 加 TE 至 何 狸 堂於巖窟中。 化 滬 E 永之末。 捧 削 北 安 H 游 4 II.F 悔 所 洞 益 菲 問 中 之嚴窟之中。 本 其 雲寺 李 乎, THE 居 唐 也 日 安順 數 龍 供 和 師 後 孙 红 窺 不。人尊。崇之。 不、疑矣。置,之師 功 東 遠江 尙 也 汝 日 14 mi 狼 化 跪 門 等 在 脫 其 通 至。暮 安...聖像。 畏 所 而 何 漸 心 命省 梅 窟 寺 師 有 勝 學。 明 人 N 國 77[] 削。 像 中 今幸遇 躅 生之身。 衰 陽 峯 答 歸。 和 世 坐 徘 男一 益 無 廢 尚 灛 餘。 日 得 去 徊 我 居 懺 師 今 處 mi 非 甚 大 無 女。 來無語 答 僅 前一。 伹 法 恐 悪 業 若 不 終 傷 人。 所 言宿 空 徳 親蒙 威 數 力 白孤 業 為 不 形容 老 其 當 廢 年。 深 休 一懺 深 告逢 因 IM 此 人亦 無 就 堂。 緣 重 去 足。 甚 悔 而 山 門 力業緣。 别 達 也 實 於是二人作。禮 际 别 和 頗 猶 廢 矣。公寄 然 五 請 無解 中 底 尚 復 不 附一六十 再 稱 院 决 戒 國國 不 有.回 納 數 二人居」之。為 血 爲 能能 列 主 志 共億 之東 頓 三龍 脈。 言 游 之於 脫 興 國 ...人補 附著 藤 石之 分修 空即 復 此 蛇 祿之災 矣。 與 此 即 之 乃腹 士 洞門 干谿 雄 外 Ill 之 地一。 理 得 地 而 門 名天 惡業 哀 m 亮 况 一殿 也 = 乳 出 厺 心。 左 山 其 Ili

往昔

為

湖

水

H

不歸

涕

源

命

朝

水

放

不

能能

及

見

亦

悲

街

旦

m

発

則

ग्रा

此

往

彼

Thi

後

傍有:

石

窟

見不

傷

所

荒

故

趣

東

窮谷

無

付屬

法

席

復

慈誨

亦是為

一龍

沒

制

由

日

復不見

師

祠之鎮守

師

原正宗公。 生天道 命。各 盛 殿 堂蓝 。頃 心道 右 世之道場。後 在 其 專 勝 林 空 而 学 行 再 共 間 何 地 地 田 一徒 莎。 院輪 公。 庭 白 德 爲 高 建 處。 幾 持 景 龍 H 唯 衆或 難遊 神 近 派 而 國 二牙 + 510 殿 月 THE THE 住。 有 男。 道 光紫 君 來 二三里 洲 堂 爐 愿 祖 數 泉 愈 A 當 稲 雖 夫 置 復 民 É illi 龍 來 遂 伊 排 此 流 興 家 三谿 鐘裝學 然 明 法 再 寬文三年 。献 授 名 達 石 傾 許。 一麼 應文祿之際。 筵 院 拜 數 毁 以是數 ill 治 左 则. 山 師 於 m Fi 又造 中 部 III 佛 殿 如 去 IIII 13 年 是乎為 址 於 妙 將 闸 加 故 無 絕 行是轮 清 足 立 是 國 和 + 自 弘 T. 紀 安 矣 住 神 村 時 僧 主 二十 成 尚 傳 心心 女。 化 111 伊 器 情 化 落 師 法 必 颓 mi

悅 故勸 而 百三十錢 多 衣。詠 請 化 賜 復 歎和 學國 训 所 即。即 舊跡。公許。諾之。心大隨喜。 間 歌 人民。伽藍復、古。其功幾厭,二師。公益怡 九十九之谿山。別置,寺田、 以 五 首 。華藏 吉村 公。為 海額 字。田 + 興 每 開基。和 成 命。途。其素。以 及 租 產 九 尚 + 條 自 將 僧 爲 T 伽 中 淡 ナレ

筆.其 德久氏。 續。且 興獨 所 詩 住 大概。以爲 余不,能,自逭,且咸,其 以『重 。母 第 伊東氏 興 世。寬保壬戌 』洞雲寺」碑文』所 之碑 文。怪菩譚 夏上。本 有"大"勤勞於洞雲精舍。逐 行寧。 微解。 الم 請 誕肥前 重以 余如 徒 法 佐賀。 魒 伽 源 藍 父 图 相

法於高 都 麻布賢宗。 傳二十祖柏 尋應 幼 宗 投 寂 左 同 中 和 ·將吉村 國法 尚 室。 H 初 山石 公之重 承 鄉 鼎 國之 請 和 倘 住 命。 前 仙 染 住 嗣 T

銘曰

王人也

里 廢。大勞! 一爲、隣。二師舊業。能荷 ,其薪。 山 維 爾神 時之與人。日々 。自、堂徂 室。以放 以熙。 如...父母 為 名 新。 聲 出 百世 子。忘、主忘 塵。 隨 发興 踵。 其 千

> 三轉法 賓。 匪」解。氣 邦 君崇慕。重,於千金。保任 輪 于温恂。 。震々爚 唯實之賴。絕 々。穆々彬々。 疏 有力。其道不、貧 猗 興 與 偉與 親。 同 。緊法門珍 志 推一穀。 慷 能

延享改元歲次甲子仲夏端午日

加 賀 國 東 香 Ш 大 乘 護 圆 THE THE 寺 嗣 祖 比 丘

趾慈麟撰

本

邦

龍

門山

洞

雲禪

寺

第四代再中與獨住

傳法第一世寧牷沓篆並書

延享第四龍集丁卯林鐘廿八日

施

主

阿

部左七

郎

旅

原

安

次

投

資

建

馬

石工仙臺住與右衛門質從

洞雲寺在"七北 宮城郡

也 其 。往 地 。古杉喬松。客 也客回 時 門 有 <u>_</u>° 僧 路 鄉 轉。幽 房二十四 稱 稀苔深。惟聞 山山 遂寂 寺。後 宇 寞。密林聳,寺門。 其 小 松帝 後荒 』鳥聲山靜。 廢 御 字。 今 所 釋 溪音響長 細逕 存 祥 縋 山 九 所 副 開

<u></u> 整 龍門山洞雲寺、此度再興のゝち。菊月末の六日。 にそのか 尚に饗せられて行侍りけるに。 みしにかはりてとりつくろはれ まること

左近中將吉村

Vi

れは

世に 道そかし ふり し跡を尋 ねての りの門ひょくをしへの

る としへぬ お (0) るあとゝも見えす山をきり岩はたゝめ

のころろふかさを。 お もふそよすみなす寺も世はなれてこもる岩屋

長月廿六日。 染 は 5 ひ また盛 て。さまくしもてなされけるに。 も興 あ ならさるに。所々の梢ともの千入 h 洞雲寺にてうへの山に茶店しつ 山の 紅葉

3

仙臺金石志卷之十四

々の 染あへぬ木々は青葉の露しくれいまいく日あ つゆしくれ山の紅葉はなかはにもまた 初しほ 染あ りて ぬ木

千入をやはみむ。

宮城郡八幡邑寶國寺鐘

大凡霄壤之間百爾者。有 意。不。遑。寺務。又無 實有。音聞。音聞之功德。自、古巨鐘繇之。雖、發 所,謂有,名有,實而顯者也 名聞。天下。是以雖,邊境,也。往々聞,其名,來者夥焉。是 爲。寺號。予尸」之年尚矣。盖兹山顯。于歌家者流之書。其 領。日,末松山。古松鬱葱。有。寺以,末松 而顯者實難矣。越日東奧州仙臺之東。八幡邑。有..一小 名而無質。又雖 一亦 得 銅銕之助治。今茲寶曆五 ...其隱者。有.實而 價價 可 . 顯者。有 一一一 。然則有。名乃遠聞。遠聞之本 ...危氏。是放音叩 隱 無名。荷 年四月吉。 者。 為。山 雖 有質有名 其顯者 號。寶國 圖 当造 道 命 俗

第 瑞。千門万戶 處 師 m 一。館 々圓 成。乃築之。 北金驅 火難震災之患。 通門 飛廉 開 悉潤 簡 於 毕 增悲之益 々般若 泉陰備。 則 聲 佛陀 族 招 智 退過。 祀 現 前 靈洪 配 鱗半甲。 內魔外魔速 於鑪鞴。 人天等 雜護 降 聞 衡 歸 風 消 眞 शिस 旋 調 家 化之方 明 家 雨 發 妥 順之 國 地。 頃 安

噫偉矣。

其。

功

其德

。豈能

可竭

言

哉

鈋日

夕。響 功利 同 罪 娑婆教體。 忽 泰 學 神 備宣 加 徹 撞 黄泉。 業 旃 。音聞 故叩道俗 長懈。植門 群 殷其 魔 返返 為先 剛 不偏 聞 而 A ,普莫幹緣。巨鐘一 祖 驚 。抅留音石 性 。霜華之曉 域 倾 。聞 共 性 保 頓 万 諸平。歡 規模遠 圓 聲透。碧天。 月色之 年 豝 音 口。儲焉饞焉 喜向 傳。誌公神 入理。 削 悉 尚 力 民

資曆 Ħ. 乙亥年四 松山寶國 月穀 禪寺 現 日 住 節 Ш 楚石銘之

鳧工 仙臺北 目 町半 田 太兵衛實次

末松山 觀 迹聞老志卷六 宮城 郡 E

> 未詳 境 田 嶺上之三峽 八幡 三峯而嶺上三松秀出 末三松之說。或曰以 遠望入"波濤 上有...青松數 之江濱 得。名于此地 村中有一寺。 中松之地 悉來,于山 白波浩 十株 一處。笠神花淵。 。風土記日 者可、觀 日 。是往普舊 末松山 々。以 "岩切為"本松。以"八 頭 自 矣。 世 。島之地市川之道,見,之。 寫 ,末松山在,八幡之南 · 隣障寺。 々林有 能 古 地。而 杏 大六天、杏 人 因 電記 所 法 去。海濱 師 副 歌枕、 遠 E 波 部 諮 已十 有 ZI 爲 高 Ш 上之住 水 末 Ir. 餘 训 111 中 松。 正 丘 則 山 浦

島 末名非。别 之於 之地 地 不可 名 所。乃 亦亦 胰 考.于此 就 按今據 此 则 地。 知 而 三松秀 自自 當一分。三株之名 來之久 出 之說 也 則 本 市川 中。

HIL

風

浦今冬 カコ < 降 4 る雪 12 しら浪 0) 末の 松山 こす かい

とそ見 3

御 歌 所 御 歌

同大哥所御歌 君を置てあ うこ L الله を我 8 72 は。 す 多 U) 松 Ill 浪も

役

二嶺八兵衛語

ノ門内

ニステ、

敵

ヲ撃

テ

其首

7

持來

こえな

和漢三 才圖 會卷六十五與州

相傳告夫婦契曰。如」有』浪越 北山。二中可、離矣。然 末 松山 松島之次在"海邊"。 又有"本松山•中松山。

遠望之。恰似,海波越,過松山

元

輔

契きなかたみに袖をしほりつう。 末の松山波こ

宫 城 那 國分莊荒卷邑文珠堂碑

文珠堂

十四甲申載六月吉旦 智嚴代

十月朔 其弟 南齊。 伊達舊臣傳記 甚 日 次 加 郎 修 摩不以 羽 理 州 中。大條薩摩藤原實賴傳。 重均 最上援兵ノ條保土原左 上三人創 兩圓 居 -7 深 於テ。櫻田 IV 云云 主膳 近行 慶長五年庚子 一、微八兵衛 藤入 道江

> 中ノ九二ノ九マテ攻破リ。 引籠ル云云。 テ 。落城 時 7 移 ス 7 3 + 由 ヲ言 夜ニ及テ敵兵悉 上ス。 旣 = シ 心ク本丸 ラ 南 1 儿

奥州宮城 郡鷲巢山 文珠堂緣 起 記

之所 知彼 之與。悲夫。上自 祿三年壬辰之夏。上坊給招欲、擊,其不意。別當坊。不,敢 當坊。義胤依"上坊之請。以"伏見八郎父子、爲"之拨。文 之語。合作別當坊途略是語。罪。絲是義胤將」使《上坊殺 先達。久住 幽峽盤礴。葛岡 距 相爭。素與"別當坊」有「卻。迺至 斷長秀之所 上坊能容。媚於相馬長門守義胤。頗得。其意。每.巧 "仙臺城之北。三拘盧 融會。 調 速速 』陸與相馬中村。又有,一先達一名,上坊。 而文珠堂在 築也。長秀父若宮別 赴 青葉諸 並 。忠臣義士。至 招待。上 山 舍有。山。 焉 吃立 乃往 坊 则: 炊婦與僕。莫 乎 婦姑勃磎分河飲 日 八郎 當坊長 政宗卿 南 意义 北。 父子。 殺 光。 聯 山。偃蹇穹隆。 家臣。 旗 不惡 世 分彩 為 客 一泛潤 私第 雨虎 修驗 八兵 闸 秀

仙臺金石志卷之十四

同下牛

坂

内記等

傳。慶長五

车

庚子七月廿

四 日

白石

草 率"般若 之一」也。二子私欲。隨入、峯。以報 相 戍 我 達 故 師 下 寢 之志。 甚 之態 也 禽 從 居 七 鞅 。是欲,以,上坊 不如奔 不,能,自行。令,同 月下 者 露 無報 郎 鞅累 是是 夫 枕 寤 凡八千 宿 定 功大 考 直 于 侵 寐 別當坊 浣。平護 一次 日。相 死 乎。 奠忘 躍 握 他 他那 年十二。相 斯,其 不 光院等十餘 五 水 则 遁 慶長 共誓,神 有二子 百 抱 腹 成 不完 逃 二共 院 。全身裝時。以雪文之恥。 〈右臂。 人。其渠首者三百 目 入一大峯。 關於其 水 道 元 同 秀語 天 高 焦 行山 年丙 勝 州宁 下 談 祗」曰。神若有,知。 一兄八大院佐藤長秀。年十七弟 法 天 上坊以上左手 人。過 一我 E 胸 次 親 伏代」之。是故二子事 申之夏。 多郡駒峯邑。二子常懷,復職 叫 。我等若留 等若不 半 目 E "無果 地 應認 膽 父之仇 父仇。九 。於邑悲哀 一時也 重繭 七 復 Ш 餘 入上峯。 年 欲拔 此 人、上坊 下。秀大呼 不。與 兼行。草 。今年 月六日。 于 地 命。得 弘 俱滅 一一一 四 則 東 共 何 漂 亦 1 來 當 = 戴 HI 與。望 可。父 血燃 復 在 役 坊 無為 =必 赴 西 E 年戊 天。 目 其 有 斷 氏 泊 京 功 泉 並

政宗卿 定次早 有侧 俸 壯 外 破 為 將 衛。其以. 峯名. 氏 達 寬 亡逐,北 其左臂。 如 猶 膝。秀怒截"般 郭。峯 若干。 武丘。 軍司馬文王營 政 恐 一大 士 棚 秀所二言也。先是秀出 一努力 宗宗 山 義 攻 M. 圍 死 卿 急。屋 之心。 中三 胤 。獲一首 。帝以武克 次自一榜以一手戟 家絕。 壓下。 城城 白 兵 有 卿 陷 衛 石 念 若坊。 代 命 日 延 三級 城。 無 長 誠 勘 分 改 心。 饑 據丘 "含第盧 卿 秀 者。以"曾於"大峯 日。 解 日 可 一直敵 Im 渴 輕 秀身亦被六創 登 善其 由 情 一佐藤 理 往 捷 不可言。 頭。 明 城 兵 後 右 必 如派 刺刺 B 治 先 衛 能 近 世 見害 斯滅 相 登 為拳 景賴 入 五. 逐 定是景 創 其腹 不」忘,亦峯氏之義也。秀弟 馬 坂 。得 年庚子 大光院等失,度狼狽 宿 式 之日 偶逢二 不透 冠 片 + 放 志。 甲 殺之 部 虜。 報。父仇山也 改 。創甚不」能」行。二子 有 火 首 引 倉 七 便 魏帝 船 一部 本 E 小 月 加 老翁、採、葛 日 大 士 級 風 般若坊 負 + 武 院 其改 文珠木像 出 郎 + 燒 稍 mi 各 冠。 為八 四四 景 愈 而 治 古者魏 降 身 丘 綱 賜 睡 日 謝 信道 E 追 等 頭 去。 質 月 秀 兵 公分 伊

求四 其所 釼。聊. 有怒 子。宜 長沼 縮に食。 于是悉 雨震 喜..天 爺川川 事不足有 日宜。索、榾相 多讓,矣。八 而安此 去 俊 作 方。不 於於 此 賜 頭 當 木蓊鬱。其 報、父敵。冥 左 質。原 心收 殿 職。廬 孜 IE 發.其儒 一窓災 像 衛門 應 子。 如 記録 K 能能 年 寫 -11 放 以 癸卯 縣 自似"狮 來清 文珠 于堂右。 山 跪跪 恒 加 . 人得。一夜夢. 皓眉異 聞"之卿 觀納。笈中 興 造。 秀 治 產 加 為。己憂。 應不。虛 足茸尾。如 建 拔 貧 便 座。不 相 尋れ之、覺後 秀不 殆 為務 從 材 子一者。以 賜 無買山之錢。爲之奈何。一日憑 傳。為一念持尊。靈驗鍾谷。所 難名 此 知 時 僦 自 恣途"其志。 往 頭 卿日 الا 州 T 小 THE . 影 果 狀。 而 清 越立 爲此座。不须所 謀"諸 人呼...名文珠 將 獅子 人菩 修 以夢 不放。日 **壯**: 設雖,五臺之境。不,可。 我見"鷲巢山" 1 造 士 假 蹲跳 人。 陸 如 獻 山 事 新 秀雖、欲,建二一 殿 河 么 居澤 告日 力。 夜懇 狀 洞。 化 欲 安 歪 山 二寅 啊 隱 矣。 果 獿 競 所 汝 祈 造。 1: 唯 輸 者。秀是 感 夫 以 所 此 山縈川 文珠利 厥 以無 亦 應 貨 述 黜 像 秀尋 隱士 求 后 宁。 無 巧。 帛 物 一秀 獅 衣 風

之在 非林 造"文珠堂、堂若、無、記文可、徵。莫知 腴 基。其 夫 長興之祿。是膺。修文珠堂之料 享保元年秋七月。落"成于冬十月。 頹 心 村公詣。文珠堂。還與之次。偶登。惠澤山。 **共舊。**而 僅三四月堂成。 文 毘 具 m 田 建 按一佛 珠 嵐 文珠堂。 **北。仙臺中將吉村公** 此 立 堂 在...賀美郡 風 您山饱 世 德 堂自 所 高。 間。有 無 殿 說 更"新之。其廣十三尺。高比 **尊那經** 堂。 先 不 極。 長 有 一耶。詩"筆"長興 天 能 質居。第 秀創建 成 可調 彩 者二十石。 訖功之日。 地 一破。真 有 云。無 起 而 坡。 湯 允 以來 不 - 0 女[] 擴一恢 杰 不 合製 無 知 刹 功德。 嗚呼 回 以 一碗。洪 (所,傳 所 那 則寬 其 A 經 加 他 心終。壤 者也 間 佛 礎 餘 之旨者。矣。 求。 萬 甚深微妙。 長 於紙 言 非一翅 永三年三月二十 廣 趾。重拟文珠堂。 年。 然常 變不 如是。 秀 十月二十五日 一个 劫 推 以 其 四 公於 存。 が 與"造大 火 世 14 為古記。 何 公語 所不 尺。 弗支 孫峯八 有 時 意云何 雖然殿 公今樹.福 公心本有 抓 "苦心 經始于 F 業。 能 建。 子 。我 漸 七 兵衛 Ti. 撤 割 致 所 日 加品 豊 पा H 1

公曰善。幸併,此說。為,我記,之。永言味,之。於,此乎記

時

之。故靈德事實今不,贅,于此。星霜歷,年。永可,以傳,焉。本緣起一卷。龍寶法印實政。應,予需,所,著。來由詳載,享保元年十月吉日。龍寶實政泰音書,於惠澤山下。

享保元丙申陽月日

林中郎將藤原吉村

羽

文珠堂御額

月

松

伊達氏嫡女和十二歲書

験に 拙者儀。 。先祖嶺八兵衛長秀義。 者儀先祖 馬 若宮之別當坊 復讎之次第 に 御 初 左之通 座 は佐藤 候 所 申 同 八 E 國之山 大院 候 と申 伏

0

坊と申

者。右八大院之父長光坊を招

300

伏見八郎と

Ŀ

修

山 聖護院宮標。大峯に御登山の茚。右上の坊も御 仇 甚 申 成。新 達 罷越。良覺院 諸共に行逢。父の 改。八大院之八之字を取り。名を八兵衛と相改。嶺八兵 被 院え被"仰入。右八大院並 を報度。日夜心を苦折 次 者 仰 一の節。八大院兄弟。九月六日。 長秀と相改可」申旨 を相 郎と申 御 付。大嶺にて父仇を討候に付。佐藤之名字嶺と相 規 進 手 に 退御 者 に仕 候 方に罷 しと。相 處。 知行。三貫貳百 長 敵を討 手柄 馬中 光を殺害仕。其 在 り候内。 奇 を見合居候處、 村を立除。駒 取本望相 に弟 特に 進 「武拾四 右仇討 被 紀州果無山 次 思召。 達。 節 郎 右八 15 共に。御 夫より 候 文被下置。 嶺 慶長三年 直 義 に忍 大院。並 1 1-贞 御 貨受 江 て。兄弟 居。父の Ill 戸 國 供 七月。 樣 還俗 莊 質 元 仕 相 相 嚴 え 浴 弟

陣 仰付。 真山 候 御 に。敵の首級討 知行 様御意を以て被"仰 其後白石 貫貳百貳拾四文之內。三箇 御 陣最 取功名仕候 上御 付。長 陣 由 沼 等 1= 作 え御 御 左 座 衛 供 候。 門 三追 仕。 組 右 於 興 力 一被下 自 力 御 1= 借 石 被 置 御 h

年六月廿一日。文珠堂御建替被

成下

以後。

爲

御修復

先祖 上に 復雕 相 成 。意识三 0 次第 如此 H 拾 文。被 本 中 下 F 置 一候以 候 F 由に 御 座 候。 仍 而

安政二 年 二月

嶺八 郎右 衛門

拙 者儀 先 祖 守本尊 文珠 约。 御取 立 被 成 下 緣 起

寶永 等。被 遊 個 納 候節 狮 の次第左 0) 通 申 E 候

不放 別紙復讎之節之次 出。文珠綠起 拙者儀より六代以前之祖父。嶺八兵衛 信心之客殿佛に御 五年六月 笈に韞納 並 十日。 先祖 仕。仇 座 第。並文珠 よりの も首尾能 候 て。相 III 義。 樣 馬 尊 文珠 討 可。申上,由 を相 相 果 山え御 馬 L 中村に 出 候 候 て。御 H 出 御 被 は 有之候節 前 御 圆 30 遊 意 ~ 元 に付。 被 候 迄守 身を 召 節

1= 御家 を以て R کی 御座 持叁仕、 御 亦 候 赤 御 由 NINE AMILY 願 意 申 0) 猶 被 候 上候 何 更朝 處。 遊 方にても 候 暮 得は 只今之所被 由 信心仕居 。難 安置 有 御 仕 下置。 候所 前にて結 合奉、存候。其 仕度段。 爲 文珠 長沼 構 御 K 相 國 後享 作 R 立 家安全。 立守本尊 殊 : 左衛門 保 勝 元 N

> 拜被 狮 月七 料。御 次 候 父八 仍て右文珠尊綠起 K 山樣御 由 0) 第如是に 兵衛 日。右 御献 遊候義にて。重々身に余り 並 知行貳 别 義。御 納 一代は。 祖 紙 物等有之。同月二十五日 泰申上 扣 父 貫文被下 通 12 5 可 御 年々六月廿 相 0) 城 仕 添。 候 え被 置 由に 以 御 相入 当 E 目見被"仰 為。召 て。外 被仰波。 Ħ. 難有 П 御覽 文珠絲 には 责 。同年十 御 付。翌享保 浦 俠 什 冬治 御 被 に付、 合に 旭 名代 1 御 训 月八日 奉存 置 納 石 を以 演 節 候 被 年 礩 0) 數 候 御 且 遊 JE 祖 0)

安政二年二月

嶺 八 郎 左 衛 PH

文珠堂。 封 內 風 士記 嶺八 卷 兵 之下 衛護 持 那邑。 佛。 而 宫 城 後 國 水 分莊 尾 帝。 范 卷邑佛 寬 永 学 年

君。造。營堂字。寄。附 世 修補 料 二十石之地

月。同

1

所』創

建

中

御

門帝。享保

元

年

七月

Ill

弘化三年丙午九月十八日 開 扉

圓光山大法寺戒壇碑

禁。葷腥酒入。門界內

寛政 寺 1。賜,永代律院 甲寅 年十 規 月。 約 淨 同 土 年 律 十一 院 興隆 月 。達 從 上聽。翌年 本山 達 增

卯十二月。一字再建。同丙辰年七月佛歡喜日建之。

同寺大銕塔銘

圓

光

山

大

法律寺現

住

达 獨蓮翁

戒珠

識

大乘淨土三部寶經焓

天下和順日月清明。 風雨以時灾厲不」起。

南無阿彌陀佛

國豊民安兵戈無用。 崇德與仁務修。禮讓。

當山律院開祖光巖無任大和尚

學新 丁和 冬。本山 弟子不肖承。之董 府 吾 城 師 和 潮 尚十三回忌。追慕感念。**兼修**,慶賛。 營事。乙卯冬。 尚。 命屬。余與北 士 半 女。淨 以 古木 席。 業 本堂落成。 山 莊 大振。 遺澤 林 大法寺廢。革"規 .構.募 歷 及一吾 な。 戊午夏土木里,功。 供 法潤 師 養。 息 化。 無 應 約 涸。 而遺化之蹟 律 莊 請 場。余 林 遊 霓 亦已 化 政 是歲 勉力 印 仙 一般。 笛 基

> 有情 成高 字 萬 作福 化 於是方成矣。又起,三部經典賓塔。盖自,吾師 斤。陶 道俗。日課,念佛。反受,戒者 。共同 石三部 施主。不可知 顯墖婆也 鑄造之。上則 生 ~。 一。伏願 中 則 三其數。此舉特爲之耳。 納 安四 膽 削 施 那 佛種字十二光佛 念佛點圈 皆 凡一 殖 佛 萬 種 岩 餘 乃 于 人。存亡 乃塔以"數 萬枚。 至 下 及 則 不 切結緣 而攸 鎮 शिर्ध 门 題 所 T

維寬政十一年歲次已未春維寬政十一年歲次已未春

鑄工師 大法 田中 中 順 權 比 兵 厅. 律 連 藤 小小 欽 原 金 部 次

大

出

和

四

郎

藤

原

治

貝

伏龍石記

抵 石 物 此 3 7 一尺五六寸にし 語 ち 御 h 寺 0) h 出 せ 1-國 L 1 伏 府 予 序 龍 靑 に、律 莱 石 示 あ かっ て、長 し給 り。或 城 间 北 御 ふ。共 1-少し高く。 寺 時 御 訪 0) 寺 形 御 5 あ 圓 質 U ho てい と秘 恰も一 1= 大 學 T L 法 SI 給 律 割 往 周 U 寺 0) 師 縦 D 3 王 0) 山 伏 室 2 大 龍 0) 1:

御 0) 石 天升 三人し 去 水 8 實 に備 低學 0) 1= 72 4 如 僧 中 は てう L 13 ほ b あ 1 h 3 く。又 住 此 5 7 P 3 此 D L T 111 h 5 ā, 。樵 せ と宣 は て悦 此 り。善導 T 玉 D 俄 h 理 ほ 給 は 瑞 方 石 奇 樵 等 1 杏 玉 2 り出。二三寸とも見 音 世 U 石 杏 芸を起 南 6 お 盐 0) よ で見 L せ رق 取 1-寺 とも h 光 2 石 此 如 h To L h 拾 3 15 32 U) 由 杏 L T け 7 U カコ 5 納 上の L あ 3 來 尚 N 龍 は。 品計 め。 \$2 は は P 雨 72 を弱 8 怪 0) 下 は \$1 方蓋 3 國 を起 世 奉 L 5 整 K め 和 程 #2 主 分 強 Ili 司 F U) 9 3 1 0 氏 なく 3 にっ 0) To L 72 のことくさけ N 路 111 人 D に逢 3 5 時 て。天 福 り行過 萬溪。 彌 ^ 南 重 所 カコ 同 御 此 越 し。 にこそ 田 P から A 1 3 咸 僧 石 後 1 世 敬 L も 1-るを恨 白龍 村 御 地 瀑 國 多 L 3 U) L U ては L 敬 院 につ 布 上 30 あ 會 て。 岩 엵 T 7 月に 0 5 南 N 津 形 お 7 手 な ひ 玢 やせ む 世 光 め。 此 動 2 領 泉 h 同 5 1= 82 所 瑞 1 b 德 T L 中 澗 赤 圆 0) 持。 T L 15 目 寺 此 伏 出 此 T ょ F 岩 形 新 17 り はつ 出 龍 形 5 斧 中 樵 高 1-石 渴 1 わ 2

天

=

か

王

龍

石

1,

度

・て。我 保 部 3 石 天 0) 御 給 支點 1-U) 2 如 へ。由 寺 U) 覺 し、一世 T 如 昇 な [m] 御 り。此 排 A 1 3 經 间 死 提 1-73 勢 1-1= U) 御 格 龍 ひ。 る 德 多 训 物 御 除 る。 < 4= 佛 品品 僧 32 し。鳴 月 h 法 給 よ 戏 a) 譲 朔 流 一般来日日 歷 32 2 6 3 腐 とも。い T 3 吓 5 [in] 人讓 filis 高 D 師 カ・ 0 君 仰仰 3 德 1= 師 我 5 順 きか 師 ち 0) 1= 5 3 2 STATE なみ 0 德斯 L きるな ~ > けっ 題 無 L かっ あ 欲 II: 绾 持 \$2 \$2 12 仰 h h。倘 給 肝芋 3 3 親 て。 5 は む を得て。飛 無 し。今 h と説 永 约 是 当 崩 5 U 此 此 爱 兹 蓝 陀 L

りと は

今そ

知

る雲

を起

せ

る

龍

德

5

朔

陀の因

彩

かく

13

カコ

照 3 道 盖 かっ 寺 法 Ш 1= L P 兄 北 38 ~ 副 轉住 此 越 再 1-記 建 0) 玉 す。不 T カコ し。既 石 德 たこ 多 行 村 得 思議 1= 世 上 7 中 0) 常 成 程 興 哉 照 なく 5. る 仰 山 王 所 內 光 32 石 .75 旅 治 德 5 光 公 2 寺 b 住 (1) 老 然 削 計 浴 轉 1-1-道 程 43 13 應 L J. 國 1 人 なら ての (1) 淅 は、 至 潟 子 当 まし

す。時 雀躍 派 至 n 綴 \$L 日 石 喜し給へとて。授 石 に遊 なら tr h は。世 野 を得て。常 は 順 L 3 玉 行 時 仁師 喜淺 T ひ 堂 んと拜 强 1-先生 2 て。 や。窓の 寒 玉 道 カコ み 照 0) カコ 石 俗男女。 らすいます。折か 我 0) 受 草 折 な 山 を出し玉へて。予に示し給いて。先 鄙を願す。 朝 老を厭 し。漱喜珍 うち 茶 へ移りぬ。全く石德 與し給へ 3 の下 伏 ~ 凡 訪 兆 詣 百五十余人に授戒 和 ひ給 由 石 5 ならんと祝 ね。實に伏 詳か と讃 恭 U 蛇足をそろへて記の傍 はす。長 給 して ら天 な 美 1 當山 L 3 し、 保六未年。予 事 折。 龍 による 途の し給 即 頭 石は。天下 坐 王 持 然たり。 法緣 文體 1= à 石 L カコ 35 是 F 82 深 淡心 彼 拜 0) 出 30 歡喜 授 爱 く隨 に玉 記 誦 0) 0) 1: 1-資 與 地 程 Ø 0 3

崎

57 智 7 ま! 3 玉 を得 こそ嬉しけれ 光り・ 大へ に法

維時 天 保十三年寅 歲][版 日

院老比丘運應覺阿謹 誡

與

州觀

戶 澤 不動 堂鐘

山

靈驗日 數歲 宜、發,萬里。茲旨奉,供養。一 聲。當願衆生。脫,三界苦。得, 大日本與州 土昇平。佛法增輝。四民災害。 。不動 生滅 此 氏 禪 罪阡。風 圓 勸 天 金口木舌。一 腴 意 緣。皇 一。我 新也 排有,緣。漸再 廢矣,然今復岩崎 明 覺南 王 送波維密。雨 身 仙臺。刈田 蓋物之啓發。從者聲真。 和 雖 ,白鳳年春 柯 文化關 銅 夢。眞、悟北邦 音動,大千。 銕 語鑄 歸造洪 逢圖茂季 郡上戶澤驛。嶺古鳥取越。今大嶺 洒 B 成壽 問名 [n] 氏 見菩提。故寬政元、 再鑄 耨 刻。一千百有餘歲。逮,于今, 切三寶。 万年 頓盡 鐘 殖 朝 邊 夏吉辰 未 也 關 隨 想 吞 同 經 明星曉。 氣 離 大乘經 圓 恐 如 仰冀皇 三星和 五. 種 た 牐 追 逆苦。 智 空界。吐 明 日。一 沓 幕呼 風 Ŧ mi 去 心。鉛 爲始。岩 為人 永 破 一打鐘 三、路 弧 烈 扇 過 疑 國 四 + 月 而

迹聞老志卷之四 别 lik 當 金剛 田 那 院補 犯 欽誌 仙臺金石志卷之十四終

在 尤可,愛。常上石面。印,紫赤色。土人以為,往古不動 非...人境.焉。斷岩縮々然。若...綺穀。若...疊襞。紋理密察 』渡瀨以東。斷岸千尺。古樹萬株、岩下細路石逕。殆 飛

目 次

仙臺金石志卷之十五

墓 碣

來,着:此岩上,之處。是乃不動熘光之所,現。恐怖信

茂庭左 一月良直 附鈴 木甚 十郎

伊達兵部 大輔 質 元

峙。其奇狀不」可,勝言。鄉人呼,其斷岩,曰

縮 石。 舊。青松亦相連。綠葉交、翠。朱實結子。向,東嶽

而

相

樹蓊

仰。岩下設」堂置。木佛。謂。之依視不動。山頭岩

伊藤肥 前河 I 信

小山 田 筑 前賴 定

濱田 茂庭駿 伊豆 河 定直 景隆 附縫 附中島右衛門宗意 殿 康 次

和賀主馬 祐 忠親 鈴木將監重信

附安立內藏之介等四人

富田田 栗野 壹岐 大膳 氏 重 紹 國

齋藤 外記 永門

伊澤左近將監家景

馬場出雲親成 附平賀藏人義雅

和久半左衛門是安

應

股

五

郎右衛門重

助

村上織部**通**淨 村上織部**通**淨

石川彌平實光

谷傳左衛門一主

玄性房 附國分能登守盛重

唐將

軍

仙臺金石志卷之十五

仙臺 吉田友好編纂

墓碣

宮城即加賴郎

宮城郡加瀬郷

祖加灣寺殿故從四位端山雲公大居士承久三年辛巳 六百二十二年

十一月十三日

左近將監藤公之碑

聞 有 從 其旗號繍。菊桐.色用.純紫.皆異數云。 冠藤原鎌足公。公之十二世為"栗田關 為。左典院 四位 ·鎌倉府朝之命。至_自_京居_府邸。 盖以,其文學備 。尋試以_。郡邑之事。准備無。遺舉。於是乎朝 左 近將監藤原家景稱 雜信。是家景之顯考也。至 家景 世事 天朝。 一伊澤四 郎。其先出 白道 文治三年丁未。 狼 其五 于大 野 القار 世 織

與疆 命。不 望焉。 日。與者 咸平。家景從 軌 五. 大國 年己酉與太守 聞 也 聲致始 軍 而有」功焉、六年庚戍三月。 源 公 THE O 削 藤 師 秀衡之子。 地屬。遐 親 他。 不 陬 ...數月 服。 國衡 難 兄弟荒 計屢巡 兩兇伏 源公謂 視。 一欲 衆 誅 父

子。

此 寘,政府 任。 宜適 以管轄之。家景文武 彼邦 撫 順 討 逆以 周 悉。 時 具 資性 開。川 深 之以 重 म् 以以 爾 充 書

家 景 奉命 來 相 他 宮 城 郡 巖截之邑 開 府 聽認。 安。存

氏 1: 民。宣 焉 建 久六年 武 威 四四 土 人 二月。 悅服 源 因 公朝 稱"留守 京家景從焉。與之平 一後途 以 留 主 為

公一日。 泉 、寺者。 國 秀衡 衡 兄弟 所 - 拟 雖不 建 多歷 臣 罹 ご刑 年所 寺 堂塔傾壞。家景請一于 院湮滅詎 不!以傷 那

舟

生八郎左

衛門

厚

重

天

Œ

十三年十一月十

七日

茂

庭左

月

傳

臣今野文五郎

冀就 温信 貫 少加 修 理。以 存 護法 公善從 之。且秀衡之

妻尚存。老憊可」憫。公命,家景」以 言 。承久三年卒 已十一 月十三日。 時 存 以疾卒。于 問 盖家景所 任。 就 稱

之孫。今之公子 永八年辛未八 葬,于巖截之邱。法謚曰 月 村 其 福 + 憂。祖 有 五 加 先 世宗 瀨 寺殿 代 閱之煙 利 遷 瑞 居 ili 雲公大 滅 水 澤。宗 碑 m 居 愿 利 士。 八 111 寬

> 因 按 狀記焉

文政二年已卯六月

瑞 鳳 古梁紹眠撰並書隸

額

安達 郡 本宮青 田 原 碑 橫長 二四 一尺六寸

茂庭 佐月 藤 原 良 直 之墓

天 IF. + 年 月 + 七 日

七天 ·代之後今野华5 一月十七日戰死。

今野 彥治 郎 景 住 三十三才

郎 景

今野

小

郎景安之子也。 +

長

尺五

寸

横

碑

尺八寸。

虎 岩 道

月 本氏 鬼庭 後 改 茂庭。 仕 于 輝 宗 君 政 宗 君 mi 領

左

數邑。天 來 mi 犯 Æ 我之日。 年十 大戦 月 佐 于 一价· 會 人取 橋 排·白 政 兵 111 世 石 111 我 軍 城

敗績。左

月為

押後

時

七十餘。不

能

著

兜鍪。只冠

兵

號二丁 卒肩 帽 兵 叫 子 日 花 其 乘 加 尸 馬 走 番 去。 服 N 指 於 子 他 拖 石見延元繼 兵。但 -1-卒 前 能 黄 使 家為 帽 衆 子。左月 世 老。 如 Die 手 逐 年 見 足 祀 討 也 髮 我 敵 而

茂庭左 月戰 死 條下

術

ラ

=

V

市中

云

君 茂庭家 早 赤蕨 テ " 孫 及 ス カ テ 3/ F 11 者 仰 ヲ 驗 玉 E 小 舊 召 力 せ 15 7 木 。驗斗 驗 旗 指 即 15 テ 例 リ 添 定 早 敵 見 盃 且 日。左月入道 12 = 物 テ 部 依 式 酒 表 1 ヲ 111 重 E 名 部 ス 示 7 テ IV 安。早 敵 叉 。仙 1-賜 り。 " ス 遠 敵 = テ尋 君 其 4 F 臺 凱 見 方 11 5 感 頃 首 7. = 在 随 討 源 王 野 12 3/ 震 田田 IV 7 死 左 文义 フ。 玉 伏 者 共 時 取 3/ E 衛 百 ~ テ。 日 也 四 -杰 1) 門 病 人長 B 境 君 君 驗 F 酒 景 氣 敵 1 諸 Tin. 命 7 7 ---重 = 九 鈴 庫 7 動 賜 + 添 テ 武 百 木 IJ 巡 ラ 3 フ テ 出 功 紋 其 餘 0 0 东 15 N 見 + y + 敵 其 級 7 2 w V リ n 彼 郎 後 7 心 0 時 > 1 P 治 黑 即 7 君 計 7 0 申 此 弱 早 討 彼 稱 世 地 = 取 スつ 後 III ラ 子 副 取 美 久 = =

郎

旗

死

此

義

仙 臺 武 鑑 卷

天

嗟乎 法 左 唯 本 定 式 成 F 3 時 競 兵 被 月 IE. V = 。鈴 0 其 勞 云 部 齋 + = 71 可 テ E 1 = 苦 時 開 逃 w 家 從 掛 如 黄 = 重 惜 V 行 木 絮 移 者 僕 カ 安。 雕 儮 架 1. ク 年 IV 年 藤 左 帽 。味 IV 今野 竹 ナ ク。 111 七 + 帽 早 月 子 迄 英 河道 藏 1) n 子 + 郎 川 方 良 7 於是 終 A 。視之中 云 彥治 = 月 7 高 些 面 源 兵十 E 沌 死 -々。此 冠 老 + 名 入 取 左 ヲ 不 骸 K 郎 相 IJ 七 始 衛門 倍 ス 道 V 大 7 1 能 呼 日 或 同 F 時 前 ナ ナ 村 肩 T 3 テ -1-破 和见 IJ 小 景 テ V ス 記 八 餘 テ ---他 水 高 是是 ナ 晋 _ 重 1 , 郎右 掛 = 人 將 人 倉 7 堂 郎 云 田 些 1 終 主 彼 隊 テ 1 --= 合 7 テ r 衛門盛 引 = 7 = 7 升 H 數 矢!! 戰 被 入 毛 7 攻寄 取 戰 討 固 道 生 劣 器 0 3 條 著 亂 首 追 死 せ 4 此 八 7 討 分 老 此 下 V せ 時 開 3/ ス 依 郎 取 小 IV 合 27 = 戰 ス。 加 1 大 + 同 不 势 茂) 左 聚 V ブ 7 5 粉 合 窪 174 町 衛 H 7 1 敵 散 水 庭 = 被 IV 骨 せ 清 是 門 新 H 度 斯 兵 哈 色 入 0 ナ 取 ス 九 毛 + 討 助 鈴 大 路 立 奇 道 71 E 1

李儿

木

頭 迄戰 等 命 家人 テ。叫 = 取 卷 庭 七將 難、欺。大 郎 v 郎 ヘヲ ー 香黑 供 = ラ シ 野 面 高網。大 非 心地上 ン 遠江 15 -1-ノ軍士多ク討 ト喚キテ蒐入々々數十回。四方八 1 = 3 ス w 太刀 並 究竟 町。布 此 易 7 廣昌 カ 7 死 問 MI 。敵 網 テ 寫 迄切 追 出 1 冬 敵 近 1) == 施 7 七十三。 勢 著 取 來 兵 河。同 僻易 ツ 去 取 終 廣昌莞 敵 III v 4 士 さ jv ン、左右 ク テ n = 4 1 三途 1) ス 劣 數 討 3 源 者 返 1 見テ 。兵先 廣昌 v + 政 勢 死シ M 1 1 2 老 爾 馬可 1 テ不 心 無ッ 遠 英 服]]] 15 1 中 馬 後 = タリ 7 ナ 破 獨獨 打笑 V 同 進。 夜 武 殿 乘 味 4 21 v F 無會 V 党 行 者 **危。時** ニ 入 大 3/ 1) 27 立 能布 方兵疲 ヒ、我 盛 テ = 五 1 テ 勢 1 久 ケ 死 六騎 モ 敵 時。高 取 釋一。 サ = テ IV yc 施 淋 年 二人二 及 テ 面 テ 素肌 成實 軍 V V 備 1) 斬 返 七 斬 シ 取 去ト 文字 F 綱 中 テ 後 落 4 + テ 4 2 覃 馬 E 乘 ノ頭 ノ家 不 五 廻レ w せ 鑓 V 素 能能 111 毛 氣 同 1 = 品 い。敵 >1 可 吾 7 M 六 臣 鼻 朔 大 揃 突 = 30 汝 付, 追 既 惜 討 度 金本 伊 敵 七 鋒 立 7 1

> 擊。勝 朗 = 度 執 行 4 首實檢如 法 7 1) 15 V > C TI. 范 此

車

1

勝

ナリケ

iv

傑 山 君 +11+ 廟 記

實

君

自號, 棲安齋。丁亥四月十六日卒 果一行。後 外曾祖上杉貞實嘗約,為"養子 女。君以"大永六年丁亥某月日 中。則 君 因居焉。乙亥叙 申 神 小倉村陽林寺。 桑 所。鑄寶刀及竹雀記號。夏六月使 我稙宗公之第五 戍 折 質 實稙宗公之子晴宗公之弟 奉.我 中野 元 禮所」謂別子百世不祧之主者 竟居.信 以 等綱 伊達 輝宗公命 夫大 從五位 謀 僧侶 子。 爲 亂 森城。食 氏 改"畠山 妣 加 事方 幼 F 曾 兵部 名時宗 證 津蘆名修理 發覺。 其 日 生 義繼 因授"其 而 + 獨 大 、壽六十一。 天 九 其 輔 照 ·· 其大 倉卒騷擾。以 拔 邑及名 也 子 文壬寅 無幾 院傑 旣 偏諱。又附 JE: 採 大 獨 夫來迎。時 冠 111 强 夫平 111 以此 **葬于** 退休 秤 K 取 君 功战 藤 食 年 八 二世。天 溢 故故 以 + T 時 Hi. 信 殖 高之 屬 F 郎。 長 居 夫

國

1:

郡

後

IE

臣

光

戰 其 天 率 月 之本。 厥 祀 於祖塋之側。 於 採 争 先 世世 宗賀 保 守 事 是興,其 仙 。風 丙 始定之際 以 成 臺 則 N 君 申之歲。 傳輸 勿。墮、 率 櫻 化 民 之源 田 德之 嘗誠 子宗 舊 質 創 而 孫 不 以"予嘗辱"下問 歸 仲 子 已。以 距 篤 建 恒 鳥 安得 厚 好禮 君 能 君 呼 祠 有 夫 相謀 卒。恰二百 稽 故 創一 不 於 不 報 報 售 追 爲 本 期 詳考.禮 典 宇。歲 本 追遠之道 之制 遠 之記 以 然 一冬。預末議。也。 五十年 備 而 報、本之道。尤 時 不能 中一體 然者 制 耶。 聚 酌 制 其 矣。 天 矣。 時之宜。 在 及 支屬 降 適十二 保 及 上者 遠 是則 七 使予 一度修 濫 也。今 数 年 擇 心 躬 世 世 夏四 政 率 記 焉。 其 地 妓 大 之 務

槍

戰

或

年

伊 藤 肥 前 傳 替 墓

脉 州 義 士 伊 藤 肥 前 月心 信 公 傳 替

氏。大 備 公諱 前 守 重 織 祐 信。 冠 時 鎌 。皆 號 足 肥 有 公 前 三 到 十三 出 業 奥 於 一 國 州 孫 伊 公嘗 也 藤 其 氏 領 加 交 安積 安積 紀 伊 薩 君[5 祐 天 摩 重。 守 Æ 祐 十三 母: 長 某

> 與"兄 今太守 已。 公日 城。太守 道。為 國。 還仙 議 語 人。陣格鬪 勝 佐 以其子 日。 與 而 竹 以 重榮。合 恐 述此 其 羽 還 義 傳於 伊 後 今敵 臺。 林 重 東手 達政宗公。 十六 無 重 綱 興 經 傳 而 後。乎。 一間。 其 1 村 緔 死。 會 並 其 年 待 經 僧 公不幸早 擢 津 係 敵 慕 此 幸有 認 葬,於窪田 弟 爲 義廣 於是 以 所 人叉來攻」城。公誓不」屈 霊 命 城 铫 桃 賛。 松 支 1 謂 一公與 等。 岩 生 來乞!余 其 欲 世。 其 那 那 死 牵 孫 神 大 。政宗感 孫 主。孫 戰。 出 元祿 以太 = 那戰 成 戰。則 綱。政 逐 澄 萬 文。余感 師 = 重 領二千 守之言,白 餘 在 日 年 義 其 寡 長 人。 佛 秋 鎮 等 死 不 高 國。 太守 に難 小 一敵 守 將 祖 1 太守 。乃忿 胡 有 野 一高 文 大 衝 飛 態 重 不吃 城。 自 大 息、 奈 倉 重 良 然單 軍 中 節 武 專 何 城 重 良 大 村

於

州

湖 有 天 相 性英傑 海 世 難 爭 人 傳 勁 聞 敵 及 .計。莫不"悲憐。緊公之志。孰 義氣 在 乎 前 再 11/1 戦 循 天。為 威 身 猛 國 戰 君 難 為 全。 得 國。 勝 雖 矢 凱 保 旋 志 與 其 弗 齊。后。漢 由是偉望。 國 遷。 二、厥 際 追 肝芋

關氏。或不"間然。神威赫々。曜」後光」先。

支那國曇華道人敦高泉手"書於黃檗方丈。元祿壬申五年冬十二月佛成道前三日

玄孫仙臺住伊藤新左衛門重良

其嗣新平重築同謹立之

重信公末后記

墓碑之後,末後行業記刻,家祖光國院殿月心紹秋居士。伊氏肥前重信傳養

僕射從 氏朝 世化 孫也。 重信 武功。又領、奧州安積郡。今之四十五邑。從上之氏 黄門政宗 **僉順於關** 為"政宗卿以"于 臣敗 宝安積。 十四 始出,于伊豆。氏,伊藤。仕 二位 世 卿 暴時。信之五 東評 至,子信之父紀伊祐重。功業者不,妙,子國。 无. 武智麿公三男。 祖 世 定 城才 從五位下薩 加 乎 那 大略 世祖安積備 此永享十一年丁,於鎌倉公方持 達大膳大夫 不非常。天正十三年,安積 摩守祐 參議 于鎌倉將軍 從三位 削 長者。鎌 持宗公之幕 守 귦 乙磨卵 時 足公嫡 區 賴 經 下。信 於 十七世 一安積。 卿以 先 孫 和15 君 者 左

常二千。然進弃。自群鉾端。從此敵兵大敗。而 虜 顧一 中援焉。 高倉 之士卒伐。其北。 矣。自擊,士卒,血及不可知 以身殉、國。 軍。計"我兵寡 等。惟自有 終挽"士卒"匹 誠。命.其 梵字於阿吽二字之旗。 自結,所 信介"評隲" 及須賀川之兵合。數萬。來鏖戰欲。斁 再佐竹義重。會津義廣。岩城常隆。白 掠 。本宮兩城 軍 死之節忠。也。 將。 著胄 太守告。諸士云。 旗翳 一敵力屈 為信 陣,諸軍於安積,福原之鄉東。 我克敵,此軍 級索 馬單槍。 こと。且灑 而輕不」堪、屠、敵, 之間。 得"甲首二百餘級"。 可 H 絕 。觀音堂合戰後。其十六年夏秋 修 哀 願 慕横三 其索餘。 痛怎解乎。明 換五 泣賜 夫待之。太守先止 円, 亦所謂 今日 那。 行堅 數。 不是 輪塔之旗 小 至,破、敵 進。太守前。 隔 謂片倉景綱自誓曰。今 梁 陣中、 信大喜謂 以為 于難]1] 我 免死之兵遁逃 П]1] 泥 自 地矣。 美 猛力無不。一人 。太守威。彼之至 三覆三軍之備 虾 無 軍」者。依。信 轨 親石 信掌應將 於我 請以 一 廖 其 亡其群。信 日 発 太守 川顯 點 欲 那 12 所 也 之交 丁濟 而 別。 召 分 持 不 光 答

而後。 事 三十三世 出 父重良。良者重村之孫也,延寶三年乙卯夏。受"今君 本松城主昌山之女。與綱弟之重村 回,本 旗 門。大喚日。 康 个。之致。罔 也哉。松是月謂技單不文不讓,姑序 蕭功。遙假 春重良議。二子重榮與成燈 **廖**,信者享年五十一。 而 以 福神 壓馬。次 爲 庫 懲 致重 伊家嫡流 前 陰 時 的 "黃檗堂頭泉禪師之手"廣適"信之傳 戦。敢 極者 日信之嫡子重綱。竪,五輪塔之旗。臨,敵之營 十五歲。 一綱賜 昭 孫。 我是重信之子也。 垂.子 桃 禪人亦以"佛氏 無責重綱 敷 。歷、職登,顯仕。病而今者休致矣。今茲 孫。令」勿。忘。遺風盛烈。世吾門之幸 生郡小野城 從」此信之名不」寢"于東。太守凱 以,其七月四日,結,竁窪田川之南 命、松曰。 者。皆信之烈威所、然 報。昨日之仇。敵 一而處之。嘗信者娶一二 仍憶殊列 大槩 產二一子。網 辱"大君 一勒...石於郡 。信之末 為 圖 四 人目"其 自.其 傳 郵 也 後行 14 命 至 足 旋 則

維告

元祿第七年甲戌夏四月浴佛日。僧孫岩靈松薰,手仙

臺小野城北之水月卷中撰併獻書

元祿七年五月上院、于此受、國有司肯旨。召"慕役夫"

恭為,先公,啓,石重築,墳所,者也。

安積郡 仙臺城 郡 下 寓 山 住 毛利 菊池 Ħ. 花 郎 兵 右 衛安 衛 門春 賀 同 親 等 謹白

同氏金兵衛方平

伊藤 い。高 < 家相續して陸奥守になり。 高 あ 0 8 祖 りつ 72 肥前 父に 0) り侍りけ 祖父政宗卿と、佐竹義重・芦名義廣 发に窪田 してくわ 重 信 72 る時。 カコ カニ 川とい しく 塚 5 あ -70 道の り。此 12 その ~ つね侍りけるつゐてに。 る かった ところに立よりて。 細き 72 は 72 はら 1 なか カコ め ひ に天 てみ 1= n 0 討 との IE. ち 死 河 0) U) 岸に。 せ 戰 頃は 國 所 場 1:

吉村

身をすてゝつかへし道のまことをもこゝにのこせ

實永元年五月。御入國之節。道之記被遊候御詠

歌の內。同五年三月二日拜領。

伊東新左衛門祜榮

1

各

感义

噗

せ

y

ツ平 打通 天 從 計 走 ヲ捨 山 テ IJ F 膠 V = 0 刺 來 片 田 E y y Æ 1 汉 フ 筑 0 统 + 疲 足 44 IJ 者 出 通 テ テ 地 IV 筑 首 前 前可 太 ソ IV 7 21 1 中 C 削 0 年二 興 初 刀 如 同 7 = ス 新 討 打 JIZ. 落 桃 7 7 7 H 共 太 歒 111 处 拔 月 ラ 等 百星 ス -= 馬 刀 度 見 間 八 臥 1 テ 働 7 3 倒 時 朝 毛 合 打 見 F テ 日 7 始 相 久 7 云テ 弱 せ 工 1 V 壬辰 不 又 存 IJ 戰 ス 7 大 ナ 引 1) 思 0 C カ タ 愕 フ シ 3 太 進 皷 議 久 返 力 0 IV N 跡 ス テ。 1 刀 大 。手 n ラ 111 .25 3/ = 敵 テ 3 崎 7 行 所 討 1 相 乘 J 綱 先 名 小 1) 乘 棄 御 = 働 捕 丰 p 1 勢 來 7 手 山 炯 重 テ C 70 遲 P 又 2 w 取 ナ 段 IV ス H 引寄 四 1 IJ 1 3 討 敵 老 馬 流 聞 V テ 竈 A 條 。馬 以 武 引 テ 終 1 真 死 師 H 不尾 せ 寄 A 今 筑 揚 者 去 以 知數 = = 倒 山 1 F w 別加 日 其 削 1 彼 乘 1 上 城 IV 云 ヲ 首 其 差 云 テ カ 力 1 成 1 = フ 軍 若 馬 + 7 7 後 雪 前 E 手 久 日 ス 捕 拔 黨 戰 積 7 綱 小 相 間 3 V 7

> 敵 H テ 大 郡 1 崎 中 箟 勢 嶽 = 見 1 1 爲 和 知 久 3 音 = w ~ 者 討 奎 V T V IJ 久 3/ IV 馬 先 ナ 7 年 10 y 義隆 0 薩 所 小 形言 山 1 震 H 為 威 此 x 新 馬 = ナ = 0 乘 遠 y

最 小 7 0 33 Ŀ 山 黑 出 H テ 羽 指 山 聞 守 物 = 及 殿 納 1 E 。黑 義 IV 13 光 地 w = 名譽 贈 白 遣 馬 1 サ 櫛 武 IV 也 士 C 討 ナ 義 1) 处 光 1 1 見 稱 後 給 美 義 E 隆 3 テ 指 3 统 り。 物 前

封內名蹟志卷第二

辨。誤 隆大領境義 者。 晨 之投,之已六七尺 敵 達 小 勇 兵 所 Ш 交 將 又 田 乘 脚 筑 刺 槍 武 古 馬 馬 前 彼 元 毅 舘 有 以 陷 出 所 股。 小在 H 手 泥 山田村二紫田郡 于衆。天 學 四 人 中。策 槍 入 傳 逐 筂 刺 内 爲 尾 為 小 敵。 之不 張 問 E 飛 怪。 山 十六年戊子二 隆 又追. 份 兵 田 秀 傳言 奮 筑 從 外 际 敵 前 者繼 不 int 兵 賴 此 人。殘雪平 近红 中冬 定 日 來 屈 氏 集 故 统 月 將 家 寫 北 削 總 也 戰 些 所 猶 白 勇猛 總 於 刺 地 郎 统 处 IIII 副 间 景 摑 郎 Ill 不 ク 其 伊

天 IE. -1-Ł 年 上八 月 九 H

H 村 部 門 澤 村 那 龍 寺

微

心

院

圓

岩

定

景

居

寬 保 四 年

茂 庭 丹 F 秀敦

衛門 八年 名取 幡 名理 處 藤 1: 茂 付。 庭家 原 中 郡 兵 秀 8 2 島 城 定直 茂 申 衛 丑 清 系 常 右 三月 庭 合 秀 九 隆 衛 ٤ 村 戰 代 國 門。 云 公 相 十八 0) 死 2 駿 河 大 改 內。峯 仕 申 चेति 村 勢を以 河 候 日 候 駿 候 守 Ill 由 何 處。 岸 政 城 當 天 拾 守 與 被 秀 柳 所城 田 JE. 關 州 二歲 守 責候 自 村 + 六番 男。 主河 從 之内 秀吉 七 法名圓 。茂庭駿 五. 處 年。 之舰 村 。敵 位 門 公御 駿 大 1. 澤 音 岩 則 河 河 秀 之城 名 堂。 と申 守 高 守 打 乘 政 河 定 四 棟 取 え 候 宮宮 秀 男 直 札 指 中 相 2 始 島 内 四 永 合 有 之 旅 郎 因 右 候 候

伊 達 家 舊 臣 傳 記 卷之 上。 1 島 右 衛 門 源宗意 遠 江 宗

力

從

士

モ

馬也

來

テ

五

=

主從

四

人

=

3/

テ

力

戰

ス

之。

也別。家 此 當 村 七 範 12 3/ 儿 時 事 門 世 世 家 _ 7 71 。田田 君 果 澤 念 政 -7-茂 ヺ = 1 門 宗 庭 角能 也 __ 1 村 3 学 駿 役 君 族 V 族 3/ テ 城 拉欠 陷 河 テ ス _ 1 = 也 伙 固 兵 IV 0 0 定 戰 世 列 り。 守 1 大 大 姓 P 直 处 セ = 3/ 學 w 曾 聞 _ 當 1 E ス ラ 事 テ 成 力戦 テ 給 源 敵 テ w 門 範 能 武 0 氏 E 是 P 李 21 フリ 中 天 勇 家 3 馬奇 詳 3 城 孫 ス 拔 自 系 正 IJ 島 ナ 7 7 3/ 业 群 ラ 十七七 傳 先 ラ 坚 21 守 上に テ 敵 1 21 宮內 ス 必 テ 悉 IV 1: 年己 ラ 败 C H 戰 逃) 7 ナ A ス 郡 岩 島伊 1 去 死 逃 放 北六月六 **卜**具郡 4 1) 7 城 務 ス 7 去 計 泽 15 常 Ti シ __ シ金 IV 村 テ V 庭是 當 隆 1 115 力山 0 二松 戰 1 ラノス中 点 -言 之 等 家 非山 死 П 任 君 意 玉 7 1 111 ス べき 明 ス ス 特 同 + 攻 V E 1

從者 門 曾 云 = 3/ 壯 澤 嘆 テ 背 城 美 親 士。 兵 追 3 =/ 遙 散 玉 悉 ク = 交 サ 7 E 之ヲ り。 逃 y V テ 去 31 見 會 中 單 No テ 津 島 騎 戰 四 中 也。 ナ 家 21 島 1) 合考二 1 家 敗 シ 1 卒 士 ヲ 欲 0 1 此 3/ 後 A = 。騎 來 戰 = 坂 支 1) 來 1 左 助 テ 事 ^ 馬 テ 能 7 力 助 定 記 防 見 諱不 戰 シ V 馬 テ 3 爹 助 1

敗兵 隆 也 蓝 左 = = 事 セ 馬 ノ質 左馬 來 了。當家 F 助 1) テ 釆 同 檢 助 君 1 1 = ク記 地 = 云。 73 = 仕 = 7 仕 四 供 為 記 フ 領 今按 年 せ フ = ŀ = 此。 0 討 3/ 削 w 明 云 江 屍 常 V = 也 役 非 1 左 夕 隆 東 n 云 = 中 1) 也 馬 那 な。 1 暇 島 助 mil 誤 他 7 力 今其子 始終二 常隆 責 內 ナ 乞 H 被 IJ 7 邑 左 E 鄉 家 0 1 0 = 馬 1 孫 ノ丸 m 岩 且 y 住 助 妻子) 宗 相 責 城 中 ス 繼 ヲ守 意戰 流 0 7 = 島 = 蒙 テ 歸 落 力首 贈 白 テ 死 テ V 2 y 雕 忠 1 w テ ラ。 造 事 長 + 義 v 21 常 貫 體 井 實 サ 7

濱田伊豆景隆君之墓

天 號。景雄仕。當家先 世 君 三子乙麻呂、 之孫 E 姓 + 藤 九年夏六月。奉命為 = 原 也 。當家 年 計 生。 景 + 隆 世 其 先 俗 君 孫 世 念 伊 出 稱 真山 西 豆景 伊 自 公 豆。 談 公時。 雄。居 將。 而 父 海 為"國 伊 公 興 君 豆宗 于 第 一賀美 任:國 老。 豆 景。 子。 州 八郡宮崎 君 老。秋 在 母 乃景 武 田 白 智 二千 以 石 城主笠 麻呂 雄 氏。天 爲 石。 五 稱 第

> 不可 之溝 之。 辛 且 孫 原 柳 去 矣。病 卯秋 賜 民 市 澤 城 出 部 郎 水 墳 兵堅 檜 八 兵 注:于下 戰。 外 創 月 衛 薬 方 守不 同 瓦部 武 野一。 其 月 次。欲立石 間 梗 旣 降 流。敵 败 之 概 Im + 。君 走。 地。 多 傳 四 兵防 自 歷 於 日 於是 忠 進 年 殁 此 傳 死 之 到 行 所 干 君 "城邊。指 於 建 君 古墳 乘勝 載 年 神 不 被 = 云、爾。維 杉 諦 創 荒 + 追 請 余 八。 挪 廢 旣 北 之 TOL. 危 士 葬 今兹 济 時 北 形 卒 左 于 明 侯 事 城 右 使 和 智 其 近城 扶之 m 美 八 義 九 攻 以 那 年 世

仙臺荒井平完盛撰書

濱田縫殿康次六十六歲逝弘化五年戊申歲二月二日

清

德

院

興

屋

支隆

居

-1-

交。賢嗣 葬于 獱 格。顧 田 縫 府 殿 非一 北 君 神 山 。以"今 劣 資 日流 奚 丽 足。託 寺先瑩 妓 不一容、解。乃 月二 不 之次。 朽。 П 雖 打 按行 踰 然 館 月 君 舍 賢 質 既 我 嗣 非 書 父執 大 秋 训 遊 六十 概 m 居 文六。 余 又

景雄。 考。此 小 于 部 粽c 寔 姓 逝 小 的 謂 其能諳 頭。在 徒故 國 居 近 例 糾 姓 展 見習。 分有 次。初 戶。 削 合則 出 山家 北 入 称. 伊 所 手 司 TH 士夫赳々多出。于其門 職 叉 己卯 善紹 日二 屏 目 放 氏 一。甲 \mathcal{H} 稱 權 希 猪 村 處 豆。歷二十 賴 數。 年。 兼懷 年晋人與了 見 牠 事 辰 英 進 光加 父祖之業。 原町。甲 宮流 茶 直之女。 和。 。晚 對 Ill 鳴 再. 擬 然 出為:江 得 平 為 守。秩三百 公 賜 君為 其氣 殉 者 即 君 小 宜。 叉三 稱 子歲 15 四 歷 君以"天 =縫 姓 世 。髪 所謂 沮 世 皆究 人偉 戶番頭。門 辭色誾 事 頭。丁 年 時 流 殿。姓 理。 採 已蓄 君 石 而 H. 春。 軀 部 夫。 槍 盖其 其 特 旣 爲 朝 未 明三年五 藤 術 秀 居 義 奥) 々人皆推"服之。 思 為 君 四十 八 原。 骨。 次 則 秘 也。 職 初事.于紹 才 物 月 小 大賓應 君 日 稱 識 如 矣。 儀容 加赐 置 氏 傍善書 姓。又三 餘 庚寅 風 通 故 運治 月 年 締 海 君 傳 敏 役。 廿二日,生 。勤勞 田 重 對之任。以 辛 六 旅 不 流 而 0 厚。 山 是爲 一無喜 月登 年而 巳 = 其 日 技 者 公 至死 百 戊戌 兼 年 先 銳 藝博 是以 爲 所 石。 爲 君 小 沂 公 志

> 二姉 義 笛 慂 班 順 悪 美。 貓 共。 書 派 生 妹 有 配 法受 室日 取。 一皆天。君 島 男三女。二女天。嘉永元年五 Ill 諸 古人 思 氏先 縉 補。與 即 非 八致 君 沒。 仲 名 共 子 匠 于堯舜 日 心心 総 云。 真 娶 乙亥連治 君 N ili 一豈有 濟。 嘗 路 賜 氏 皆是我 第 他 生 君告 月。大槻格 哉。 於 旭 家嚴 男。即 老师 君 陵 有二 所 北 撰。男景 君 大 變其 学 為 一兄弟 当 撰。 日 景

之秋。 麗之陣 先 自。紀 其 尤 奉 有 让仕於 生 奥州· 忠 創。 渥。 卻 州 義 天 黃門攻"會津屬縣白石 鈴 能 仙 勇。 敵 JE 人也。姓 太 木 臺黄門伊 野 2 有 首 氏 郎 鈴 四春 ...籌策之功。宗實 斬 旣 重信先生 木 長。改 氏 鈴 黃門摺 達政 族。 級 木 氏 相 功 慕 宗卿之麾下 上之戰。 謔 嗣以 將 名 誌 簖 赫 重 城。重 地 君 至,重 一。 信。 然 銷 稱 號 策 於 涉 信從 之日 二上盾四十十 信 世 小 軍 險 白 也 石 者 太 功 "伊達 被創 能。 若 郎 文祿之初 矣 二去年里 自 其。其 狹宗實。 。慶長 相 然 是以 十六歲 先 模宗 不 祖 庚 屑 出 君 直 子 待

而還。 莫,不"哀惜 故立. 功於戰 皆感。其恩愛 郎。亦追 歟。汝等還、鄕以、斯言、告,於予子玄蕃。言未、了馳、於敵 矣。夫士之生世也。者,無所,爲者。雖,生而若 力於和賀之主。然重信無。恐色。累日勵」衆能戰。敵軍 從而仕之。 君 號一万道融峯。古墳 陣,而死。于,時夏四月四日也。歲僅三十八。軍中之諸士 敗走。於是重 已有"敗屷之機"。 重信復從"宗實君"率"兵於外道河原"而 齋翁之子、而 丽 廣而凱陣也。於是重信功名彌顯矣。其餘軍功軍 先登。途陷 乃座。之外道河 而 鬪 者。其從者安立內藏。同 皆以 也也 繼宗實君之家心。是故改。氏伊達。重 死矣。粤重信之家臣 場。殞。命於鋒及一者。是予素願也 信 。嗚呼其 向 會。南部之將率。兵四五百騎一來。 城町、首其功拔群也、宗直君者伊達 從者 忠勤聞 猶存"於今一也。哀哉既 原。森岡氏 - 囑曰。 為人也 也 明年之春。南部和賀之戰。 又墓前 令..敵軍 可以 一森岡平 源藏。同內 見焉。 自 涉川急攻、敵。 ·藏等。 罷 而宗實君途拔 頸 心被。我 mi 想今其 ,藏子正 不生。 重 收 死 信 師 其。其 矣。 而勠 法 既 信 屍 多 是 譚 次 時 是 鐵 勝 叉

> **辭**。途 碑。 請 我祖父重信戰" 石,爲,氏矣。如今有,重休之子鈴木將監重廣,語,予曰 忝"所生·也。宗勝君者。宗直君之家督也。復_。本姓 木重休歲十七從而立 甲寅之夏。大阪之役,白石 花一秋有.月夏有,凉風,冬有,雪矣。 穢。人」眞人」俗。生擒忘想。抄截無明,直 游。心於法戰場中。提,堅問 務不。遑。枚學 頭。今年爭至。于如此投一命 正去。百邪之亂。至智海安清。十方安泰焉。 師 猶未,有以 述 賜。片言 其 二以 巨筆 一世, 銘"於金石。只恐"其久而其名亦漫滅|矣。 死於外道河原, 其事跡載在, 村里之口 以 為之書 按夫重信平生委身於仁義之道 垂,於不 功部 岩 甲。 沪。 一狹宗實 輕 敵斯 朽。予威 詞 也哉。 執。三昧之鏘。入、淨入 者。匪、 君發 首為.人知 吁其 其誠情。不.忍。固 心為"見性之功。 向 無 至矣乎。 重 関事 則表 信之子鈴 名 以.自 "掛"心 m 有。百 慶長 不 底。

延實三年乙卯四月四 П

武

也法也。一

以質

通。邦之擾

々。進而

有忠。

致"不死

死

逐一無功功。洒

々落々。明

月清

東與無為山主虎溪叟永義記焉 母米莊 伊達大藏家賴孝孫鈴木將監重廣

右將監內之者碑文

しく外 所に至 暦数を なか 慶長 切る事其數をしらす。或は組 に八郎等 人。主從 討死す。 のころ 何朽、 輕,命重,義因,主思。揚,名顯,德武功存。雖,千歲下,又 ら乞願は かっ 外道河 道 h ימ お のとうし の義を重んして。軍をのき屯をやふりて、敵 四 先 h 泂 ひ。 時に安立內藏介。同正次郎、森岡 人の 祖 原 カコ 此 くは 0) 3 にして死戰し、露命を落す。 原戰 所 のとし。 為、愚口を以て一偈を賦す。是しか 古墳を拜掃し るに。凡七十有餘 和賀の陣に向ひ 、無上菩提の結縁ともならん事 死现 予先祖 て討れ或はさし違へ。 て。碑 0) 年わ て。外道 古將監年齡 文一 n 基建立 たまく。 倩の 4 河 藏郎 原 三十八 U 1-可 して 折 蒙 殊 此 同 四 To T

ゑんほう乙のう四月四日

すっきしよふけ

h

同九郎兵衛

父子記,之

伊達家舊臣傳記卷上

主馬某 略アリ。慶長五年庚子十月。與州南部領 宗實ノ塔嗣トナレリ。初 伊達 左衛門宗清入道鐵 相 模 뺡 原宗 直 淵 ハ。當家十四 ノが 右衛門 子也。 世植宗君 ト稱 當家 ス。勇武 1 和賀先 第八男。伊 家 = 白 主和賀 2 石 若狹 テ 才 達

淺野彈 相 沒收シ。相濟ラ糠野邊領主一人ノ領主ト 野邊領乃今ノ 那 南部元來 w 州 地ナリ。一 山 小 ノ領主。一人 田原 JE 少奶 か。領 へ進發 人、 南 長政與州 主六人アリ、一 部家也。天正十八年 遠 11 1 岩手 野 トキ。 領 下向ノト 主。一人べ九 餌 主。 Ŧi. 。岩手 領主参陣ナキ 人い和賀領 +0 ハ今盛 ·庚寅。 戶 五 領 人人 ナ 主 豐門 主。 一人 間 7 領地 岩手糠 y, 1 以 太閤 稱 然 ヲ ス

北 ナ 7 7 ili: w IJ ラ 含 = 3/ = 1E テ × 此 久 。先手 居 1) 1) ス H.F 政 住 主 3/ 領 H5 ス 六六 = 地 7 ~ 1 君 7 E 幼 3/ 命 沒 同 此 7 收 由 雅 せ = ラ 7 -1-ナ 命 聞 ラ 地 12 1v 有 王 7 ~ w 7 ラ 1 Pip 以 シ E 此 0 テ テ = E 當 年 0 就 流 参 膽 家 若 草 テ 落 澤 南 = -3 那 部 南 來 テ ス 4 IJ 口 部 0 0 名 澤 浪 万分 = --當 州 代 村 士 3 性 仙 = F 7 7

住

せ

2

x

ラ

12

突 橋 揆 和 3/ n 3/ 3 7 出 テ 0 伊 y 7 = 副 7 智 宗 攻 勢。村 1 13 南 テ 起 郡 和 。城 + 3 × 部 直 岩 智 ス 戰 信 3 崎 1 中 E 宗直 京 後 话是 1 21 = 右 澤 守 古城 w 援 直 差 近 0 近 兩 利 1 (iii 手 遣 1 积 所 城 直 2 = 7 云 2 ナ 兵 テ 據 大勢 進 ٥ 3 者 境 12 兵器粮 馬 ラ 3 = 7 後 上五 自 .0 外 7 = 開 以 馬奇 接 隔 李 道 ラ 代 テ 栗等 + 馬 商 河 テ 7 主 1 勢 馬奇 > 阿宝 ラ テ 1 馬 1: 士: 鐵 7 1 岩 邊 = V = 7 水 砲 日) 突 临 -合 招 学 医时 頗 = = 1 城 力 丰 ナ 儘 H 城 12 7 7 3 派 3/ 危 砲 挺 0 w 3 計 備 の気 鑓 3 難 7 1) ^ 11 7 テ。 運 引 百 7 = 3/ 0 以 及 然 嚴 率 送 挺 高 F

城 淨 戰 宗 サ平開大 テ。近 耐 3/ 1 3 7 TIPE 家 テ 云 V 内 當 显 献 + III. IIL 君 日 1: 3 ---17 印 取 テナ 宗 家 移 7 騎斗 ラ -T-聞 小月 1) 鈴 テ 1 餘 E -邊 。 用. 應 後 變 貫 組 1E 葬 テ 木 IV 氏 1 右衛 盾 二 文 和 遠 討 族 4 將 衝 埋 部 テ 1 R E 此 衛門と記 京 なっ 7 命 賀 慮 大 所 題 落 3 死 家 工工 汝 。長子 門 1 屋 T 2 2 1 F 2 草 首 = 1 7 。宗直 训 风等 テ シタルニに部二在留 小 創 云 " 1 入 伊 12 祠 7 者。敵 主 右 席 ラ 7 刑 達 身 1) 7 7 淡 馬 衛 ---给 Tis 鐵 以 立 取 部 人 E 兀 門。 り。 列 7 宗 數 清 木 中七 [ji]į 數 和 テ テ 7 1) 票 · =/ ス 。慶長 朋家 洪 川谷 終 IJ. E 15 1 ノ接 中 ~ 定始宗 監 _ 所 嫡 年 完 南 H テ 書二 = テ 3/ = 度迄 f 内 7 力了 部 餘 闡 卷 1 + 。水 毛 = 1 武 創 也 祭 死 包 he 人 年 = 大 1) 賜 脂湯 剪 湿 F 屋 쮗 テ 乘 7 又 七 w 乙巴 宜 腹 テ 采 于 右君 淡 C 月 7 城 向 死 入 此 又 地 7 3/ 版 ラ V -=1 3-1 今 ス 衛門 買 献 份分 F 对外 Ħ 7 伊 1) 逃 2 品 居 敵兵 11 Hi. 達 此 中 木 米 存 ラ 石 = Mi 1 か 及 氏 郡 其 7 H y 南 1 = 12 1 -1-小儿 1) 7. 死 數 宗 稱 稱 買 乘 7 经 1) = 丰 部 C 1. 以 文 復 號 小所 大 李 入 多 米 ラ 此 IL 1 -

慶長六 年辛 北五月二十 四 日 國 分尼

自光院殿靈源 性徹 大居 士 前面 儀

與州 和貨那 主和賀主馬 祐 源 忠 親

源公賴 君姓 和 朝支子。多田 賀氏。諱 忠親。 式部大輔忠賴十七世 。稱"又四郎。後改 稱 主主馬 孫也。建久中。 **祐**。右大將

忠順給 封 于奥 州 和貨郡。子孫襲封以 爲姓。天正末。太

閣豐臣公進兵 東征。四震恐爭馳赴之。君與。兄義忠 一相

與兄遁 **港**遣使迎降。 "奔仙北,卒。後我君貞山公。召以寓、居本州膽澤 時有。因"左右一讒」之者。公怒収,其封。君

郡。慶長關原之役。南部信直應,東照大將軍檄。糾、兵次 于最上。君聞之以 ·前」是南部除叛 . 將軍之狀。白。 真山

幾君有,故入,本州宮城郡國分寺,自殺。年二十六。 公欲,因 以報」、怨。卒發、兵擊、之轉戰累月。兵盡乃還 從死 不

至,今茲元文庚中百四十年, 立孫澤田義智敬叙,其事 者七人。 偕殁"于國分之原,慶長六年五月二十四 日也

以表焉。

義直 良質居士

八重樫孫三義實

義關 深 TI. 居 --

煤 櫃 澤 孫 修 E 理 野 義 義

重

森

忠誠 道 秀 信

泰道 信

治教

森

義林

高

信

小 原藤

Ŧi.

忠房

浦 井喜助 田 宗 現治道

忠意

忠心 源 意、 信

忠情玄志信 1

右性

徹

居士家臣也 慶長六年五月二十 齋 藤十藏 忠志

四

B

居士

有。故自盡。七人者從死

郡 山 城 主栗野 重 國塔 壽

龍

山宗禪

寺

元和 ナル 年癸

九 月 + 五 H 逝去

卍大圓覺海塔○室源 公大禪 定門

〇辰先〇為

當寺

大旦

那

五

+

0

〇衆臣〇葉

立之者也。

施主

仙臺武鑑卷十二雜錄

大膳茂 十六 宗禪 旣 沖野 ノ臣 ス。三十三 城 テ二重 = 間東 寺二 化 1 跡ナリ。北 村沖 見 = 1 慕塚ア 從 崎 百 野 1 鄉 20 及 堀 城 Fi. 3 り。 形有。 y + 栗 旗 B 天 政宗 リ。行實傳 四 野 城 頭 其故 大膳 Œ 問 ヲ 束 政宗君 中 君 命 西四四 徙 1 1 2 面 名取郡北方三十三郷ノ族頭。 此 リ 一十六間 時 王 ハラ = 此 名 住 = 土手 フ 城 屋代 取 ス。 ス。 ~ ---那 0 アリ、 南北 坐 先世 勘 茂ケ崎 然 ハ 7 我 解 V h 五十六間 何 稙 四 由 .01 凡二三 城 方堀 兵 宗 大 V 大膳 膳 衛 君 1 景 P 1 年 當家 外 取立 賴 北 1 + 百 ול 住 丰 =

寛永二年乙酉

廣澤山眞福寺

月桂院純阿不白居士

九月二十三日卒

月桂院純阿不白居士塔銘並序

交前。 角。謹 大 懈 充 褓 治 懷 事,仍達第十七世黃門藤政宗公。居士天養警敏 邦政。領 父名滋實。 之苗 事。逸.老 生郡深谷是也。貞享戊辰之夏。奉」命 宰。賜,宋邑三千錢糧。居館 居 **令譽彌彰**。邦君 十氏 圆 庚子冬。年三十有六 其 年前 黎氏。恤 抱侍。晨昏殫力。夢寢輸 君 裔。其先出 行愼言。存、誠而 務。邦君 紹。 綱 未, 常毫髮撓。其 』食俸三萬石。父氏繁。號 壹岐。處 天正之亂 二歲 開房 吉公,世皆榮之、元祿王 號順 號.壹岐。後 孤老。赴。急難。喜 長 斷髮易 感.念其舊功光 時貴眷內外 和 而 前守。從、事華名盛氏公、鎮、會津。維 不忘 111 氏。 接 服自稱"安軒居士。丁達 更 _ Aith 物。下源 其善績。 後改 將監。 十世 人皆服 曰:小 説成の 生事相 聞 資 富田。世 妙 邦 野。距 。天和壬戌春。 雖有 人善 以 一存問 富 君中 申 居士之有 一待人 山山 冬 進」釣帷 談 仙仙 一脈 常 居 宿 將 别让 年六十有 係。于清 綱村 城一六十里。 . 则之會津。 不断矣。 能 居 聞 疾末事 于江 性 -1: 量而 1 身世 公公 為二人 JL 恶 mi 為邦 和 城 無 在 东山 族 H 天 手澤 進過 見 出 高 持 訓 界 事 能 祖 日 主 皇 桃 碰 家

孝子順 君 優 僥 視 念 儞 E I 月 年 年僅三十。機 門。以,有 。 紹實。又號。壹岐。盖 滿 不.得。因序,其世系之略及所。聞平生 而為,之銘 滿 ""左右 中偶 及今 俸 死 等無"憂慮。途 前 生 B + 惠品 則 可謂勤矣。 有 孫。 染 申 新 時 恰 日 天 肝宇 君 四。 瓜葛之故 如 。我 2 來乞... 心 上架。加 愈日 所 +11-游 進 承 别 弘 अध् 先 居 im 戲。壽考 分一付後 無所 于江 全 有"乃父之風。乙酉 身滅。一 餌 任 十之於二福 子.居 之 身葬 先」是喪"二男二女。今有三子。一日 上銷 重 外经 無效。然是與夕寐 毎年 戶 患。 同姓。其 遵 一子與 終 事 城 于 -1: 食减 前 赐,米年千 世 手 在然 調 城 者。 也。 而右 而 居 訓。戊 大 IE 南 家亡。 三滋味 次 不 之 间 寢 m 土 圆 女子 次 眞 に謂 逝。 H m 子冬。 君 雖 日 年 石。脈 一欲意 福 泯 得 功 飯山 氏 實資永二年 不 前 源 科 寺。於 應 名 然 而 遠 後 荊 酹 1. 擢 定。號"小 無 然自適。 盖 測 天 流 兩 管"州 八 家 如 戲居 調 長 113 # 次。 年 聞 + 氏。 常。 三 m 心 嵗 此之 而 輔 政 。息意 芝蘭 九月 चि 紹 古 右 E 肥 前 П 辭 玆 雷 ナレ 時 衛 質

> 顯於 小 不一紛 義。坐致、太平。寬以 活 逐 滪 自 知 東與。途 晚 在 林 輔善政。言 白 逈 塔 出 起 部 刻 家聲。 鈋 ||家 容 行 完 以 一始 有 物 12+1 親 仁 終 聞 毁 T 以 人性。 載 匠以 節 傾 初 面 誠 融 丽 治屯 見 小社 靜 果 侍 愛。生死 不, 於,功 到 成 主。 懐介 30 形势 動。 間 彻文 思

實 水 年 開 形 兀 Ill 次 第 旃 蒙作 代 嗣 HILL 加 mi. 沙 15 門雪 結 制 之前 村 香 型。 Ξ H

時

天 親 室 源 慶公禪 膝 外 記 定 爲二十三 門敬孝 白子 回 忌之菩 提。 喜生 Ils 光 TANE 院

伊 達家 派 姓 舊 石 臣 傳 記 约 卷之下 也. 0 于 時 明 歷 和川 三月 + П

齋藤外記永門

罪 恋 頃。浪 1 有 舊 藤 テ 15 外 十蟹四郎兵衛ト云者惡黨ヲ倡 采地 記 = 1 永 PH ヲ没收 テ 勇 姓 猛 20 セ 族 1 -1: ラ 原 いつ ナ 也 ソコ 未 然 洪 + IV 出 = 七 自 君 世 50 7 甞 政 詳 宗 道 テ 中 -京 君 -t = 都 ノ世 ス 於 = テ 在 永 荷 門 家 =/

同下元

和

元

於テ

合戰

シ、盃

7

賜

ラ

國二往

力居

所ヲ搜

永五

年

戊辰

129

門四四

方

=

周

當家

7

背テ

備

フ

12

y

再

E

級

7

フ。其

家今ニ

撃テ其首ヲ上覧ニ備フ。 長十九年甲寅。 テ下郡山ヲ 二。文 リ得テ言上ス。捕 流 年 ルニ ,首註 出 之ヲ 達 F 因 = 奔 乙卯 月十 得 都 2 級緊 頭 出 テ テ之ヲ索 攝州 因テ。相馬領野 汉 = ス。永門ニ 秘藏 盤ヲ 文齋藤外記 迎 7 リ。君 獲テ 五 在 ナレ 命 と素 H 月六日。 大阪 キノ 2 坚 ス せ 歸 。元和 リッ = 0 北 取 ラ 本領 ルで、腰 ノ役ニ 扩 ム。越ノ 命有 命 in 汽 1 蟹力 功 君 今 フへ 2 永門首二級。 勇ヲ賞 = 攝 中下 ノ地ヲ賜テ 7 1 JI 忠勤 ラ テっ 1 州 其 首 賞 部 前 居 キノ命ヲ蒙リ。又彼 搜索 F 7 那 大阪 子 直 所 國 3 云地 州 欲 7 2 山 孫 E 級 ヲ言上ス撃取 2 チ 闖 王 = セ 3 相 清 1 7 玉 = Ł と。 스 = シ 玉 役。道 於ラ。下郡 二於テ。 科绘 歸り仕フ。慶 八 獲 采 敵 フ x ~ 郎卜 テ奉 中 地 因テ。 頭 テ 7 ラ 1) 明 Ł 蓝 ヲ + = IV 0 盤 仕 云 寺 加 0 隱 7 永門 7 乘 者。 永 待 寬 山 則 口 增 入 7 w 役。亦 公。 元成 居士 地數邑。 摒 橋。須賀川之役。各有 他、天正十三年 射。御。書。數。 馬場。常娶。長尾氏 公 命 香山公。賜 後藏人。復稱。出 踰 改 一有二軍 命.其 。时佐 姓 棚 有一戰 平 源。平 馬場 间 入 賀 功。 城中 嫡 藤氏。元 伊達郡 十九年甲 功。宽 稱 出雲源 增 採 馬 且 源 一。被 采 水五 地 馬

親成之墓 無為 山 東 H 寺

流落シ

ラ

伊

物

ヲ

侵

ス

。君

テ。八町

月驛

+

ノ命

7

馬之民。爭山不、決訟、於幕府。公選、 後摺上原之役。先,衆而入,會津本陣,獲,首級 賀武藏守源義信。二 乙酉。小手森之役得 雲。曾祖藏人儀成。始仕。當家第十三世 好。武事 場。祖父參河 藏義門。復二本 生四 龜元年庚午三月八日生 寅。元和 創 '場村等之采地'。住"于馬場城'。依」公 。戰功。慶 思 年戊辰 **喬激途擊** 男二女。其性有一智而 仕。第十七世貞 字 元年 伊 ·稱"宗 技 質 稱平質。其 具郡 五年白石之役。先登拔 其寇。公賞 少小 成 世之後 首級。時年十六。 主之者。居士 成。 筀 仕。第十四 攝 市邑之民 第 州 Ill 庶 裔也、父丹 二十 大 共 流 公 幼 。其餘人収 勇敢, 阪 功 一思遇 至一个称 名卯 世 111 兩 與相 當。洪 賜 度之 肯 直 果 善 松。 共 後 Ill Ili

之交。 典罪: 稱似 還。果 問 同僚佐 長子藏人武成,為"大立目家之嗣,先殁。仲 迎"公駕於私亭。家門之榮何以加」之。今亦 自書於佐藤甚十郎吉信。深惜 衛口成。以立"別家。公為」之三日不」視 成受,家。叔子大隅天。頒,與采地三十貫文。於季子彥兵 城北無爲山東昌禪寺。法名圓甫宗覺居士。 市右衛門・遠藤太左衛門各為。其主一殉死。 其宅 訪 罹,病踰,年不,痊 依"居士之言,解"公之怒,者亦多矣。 學。赴...于 勝之。 不 其他若 廉崩。 公解 々若 措、 江府 病 且問"其所」冀之志。居士拜伏日 同年二月二日歿。行年六十有二。 狄元綱·有.隙。公聞,之頗惡,元綱 元綱 "其怒。嘆,美居士不思以"私怨! 公賞"其功」賜"青江刀。甞 ·矢目伊兵衛常重·青木長兵衛 之山 。同八年辛未正月二十九日 自悔,其非,谢,罪。 告、衆曰。 吾若 其死。家嗣 不一勝 塗與"居 同七年 朝。 為出 害。公事。此人 述 何 共葬,于州之 且過、符。 常 子才兵衛常 號.大秀院。 論。則 言。 病篤 利 士 庚午之冬。 入司。時 今日 成 家隷 一。居 直等。 為 清請 其 士 公就 不一復 不過 斷 其 上 後 爲 賜 興 皆 書 咸 木 屢 謝 金

> 於吉信 碑文漫滅 住 太虚 以 和 是以 為 尚。新 家 就 珍。既 更 東昌寺,修,佛 其碑 illi 星霜 略 記 百三十有 專。且 其 行 實 請 \equiv m 居 年 刻之 士及院號 坡墓 就 荒 於

資曆 十三年癸未二月 二日

當

支孫 平賀 H 邊希 源 藏 源義雅 文代撰 謹 且 書

玉堂善 琢

馬 行 場 年四 出 雲親 十三。俗名 成 家隷 上木市右 爲 其 主 列 衛 死 PH

清 心 紹

馬 場出 年 三十八。俗名遠藤太左 雲親成家就 爲 其 主 一殉死。 衛

德隣院仁叟源

誠

居士

遠

Ш

覺範

亦優渥 賜 近 君姓源。 原 朝班。五年為、執政職。又進、朝班。子孫以 夜匪 先是天明三年。累進留 族平賀 解 浉 詩義雅 與 機密。 歷 稱 憲 事 人。君 五 生于江 世 前後 弱冠始仕。 戶 邸 多。功勞。君恩 此 庇 世 時 左右暱 以 例 其

班。宽 勞三增,田為,一 乃葬...于 日 真。龍 生 政八年 隊卒三十人一焉。 以以 城 北 章和二年秋八月十九日,而沒。年七十八 如為 女。立 遠山覺範寺。奉職之間。凡五十有七年。賞 致仕老..于家。 千石之祿。 為政 予省 孫 耒 111 簡。清淨爲,主。君甞 聞。諸其人。君之爲人 賜"采地于東山小萩莊大原 君以"享保十年春 厥 祀 一。鉛曰 正月二十 娶 中 也 事 地

後.其 兹其人。 身 ाति 身先。外,其身,而身存。吾聞 "其語」矣。庶幾

男三

嫡

高 平 盛行 亮謹撰 敬書

五 峯 ılı 松音

股邑。於是始以 冠二十一 衛門。以"天 考姓 世 旅 正元年癸酉 原 K 五位下近江守藤原助 應股 應股。 氏焉 某月 小字 爾來連綿 興. 日 而 市 神 生 焉。 重 隆。住 至.于 助 先 後 於伊 高 出 號 祖 自 考壹岐 Ŧi. 達 大職 郡 郎 右 應

> 藏。圖 十月。越後領主上杉源景勝。 其 後 葬之於城 四 郡 四 已二級。其一者騎士也。時四十三歲。當時 和元年乙卯。扈"從大阪之役于黃門君。屢有 大兵于羽州 刑部大輔義光君。 助 助 植,之以,松樹。經 相從之家臣子孫今猶存焉。 年丁丑 亦事。稙宗君。 國。始事 事實 部下一十二稔于兹。前 年。後祇 來子孫不ご詳 書,喜右衛門 是乃欲。分。裔裔詳,其大概 秋 東五峯 役而來,往于江戶亦八年。 。於我本州太守尚宗君。 九月十五 而退 施 厥 星霜 山松音 北越兵。 君請。援兵于我黃門政宗君。於是加 及先生在"其中。時 祖 至, 祖考常慶先生。慶長五年庚子冬 日。行 後 塋 m 末 也 寺。 枯 仕凡三十有二年 此 放是歲 爾後因。公務一而勤勞。已十 朽。其墓 年六十五 築。墓日 出,兵而攻,羽州城主最上 時 同 屢有。功勞。曾 云 姓 新 地 A歲。 一之快翁常慶 士門 又勤,于本州柴田 二十 立石 幾陵 個 桐 有八 鹿股 所、取之鞍及 刻 灰 "戰功。斬者 夷 mi 於 学 卒 肥 诚 寬 加 于 心前。大 是 先生 Mi 又元 考 水 家。 怼 秀 +

藤原利助謹誌

寬永十五年戊寅

法龍山佛眼寺

八月二十一日

妙

法

1: 14

光

德院

窓月

H

関

和久半左衛門尉墓誌之銘

問"其 十五 太 狮 能 公 先生姓藤原。氏和久。諱是安、號、宇左衛門。父和久宗是。 歸。二十三日 生詩。屛。其 藤原利仁。先生孝 號"义兵 田郡 通話 一矣。 illi 日到: 學 使狀於太守。太守具告,其狀於將軍。乃使,先生書 。爱慶長十九年冬十月。受,君命 自 衛。引 草草 音。 野州 约 書 左右 又善 化 于豐臣 次,于豆州 和久掃部之女也。其先出」自 為世 小山邑。 一告。密旨。政宗卿不二肯受二命。 馭 悌 馬。 廉耻。 所 一种 秀賴 三島邑。見、抅之。 遇,於與州太守政宗卿。於,是先 逢,於森左 且多,才藝。肖 焉。又學。呂律 公 得 近幸 源太吉則者 使 于奥州 賜 從 於大森宗 "鎮守府將 於殿下 將 軍 得 於 秀 先 펣 仙 其 忠公 生 信 攝 尹 秘 州 mi 軍

> 門。佐 圓 之坐。先生築。室於栗原郡沼倉村 來,於仙臺。太守接遇甚厚,乃與,百貫文之食邑。命 以 慷 言 共旨 五 衛門。先生晚年筆 氏。生二子。 將軍終以,先生,賜 先生日。 召 寺。 一概。其父宗是以上陰,德於太守。太守屢乞,先生之生。又 年八月廿 門生一曰。 毫髮 書慰"問先生於獄中」數回。元和 趣以献北之。太守觀,先生之草書,大歎,賞之。且 野平 無遠也。將 兵衛監 護之。先生在 吾子之手蹟 始覺 長曰: 日。春秋六十有 勢益進 "筆下滑 "信是。號」掃部。次男日,信安。號,年 "太守。歡遣"使者」迎之。其六月先 軍、幽 勝,於平日,甚遠矣。其旨趣與,吾 "繫於三島。使"郡東井出藤 從之習學者夥 健 共 。葬.于 明 。狱中二十餘 一居焉。先生娶..于織 日 二年五 没矣 栗原郡 矣。 于 月二十六日。 易 月。共 宮野 時 が江江 寬 近 村 削 水 志 左 告 妙 田 生 氣 衛 + H 右 習

銘曰

公。為"近智臣。藝術入」妙。筆蹟有,神,持,蘇武節。奮公和久是安。本大阪人。其先祖者。出,自,利仁。仕,秀賴

頻。思難既解。 不」願」身。上,鄒陽書。惟慷嘗」辛。東與太守。乞,其生 一。鳴呼終焉。歸眞 接遇益親。 賜"百貫祿。才名彌振。壽六

于」時元祿七甲戌二月吉日

孝子和久年右衛門尉信安建之 儒學講官橫山謙益魯靜叟誌焉

實齋圓眞居士

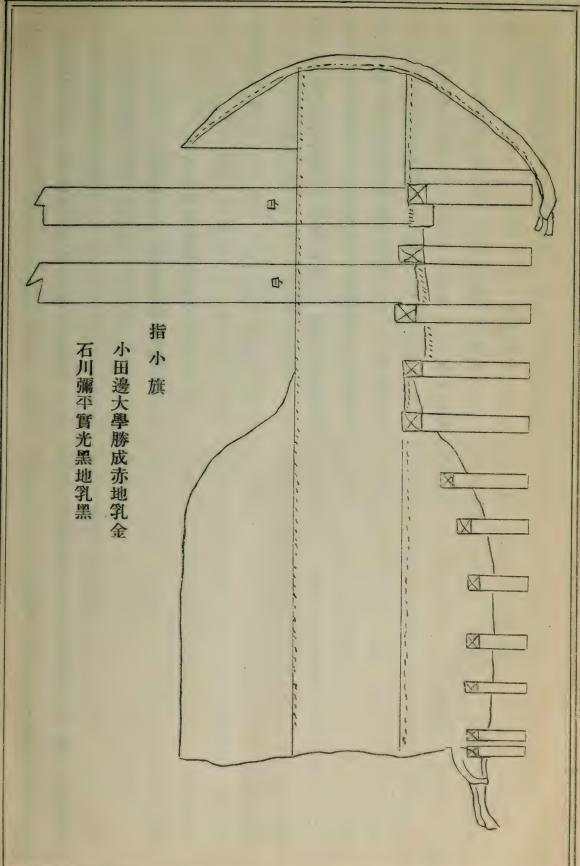
微笑山江岩寺

今泉山城清信之墓

子治部定信。其子正左衛門常信。其子 葬,于仙臺城 凱旋之後。賞」之加,賜三百石餘之地。其在,田 藏盛仲。小田部大學勝成一共為,步小姓隊將。頗有,戰功。 家之世臣。而與州高埜郡田村莊三春之產也。田 居士姓坂上。以「今泉、為、稱號。諱清信。 有。武功。寬永十六年己卯三月七日歿。 嗣。喪地之後仕,貞山公。攝州大阪冬夏之役。與,牧野大 北微笑山江岩禪寺。其 子覺左 孫四 俗稱 行年 衛門重 郎 一村家 山 親 八十有 村家 城。田 信 信。其 亦數 业子 村

> 丁百 午三月來孫亮信謹誌 太夫亮信。 回忌辰 埋之於塋中 相 総世 献 歷 新建一碑云、爾。元文三年戊 年之多其碑文字糊塗。 今兹

軍



天 IE. + 六 年 六 月二 日 庚 戍。 小 田 大 學 助 = 指 物 仕

立

サ

せ

F

サ

12

答 箱 舊 武 邊 小 7 勇 用 テ 臣 H 取 1 日 浴 拔 字 大 V ユ 。琵琶 書 學 群 IJ 12 3/ 筋 1 テ 落 助 F I 云 F 者 7 せ 7 去 吹 ナ 师 N 1 12 箱 0 IV 流 リ ナ 見 = 天 C 戰 ナ ラ 3/ 納 指 正 哥 = 1 3 2 物 + 0 用 危 12 四 流 1 小 -E 23 赤 车 小 蹈 汉 田 不 色 以 田 17 邊 111 琵 來 邊 0 强 テ 琶 當 大學 元 引 其 1 箱 家 祭 意 7 助 1 = 本 事 旨 ナ 愈。 形 召 松 ナ y 7 使 = 問 自 + 日 制 1 我 フ 記 山 3/ w 義 是 = =

慶長 陣 張 木 右 テ 直 衛門 1 1 3 际 Ti i 13 Fi. 須 II. 人數 所 方 年 × 11 Ш P = 人 八 7 扰 打 1 出 败 削 守 月 島 間 合 陣 小 = 3 = せ + K 抱 11/ 0 樣子 相 須 テ 四 堀 嘗 對]1] 戰 H 沙水 法 見 甲 7 Mi E 山 越 合 テ 子 せ 有 1 少 テ -3-ラ テ 111 相 K 打 w 淮 伊 形 0 備 討 出 退 達 敵 7 捕 サ J 叶 政 0 庫 1 2 12 景 E 初 間 0 2 難 諸 × 然 樣 沼) 勢 3/ 諸 時 躰 V 木 7 勢 故 F 品 = 7 沼 春 試 率 モ = = 敵 木 沼 H 出 2 E

哥 入 方 邑 ソ 彌 大 得 名 ス = 3 37 3 3 出 膀 打 學 7 此 引 見 木 テ 成 テ F 乘 3 平 3/ = 3 0 著 呼 度 云 向 立 1] 退 工 1 透 7 1 1 大音 合戦 ス 。然 枝 赤 庫 庫 歸 打 ラ ラ 荒 27 4 E カ 11 。某 中 琵 w 赤 テ ス 1 3/ せ = 大 7 70 1 IV 0 文 時。 是 琶箱 琵 引 汉 -ス 學 4 揚 時 力 21 -0 制黑 於 琶 7 掛 IJ 武 前 兩 石 -大 因 1 此 時 外 ラ 1 y 學 政宗 1 首 者 テ琶 人 蕸 テ 指 111 = 指 指 新新 3 夕 强 强 投 修 立 砲 商红 助 大 物 物 討 w 45 行 所 出 兩 歸 數 家 平 随 ヲ 學 緒证 指 7 7 1: 曹 大 兆 見 1 4 ス 人 差 リ = 3 電子二筋に 0 指 タ 0 0 者 型型 某 光 ラ 相 所 1 1) 物 1 其 。件 大學 敵 IV テ 0 ナ 働 E 鐵 , 1 = F 叉 武 指 二指物 大 即 IJ 中 黑琵 云 7 졘 = 木 1 解 直 物 者 秀 チ 者 無 時 稱 1 武 v 付小 首 馬也 爾 7 江 琶箱 7 ナ 7 上 せ 者 恙 枝 馬 彌 Mi 合 木 來 平 1) E 手 吹き ス ~ 打 = 計 出 平 所 -1-1) 大 流以 1 Mi 7 1 返 引 品 則 取 枝 指 學 小 來 福 具. 0 撑 二種 琵 3 w フリ 田 敵 物 V 1) 4 足 ナ 各 間 3 テ 用箱 送 所 15 C Mi 1) TEX 1) 其 沂 部 1) 既 , 。 IV 13 赤 送 吹 問 名 77 1 大 不形 兩 1 = リ 平 1) = 琵 凡 進 學 乘 敵 危 流 心 乘 人 " 7 = 0

点話 指 伹 人 大 勇 指 方 3 席 召 公 大學 新花 馬 今 夫 武 物 テ 1 = 。某 働 云 具 事 度 義繼 上 テ 於 琶 世 ナ 込 問 = 賴 馬他 フ 武 せ > Æ = IJ テ 赤 ナ 0 招 ラ 申 房 走 庫 = 取自 御 知 1 大 琵 1) 但 家 サ 卿 テ 久 せ 武 中 ラ モ 南 琶 7 馬 -1: 7 久 1) ラ w 頭 馬 = 大學 物 坐 3/ 松 Ü 其 談 w 御 3/ w 7 13 = 語 ラ = 皮菱 本) 由 折 第 中 y 名 並 31 せ 제 3 安 + 7 大 須 0 ラ 節 テ 7 1 = テ 御 否 ラ セ ス 學 加了 彌 1 0 於 大學 稱 御 在 w 相 挨 ラ ナ 1 計 4: JII 毛 其 テ 働 記 せ 出 拟 w 彌 1 3/ 此 物 0 家 小 大 ラ 且 . 0 = 7 7 T 平 7 節 習 諸 他 學 ソ、 見 12 ツ 其 1 H ---此 相 F 也 堂殿 武 邊) - | -其 於 V 丰 工 = 本 司 節 名 组 = 大 異 時 丰 小 ス テ 松 1 ネ 出 7 久 用你 0 武 テ H 御 废 殿 0 -毛 得 羽 家 1) V 者 最 Ш 茂 邊 諸 本 數 莊 後 守 汉 中 シ テ 修 成 大 度 松 \mathbf{H} 頭 = E 備 21 IJ 殿 F 3 某 學 相 庫 公 武 113 遠 行 7 Ш) 頭 王 1) 七 働 者 旅 中 主 御 田 水 因 せ 7 Ill 傳 彌 出 噩 殿 商 = 供 1 氏 戸 テ 7 右 3/ 佣 フっ テ。 4 於 某 者 7 中 兩 顯 京 7 = 馬 账 =

1

7

臺 武 鑑 卷之十 佐 藤 信 直

著

仙

小

守 兼 續 RK 州 攻 條

箱 退 物 箱 左 稱 庫 右 田 ナ E 1 1 1 樂 差 美 覺 邊 1) 爲 ---施 器 敵 馬 物 大 せ 力 ~ 直 馬 學 17 不 ナ 7 7 江 = 又 削 御 IJ 朋务 乘 指 山 審 Ł 方 成 5 不 出 3/ 城 力 其 共 赤 審 2 2 1 調 理 兩 0 0 琵 申 力 小 兩 ヲ 7 E ナ ス 可 引 -1-H 科练 表 1 抑 邊 1 = 表 章 7 差 可上韓 某 大 云 者 並 物 ナ 學 り。 等 ナ y 勝 働 IJ 疑 然 石 Ill 人 成 問 1 7 ラ]1] 笑 城 深 1 T ili 1 彌 守 指 テ y 强 クー 城 45 0 大 物 TE. 守 質 敵 兩 21 人 光 0 T 7 -殊 感 琵 殿 見 黑 カ 1 = 3/ 勇 御 熄火 琵 琶 テ 顧 仰 引 指 語 3

占 附 琶 7! 中 置 古 F 7 IV 內 云 夕 記 此 な。 山秀 V = 旗 中吉 1 納 山ノ 此 久 吹 城命 守サ 中 w 流 作奉 琵 = 之テ 1 在 琶 幅 テ。 ナ 日 IJ 勝 油 周川 成 = 常 敵 筋 曾 = 1 引 光 引 吹 通 間 流 1 13 敷 1 1) 1 F 旗 0 差 箱 1 1 物 銷 1 H 1 盖 加 3 C 琵 " ナ ヲ

津 四 家 合考 日 伊 達 3 1) 最 上 ~ 1 加 势 加 帅泼 紋 易焉。自是其問

及

弱

4

對日。

夫軍之勝敗

雖

固

琶 ナ り。 我 琵琶敵 ニ引ケ 1 云ノ放ト ツ云

な。

封 内名 蹟志卷六 名

取 那

郡山村 屋代勘 辨 北 由 目 居 城 一焉。同 加: 條。 五 慶長 年秋。北越豪將長尾景勝。 中黄 何君 在 此 城 。後令"家臣 令:家

臣直

ir.

山城

率,兵攻"出

羽守義光朝

臣于

最

上。

請

援

兵

功而

優.彌

平之對

于黄門 在此 津田豐前 隊。三 君。 為"次軍"。 陣乃名 乃以"伊達 取 佐々布淡 北三十三鄉 上野 介政 路 為軍 景,将,三 兵。 監。 四 Mi 其 百 他 馬 南 = 國 為 + 分 削 三鄉 上贯 鋒

馬。石 兵。五 [Sili JII 彌 保 平 土原江 為 遊騎。 南。武 十月朔會"北 Ili 修 理同 彌滅 越主 等 也。 將 大石 以 遠 常 陸于 藤 1日

長谷堂。戰一戶 H 徐騎二 殘 闸 兵縋 山 TIL. 儿 戰 + 颇 騎 基 死 III 傷 城 Ħ. 亦 多。 敗 走還水澤。 常 陸 戰 不 我 利 兵

各班。師 Ei 歪...圆 自 小 見 别上 市下。 一度力戦 於是 未 君 育 問。軍議 如此 于但 强 敵。北 馬。彌 燕之兵氣 平一。 11 馬

> 依. 時 未敢 有斯斯 越之兵惟精銳 連。 會 言 耶。想夫 於强敵 質出. 謀略 哉 彼武 而致。其 但 馬 之疎密主將之勇臆 毅勇敢。 4 勝敗者 日以"勇 毎 力建 歟。 敢 m 一動于 贵門 負馬。 士卒之强弱。 君 弱 兵之間。 稱 如今何 但 馬之 而 北 究

彌 語 郛" 凡 與 石川彌平慷慨之士也。平日以,勇武 信許 平 也大學 小田邊 而 不一層 分"其色」敵 襲來 於 大學 人也。 区义 , 豈敢當, 之乎, 盡敗 NI I 一並稱、 而直 兵望之。 此 兩氏 الما 日 不風之彌平 有家 大學不」願! 毎 N 乃言 走 傳 旗。 而 黑 自負馬。 如 左 以。亦 乘入之大學 **港** 琶 娜平 崩 右 和 mi 黑琵 仍 Mi 赤琵 琶外 通 圆

村 上道慶碑

氣 仙 制

於葛 村 先世々因 被。略"釆地" E 織 西家。子 部 通 州之武 淨, 是以父宮內者流,落氣仙 孫相 號道慶。東 人也。遠祖 新线 刚 于土。 奥氣 华人者,嘉吉中水,束 天正中 仙 郡 為西家 高 初。 H 村 至 之人也。 為秀 其子 兜。仕 織 吉 公 江

今中流 傳"之口 逐 書,遺命,而 爭.漁日多寡。而日 三年丙寅十月,耳 正保元年甲申十一月二十日也。爾來至,平今一百餘年。 威動。止,其爭,祭,之爲,川神。浮圖證,之日,通岸道慶。時 請汝等 數一衆不、從、之。織 爲, 農民。郡 延享 為和 गिरा 碑 自刎勁。首體分。流乎 丙 而村民守,其遺言。且飲食必祭焉。 泰然自刎頸。首體之流逐如。其言 寅 睦。衆笑而不」肯。 有川流。於今泉。高田 十月二十日 部誓曰。吾行年八十六。 孫奉,歲時之祭祀,建,石碑其 々鬪酸不」止。織部判之。 於是織 兩涯」焉。此言若不, 違。則 耳孫 兩村之界。兩村 林右衛門立焉 部詠 殘 一解世 命無幾 也。衆愕然 以。等分日 兹載延享 河 邊 和 漁者 心心 矣 歌

誠 あ 32 や此 身を捨て行水の瀨は淵となる末の世ま

辭

世

歌

ても

濁なき名にあふ水の哀けれ世のあた浪にうき沈む

身を

聞, 堯舜之道。則止, 其爭 國之遺風而非中行。然亦可謂。烈士,矣。 爲重、之矣。通淨以,其重 人命之重也 。泰山猶爲輕之矣。人命之輕也。 而全.其命 而輕之。以死利 人 惜 哉使之 盖 毫毛 雖 戰 猶

延享丙寅十月 H 相

原友直 誌之

慶安元戊子年

假名川村孫 兵衛

普徹聖公為,菩提,也

閩十月二十七日

孝子敬白

奥州牡鹿郡門脇大鈎村。 大鈎山龍觀院普誓寺

開 某畧記

蒙。眷遇。能守」忠而不」諛 **壯時事**。毛利 流,入,之於府中。人愈悅,其利澤,立牌堰役。不,踰 鱗。至.重吉.亦有.四乳。惟敏 重吉長州人。祖父常吉。沈 原夫當寺者。 輝元卿。後有、故來、奧域。 信心檀 那川村 務 勇淸操。且 達事 職 放 孫 而不。倦。鑿,溝渠,引,河 理。殊 兵 有 衛 重吉 罪 精 事.. 邦君政宗 相 於 所 元 算數 創 肠 水 立 有 利。 心。 卿 二音 而

富庶。 賴定 小田原 駕於川村重吉第。重吉大咸"悅之。既遠駕之後隨 并郡猿澤村·名取 堤置,巨竈 家安泰。君臣和調。武運長久。自他 鎖可門存 第宅。直 正保年中春。嗣君太守忠宗卿。遊,獵于遠島山。因枉 分, 與之。寬永十三年丙子五月二十四日政宗卿逝。其 與家督元吉。其餘附。屬二人養子。乃至。親族貧困者,悉 又白"太守,於" 謂"富國利民之功臣 銀宜,產之地 渠敛通、利。 宏傑之舊臣。 然無。息 南 以,其材木 心敬畏。豐為其 目村數所。賜。釆地、凡三千 介燒鹽。 如神。 紙,田數千頃以樂,水旱之憂。或辟,草萊原 男 तित 恩祿三千餘斛之內,以一千二百斛,讓 成。膏腹之田幾萬 有"一女子。重吉以 郡 一欲,造,管 乃以"第三男元吉,為"壻使 下鄉早股村·牡鹿郡大鉤村·宮 一也。太守賞"其功,賜」咸書。且於「磐 或 前後言,諸事便宜,不,可,勝計。可, 視 察州內之山形土色。能 下一者。 一寺以爲。尊 須怨…座 如意祈禱蘭若也 頃。或海濱處々築,長 餘斛。 為加 其 藤 君曾 處。 喜右衛 是以 と対象 宜 所來 家 家 作 一徹 知 門尉 城郡 族 督。 金 隔。 貴 後 於 國 漸 其

> 也 ·今以"牡鹿郡大鉤村,賜"六十三斛,可,為" 守。太守嗟嘆不、輟。即使,元吉無、違,彼遺言。且命曰 病 辨 月二十七日。七十四歲卒。元吉繼,其志。具達,其意趣太 戲愛,敬主君,之志至矣。 親眷屬等。速證菩提。善願之道場也 元吉家世子々孫々。安穩長壽。無障無礙 正統、累葉累代。息災繁榮。 法印 因 以為不能。平復。 號」寺謂。龍觀院普誓寺云。抑當院者。大檀 為開山之始祖。 放遺"囑元吉。慶安元年戊子閏 叉將 雖,有,其志,竟未,果 邦家豐饒之祈 招調而 卷壽福寺現 先考先妣。六 派诗 永代寺領 所 而身]1] 越 婴族 住 國 村 自 老 君 宥 姓 +

時寬文七年歲舍丁未春三月二十一日

大鉤山龍觀院普誓寺第三世法印宥源記焉

伊達家舊臣傳記卷下

JII

村

孫兵

事 川 郡 村 司 テ其指揮 久 孫 り。 兵衛 郡郡チ司 ス 元吉 12 四分シテ。之チ指揮ス 所ノ 八。二十 郡山 世 中 綱 大 村 = 。智 君 选 ラ世。 有 7 テ 生 能 寛文延 3/ K 4 樹 之カ 通 ブ問 ス。 寫

水 凡 所 テ日 ナリっ一 テ 殺 Ш 僧 所多 ラ H 7 = ム。人皆 一。又非 各螺 其 枯 x 7 那 > 林 = ス 聲 其 至 遣 司 3/ 口 フ = w 。之ヲ 。後 り。 テ元 貝ヲ 。元吉乃 = 音 分 1 3 歲 = 何 ラ テ 響 ナ 置 應 列 F 貯 那 ノ用 郡 遷 至 吉 持 或 云。 1) ナ 2 = 中 中 除 テ n テ 驚 Ш 來 テ 3 テ シ 所 蝗 出 尼 夕 = 旣 7 + レ、且 識 テ x 林 海 1 那 分 ヲ生 入 間 IV 1 = 幾 墨 邊 數 テ 悉 = 鷄糞 디 農 3/ 中 初订 7 3 日 來リ。修 年 零 H 7 () 君[5 事 3 テ 如 + = 2 1 衆 兒 零 ツ 亦 衆僧 ヲ 大 中ノ 令 7 ナ = ク 何 家 或 T タ ~ 苞 僧 モ = 知 便 2 h 各畜 ŋ 3/ IV 1 直 黎首 ナ 穀 テ 齊 齊 驗 ラ モ 1) ナ 0 0 所 溝 僧 日 7 7 ス シ = IV 3/ ス 衆皆 黎首 フ 21 TIL. 害 各杖 3 及 所 21 7 力 n 如此 所 某 松 ヲ テ テ。 ス。 螺 螺 E = 1 此 開 之 進 7 1 黎首 者。 蝗 聲 貝 7 1 元 植 テ 鷄 各 ヲ = ス 日 持 悉 7 ナ ヲ 吉乃 元吉 垄 田 打 杖 水 w 近 テ 吹 揚 7 來 ク 7 畝 7 殺 海 ナ = 郡 0 7 死 指 7 v 癔 水 チ 貯 以 諸 丰 7 カ 3 0 揮 1 3 為 7 令 修 所 數 吏 ラ テ 果 テ 0 ス 3/ 避 引 去 然 其 驗 之 打 n = 0 3 年 シ 3 C

空一

病

間

日

當

執。對于

先

生

- 得. 画

欽

數矣

想

洪

不心思

亚

僕

m

不

用

僧

儀

也

從

其

言

11

其

来

食乃赐于

,其見。

主

死

則

型

諦

先生之片言巨筆

以誌之。

何

賜

加

FI.

所

之餘

其

志

之家督 羽柴左 奉、謁"黄 十九 門尉。 始讀 品品 主之兄 可"以 歎 城 主 主 也。 武 自自 郡 日 亦 金吾秀治。一 書 於 唱 門門 之產 殁。 預 州 見 列 使一 稱此水 州 常 有 馬 江 因 之國 年 露。 馬 陪 。赐采 我 戶 也 時 僅 主為"之句讀。一 其 聞 筵 姓 同 河 分 14 以 子。父 者 侧 主幼志,于文字。元和 十四 僚 繙 藤 地 仕 那 識者 磞 慶家 皆 原 經經 们 於 初 追 知之。 有 。氏富岡 州之栗 林 臺 典。忠宗君之玉胤 成 共 悼 春 郭 見 忠宗君。是奥州 焉。 。母細 死 之 遇。久,之吏 謁 日 慶安 旦逮"其不幸。一 原郡 。後更爲 覺範 遠 川氏。 孫 主每一有一眼 乃 Ш 太郎 二年 有 請 覺 寺 賀 日。 一成 七 範 聽那 婴 聊 生生 村。 贵 年 拾 寺 擬 風 仕于州 號 遺光宗 寬 門 主 福 學"兵法 成 主哀 疾 獄 政 主 谷 越 永 品 宗卿 The 成 之 旣 傳 九 那豐 訟。 m 秋 慕 君 年 + 主 左 後

時

六

衛

州

頸

谷

别 誠 而 者 亦 心者 之鳴 - 歟。固 也 請 哀 矣。 先 生之有 而 鳥之不如 所 愍。途 休 惻 書以 平 也。 古古 與之。 强之弗 1 有 恨

Ill 措 先生 我 別 13 颜 巷 不 即 能 不 有 中 節之哀

鳥乎。固請作"所請。我聞作"先葬。其言作"其志。鳥之不如作" 山 四 三谷 生不 主石 聞如 誌 作"旨合"。拾遺作"越好兄作"親族。郡獄作"州 牧獄 空作,

慶 安 四 411 年

> 法 龍 UI 佛 服

題 B E 月 菲 林 道 春 信 士

讀し

り。右 1: 娘 佛 碑 0) 0) 將 有 石 3 眼 あ 所 寺 軍 散 と云。右 は は な 過 泐 欠た 6, 。文字 娘 去帳 同 1 は三月十六 孫 る石なり、 0) に云 育 漫 は 元 0) 黑川 漶 祖 方 唐 殆 1-な 君IS 將 不 日今の 今不...見得 5 至 大 軍 と云。 可 h 爪 0 蓮 0) 非 配 住 あ 更 將 所 坐 大 h 法 俟 は 軍 御 野 號 題 後 0) 久 傳 は 目 俗 黑川 改 太夫 30 過 0 名王翼將 去帳 石 松 郡 と一大。 資 茂 1= 0 壽 0 有。 軍 あ 慕

> 角 被 貞山 服 を 申 仰 立 E 部 前 將 嘉 初 右 5 被 下置 候 寺 1= 上 兼 付 之 え度 軍 唐將 永六 T 云。亭 處。 竟 田 樣 出 住 候 候 F F 翼。姓 居 處 間 癸丑 御 軍 畑 K 永元 置 和 旨 被 仕 植 代 右 御 质 被 て。 汰 御 事 幕 候 付 年 三百 召 領 は 年 安 云々。 仰 處 仕 相 當家え罷 詳 内 出 E 由 不 四 諸 渡 候 1-成 貞 石 月 名 來 圖。右 は 候 年 に付。 不 -1-相 傳 は 候 は翼 治 五 山 IE 所 午 方 直 處。 頂 日。 申 樣 馬 月 久 出 候 系 御 戴 其 と申 御 候 1---太 計 老 右 爲 左 圖 不一仕 思 発 承 頃 夫 嶽 年 差 御 付。 候 召 被 **VI** 化 る H 佛 1-え登 上 褒美 書 im 依 H 九 您 成 候 年 相 相 候 大 法之學 留 青 十三 下。 間 成 樣 N JE h 置 根 御 明 來 心 北 別 四 候 被 流沃 な 之人 诚 候 知 安 七 人 _ im 依 仰 t 燒 御 (-1 行 番 日 分 1 御 · 倚現 拔 御 渡 四 4-付 mi 住 用 御 御 T 紀住銀日 祈 候 候 病 百 御 由 四 居 1-企 派 同 所語 IN MI 死 坐 石 仕 8 當 刑詩 Ti. 候。 被 付 叫 佛 兩 基 度 相 近 御 1= HI

明將軍王翼印



藏所門衛右作野大

字

梵

兩部山覺性院

盛方國分彥九郎息男玄性房

梵字覺性院開山權大僧都法印實永菩提也

明曆元乙未年〇〇四月〇〇日寂

焚字

()友弟敬白

伊達盛重公傳

伊 彦九 中 大 達 織 間 氏 冠 郎 爲 名盛 後 國 足大臣八代。 分能 更 重 能 登守盛氏 初 発守。 名 政 復。舊 重。 從三位 嗣。名 父左 一姓。最 盛 中 京 後 納 大 重 日:參 夫 言無民 幼 八晴宗。 击 河。其 E 部 九 母 卿 先 郎。後 岩 藤 出 城 原 自 氏。 Ili 字

製 壬辰。宗 大輔 廣子 軍 朝 稱 征 佐 軍 五. 源 年 海 採 日 日 顯家卿 中 次 一代 其 內。元弘三年癸酉夏五 伊 時政宗卒。將 月 取 彈 U 郎。 子宗 子。行 行宗。 藏 顯家 達 湿 朝宗 村 長 JE. 舆 人大 氏 洲 常 井 十代日」之朝宗。住。常州 沙 遠 叙 軍 遠 莊 丽 遠 卿 朝宗遠父子二人。 。是其始矣。 逆 陸 壓 夫 會 後 興 一入。京二焉。 徒佐 入道念西。文治五年己酉 戰。死泉州安倍禁。其 相 其 併 質 政 俱就,國。不,與,其 更,名行朝 從 軍 從 領 子 氏 五位 依 一 明 賜 藤 屢 從 將 地 政 泰衡 有 Fi. 軍 F. . 宗 依子 吧下。 哭歌 位 譜 功。行 月。高 記記 日 村 下 功閥 于後 利 小 子 彈 大膳 時 二首暨自 歌。載 朝 以一般 太 將 E 不一對。 北 E 時亡。平氏 封 卒 伊 載。幸 中 軍 郎宗綱。子基 忠。其 條 大夫政宗 八弟春 村邑。 賞 在讀 宗 宗遠 達 相 從 賜 藏 村 寫 模 右 而 子從 延元二 B 叙 古 大 1 奥 嗣 免。而 守 族稍 大將 位 有子名"宗 少 之伊 乘 今 勇 雷 立 平 大 將 中 五位 集。義 宗 夫 妙 高 武 從 文和 源 顯 年 納 後 N 五 美 達 抽 残。 時 幼 賴 信 建 下 T 言 號 位 廣 郡 31: 宮 県 武 時 朝 持 群 元 卿 北 下。 村。 將 嗣 行 分 內 字 因 驴 世 年 夏 自出 美 \equiv

小小。 下兵部 年辛 戊辰 戰 竭公 州 日.左 大膳 以 日 暇 斯 將 延 以 、祭。政 侵 德三 其 杉 就 之 軍 估 兵得: 未 時 義 回 大 木。以 伐 京 B 郎 圆 字 再任 夫 距 秋八月二 少輔 稙宗。 尚 一份宗 。華名 大 我 亦 、持宗。 别 攻二六 子從 夫 大勝 2 土 明 恋愛日 將 成 成宗 亥 陪 地 自 盛 租宗 稙 軍 癸 五位下 從 舜 角 派 日 字 十四四 持字辱 義 更 出: 義 拜.天 文明十五 明 爱植宗築,城 枢 定賴 元 賜 材 聞 結 尚 名義植 義材 年 防 應 日 城 將 將 之驚 自:義 兵部 戰 戊 朝 元年 戰 舟 和宗 軍。且 赐 軍 献 卿 子 寡 朝。一 爲 滯京以仕。 自"義 少輔 問 年癸卯冬十月十日。入京謁! 秋 稲 壬子。 一大膳 有 亦 固 X 叙 達 故 將 圖 九 從。 於信 不上 階 徒 氏宗 任 月。 持將 其 軍 山 大 見罷 將 可 堂 所 故 是 從 一破一敵 夫 夫尚宗入」京賀。 且 軍 秀 成宗 義 以 時 无 軍。持宗子 氏宗 製 那 湿 行 叙 將 稙宗 位 敵 牆 速 出 福 樹功。尚宗 等 軍。永 京尚宗 子曰 雷 將 下 島 奔 子 回 衆 伺 大 家 從 軍 從 江 爲 國 一次 膳 臣 五. 間 出 本小 IE 從 五 州 居 馳 位 亦 大 出 兵 无 郎 位 涿 信以 五 下。 乞 當 夫。 八 子 年 倘 位 使 江 F 會 力 兵

以"弓 之杉芽 · 诗: 輝 伊 源 六 堂 重 故 市中 左 所乞 重 州 如 日 君賞 政宗 京 達 置 晴 男 N 隆 公.生.左中 信 部 例 稱 光嗣 日 濃 威 大 本宗。輝 女生六 賜 養 馬 達 大夫。應 守 風 且叙 城。 郡 治 有。政宗 雄 Ŀ 松 男 漸盛。隣 米 藤 後 郎 4 通 里产 。岩 東 稙宗 湿 一個 原 字從 更 愈 介 宗 氏 永 男五 將 城 城。 则 盛義 景。 彊 天 從 政 大功 大 此 義 數郡 氏 子 大。 景。 近草 IE Fi. 宣 之自 女。第 和 義 赫 爲 E 爲 位 間 第 公。 々武 一 施 一次郎 德于 東 地。 第 = 留 下。日 偃。 嗣 東 Fi. 將 始。 後 斞 七男 第八 與 守 女 名 初 軍 华 第二 男 奥 山 法 晴宗。 域 相 嫁 上 左京 冠 東 在 第三女嫁。佐 藩。永 此 其 賜 稱 目 女嫁小 三合品 圖 模守 。華名 伊 伏。 男名 子從三位 次 昭 保 机 大夫。 睛 達 且)则。 顯宗 縣 郎 光 賜 124 於是乎 修 字 那 叙 旗 分裂。 親 院 松 娶.岩 為 達 理 宗 西 則 隆。 一個 睛 兵 第 4 大 H 為 Ill Ti 竹 宗純 自 從 部 几。 夫 四 我 外 地 城 113 納 111 晴宗嗣 當.斯之時 Ŧi. 後 談 女嫁 大輔 4 伊 國 加 修 陸 Li 左 位 復 後 睛 加 心 家 京 介 逆 兼 公 理 1: 移 稱 將 Ti 则。 本 陸 奕 東 I 大 大 源 H 軍 水 元。 妙 隆 武 33 階 夫 夫 第 照 الزا 義 世

н

宫 凰 郎 米 封 重 第 雀 突 政 有 會 重 北 九 州 重 澤 男 年 家紋 持 開 津 拢 功 男 界。宰 伊 癸 宫 運 机 勝 莊 領 伸 首 雷 急遽 上 達 日 檜 11: 于 城 安 + 霆 師 学宗 分 XI 宫 + 盛 下 都 春 原 卒 達 九 四 挑 卒。政 氏 内 = 大 和 Fi. 國 城 重 郎 級。是 因 堀 沙 兵五 戰。 鄉。 分莊 於於 日 大 月 鹽 il. 幡 因 盛 外 排 輔 + 宗 重 興 復 掃 能 重 是 父 其 歲 H 小 直 日 嗣 定。司 面 登守 葦 临 命 實 数 稅 冬十 人擁 本 爱盛 泉 宗 立。盛 生 尉 是 六 城 名 姓 诚 城 也 病 高高 家 盛 萬 傳 氏 伯 兵 内 主 城 俾 m 重 第 重 之 兄 氏 辟 平 五 月 政。天 天。 有 列 陣 國 + 彈 復 臣 所 T 輝宗 右 庶 + 易 鳥 分能 就 数 女 杉 國 宮 盛 臣 遁 近 石 七 稱 嫁 E 田 從 焉 分 銃 云。 城 大 咸 重 走 日 命 首 登 八 卒 丹 小 是 城 天 夫 初 賜 屬 盛 年 更日 守 也。以"天 政宗 數 盛 後 住 梁 兵 E 時 司 伊 親 Ti 平 庚 重 隊 十三 輝 重 111 五. 治 77 從 连 戚 卿 盛 辰 兵 治。澤 宗 市 泥 百 州 彥 本 固 仍 氏 九 1111 乘 蟠。 人 其 發 年 庫 九 文 姓 置 嗣 月 城 舊 如 開 2 師 SID 勝 刚 官 郎 賜 第 口 為為 領 四。 計 逐 盛 衛 + 門 临 次 郡 + 屢 竹 雨 州

子。政 戟 前 盛 閤 守 重 其 戰 合謀 敗 田 會 備 隆 重 右 三宗。 白白 IIII 57. 重宗 收 後 庫 津 且 勵 追 重 政 義 大 15 崩 以 洛 宗 宗 敵 石 兵計 隆 北 戮 石 兵 崎 上 秀吉 父子 盛 田 兵 力力 等 兵 罹 車 學 た 川。白川 1911 數 野 伊 大敗。 甚 大 衛 _ 棲 面 當.是之 不 介 + 部 得 卿 俱 豆守。白 念 百 致 崩 自 門 戰 步 虞 政 精 進 的 執 一首 雖 督 人 。須 景。 我 殺 接 須 進 與 兵 …義隆 義 鎗 兵 相 師 房 伊 時 賀 賀 戰 逃 略 數 原 石 隆 殆 從、 攻北 政 以 。敵 111 惟 111 + 人 盛 若 田 滨 点 先 欲 画 兵 也 nii 危 餘 伊 兵 直 左 成 狹 重 期温 阿可 干 條 特 敗。 亦 于 將 人。 退 抗 馬 則 實 達 守 衆 左京 安 馬河 復 于 備 韩 小 安 助 備 進 横 伊 + 巫 盛 於 積 iffi 野 宗 例 房守 得 不 學。敵 氣 ive 兵 无 重 大 机 遁 是盛 田 之安 長、片 完。 兵 稱 得 廖 年 则 夫 走 敵 盛 敵 成 圃 T 禦 氏 嘆 戰 會 兵 兵 質 大 Ti 兵 積 重 女, 倉 頭 政 横 大 得 津 敵 引 速 亦 乘 亦 郡 小 元宗 于 敗 败。 政 年 勝 從 勝 備 從 高 出 -政 + 伊 相 庚 馬 倉。 分 接 義 盛 郎 美 元 州 達 是 六 旣 道。 出 业 隆 景 意 戰 重 濃 政 盛 im 是 小 IFF 自 把 備 綱 欲 田 太 濃 戊 盛 美 兵 時 T

中無 脂 城。十 為政 當 禄四 金 所,使 政宗 崎·為 月 原 戮 方。是 本。即 内·大山 肤 城拔 大 年 國 验 政 力。 小 宗 计 也 九 临 四 兵。 印 乙未 局等 高 4 書。慶 歲冬十二月二十八 攻 一質流 激 城 大 周 文三 7: 加 果 道 遠 學 然大戰 八 使 惠 貨 原 珂 政 藤 洪 1: 長 太閤 月二十 息館 生氏 で宮 点 甚 原 春 制 败 出 干 元 急 田 E 散 高 時 城 羽 年 戈 移 攻 鄉 左 月 福 諮 選 欲 谷 於 第 盛 入 秋 四 abi 所。 兵雕 水 校 馬 初 某。綾 匹 重 申 則 李 居 是 日 则 渠 助 四 是時 IFI. 郎 開 征 春 攻兵未 終 州 日 外 城 六 H 盛 太閤 詠 潮 門 澤 州 定 城 益 長遠 先 盛 I 氏 三將 政宗 盛 某禦之 拒 亂 口 東 师 重 誅 傳 鄉 亦 I 戰 治 I 戰 崩 藤 太閤 與"伊達安房守 舆 自 在 從 ナレ 政 興助 部。高 相 興 者 逃。 出 門 。先擊:共 班 戶 宗 名 水儿 談 盛 原 733 命 鄉 己先之來 修 州 生 分 軍 某 清 津 橋 重 如。之者 田 理 栗原 城 族 而 被 播 地 有 遠 大 生 亮 世 西 EX 瀨 磨。 m 征 膳 氏 常 旅 政 郄 Ei. 都 激敗 退 愿 三馬 攻 鄉淺 實。 侮 宫宫 成 不 是時 學 澤 認 名 及 張 買 城 盛 盛 城 者 文 4 大

常潘 侍 重 盛 從 那問。 居 盛 陸 戰 創 截 重 言 部 死 銳 安安 用宮 屬 一。常 曲 灰 家 憊 屠。 重之出以 E I 大 盛 是 大諸 忍從"其言。比"陰 抓 如 弘 1 那 達 不 士: 身 HJ: T 济 出于 火火 城 自 云 廼 假 卒 因 此 戰 所以 庶 如 盛 第 殺 俠 。今日 佐 幡 不 徑 死 並 岩 去 iffi Ti 故 矣 U 竹 盛 繆 馬也 澤 生 可 死 更 干人。長 。君 義宣 郎 斯 水。十 决 右 入 に當 重 之戰 之愈 白 口 能 某 須 京 覘 假 意 及。一 群 金 者。 即 公 城 水 臣八 非 大 其 第 中。 也 委 内 恤 出 :.j: 之不」質 夫 佐 兵 著 舅氏 鄉鄉 在 間 古 欲、走。 人 命 右 十三 日 旁 力竭 源 竹 京東 自 心 欲 六 何 抗 鈴 肋 侯 義 云 方さ 大膳 回 左 刄 Ti 燒 氣 ん 宣 便 世 一世 型 in 兜鍪名 抽 無 義 歷汇 公 道 以 攻兵數 麗 城 守 功 他 以 17 何 侯 敵 以身 雷 -1: 膧 胚 口 嚮 列 然。 解 泽 本 彩。 汌 從 無 頭 一世 相 氏 親 小 天 源 加 以 É im 74 邓 君 彩 國 馬 幽灯 "高 櫻 智 族 則 氏 寫 位 人 沿 年 岩 如之 君 分 威。 耳 4 並 位 肢 則 43 E 縋二 橋 上 別 城 死 H 蹼 其 城 待 E 氏 屋 左 走 氏 临 泽 败 也 何 沙 中 + Í 稱 學 गाः 戰 以 城 Hi 戰 散 猾 加 口 不 將 疾。 以 常常 被 治 連 盛 共 m 客 旧诗 目.

六日。 十五 氏。臘氏。安藤氏不」可"枚舉"慶長七年壬寅。 氏·古宇田氏·上遠野氏·大山氏。 賜。食祿千石。且屬。士庶如,嚮所一命。十九年庚 官命移 仙臺城兩部山覺性院。仲宥實住。別州最上郡山形平 正平 公因。公事」出 山谷間。初 盛 辱自"義宣公」賜。 下中務大輔義久佐竹第三男。 景俊。三女適、餘目宗家。盛重無 于仙臺侯。又有。女三人。嫡女嫁,古內實綱。二女嫁,八幡 寺。季四郎 重采邑食祿千石,為。嗣 禪 日。盛 盛重承. 寺。 当初 重廣。 不如何之。後伯仲披剃為一僧。 重病而卒"横手邑。壽六十三。葬,羽 法。論良雄道智。有一子三男國分敗與俱亡匿 州秋田城。公使。盛重居,于平鹿郡横手邑。 先鋒 兵攝 為"古內主膳正實綱嗣。冒 且更五郎一字。左門一胃。伊達氏。後 命,備。令福表。元和元年乙卯 州大阪城一盛重從焉。 嗣因乞痕。公族從 日 沼倉氏。相澤氏。 一伊 達五郎宣宗 冬十一 伯實永開上基 古内氏。仕 義宣公有" 州 月二十 寅。義宣 大義山 秋 峰 一宣字 五位 七月 領 屋 三

仙臺金石志卷之十五終

岡崎

矣儒臣

崛

夷林以

正子帥

叢書仙臺金石志上卷終

寬延三年上章敦祥夏五月

發 行 所

昭 昭 和 和 二年 年 六 月三十 月 廿 八 日 日 發 即 行 刷

編輯 兼發行者

護仙

宮城縣名取郡岩沼

町南館下三番地

鈴

木

省

善仙臺金石志上卷

(非賣品)

即 刷 者

山

本

晃

宮城縣仙臺

市

敎

樂

院

丁.

六

番

地

刷 所

即

宮城縣仙臺市 敎 樂 院 丁六

番

地

東 北 目 刷 株 式 會

話 **二**八 七・八六〇 耐:

宮城縣仙臺市勾當臺通二十八番地

仙 臺 叢 書 刊 行 會



